別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画			
事　項	記　入　欄		備　考
計画の区分	学部の設置		
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾄｳﾖｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　東洋大学		
フリガナ 大学の名称	ﾄｳﾖｳﾀﾞｲｶﾞｸ 東洋大学(Toyo University)		
大学本部の位置	東京都文京区白山五丁目28番20号		
大学の目的	創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、「国際化」「キャリア教育」そしてその基盤となる「哲学教育」の3つを教育の柱とし、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事を捉え、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人財」を育成することを目的とする。		
新設学部等の目的	【国際学部 グローバル・イノベーション学科】 グローバル社会における諸課題に対する知識と、経済学を基本とした視点でそれらの課題を分析する能力、国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力、企業や社会における新たな価値の創造を促すイノベーションを構想・推進していくための構想力・リーダーシップ能力を習得させ、課題が山積するグローバル社会において、創造性と起業家精神に満ち、果敢に行動することを厭わない、国際社会システムにイノベーションを起しうる人材を養成する。 【国際学部　国際地域学科　国際地域専攻　（昼間主コース）】 地域の諸問題に対する知識と、人文科学・社会科学・自然科学の多様なアプローチを用いてそれらの諸問題を分析する能力、国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力、国内外での「地域づくり」の現場における課題への対応のノウハウと、それを具体的に実践していく能力を習得させ、国際的な視野のもとに現場主義に基づく「地域づくり」を国内外で展開し、アジアを中心に開発支援やビジネスなどを通して地域の発展に貢献していくことができる、高度な知識を元に実践することができる人材を養成する。 【国際学部　国際地域学科　地域総合専攻　（夜間主コース）】 地域の諸問題に対する知識と、人文科学・社会科学・自然科学の多様なアプローチを用いて俯瞰的な視点からそれらの問題を客観的に分析する能力、異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力、「地域づくり」の現場における課題に対応するためのノウハウと、それを具体的に実践していく能力を習得させ、地域に対する俯瞰的な視点のもとに現場主義に基づく「地域づくり」を国内外で展開し、アジアを中心に開発支援やビジネスなどを通して地域の発展に貢献していくことができる、より実践的な力を持つ人材を養成する。		

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際学部 [Faculty of Global and Regional Studies]	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	グローバル・イノベーション学科 [Department of Global Innovation Studies]	4	100	－	400	学士 （グローバル・イノベーション学）	平成29年4月 第1年次	東京都文京区白山五丁目28番20号
	国際地域学科国際地域専攻　（昼間主コース） [Department of Regional Development Studies Regional Development Studies	4	210	－	840	学士 （国際地域学）	平成29年4月 第1年次	同上
	国際地域学科地域総合専攻　（夜間主コース） [Department of Regional Development Studies Regional Studies Course]	4	80	－	320	学士 （国際地域学）	平成29年4月 第1年次	同上
	計		390	－	1,560			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	○学部等設置 文学部第1部 国際文化コミュニケーション学科　(100)　(平成28年4月届出予定) 国際観光学部（平成28年4月届出予定） 国際観光学科　(366) 情報連携学部（平成28年4月届出予定） 情報連携学科（400） 情報連携学研究科（平成28年4月届出予定） 情報連携学専攻　(20) ○入学定員変更 文学部第1部 日本文学文化学科〔定員減〕　(△67)　(平成29年4月) 文学部第2部 日本文学文化学科〔定員減〕　(△30)　(平成29年4月) ○廃止 文学部第1部 英語コミュニケーション学科（廃止）　(△100) ※平成29年4月学生募集停止 国際地域学部（廃止） 国際地域学科国際地域専攻（△180） 国際地域学科地域総合専攻（△110） 国際観光学科　(△200) ※平成29年4月学生募集停止

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
教育課程	国際学部 グローバル・イノベーション学科	105 科目	83 科目	19 科目	207 科目	124 単位
	国際学部 国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）	288 科目	122 科目	58 科目	468 科目	124 単位
	国際学部 国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）	174 科目	38 科目	47 科目	259 科目	124 単位

	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
教員組織の概要	新設分		人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	
		国際学部　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科	9 (7)	3 (1)	2 (2)	0 (0)	14 (10)	0 (0)	54 (41)	
		国際学部　国際地域学科	15 (14)	6 (7)	4 (4)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	235 (205)	
		国際観光学部　国際観光学科	14 (14)	10 (7)	9 (6)	0 (0)	33 (27)	0 (0)	194 (172)	平成28年4月届出
		文学部　第1部　国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	262 (209)	平成28年4月届出
		情報連携学部　情報連携学科	20人 (13)	10人 (5)	5人 (5)	8人 (4)	43人 (27)	0人 (0)	40人 (41)	平成28年4月届出
		計	65 (55)	31 (22)	22 (19)	8 (4)	126 (100)	0 (0)	― (―)	
	既設分	文学部　第1部　哲学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	30 (30)	
		東洋思想文化学科	7 (7)	1 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (10)	0 (0)	36 (36)	
		日本文学文化学科	11 (11)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	100 (100)	
		英米文学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	28 (28)	
		史学科	9 (9)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	38 (38)	
		教育学科	11 (11)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	43 (43)	
		経済学部　第1部　経済学科	9 (9)	10 (10)	1 (1)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	52 (52)	
		国際経済学科	12 (12)	6 (6)	4 (4)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	14 (14)	

教員組織の概要	既設分		総合政策学科	13 (14)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	20 (21)	0 (0)	17 (17)
		経営学部　第1部	経営学科	14 (12)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	29 (27)	0 (0)	38 (38)
			マーケティング学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
			会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	10 (10)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	10 (10)
		法学部　第1部	法律学科	11 (11)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	22 (22)
			企業法学科	18 (18)	7 (7)	2 (2)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	27 (27)
		社会学部　第1部	社会学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	25 (25)
			社会文化システム学科	9 (11)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	14 (16)	0 (0)	35 (35)
			ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	20 (20)
			社会心理学科	11 (11)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	20 (20)
			社会福祉学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	21 (21)
		理工学部	機械工学科	11 (11)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	15 (15)
			生体医工学科	12 (12)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	33 (33)
			電気電子情報工学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	14 (14)
			応用化学科	11 (11)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	18 (18)
			都市環境デザイン学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	12 (12)
			建築学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	29 (29)
		生命科学部	生命科学科	12 (12)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	16 (16)
			応用生物科学科	8 (8)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
		ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学部	生活支援学科	12 (12)	10 (10)	2 (2)	9 (9)	33 (33)	0 (0)	36 (36)
			健康スポーツ学科	12 (12)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	42 (42)
			人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	9 (9)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	3 (3)	43 (43)
		総合情報学部	総合情報学科	19 (20)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	30 (31)	0 (0)	19 (19)
		食環境科学部	食環境科学科	12 (12)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	4 (4)
			健康栄養学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	5 (5)	7 (7)
		文学部　第2部	東洋思想文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
			日本文学文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
			教育学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		経済学部　第2部	経済学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		経営学部　第2部	経営学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		法学部　第2部	法律学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		社会学部　第2部	社会学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
			社会福祉学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		国際教育センター		1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)

教員組織の概要	既設分	IR室	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		計	355 (357)	164 (165)	61 (61)	45 (45)	625 (628)	8 (8)	－ (－)	
	合計		420 (412)	195 (187)	83 (80)	53 (49)	751 (728)	8 (8)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	370 人 (370)	187 人 (187)	557 人 (557)
	技術職員	0 (0)	59 (59)	59 (59)
	図書館専門職員	30 (30)	8 (8)	38 (38)
	その他の職員	0 (0)	2 (2)	2 (2)
	計	400 (400)	256 (256)	656 (656)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	校舎敷地	336,410.11㎡	0㎡	0㎡	336,410.11㎡
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡
	小計	525,986.16㎡	0㎡	0㎡	525,986.16㎡
	その他	282,259.15㎡	0㎡	0㎡	282,259.15㎡
	合計	808,245.31㎡	0㎡	0㎡	808,245.31㎡

大学全体

借用面積
1,005.61㎡
借用期間
H11/4/18～
H41/4/17

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	219,247.12㎡ (219,247.12㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	219,247.12㎡ (219,247.12㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	333室	107室	456室	33室 (補助職員 27人)	7室 (補助職員 0人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数
	国際学部グローバル・イノベーション学科	14 室
	国際学部国際地域学科	25 室

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	国際学部 グローバル・イノベーション学科 国際地域学科国際地域専攻 国際地域学科地域総合専攻	1,704,218〔379,241〕 (1,559,766〔356,737〕)	17,549〔5,514〕 (17,549〔5,514〕)	25,731〔25,099〕 (25,731〔25,099〕)	26,347 (25,127)	－ (－)	－ (－)	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	1,704,218〔379,241〕 (1,559,766〔356,737〕)	17,549〔5,514〕 (17,549〔5,514〕)	25,731〔25,099〕 (25,731〔25,099〕)	26,347 (25,127)	－ (－)	－ (－)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	17,821.10㎡	2,780席	2,095,750冊	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	大学全体
	19,966.44㎡	野球場1面、サッカー場2面 テニスコート13面 等	

経費の見積り及び維持方法の概要										
	経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	大学全体
		教員１人当り研究費等		532千円	532千円	532千円	532千円			
		共同研究費等		80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円			
		図書購入費	21,808千円	5,701千円	12,371千円	20,417千円	29,995千円			図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む）を含む。
		設備購入費	10,377千円	1,262千円	2,472千円	3,685千円	4,890千円			

	学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	国際学部ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科・国際地域学科国際地域専攻	1,250千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円		
	国際学部国際地域学科地域総合専攻	710千円	530千円	530千円	530千円		

	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。

既設大学等の状況	大学の名称	東洋大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	大学院 修士・博士前期課程								
	文学研究科								
	哲学専攻	2	5	－	10	修士(文学)	1.10	昭和27年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
	インド哲学仏教学専攻	2	4	－	8	修士(文学)	1.37	昭和27年度	同上
	日本文学文化専攻	2	10	－	20	修士(文学)	1.15	昭和27年度	同上
	中国哲学専攻	2	4	－	8	修士(文学)	1.37	昭和29年度	同上
	英文学専攻	2	5	－	10	修士(文学)	0.40	昭和31年度	同上
	史学専攻	2	6	－	12	修士(文学)	0.33	昭和42年度	同上
	教育学専攻	2	20	－	40	修士(教育学)	0.12	平成6年度	同上
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	2	10	－	20	修士 (英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.40	平成16年度	同上
	社会学研究科								
	社会学専攻	2	10	－	20	修士(社会学)	0.60	昭和34年度	同上
	社会心理学専攻	2	12	－	24	修士 (社会心理学)	0.45	平成16年度	同上
	法学研究科								
	私法学専攻	2	10	－	20	修士(法学)	0.45	昭和39年度	同上
	公法学専攻	2	10	－	20	修士(法学)	0.80	昭和51年度	同上
	経営学研究科								
	経営学専攻	2	10	－	20	修士(経営学)	1.20	昭和47年度	同上
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	2	20	－	40	修士(経営学)	0.90	平成18年度	同上
	マーケティング専攻	2	10	－	20	修士 (ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ)	0.45	平成22年度	同上
	理工学研究科								
	生体医工学専攻	2	18	－	36	修士 (理工学)	0.94	平成26年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地
	応用化学専攻	2	12	－	24	修士 (理工学)	0.74	平成26年度	同上

既設大学等の状況	機能システム専攻	2	15	―	30	修士（理工学）	0.43	平成26年度	同上	
	電気電子情報専攻	2	11	―	22	修士（理工学）	0.85	平成26年度	同上	
	都市環境デザイン専攻	2	8	―	16	修士（工学）	0.50	平成26年度	同上	
	建築学専攻	2	14	―	28	修士（工学）	1.35	平成26年度	同上	
	工学研究科									
	機能システム専攻	2	―	―	―	修士（工学）	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
	バイオ・応用化学専攻	2	―	―	―	修士（工学）	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
	環境・デザイン専攻	2	―	―	―	修士（工学）	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
	情報システム専攻	2	―	―	―	修士（工学）	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
	経済学研究科									
	経済学専攻	2	10	―	20	修士（経済学）	0.85	昭和51年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	公民連携専攻	2	30	―	60	修士（経済学）	0.66	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号 東京都千代田区大手町2丁目2番1号	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	2	15	―	30	修士（国際地域学）	1.16	平成13年度	同上	
	国際観光学専攻	2	10	―	20	修士（国際観光学）	1.15	平成17年度	同上	
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	2	20	―	40	修士（生命科学）	1.30	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	福祉社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科									
	社会福祉学専攻	2	20	―	40	修士（社会福祉学）又は修士（ソーシャルワーク）	0.30	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	福祉社会システム専攻	2	20	―	40	修士（社会福祉学）又は修士（社会学）	0.27	平成18年度	同上	
	ﾋｭｰﾏﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	2	20	―	40	修士（社会福祉学）又は修士（健康デザイン学）	0.57	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
	人間環境デザイン専攻	2	10	―	20	修士（人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学）	0.50	平成21年度	同上	
	学際・融合科学研究科									
	ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	2	12	―	24	修士（ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合）	0.58	平成23年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	総合情報学研究科									
	総合情報学専攻	2	15	―	15	修士（情報学）	0.60	平成28年度	同上	
	食環境科学研究科									
	食環境科学専攻	2	10	―	10	修士（食環境科学）	1.20	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	大学院 博士後期課程	年	人	年次人	人		倍			
	文学研究科									
	哲学専攻	3	3	―	9	博士（文学）	1.11	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	インド哲学仏教学専攻	3	3	―	9	博士（文学）	0.77	昭和29年度	同上	
	日本文学文化専攻	3	3	―	9	博士（文学）	0.33	昭和29年度	同上	

既	中国哲学専攻	3	3	―	9	博士(文学)	0.44	平成11年度	同上	
	英文学専攻	3	3	―	9	博士(文学)	0.11	昭和39年度	同上	
	史学専攻	3	3	―	9	博士(文学)	0.44	平成11年度	同上	
	教育学専攻	3	4	―	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上	
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	3	5	―	15	博士 (英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.06	平成19年度	同上	
	社会学研究科									
	社会学専攻	3	3	―	9	博士(社会学)	0.77	昭和34年度	同上	
設	社会心理学専攻	3	5	―	15	博士 (社会心理学)	0.40	平成18年度	同上	
	法学研究科									
	私法学専攻	3	5	―	15	博士(法学)	0.00	昭和41年度	同上	
	公法学専攻	3	5	―	15	博士(法学)	0.20	平成12年度	同上	
大	経営学研究科									
	経営学専攻	3	5	―	15	博士(経営学)	0.13	平成11年度	同上	
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	3	5	―	15	博士(経営学)または 博士(会計・ファイナンス)	0.20	平成22年度	同上	
学	マーケティング専攻	3	3	―	9	博士 (ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ)	0.11	平成24年度	同上	
	理工学研究科									
	生体医工学専攻	3	3	―	9	博士 (理工学)	0.11	平成26年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	応用化学専攻	3	3	―	9	博士 (理工学)	0.00	平成26年度	同上	
等	機能システム専攻	3	3	―	9	博士 (理工学)	0.00	平成26年度	同上	
	電気電子情報専攻	3	3	―	9	博士 (理工学)	0.33	平成26年度	同上	
	建築・都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	3	―	9	博士(工学)	0.33	平成26年度	同上	
	工学研究科									
の	機能システム専攻	3	―	―	―	博士(工学)	―	平成17年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	平成26年より学生募集停止
	バイオ・応用化学専攻	3	―	―	―	博士(工学)	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
	環境・デザイン専攻	3	―	―	―	博士(工学)	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
	情報システム専攻	3	―	―	―	博士(工学)	―	平成17年度	同上	平成26年より学生募集停止
状	経済学研究科									
	経済学専攻	3	3	―	9	博士(経済学)	0.44	昭和53年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	3	5	―	15	博士 (国際地域学)	0.80	平成15年度	同上	
況	国際観光学専攻	3	3	―	9	博士 (国際観光学)	0.55	平成23年度	同上	
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	3	4	―	12	博士 (生命科学)	0.33	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	福祉社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科									

既設大学等の状況	社会福祉学専攻	3	5	―	15	博士(社会福祉学)又は博士(ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ)	1.46	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	ﾋｭｰﾏﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	5	―	15	博士(社会福祉学)又は博士(健康ﾃﾞｻﾞｲﾝ学)	0.86	平成18年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
	人間環境デザイン専攻	3	4	―	12	博士(人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学)	0.33	平成21年度	同上	
	学際・融合科学研究科									
	ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	3	4	―	12	博士(ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合)	0.50	平成19年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	専門職大学院 法務研究科									
	法務専攻(法科大学院)	3	―	―	―	法務博士(専門職)	―	平成16年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成28年より学生募集停止
		年	人	年次人	人		倍			
	文学部　第１部						1.15			
	哲学科	4	100	―	400	学士(文学)	1.20	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	東洋思想文化学科	4	100	―	400	学士(文学)	1.21	平成25年度	同上	
	インド哲学科	4	―	―	―	学士(文学)	―	昭和24年度	同上	平成25年より学生募集停止
	中国哲学文学科	4	―	―	―	学士(文学)	―	昭和24年度	同上	平成25年より学生募集停止
	日本文学文化学科	4	200	―	780	学士(文学)	1.16	平成12年度	同上	平成27年度入学定員増（10人）
	英米文学科	4	133	―	506	学士(文学)	1.14	昭和24年度	同上	平成27年度入学定員増（13人）
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	100	―	400	学士(文学)	1.19	平成12年度	同上	
	史学科	4	133	―	486	学士(文学)	1.13	昭和24年度	同上	平成27年度入学定員増（23人）
	教育学科						1.07	昭和39年度	同上	
	教育学科人間発達専攻	4	100	―	320	学士(教育学)	1.14	平成20年度	同上	平成27年度入学定員増（40人）
	教育学科初等教育専攻	4	50	―	200	学士(教育学)	0.98	平成20年度	同上	
	経済学部　第１部						1.15			
	経済学科	4	250	―	960	学士(経済学)	1.17	昭和25年度	同上	平成27年度入学定員増（20人）
	国際経済学科	4	183	―	716	学士(経済学)	1.14	平成12年度	同上	平成27年度入学定員増（8人）
	総合政策学科	4	183	―	706	学士(経済学)	1.14	平成20年度	同上	平成27年度入学定員増（13人）
	経営学部　第１部						1.17			
	経営学科	4	316	―	1252	学士(経営学)	1.17	昭和41年度	同上	平成27年度入学定員増（6人）
	マーケティング学科	4	150	―	600	学士(経営学)	1.19	昭和41年度	同上	
	会計ファイナンス学科	4	216	―	852	学士(経営学)	1.14	平成18年度	同上	平成27年度入学定員増（6人）
	法学部　第１部						1.17			
	法律学科	4	250	―	1000	学士(法学)	1.17	昭和31年度	同上	
	企業法学科	4	250	―	1000	学士(法学)	1.17	昭和40年度	同上	
	社会学部　第１部						1.13			
	社会学科	4	150	―	520	学士(社会学)	1.14	昭和34年度	同上	平成27年度入学定員増（40人）

既	社会文化システム学科	4	150	―	520	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	平成27年度入学定員増（40人）
	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	150	―	520	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	平成27年度入学定員増（40人）
	社会心理学科	4	150	―	520	学士(社会学)	1.13	平成12年度	同上	平成27年度入学定員増（40人）
	社会福祉学科	4	150	―	520	学士(社会学)	1.13	平成4年度	同上	平成27年度入学定員増（40人）
	理工学部						1.13			
	機械工学科	4	180	―	660	学士(理工学)	1.11	平成21年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	平成27年度入学定員増（30人）
	生体医工学科	4	113	―	426	学士(理工学)	1.13	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（13人）
設	電気電子情報工学科	4	113	―	446	学士(理工学)	1.12	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（3人）
	応用化学科	4	146	―	532	学士(理工学)	1.13	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（26人）
	都市環境デザイン学科	4	113	―	426	学士(工学)	1.14	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（13人）
	建築学科	4	146	―	572	学士(工学)	1.15	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（6人）
大	工学部						―			
	情報工学科	―	―	―	―	学士(工学)	―	昭和51年度	同上	平成21年より学生募集停止
	ｺﾝﾋﾟｭﾃｰｼｮﾅﾙ工学科	―	―	―	―	学士(工学)	―	平成13年度	同上	平成21年より学生募集停止
	国際地域学部						1.15			
学	国際地域学科						1.13	平成９年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	国際地域学科 国際地域専攻	4	180	―	720	学士 (国際地域学)	1.19	平成22年度	同上	
	国際地域学科 地域総合専攻	4	110	―	440	学士 (国際地域学)	1.04	平成22年度	同上	
	国際観光学科	4	200	―	800	学士 (国際観光学)	1.19	平成13年度	同上	
等	生命科学部						1.11			
	生命科学科	4	113	―	426	学士 (生命科学)	1.11	平成９年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	平成27年度入学定員増（13人）
	応用生物科学科	4	113	―	426	学士 (生命科学)	1.12	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（13人）
の	食環境科学科	4	―	―	―	学士 (生命科学)	―	平成21年度	同上	平成25年より学生募集停止
	ライフデザイン学部						1.11			
	生活支援学科						1.08	平成17年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	
	生活支援学科 生活支援学専攻	4	116	―	432	学士 (生活支援学)	1.15	平成21年度	同上	平成27年度入学定員増（16人）
状	生活支援学科 子ども支援学専攻	4	100	―	400	学士 (生活支援学)	1.00	平成21年度	同上	
	健康スポーツ学科	4	180	―	660	学士 (健康スポーツ学)	1.12	平成17年度	同上	平成27年度入学定員増（30人）
	人間環境デザイン学科	4	160	―	620	学士 (人間環境デザイン学)	1.14	平成18年度	同上	平成27年度入学定員増（10人）
	総合情報学部						1.17			
況	総合情報学科	4	260	―	1040	学士(情報学)	1.17	平成21年度	埼玉県川越市大字鯨井字中野台2100番地	
	食環境科学部						1.09			
	食環境科学科						1.17	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	ﾌｰﾄﾞｻｲｴﾝｽ専攻	4	70	―	280	学士 (食環境科学)	1.17	平成25年度	同上	

既設大学等の状況	ｽﾎﾟｰﾂ・食品機能専攻	4	50	―	200	学士 （食環境科学）	1.17	平成25年度	同上	平成25年より学生募集停止
	健康栄養学科	4	100	―	400	学士 （健康栄養学）	0.99	平成25年度	同上	
	文学部　第２部						1.05			
	東洋思想文化学科	4	30	―	120	学士(文学)	1.05	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	インド哲学科	4	―	―	―	学士(文学)	―	昭和31年度	同上	
	日本文学文化学科	4	80	―	320	学士(文学)	1.04	昭和27年度	同上	
	教育学科	4	40	―	160	学士(教育学)	1.05	昭和39年度	同上	
	経済学部　第２部						1.08			
	経済学科	4	150	―	600	学士(経済学)	1.08	昭和32年度	同上	
	経営学部　第２部						1.04			
	経営学科	4	110	―	440	学士(経営学)	1.04	昭和41年度	同上	
	法学部　第２部						1.07			
	法律学科	4	120	―	480	学士(法学)	1.07	昭和31年度	同上	
	社会学部　第２部						1.02			
	社会学科	4	130	―	520	学士(社会学)	1.04	昭和34年度	同上	
	社会福祉学科	4	45	3年次10	200	学士(社会学)	0.95	平成13年度	同上	
	通信教育部 文学部 日本文学文化学科	4	1000	―	4000	学士(文学)	0.04	昭和39年度	同上	
	法学部 法律学科	4	1000	―	4000	学士(法学)	0.01	昭和41年度	同上	
附属施設の概要	該当なし									

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
Liberal Arts	Philosophy and Toyo Univ.	Dr. Enryo Inoue and Toyo University	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Introduction to Philosophy	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1
	Liberal Arts	Introduction to Journalism	1・2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Introduction to Japanese Economy and Society	1・2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Shifts in Global System and Role of International Organizations	1・2・3・4①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Introduction to Global Studies	1・2・3・4①・②・③・④		2		○					1			
		Introduction to Global Politics	1・2・3・4①・②・③・④		2		○				1				兼1
		Introduction to Environmental Studies	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Introduction to Geography	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Urban Development History of Tokyo	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Contemporary Japan Studies	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Sociology of Islam	1・2・3・4前・後		2		○								兼1 隔年
		Introduction to the Welfare Society	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Introduction to Internet Technology	1・2・3・4前・後		2		○								兼1 隔年
		Regional to International Issues	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Student Mobility	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			2	1	1	0	0	兼12
Study Skills	Skills Study Basic	Study Skills Ⅰ	1前	2				○		3	1	1			
		Study Skills Ⅱ	1後	2				○		4	1				
		ICT Literacy	1前・後	2					○						兼1
		Research Methods	2前	2				○		3	2	1			
		小計（4科目）	－	8	0	0	－			7	3	1	0	0	兼1
	Skills Communication	Interpersonal & Persuasion/Management	1・2・3・4前・後		2			○				1			
		Debating Theory, Skills & Practices	1・2・3・4前・後		2			○		1		1			
		Intercultural Communication	1・2・3・4前・後		2			○			1				
		Negotiation Theory, Skills & Practices	1・2・3・4前・後		2			○		1		1			
		Presentation Skills	1・2・3・4前・後		2			○				1			
		Leadership Communication	1・2・3・4前・後		2			○				1			
		Introduction to Postmodern Thought	1・2・3・4前・後		2			○			1				
		Introduction to Postcolonial Thought	1・2・3・4前・後		2			○			1				
		Advanced Negotiation Theory & Skills	1・2・3・4前・後		2			○		1		1			
		Advanced Debating Theory & Skills	1・2・3・4前・後		2			○		1		1			
		Special English Study Ⅰ	1・2・3・4前・後		1			○				1			
		Special English Study Ⅱ	1・2・3・4前・後		1			○				1			
		Special English Study Ⅲ	1・2・3・4前・後		1			○			1				
		Special English Study Ⅳ	1・2・3・4前・後		1			○		1					
		小計（14科目）	－	0	24	0	－			1	1	1	0	0	
	Skills Language English	Academic Reading Ⅰ	1前	1				○			1				
		Academic Reading Ⅱ	1後	1				○			1				
		Academic Writing Ⅰ	1前	1				○		1		1			
		Academic Writing Ⅱ	1後	1				○		1		1			
		Academic Listening Ⅰ	1前	1				○				1			
		Academic Listening Ⅱ	1後	1				○				1			
		Academic Speaking Ⅰ	1前	1				○				1			
		Academic Speaking Ⅱ	1後	1				○				1			
		English for Study Abroad	2前・後	1				○				1			
		Advanced Academic English	3・4前・後	1				○				1			
		小計（10科目）	－	10	0	0	－			1	1	1	0	0	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Study Skills	Second Foreign Language	Chinese Ⅰ	1①		1			○							兼1
		Chinese Ⅱ	1②		1			○							兼1
		Chinese Ⅲ	1後		1			○							兼1
		Korean Ⅰ	1①		1			○							兼1
		Korean Ⅱ	1②		1			○							兼1
		Korean Ⅲ	1後		1			○							兼1
		French Ⅰ	1①		1			○							兼1
		French Ⅱ	1②		1			○							兼1
		French Ⅲ	1後		1			○							兼1
		German Ⅰ	1①		1			○							兼1
		German Ⅱ	1②		1			○							兼1
		German Ⅲ	1後		1			○							兼1
		Spanish Ⅰ	1①		1			○							兼1
		Spanish Ⅱ	1②		1			○							兼1
		Spanish Ⅲ	1後		1			○							兼1
		Languages and Culture in Thai	1前・後		2			○							兼1
		Languages and Culture in Indonesian	1前・後		2			○							兼1
		Chinese Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
		Korean Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
		French Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
		German Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
		Spanish Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
		Languages and Cultures in Spanish-Speaking Regions	2・3・4後		2			○							兼1
		Languages and Cultures in French-Speaking Regions	2・3・4後		2			○							兼1
		Languages and Cultures in Chinese-Speaking Regions	2・3・4後		2			○							兼1
		Languages and Cultures in Korean-Speaking Regions	2・3・4後		2			○							兼1
		Languages and Cultures in German-Speaking Regions	2・3・4後		2			○							兼1
		小計（27科目）	－	0	34	0		－		0	0	0	0	0	兼12
	Japanese	Japanese ⅠA	1①		1			○							兼1
		Japanese ⅠB	1①		1			○							兼1
		Japanese ⅡA	1②		1			○							兼1
		Japanese ⅡB	1②		1			○							兼1
		Japanese ⅢA	1③		1			○							兼1
		Japanese ⅢB	1③		1			○							兼1
		Japanese ⅣA	1④		1			○							兼1
		Japanese ⅣB	1④		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅠA	2①		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅠB	2①		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅡA	2②		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅡB	2②		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅢA	2③		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅢB	2③		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅣA	2④		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅣB	2④		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅤA	3①		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅤB	3①		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅥA	3②		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅥB	3②		1			○							兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Skills Study	Japanese	Advanced Japanese ⅦA	3③		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅦB	3③		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅧA	3④		1			○							兼1
		Advanced Japanese ⅧB	3④		1			○							兼1
		小計（24科目）	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	兼4
Academic Subjects	Basic Subjects	Introduction to Financial Accounting	1①・②・③・④		2		○			1					
		Introduction to Microeconomics	1①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Introduction to Macroeconomics	1①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Statistics	2①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Behavioral Economics	3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Game Theory	3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Major Seminar Ⅰ	3前	2				○		8	3	1			
		Major Seminar Ⅱ	3後	2				○		8	3	1			
		Major Seminar Ⅲ	4前	2				○		8	3	1			
		Major Seminar Ⅳ	4後	2				○		8	3	1			
		Undergraduate Thesis	4前・後	4				○		8	3	1			
		小計（11科目）	－	12	12	0	－			8	3	1	0	0	兼2
	Global Systems	Fundamental Conditions for Economic Development	1①・②・③・④		2		○								兼1
		Global Financial System	1①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Multinational Corporations and the Global System	1①・②・③・④		2		○			1	1				
		ICT and New Industrial Revolution	1①・②・③・④		2		○			1					
		Sustainable Global Innovations	1①・②・③・④		2		○			1					
		Global Society and Structures of Governance	1①・②・③・④		2		○				1				兼1
		Contemporary Global Issues and Japan	1①・②・③・④		2		○			1					
		Special Lectures in Global System Ⅰ	1①・②・③・④		2		○			1					
		Special Lectures in Global System Ⅱ	1①・②・③・④		2		○			1					
		Historical Development of Global Economy	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Corporate Social Responsibility and Social Investment	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Asian Economic Development and Japan	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Public-Private Alliances in Global Economy	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Dynamism and Standards in Global Banking, Finance and Capital Markets	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Global Politics in the 21st Century and International Public Goods	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		International Organizations and Global Security	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		Globalization and Japan	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Mechanisms for Providing International Public Goods	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Evolving Frameworks for Resolving International Conflicts	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		Special Lectures in Global System Ⅲ	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		小計（20科目）	－	0	40	0	－			9	3	0	0	0	兼4
	International Business	Introduction to Finance	1①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Japanese Corporations in Asian Markets	1①・②・③・④		2		○			1					
		International Comparative Studies of Corporate Organizations	1①・②・③・④		2		○			1					
		Financial Accounting	1①・②・③・④		2		○								兼1
		Role of Entrepreneurs in Creating Social Value	1①・②・③・④		2		○			1					
		International Business Today	1①・②・③・④		2		○			1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Academic Subjects	International Business	Rethinking Japanese Corporations in the Global Economy	1①・②・③・④		2		○			1					
		Special Lectures in International Business Ⅰ	1①・②・③・④		2		○			1					
		Global Strategic Management and Merger and Acquisition	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Entrepreneurship and Venture Businesses	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		International Business Development and Corporate Finances	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Global Financial Systems: Diversity or Convergence	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Social Solidarity Economy and Social Enterprise	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Marketing Strategies in Globalized Market	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Multinational Corporations and Market Systems	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		Business Ethics	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Innovations in Assessment and Management of Human Resources	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Innovations in Organizational Structures and Decision Making	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		International Comparative Studies of Business Revitalization Mechanism	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		IFRS and Other International Accounting Standards	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Assessment Systems Used in Corporate Governance	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Special Lectures in International Business Ⅱ	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		小計（22科目）	－	0	44	0	－			9	1	0	0	0	兼6
	International Collaboration	International Social Contributions	1①・②・③・④		2		○				1				
		International Media Studies	1①・②・③・④		2		○			1					
		Commonality and Variation among Asian Values	1①・②・③・④		2		○								兼1
		Globalization and Japanese Cultures	1①・②・③・④		2		○			1					兼1
		Introduction to Innovation Studies	1①・②・③・④		2		○			1					
		Education from International Comparative Perspectives	1①・②・③・④		2		○					1			
		Special Lectures in International Collaboration Ⅰ	1①・②・③・④		2		○					1			
		Social Systems in International Perspective	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		Role of Media in Public Policy Formation	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Science, Technology and Society	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Media Ethics	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Comparative Cultural Studies	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				
		International Comparative Studies in Human Resource Development	2・3・4①・②・③・④		2		○					1			
		Establishing Global Standards	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Multicultural Society and International Organizations	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		International Public Opinions and Corporate Behaviors	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Human Security	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Global Competition and Intellectual Property Rights	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Globalization of Local Economies	2・3・4①・②・③・④		2		○								兼1
		Mechanism of International Aids	2・3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Special Lectures in International Collaboration Ⅱ	2・3・4①・②・③・④		2		○				1				兼1
		小計（21科目）	－	0	42	0	－			9	3	1	0	0	兼5

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Academic Subjects	Regional Development	International Cooperation and Japanese Language Teaching	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Housing the Poor in Asia	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Participatory Development	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Water Supply and Sanitation for Health	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Disaster Management and International Cooperation	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Finance	2・3・4前・後		2		○								兼2 隔年
		Japan and the World Economy	2・3・4前・後		2		○								兼2 隔年
		Public Administration	2・3・4前・後		2		○								兼1 隔年
		Cities and Transport in Asia	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Environmental Issues in Asia	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Cross Cultural Issues	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Immigration and Cross-cultural Issues	2・3・4前・後		2		○								兼1 隔年
		Japanese Economy and Business	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Regional and Urban Sociology in Asia	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Urban and Regional Planning in Asia	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Practice of Internet Technology	2・3・4前・後		2		○								兼1 隔年
		Global Water Problems	2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（17科目）	－	0	34	0	－			0	0	0	0	0	兼12
Project Studies		Global Innovation Practicum Ⅰ	1・2・3・4①・②・③・④		1				○			1			
		Global Innovation Practicum Ⅱ	1・2・3・4①・②・③・④		1				○			1			
		Global Innovation Practicum Ⅲ	1・2・3・4①・②・③・④		1				○			1			
		Global Innovation Practicum Ⅳ	1・2・3・4①・②・③・④		1				○			1			
		Global Innovation Practicum Ⅴ	1・2・3・4①・②・③・④		1				○			1			
		Internship Ⅰ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Internship Ⅱ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Internship Ⅲ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Internship Ⅳ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Service Learning Practicum Ⅰ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Service Learning Practicum Ⅱ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Service Learning Practicum Ⅲ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Service Learning Practicum Ⅳ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Leadership Training Program Ⅰ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○	1					
		Leadership Training Program Ⅱ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○	1					
		Global Issues Innovation Practicum Ⅰ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Global Issues Innovation Practicum Ⅱ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		Global Issues Innovation Practicum Ⅲ	1・2・3・4①・②・③・④		2				○		1				
		小計（18科目）	－	0	31	0	－			1	3	1	0	0	
Career Development		Global Careers Ⅰ	3・4①・②・③・④		2		○					1			
		Global Careers Ⅱ	3・4①・②・③・④		2		○			1					
		Global Careers Ⅲ	3・4①・②・③・④		2		○				1				
		小計（3科目）	－	0	6	0	－			1	1	1	0	0	
合計（207科目）			－	30	323	0	－			9	3	2	0	0	兼54

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

学位又は称号	学士（グローバル・イノベーション学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
[卒業の条件] ①Philosophy and Toyo Univ.から2単位、Liberal Arts(Liberal Arts)から4単位、Basic Study Skillsから8単位、Communication Skillsから8単位、Basic Subjectsから16単位、Global Systems・International Business・International Collaborationから44単位を修得すること。 ②日本人学生はEnglish Language Skillsから10単位を修得し、留学生はJapaneseから16単位を修得すること。 ③124単位以上修得すること。 [履修科目の登録の上限] 1～2年次：半期22単位（年間44単位）、3～4年次：半期24単位（年間44単位）	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼7
		哲学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼7
		哲学史Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		哲学史Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		倫理学基礎論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		倫理学基礎論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		応用倫理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		応用倫理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		科学思想史Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		科学思想史Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		宗教学ＩＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		宗教学ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		宗教学ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		宗教学ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地球倫理Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地球倫理Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		論理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		論理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		井上円了と東洋大学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		井上円了と東洋大学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		東洋思想	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		ロジカルシンキング入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		クリティカルシンキング入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（23科目）	－	0	46	0	－			0	0	0	0	0	兼18
	学問の基礎	美術史Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		美術史Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		音楽学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		音楽学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		歴史の諸問題Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼8
		歴史の諸問題Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼8
		経済学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼4
		経済学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		統計学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		統計学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		法学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼5
		法学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼5
		政治学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼4
		政治学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼4
		社会学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼5
		社会学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼4
		人類学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		人類学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		地理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		心理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼5
		心理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼7
		自然の数理Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然の数理Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		生活と物理Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		生活と物理Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		エネルギーの科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		エネルギーの科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	学問の基礎	物質の科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		物質の科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		環境の科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		環境の科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		地球の科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		地球の科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		生物学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		生物学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		天文学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		天文学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		自然科学概論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然科学概論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然誌Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		自然誌Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		物理学実験講義Ａ	1・2・3・4前		2				○						兼1
		物理学実験講義Ｂ	1・2・3・4後		2				○						兼1
		生物学実験講義Ａ	1・2・3・4前		2				○						兼1
		生物学実験講義Ｂ	1・2・3・4後		2				○						兼1
		化学実験講義Ａ	1・2・3・4前		2				○						兼1
		化学実験講義Ｂ	1・2・3・4後		2				○						兼1
		地球科学実験講義Ａ	1・2・3・4前		2				○						兼1
		地球科学実験講義Ｂ	1・2・3・4後		2				○						兼1
		数理・情報実習講義Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		数理・情報実習講義Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		天文学実習講義Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		天文学実習講義Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然科学演習Ａ	1・2・3・4前		2			○							兼5
		自然科学演習Ｂ	1・2・3・4後		2			○							兼5
		小計（56科目）	－	0	112	0	－			0	0	0	0	0	兼63
	国際人の形成	地域文化研究ＩＡ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		地域文化研究ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		地域文化研究ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域文化研究ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地域文化研究ⅢＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域文化研究ⅢＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		国際教育論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		国際教育論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		多文化共生論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		多文化共生論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		百人一首の文化史Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		百人一首の文化史Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本の昔話Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本の昔話Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本文学文化と風土Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本文学文化と風土Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本の詩歌Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本の詩歌Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		西欧文学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		西欧文学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		現代日本文学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		現代日本文学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地域史（日本）Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		地域史（日本）Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史（東洋）Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		地域史（東洋）Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		地域史（西洋）Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		地域史（西洋）Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		国際比較論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		国際比較論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		アジアの文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		アジアの古典	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		国際関係入門	1・2・3・4前・後		2		○			1					兼1
		地域と生活	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		国際キャリア概論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		留学のすすめ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		海外研修Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		海外研修Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		海外実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		海外実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		短期海外研修Ⅰ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外研修Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外研修Ⅲ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外研修Ⅳ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅲ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅳ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		日本の文化と社会	1・2・3・4前・後		2		○					1			
		日本事情ＩＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本事情ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本事情ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本事情ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		小計（53科目）	－	0	98	0	－			1	0	1	0	0	兼27
	キャリア・市民形成	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○								兼3
		ベーシック・マーケティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		流通入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		基礎会計学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		企業会計	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		スポーツ健康科学実技ＩＡ	1・2・3・4前		1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ＩＢ	1・2・3・4後		1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅡＡ	1・2・3・4前		1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅡＢ	1・2・3・4後		1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅢＡ	1・2・3・4前		1				○						兼12
		スポーツ健康科学実技ⅢＢ	1・2・3・4後		1				○						兼12
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2
		スポーツ健康科学講義ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		スポーツ健康科学講義ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼3
		スポーツ健康科学演習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
		情報化社会と人間	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		情報倫理	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		コンピュータ・リテラシィ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		社会人基礎力入門講義	1・2・3・4前		2		○								兼1
		社会人基礎力実践講義	1・2・3・4後		2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		企業のしくみ	1・2・3・4前・後		2		○								兼3

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	企業家論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		社会貢献活動入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		公務員論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		テクニカルライティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		アカデミックライティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		地球環境論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		インターンシップ入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		ボランティア活動入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		日本事情ⅢＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本事情ⅢＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		小計（33科目）	－	0	60	0	－			0	0	0	0	0	兼33
	総合・学際	総合ＩＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅢＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅢＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅣＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅣＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ＶＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ＶＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅥＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅥＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅦＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅦＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅧＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅧＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合ⅨＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合ⅨＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		全学総合ＩＡ	1・2・3・4前		2		○			1					兼3
		全学総合ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼4
		全学総合ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼3
		全学総合ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		首都東京を学ぶ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（23科目）	－	0	46	0	－			1	0	0	0	0	兼18
English Liberal Arts In		Introduction to Philosophy	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Sociology of Islam	1・2・3・4前・後		2		○			1					隔年
		Introduction to Environmental Studies	1・2・3・4前・後		2		○			1					
		Introduction to the Welfare Society	1・2・3・4前・後		2		○			1					
		Introduction to Geography	1・2・3・4前・後		2		○			1					
		Introduction to Internet Technology	1・2・3・4前・後		2		○			1					隔年
		Urban Development History of Tokyo	1・2・3・4前・後		2		○				1				
		Regional to International Issues	1・2・3・4前・後		2		○				1				
		Contemporary Japan Studies	1・2・3・4前・後		2		○				1				
		International Student Mobility	1・2・3・4前・後		2		○			1					
		Introduction to Japanese Economy and Society	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Shifts in Global System and Role of International Organizations	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Introduction to Global Studies	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		Introduction to Global Politics	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			5	3	0	0	0	兼4

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Study Skills	Basic Skills		国際地域学基礎	1前	2			○			1					
			入門ゼミナール	1前	2				○		7	2	1			
			情報入門	1前	2					○	1					兼1
			小計（3科目）	－	6	0	0	－			7	2	1	0	0	兼1
	Advanced Skills	必修	プロジェクトゼミナールⅠ	1後	2				○		5	3				
			プロジェクトゼミナールⅡ	2前	2				○		5	3				
			プロジェクトゼミナールⅢ	2後	2				○		7	2	1			
			小計（3科目）	－	6	0	0	－			13	5	1	0	0	
		選択	データ解析演習	2前・後		2			○							兼1
			情報パブリッシング	2前・後		2				○				1		
			小計（2科目）	－	0	4	0	－			0	0	0	0	0	兼1
	Language and Communication Skills	English	English Communication Ⅰ	1・2前		1			○			2	2			
			English Communication Ⅱ	1・2前		1			○			2	2			
			Reading Comprehension	1・2後		1			○			2	2			
			English Composition	1・2後		1			○			2	2			
			海外英語実習Ⅰ	1・2前・後	2				○			1				
			海外英語実習Ⅱ	1・2前・後	2				○			1				
			海外英語実習Ⅲ	1・2前・後	2				○			1				
			English Proficiency Test Ⅰ	1・2前		1			○			2	2			
			English Proficiency Test Ⅱ	1・2後		1			○			2	2			
			English Proficiency Test Ⅲ	1・2前		1			○			2	2			
			English Proficiency Test Ⅳ	1・2後		1			○			2	2			
			小計（11科目）	－	6	8	0	－			0	2	2	0	0	
		Second Foreign Language	中国語Ⅰ	1①		1			○							兼1
			中国語Ⅱ	1②		1			○							兼1
			中国語Ⅲ	1後		1			○							兼1
			ハングルⅠ	1①		1			○							兼1
			ハングルⅡ	1②		1			○							兼1
			ハングルⅢ	1後		1			○							兼1
			フランス語Ⅰ	1①		1			○				1			
			フランス語Ⅱ	1②		1			○				1			
			フランス語Ⅲ	1後		1			○				1			
			ドイツ語Ⅰ	1①		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅱ	1②		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅲ	1後		1			○							兼1
			スペイン語Ⅰ	1①		1			○							兼1
			スペイン語Ⅱ	1②		1			○							兼1
			スペイン語Ⅲ	1後		1			○							兼1
			中国語Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
			ハングルⅣ	2・3・4前		1			○							兼1
			フランス語Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
			スペイン語Ⅳ	2・3・4前		1			○							兼1
			小計（20科目）	－	0	20	0	－			0	0	1	0	0	兼5
		Language and Communication	タイの言語と文化	1前・後		2			○							兼1
			インドネシアの言語と文化	1前・後		2			○							兼1
			スペイン語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			フランス語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○				1			
			中国語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			ハングルの言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			ドイツ語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			Internet Research	2・3・4前・後		2			○			1				
			Business English A	2・3・4前		2			○							兼1
			Business English B	2・3・4後		2			○							兼1

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Multi Media English	2・3・4前・後		2			○			1	1			
			English Proficiency Test Ⅴ	2・3・4前・後		2			○			1	1			
			Interpersonal & Persuasion/Management	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Debating Theory, Skills & Practices	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Intercultural Communication	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Negotiation Theory, Skills & Practices	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Presentation Skills	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Leadership Communication	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Introduction to Postmodern Thought	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Introduction to Postcolonial Thought	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Advanced Negotiation Theory & Skills	2・3・4前・後		2			○							兼1
			Advanced Debating Theory & Skills	2・3・4前・後		2			○							兼1
			小計（22科目）	－	0	44	0	－			0	2	3	0	0	兼12
		Japanese（留学生） 必修	日本語ⅠA	1①	1				○				1			
			日本語ⅠB	1①	1				○				1			
			日本語ⅡA	1②	1				○				1			
			日本語ⅡB	1②	1				○				1			
			日本語ⅢA	1③	1				○				1			
			日本語ⅢB	1③	1				○				1			
			日本語ⅣA	1④	1				○				1			
			日本語ⅣB	1④	1				○				1			
			応用日本語ⅠA	2①	1				○							兼1
			応用日本語ⅠB	2①	1				○							兼1
			応用日本語ⅡA	2②	1				○							兼1
			応用日本語ⅡB	2②	1				○							兼1
			小計（12科目）	－	12	0	0	－			0	0	1	0	0	兼1
		Japanese（留学生） 選択	応用日本語ⅢA	2③		1			○							兼1
			応用日本語ⅢB	2③		1			○							兼1
			応用日本語ⅣA	2④		1			○							兼1
			応用日本語ⅣB	2④		1			○							兼1
			応用日本語ⅤA	3①		1			○							兼1
			応用日本語ⅤB	3①		1			○							兼1
			応用日本語ⅥA	3②		1			○							兼1
			応用日本語ⅥB	3②		1			○							兼1
			応用日本語ⅦA	3③		1			○							兼1
			応用日本語ⅦB	3③		1			○							兼1
			応用日本語ⅧA	3④		1			○							兼1
			応用日本語ⅧB	3④		1			○							兼1
			小計（12科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	留学支援	英語特別教育科目	English for Academic Purposes IA Listening/Speaking	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			English for Academic Purposes IB Reading/Writing	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			English for Academic Purposes ⅡA Listening/Speaking	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			English for Academic Purposes ⅡB Reading/Writing	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			Pre-Study Abroad College Study Skills	1・2・3・4前・後		1			○							兼1
			Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1・2・3・4前・後		1			○							兼1
			Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1・2・3・4前・後		1			○							兼1
			Business English Communication	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			小計（8科目）	－	0	13	0	－			0	0	0	0	0	兼6
		日本語科目	Integrated Japanese Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅲ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅳ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Reading and Composition Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Reading and Composition Ⅱ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Study Skills	留学支援	日本語科目	Japanese Reading and Composition Ⅲ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Reading and Composition Ⅳ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Kanji Literacy Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Kanji Literacy Ⅱ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Kanji Literacy Ⅲ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Kanji Literacy Ⅳ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Project Work Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Project Work Ⅱ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Project Work Ⅲ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Project Work Ⅳ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Listening Comprehension Ⅰ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Listening Comprehension Ⅱ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Listening Comprehension Ⅲ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Listening Comprehension Ⅳ	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Culture and Society A	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Japanese Culture and Society B	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Introduction to Japanology A	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Introduction to Japanology B	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			小計（24科目）	－	0	48	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
Academic Subjects		国際関係・開発政策領域	ミクロ経済学Ⅰ	1前・後		2		○			1					
			国際協力論	1前・後		2		○				1				
			農村地域開発論	1前・後		2		○			1					
			政治学	1前・後		2		○			1					
			国際政治学Ⅰ	1前・後		2		○			1					
			国際政治学Ⅱ	1前・後		2		○			1					
			開発経済論	2・3・4前・後		2		○			1					隔年
			国際金融論	2・3・4前・後		2		○				1				兼1 隔年
			International Finance	2・3・4前・後		2		○				1				兼1 隔年
			マクロ経済学Ⅰ	2・3・4前・後		2		○				1				兼1
			マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前・後		2		○				1				兼1
			ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4前・後		2		○			1					
			国際経済学	2・3・4前・後		2		○				1				兼1 隔年
			Japan and the World Economy	2・3・4前・後		2		○				1				兼1 隔年
			アジア経済論	2・3・4前・後		2		○			1					
			開発と異文化理解	2・3・4前・後		2		○				1				隔年
			食料問題論	2・3・4前・後		2		○			1					
			比較政治学	2・3・4前・後		2		○				1				
			国際関係史	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（19科目）	－	0	38	0	－			3	3	0	0	0	兼4	
		地域研究・比較文化領域	文化人類学入門	1前・後		2		○			1					
			ヨーロッパ地域研究A	1前・後		2		○				1				
			Immigration and Cross-cultural Issues	1前・後		2		○			1					隔年
			International Cooperation and Japanese Language Teaching	1前・後		2		○					1			
			人文地理学	2・3・4前・後		2		○			1					
			経済地理学	2・3・4前・後		2		○			1					
			都市地理学	2・3・4前・後		2		○			1					
			宗教と社会	2・3・4前・後		2		○			1					隔年
			アジア地域研究A	2・3・4前・後		2		○			1					
			アジア地域研究B	2・3・4前・後		2		○			1					
			中東地域研究	2・3・4前・後		2		○								兼1
			ヨーロッパ地域研究B	2・3・4前・後		2		○				1				
			アフリカ地域研究	2・3・4前・後		2		○				1				
			米州地域研究A	2・3・4前・後		2		○			1					隔年
			米州地域研究B	2・3・4前・後		2		○								兼1

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	ジェンダー論	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		国際協力と日本語教育	2・3・4前・後		2		○					1				
		Regional and Urban Sociology in Asia	2・3・4前・後		2		○			1						
		Japanese Economy and Business	2・3・4前・後		2		○			1						
		Cross Cultural Issues	2・3・4前・後		2		○						1			
		小計（20科目）	－	0	40	0	－			6	2	1	0	0	兼3	
	コミュニティ・地域政策領域	社会保障論	1前・後		2		○			1						
		Participatory Development	1前・後		2		○				1					
		社会調査法	2・3・4前・後		2		○			1						
		地域社会学Ⅰ	2・3・4前・後		2		○			1						
		地域社会学Ⅱ	2・3・4前・後		2		○			1						
		地域福祉論	2・3・4前・後		2		○			1						隔年
		社会政策論	2・3・4前・後		2		○			1						
		行政学	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		地方自治論	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		民事法	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		企業法	2・3・4前・後		2		○								兼1	隔年
		都市論	2・3・4前・後		2		○			1						
		地域形成論	2・3・4前・後		2		○			1						
		コミュニティ開発論	2・3・4前・後		2		○			1						
		都市計画	2・3・4前・後		2		○				1					
		まちづくり手法論	2・3・4前・後		2		○				1					
		まちづくり概論	2・3・4前・後		2		○				1					
		地域産業論	2・3・4前・後		2		○				1					
		土地・住宅問題	2・3・4前・後		2		○			1						隔年
		地域とボランティア	2・3・4前・後		2		○			1						
		NGO・NPO論	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		福祉経済論	2・3・4前・後		2		○			1						隔年
		公共経済学	2・3・4前・後		2		○				1					
		Public Administration	2・3・4前・後		2		○								兼1	隔年
		Urban and Regional Planning in Asia	2・3・4前・後		2		○				1					
		Housing the Poor in Asia	2・3・4前・後		2		○			1						
		小計（26科目）	－	0	52	0	－			4	3	0	0	0	兼4	
	環境・情報・インフラ領域	環境マネジメント	1前・後		2		○			1						
		国際環境計画入門	1前・後		2		○			1						
		災害と復興	1前・後		2		○			1						
		水資源と水環境	1前・後		2		○			1						
		アジアの都市と交通	1前・後		2		○			1						隔年
		Water Supply and Sanitation for Health	1前・後		2		○			1						隔年
		環境システム論	2・3・4前・後		2		○			1						
		環境管理適正技術論	2・3・4前・後		2		○			1						
		廃棄物管理	2・3・4前・後		2		○			1						隔年
		環境社会論	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		エネルギー・資源論	2・3・4前・後		2		○								兼1	
		自然災害と防災	2・3・4前・後		2		○			1						
		情報マネジメントⅠ	2・3・4前・後		2		○			1						
		情報マネジメントⅡ	2・3・4前・後		2		○			1						隔年
		データベース概論	2・3・4前・後		2		○			1						隔年
		国土・地域計画	2・3・4前・後		2		○				1					
		社会基盤論	2・3・4前・後		2		○			1						
		交通まちづくりの計画と政策	2・3・4前・後		2		○			1						隔年

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Environmental Issues in Asia	2・3・4前・後		2		○			1					
		Global Water Problems	2・3・4前・後		2		○				1				
		Disaster Management and International Cooperation	2・3・4前・後		2		○			1					
		Practice of Internet Technology	2・3・4前・後		2		○			1					隔年
		Cities and Transport in Asia	2・3・4前・後		2		○			1					
		小計（23科目）	－	0	46	0	－			5	2	0	0	0	兼
	グローバル・イノベーション領域	Global Society and Structures of Governance	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Multinational Corporations and the Global System	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Contemporary Global Issues and Japan	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Introduction to Finance	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Comparative Studies of Corporate Organizations	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Financial Accounting	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Rethinking Japanese Corporations in the Global Economy	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Globalization and Japanese Cultures	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Social Contributions	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Media Studies	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Organizations and Global Security	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Globalization and Japan	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Global Strategic Management and Merger and Acquisition	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Entrepreneurship and Venture Businesses	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Business Development and Corporate Finances	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Social Solidarity Economy and Social Enterprise	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Multinational Corporations and Market Systems	2・3・4前・後		2		○								兼1
		International Comparative Studies in Human Resource Development	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Comparative Cultural Studies	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Asian Economic Development and Japan	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Evolving Frameworks for Resolving International Conflicts	2・3・4前・後		2		○								兼1
		Human Security	2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（22科目）	－	0	44	0	－			0	0	0	0	0	兼1
Project Studies	必修	専門ゼミナールⅠ	3前	2				○		14	5				
		専門ゼミナールⅡ	3後	2				○		14	5				
		専門ゼミナールⅢ	4前	2				○		14	5				
		専門ゼミナールⅣ	4後	2				○		14	5				
		卒業論文	4前・後	4				○		14	5				
		小計（5科目）	－	12	0	0	－			14	5	0	0	0	
	選択	国際地域学研修Ⅰ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅲ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅳ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅴ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅵ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅶ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
		国際地域学研修Ⅷ	1・2・3・4前・後		1				○	1					

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
Project Studies	選択	インターンシップⅠ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		インターンシップⅡ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		インターンシップⅢ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		インターンシップⅣ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		ボランティア実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		ボランティア実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		ボランティア実習Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		ボランティア実習Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		フィールド調査実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		フィールド調査実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		フィールド調査実習Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		フィールド調査実習Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		地域デザイン基礎演習	1・2・3・4前・後		2				○	1					
		地域デザイン演習	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		小計（22科目）	－	0	36	0	－			3	1	0	0	0	
Career Development	必修	キャリアデザインⅠ	1前	2			○								兼1
		キャリアデザインⅡA	2後	2			○								兼1
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	選択	キャリアデザインⅡB	2後		2		○								兼1
		キャリアデザインⅢ	3前・後		2		○								兼1
		経済社会実務Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		経済社会実務Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		経済社会実務Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		経済社会実務Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		情報技術実務Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		情報技術実務Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		情報技術実務Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		情報技術実務Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
		小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	1	0	0	0	兼2
合計（468科目）			－	46	815	0	－			14	7	4	0	0	兼197

学位又は称号	学士（国際地域学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
[卒業の条件] ①Liberal Artsから8単位、哲学・思想から2単位、Basic Academic Skillsから6単位、Advanced Academic Skillsの必修6単位および選択2単位、Academic Subjectsから44単位、Project Studiesから必修12単位および選択6単位を修得すること。 ②日本人学生はLanguage and Communication SkillsのEnglish12単位、Second Foreign Language4単位を修得し、留学生はLanguage and Communication SkillsのJapanese12単位、EnglishおよびSecond Foreign Languageから4単位を修得すること。 ③124単位以上修得すること。 [履修科目の登録の上限] 1～2年次：半期22単位（年間44単位）、3～4年次：半期24単位（年間44単位））	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		哲学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		哲学史Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		哲学史Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		倫理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		倫理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		宗教学ＩＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		宗教学ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		宗教学ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		宗教学ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		東洋思想	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		井上円了と東洋大学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		井上円了と東洋大学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		ロジカルシンキング入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		クリティカルシンキング入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		小計（15科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼9
	学問の基礎	芸術学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		芸術学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		歴史の諸問題Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		歴史の諸問題Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		経済学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		経済学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		法学	1・2・3・4前		2		○								兼2
		政治学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		政治学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		社会学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		社会学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		人類学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		人類学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		心理学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		心理学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然の数理Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然の数理Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		生活と物理Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		生活と物理Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		エネルギーの科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		エネルギーの科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		物質の科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		物質の科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		環境の科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		環境の科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		地球の科学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼2
		地球の科学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼2
		生物学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		生物学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		天文学Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		天文学Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然科学概論Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然科学概論Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然誌Ａ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然誌Ｂ	1・2・3・4後		2		○								兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学実験講義A	1・2・3・4前		2				○						兼1
		生物学実験講義B	1・2・3・4後		2				○						兼1
		化学実験講義A	1・2・3・4前		2				○						兼1
		化学実験講義B	1・2・3・4後		2				○						兼1
		数理・情報実習講義A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		数理・情報実習講義B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		小計（43科目）	－	0	86	0	－			0	0	0	0	0	兼25
	国際人の形成	地域文化研究A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域文化研究B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		百人一首の文化史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		百人一首の文化史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本の昔話A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本の昔話B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本文学文化と風土A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本文学文化と風土B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本の詩歌A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本の詩歌B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		西欧文学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		西欧文学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		現代日本文学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		現代日本文学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地域史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		アジアの文学	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		アジアの古典	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		国際関係入門	1・2・3・4前・後		2		○			1					
		国際キャリア概論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		留学のすすめ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		海外研修Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		海外研修Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		海外実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		海外実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
		短期海外研修Ⅰ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外研修Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外研修Ⅲ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外研修Ⅳ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅲ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		短期海外実習Ⅳ	1・2・3・4前・後		1				○						兼1
		小計（33科目）	－	0	58	0	－			1	0	0	0	0	兼12
	キャリア・市民形成	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		スポーツ健康科学実技A	1・2・3・4前		1				○						兼4
		スポーツ健康科学実技B	1・2・3・4後		1				○						兼4
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		スポーツ健康科学講義ⅡA	1・2・3・4前		2		○								兼2
		スポーツ健康科学講義ⅡB	1・2・3・4後		2		○								兼2
		情報化社会と人間	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		コンピュータ・リテラシィA	1・2・3・4前		1		○								兼2
		コンピュータ・リテラシィB	1・2・3・4後		1		○								兼2
		社会人基礎力入門講義	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		社会人基礎力実践講義	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Liberal Arts	キャリア・市民形成		社会貢献活動入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			公務員論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			情報ネットワーク論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			テクニカルライティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			アカデミックライティング	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			インターンシップ入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			ボランティア活動入門	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			小計（19科目）	－	0	34	0	－			0	0	0	0	0	兼15
	総合・学際		総合ＩＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			総合ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			総合ⅢＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ⅢＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			総合ⅣＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ⅣＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			総合ＶＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ＶＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			総合ⅥＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ⅥＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			総合ⅦＡ	1・2・3・4前		2		○								兼1
			総合ⅦＢ	1・2・3・4後		2		○								兼1
			全学総合ＩＡ	1・2・3・4前		2		○			1					兼3
			全学総合ＩＢ	1・2・3・4後		2		○								兼4
			全学総合ⅡＡ	1・2・3・4前		2		○								兼3
			全学総合ⅡＢ	1・2・3・4後		2		○								兼2
			首都東京を学ぶ	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
			小計（19科目）	－	0	38	0	－			0	0	0	0	0	兼15
Study Skills	Basic Academic Skills		国際地域学基礎	1前	2			○			1					
			入門ゼミナール	1前	2				○		3	2				
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			4	2	0	0	0	
	Advanced Academic Skills		プロジェクトゼミナールⅠ	1前		2			○		1	1	1			
			プロジェクトゼミナールⅡ	2・3・4前		2			○		4					
			プロジェクトゼミナールⅢ	2・3・4後		2			○		3	1				
			小計（3科目）	－	0	6	0	－			9	2	1	0	0	
	Communication Skills Language and Communication	English	総合英語演習Ⅰ	1前	2				○			1				兼1
			総合英語演習Ⅱ	1後	2				○							兼1
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1
		Second Foreign Language	中国語入門Ａ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			中国語入門Ｂ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			ハングル入門Ａ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			ハングル入門Ｂ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			フランス語入門Ａ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			フランス語入門Ｂ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			ドイツ語入門Ａ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			ドイツ語入門Ｂ	1・2・3・4前		1			○							兼1
			小計（8科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼5
			英語研修	1前・後		2			○			1				
			フランス語総合演習	1前・後		2			○							兼1
			ハングル総合演習	1前・後		2			○							兼1
			ドイツ語総合演習	1前・後		2			○							兼1
			中国語総合演習	1前・後		2			○							兼1
			ビジネス英語演習	2・3・4前・後		2			○							兼1

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	メディア英語演習	2・3・4前・後		2			○							兼1
			英語検定	2・3・4前・後		2			○			1				
			中国語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			ハングルの言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			フランス語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○				1			
			ドイツ語圏の言語と文化	2・3・4後		2			○							兼1
			Internet Research	2・3・4前・後		2			○			1				
			小計（13科目）	－	0	26	0	－			0	2	1	0	0	兼8
	留学支援	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅠA Listening/Speaking	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			English for Academic Purposes ⅠB Reading/Writing	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			English for Academic Purposes ⅡA Listening/Speaking	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			English for Academic Purposes ⅡB Reading/Writing	1・2・3・4前・後		2			○							兼5
			Pre-Study Abroad College Study Skills	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			Business English Communication	1・2・3・4前・後		2			○							兼1
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼6
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択必修	国際政治学	1前・後		2		○			1					
			国際協力論	1前・後		2		○				1				
			国際経済学	2・3・4前・後		2		○				1				
			小計（3科目）	－	0	6	0	－			2	2	0	0	0	
		選択	情報入門・データ解析	1前・後		2				○	1					
			マクロ経済学	1前・後		2		○			1					
			ミクロ経済学	1前・後		2		○			1					
			アジア経済論	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			3	0	0	0	0	
	地域研究・比較文化領域	選択必修	国際交流と日本文化	2・3・4前・後		2		○					1			
			小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	1	0	0	
		選択	ヨーロッパ地域研究A	1前・後		2		○				1				
			宗教と社会	2・3・4前・後		2		○			1					
			都市地理学	2・3・4前・後		2		○			1					
			経済地理学	2・3・4前・後		2		○			1					
			文化人類学入門	2・3・4前・後		2		○			1					
			Japanese Economy and Business	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			3	1	0	0	0	
	コミュニティ・地域政策領域	選択必修	公共経済学	1前・後		2		○				1				
			社会保障論	1前・後		2		○			1					
			行政学	2・3・4前・後		2		○								兼1
			コミュニティ開発論	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			2	1	0	0	0	兼1
		選択	Participatory Development	1前・後		2		○				1				
			社会調査法	2・3・4前・後		2		○			1					
			地域社会学Ⅰ	2・3・4前・後		2		○			1					
			地域社会学Ⅱ	2・3・4前・後		2		○			1					
			地域福祉論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			地方自治論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			都市計画	2・3・4前・後		2		○				1				
			まちづくり概論	2・3・4前・後		2		○				1				
			社会政策論	2・3・4前・後		2		○			1					
			まちづくり手法論	2・3・4前・後		2		○				1				
			地域形成論	2・3・4前・後		2		○			1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Academic Subjects	地域政策領域（コミュニティ・）	選択	福祉経済論	2・3・4前・後		2		○			1					
			地域産業論	2・3・4前・後		2		○				1				
			土地・住宅問題	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	3	0	0	0	兼2
	環境・情報・インフラ領域	選択必修	エネルギー・資源論	1前・後		2		○			1					
			環境マネジメント	1前・後		2		○			1					
			社会基盤論	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（3科目）	－	0	6	0	－			2	0	0	0	0	
		選択	情報マネジメント	1前・後		2		○			1					
			環境管理適正技術論	2・3・4前・後		2		○			1					
			国際環境計画入門	2・3・4前・後		2		○			1					
			自然災害と防災	2・3・4前・後		2		○			1					
			災害と復興	2・3・4前・後		2		○			1					
			環境システム論	2・3・4前・後		2		○			1					
			環境社会論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			アジアの都市と交通	2・3・4前・後		2		○			1					
			水資源と水環境	2・3・4前・後		2		○			1					
			Environmental Issues in Asia	2・3・4前・後		2		○			1					
			交通まちづくりの計画と政策	2・3・4前・後		2		○			1					
			小計（11科目）	－	0	22	0	－			5	0	0	0	0	兼1
	地域観光系科目		観光の歴史と文化	1前・後		2		○								兼1
			旅行産業論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			地域観光論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			自然公園・保護論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			観光交流論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			地域財政と観光	2・3・4前・後		2		○								兼1
			福祉観光論	2・3・4前・後		2		○								兼1
			観光行動モデル	2・3・4前・後		2		○								兼1
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼8
	総合経済系科目		アメリカ経済論Ａ	2・3・4前・後		2		○								兼1
			アメリカ経済論Ｂ	2・3・4前・後		2		○								兼1
			世界の農業・資源経済Ａ	2・3・4前・後		2		○								兼1
			世界の農業・資源経済Ｂ	2・3・4前・後		2		○								兼1
			エネルギー経済学Ａ	2・3・4前・後		2		○								兼1
			エネルギー経済学Ｂ	2・3・4前・後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼3
Project Studies			専門ゼミナールⅠ	4前・後		2			○		14	4				
			専門ゼミナールⅡ	4前・後		2			○		14	4				
			卒業論文	4前・後		4			○		14	4				
			国際地域学研修Ⅰ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅱ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅲ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅳ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅴ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅵ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅶ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			国際地域学研修Ⅷ	1・2・3・4前・後		1				○	1					
			インターンシップⅠ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
			インターンシップⅡ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
			インターンシップⅢ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
			インターンシップⅣ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
			ボランティア実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
			ボランティア実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○	1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Studies Project	ボランティア実習Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
	ボランティア実習Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
	フィールド調査実習Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
	フィールド調査実習Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
	フィールド調査実習Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
	フィールド調査実習Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○	1					
	小計（23科目）	－	0	40	0	－			14	4	0	0	0	
Development Career	キャリアデザインⅠ	1後		2		○								兼1
	キャリアデザインⅡ	2前		2		○								兼1
	キャリアデザインⅢ	3後		2		○								兼1
	経済社会実務Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	経済社会実務Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	経済社会実務Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	経済社会実務Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	情報技術実務Ⅰ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	情報技術実務Ⅱ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	情報技術実務Ⅲ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	情報技術実務Ⅳ	1・2・3・4前・後		2				○		1				
	小計（11科目）	－	0	22	0	－			0	1	0	0	0	兼3
合計（259科目）		－	8	484	0	－			14	7	2	0	0	兼105

学位又は称号	学士（国際地域学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
[卒業の条件] ①Liberal Artsから6単位、哲学・思想から2単位、Basic Academic Skillsから4単位、Academic Subjectsの選択必修から18単位および選択から32単位を修得すること。 ②Language and Communication SkillsのEnglish4単位、Second Foreign Language2単位、Language and Communicationから2単位を修得すること。 ③124単位以上修得すること。 [履修科目の登録の上限] 1～2年次：半期22単位（年間44単位）、3～4年次：半期24単位（年間44単位））	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	Philosophy and Toyo Univ.	Dr. Enryo Inoue and Toyo University	東洋大学は、井上円了の教育理念によって、明治２０（１８８７）年に「哲学館」として創立された。日本が大学制度を創出する時期であった。それから、東洋大学は現在まで１２５年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。そこには創立期以来の様々な困難とそれを乗り越えてきた足跡がある。この講義では、創立者の井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくが、これによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶ。	
Liberal Arts	Philosophy and Toyo Univ.	Introduction to Philosophy	「哲学」という言葉の意味について考えることから始め、「本当にあるものとはなにか？」、「人間のかんがえとは何か？」、「人間にとって知恵とは何か？」「どうしたらよりよく生きられるのか？」など、これまでの哲学者たちが考えた様々な問いを紹介し、それを日常生活の疑問に結びつけながら考えることにより、「哲学」とは何かを理解し、哲学的に考えるこつを身につける。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Journalism	ネット革命が起きて以降、ジャーナリズムの世界にも大きな変化が起きている。もはや、国内の新聞、テレビ、ラジオといったマスメディアだけが、人々にとっての情報収集の場ではなくなっている。個人もまた新しいメディアとなり、SNSでニュースが拡散すると言う新しい現象も起きている。 本講義は入門であるので、ジャーナリズムの役割とその発展についておさえたうえで、ネットの登場でジャーナリズムの役割がどのように変化しているか、またその限界はなんであるかにについてまで取り上げる。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Japanese Economy and Society	学科に所属する留学生のため、今後展開するさまざまな講義科目を理解するための概説科目である。日本の近代から現代に至るまでの経済成長史を手始めに、現在の日本の経済社会を形作る基礎となった明治における社会経済改革を概説し、また、外国人にとっては理解しにくいと思われる日本的な意思決定の背景となる社会的構造についての理解を提供する。そして何より重要なのは、第二次大戦に至るまでの時代背景・合意形成・リーダーシップのあり方である。それは、戦中の国家総動員体制を通じて、戦後の高度経済成長を支えた広い意味での企業社会的日本的経営に受け継がれている。そして、同時に経済成長を縦割りの官僚組織によって支えた産業政策のありかたなど、おそらくいきなり飛び込んできた外国人から見ると奇異に思われることにも、いい意味でも悪い意味でもそこに至るまでの裏付けがあることをしっかりと理解してもらうことが最大の目的である。そして、今後日本の経済社会の内外で強力なイノベーションのパートナーとして活躍する人材となるための動機付けを与える講義を目指す。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Shifts in Global System and Role of International Organizations	本科目は、グローバリゼーションを背景として、国連システム等国際機関の役割の変遷と現状を学ぶことにより、新たに生じつつある問題点や将来に対しての改革案を考案する。特にケーススタディとして、ユネスコの事例を取り上げることにより、実際に起きている具体的事例を通じて、より深い理解を得る。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Global Studies	本科目では、グローバリゼーションが国際社会に与える影響について学ぶ。グローバリゼーションが国際社会に与える影響は、経済、文化、社会など様々な側面に及ぶ。そのため、その影響を分析するためには、多面的な視点からの分析が望まれる。本セミナーでは、グローバリゼーションについて様々な視点から論じている英語学術論文を（１）読解する（２）ディスカッションする（３）プレゼンテーションをすることで、自分の考察を深めていくことを目指す。これを通じて、グローバリゼーションが国際社会に与える影響について、自分の考察を持ち、それを表明する力を習得するとともに、英語学術論文の基本的な読み方を習得する。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Global Politics	アメリカ主導の単極システムの行方、中国の台頭と既存の国際秩序の動揺、「一つのヨーロッパ」を牽引してきたＥＵの苦悩、ロシアと欧米諸国の深まる亀裂、そしてイスラム国などの過激主義の伸長・・・。そうしたグローバル政治の主要な現象に対して包括的かつ複眼的な視座を得るために、国際政治学・国際関係論への導入を行うことが、この科目の目的である。さらにグローバルな諸課題をめぐる対立と協調やその中での日本の立ち位置を考えるきっかけを提供したい。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Environmental Studies	環境・循環型社会・生物多様性白書をベースに、気候変動、廃棄物や資源循環と化学物質の問題、自然環境の保全と共生、水資源と衛生、大気汚染など、現在の日本および国際社会が抱えるさまざまな環境問題とその取り組みについて学ぶとともに、グローバリゼーションが進む社会の中で、環境問題への対応として求められていることをディスカッションを通して理解していく。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Geography	自然地理学を中心として、人文地理学、都市地理学、経済地理学の基礎の概説について、英語により講義を行う。さまざまな地形の成立と特性を理解し、気候や地形と人々の営みとの関係を基礎として、国内外の地誌にも触れながら、さまざまな地域と人々を理解するための学問としての地理学の基礎を体得することを目的とする。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Urban Development History of Tokyo	英語による講義である．東京の都市発展は，江戸幕府開府より本格的に始まり，明治維新後の文明開化，市区改正，関東大震災後の帝都復興事業，戦災復興事業，高度経済成長期の都市整備など，さまざまな歴史の積み重ねにより成り立っている．本講義では，東京の都市発展の歴史を主に都市・インフラ開発，都市計画の観点から概説していくとともに，世界の大都市とその発展の歴史との相対的な比較を通して，東京という都市を相対的な視点から俯瞰できるようになることを目的とする．	
Liberal Arts	Liberal Arts	Contemporary Japan Studies	第二次大戦後の日本の歩み、国際社会における現代日本への視線や関心の推移をとりあげ、日本の歴史や社会の特性について認識を深めることを目的とする。歴史的な出来事、外国メディアにおける日本のとりあげられ方にみる特徴などから、現代日本の課題について考える。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Sociology of Islam	この講義では、人口において世界第二の宗教であるイスラームを主としてとりあげる。現在、ムスリム人口は16億を超えたと言われており、第一位のキリスト教人口を超える日もそう遠くはないと予測されている。日本に暮らすムスリムの数も着実に増加している。イスラームの基本的な教義から日常生活までを、平易に解き明かしていく。日本で暮らすムスリムを講義に招へいしたり、随時日本人の宗教感覚と対比させることで、比較文化論的な要素を取り入れての説明を行う。	隔年

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to the Welfare Society	福祉政策を読み解く理論を用いて現代社会における福祉に関する諸課題を考える。社会福祉の様々なトピックは、社会経済を中心とした大きな環境変化から生じている。変化がもたらす社会課題とそれへの対応を説明する。さらに国際比較を通じて、福祉政策の手法とそのもたらす効果を考える。これらを通じて、受講生が福祉の経済に関する基本的な理論、社会経済の環境変化とそれに関連する福祉の諸課題を理解し、自分の考えを表明できるようになることを目指す。	
Liberal Arts	Liberal Arts	Introduction to Internet Technology	IT技術を活用する職業人として基本的な知識の習得を目標とする。現代の情報社会の基盤技術であるインターネット技術、通信プロトコル、メディア技術などを中心として概要を述べる。また、これらの知識に基づいて、個人・組織における情報セキュリティ対策の基本的な考え方、現状発生している様々なインシデントに関する概要、関連する制度の概要などについて解説する。スライドを用いた講義形式で実施する。	隔年
Liberal Arts	Liberal Arts	Regional to International Issues	この科目では、地域、国、国際という3つのレベルの課題をとりあげ、日本および海外に影響を与える事柄についての理解を深めることを目指す。このような課題について事前・事後学習を行い、理解を深めることで、留学にむけた準備につなげる。なお、特別講師として日本に駐在する各国の大使を招聘し、各国の事情などについての講義を行ことも予定している。講義は、すべて英語により行う。	
Liberal Arts	Liberal Arts	International Student Mobility	今日の世界では、自国以外で学ぶ留学生の数が450万人（OECDによる）を超え、さらに拡大している。高度人材の流動化が期待される中で、大学も海外分校（ブランチ）を設置したり、海外の大学との共同授業や共同学位に取り組むなど、国境を越えた取り組みを拡大している。本授業では、留学生の受入、送り出しに果たす政府機関の役割、単位互換や共同学位などの質保証の課題、出入国管理政策などの現状を分析し、高等教育のグローバル化の課題を検証する。	
Study Skills	Basic Study Skills	Study Skills Ⅰ	主に２点について学ぶ。第一に、中等教育から高等教育への学びの接続を行う。主に、論理的思考に関する学びと実践、レポート作成の方法、初歩的なデータ分析について学ぶ。第二に、日本人学生と留学生が混在する本学科の特徴を踏まえ、異文化理解についても理論と演習を通じて学ぶ。	
Study Skills	Basic Study Skills	Study Skills Ⅱ	日本人学生と留学生が混在するクラスにおいて、特定のテーマに基づきディスカッション、プレゼンテーションによる相互発信の機会を設定し、異文化との接触を通じて自己崩壊（今まで常識だと考えていた価値観の崩壊）→自己再統合（文化の差異を受け止め、異文化へ対処しようと努力する）→自律（異文化への適応）という流れを学生一人一人が経験することで、学び合いによる知識や視点の拡大、自己理解・他者理解の深化等を目的とする。	
Study Skills	Basic Study Skills	ICT Literacy	大学で学ぶ上必要となる基礎的な情報リテラシーについて学ぶ。主に、パソコンを利用した文書作成、表計算、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。また、演習を通じて、実際に課題に取り組むことで、実践力の養成を行う。	
Study Skills	Basic Study Skills	Research Methods	研究・調査活動を行う上で必須となる基礎的な研究手法について学ぶ。質的研究と量的研究の特徴や違い、その実践方法等について理解を深め、実際に演習課題やフィールドワークを通じて実践することを目的とする。また、文献調査とその分析方法についても学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Communication Skills	Interpersonal & Persuasion/Management	グローバルリーダーには数多くの能力が求められるが、人を牽引する力量を備えたリーダーたるためには、技術的なコンピテンシーだけでなく、職場内の意欲（モチベーション）や他者の能力を引き出すための対人関係スキルが必要とされる。本科目では、他人の意見を聞き、コミュニケーションを図り、説得し、やりがいを与え、協力する能力（EQを超えた「ＳＱ」（社会性の知能指数））といった英語での対人関係スキルを総合的に学習する。	
Study Skills	Communication Skills	Debating Theory, Skills & Practices	会議や交渉といったビジネスの場や国会のような政治討論の場に限らず、誰しもが日常、「テーマを設定し、データを集め、問題枠を作り、複数の議論パターンを考え、自説を主張し、相手に反駁する」という経験をしている。加えて、グローバル化が最早抗しがたい世界の潮流となる中、英語による論理的・批判的思考力、表現力、説得力といった能力が他国民と有効な英語コミュニケーションを図るうえでの必須の能力として求められている。この点、英語ディベートは「思考・表現技術」「調査技術」「コミュニケーション技術」「問題解決技術」を総合的に磨くことができる。本科目は英語ディベート入門編であり、基礎理論（論題キーワードの明確な定義、客観的意見と主観的意見の相違、意見の補強手法、強い理由付け）と実例を織り交ぜながら英語コミュニケーション能力や論理的思考方法の育成を図る。	
Study Skills	Communication Skills	Intercultural Communication	異文化間コミュニケーションが均等の位置にある複数の当事者の間に行われるものではない。支配的な言説の中では優勢の声が拡大され劣勢の声が消去される。悪化している不平等や格差が中々改善されない原因の一つは下位に置かれている（サブアルタン）人々の声が支配階層には届かない。グローバル市場に不可視となっている人々とのコミュニケーションの課題を取り上げる。	
Study Skills	Communication Skills	Negotiation Theory, Skills & Practices	本科目では、立場(position)と利害(interest)を分離してWin/Winの合意形成に到達するためのPrincipled Negotiation手法（今日の交渉学の主流を占めるハーバード流交渉学）を英語で集中的に学ぶと同時に、交渉に必要な英語表現を網羅的・体系的に学ぶ。講義では世の中のあらゆる交渉事例を研究対象として、交渉の基礎理論とケース・スタディとを適宜織り交ぜ、幅広い知識の吸収と交渉の実際面への応用を目指す。	
Study Skills	Communication Skills	Presentation skills	グローバル社会では、会議、式典やイベント、会社の行事などの中で、立場上英語でプレゼンをしなければならない場面も多く、プレゼンテーションをいかに楽しく、魅力的にこなすかということが求められる。「プレゼンテーション」は内容、構成、話し方の３つの要素で成り立っているが、本科目では、姿勢や目線の配り方、顔の表情、声の使い方や間のとり方、ジェスチャーの使い方、アガリの撃退方法など、英語で行うプレゼンテーションのポイントや具体的な事例を元にした実戦的なアドバイスを行う。	
Study Skills	Communication Skills	Leadership communication	政治・経済面での広範囲なグローバル化が進む中、企業幹部や政治指導者など官民トップの強力なグローバル・リーダーシップが益々求められる時代にあって、グローバル企業であれば従業員向け挨拶、商品発表、決算発表などの場で、政治家であれば有権者集会や記者会見などの場において、特定の聴衆やメディアの前で話す内容がウェブ動画中継などを通じて不特定多数に視聴され、トップのレピュテーションがグローバルに形成されるケースも増えている。本科目では、パブリックスピーキングを含めたリーダーの英語コミュニケーション力（言語力、パフォーマンス力、アピール力）が企業業績や政治生命、ひいては国力を大きく左右する重要なスキルになってきているとの認識のもと、これらの技能を総合的に鍛え上げる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Communication Skills	Introduction to Postmodern Thought	戦後から80年代までの間、世界がどうやら本質的に変わり、ポストモダンの時代に入ってきたという、数多くの思想家や芸術家の考えを紹介する。普遍性、進歩、理性や自由に生きる個人などの基礎的な近代理念に対する信仰が様々な観点から攻撃され致命的な打撃を受けた我々の生きる時代をどう理解すればいいのか。2011年3月11日以降の日本も取り上げる。	
Study Skills	Communication Skills	Introduction to Postcolonial Thought	植民地化の危険性に晒され、大日本帝国に変遷した明治時代の日本の独特な歴史を踏まえつつ、西洋思想がいかに欧米を中心とした帝国主義支配と結びついているのかを追及する。国民国家の思想、政治、経済などの構造で支配下に置かれている女性、先住民や植民地化された人などの、抑圧や暴力に対する様々な抵抗も取り上げる。グローバル化の不均衡が不可視された帝国主義の継続ではないかという分析も試みる。	
Study Skills	Communication Skills	Advanced Negotiation Theory & Skills	本科目では、立場(position)と利害(interest)の分離、Win/Winの合意形成、Principled Negotiationといった交渉理論および交渉に必要な英語表現の基礎を既習の学生を対象に、経済学（ゲーム理論）、心理学、政治学、法学、ビジネススクール、都市計画学などの学際的アプローチをも取り入れつつ、ケーススタディを多く取り入れて、一段進んだ交渉理論の理解と実務面への応用を目指す。	
Study Skills	Communication Skills	Advanced Debating Theory & Skills	本科目は、英語ディベート入門既習の学生を対象に、実戦的な英語ディベート事例を深く解読することで、英語ディベート全体の流れを再確認しつつ、相手の議論の骨子を過不足なく把握する手法、論理的誤謬を見抜いて反駁する手法、質問に効果的に反論する手法、聴衆やジャッジにアピールするボディ・ランゲージなどの応用技術を学び、英語ディベート力に一段と磨きをかける。また、相手からの反証と複数の議論パターンを事前に予測し、それぞれに応じた立論を作成することで、自分だけでなく、異なる視点からの見方を考え、問題「解決」だけでなく、問題「発見」能力をも養う。	
Study Skills	Communication Skills	Special English Study Ⅰ	本科目は、本学科の学生に義務付けられている１年間の海外留学に向けた留学支援科目として位置づける。主に、留学先の大学で履修する専門科目の学習に向けて求められる学術英語について学ぶことを目的とする。また、TOEFLのリーディング、英文法、リスニング、ライティングについて学び、海外留学に求められるTOEFLスコアの基準を達成する力を涵養することを目的とする。	
Study Skills	Communication Skills	Special English Study Ⅱ	本科目は、本学科の学生に義務付けられている１年間の海外留学に向けた留学支援科目として位置づける。海外留学に求められるTOEFLスコアに満たない学生を対象に、TOEFLに求められる基礎力強化を行う。特に、語彙力、文章の表現力、発信力の強化に注力し、英語で基礎科目を履修するために最低限必要な力の涵養を目指す。	
Study Skills	Communication Skills	Special English Study Ⅲ	本科目は、本学科の学生に義務付けられている１年間の海外留学からの帰国生を対象に、留学後の英語強化に向けて英語学術論文の講読・輪読を行うことを目的とする。また、留学から帰国した学生がグループを構成し、お互いの留学先での学びの成果を共有するとともに、自分の学びを振り返ることで、帰国後の本学での英語力強化に向けた目標設定と具体的な達成計画についても考察することを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Communication Skills	Special English Study Ⅳ	本科目は、本学科の学生に義務付けられている１年間の海外留学からの帰国生を対象に、留学後の英語強化に向けて学術論文の執筆方法に関して重点的に学ぶことを目的とする。本学科学生は、卒業論文を英語で執筆するため、留学先で学んだ英語レポートの作成能力を基盤として、英語での卒業論文作成に求められる能力の涵養を目指す。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Reading Ⅰ	英語がコミュニケーションの手段になる、本学科及び海外留学の科目に一週間ごとに要求される大量の読書は、英語を第2言語とする一年生にとって大きなハードルだと思われがちである。この科目では、学生が読書の速度や理解を増やすのに役立つ読解戦略が紹介され、精読も多読も平行に行われる。学生がさまざまなテキストを難なく読解できるようになり、それが大きな自信に結びつくことが期待される。幅広い分野の知識を得ると同時に学生の批判的な分析能力も上達する。さまざまなジャンルの目的、文体、書式や構造がクラスで取り上げられる。専門用語、成句やイディオムも紹介され、接頭辞、接尾辞、語幹や文脈などによって初めて出会う言葉の語彙を察する方法も教えられる。学生がテーマ（すじ）や要点を指定し、要約の書き方も覚える。学生が中心になる教授法では、読んだものに関して自分の意見を述べ、クラスメートと話し合い、個人的又はグループでプレゼンテーションをすることもある。情報収集の基礎的なスキルを習得するための自主的な研究プロジェクトもある。要領よく早い速度で大量のテキストが読めるようになる基盤だと思われる多読で、学生が、自分のレベルに合った興味ある読み物を自由に選択し、自主的に一週間に3時間以上読むことが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Reading Ⅱ	「Academic Reading Ⅰ」の続きで、授業の方針や内容も継続するが、日本語と英語の、多数文献を要約し統合して研究論文の作成も要求される。終わった段階で学生が英語圏の大学に利用されるテキストを要領よく読解し、正確に要約し、批判的に分析した上、自主的な研究と合わせて独自な論を立てることが求められる。学生が中心になる教授法では、学生の意見交換が期待される。要領よく早い速度で大量のテキストが読めるようになる基盤だと思われる多読で、学生が、自分のレベルに相応しく魅力を感じる読み物を自由に選択し自主的に一週間に3時間以上読むことが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Writing Ⅰ	英語がコミュニケーションの手段になる、本学科及び海外留学科目に欠かせない基礎スキルである作文の力を開発する。頻繁に作文及び編集を行い、学生が文法や文章の構成を復習し作文全体の内容や構造を批判的に分析できるようになる。基本的なパラグラフから短い作文の構成までの作成ができるようになる。説得のための作文では、意見を支えるために、合理的に個々の要素を組み立てて関連性を保つ方法も練習する。学生は一次資料の使用方法や図の作成も習得する。学問資料を読み分析し、パラグラフや論点の移り変わるときに必要である接続(transition)の理解や作成能力を、編集を通して身に付ける。学生が中心になる教授法では、学生のクラスでの積極的なディスカッションが期待される。参考文献を利用する、700～1000ワードまでの正式的な学問作文を3点作成し、頻繁に編集する。学生がお互いに書いたものについて意見交換を行い、作文や口頭での表現力が共に上達することが期待される。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	English Language Skills	Academic Writing Ⅱ	「Academic Writing Ⅰ」の続きで、授業の方針や内容も継続するが、学生は自主的に情報収集し、学問テキストを批判的に分析することがより主張される。インターネットや図書の文献の探索方針や、文献の信憑性や偏見を見極める能力が要求される。学生は、標準に従い合理的に論を構成し読者を説得する1,200～2,000ワードまでの正式的な学問作文を3点作成し、頻繁に編集することになる。APA及びMLAの書式も教わる。学生がリサーチ・クエスチョンやテーゼの理解や作成する能力を上達する。様々な文献の要点を指定し、要約してから自らの意見と統合的に取り入れる能力が身に付く。学生が中心になる教授法では、学生のクラスでの積極的なディスカッションが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Listening Ⅰ	会話、ポッドキャスト、ニュース、Ted Talks、ドキュメンタリー、ラジオ・テレビ番組、動画、コメディー、スポーツや講演などのさまさまジャンルを頻繁に聴く練習により学生が海外の大学で要求される聴解能力を身に付ける。メモの取り方、情報の請求のしかたやいくつかの談話戦略も教わる。学生が中心になる教授法では、学生のクラスでの積極的なディスカッションが期待される。学生が週ごとに自主的で定期的に聴解練習を3時間以上実践することが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Listening Ⅱ	「Academic Listening Ⅰ」の続きで、授業の方針や内容も継続するが、政治的な演説、企業の報告、販売を目的とする宣伝などの戦略の聴解練習の実例の種類がより多様化していく。話の旨を捕まえると同時に早急に分析し応じる能力を実践する。学生が中心になる教授法では、学生のクラスでの積極的なディスカッションが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Speaking Ⅰ	学生は、口頭の表現力を向上する。さまざまな課題について自分の意見を伝え他者の意見を聞き取り、長時間の意見交換に積極的に参加できるようになる。情報を求め、繰り返し、要約するようになる。多数の文献に基づいて発表する。学生が中心になる教授法では、学生のクラスでの積極的なディスカッションが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	Academic Speaking Ⅱ	「Academic Speaking Ⅰ」の続きで授業の方針や内容も継続するが、学生は専門用語やイディオムを口頭表現に入れる、発表の目的の変更により変わっていく戦略（報告、娯楽や説得など）をより認識するようになる。質問、繰り返し、情報要求や要約などのことにより社交的交渉に必要となるコミュニケーション・スキルを実践する。さまざまな状況に応じて適切な表現を使用するノウハウを身に付ける。学生が中心になる教授法では、学生のクラスでの積極的なディスカッションが期待される。	
Study Skills	English Language Skills	English for Study Abroad	海外留学の際、体験しそうなさまざまな状況を想定して行われるこの授業を終えた学生は自信を持って安心して留学できることが期待される。ルームメイトとのコミュニケーション、友達作りなどの日常的なことからコースやシラバスの読み方、科目の選択の仕方、講座のメモのとり方などさまざまな実用的なスキルを得ることができる。学生が実際に多数の地域、大学や学部学科を調べて評価し、プレゼンテーションをすることもある。	
Study Skills	English Language Skills	Advanced Academic English	英語コミュニケーション・スキルの一括授業で、テーマは担当教員により変わる。共同作業、クラスメイトとの意見交換、専門的な講義や発表を聞きメモを取り纏めること、情報収集・分析・統合をしたプレゼンテーションで聴衆を説得すること等、研究論文の作成及び発表のスキルが要求される。本学科で成功するのに要求されるスキルを理解し、自主的に上達する能力を習得する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Second Foreign Language	Chinese Ⅰ	この講義は中国語の発音と基礎文法を教授することを目的とする。初歩段階ではテキストの音読、発音の反復的な練習が重視され、学生一人一人に声を出して発音を繰り返して練習させるほか、文法や、やさしい会話文形式で理解して習得させる。中国語の基礎表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上を最終目標とする。また語学学習を通して、中国の文化・社会事情を知り、中国に対する理解を深めることも目標のひとつである。	
Study Skills	Second Foreign Language	Chinese Ⅱ	この講義は「Chinese Ⅰ」の継続で、原則的には「Chinese Ⅰ」を履修した者を対象とし、中国語の発音と基礎文法を教授する。中国語Ⅰを基礎として、さらに基本表現を学習していく。文法を会話形式で理解して、応用できるよう指導する。その上で、中国語の表現力を養うとともに、話せるように練習させ、実用的な語学力の向上を図ることを最終目標とする。また、中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Second Foreign Language	Chinese Ⅲ	この講義は原則的に「Chinese Ⅰ・Ⅱ」を履修した者を対象とする。授業ではこれまで習得した中国語の知識を応用して、口頭表現ができることを目的とする。講義内容は実用中国語を中心とし、テーマごとに会話の場面を作って会話し、応用的な会話ができるようにするとともに、中国語検定試験を受験する学生に対しても役に立つ内容を扱う。また、中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Second Foreign Language	Korean Ⅰ	この科目は韓国語の初習者を対象とし、ハングル文字の仕組みや発音、基礎的な文法を習得した上で、最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。基礎的な韓国語を理解し、テレビドラマや映画を楽しむほか、韓国を訪れても簡単なコミュニケーションができ、楽しむことができるレベルである。多くの学生に発言する機会を与え、対話形式で進めるほか、韓国のドラマや映画なども取り入れ、直接韓国文化に触れる機会を提供する。	
Study Skills	Second Foreign Language	Korean Ⅱ	この科目は基本的に「Korean Ⅰ」を修了した生徒を対象とし、韓国語の基本的文法をさらに増やしていく。テキストから一定の文例・文型を学習し、その文例・文型を用いて簡単な会話の演習を行なうとともに、会話の中で使えるフレーズを増やし、単語力・会話力の増強を図る。具体的な場面における会話文や、よく使われる解説文等を教材とし、より実践的なハングルを身に付けることを目標とする。また、ＤＶＤ等を使い、生きた韓国語に触れるとともに、韓国の映画・音楽などを取り入れ、韓国文化に触れ親しむ環境を提供する。	
Study Skills	Second Foreign Language	Korean Ⅲ	この科目は基本的に「Korean Ⅱ」を修了した学生を対象とする。初級の授業で習得した基礎的知識を広げ、韓国社会で必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに韓国語を通して異文化を経験し、韓国社会についての知識や理解を一層深めることを目的とする。初級の文法事項を復習しつつ、学生のレベルに合わせ、韓国関連の事項、韓国学生の大学生活、書物、ドラマ、映画、音楽等、韓国大衆文化にも触れながら、会話を中心にリスニング、読解を同時に行う。韓国語能力試験を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Second Foreign Language	French Ⅰ	この科目はフランス語初習者を対象とし、基本的な文法や語彙の導入を図る。フランス語での挨拶など簡単な日常会話、初歩的な構文を使って日常的な会話などができることをめざす。また、文字をみて発音でき、簡単なものを読むことができることをめざす。反復練習を通じて「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高め、フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。また、フランスの文化・社会を知り、フランスに対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Second Foreign Language	French Ⅱ	この科目は「French Ⅰ」を終えたもの、または同程度の学力を持つものを対象とする。日常で使うフランス語で必要となる初級文法や語彙・表現を習得し、聴解、読解、会話、作文の能力を養う。特に、辞書を用いてかんたんな文章が理解でき、作成できるようにする。フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。また、フランスの文化・社会を知り、フランスに対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Second Foreign Language	French Ⅲ	この科目は初年度の基礎からのステップアップで、語彙・文法・会話表現を向上させるとともに、フランス文化のさらに様々な側面を知ることを目的とする。「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高め、文法や語彙だけでなく、フランスやフランス語圏の国の文化も学ぶ。基本的なフランス語を使い、日常会話、旅行で使えるフランス語を練習するとともに、フランスの食文化の豊かさ、フランスの地方の多様性を知る。フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	
Study Skills	Second Foreign Language	German Ⅰ	この科目はドイツ語初習者を対象とする。ドイツ語の基礎文法を習得し、基本的な読解・表現・会話・聞き取りの能力を養う。アルファベットの発音から始めて単語のスペルと音の関係、挨拶から始め、日常の様々な場面でのドイツ語に慣れていく。ドイツ語圏における生活・社会・文化についての解説も行い、初級ドイツ語を学ぶのみならず、ドイツ語の用いられる生きた社会を知ることが、本講義の目的である。	
Study Skills	Second Foreign Language	German Ⅱ	この科目は「German Ⅰ」を修了した学生を対象とし、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の基礎文法を習得から一歩進んで、自らドイツ語での基本的な読解・表現・会話・聞き取りを手近な資料で試してみる。ドイツ語圏の生活・社会・文化についても、Ⅰに続いてさらにいろいろな情報を得ていく。ドイツやドイツ語の特徴をつかみ、ドイツ語圏のイメージを抱く。	
Study Skills	Second Foreign Language	German Ⅲ	この科目は原則として「German Ⅱ」を修了した学生を対象とし、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の知識を増やし、さらに表現の幅を広げるとともに、ドイツ語圏の国々についての知識や、ドイツ人の環境意識についても学ぶ。「聞く」、「書く」、「読む」、「話す」の４技能全てにおいて、さらなるレベル向上をはかるとともに、ドイツ語検定試験を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Second Foreign Language	Spanish Ⅰ	この科目はスペイン語初習者を対象とする。初級の文法、語彙、表現を扱い、特に「話す、聞く」ことに重点を置いて「聞く」「話す」から「聞く」「書く」へとコミュニケーション能力を深めていく。短期の語学研修・旅行などの外国生活で困らないリスニング能力と基本的な受け答えを身につけ、ボディランゲージを交えながらでも口頭での意思疎通ができること、辞書を引きながらでもいいので簡単なスペイン語文書の概要を把握できることを目標とする。また、スペイン語圏の文化、歴史、習慣等についても取り上げる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Second Foreign Language	Spanish Ⅱ	この科目は原則として「Spanish Ⅰ」を修了した学生を対象とする。初級の文法、語彙、表現を扱い、特に「話す、聞く」ことに重点を置いて「聞く」「話す」から「聞く」「書く」へとコミュニケーション能力を深めていく。短期の語学研修・旅行などの外国生活で困らないリスニング能力と基本的な受け答えを身につけ、ボディランゲージを交えながらでも口頭での意思疎通ができること、辞書を引きながらでもいいので簡単なスペイン語文書の概要を把握できることを目標とする。また、スペイン語圏の文化、歴史、習慣等についても取り上げる。	
Study Skills	Second Foreign Language	Spanish Ⅲ	この科目は原則としてスペイン語Ⅱを修了した学生を対象とする。より高いレベルの文法、語彙、表現を習得する。スペイン語圏の人々に自分の意思を伝え、また相手の意思を正確に理解できるコミュニケーション能力の獲得を目指す。スペイン語圏の文化や習慣、伝統、人生観などを理解し、スペイン語圏の人々とスペイン語でのコミュニケーションがとれるレベルを目指すとともに、講読については辞書を引きながらでもいいので簡単なスペイン語の原書や新聞等を読解できるようにする。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Culture in Thai	この科目は日本人が多く暮らし、働くタイ社会の実情を知り、タイ語圏への旅行に最低限必要となる基礎的なタイ語の表現などを学びながら、タイの社会、文化、政治、歴史などについて学ぶことを目的としている。タイ語の映画・記事・雑誌・歌などを通じタイ語の世界にふれ、辞書を引きながら簡単なタイ語に慣れ親しむことを目標とし、タイでの研修参加や留学への動機づけを行う。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Culture in Indonesian	この科目は日本人が多く暮らし、働くインドネシア社会の実情を知り、インドネシア語圏への旅行に最低限必要となる基礎的なインドネシア語の表現などを学びながら、インドネシアの社会、文化、政治、歴史などについて学ぶことを目的としている。インドネシア語の映画・記事・雑誌・歌などを通じ，タイ語の世界にふれ，辞書を引きながら簡単なインドネシア語に慣れ親しむことを目標とし、インドネシア語圏での研修参加や留学への動機づけを行う。	
Study Skills	Second Foreign Language	Chinese Ⅳ	この講義は原則的に「Chinese Ⅲ」を履修した者を対象とする。授業ではこれまで習得した中国語の知識を応用して、さらに上のレベルの口頭表現ができることを目的とするとともに、「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を全般的に高める。実用中国語を中心とし、テーマごとにより高い会話タスクを扱うほか、中国語検定試験を受験する学生に対しても役に立つ内容を扱う。中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Second Foreign Language	Korean Ⅳ	基本的に「Korean Ⅲ」を受講した学生を対象とし、中級の多様な表現とともにワンランク上の読解力と文章表現力の向上を目指す。日常的な生活場面だけでなく、文化・社会等にも多く触れ、今の韓国社会について幅広く知り、韓国人と韓国語で意見交換ができることを目的とする。韓国への留学や、韓国系企業への就職を考える学生のためにも、韓国語能力試験に役立つ内容を扱う。また、映画やドラマ、音楽などさまざまなジャンルの韓国語を理解し、韓国社会についての理解を深める。	
Study Skills	Second Foreign Language	French Ⅳ	この科目は原則的に「French Ⅲ」を修了した学生を対象とし、フランス語の語彙・文法・会話表現をさらに向上させること、またフランス文化の様々な側面を知ることを目的とする。より高度な言語タスクを扱い、「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高めるとともに、より深くフランス文化・フランス社会を知る。また、フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Second Foreign Language	German Ⅳ	この科目は原則として「German Ⅲ」を修了した学生を対象とし、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の知識を増やし、さらに表現の幅を広げるとともに、ドイツ語圏の国々についての知識のほか、ヨーロッパへ視野を広げていく。ドイツ語を用いてグローバルに活躍できるよう、「聞く」、「書く」、「読む」、「話す」の４技能全てにおいて、さらなるレベル向上をはかるとともに、ドイツ語検定試験を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Second Foreign Language	Spanish Ⅳ	この科目は原則として「Spanish Ⅲ」を修了した学生を対象とする。さらに高いレベルの文法、語彙、表現を習得し、それまで覚えた文法や語彙を使って日常生活における基本的な表現を自然なスペイン語で話し、書くことを目指し、辞書を引きながらでも簡単なスペイン語の原書や新聞等を読解できるようにする。また、スペイン語圏の文化や習慣、伝統、人生観などを理解するため、映画・記事・雑誌・歌などを使って文化を紹介する。スペイン語検定を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Cultures in Spanish-Speaking Regions	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったスペイン語圏の社会，文化，政治，文芸などについてスペイン語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。スペイン語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにSpanishⅠ・Ⅱ・Ⅲを学習し、スペイン語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Cultures in French-Speaking Regions	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったフランス語圏の社会，文化，政治，文芸などについてフランス語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。フランス語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにFrenchⅠ・Ⅱ・Ⅲを学習し、フランス語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Cultures in Chinese-Speaking Regions	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかった中国語圏の社会，文化，政治，文芸などについて中国語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。中国語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにChineseⅠ・Ⅱ・Ⅲを学習し、中国語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Cultures in Korean-Speaking Regions	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったハングル圏の社会，文化，政治，文芸などについてハングルの中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。ハングル圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでに「KoreanⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を学習し、ハングルの言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Second Foreign Language	Languages and Cultures in German-Speaking Regions	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったドイツ語圏の社会，文化，政治，文芸などについてドイツ語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする．ドイツ語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでに「GermanⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を学習し、ドイツ語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Japanese	Japanese ⅠA	この科目は学部留学生１年生の必修日本語科目である。大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。講義を聴き取りノートをとるスキル、課題についてクラスメイトと日本語で話し合い協力して解決するスキル、効果的にプレゼンテーションをするスキルを養う。同時に、大学の講義で扱う内容に近い聴解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Japanese ⅠB	この科目は学部留学生１年生の必修日本語科目である。大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。大学レベルの読み物を用いた読解タスクで、素早く大意をつかみ要約するスキル、熟読し考察し自分の意見をまとめるスキル、情報を収集しレポートを書くスキル、筆記問題に限られた時間で回答するスキル等を身につける。同時に、大学の講義で扱う内容に近い読解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Japanese ⅡA	この科目はJapanese ⅠAに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ＩＡと異なるジャンルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Japanese ⅡB	この科目はJapanese ⅠBに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ＩＢと異なるジャンルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Japanese ⅢA	この科目はJapanese ⅡAに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅡＡより高いレベルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Japanese ⅢB	この科目はJapanese ⅡBに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅡＢより高いレベルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Japanese	Japanese ⅣA	この科目はJapanese ⅢAに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅢＡより高いレベルの聴解タスクを扱うとともに、一年生の仕上げとして、日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、ディスカッションやプレゼンテーションにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Japanese ⅣB	この科目はJapanese ⅢBに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅢＢより高いレベルの読解タスクを扱うとともに、一年生の仕上げとして日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。読解課題から高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、考察と論の組み立てにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ＩA	この科目は学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の能力試験は、日本語能力試験やJ.TESTなどいくつか存在するが、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ＩB	この科目は学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の試験で、特に就職に関連した試験はいくつか存在するが、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅡA	この科目はAdvanced Japanese ＩAに接続する科目であり、学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の能力試験において、応用日本語ＩＡより高いレベルを目指し、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅡB	この科目は応用Advanced Japanese ＩBに接続する科目であり、学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の試験で、特に就職に関連した試験において、応用日本語ＩＢより高いレベルを目指し、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅢA	この科目は学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」の４つの技能のうち、特に「聴く」・「話す」力を高める。また、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅢB	この科目は学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」の４つの技能のうち、特に「読む」・「書く」力を高めるとともに、アカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅣA	この科目はAdvanced Japanese ⅢAに接続する科目であり、より上の内容を扱う学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能のうち、特に「聴く」・「話す」力を高めるとともに、アカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅣB	この科目はAdvanced Japanese ⅢBに接続する科目であり、より上の内容を扱う学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」の４つの技能のうち、特に「読む」・「書く」力を高めるとともに、アカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅤA	この科目は学部留学生３年生の選択日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。講義を聴き取りノートをとるスキル、課題についてクラスメイトと日本語で話し合い協力して解決するスキル、効果的にプレゼンテーションをするスキルを養う。同時に、大学の講義で扱う内容に近い聴解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅤB	この科目は学部留学生３年生の選択日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。大学レベルの読み物を用いた読解タスクで、素早く大意をつかみ要約するスキル、熟読し考察し自分の意見をまとめるスキル、情報を収集しレポートを書くスキル、筆記問題に限られた時間で回答するスキル等を身につける。同時に、大学の講義で扱う内容に近い読解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅥA	この科目はAdvanced Japanese ⅤAに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅤAと異なるジャンルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅥB	この科目はAdvanced Japanese ⅤBに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅤBと異なるジャンルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅦA	この科目はAdvanced Japanese ⅥAに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅥAより高いレベルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅦB	この科目はAdvanced Japanese ⅥBに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつけるⅥBより高いレベルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅧA	この科目はAdvanced Japanese ⅦAに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅦAより高いレベルの聴解タスクを扱うとともに、一年間の仕上げとして、日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、ディスカッションやプレゼンテーションにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Japanese	Advanced Japanese ⅧB	この科目はAdvanced Japanese ⅦBに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅦBより高いレベルの読解タスクを扱うとともに、一年間の仕上げとして日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。読解課題から高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、考察と論の組み立てにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Basic Subjects	Introduction to Financial Accounting	本科目は、これまで会計学を体系的に学んだことがない学生を対象とした会計学入門のための科目である。したがって、財務会計の各論に入る前にまず、財務会計の目的、社会における様々な会計情報の利用者、隣接領域である管理会計、税務会計、監査、ファイナンス、ディスクロージャー、IR等との関係などの、財務会計をとりまく基本的な枠組みを学習する。そのうえで、財務会計の一般原則、会計基準、会計法規等の諸制度、発生主義と現金主義、原価会計と時価会計等の重要な概念を理解する。そして貸借対照表、損益計算書、キャッシュフローステートメントそれぞれの役割、これら３表の関係について演習を通じて理解を深める。本科目を履修することにより、学生が更に高度な「財務会計論」をはじめ、その他多くのビジネス科目を理解するうえで必要な基礎知識を修得することに重きを置いて授業を進める。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Introduction to Microeconomics	いかなる事業分野も経済合理性に依拠したビジネス判断が求められる。当科目は、経済を構成する各主体がどういった原理に基づき行動し、その帰結がいかなる均衡を生むかを学び、自らの日常的判断にも役立てることを狙いとしている。更に、人間が必ずしも合理的に行動しないという心理学的要素を取り込んだ行動経済学や、国際的政治力学やビジネス上の競争相手との駆け引きまでを解析できるゲーム理論などもその入り口までを案内する。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Introduction to Macroeconomics	マクロ経済学は、経済を鳥瞰図的に広い視野から観察する。ＧＤＰを中心とした、消費・投資・政府支出などのマクロ経済変数によってマクロ経済の動きを大づかみに捉えることから始める。次にそれらの変数が相互に影響し合うメカニズム（一般均衡）の仕組みを理解していく。例えば、内需拡大の財政政策は、金利や為替レートへの影響を通じて、民間投資や貿易、海外にも影響をして行くというような一連の連鎖メカニズムがなぜ起こるのかを理解していく。具体的には以下の概念・用語についての理解を促す。ＧＤＰ（国内総生産）、物価指数・物価上昇率、成長率、消費、民間設備投資、政府支出、輸出、輸入、貿易収支・経常収支、利子率（金利）、失業率、マネーサプライ（通貨量）、為替レート、政府財政収支などである。そのうえで、財市場，資産市場（貨幣市場・債券市場）の均衡を分析のためのIS－LM分析，労働市場の均衡とインフレーションの分析のためのフィリップス曲線など、マクロ経済分析の基本ツールをマスターする。さらには国際収支と外国為替レート、景気循環、経済成長などの分析もマスターする。基本的にエコノミストとして実態経済をグローバルに捉える能力を身につける。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Statistics	さまざまな経済分析、経営判断、意思決定など日常の経済・社会活動において必要とされる統計的な分析手法の基礎をマスターする。その内容は基本的な統計学のテキストにおいて共通であり、以下の通り。データの整理、統計量、度数分布、平均・メジアン・モード、確率論入門、集合と確率、確率分布、確率変数と確率関数、期待値と分散、二項分布、正規分布、無作為抽出と標本分布、標本平均、標本分散、推定、仮説と検定、相関と線形回帰、最小二乗法などである。これら一連の基礎を学んだ上で身につけてもらうのは「仮説検定」の考え方である。我々が主張するときのほとんどは検証されない仮説のままである。主張＝仮説が正しいことを示すためには、統計的仮説の場合、有意性検定を行わねばらならない。仮説として期待したものと、観測した結果との差が難の関係もないところから偶然起こったものか、そうでないかを確率の基準で評価し、意思決定の材料とするものである。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Basic Subjects	Behavioral Economics	行動経済学は、近年経済学が大きく進歩を遂げた分野でもあり、現実の問題解決に経済学を適用するときの範囲を、身近で現実味のある人間像にまで拡大するすることになった。すなわち不確実性下の人間の判断や意思決定に関して心理学の成果を経済学に統合したものである。さらには、これまでの経済学における冷静かつ合理的な「経済人」の仮定という制約を取り払い、より「普通の人間」を経済主体と位置づけて、資産選択、消費・貯蓄選択、労働契約などの分析においてこれまでの経済学では出来なかった問題解決の手段を与えてくれることになった。本講義では、土地バブルやITバブルなどの投機現象、あるいはさまざまな通貨危機における投資家の合理性への疑問を糸口に、「限定合理性」を前提にした人間の行動・社会に対する分析理論を提示する。特にカーネマンたちの「近道選び」や「プロスペクト理論」などについても理解を促す。さらには「時間非整合性」「相互応報的動機」など従来の経済学では扱えなかった、時間に関する誘惑や、人間は利己的なのか利他的なのかと言った問題も受講者に投げかけていく。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Game Theory	二人の囚人が独房で別々に尋問を受けていて、各人が黙秘あるいは告白どちらの戦略を取るかの組み合わせで刑期が変わるケースは「囚人のジレンマ」と呼ばれ、ゲーム理論の中でも最も良く知られた理論である。そして、二人とも黙秘すれば最も刑期が軽いにも関わらず、二人とも告白して最悪の結果をもたらす状況が「ナッシュ均衡」である。さらに、プレーヤーが協調するか非協調か、一回限りのゲームか、繰り返し行われるゲームかなど、発展形が数限りなくある。ゲーム理論の応用範囲も、二国間の交渉や企業戦略、出店競争など、経済学、政治学、経営学、政策科学など広い分野に及んでいる。本科目では事例を駆使してゲーム理論を用いて社会を読み解く基本を学習する。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Major Seminar Ⅰ	グローバル・システム領域、国際ビジネス領域、国際コラボレーション領域の中から、学生が卒業論文のテーマとなる領域について、英語文献の輪読等の演習を通じた学びにより理解を深めていくことを目的とする。また、卒業論文作成に向けた研究手法の学習として、２年生のゼミ「Research Methods」で学んだ内容を、より専門領域テーマに合わせた内容を学ぶ。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Major Seminar Ⅱ	グローバル・システム領域、国際ビジネス領域、国際コラボレーション領域の中から、学生が卒業論文のテーマをより明確化し、その研究計画の立案と求められる文献調査を行う。また、その内容を学生がお互いに発表し合い、フィードバックを行うことで、研究テーマと研究計画を洗練させることを目的とする。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Major Seminar Ⅲ	「Major SeminarⅡ」で策定した研究テーマと研究計画に基づき、実際に調査活動を行う。調査対象先への依頼、訪問調査、収集したデータの分析など、より実践的な研究活動を展開することを目的とする。また、調査結果を学生間でお互いに報告を行い、データ分析とそこから導き出せる結論等について議論することで、調査活動の質的向上を目指す。	
Academic Subjects	Basic Subjects	Major Seminar Ⅳ	「Major SeminarⅢ」までに行った研究テーマおよび研究計画書の策定、調査活動の実施、データ分析を踏まえ、卒業論文の執筆を行う。特に、研究テーマ（キークエスチョン）に対して、結論が論理的に解答できているかについて慎重に精査を行い、卒業論文の質的向上を目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Basic Subjects	Undergraduate Thesis	「Major SeminarⅣ」で執筆した卒業論文を完成させる。卒業論文で取り組んだ研究成果の発表を通じて、教員だけでなく学生間で質疑応答を行う。その内容を踏まえ、卒業論文提出に向けた推敲を行い完成に向けて取り組むことを目的とする。	
Academic Subjects	Global Systems	Fundamental Conditions for Economic Development	従来の経済発展論・開発経済学・経済体制論・移行経済論などの知見の基礎に、グローバルな視点での経済発展の基礎条件を検討する。経済発展には、経済体制、産業政策、通商政策などの経済的側面と、政治・文化・社会といった非経済的側面とがある。また、地理的な環境がマクロ的に国家の政治的、軍事的、経済的な条件に影響を与える地政学的な側面も検討しなければならない。経済成長の段階を、(1) 伝統社会、(2) 離陸の先行段階、(3) 離陸段階、(4) 成熟段階、(5) 高度大衆消費社会の5つに分けたロストウを手始めに、経済の発展段階に関する分析を整理する。そこから最終的には第４次産業革命と言われる現在の経済状況に至る過程での、経済発展のための産業政策、通商政策の有効性を検証しつつ、あらたな経済発展の展開を有効に説明し、実施するための知識を体系的・動態的に整理して提供する。	
Academic Subjects	Global Systems	Global Financial System	金融市場のグローバリゼーションは目覚しい。銀行・証券の分離政策転換を象徴とする規制緩和と、金融技術のイノベーションが、こうしたグローバル化を促した。一方、金融危機の惹起など問題も少なくない。当科目は、銀行・証券・保険など多様な金融業態のグローバル金融市場におけるビジネスの遷移と、これに伴う金融規制の進展について高い視点から学ぶことを目的としている。事例を取り上げながら、実戦に即した知見の習得を行う。	
Academic Subjects	Global Systems	Multinational Corporations and the Global System	当講義ではまず、1990年代から急速に進んだグローバル化について、世界システム、経済・市場、政治、文化、地球的問題群の発生、ローカル化との共振、反グローバル化の観点から考察する。その上で、マルチ・アクター化したなかでも大きな影響力を持つに至った多国籍企業について、その史的展開、製品戦略、新興国市場開拓、戦略的CSR、BOPビジネスを柱として理論と実践の双方に注目し講義を行う。	
Academic Subjects	Global Systems	ICT and New Industrial Revolution	今や世界は真に史上初のグローバルな産業革命を経験しつつあり、今起こっている重大な変化を理解できる国々や企業にとっては、多様な機会を提供しています。本コースでは、産業革命の歴史について考察し、コンピュータおよびコミュニケーション技術、ならびにグローバル化がいかに新経済の原動力として働いているかについて解説するとともに、情報の性質および重要性、コンピュータ同士の通信方法、インターネットの発展、ならびにこの産業革命が社会経済に及ぼす影響について解説します。	
Academic Subjects	Global Systems	Sustainable Global Innovations	国連が新たに定めた持続可能な開発目標（SDG）を個々の目標ごとに理解し、さらにイノベーションを経済的視点と社会的視点とに分けて持続可能なイノベーションとは何かを考える。貧困や教育、健康、福祉などの格差をなくし、環境やエネルギー、気象の安定と両立する生産・消費・産業の進化を考える。 そのうえで経済的価値と社会的価値を両立させるための新たなイノベーションのあり方を、国際的な制度、個々の組織設計、そしてなによりそのための人材の育成のあり方を具体的に検討していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Global Systems	Global Society and Structures of Governance	各国政府が統治する国内社会と異なり、世界政府なきグローバル社会では、どのような統治が可能なのか、あるいは望ましいのか。こうしたグローバル・ガバナンスの課題を考えるための道具として、国際政治学の基礎知識を修得することがこの科目の目的である。国際テロリズム、環境問題や難民問題など、一国の領域内にとどまらない全地球規模の諸課題に対して、主権国家、国際機関や地域機関、ＮＧＯや企業が、如何なる仕組みや方法で対処を試みているかを理解する素地を作ることを目指したい。	
Academic Subjects	Global Systems	Contemporary Global Issues and Japan	21世紀の幕開けは、各国の民主化と自由貿易の広がり、インターネット等情報通信技術（ICT）の発展などに支えられて、世界が共通のグローバル課題解決に向けて一丸となって取り組む社会の到来を約束するはずだった。しかるに、今日我々が直面しているのは、リーマン・ショック、アフガン・イラク戦争、世界的テロ（ISIL）、中国の経済的・軍事的台頭、ロシアによるクリミア半島併合、ギリシャ危機、大量の難民問題など、地政学的（ジオエコノミクス）な揺らぎに翻弄され続けるグローバル社会の姿である。本講義では、21世紀が必ずしも民主主義と自由経済の勝利を約束しなくなった背景と、その中における日本の政治・経済・金融面等での立ち位置を考察する。	
Academic Subjects	Global Systems	Special Lectures in Global System Ⅰ	グローバルシステム領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていない国際経済に関するトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	
Academic Subjects	Global Systems	Special Lectures in Global System Ⅱ	グローバルシステム領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていない国際関係・政治に関するトピックについて、本領域の他科目でカバーしていないトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	
Academic Subjects	Global Systems	Historical Development of Global Economy	これまで世界経済史は欧米中心の記述であったが、それをよりグローバルなバランスをもとにあらたに再構成した知識体系として整理し提供する。とりわけ現在のグローバルシステムを作り出した戦後世界経済の歴史を展望し、具体的にシステムを理解し思考を展開するための知識を的確に身につけることを目標とする。先ず第一には終戦と復興、そして冷戦の終了とそれにともなう急速なグローバル市場化の進展である。なにより戦後の市場経済の展開において中心的役割を果たしたのは米国であり、貿易通商や国際金融制度構築における各国の利害の対立とその調整過程についても注目する。同時に、欧州経済の多様性を米国中心の市場競争を優先する経済システムと対比させつつ、EUを中心とした地域格差の解消や対話による問題解決の歴史なども学生諸君の学科における思考の基礎として提供する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Global Systems	Corporate Social Responsibility and Social Investment	経済的価値と社会的価値を両立させるための企業活動およびそのための企業評価や資金循環のあり方を、基本的な事項を理解しつつ具体的に考える。企業の社会的責任(CSR)から社会的インパクト投資に至るまでの展開を整理し、これまでの財務諸表による企業評価から統合報告(IR)による評価手法までを整理。 とりわけ新たな経済的価値と社会的価値を統合する仕組みとしての社会的インパクト投資については、英米を中心として昨今急速に展開されつつあるソーシャル・インパクト・ボンドなどを事例に上げつつ、実践的具体的な理解を目指す。	
Academic Subjects	Global Systems	Asian Economic Development and Japan	この講義では「グローバル」を、グローバルビジネスおよびグロバル経済の成長と定義し、その中には18世紀からの世界経済成長と、西欧経済の成長および近年のアジアおよびその他の主要な経済の拡大を含む。この講義では最近の環境や持続可能性分野での問題解決のための活動を包含する。さらには最近のアジア経済の状態や、その拡大プログラムに検討を展開する。アジアがどのようにグローバルな経済秩序の中に埋め込まれていくのかということにとりわけ注目する。そのうえで国連のようなグローバルな活動組織や国際機関が他の地域とどのように相互活動するかを捉えていく。アジアの経済発展を議論しつつ同時に日本がアジアにどのような視野を展開させるかを検討する。	
Academic Subjects	Global Systems	Public-Private Alliances in Global Economy	この講義は１）官民連携(PPP)の定義、２）グローバル経済におけるPPPの必要性、３）グローバル経済の歴史や制度が経済発展に果たした役割の理解、４）PPPがまず西欧経済でそしていま世界の経済での展開、５）世界のPPP組織の理解、６）世界にしめるPPPの大きさ、７）PPPにおける官と民の役割、８）BOT, BOO, KPI VFM, VGFなどの用語の理解、９）グローバルなPPPのケーススタディ、１０）PPPの国際比較、１１）東洋大学公民連携スクールとの連携によりそこでのPPPプロジェクトに参加し、実際にPPPプロジェクトレポートの作成に参加することで、世界のPPPミッションに参加する、１２）いかに世界のPPP市場を完結するかの具体的研究、などを行う。	
Academic Subjects	Global Systems	Dynamism and Standards in Global Banking, Finance and Capital Markets	リーマンショック後の景気落ち込みからの回復の足取りが確かなものとなりつつある米国で超金融緩和策からの出口観測が囁かれるさなか、EUでギリシャ債務問題が勃発し、さらに景気減速が目立ち始めた中国の上海株式市場下落が引き金となって世界中の株式市場下落を招くなど、グローバル金融資本市場の相互連関は一段と強まり、その動きは一段と複雑さと不透明性とを増している。加えて、金融技術と情報通信技術（ICT）の融合（フィンテック）が加速度的に進み、マネー経済のイノベーションとして期待される一方、新たな不安定性の火種をもたらす懸念も指摘されている。本講義では相互連関を強めるグローバル金融資本市場のダイナミズムとトレンドを今日的視点から取り扱う。	
Academic Subjects	Global Systems	Global Politics in the 21st Century and International Public Goods	この科目は、現在進行形の世界政治、および地球規模の公共財提供をめぐる協力と対立を考察することを目的とする。変化するバランス・オブ・パワーやグローバリゼーションなど、21世紀世界政治の根本的変化を検討すると同時に、安全保障や気候変動、感染症対策など、地球規模の課題解決プロセスに注目する。国際政治の理論と歴史に関する知識を深めつつ、それらを分析道具として用いて、21世紀のグローバル政治事象を理解・説明できるようになることを到達目標とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Global Systems	International Organizations and Global Security	国際機関は、グローバル安全保障の維持において、どのような役割を担っているか。この科目は、とりわけ国連が国際平和と安全のために果たす役割に焦点を当てる。変容する国際秩序の中にあって、国連の意義や位置づけが、どのように変化してきたのか、また今後いかに変化していくのかという問題関心に軸足を置きたい。紛争予防と平和的解決、集団安全保障、平和維持活動、人間の安全保障や平和構築、軍縮、国際テロ対策など、国連の多岐にわたる安全保障機能を網羅的に考察する。	
Academic Subjects	Global Systems	Globalization and Japan	1990年代に起きたグローバリゼーションは、東西冷戦の崩壊をきっかけとして、それまでの世界経済の構造が根本的に変化したことによる。冷戦が崩壊したということによって東側の国々が市場経済になだれ込み、市場経済の中に住む人口が急激に増加し、市場が2倍となって世界的な激しい競争が起こったのである。こうしたグローバリゼーションは、これまでの経済運営の姿勢や企業の経営方針に大きな変化をもたらしており、とりわけ先進工業国はこれまで未経験の新たな変化に直面している。世界経済は、一方ではICTの進展によってデジタル化した情報のコストが全世界でフラットになり、市場への参入が劇的に増大し、その結果先進工業国の賃金が発展途上国の賃金に影響を受けて、結果的に賃金水準が修練するなどの減少に直面しなければならなくなっている。しかし一方で、クリエイティブ・クラスと呼ばれるような人材が集結し高い生産性とイノベーションが実現されている地域は、シリコンバレーなど逆に先進国の特定の地域に集中するようになっている。日本においても、発展途上国と競合するような分野では貧困対策や所得の再分配など政府の役割が期待されるが、一方で、競争力を支える分野ではクリエイティブ・クラスのようなイノベーション人材を強化する政策が求められる。今後の日本がこのような政府の規制を少なくして市場競争のインセンティブを重視する役割と、発展途上国との競争に直面する分野の貧困対策や所得の再分配をする役割とをどのように両立させていくのか、新たな政策のイノベーションが求められている。	
Academic Subjects	Global Systems	Mechanisms for Providing International Public Goods	この科目では“international public goods”について基本的知識を学ぶと同時に、その供給の在り方について事例を通じて分析し、問題点をクリティカルに考察する。	
Academic Subjects	Global Systems	Evolving Frameworks for Resolving International Conflicts	この科目では、現代の武力紛争の性質、およびそうした紛争に対する国際社会の取り組みについて多角的かつ体系的な理解を目指す。現代の主要な紛争形態である国内紛争に重点を置きつつ、国際政治学、とりわけ紛争解決論の基礎概念や理論的枠組みを紹介する。予防外交、平和創造、平和維持、人道的介入、平和構築などを中心に、変遷する国際紛争解決の様々な対応やアプローチを取り上げる。世界の諸地域における紛争と解決策の模索に対する学生の関心と理解を深めたい。	
Academic Subjects	Global Systems	Special Lectures in Global System Ⅲ	グローバルシステム領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていない最新の時事トピックについて、本領域の他科目でカバーしていないトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Business	Introduction to Finance	ファイナンスは、金融市場に直接携わるプレーヤーばかりでなく、事業会社が経営戦略を展開する上でも活用価値の高い学問領域である。当科目は、金融機関の組織論をはじめ、デリバティブなど専門性の高い知識までを網羅する基礎講座である。数学や統計学はファイナンスを学ぶ上で不可欠な素養であるが、こうした教科が苦手な場合においても、ファイナンスを読み解くために最低限必要な知識を備えられるようなコースデザインとなっている。	
Academic Subjects	International Business	Japanese Corporations in Asian Markets	近年における日本企業のアジア展開は、その国の数や規模において大きな進展を遂げている。この講義では、アジア展開をするさまざまな企業のケーススタディーと統計データにより、その基本的な特徴を理解することから始める。そのうえで、他国のアジア展開との比較を通して、とりわけ米国、中国、ヨーロッパ諸国などの活動と比較して、日本企業の展開の特徴と問題点を析出する。さらには、できるだけ企業の現場で活躍する人材を招聘して、具体的に今後の日本企業のアジア展開において必要とされる人材像やスキル、ノウハウなどを導き出すことも行う。基本的には企業とのコラボーレーションによって、講義の実質的な理解をより深めることを目的とする。	
Academic Subjects	International Business	International Comparative Studies of Corporate Organizations	本科目において学生はまず、株主、取締役会、経営者、執行組織という各国共通の会社組織の基本的枠組みを学習したうえで、我が国の組織のあり方および企業行動に多大な影響を与えてきた諸要素（資金調達、雇用制度、企業文化等）について理解する。そして、我が国の伝統的企業の特性（諸外国と異なる点）およびその要因について理解を深める。次に、経営者を監督・監視するためのコーポレートガバナンスの基本的仕組み、制度について理解し、そのうえで我が国の伝統的なコーポレートガバナンスシステムを米国、英国、ドイツ等の各国のシステムとの比較において理解する。更に、我が国の会社組織およびコーポレートガバナンスに関する近年の変化の潮流、今後の方向性について考える。	
Academic Subjects	International Business	Financial Accounting	財務会計（Financial Accounting）は、企業の利害関係者に対して正しい経営成績、財政状態、資金の流れを報告するために、財務諸表（Financial Statement, F/S）を作成することを目的としている。加えて、企業活動のグローバル化進展に伴い、収益・費用認識を巡る各国間の差異をなるべくなくし、グローバル・ベースで整合性のとれた会計基準の確立を目指す、IFRS（国際会計基準）の動きも加速している。本科目は、「一般に認められた会計原則（Generally Accepted Accounting Principles, GAAP）」を通じて、一般に公正妥当と認められた会計概念・会計基準・会計実務の基礎的体系を身に着ける。	
Academic Subjects	International Business	Role of Entrepreneurs in Creating Social Value	イノベーションを実現する人材としての起業家像に焦点を当てる。社会・経済に賦存する様々な資源を組織やセクターの境界を越えて結合して新たなイノベーションを実現するために必要な知識・創造性・社会関係資本・情緒的資本などを、新たな社会的価値創造の視点から整理し、内容を実践的に検討する。 特に日本のコンテクストからすると、企業における雇用のあり方との関連は重要であり、メンバーシップ型と言われる企業組織への従属度の高い人的資源管理のあり方と、グローバリゼーションの中の社会的起業家精神の実現との関連を、Social Entrepreneur と Social Intrapreneur を例示つつその展開可能性を検討する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Business	International Business Today	グローバルに活動する企業（いわゆる多国籍企業）は、本籍国（欧米諸国、日本、中国）、業種（製造業、金融業、サービス業など）、営業戦略（製造拠点、販売拠点、Ｒ＆Ｄ拠点、経営戦略企画拠点）、マネジメント形態（ローカル人材の経営参画度）等がそれぞれに異なっており、独自の特色を発揮している。本科目は、著名グローバル企業のケーススタディ中心に、国際ビジネス事情を概観・分析する。	
Academic Subjects	International Business	Rethinking Japanese Corporations in the Global Economy	経済のグローバル化や少子化に伴い、企業規模・業種を問わず日本企業の海外進出が活発化しているが、その進出形態（新規進出か、買収か）や営業戦略、本社とのかかわり方、グローバル戦略全体の中での位置づけ等は、進出先国の人的資源の豊富さ、国内（あるいは地域）政治・経済情勢・法制度等によって大きく異なっている。本科目は、中国、東南アジア、アフリカ、アメリカ、欧州など、世界各地に進出した日本企業をケーススタディ中心に取り上げ、成功・失敗（ひいては撤退）それぞれの経験から今後の進出に当たっての教訓を導く。	
Academic Subjects	International Business	Special Lectures in International Business Ⅰ	国際ビジネス領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていない国際経営に関するトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	
Academic Subjects	International Business	Global Strategic Management and Merger and Acquisition	本科目において学生はまず、企業は何を目的としてM&Aを実施するのか、そしてM&Aの結果各企業にどのような変化がもたらされるのかについて、複数の国境を越えた企業買収（クロスボーダーM&A)の成功および失敗の事例を通じて学習する。次にM&Aを成功に導くためには、マネジメントのどのような要素が必要であるかについて、M&A実施の各プロセス毎に、すなわち、戦略策定、ターゲット企業の選定と評価、企業価値算定、交渉、デューデリジェンス、契約、統合（PMI)、および買収後監査等について要点を理解する。また、失敗事例に関して、各プロセスの何処が欠けていたのか、成功するためには何が必要であったのかについて、議論を通じて理解を深める。	
Academic Subjects	International Business	Entrepreneurship and Venture Businesses	イノベーションを実施するのは誰か？　ダイナミックな新企業を設立するのは誰か？　企業の成長を加速させるのは誰か？　経済発展の原動力となるのは誰か？　これらの答えは全て起業家である。起業家とは、市場、技術または組織に関してこれまでにない新しいアイディアを思いつき、そのアイディアを実行するという、特別な性質を有する個々人である。本コースでは、起業家精神の性質および新規ベンチャー・ビジネスの形成方法について考察する。	
Academic Subjects	International Business	International Business Development and Corporate Finances	国際的ビジネス展開は、いまや企業規模の大小を問わない。そこでまず直面するのが、金融に関連した問題である。現地法人設立に際しての負債・資本の構成、クロスボーダーでの税制、世界拠点間における資金融通、カントリーリスクを踏まえたプロジェクト判断とそのファイナンスなど多くの検討事項が浮上する。当科目では、基本的なコーポレートファイナンスの知識を習得した上で、こうした実務的事項を取り上げて実践的学びを深めてもらう。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Business	Global Financial Systems: Diversity or Convergence	金融危機などのストレスに対する耐性（resillience）の高さ、グローバル金融資本市場の安定性、持続的な経済成長への貢献、金融イノベーションの生みやすさなどにとって、欧米を中心とする市場型金融システムの方が優れているのか、それとも日・独のような銀行中心型金融システムの方が優れているのか、あるいは両者折衷型の金融システムを模索すべきなのか。本講義では、21世紀にふさわしい金融システムとはいかなるものかにつき、過去の金融危機も振り返りながら総合的に考察する。	
Academic Subjects	International Business	Social Solidarity Economy and Social Enterprise	社会的成果を我々にもたらす社会的企業の多様なモデルを理解する。特に大西洋を挟んだ米国と欧州における社会的企業モデルの発生過程の違いを整理し、特に欧州中心の社会連帯経済とソーシャルビジネスを中心に、近年にいたってどのように変貌を遂げているのか、さらに公共政策の中での役割を考える。 とりわけこれまで米国中心の経済効率を重視する組織制度により親和的であった日本の経済・社会・企業が、ヨーロッパ特にEUにおける社会的な対話や地域の繋がりを重視する「対話と妥協」の精神へのより効果的な対応能力を身につけるために、社会連帯経済と社会的企業を具体的に取り上げつつ、今後の経済社会イノベーションへの基礎的な理解を促す。	
Academic Subjects	International Business	Marketing Strategies in Globalized Market	グローバル市場におけるマーケティングやブランディング（グローバルブランドマネジメント）については、各国のマーケティング手法・ブランド活動は現地法人・パートナーに任せるべきとする考え方（「現地化」志向）もあれば、欧米の高級ブランドの事例に見られるように、ブランドの規定する世界観や提供価値に基づいて、商品デザイン・店舗デザイン・人材教育・ＰＲ活動に至るまでグローバルでの共通性を重視すべきとする考え方（「標準化」志向）もある。後者は、言い換えるなら、デジタル化・モジュール化が進む中、現場での刷り合わせに頼る「現地化」よりも、トップダウンで戦略的に「標準化」を推進し、経営スピードと効率を高めることの方が、グローバル競争で勝ち残るための必須条件との考え方であるが、他方、「現地化」には現地化ならではのメリットがあることを示す成功事例もある。本科目では、表面的に競合企業のやり方をまねるのではなく、自社の強み、進出国のポートフォリオ、社員の気質、企業文化などを踏まえた自社ならではのグローバルブランドマネジメントの軸足をどう決めるべきか議論する。	
Academic Subjects	International Business	Multinational Corporations and Market Systems	グローバル化の時代にあって、多国籍企業はいくつもの市場に柔軟に対応しつつ、利益の確保、シェアの拡大、社会的責任の行使、レピュテーションの獲得、などの諸活動を行っている。当講義では、経営のグローバル化、多国籍企業の企業形態、グローバル支配構造、地域統合体と多国籍企業、日本企業のグローバル展開、ITと多国籍企業、多国籍企業の社会的責任、を柱として、国際ビジネスの理論と実践の双方に注目し講義を行う。	
Academic Subjects	International Business	Business Ethics	国内外の企業における経営者および職員の反倫理的な行動の結果、企業価値・評判を大きく毀損する事例が相次いでいる。本科目において学生はまず、企業倫理を企業の社会的責任やコンプライアンス、企業価値の維持向上の視点から学習する。そして、経営者・職員が何故反倫理的な行動を取ってしまうのか、企業内にどのような体制を構築すれば経営者、職員が倫理的な行動をとることができるようになるか等について、実際の国内外の事例を通じて考える。授業は教員からの一方向的な講義のみならず、様々な文化的バックグラウンドを持つ学生が聴講するメリットを活かし教員と学生の双方向、学生間のディスカッション形式を取り入れて進める。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Business	Innovations in Assessment and Management of Human Resources	これまでの日本企業における人事評価・人事政策と、グローバル展開をして行く中でとるべきそれとは大きく異なっているという意識転換を行うことからスタートする。これまでのメンバーシップ型の雇用から、ジョブ型の雇用制度へと大きな転換を図るべきであることを国内外の事例を紹介しつつ、グローバルな標準形でありなおかつ各国での様相がことなることを理解する。人事労務管理の基本的なテキストと、同時に最新事例のケーススタディーにより、実践的かつアップツーデートな人事評価・人事政策の基礎知識を習得する。その上で、人と人との繋がりの中からどのようにイノベーションを起こしていくのか、とりわけ知識・創造性をもたらすためには何が必要かを講義の中で展開をしていき、最終的には受講生が自ら起業家となったときの会社の人事組織の設計を実践的に検討してもらう。	
Academic Subjects	International Business	Innovations in Organizational Structures and Decision Making	まずは組織における各種のパラメータがどのように共有されて最終的な意思決定にいたるのかを標準的な組織の経済学のテキストによって整理習得する。そのうえでイノベーションをもたらす前提となる、多様性・複雑性の対峙によるあらたな知的価値の展開をどのようにもたらすのかを実践的に検討する。特に重要なことはまさに意思決定のための相互理解と相互説得のメカニズムであり、これは日本人の学生には一番苦手なところではないかと思われる。すなわち「対話と妥協」によるお互いの異質性の理解とそこから生じるコンテクストのずれの認識、問題克服への熱意の共有である。すなわちこれまで同質性を前提にしつつ全社一丸的な意思統一によって経済成長を達成した日本がさしかかっている岐路を、「対話」による異質性のイノベーティブな受容によって展開するあらたな価値創造のプロセスを受講生諸君に体験的に習得させる講義となる。	
Academic Subjects	International Business	International Comparative Studies of Business Revitalization Mechanism	倒産・破産(bankruptcy)した会社の経営者は失敗者の烙印を押されて二度とやり直すことができない-世の中にはそんな誤解が依然として存在する。しかしながら、先進諸国(日本も含め)では、破産は当該会社の終わりではあっても、事業の終わりではなく、2度、3度と立ち上がるチャンスが与えられる方向に法制度（会社更生法、民事再生法など）が整備されつつある。また、法的整理と私的整理の境界についても、私的整理を円滑に進める方向（ＡＤＲ、少数債権者の排除を可能とする多数決制導入）へと舵が切られている。本科目では、カネボウ、ダイエー、ＪＡＬ、GMなどの企業再生の代表的事例を踏まえつつ、事業再生を巡る先進国、アジア諸国での動向を概観する。	
Academic Subjects	International Business	IFRS and Other International Accounting Standards	IFRSとはInternational Financial Reporting Standards（国際財務報告基準、「国際会計基準」ともいう）の略で、投資家の意思決定に有用な情報を提供するという財務諸表の目的に適合するよう、EUで開発された会計基準である。2005年、EU域内の上場企業に対して強制適用されたことから世界的に採用が広がり、今日では欧米主要国や日本をはじめとして世界で100カ国以上が適用もしくは許容している。企業活動のグローバル化が進み、国境を超えた企業買収（Ｍ＆Ａ）が盛んとなる中、高品質な会計基準として財務会計（Financial Accounting）のグローバル・スタンダードとしての地位を確立したIFRSへのコンバージェンスは、各国会計関係者にとって喫緊の課題であるのみならず、個々の企業の財務戦略、ひいては資本市場全体にとって極めて重要な意味合いを持つ。本科目は、IFRSを軸に、世界各国の会計基準設定主体およびステークホルダーにとっての課題を実務的立場から整理し、資本市場にとって有益かつ信頼性の高い国際会計基準のあるべき姿を探る。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Business	Assessment Systems Used in Corporate Governance	本科目では以下の2種類の企業ガバナンスについて学習する。その第一は、経営者を監督・監視する仕組みである、いわゆる「コーポレートガバナンス」である。これを評価するシステムとして、2015年より我が国の全上場企業に対して適用が開始された「コーポレートガバナンス・コード」の内容およびその目的について理解する。企業ガバナンスの第二は、企業内および当該企業が属する企業集団全体の業務の適正を確保するための仕組みである「内部統制」の制度である。これを評価するシステムとして、米国の民間団体であるCOSOが発表し、我が国をはじめ各国の制度に多大な影響を与えている「内部統制（Internal Control）」、「エンタープライズ・リスクマネジメント（Enterprise Risk Management）」の枠組みを学習し、企業における適用を理解する。	
Academic Subjects	International Business	Special Lectures in International Business Ⅱ	グローバルシステム領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていない企業戦略に関するトピックについて、本領域の他科目でカバーしていないトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	
Academic Subjects	International Collaboration	International Social Contributions	国内や海外の組織と連携することにより、学問的な知識を社会に適応させて現実問題の解決に貢献する。学生は、多文化及び多言語の情報の収集、要約、評価、分析や（発表、作文、談話、や広報などが含まれる）コミュニケーションなどの様々な能力がいかに社会問題の解決に重要なのかを自らの体験で習得する。プロジェクトの計画を立てて実施することにより、組織を立ち上げ、仲間と共同作業し、場合によってはリーダーシップを発揮するなどのスキルの向上が期待される。	
Academic Subjects	International Collaboration	International Media Studies	時代とともにメディアの在り方は変化している。常時、ネットにつながる現代では、マス・メディアのニュースだけではなく個人が発信する情報でさえも、簡単に地球を巡る。私達は、日本のマスメディアのニュースに加えて、海外のメディアが発信するニュースにも日常的に触れるようになり、自らもSNSを使って発信できるようになっている。また、日本経済新聞がファイナンシャル・タイムズを傘下に入れ、中国の国営放送が世界に進出するなどメディアの国際化も進んでいる。ニュースも組織も国境を越える時代になった。本講義は、時代に合わせて変化するメディアの在り方と国際化の流れ、その背景と意図、そして役割と限界についての理解を促進する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Commonality and Variation among Asian Values	欧米的な価値観に対峙して、アジアを発信地とするより共同的・普遍的な価値観の提示と共有を行うための科目である。仏教やイスラム教、儒教と言った宗教の価値観、さらにはアジアにおいて同質性を共有するコミュニティーの価値観など、欧米の「コンテクスト」には見られないアジア独自の「コンテクスト」を先ず第一に共有をしていく。しかし、むしろアジアという親近性をもった価値観であるからこそ、国ごと地域ごとのわずかな「コンテクスト」のずれであっても逆に大きな異質性として認識されるというジレンマがあることも認識をしていく。今後学科学生がアジアに向けて、企業活動や社会的支援活動などを展開していく中で、より確かな相互理解によって積極的・友好的な活動を展開するためにも必要となる知識を実践的に習得する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Collaboration	Globalization and Japanese Cultures	この科目は、“グローバリゼーション”全般の諸現象を考察し、それを背景として、特に文化の分野に光をあて、日本文化の変容と将来を考える。茶道や書道の伝統文化やJ-ポップ等を事例として議論し、グローバリゼーションの文化的側面も分析する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Introduction to Innovation Studies	この科目では、イノベーションの性質とその育成方法について解説します。講義では、イノベーションとは何か、その様態、企業がいかにイノベーションを管理しその中から価値を引き出すか、そして、イノベーションが事業競争力にとってなぜそれほど重要なのかについて、初歩的理解を深めます。	
Academic Subjects	International Collaboration	Education from International Comparative Perspectives	現代社会では、グローバル化により、経済や政治のみならず、高等教育（大学教育）においても国家間・地域間の国際交流が進展している。本科目では、様々な事例の国際比較分析を通じて、世界の高等教育において、学生や教育プログラム、研究活動の国際交流が推進されている要因について考察する。また、国際教育学における分析手法を用いて事例研究を行い、高等教育の国際交流がその国・地域にもたらす利益・リスク分析を通じて、高等教育の国際交流の現状と課題について考察する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Special Lectures in International Collaboration Ⅰ	国際ビジネス領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていない国際社会に関するトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	
Academic Subjects	International Collaboration	Social Systems in International Perspective	本講義では、比較体制論・体制転換論・欧州化論・グローバリゼーション論・「第三の道」・ガバナンス論といった、社会制度にまつわる議論を概観し、社会制度を形成するアイデアや目標、その構造や機能・作動メカニズム、などについて解説する。これにより受講生は現在の政治経済体制を見つめ直し、21世紀に必要とされる政治経済体制について能動的に学習することができる。	
Academic Subjects	International Collaboration	Role of Media in Public Policy Formation	民主主義では、政策形成における世論の影響力は大きい。世論はメディアの影響を多大に受けている。世界はグルーバル化し、かつ常時ネットでつながる現代では、政策形成は国内メディアの情報だけではなく海外メディアが発信する情報からも影響を受けている。いずれの政府も、国内メディアだけではなく、外国メディアとの関係も強化している。また、誰もが情報発信ができるようになった2000年以降は、とりわけ、アメリカではシンクタンクなどの組織がメディア機能を強化し、政策形成への影響を拡大している。 本講義では、国内メディアと政策形成の関係に加えて、外国メディアの報道が政策形成に与える影響について取り上げる。	
Academic Subjects	International Collaboration	Science, Technology and Society	本コースでは、科学と技術を人間文化の側面から考察する。科学技術についての一般的な考察を深め、これらが社会に及ぼす影響（また、それとは逆に、社会が科学技術に及ぼす影響）について考える。 現代世界を形成してきた物および人物とそのアイディアについての全体的な理解を深めるため、科学技術の歴史と哲学的考察について講義するとともに、エネルギー、バイオテクノロジー、環境などの分野における科学技術の最新動向と影響について考察する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Collaboration	Media Ethics	メディアと倫理の問題は切り離せない。取材の在り方、プライバシー、匿名、著作権の取り扱い、といった倫理の問題は常に存在する。最近では、世界がグローバル化し、ネットが情報を容易につなぐ昨今では、戦争報道の在り方も倫理問題として頻繁に取り上げられるようになっている。つまり、グローバル社会においては、ニュースが国内に流通することだけを前提とした倫理だけでは足りず、国際的な視点にたった倫理が必要になる。 また、あらゆる人が発信者になれる現在、倫理はマスメディアだけではなく個人にも必要になっている。 本講義では、今までのメディア倫理をおさえたうえで、新しい分野のメディア倫理について取り上げる。	
Academic Subjects	International Collaboration	Comparative Cultural Studies	我が国と他国の間の「自然」の差異だと想定される「異文化」の錯覚は、史上の（日本を含める）近代国家の政治的形成の理解の支障となる。この授業では、「我々」という集団アイデンティティーの位置を構成、又は固定するのに必要とされる想像上の「他者の文化」として「異文化」を定義する。文化と国境の一致性を否定すれば文化はどうなるのか。「文化」が創り出す偏見、差別、多数派と少数派や暴力などの問題を取り上げ、コミュニケーションと自己形成との関係を追及する。	
Academic Subjects	International Collaboration	International Comparative Studies in Human Resource Development	本科目は、日本のグローバル人材に象徴されるように、現代社会において、国際的競争力の高い人材が求められている社会的背景を学ぶことで、様々な国において人材育成に関する政策が展開される社会的・経済的要因について考察する。また、国際的なキャリアを目指す場合は、様々な国・地域の人と関わることを念頭に置く必要があることを踏まえ、学生自身が自分の課題を自己分析するとともに、主体的に学び、キャリア形成を行う姿勢を涵養する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Establishing Global Standards	「グローバルスタンダード（global standard、世界標準）」とは、金融システムや経営システムなどにおいて、特定の国や地域、企業などに限られず、世界的に通用・普及・定着している理念・標準や規格、ルール、規則を示す語である。また、実際のビジネスにおいては、ISOなどの国際規格だけでなく、民間企業の決めた規格や技術なども含めて利用が事実上グローバルに標準化した「デファクト・スタンダード」を指す場合も多い。グローバルに活動する企業・金融機関は、グローバルスタンダードに依拠して国際的な商取引・金融取引を行うことが求められるため、国際標準が国内標準とかけ離れているとグローバル取引に大きな支障が生ずる。例えば「日本的慣行」は往々にして海外では通用せず、また日本的雇用のあり方も、グローバルスタンダードの流れを受けて年功序列の終身雇用制が能力主義・実力主義へと移行するなど、大きな社会変化が求められることもある。これまでグローバル作りにおいては欧米諸国が主導権を握ってきたが、TPP（環太平洋経済連携協定）を奇貨としてアジアのスタンダードがグローバルスタンダードとして世界に普及する可能性も指摘されており、日本がグローバルスタンダード形成に影響力を発揮する機会も生まれようとしている。本科目では、そうしたグローバルスタンダード形成を巡る議論を多角的視点から学習する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Multicultural Society and International Organizations	この科目は、グローバリゼーションの進展に伴い、加速していくと予想される多文化社会と多文化共生について、その分析、理解を助ける基本的概念を学び、国連システム等の国際機関が、その多文化共生の視点で、どのような機能を果たしうるかという問題をクリティカルに考える。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Collaboration	International Public Opinions and Corporate Behaviors	グローバルにビジネスを展開する企業にとっては、国際世論の動向は非常に重要である。グローバル企業にとっては、国際世論の構築のために、3つの取り組みが必要になる。１つは、どのように報道されているかのニュースのチェックと分析、2つめに、メディアに対しての情報発信、つまり広報、最後に、ネットで直接発信できる現在では、自らがメディア機能を持つことである。 本講義では、この3つの視点で、グローバル企業が、どのような広報活動を行い、どのように国際世論に影響をあたえているのか、その限界は何であるのかについてとりあげる。	
Academic Subjects	International Collaboration	Human Security	2005年世界サミット『人間の安全保障』では、すべての人々が、自由に、かつ尊厳を持って、貧困と絶望から解き放たれて生きる権利を強調するとともに、「すべての個人、特に脆弱な人々が、すべての権利を享受し、人間としての潜在力を十分に発展させるために、平等な機会を持ち、恐怖からの自由と欠乏からの自由を得る 権利を有していること」を認めた画期的なものであった。この人間の安全保障論では、そういった国際機関を通じた各国の取り組みの理解と問題点の総括からスタートし、アマルティア・センの『グローバリゼーションと人間の安全保障』をレファレンスとしつつ、分野横断的な脅威に対応し、人々の生存、生活、尊厳を守るために何をすべきかを考える。絶対的な貧困や紛争にあえいでいる国だけの問題ではなく、先進国、途上国を問わず、全世界の人々が安全が脅かされうる状況の下で暮らしており、我々に深刻な課題を突きつけている。本講義では、恐怖からの自由、欠乏からの自由、尊厳を持って生きる自由という人間の生活にとって基本的な一連の自由の普遍性と相互依存性に着目し、安全、開発、人権の間の相互関連性を理解する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Global Competition and Intellectual Property Rights	知的財産権は「もの」とは異なり「財産的価値を有する情報」であるため、容易に模倣される（海賊版）という特質をもっており、しかも利用されることにより消費し尽されるされことがないことから、多くの者が同時に利用することが可能である。TPP（環太平洋経済協定）交渉においても、知的財産権の保護強化を主張する先進国側と、広いアクセスと解放を求める新興国側との間で利害対立が先鋭化したことは記憶に新しい。ちなみに、知的財産権制度は、創作者の権利を保護するため、元来自由利用できる情報を、社会が必要とする限度で自由を制限する制度特許権や著作権などの創作意欲の促進を目的とした「知的創造物についての権利」と、商標権や商号などの使用者の信用維持を目的とした「営業上の標識についての権利」に大別される。また、特許権、実用新案権、意匠権、商標権及び育成者権などは、客観的内容を同じくするものに対して排他的に支配できる「絶対的独占権」と称される一方、著作権、回路配置利用権、商号及び不正競争法上の利益は、他人が独自に創作したものには及ばない「相対的独占権」と言われる。本科目は、グローバルに企業活動を展開する主体にとっての知的財産権を多角的な見地から学習する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	International Collaboration	Globalization of Local Economies	グローバリゼーションは地方経済といえどもその渦中に巻き込んでいく。この講義は地理的には「地方」と「国際」という2つの「ひろがり」、そして身につける能力・知識については「対話力」がベースとなる。この科目が国際コラボレーション領域に置いてあるのは、対話を通して実践的に地域経済の活性化、世界の市場とつながった経済活動、そして地方の雇用や福祉の問題を解決する方策を考えていこうという多面的な能力をマスターすることを期待しているからである。また、単なるグローバルな市場に地方経済が巻き込まれていることを避けられないとするものではなく、むしろワークライフバランスを実現しつつ経済の活性化の果実を地域のコミュニティーで共有するという、新たな地方経済・社会のイノベーションモデルの構築を目指すものである。また、国際という視点では、例えばヨーロッパ、特に北欧の豊かな時間の過ごし方を、日本のように消費するものが溢れる経済と比較すると、地方経済における生活の豊かさをどのように経済活性化と両立すべきかがあらためて重要な課題となる。また、貧困、介護、環境など社会的な課題の解決や地方創生に貢献するNPOやソーシャル・ビジネスも私の重要なテーマとしてとりあげ、地域主導の社会経済制度構築による新たな地方経済の活性化に向けて、ヨーロッパにおける強固な地方における人の連帯、社会参加の意識を紹介しつつ検討をする。	
Academic Subjects	International Collaboration	Mechanism of International Aids	国連システムをはじめ、アジア開発銀行等地域開発銀行、各国の援助機関、民間のファンデーション、チャリティ等、国際援助の現状分析とそのメカニズムについて考察し、マイクロファイナンス等の新しいタイプの援助を含め、この分野の将来への課題を考察する。	
Academic Subjects	International Collaboration	Special Lectures in International Collaboration Ⅱ	グローバルシステム領域に関する幅広いトピックをテーマとする。主に、本領域の他科目でカバーしていないメディア、教育等に関するトピックについて、本領域の他科目でカバーしていないトピックについて、専任教員、客員教員、非常勤教員が有する理論的・実践的な知識と経験を授業として学生に提供することを目的とする。そのため、国際公務員、NGO、NPOにおいて深い経験を有する実務家による講義も想定している。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	International Cooperation and Japanese Language Teaching	この科目は交換留学や海外研修、ボランティア等で海外に出る学生が、現地で日本文化紹介活動に携わる際、効果的に活動できるようトレーニングすることを目的としている。折り紙や武道など、日本の学生達も必ず経験したことがあるものでも、それを英語で説明しインストラクターとして教える経験は乏しい場合が多い。教室では全員が英語を使用し、日本文化紹介に役立つ表現を学ぶとともに、クラスメイトを生徒役に見立て実際英語で教えてみることで、実践的なコミュニケーション力を養う。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Housing the Poor in Asia	この科目は、アジアの都市における低所得者向け住居にについて、基礎的な理解をすることを目指すものである．現時点におけるアジアの都市化の傾向を分析することで低所得者向け住居に関する文脈を設定することからはじめ、都市の貧困層の住居にかかる土地や権利を保証する様々な課題について分析を行う。さらに、低所得者向け住宅の課題解決にかかる革新的なアプローチやについて学び、都市貧困層の強力な開発メカニズムとしての住宅金融とコミュニティの組織化にかかる主要な概念についても学ぶ。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Participatory Development	国際協力において参加型開発は貧困層や草の根の人々の声を取り入れる重要なアプローチとなっている。本講義では、その参加型開発の基礎を学び、参加型開発で使われる手法をワークショップ形式で実体験しながら習得することを目的とする。ワークショップにおける学生同士のグループディスカッションも英語で行う。さらに、参加型手法の実体験を踏まえて、参加開発とその手法の長所や限界について考える。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Regional Development Studies	Water Supply and Sanitation for Health	開発途上国は、多くが熱帯地方に分布しており、多くの先進国には見られないような種々の熱帯病が存在する。これら健康に影響を与える感染症や寄生虫症等に関する知識を解説し、熱帯病の予防に関する情報を提供する。また予防手段として重要な安全な水の供給方法に関する知識や、し尿や雑排水・固形廃棄物など感染症の発生源となる汚染物質の適切な処理に関する知識も提供する。これらの知識を総合し、生活環境をいかに清潔に保ち、健康的な生活を送るための方策を論じる。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Disaster Management and International Cooperation	多くの開発途上国では、自然災害が開発を阻害し、貧困からの脱却の妨げになっており、その解決は国際的な開発課題の一つとなっている。本科目は、自然現象に起因する災害（自然災害）を対象に、その発生メカニズムや対策を概観するとともに、自然災害対策における国際協力について、ケーススタディや最新の災害調査結果などを含めて防災に関する解説を行う。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	International Finance	この科目では、国際金融と開発金融に関する理論を学ぶ。講義の主体は、先進国経済圏について、世界的な金融危機などを引き合いに出しながら、民間や公共の金融システムの理解を深めることを目的とする。しかし、他の多くの国際金融に関する講義が先進国経済における講義であるのに対し、国際金融をより幅広い視点で捉えるために、開発途上国における開発金融についても取り上げて開設をする。	隔年
Academic Subjects	Regional Development Studies	Japan and the World Economy	この科目では、日本の経済と世界の経済の関係を学ぶ。講義の主眼は、日本の貿易、対外投資、ODAを含む対外援助などから、日本と世界の経済関係ついて的確な理解をするための理論を学ぶことにあるが、他の同様の講義が日本と先進国との経済関係に着目した講義であるのに対し、本科目では、開発途上国との関係にも着目した講義と議論を行う。	隔年
Academic Subjects	Regional Development Studies	Public Administration	本科目では、行政学の基本的事項を概括的に講義する。内容としては、制度論、政策論、管理論の３つを柱にそれぞれを具体的テーマに沿って展開していく。制度論においては、日本の行政制度、予算制度、官僚制等について講義する。政策論については、政策形成から実施ならびに評価までのプロセスを講義する。管理論においては人事管理や組織管理、さらには昨今のNPMやPPPといった新たな動きについて講義する。	隔年
Academic Subjects	Regional Development Studies	Cities and Transport in Asia	英語による専門科目である．交通を通してアジアの都市と地域の特性を理解することを目的として，アジアの多様性を常に念頭において、アジアの地域間交通と都市内交通の現状と特徴、計画と運営について講義し，とくに，国間や都市間の相対的な違いや，都市や交通が抱える課題の普遍性に着目する．学修到達目標は次の通り：①アジアの国，都市の基礎知識（地理、地誌、社会経済、人口動態など）を身につける。②アジアの地域経済や都市の特性と交通との関係を理解する。③アジアの地域間交通（海運・航空・鉄道）と、都市内交通(主として公共交通)の現状を理解する。④アジアを含めた途上国の都市問題と交通問題の現状と、それらの解決方策を理解する。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Environmental Issues in Asia	日本における公害病（水俣病）の問題、東日本大震災による環境影響、東アジア地域における広域大気汚染、東～東南～南アジアにおける水・衛生問題、アジアのメガデルタにおける気候変動の影響と適応、アジア熱帯林の持続可能な森林経営、など日本およびアジア地域におけるさまざまな環境問題をトピックとして取り上げ、原因やさまざまな影響、課題、教訓などをディスカッションを通して深く理解していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	Regional Development Studies	Cross Cultural Issues	本講義の目的は二点である。第一に、学生が国際文化コミュニケーションに関わるテーマについて意見を言えるようになることである。第二に、日本について学生が説明したりプレゼンテーションしたりできるようになることである。現在の世界においてますます重要になってきている英語コミュニケーション能力を醸成するため、英語での読み書きについても支援を行う。特に、アメリカ合衆国との比較を念頭において参加型授業になるように念頭をおいておこなう。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Immigration and Cross-cultural Issues	今日の世界で人材の流動化がすすみ、移民によって生み出される政治的・文化的な摩擦はますます深刻化している。主要国が高度人材獲得のために誘致政策をとる一方、途上国からの難民を含む移民の受け入れは深刻な政策課題となっている。本授業では、移民の歴史、移民を生み出す経済的、政治的、文化的な要因について考察する。移民にめぐって生み出される諸課題から学び、異文化理解のための教育および政治が果たすべき役割について検証していく。	隔年
Academic Subjects	Regional Development Studies	Japanese Economy and Business	本講義は、ビジネスの視点から日本経済を学ぶことを目標としている。取り扱うテーマは主に技術革新とマーケティング、および、上記二つに関わる指導性である。トピックには低公害エンジンの開発、コンビニエンス・ストアの立地戦略などが含まれる。学生が学ぶツールは、Icebreakの諸技術、SWOT分析、4P分析、Five Forces Analysisなどである。前半は担当者が主導するが、各種の並び替え、ペアワークを用い、参加型でおこない、後半はグループ発表、個人発表でおこなう。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Regional and Urban Sociology in Asia	「アジア社会論」として位置づける。アジア諸国とりわけ東南アジア諸国を取り上げて、それぞれの地域、国の特質を社会、文化、経済等の諸活動を取り上げて、まずアセアン諸国の概要を理解する。次に、当該地域の共通テーマの一つである貧困層を含むコミュニティの開発とそのプロセスについて、タイにおいて構築された開発プログラムの実践を通してコミュニティ開発の全体像と、東南アジアにおけるコミュニティの本質を理解する。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Urban and Regional Planning in Asia	本講義では、アジア諸国の都市・地域計画をめぐる今日的位相を理解することを目的とする。具体的には、まず、アジア諸国における急速な都市化とそれに伴う諸問題を理解した上で、アジア諸国における都市計画及び関連諸制度、また、近年の都市・地域計画に関わるベストプラクティスを整理し、アジアの都市・地域計画をめぐる課題と展望を考察することとする。	
Academic Subjects	Regional Development Studies	Practice of Internet Technology	PCとルータを用いた実習を行い、小規模なネットワークの設定と管理技術の習得を目的とする。PCへのオペレーティングシステムの導入と関連する技術についての解説、アドレス、ルーティング、ファイアウォールの設定などを段階的に行なってインターネットへの接続が可能となるまでを実習する。また、安全な通信技術の基盤となる暗号化技術についても述べる。各回段階的に実習を行い、毎回作業内容についての小レポートを課す。	隔年
Academic Subjects	Regional Development Studies	Global Water Problems	本講義では、現在、喫緊の課題となっている世界の水問題について概観する。水不足、水資源の枯渇、水環境汚染、水因性疾患、水をめぐる紛争などについて分かりやすくまとめた英語のテキストを用い、読解力をつけるとともに英語の専門用語を覚え、英語で水問題についてディスカッションを行う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	Global Innovation Practicum Ⅰ	本科目は、国際学部が主催する海外研修プログラム科目として設置する。本科目が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Project Studies	Global Innovation Practicum Ⅱ	本科目は、「Global Innovation Practicum Ⅰ」を受講済みの学生を対象とする。本科目が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Project Studies	Global Innovation Practicum Ⅲ	本科目は、「Global Innovation Practicum Ⅱ」を受講済みの学生を対象とする。本科目が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 3回の海外研修を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
Project Studies	Global Innovation Practicum Ⅳ	本科目は、「Global Innovation Practicum Ⅲ」を受講済みの学生を対象とする。本科目が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 4回の海外研修を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
Project Studies	Global Innovation Practicum Ⅴ	本科目は、「Global Innovation Practicum Ⅳ」を受講済みの学生を対象とする。本科目が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 5回の海外研修を通じて、各回の学びと課題を相対的に分析するとともに自分の成長を確認する。また、異文化理解については、異文化環境における態度、知識、コンピテンスを統合し、異文化環境において活躍できる人材について考察する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	Internship Ⅰ	本科目は、特定の企業や団体、業種への就職を希望している学生が、その企業や業界に関係する課題を設定し、関係する機関でインターンシップ（実務）を行うことにより、進路への動機付けを行うとともに、主体的かつ積極的に取り組む社会人基礎力の涵養を目的とする。 なお、インターンシップを初めて行う上での基礎知識を教授する他、各自のテーマ（業種等）に合わせた指導を行っていく。 担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	Internship Ⅱ	本科目は、Intership Ⅰを修得済みの学生を対象とする科目である。１回目とは違う業種を選ぶことや、同業種の別企業等においてインターンシップを行い、進路への動機付けを行うとともに、主体的かつ積極的に取り組む社会人人基礎力の涵養を目的とする。 なお、過去に経験したインターンシップでの反省点等をまとめ、より社会人としての意識を向上するように指導していく他、各自のテーマ（業種等）に合わせた指導を行っていく。 担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	Internship Ⅲ	本科目は、Internship Ⅱを履修済みの学生を対象とする科目である。特定の企業や団体、業種への就職を希望している学生が、その企業や業界に関係する課題を設定し、関係する機関でインターンシップを行うことにより、進路への動機付けを行うとともに、主体的かつ積極的に取り組む社会人基礎力の涵養を目的とする。 学生は、大学で学んだことの理解を深め、応用する力を養うために、ある課題を持って企業や役所でインターンシップを行い、その成果をレポートにまとめる。なお、各自のテーマおよび新ターンシップ先に合わせて指導を行っていく。 担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	Internship Ⅳ	本科目は、Internship Ⅲを履修済みの学生がを対象とする科目である。過去３回のインターンシップを振り返り、インターンシップの集大成として、社会人としての意識を高めるだけではなく、より自分に合った業種等でインターンシップを行う。 学生は、大学で学んだことの理解を深め、応用する力をより高め、インターンシップ先での課題等について具体的なイメージを持ち、レポートにまとめる。なお、各自のインターンシップ先に合わせた指導を行っていく。 担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	Service Learning Practicum Ⅰ	体験的教育が重視されてきたアメリカの教育思想を紹介する。学生は、社会に貢献しようと他組織と連携した際、発生しやすい倫理上、又は実用的な問題の可能性を想定して対策を考える。課題を決定し、それに向かって関連研究を進め、東京でのネットワークの基盤を作り出すことによりプロジェクトを実践する準備を整える。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	Service Learning Practicum Ⅱ	本科目は、Service Learning Practicum Ⅰを履修済みの学生を対象とする。プロジェクト・ベース・ラーニング（プロジェクトに基づく学習）により学生は社会の様々の組織に接して連携的に作業することにより学問及び社会関連のスキルが向上する。サービス・ラーニング（貢献的学習）は、伝統的な科目より専門知識、研究と社会の関連性が見えやすい。学生チームは社会のある組織と連携し、相互コミュニケーションを通し、計画を実現する行動力が高まる。社会貢献を担うことにより、力強い市民性が育成されることが期待される。	
Project Studies	Service Learning Practicum Ⅲ	本科目は、Service Learning Practicum Ⅱを履修済みの学生を対象とし、課題・計画の設定をより具現化し行動することで、学問及び社会関連のスキル、行動力等をより高めることを目的としている。 サービス・ラーニング（貢献的学習）は、伝統的な科目より専門知識、研究と社会の関連性が見えやすい。学生チームは社会のある組織と連携し、相互コミュニケーションを通し、計画を実現する行動力が高まる。社会貢献を担うことにより、力強い市民性が育成されることが期待される。	
Project Studies	Service Learning Practicum Ⅳ	本科目は、Service Learning Practicum の集大成として位置づけられる科目である。この科目がもつ意義等を理解し、より高度な課題を設定した上で取り組むものとする。 プロジェクト・ベース・ラーニングによる学生のスキル向上が、どのようなものなのかを意識しながら取り組むように指導していく。 サービス・ラーニング（貢献的学習）は、伝統的な科目より専門知識、研究と社会の関連性が見えやすい。学生チームは社会のある組織と連携し、相互コミュニケーションを通し、計画を実現する行動力が高まる。社会貢献を担うことにより、力強い市民性が育成されることが期待される。	
Project Studies	Leadership Training Program Ⅰ	この科目は、主に、経済、政治、教育、文化、社会等に関する国内の地域社会の諸問題に取り組む活動を行った場合に、その活動内容と成果レポートの内容が一定の基準を満たし、事前・事後指導を受けている場合に成績が付与されるものである。例えば、国内外のNGO等における国内でのボランティア活動、過疎化地域でのまちづくり活動、災害支援等の活動実習などに学生が参加する場合を対象とする。地域社会でのリーダーシップについて実践を通じて学び、将来のキャリア形成に役立てることを目指す。	
Project Studies	Leadership Training Program Ⅱ	この科目は、「Leadership Training Program Ⅰ」を履修済みの学生を対象とし、より具体的に将来のキャリアをイメージしながら取り組むこととする。 主に、経済、政治、教育、文化、社会等に関する国内の地域社会の諸問題に取り組む活動を行った場合に、その活動内容と成果レポートの内容が一定の基準を満たし、かつ事前・事後指導を受けた場合に成績が与えられるものである。例えば、国内外のNGO等における国内でのボランティア活動、過疎化地域でのまちづくり活動、災害支援等の活動実習などに学生が参加する場合を対象とする。地域社会でのリーダーシップについて実践を通じて学び、将来のキャリア形成に役立てることを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部グローバル・イノベーション学科）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	Global Issues Innovation Practicum Ⅰ	この科目は、主に、経済、政治、教育、文化、社会等に関するグローバル社会の諸問題に取り組む活動を行った場合に、その活動内容と成果レポートの内容が一定の基準を満たし、事前・事後指導を受けている場合に成績付与されるものである。例えば、海外NGO等における国内外でのボランティア活動、途上国における自主的な社会活動、海外における公共団体等での実習などに学生が参加する場合を対象とする。国際的な活動への積極的な参加に向けた動機付けを行い、将来のキャリア形成に役立てることを目指す。	
Project Studies	Global Issues Innovation Practicum Ⅱ	この科目は、Global Issues Innovation Practicum Ⅰを履修済みの学生を対象としている。Ⅰより高度な活動を対象とし、その活動内容と成果レポートの内容が一定基準を満たし、事前・事後指導を受けている場合に成績が付与されるものである。 活動の内容は、例えば海外NGO等における国内外でのボランティア活動、途上国における自主的な社会活動、海外における公共団体等での実習などに学生が参加する場合を対象とする。国際的な活動への積極的な参加に向けた動機付けを行い、将来のキャリア形成に役立てることを目指す。	
Project Studies	Global Issues Innovation Practicum Ⅲ	この科目は、Global Issues Innovation Practicum の集大成として位置づけられる科目であり、ⅠおよびⅡで行った活動を踏まえ、今までに経験をしていない活動に取り組むものとする。活動内容と成果レポートの内容が一定の基準を満たし、事前・事後指導を受けている場合に成績が付与される。 活動の内容は、海外NGO等における国内外でのボランティア活動、途上国における自主的な社会活動、海外における公共団体等での実習などに学生が参加する場合を対象とする。国際的な活動への積極的な参加に向けた動機付けを行い、将来のキャリア形成に役立てることを目指す。	
Career Development	Global Careers Ⅰ	本科目は、主に海外大学院への進学希望者向けに、研究計画書の作成、推薦状の依頼、各種試験（欧米圏ではTOEFL、IELTS、GRE等）の対策について学ぶことを目的とする。海外の大学院の入学審査におけるメカニズムや、研究計画書で求められる内容等を詳細に分析することで、より効果的な研究計画書を作成するとともに、各種試験の対策についても講義・演習を行う。	
Career Development	Global Careers Ⅱ	この科目は、キャリアデベロップメントの一部として、将来、国連システム等国際機関に就職を希望する学生に、国際機関の人事制度の基本的仕組みと実際の運用を考察する。ケーススタディとして時にユネスコの人事を例に取り、採用、昇進等を具体的に議論することにより、より理解を深める。	
Career Development	Global Careers Ⅲ	多国籍企業にとって、地球的問題群への貢献は必要不可欠な社会的要請である。当講義では人口問題、開発問題、気候変動、経済危機、地政学的紛争、水危機、エネルギー安全保障、グローバルガバナンスの失敗、といった地球的リスクに対して、多国籍企業が果たしうる役割や機能について考察する。講義は、双方向的に行い、学生の自発的学習・イノベーティブな発想を重視したい。また、外部講師による講演も考慮に入れている。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	哲学Ａ	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをとおして、個別の哲学論争や根本問題を取り上げて、議論の所在や要点を理解するとともに、人文科学・社会科学・自然科学などの位置づけや関連なども併せて学ぶ。	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学Ｂ	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをとおして、とりわけ現代社会の諸問題などを取り上げて、如何にして哲学思想の知識を応用して、実践的に問題を解決するために役立つかを考察し、学問の人生における意義を探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学史Ａ	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、ギリシア神話・エレア学派・ソクラテスやプラトンやアリストテレスやプロティノス、キケロ・ボエティウス・マルクス＝アウレリウス、旧新約聖書思想やアウグスチヌスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、併せてこうした哲学的思索の政治的社会的背景や、後の時代に与えた影響を探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学史Ｂ	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、アンセルムス・トマス＝アキナス・オッカム、デカルト・スピノザ・ロック・カント・ヘーゲル、キルケゴール・ニーチェ・フロイト・フッサール・ハイデガー・サルトル・ヤスパース・ハーバーマスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、西田幾多郎などの日本の哲学思想や東洋の哲学思想との関連も併せて探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	倫理学基礎論Ａ	社会存在としての人間の本質を理解すると同時に行動の善悪の規範がどのように規定され実践されているのかを主として考察するのが、目標である。内容は、西洋の古代倫理思想史において展開された「実践論の系譜」をめぐって理論的反省と倫理的自覚の意義について考える。その際に、理論と実践・知識と知恵・知と幸福・幸福と徳、といった古代ギリシアの倫理思想の根本的な主題を取り上げる。また、習俗と倫理・礼儀と流行・法律と道徳・黄金律と互酬性について取り上げ、人間の共同の種々なる在り方に関して理解を深める。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	倫理学基礎論Ｂ	文化論・文明論的な立場から西洋倫理学思想史と東洋倫理学思想史を比較検討し、それぞれの特質を明らかにするとともに、宗教論的考察も取り入れて人生の意義をいかに見出すべきか考えるのが目標である。西洋近代倫理思想史の「自由論の系譜」を探り、人間の真なる共同の在り方について考える。また、個人と国家・人間と自然・技術と社会・自己と他者といった主題を取り上げる。現代倫理学の諸問題としては、情報と倫理・環境と倫理・生命と倫理・企業と倫理・技術と倫理について取り上げる。	
Liberal Arts	哲学・思想	応用倫理学Ａ	現代社会における倫理的諸問題を、とりわけ生命倫理学・環境倫理学・経営倫理学などの観点から多角的に考察してそうした問題の諸要因を歴史的に論及すると同時に、理論的に検討するのが目標である。有意味性体系論は、狭義には文化人類学に属するが、現在では福祉人類学といったように、応用されている。有意味性体系（文化価値・世界観・宗教観）論の通時的・共時的・発生的考察法、ならびに補助学としてフィールドワーク論と哲学的人間学を併せて学び、倫理的諸問題に対する学問的見方を身につけていく。	
Liberal Arts	哲学・思想	応用倫理学Ｂ	環境破壊・企業の独占的行為・家庭崩壊・医療ミス・若年層の犯罪など現代社会がかかえる深刻な諸問題に対して、個々の事例でとくに応用倫理学がいかに応え、また、問題解決していくかを提示しかつ検討するのが目標である。哲学的人間学およびフィールドワーク手法を用いて、現代における倫理の諸問題の実態を様々な位相から取り上げて、福祉（幸福）とは一体何を意味するのか、それはどのように見出すべきであり、また如何にして実現可能か、考えてみる。そのさい中心になるのは、ケア思想である。	
Liberal Arts	哲学・思想	科学思想史Ａ	「１７世紀科学革命」を中心とした科学思想史の歴史的展開を理解して、自らの日常的態度のうちに根付いている近代科学的思考の前提に気づくことが目標である。「現代」とはいかなる時代かという反省に立って、「１７世紀科学革命」について、古代ギリシア以来のアリストテレス的世界観からデカルトやガリレイに代表される機械論的自然観への変転について考えながら、「１７世紀科学革命」の構造やその意義について考察していく。また、科学の背景となっている哲学や芸術について考察をおこなう。	
Liberal Arts	哲学・思想	科学思想史Ｂ	現代科学・哲学・精神分析における「経験」について理解することで、自己をめぐる思索や感情や身体感覚について内省を深めることが目標である。「経験」についての諸問題をふまえながら、精神分析の臨床現場における患者と分析家の体験を事例的に取り上げて、問題の所在を考察し、さらに現象学やフロイト‐ラカンなどをとおして、超越論的経験・無意識・自我・転移と逆転移について具体的に学んでいく。こうした作業をとおして現代における実践知や「経験」の意義を探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ＩＡ	世界三大宗教である仏教・キリスト教・イスラム教や東西の宗教伝統を概括することによって、人間存在の営みにとってきわめて深い意義を有する宗教の本質を習得して、基礎知識を身につけることが目標である。宗教の範囲は、歴史的にも内容的にも広く深いため、講義においては三大宗教やユダヤ教や神道などの民族宗教ならびに宗教民俗に焦点を当てて、個別の宗教宗派について正確に理解するとともに、公教的観点のみならず秘教的観点も取り上げて、解説をおこなっていく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ＩＢ	世界の諸宗教や宗教諸民俗が我々日本文化と如何に関連しているかを学ぶことによって、異文化に属する宗教や民俗をより深く理解し受容することが目標である。比較宗教学の方法を用いて、東西宗教の共通項を探るとともに、無宗教と呼ばれる現代社会のただなかで、我々が気づかない仕方で宗教的価値観や世界観ならびに宗教伝統が如何に今なお厳然と息づいているかを具体的に考察することによって、宗教的価値観の意義や日本的宗教観について内省していく。	
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ⅡＡ	宗教に関する基本的な概念・現象、世界の諸宗教の現状、宗教団体の現代における意味、現代日本人の宗教意識と宗教行動、情報化や都市化などの社会現象と宗教との関わりなどを理解できるようになることを目標とする。具体的には、「宗教の起源と定義」、「祈り・儀礼・祭り・修行の意義」、「天国と地獄」、「死後の世界」、「シャーマニズム」、「聖地と巡礼」、「現代会における宗教の在り方」等のテーマを取りあげて詳論する。授業は主に講義形式で行う。	
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ⅡＢ	宗教に関する基本的な概念・現象、世界の諸宗教の現状、宗教団体の現代における意味、現代日本人の宗教意識と宗教行動、情報化や都市化などの社会現象と宗教との関わりなどを理解できるようになることを目標とする。具体的には、「現代日本人の宗教意識と宗教行動」、「若者と宗教との関わり」、「宗教団体の分類」、「カルト宗教」、「宗教団体と宗教法人」、「宗教団体の公共性」、「企業と宗教」、「都市化・情報化と宗教」、「宗教の必要性」等のテーマを取りあげて詳論する。授業は主に講義形式で行う。	
Liberal Arts	哲学・思想	地球倫理Ａ	地球倫理で言う「地球」とは、人間の住む社会全体としての「世界」と、物質と生命の全てからなる「自然」とを同時に含むものであるが、いま、その世界と自然が危機にさらされている。「地球倫理A」では、地球が直面している危機の状況を理解し、危機を脱出するために必要とされる倫理とは何かを模索し、その倫理が現実に有効なものかどうかを検討する。地球環境と倫理を自身の問題として考え、必要あるいは有用な基本的知識と観点を学んだ上で各々の立場で議論できる力を養うことが主たるねらいである。	
Liberal Arts	哲学・思想	地球倫理Ｂ	現在、人類文明体系は自然生命体系に対して問題を引き起こし、双方が破局の危機に陥っている。「地球倫理B」では、資源枯渇、環境破壊、生物種絶滅、人口爆発、気候変動、戦争・テロ等の諸問題を取り上げ、それらの実態や原因について議論するとともに、その解決の方途を、地球上に存在する一切が調和・共生するための地球倫理に求めていく。当事者意識をもって地球的問題群と向き合う姿勢を育み、意識的な情報収集や思索を促し、行動の転換へとつなげていくことを目指す。	
Liberal Arts	哲学・思想	論理学Ａ	伝統的形式論理学や現代論理学の初歩を習得するのが目標である。伝統的形式論理学や現代論理学における、概念・命題・推理、内包と外延、三段論法、否定と肯定、前件と後件、命題論理、真理値表、述語論理、ヴェン図、タブローによる論証方法など、取り上げる内容は少なくないが、これらを概括しつつ、実際に練習問題を解く作業をとおして、学問を営む者にとって不可欠である論理思考の実際を理解していくことによって、現代人としての合理的思考を身につけるとともに、論文を正確に記述できる能力を身につける。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	論理学Ｂ	伝統的形式論理学や現代論理学の初歩を習得するのが目標である。伝統的形式論理学や現代論理学における、概念・命題・推理、内包と外延、三段論法、否定と肯定、前件と後件、命題論理、真理値表、述語論理、ヴェン図、タブローによる論証方法など、取り上げる内容は少なくないが、これらのうちとりわけ様相論理に焦点を当てて、人文科学・社会科学など広い分野において役立つ可能性・必然性・偶然性を基本要素とする様相論理を解説して、実際に練習問題を解き具体的事例を検討することによって、様相論理が身につくようにする。	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学Ａ	この講義では、東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の３つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第２世代」の代表者と歴史家が評価するような、さまざまな業績を残した。その生涯の時期は、ちょうど現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたる。その意味で、この講義の内容は現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶ。	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学Ｂ	東洋大学は、井上円了の教育理念によって、明治２０（１８８７）年に「哲学館」として創立された。日本が大学制度を創出する時期であった。それから、東洋大学は現在まで１２５年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。そこには創立期以来の様々な困難とそれを乗り越えてきた足跡がある。この講義では、創立者の井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくが、これによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶ。	
Liberal Arts	哲学・思想	東洋思想	東洋思想における倫理思想をとりあげ、なかでもチベット（含インド）を中心に、日本や中国とも比較対照させながら概説していく。また、一見非倫理的、非道徳的という烙印を押されがちな「タントリズム」（狭義の密教）の思想を、大きな思想、宗教、あるいは文化の流れを通して、またわれわれが置かれている現代社会の背景なども考慮しながら、批判的に捉えていきたい。	
Liberal Arts	哲学・思想	ロジカルシンキング入門	社会生活における様々な問題に対処しうる論理的思考の技術の紹介と修得が目標である。論理学の基礎的知識を習得したうえで、情報整理の方法、論理的思考が陥りやすい誤謬の見抜き方、Kj法、ハイパーマップ法など論理的活用の具体的方法、議論を有効なものにする様々な方法を身に着ける。	
Liberal Arts	哲学・思想	クリティカルシンキング入門	情報化社会を生きる上で、確かで有効な情報を選別し活用する批判吟味能力の獲得が目標である。様々な主張をうのみにせずに吟味する方法、議論において論点を整理して相手に提起する方法、異なる価値主張を調停して合意を形成する方法などを、実例を使った思考実験をもちいて修得する。	
Liberal Arts	学問の基礎	美術史Ａ	西洋美術の流れを概観し、とりわけ古代ギリシャからバロックまでを扱い、それらの主題と表現がどのように変化していったか、美術は何を表わそうとしてきたのか、どのような意味を有していたのかを考える。そして、西洋美術の代表的主題・作品について基礎知識・美醜を超えた物の見方などを修得する。具体的には、ギリシャ美術・ローマ美術・初期キリスト教美術・中世美術・ルネッサンス・ダ＝ヴィンチ・北方ルネッサンス・バロック美術といった仕方で概観していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （国際学部国際地域学科国際地域専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	美術史Ｂ	西洋美術の流れを概観し、とりわけ１７世紀から２０世紀までを扱い、それらの主題と表現がどのように変化していったか理解するとともに、美術は何を表わそうとしてきたのか、どのような意味を有していたのかを考える。西洋美術の代表的主題や作品について知識や美醜をこえた物の見方を修得する。具体的には、１７世紀の美術とくに静物画・１８世紀の美術とくにワトー・１９世紀の美術とくに印象派やゴッホ・２０世紀の美術とくにセザンヌやピカソやクレーなどをとおして、学んでいく。	
Liberal Arts	学問の基礎	音楽学Ａ	西洋音楽の歴史とそれを産み出した社会や文化について洞察を深めるのが目標である。17-20世紀とくにフランス音楽を、その歴史的発展を社会や文化の発展と併行するかたちでたどっていく。また、楽器の変化なども検証していく。フランスバロック音楽や宮廷音楽、主な音楽家としてはベルリオーズ・ドビュッシー・ラヴェル・サティ・メシアンなどを取り上げて、こうした音楽が出現するにいたった文化的社会的要因や、こうした音楽を生み出す社会や文化の本質についても理解する。	
Liberal Arts	学問の基礎	音楽学Ｂ	20世紀クラシック音楽を、同時代の社会や文化との関係から考察していく。現代音楽ではさまざまな国で革命的なアイディアや作曲技法が考案され、それまでとはまったく違う前衛的な響きが次々と生み出された。とりわけ20世紀前衛クラシック作曲家を考察し、バロック時代の音楽作品をめぐる現代的解釈をつうじて現代音楽とバロック音楽との共通性などについても、併せて考えていく。また、楽器製作や楽器構造などについても社会や文化との関係から考察する。	
Liberal Arts	学問の基礎	歴史の諸問題Ａ	日本中近世移行期（15～17世紀）は、今日まで続く日本の社会的基盤を形成した時代とされる。戦国・織豊時代は、このうちの主要な時期にあたる。本講義では、この戦国・織豊時代の社会を中世社会の慣習である自力救済とその抑止の変遷（戦争から平和へ）という観点からとらえ、それに基づく政治権力・地域社会集団の形成・展開を考えていくことを試みる。本講義では、自力救済の展開とその抑止、当該期社会の態様について、豊臣政権による刀狩りを含む「喧嘩停止」への過程からとらえ、上述の観点にせまることとしたい。	
Liberal Arts	学問の基礎	歴史の諸問題Ｂ	この講義は諸君の教科書にあったように、過去に起きた諸事実を説明するものではない。「歴史とは何か」という問題を考えていくものである。したがって講義で扱われるのは、歴史の認識論とか歴史哲学と呼ばれるような問題となる。歴史には過去の事実を具体的に学ぶことと、なぜ過去を人間は知るのかを学ぶこととの２つのあり方があるが、この講義では後者の問題を取り扱う。とくに問題とするのは、これまでの歴史が、国家的なものを枠組みにしていたことや、近代的な枠組みにとらわれていたことへの批判という大変難しいテーマである。	
Liberal Arts	学問の基礎	経済学Ａ	経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的とする。私たちの実生活と密接不可分の関係にある「経済」を、「経済学の考え方」を用いて理解を深めていく。具体的には「GDPとは何か説明できる」「基本的な景気循環理論を類別できる」「経済合理性を前提とした、個人・家計の消費行動や企業の投資行動を説明できる」「貨幣の役割や金融政策を説明できる」「貿易の利益や基礎的な為替レート決定理論を説明できる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	経済学Ｂ	「経済学Ａ」に引き続き、経済学の理論の説明部分と現実の日本経済を理解するための制度的側面や経済指標のデータの解説部分のバランスをとり、経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的として講義をすすめる。具体的には「経済成長の基礎理論を説明できる」「生産性とは何かを説明できる」「労働供給と労働需要の決定について経済学的な説明ができる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	
Liberal Arts	学問の基礎	統計学Ａ	一般に統計学は、記述統計と推測統計の２つの分野に分けることができる。記述統計は、データを整理してそこから有益な情報をとりだすための方法を示す。推測統計では、実際に観測されるデータという一部の情報から、本来存在するはずの(あるいは概念的に想定される)全体の状況を推測するための科学的方法が示される。本講義は「見やすく解りやすい度数分布表やヒストグラムの描き方について理解を深める」「平均、分散、標準偏差について理解する」「標本と母集団の関係について習熟する」「統計的推測と仮説検定の手法を体得する」ことを目指す。	
Liberal Arts	学問の基礎	統計学Ｂ	記述統計は、データを整理してそこから有益な情報をとりだすための方法を示す。推測統計では、実際に観測されるデータという一部の情報から、本来存在するはずの(あるいは概念的に想定される)全体の状況を推測するための科学的方法が示される。本講義は「統計学Ａ」に引き続き「見やすく解りやすい度数分布表やヒストグラムの描き方について理解を深める」「平均、分散、標準偏差について理解する」「標本と母集団の関係について習熟する」「統計的推測と仮説検定の手法を体得する」ことを目指す。	
Liberal Arts	学問の基礎	法学Ａ	人が、社会を作り、秩序を保った生活をしていくためには、ルールが必要である。道徳、宗教、そして法などである。法と道徳はともに人の心に訴えかけ、その行動のよりどころとなるものであるが、両者の違いは、その強制力の違いに現れることが多い。宗教は、厳しい教えを実践しなければならず、違反には制裁がなされることがあるが、それを信仰している者にしか、そのルールは及ばない。法は、すべての者にその遵守を求め、違反には制裁を辞さないという峻厳な一面を有するが、主権者国民の代表が、一定の形式に基づき、その時々の過半数によって内容を決定するという柔軟性も備えている。	
Liberal Arts	学問の基礎	法学Ｂ	法は、その規律の対象により、公法と私法に分けられる。公法は、国家対私人の関係を規律し、主として権力の問題を扱う。行政サービスを、大量・迅速に、国民全体にいきわたらせるためには権力が必要であるが、個人の自由を国家により侵害から防御するという場合には、権力の抑制が重要になる。私法は、対等な私人間の関係を円滑なものとするためのルールである。基本となるのは、当事者の自由意思によって権利・義務の関係を形成し、その最終的な実現を国家権力が担保するということである。私的自治の原則を現代社会の特性にあわせていかに修正していくかが課題である。	
Liberal Arts	学問の基礎	政治学Ａ	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概説的にＡとＢで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Ａでは、「伝統的政治学」と呼ばれる、古代から政治について考察がなされてきた分野が中心となる。政治権力の概念、政治の権力構造、政治的リーダーシップ（機能と類型）、政治思想とイデオロギー、デモクラシーの理論、近代国家の原理、議会制民主主義、政党と政党制（その類型）、圧力団体と住民運動、選挙制度（多数代表制と比例代表制ほか）を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	政治学Ｂ	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概説的にＡとＢで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Ｂでは、政治学の内、20世紀以降に発達してきた「現代政治学」と呼ばれる領域を中心とする。具体的には、政治意識とその形成（政治的社会化）、選挙での投票の行動様式、官僚制、大衆社会の政治、現代国家の特徴、日本の政治の特徴、国際政治（その実態と諸理論）、政治学の新しい諸理論、比較政治学の理論（諸外国の政治を比較しながら分析する枠組み）を扱う。	
Liberal Arts	学問の基礎	社会学Ａ	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学にはじめてふれる方を対象に、「家族」「都市と地域共同体」「メディア・情報化社会」「階層・格差」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的にしている。	
Liberal Arts	学問の基礎	社会学Ｂ	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学Ａに引き続き、「自我とコミュニケーション」「ジェンダー」「セクシャリティ」「多文化社会」「社会運動・市民社会・ボランティア」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的にしている。	
Liberal Arts	学問の基礎	人類学Ａ	「人類の歴史と文化」について講じる。2011年、世界人口は70億人の大台に達したと伝えられた。1950年には25億人程度だった。1万年前には500万人から1,000万人程度だったろうと推測されている。人口爆発した時代にわれわれは生きている。人類の始まりから今日まで、数百万年間はどんな過去であったろうか。本講では、人類に関する諸学の成果を参照し、また人類進化論的に狩猟採集、農耕、産業を大づかみに人類史をたどる。世界の人類について大きな視野を提示する。	
Liberal Arts	学問の基礎	人類学Ｂ	「日本民族、日本文化の形成」について講じる。3.11後、世界中の国の人々から、これまでの歴史の中でこれほど日本への同情が集まったことは無かったであろう。その一方で日本のマンガ、アニメ、ファッションなどの最新の流行・作品から伝統文化まで強く関心を寄せている人々も少なくない。ところで、日本人はそうした人々に対して日本文化を全体として説明できるであろうか。各論は知っているけれど、日本の大枠については曖昧模糊としたイメージしかない。そこで、本講では日本民族学、日本に関する社会人類学の初歩を手ほどきする。	
Liberal Arts	学問の基礎	地理学Ａ	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、１．環境論に始まる近代地理学の歩みをヨーロッパを中心に学説史的に紹介する。２．場所の経済的価値について説いている、いわゆる「立地論」（農業・工業・中心地・オフィス）を解説する。都市と農村の機能的・構造的な差異の実態と形成メカニズムを解説する、の３つを中心に考えている。最後に、これらを踏まえて、理論と現実の差異がなぜ生じているのか、その要因とより正確な現実の把握のために必要な視点について考察する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （国際学部国際地域学科国際地域専攻）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	地理学Ｂ	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、１．地理学の概念と方法についての解説、２．立地論（農業・工業・中心地・オフィス）の解説、３．経済的弱者の生活空間の特徴の把握、４．人口移動のマクロ的把握と過疎地域における第3次産業を中心とした地域振興・町づくり策の現状把握、の４点を中心に考える。これらを踏まえ、地方経済の活性化を想定する国土軸・地域軸論および21世紀を展望した国土計画について解説し、現在の日本の地域構造を変えられるのか、その可能性について考える。	
Liberal Arts	学問の基礎	心理学Ａ	「こころ」についての関心は、最近ますます高まっている。その「こころ」を研究対象とした「心理学」とは、どのような研究領域なのだろうか。この授業では、「こころ」のさまざまな現象を科学的に解明しようとする心理学の営みについて解説し、心理学的なものの見方を紹介する。具体的には、心理学の代表的な各領域（心の進化、心の発達と支援、認知等）を取り上げ、検討する。そこでは、どのような「問い」があるのか、その「問い」について、心理学はどのような「方法」で取り組もうとしているのか、その結果、わかってきたことは何なのか、ということについて、解説する。	
Liberal Arts	学問の基礎	心理学Ｂ	本講義では、恋愛、失恋、離婚について心理学的（科学的）な視点からアプローチする。特に、失恋や離婚をメインとした講義を行う。本講義の目的は、さまざまな研究者たちが残してくれた遺産（研究成果）を、単純に理解することだけではなく、むしろ、その遺産に関心をもち、自発的に調べ、学んでいくことにある。そのため、講義では、学生たちが自ら関心を示すことができるような数多くの、最新の知見を紹介する。心理学に関する知識が一切なくとも、理解することができるように説明する。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然の数理Ａ	数学の体系を学ぶとともに、使える数学の習得を目指す。複数のコースが開講されるので、内容は解析学、線形代数学、数論など基本的な数学分野の多岐にわたる。高校数学の復習、確認も含め、数学の基本的な概念をきちんと勉強し、自分で論理的に問題を解く能力を養う。個々の内容としては、多項式の微分積分、ベクトル、行列の計算、整数論、群論、体論などを含む。講義を行い、それに付随し、練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然の数理Ｂ	自然の数理Aで学んだ知識を前提として、公式の応用、具体的な数学問題の解法を学ぶ。各コースの内容としては、三角関数、指数・対数関数など初等関数の微分、積分、関数の展開、極値など、微分の応用、積分の応用、行列、行列式の計算、逆行列の計算、線形変換、固有値問題、対角化、複素数論、幾何学などを含む。数学の体系を理解するとともに、数学を使えるようにする。練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
Liberal Arts	学問の基礎	生活と物理Ａ	自然科学の基本的な考え方と、基礎的な知識を勉強する。21世紀に文明人として生活していくうえで必要とされる科学・技術について基本的な教養を身につける。古典物理学の復習とともに、近代科学技術の基礎となる量子力学、相対性理論などの基礎知識を勉強する。原子論を基礎として、その応用として発達してきた現代科学の成果を学ぶ。具体的な内容は、コースにより、光、電磁気、半導体、レーザー、超伝導、などとなる。講義を行うとともに、小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	生活と物理Ｂ	自然科学の基本的な考え方を学び、自然科学のより深い理解を目指す。現代の科学技術に量子力学、相対性理論などがどのように応用されているのか理解を深める。原子、原子核の知識を学び、半導体、ダイオード、トランジスター、レーザーの原理と種類、その応用、放射光、超伝導の理論と高温超伝導体、放射線、エネルギーなどの内容を系統的に学ぶ。必要に応じ、波動、熱力学、電磁気学など古典物理学の講義も含める。小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
Liberal Arts	学問の基礎	エネルギーの科学Ａ	大量のエネルギー消費は深刻な環境破壊を引き起こすため、省エネルギーが推奨されている。しかし、この先、人口の爆発的増加とともに、エネルギー消費量はさらに増加していくことが予想されている。こうした現代社会を生きる我々は、エネルギーに関する基礎知識をもち、エネルギー利用の現状と未来をしっかりと見据える必要がある。この講義ではクリーンエネルギー、再生可能エネルギー、カーボンオフセット等の概念を科学的に理解し、エネルギー利用と地球環境問題のバランスを考えていくことを目的とする。	
Liberal Arts	学問の基礎	エネルギーの科学Ｂ	我々人類は、近い将来に、環境に優しく、エネルギー需要を十分まかなえる恒久的エネルギーを開発する必要がある。それまでは、地球環境を考えながら、現在あるエネルギーを有効利用していかなければならない。この講義では各種エネルギーの特長や問題点を科学的に理解し、エネルギーのベストミックス、廃エネルギーの有効利用や省エネルギーについて考えていくとともに、未来のエネルギー利用を予想していくことを目的とする。	
Liberal Arts	学問の基礎	物質の科学Ａ	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、物質世界の始まり、物質科学の基礎、味物質・食べ物の科学、衣類・洗剤の科学、色々な金属とその特徴・役割について講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	物質の科学Ｂ	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、色々な気体とその機能・役割、環境と物質、生命を司る物質と役割、毒物質について講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	環境の科学Ａ	現代に生きる我々は地球環境問題という地球全体を巻き込んだ環境問題に直面している。かつて局地的であった環境汚染が地球全体に波及したからである。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。一方、自動車の排気ガスからの浮遊粒子状物質、NO２などによる大気汚染、水質汚濁、騒音などの私たちの身の回りの環境問題も依然として深刻である。この講義では、環境問題発生のメカニズム、現状、対策等を論じ、持続可能な社会を築くための科学的な基礎知識を教授することを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	環境の科学Ｂ	1990年代に入り、人類生存の危機とかかわって、いわゆる“地球環境問題”が、社会経済体制の違いをこえて広く地球規模で緊急に解決しなければならない大きな課題として浮かび上がってきた。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。人口が67億を超えた今、地球はもはや無限に広くはないのである。そこで、この講義では、よく話題になる地球環境問題あれこれを、自然科学の目で解剖することを目的としている。	
Liberal Arts	学問の基礎	地球の科学Ａ	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学A」では、特に、宇宙の大規模構造や太陽形成の標準モデル、46億年におよぶ地球環境の進化の過程を概説し、地球上の生命の誕生と進化・絶滅・人類の誕生までの歴史を振り返る。	
Liberal Arts	学問の基礎	地球の科学Ｂ	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学B」では、特に、地球環境問題や資源エネルギー問題について、地球システム学の観点から概説する。また、地震・津波・火山等の災害から身を守るための基礎知識として、火山や地震などの発生メカニズムと災害被害について理解をする。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学Ａ	この講義の目的は、世界の植物群落の性質と分布を知り、それの形成に関係した環境について知ること、さらに、その植物群落を利用してきた人々の関係について考察することを目的とする。この講義では、講義担当者がこれまでに歩いた世界の異なる地域を取り上げ、そこの植物群落とその発達を支えている環境について学び、そこに生活する人々の生活の実際について紹介する。皆さんは、世界の植物群落の全体的特徴を知ることと同時に、さらに情報を集めて自然理解を深めて欲しい。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学Ｂ	この講義では、日本の自然に関して植生管理学的な見方で解説し、日本の自然の実態と問題点を知ってもらい、その改善のための管理のあり方について考えてもらうことが目的である。この講義では、最初に植物群落に関する基本的な見方について説明し、次に、世界の中での日本の植物群落の性質を知ってもらう。その後は、日本の代表的な自然群落や二次的な植物群落に焦点を当て、それのもつ性質と現在置かれた状況を紹介し、植生管理のあり方について考えてもらう。皆さんも、日本の植物群落に関心を持ち、情報を集めて考えて欲しい。	
Liberal Arts	学問の基礎	天文学Ａ	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝やく星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近かな太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。さらに、教員ごとに、①ケプラー・ニュートンの法則。②惑星・太陽系。③恒星のスペクトル、HR図。恒星とは何か、恒星の一生。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	天文学Ｂ	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝やく星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近かな太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。教員ごとに、①恒星から宇宙まで。②恒星の光と内部構造・進化。③恒星の誕生と終末。相対性理論と宇宙論、人類の宇宙観の変遷。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然科学概論Ａ	日常経験する様々な自然現象を、合理的に理解できるような知識と方法を学び、自然を総合的に理解することを目的とする。エネルギー・環境問題などの科学的知見だけでは決着のつかない課題に対しては、自らの考えを持って判断できるような見識を養う。学習する項目は、地球の回転と天体の見かけの運動(地軸の傾き、歳差運動)/月と暦(満ち欠け，潮汐力、日食と月食、旧暦、月齢の計算、二十四節気など)/彗星・流星群/電磁波と光(偏波･偏光、ドップラー効果、レイリー散乱)/測地学(地球深部の動き、地球回転運動等)、などである。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然科学概論Ｂ	日常経験する様々な自然現象を、合理的に理解できるような知識と方法を学び、自然を総合的に理解することを目的とする。エネルギー・環境問題などの科学的知見だけでは決着のつかない課題に対しては、自らの考えを持って判断できるような見識を養う。学習する項目は、月の科学(月の成因、月の進化など)/ 地球の自転変動/地球の大気、雲（フェーン現象）/慣性力とコリオリ力/大気の大循環(季節風、ジェット気流等)/天体の運動と地球環境/気候変動/太陽系外の惑星/地球外知的生命体の探査、などである。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然誌Ａ	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（水の科学、生命の条件、自然に於ける水の分布・形態・動態と変遷）、生命の自然誌（生命とはなにか、生命を司る物質、生命維持・存続の仕組み、自己と非自己の違い）などを講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然誌Ｂ	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（自然が織りなす水の芸術、人工・天然物とその比較、文明と水、水の科学と文化・産業、資源としての水）、生物の自然誌（環境と生命の関わり合い、感覚と動物の反応、生得的行動と学習行動）などを講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	物理学実験講義Ａ	自然科学の基礎である実験を学ぶ。実験講義を通して、自然の法則と出現する現象との関係を理解する。物理学のうち力学・熱分野に関する簡単な実験を行い、実験の進め方や器具の扱い方、測定データの処理法、レポートの書き方などを学ぶ。測定データを適切に纏め、グラフに表し、科学的なレポートを書く練習を行う。測定の基礎、誤差・有効数字の考え方、レポートの書き方を行い、重力加速度の測定、熱の仕事当量、固体の比熱の測定などのテーマで実験講義を行い、レポートを提出させる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	物理学実験講義Ｂ	自然科学の基礎である実験を学び、実験講義を通して、自然の法則と出現する現象との関係を理解する。物理学のうち電磁気学・波動・放射線に関する簡単な実験を行い、実験の進め方や器具の作成、測定データの処理法、レポートの書き方などを学ぶ。科学的なレポートを書き方を習得する。電磁気学、光学、量子力学を学び、電気機器の磁場測定、音波の振動数の測定、ガラスと水の屈折率の測定、プランク定数の測定、霧箱の作成と放射線の観察などの実験講義を行う。レポートを提出させ、添削する。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学実験講義Ａ	本講義では、花の進化と生殖戦略について扱うこととする。特に、虫媒花の花色とその発現のメカニズムを中心に扱い、それを花の起源や構造についての知識を養いながら、最終的に、「色とその情報」の観点からアプローチし理解を深める。観察を行うほか、色素に関する実験講義を行うことにより、花と色素についての理解を促進する。このコースは生物学実験講義Bとセットで受講することを強くお勧めする。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学実験講義Ｂ	本講義は、植物の生活と「光」との関係を理解することを目的とする。特に、講義の前半では、光とかかわりの深い、植物のもっている葉の構造や性質についての知識を習得することに重点を置く。その後、植物たちの生き残り戦略を、光争奪戦術の観点から学ぶとともに、実験講義を通じてその理解を深めていく。また、その際のデータ処理についても扱うこととする。このコースは生物学実験講義Aとセットで受講することを強くお勧めする。	
Liberal Arts	学問の基礎	化学実験講義Ａ	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする。化学の知識や化学実験の経験がなくても理解できるような内容とする。具体的には、周期表、化学結合・反応の基礎、分子構造情報と模型作製、化学実験の基本と注意事項、未知試料の分析、食品の成分分析について実験・講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	化学実験講義Ｂ	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする．同時に、科学レポートの書き方について講義し、実験レポート作成により実践する。具体的には、繊維の合成、物質の蒸留・抽出、時空間連続反応、環境放射線測定、浸透圧について実験・講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	地球科学実験講義Ａ	私達の住む地球は今から４６億年前に、宇宙空間に漂う塵や隕石が衝突・合体を繰り返すことで形成された。これらの物質はいつ、どのようにして作られたのであろうか。また、４６億年におよぶダイナミックな地球の変動と進化の歴史は、地球上の岩石に記録されている。この授業では、実験講義を通して、地球を構成している様々な岩石の成因や特徴を知ることで、地球の歴史を知る方法を理解することを目的とする。	
Liberal Arts	学問の基礎	地球科学実験講義Ｂ	地球表層は厚さ約100kmに及ぶプレートに覆われ、そのプレートの相対運動によって、地震や火山といった地球上の諸現象は理解されている（プレートテクトニクス）。また近年、地球内部の構造をより詳しく観察することのできる技術（地球トモグラフィ）の進展により、プレートの運動と地球内部のダイナミクスの関連性が理解されるようになった（プリュームテクトニクス）。この授業では、プレートの運動と地震との関連についての理解を深めるとともに、地表で得られた地質データをどのようにして地下の構造の推定へと結びつけて行くかを実験講義を通じて理解する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	数理・情報実習講義Ａ	プログラミングの実習講義を行う。Ｃによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。教室におけるコンピュータおよびプログラミングを学び、PCを使っての実習講義を行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。プログラミングに必要な文法を講義する。Ａで学ぶ内容は、入出力命令、判断文、繰り返し命令、コンソール操作、配列などである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを作成し、ソースコードを提出させる。	
Liberal Arts	学問の基礎	数理・情報実習講義Ｂ	プログラミングの実習講義を行う。Aで学んだ知識を前提として、Ｃによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。コンピュータおよびプログラミングを学び、PCを使っての実習講義を行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。Ｂで学ぶ内容は、関数、ポインタ、乱数などの数学処理、ファイル操作、シミュレーションなどである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを提出させる。最後に１年分のプログラムを完成させる。	
Liberal Arts	学問の基礎	天文学実習講義Ａ	本講義では、初歩的な天文学と天文学に必要な数学を学ぶ。天文学の学習を通じて、宇宙の法則や天体の性質を学ぶだけではなく、数学に親しむことも目的とする。天文学の初学者向けの大学一般教養向けのテキストを使用して実習講義を進める。実際に手を動かして計算しながら学ぶ。学習項目は、単位の変換/数字の科学的表記/万有引力と重力/ニュートンの運動の法則/Keplerの法則/電磁波/黒体輻射/ドップラー偏移、と各項目毎の演習問題。時間に余裕があれば、望遠鏡等を利用した観察を実施する。	
Liberal Arts	学問の基礎	天文学実習講義Ｂ	本講義では、初歩的な天文学と天文学に必要な数学を学ぶ。天文学の学習を通じて、宇宙の法則や天体の性質を学ぶだけではなく、数学に親しむことも目的とする。天文学の初学者向けの大学一般教養向けのテキストを使用して実習講義を進める。実際に手を動かして計算しながら学ぶ。学習項目は、天体速度の測定/視差・視直径/望遠鏡と分解能/天体距離の測定/恒星の明るさ/HR図/恒星の寿命/物質の密度/ブラックホール/膨張宇宙、と各項目毎の演習問題。時間に余裕があれば、望遠鏡等を利用した観察を実施する。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然科学演習Ａ	数学、物理、プログラミング、生物、環境、地球科学などの課題に取り組みます。課題の詳細に関しては学生と相談して決めます。基本的にＡ、Ｂを通して履修することとし、課題設定の方法から研究計画の立案、研究の実施、得られた結果の分析と結果のとりまとめ、という自然科学における「研究」の一連の過程を、定期的なミーティングを行ないながら授業を進めていきます。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然科学演習Ｂ	数学、物理、プログラミング、生物、環境、地球科学などの課題に取り組みます。課題の詳細に関しては学生と相談して決めます。基本的にＡ、Ｂを通して履修することとし、自然科学における研究の技法と論理的思考力を獲得することを目標とします。履修者自身が疑問に思ったことについて、学問的な位置づけを行なって課題を解決し、最終的には紀要、論文あるいは報告等として公表することとします。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究ＩＡ	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、通常我々が慣れ親しんでいる地理観や世界観とは異質な生活世界が多々存在することを、歴史・文化・地理といった複合的な観点から有機的に説明することが主眼である。さらに、そうした地域に住む人々の政治・日々の食事・生活用具・学校教育・心象風景なども取り上げて、生活実感をできるかぎり理解できるようにする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究ＩＢ	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、とりわけ、民族問題やアイデンティティ問題について、近現代史的視点から人々の営みや紛争の所在について検討する。また、国際政治情勢や様々な形態の戦争・国際的衝突・異文化理解において生起する齟齬の発生要因なども含めて検討して、具体的な地域や文化や国家を取り上げて考察していく。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究ⅡＡ	バルト海地域は、ハンザ商人の活動の舞台となった中世後期以後、地中海とならぶヨーロッパの重要な経済圏を形成し、周辺諸勢力はこの地域の覇権をめぐる対立抗争を繰り返してきた。しかしまた、諸勢力の平和的敵対的接触は、バルト海を沿岸諸地域の様々な文化の交流の場とし、独自の文化圏の形成を促すことにもなった。本講義では、中世以後のバルト海とその沿岸諸地域の歴史を追いながら、ともすればヨーロッパの周辺部として従属的に取り扱われがちなこれらの地域が、ヨーロッパの成立と発展の中で有した独自の意義について考察する。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究ⅡＢ	まず、中世後期から近代にいたるバルト海をめぐる歴史を、スウェーデン、ポーランド、ロシアなどの周辺諸勢力の動向に留意しながら概観する。ついで、近代ヨーロッパにおけるバルト海という観点から、19世紀までにこの地域をめぐり発生した諸問題のなかで適当と思われるテーマを選択し、個別的な考察を試みる。以下の３つの理解を到達目標とする。①中世後期の北ヨーロッパ諸地域における歴史的動向、②中世後期のバルト海を舞台とする人・物・情報の交流と交流がもたらした影響、③近世から近代の北ヨーロッパ諸地域における歴史的動向。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究ⅢＡ	日常の営みや文化にとって、きわめて重要な意味や役割を担ってきた宗教習俗にとりわけ焦点を当てて、ユーラシア・極東アジア・アフリカ・アメリカなどにおいて世界宗教や民族宗教などがどのように地域文化に根付いているのか、また、同一宗教が個々の地域文化によって如何なる違いがあるのか、さらに、同一宗教習俗が個々の地域文化によって如何に違ったかたちで理解されたり解釈されたりするのか、比較文化的視点をふまえて、具体的な事例を取り上げて説明していく。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究ⅢＢ	人間の日常の営みや文化にとって、きわめて重要な意味や役割を担ってきた宗教習俗にとりわけ焦点を当てて、ユーラシア・極東アジア・アフリカ・アメリカなどにおいて世界宗教や民族宗教などがどのように地域文化に根付いているのか、また、同一宗教が個々の地域文化によって如何なる違いがあるのかなど、比較文化的視点をふまえて、とりわけ民族衝突や宗教間の抗争や地域文化における迫害や差別の実態について、具体的事例を取り上げて、衝突・抗争・迫害・差別などの複雑な要因を説明するとともに、解決策を検討する。	
Liberal Arts	国際人の形成	国際教育論Ａ	グローバル教育、地球市民教育、国際教育、また平和学等の現状とその問題点について講義する。「国際教育」の抱える諸問題に焦点を当て、今日の国際社会が直面する地球環境・開発・人権・平和等の問題解決の糸口にアプローチする手段を探る。世界の多様性、国際協力の潮流、インドに見る歴史的経過等も概観し、国際教育の本質に迫ることを主たる目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	国際教育論Ｂ	今日の国際教育が直面する諸問題を総括し、国際教育の理想像を構築することを主たる講義目的とする。経済学や教育学、社会学、また法学からの国際教育へのアプローチを含め、ピース・ビジネスやフィリピンの介護士に見る職業訓練等も概観し、学生みずからが国際教育に関する知見を広め、また認識や理解を深めることを主たる目標とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	多文化共生論Ａ	授業では主として言語と文化の問題を中心に、グローバル化や言語政策、異文化と自文化などの現実の問題から過去を検証しつつ、多文化共生について考察する。世界では言語や文化の多様性が紛争の原因になることも多く、その一方で、コンピュータ言語として、単一の言語が世界を席捲していく傾向にある。市場原理に立てばマイナーな言語や文化は消滅の危機にさらされることにもなろう。開発援助協力やNPO/NGOの活動に触れつつ、これらの問題について先行の研究に学び、時には調査を行い、ディスカッションを通して多文化共生を理解していく。	
Liberal Arts	国際人の形成	多文化共生論Ｂ	授業では主として言語と文化の問題を中心に、人権の問題や言語政策、宗教や民俗などの現実の問題から過去を検証しつつ、多文化共生について考察する。世界では言語や文化の多様性が紛争の原因になることも多く、その一方で、コンピュータ言語として、単一の言語が世界を席捲していく傾向にある。市場原理に立てばマイナーな言語や文化は消滅の危機にさらされることにもなろう。これらの問題について、ソフトパワーや現代都市と文化の力、国際的援助協力活動などの先行の研究に学びつつ、時には調査を行い、ディスカッションを通して多文化共生の可能性を探っていく。	
Liberal Arts	国際人の形成	百人一首の文化史Ａ	『百人一首』の世界を（１）成立の背景注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。『百人一首』成立後、注釈書は写本として特定の人々の間に伝えられたが江戸期には、秘伝をともなった注釈から公開される注釈へと変容する。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
Liberal Arts	国際人の形成	百人一首の文化史Ｂ	『百人一首』の世界を（１）成立の背景注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。かるた、往来物などへ形態を変え、「異種百人一首」・「もじり百人一首」など新たな文学作品を生み出してゆく過程を学ぶ。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の昔話Ａ	多くの人が、自身の成育過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、上記の意味における昔話とはどのようなものなのか、どのように伝えられてきたのかということなどを取り上げ、昔話の外観的な特徴を理解することを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	日本の昔話Ｂ	多くの人が、自身の成育過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、動物昔話・本格昔話・笑話の構造と特徴、昔話の分布の状況、伝播者（広めた人々）などを取り上げ、昔話の内容について理解を深めることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本文学文化と風土Ａ	日本はその独自の地形や風土、気象現象から、各時代の都市の変遷によって、特有の文化藝術を築き上げてきた。本講義では、わが国固有の風土や地理的条件を通して形成された文化や景観を、各地域ごとの文学や歴史、藝術作品から俯瞰し、日本特有の文化遺産や自然観、美意識を考察する。また、これらの風土文化論を通して、大学生として抑えておきたい一般常識や普遍的な教養、知識を発信する。授業では日本風土論についての概説を提示したうえで、日本の景観について歴史を考慮しつつ紹介していく。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本文学文化と風土Ｂ	日本はその独自の地形や風土、気象現象から、各時代の都市の変遷によって、特有の文化藝術を築き上げてきた。本講義では、わが国固有の風土や地理的条件を通して形成された文化や景観を、各地域ごとの文学や歴史、藝術作品から俯瞰し、日本特有の文化遺産や自然観、美意識を考察する。また、これらの・風土文化論を通して、大学生として抑えておきたい一般常識や普遍的な教養、知識を発信する。授業では、文学作品を通して日本のさまざまな地方の景観を紹介しながら地方の風土文化の特徴を考えていく。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の詩歌Ａ	近代日本の詩歌について講義をする。具体的には現在はあたりまえとなっている口語自由詩が、どのような歴史のもとに成立し展開してきたかを考察する。明治15年の『新体詩抄』前後からはじめ、時代と発想の推移、さまざまな文芸思潮、社会運動、宗教などに触れながら、口語自由詩が本格的に展開される大正期までの歴史を概観してゆく。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の詩歌Ｂ	口語自由詩の完成者であり、現代詩の祖ともいわれる詩人萩原朔太郎に注目し、全体的な詩業を見渡し数多くの作品を紹介して、読解を行なう。理解を深めるためにその思想や特異な宗教観、言葉についての問題意識、表現方法などを紹介する。	
Liberal Arts	国際人の形成	西欧文学Ａ	イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国からロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれた多様な文学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の文学作品を読むことの意義、全体的な問題意識を提示したのち、文学作品をひとつひとつ紹介しながら、そこにあらわれるテーマについて考えていく。世界の名作に親しむことを通じて、読書の楽しみや文学に対する興味を引き出し、幅広い教養を培うことをめざす。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	西欧文学Ｂ	イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国からロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれた多様な学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の名作となっている作品を取り上げて味わいながら読み、作品に現れたテーマや問題意識、文学表現上の魅力について考えていく。授業を通じて文学的な感性を養うと同時に、西欧の文化や歴史を日本との関係において理解し、批判的に考える力を養う。	
Liberal Arts	国際人の形成	現代日本文学Ａ	主に２０００年代に発表された文学作品等を取り上げて、特に、現代日本の小説等に表現された〈成長〉をめぐる諸問題について考える。小説において、人間の〈成長〉がどのように捉えられ、表現されているかを深く読み込むことで、その作家の問題意識、およびその社会・時代特有の問題系が浮かび上がってくる。とりわけ、いくつかの重要な小説作品は、〈成長〉のあり方に従って取捨選択されていく過去の〈記憶〉の意義を提示しようとしている。そこに示されるであろうパラドキシカルな〈主体〉の姿を、合わせて確認していきたい。	
Liberal Arts	国際人の形成	現代日本文学Ｂ	主に２０００年代に発表された文学作品等を取り上げて、特に、現代日本の小説等に表現された〈闘争〉をめぐる諸問題について考える。小説等において、人間の〈闘争〉がどのように捉えられ、表現されているかを深く読み込むことで、その作家の問題意識、およびその社会・時代特有の問題系が浮かび上がってくる。とりわけ、現代の多くの小説作品は、善悪の価値観が相対化されるなかでの〈闘争〉をめぐり、特にその主体性のあり方について鋭く問おうとしている。この観点から、現代日本文学に含まれる刺激的な一面に迫っていく。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史(日本) Ａ	（１）１５世紀末以降のヨーロッパ諸国の東アジア進出の目的・実態を理解する。イエズス会宣教師の宣教したキリスト教の実態について理解を深める。（３）１７世紀初頭に行われた、いわゆる「鎖国」の実態について、教科書・概説書で述べられるような通説の論拠を知り、その問題点を理解する。以上３つを到達目標とし、いわゆる「大航海時代」におけるヨーロッパとアジアとの関係について、高校の教科書にあるような通説や、キリスト教の伝来＝ヨーロッパの先進的文明の渡来といった「常識」のもつ問題点を理解してもらいたい。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史(日本) Ｂ	（１）江戸時代の「鎖国」と呼ばれる状況の実態について、教科書・概説書で述べられているような通説の根拠を知り、その問題点を理解する。資本主義化＝グローバリゼーションの実態について、基礎知識を学び、「開国」との関係について理解する。（３）江戸時代の日本社会について、ヨーロッパ側記録を読み、通説では注目されていない側面に理解を深める。以上３つを到達目標とし、高校の教科書にあるような通説や、「開国」＝近代への進歩という「常識」の問題点を理解してもらいたい。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	地域史(東洋)Ａ	中国古代～中世の歴史のながれを確認しつつ、軍事力、とりわけ騎兵が国家戦略に与えた影響についてを概観する。中国の歴代王朝は一定の版図を形作ると、周辺勢力との関係を構築するための対外政策に力点を置く必要があった。とりわけ、時期により北辺で強大化する遊牧勢力は、しばしば大きな問題を引き起こした。中国王朝と遊牧勢力の関係を軍事面から捉えると、騎兵をめぐる攻防が浮かび上がる。遊牧勢力の軍隊で中核をなす騎兵部隊の存在は、中国王朝にどのような影響を与え、どのような対処を迫ったのかに焦点をしぼり、中国を中心とした中華世界における騎兵戦の萌芽と発展の様相を追っていく。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史(東洋)Ｂ	中国古代史の「ながれ」と中国の特質の形成を理解する。中国内陸部を初めて統一し、東アジア世界の形成に大きな役割をはたした秦・漢帝国は、どのような過程をへて成立したのだろうか。この講義は秦・漢帝国成立の前史を対象とし、以下の２つを到達目標とする。１．講義で取りあげる中国古代史上の重要事項の歴史的意義と、重要事実の相互の因果関係を理解する。２．考古学上の幾多の新発見が、中国古代史の理解の深化に大きく寄与していることを把握する。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史（西洋）Ａ	第一次世界大戦終了時には、中・東欧の旧多民族帝国領内から、第二次世界大戦終了後にはアジア・アフリカの旧列強植民地から、次々と新たな国家が成立した。その際、国家形成のモデルとされたのは、近代西欧において成立した「国民国家（Nation States）」とその理念であった。本講義では、19世紀から20世紀初頭の中・東欧における多民族帝国の解体とその支配下におかれていた諸民族の民族運動、またこれらの民族による新国家建設と被支配民族同士の対立、などの考察を通じ、現代ヨーロッパにおける「国民国家」の理念と現実について検証する。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史（西洋）Ｂ	世界諸地域の歴史と社会について、映画というメディアを手掛かりにして学ぶことをねらいとする。民族紛争、宗教対立、ナショナリズム、戦争、人種差別、性差別、全体主義、グローバル経済、格差社会といった近現代史を読み解く重要なキーワードを学びながら、歴史はもちろん、私たちの社会のありかたを問い直すことも目的とする。また、ふつうは文字で書かれたものをもとに過去を「歴史の事実」とするが、映像をもちいることで、歴史の物語られ方そのものを見つめなおすことも、この授業の大きな目的の一つである。	
Liberal Arts	国際人の形成	国際比較論Ａ	グローバルな発想あるいは国際的視野の必要性が、我が国の各分野で叫ばれて久しい。こうした発想や視野の形成は、容易ではないが、様々な視点から外国地域を検討し、その特徴を明らかにすることにより、対象地域とともに我が国そのものの理解が深まる。この講義では、国際比較論における視点とその意義についてロシアを具体論として展開する。そこでは地理学的方法に依拠しながらも、より柔軟な接近法によって、国土の自然環境、人口の基本的動向を主たる検討材料として、国際比較論の視点とその意義を学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	国際比較論Ｂ	この講義では、国際比較論Aでとりあげた視点と方法に基づき、そこで試みた具体論を内容上さらに発展させ、深めるために、ロシアにおける民族、経済、社会に検討対象を広げる。テキストに沿って工業を指標としたソ連時代からロシアへという変化を軸に、そこで取り上げられている工業、都市、北方性、民族、人口、中核地域・周辺地域などについて、「発展」というトピックスや配布する資料なで内容や対象を拡大・補充しながら、その特徴の把握を目指す。最後に、それらを踏まえて国際比較論の視点についての総括をする。	
Liberal Arts	国際人の形成	アジアの文学	本講義では、アジア各域の文学事象や文学作品を学修することにより、それぞれの地域における 人々の生活や文化の背景に理解を深めてゆくことを目的とする。アジアは広域であるばかりでな く、歴史的諸条件等の要因もあって、多様性を内包している。その多様性は、民族、政治、宗教、思想、文化等の諸方面に特徴的な様相をもたらしているが、その実像は往々にして文学作品に具体的に反映されているのである。そこで文学を通してアジアに暮らす人々の意識や感情を認識してゆくことで、アジアを理解する力を涵養する。	
Liberal Arts	国際人の形成	アジアの古典	アジアの古典には様々な地域の様々な分野があるが，本講義では，多くの国に影響を与えているインドのヒンドゥー教，仏教の古典を取りあげる。古典に触れるということは，遠い昔に作られた書物を読んで単に知識を増やすことではないことを理解するため，文学作品だけにとらわれず，古典を広い視野でとらえることとし，古典音楽・舞踊も取りあげ，その概説と他の国の文化や現代への影響などを解説する。	
Liberal Arts	国際人の形成	国際関係入門	現代の国際関係の特徴と諸問題について基本的事項を中心に解説する。主な講義項目は、①主権国家制度の概要と成立経緯、現代における制度変容②国際関係の諸理論（リアリズム、イデアリズム、マルクシズム、社会認識形成主義などの国際関係理論）③国際関係のアクター④国際政治と影響力行使の手段（政治・軍事・外交各手段の特徴）⑤国際機関と人権・環境・難民問題（国連の機能と課題、人権規約等人権に関する諸条約、地球環境問題、難民条約と難民・避難民問題などを解説）	
Liberal Arts	国際人の形成	地域と生活	文豪・夏目漱石と森鷗外、本学創設者・井上円了の生涯と業績を通して、共に同時代を生きた明治の知識人の生き方・生活を考える。漱石はイギリス、鷗外はドイツに留学、円了も生涯に３回の海外視察旅行を行っている。彼らは、当時、第一級の国際経験を積んだ先進的な知識人だった。そのような彼らが体験した「地域」と「生活」空間、具体的には留学生活、海外視察体験を通して、彼らの比較文化・文明論、思想形成、生き方を（今日的なグローバル視点に立って）考察する。	
Liberal Arts	国際人の形成	国際キャリア概論	本講座では留学の歴史的役割や概念を振り返るとともに、留学が持つ社会的意義、個人の成長やキャリア形成にもたらす役割について実例をもとに学ぶ。カルチャーショックやアイデンティティー危機など留学を通じて得られる異文化体験についても分析する。また、海外での学習において準備しておくべき事項として、語学力の強化、綿密な学習計画、単位互換、安全面や健康面での危機管理などについて認識を高めていく。海外インターンシップ、ボランティア、フィールドワークなど多様な海外学習体験について紹介し、受講者に自らのキャリア・デザインの在り方を客観的に分析する機会を提供する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、大学生がどのように国際的なキャリア形成をめざすべきか、ガイダンスすることを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家などを招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（とくに大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外研修Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 　海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外研修Ⅱ	本講義は、海外研修Iを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外実習Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。 海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外実習Ⅱ	本講義は、海外実習Iを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。 2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅱ	本講義は、短期海外研修Ⅰを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅲ	本講義は、短期海外研修Ⅱを受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅳ	本講義は、短期海外研修Ⅲを受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。 短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅱ	本講義は、短期海外実習Ⅰを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。 2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅲ	本講義は、短期海外実習Ⅱを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。 3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅳ	本講義は、短期海外実習Ⅲを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。 4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の文化と社会	この講義は学部留学生を対象とし、日本の文化や社会の、主に衣食住といった身の回りのことや身近な話題から考え、母国との比較やクラスメイトとのディスカッションを通じて自分自身の見方を確立し、異文化に対する分析力と説得力のあるコミュニケーション能力を養うことを目的とする。留学生は既に日本に一定期間滞在し生活経験を持っているが、普段目にしているものでも、それが何であるか知らずにいる場合も少なくない。それら一つ一つを改めて取り上げることで、留学生が日本文化に関する新たな発見をするきっかけとなるはずである。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本事情ＩＡ	日本列島で暮らしていく上で、特に地球科学的ないくつかのトピックスについて紹介、解説する。具体的には日本の地理、天気、地震、火山、が中心となる。日本事情IAでは自然科学の基礎的な部分を解説することで、日本の自然の地球科学的な背景を理解し、興味を持ってこれから学生生活を送れるようにする。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本事情ＩＢ	日本列島で暮らしていく上で、特に地球科学的ないくつかのトピックスについて紹介、解説する。具体的には地質、資源、東京の変遷、が中心となる。日本事情IBでは身近な文化にも触れることで、日本の自然の地球科学的な背景を理解し、興味を持ってこれから学生生活を送ることができるようにする。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本事情ⅡＡ	日本語をステップアップさせるために、敬語を学ぶ。敬語は日本を学ぶためにも、また人との関係性を円滑にするためにも非常に重要な言葉である。日本で、あるいは日本と関係する企業に就職を希望する留学生にはぜひ覚えてほしい言葉である。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本事情ⅡＢ	日本の近代化とその時代を生きた知識人の思索を辿ることにより、時代と精神について考える。本講義では、その近代知識と日本の土着的な感性により、新しい境地を生み出した大地の宗教詩人・宮沢賢治の作品から、その人生観・宗教観を読み取り、自己の人生観や社会観の思索を深め、関連する民話・説話を読むことで、日本人の思想や生活を学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	日本国憲法	憲法は国家の基礎となる法である。その特徴は「最高法規」であり、憲法に違反する法はたとえいかに正しい手続きによって定められても無効となる。そこで、憲法が、人として譲ることができない最低限度の権利として保障している人権は、たとえ国会の多数決によって定められた法律によっても侵害することができない。さらに憲法は、統治の仕組みについて定めている。国民に主権を認め、選挙により代表者を選出し、その代表者が国会を形成し、法律を定める。内閣は、抽象的な法律を現実に適用することにより行政を行い裁判所は、国会・内閣の作用を憲法・法律に照らして見直し・是正する機関である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	ベーシック・マーケティング	本講義では学生諸君の認知度の高い企業をケースに取り上げることで、マーケティングに関する体系および、企業の取組みが理解できるようになることを目指す。そこで、マーケティングという企業の視点から、消費者の既存の商品・サービスに対する不満やニーズの探り当て、消費者の満足度を高めるための製品開発やブランド付加、消費者が価値あるものと評価する妥当な価格設定、ターゲットとなる消費者の購入するルートへの有効な商品提供の方法、ターゲットとなる消費者へのアピール方法等について基礎的理解を目指す。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	流通入門	本講義では、流通研究の基本的フレームワーク、流通機関における特徴並びに役割・機能に関して、身近な消費財をケースに解説する。学生諸君には、出来るだけ身近な食品や化粧品などを例示しながら、物財やサービスなどの無形財といった客体に関する理解を目指しさらに、生産から消費までの流通に関る、生産者、卸売業者、小売業者、消費者、及び関係機関などの主体および役割に関しての理解を目指す。また、消費財の流通類型毎の特性を理解し、類型毎の課題に関して、論理的に討議していきたい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	基礎会計学	本講義では、現代の会計学の全体像を概略的に講義する。具体的には、「会計の意義」、「財務会計と管理会計、および監査の意義」、「企業会計の仕組み」、「企業会計の理論構造」、「会計公準の意義・内容」、「会計原則の意義・内容」、「わが国の企業会計制度の特徴」、「資産の意義」、「資産の評価基準」、「当座資産の意義・特徴および評価方法」、「棚卸資産の意義・特徴および評価方法」、「有形固定資産の意義・特徴および評価方法」、「無形固定資産および投資その他の資産の意義・特徴および評価方法」を平易に解説していく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	企業会計	企業会計を考えたとき、その中心的な存在は、会計情報を伝達する財務諸表である。財務諸表は、企業外部の利害関係者に財政状態や経営成績、およびキャッシュ・フローの状態を報告する書類の総称であり、会計固有の手法に基づき作成される。また、企業以外の経済主体（学校や病院または公共部門など）の会計も、基本的に企業会計の手法に準じて行なわれている現状にある。本講座では、財務諸表の理論や計算技術構造を体系的になるべく平易に講義する。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技ＩＡ	バスケットボールは、年間を通して天候に左右されずに楽しむことができるスポーツで、現在、世界中に普及しています。この授業では、まずゲームを楽しむことから始めます。バスケットボールというゲームの全体像を理解することができたら、今度はゲームで成功するために最低限必要な技術や戦術を身につけていきます。ゲーム形式の学習を繰り返し行ない、合間を利用して、ゲームを楽しむために必要な技術・戦術を、ポイントを絞って解説していきます。そして、その内容を意識した上で、再度ゲーム形式の学習にもどっていくことで、ゲームの質の向上をはかります。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技ⅠＢ	各学生の体力レベルと技術レベルを考慮し、段階的に運動の基礎を充実するための基礎となる授業を展開する。バドミントンは誰でも気軽に楽しめるスポーツであり、生涯にわたり楽しむことのできるスポーツであるといえます。授業の内容は、主に初心者を対象として、健康・体力向上を図るとともに、必要な基礎知識、基礎技術、ゲームの進め方を学びます。また、スポーツを通じて、他人との協調性を持つことも授業の目的です。授業の期間中だけでなく、その後運動することが習慣となり、生涯にわたり健康維持増進、社会的コミュニケーションや親睦を積極的に図ることのできるような意識を養うことを目的とします。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技ⅡＡ	サッカーは世界中で親しまれているスポーツである。親しまれる要因としては、用具が少なくて済むこと、人数やレベルに合わせてピッチの大きさを変化させることにより、運動量を確保することができ、技術発揮状況を作り出すことができることが挙げられる。 本授業ではサッカーの楽しさと喜びを実感するとともに，自身の健康と体力向上を図り，技術・戦術の向上やゲーム運営，審判の実践を通じて生涯スポーツの基礎となる実践力を高めることを目的とする。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技ⅡＢ	卓球は男女を問わず、年齢や体力に合わせて楽しむことのできるスポーツであり、生涯付き合うのに最も適したスポーツの一つであります。 この授業では、卓球のスイングやサービスなどの基本技術や戦術を習得し、さらに試合でのマナーやダブルスでのチームワーク、審判法などの実践的な能力を獲得することで、卓球を生涯行うことのできる能力を身に付けてもらいたい。 また、体力に合わせてゲームを楽しむためのトレーニング方法などについても学習します。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技ⅢＡ	本授業では、フィットネストレーニングを取り扱うが、体を鍛える為の授業ではなく、一生涯を通じて健康維持・増進する方法論として体と知を育む授業を目的とする。初心者から上級者まで受講することができるが、筋トレマシーンやダンベルなどを使ってトレーニングするだけの授業ではない。自分の体を知る・見直す機会を持つために、授業中に課題や身体組成の測定を行う。その後、履修する学生一人ひとりに応じたオリジナルのトレーニングメニューが作成できるように分かりやすく指導を行う。勿論、バーベルを使った本格的なトレーニング（ベンチプレス・スクワット・ハイクリーンなど）を希望する学生に対しては、正しいフォームから指導を行う。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技ⅢＢ	急速な情報化社会が進展する現在において、デジタルツールの拡大により私たちの生活は便利になりましたが、それにともない人々の「運動不足」による問題が深刻化しています。私たちの日常生活において、食事による摂取カロリーは昔に比べて増えているにもかかわらず、肉体労働は減る一方なのです。 　このような状況から、私たちが生涯に向けてより快適に過ごすためには、ハイカロリーな食生活の改善と運動不足の解消はもとより、「基礎代謝」を上げることが非常に重要です。本授業では、脂肪を燃焼させるための有酸素運動（エアロビクスダンス）と、身体の核となる「コア」を鍛え、各自の基礎代謝を上げることと身体バランスを整えること、そして健康に関する正しい知識を身に付け、深めることを目的とします。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学講義Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関する入門的講義を行う。主に、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目的とする。また、現状の体力の把握や緊急時の対応などを学習することを通して、自他の健康への意識を高め、生涯の健康をより発展的に捉えられることも課題として位置づける。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学講義ⅡＡ	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡA」は、春学期の開講科目である。本講義では主に、健康管理・安全管理を中心に講義していく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学講義ⅡＢ	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡB」は、秋学期の開講科目である。本講義では主に、生活習慣病や体づくり、トレーニング理論を中心に講義していく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学演習Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関して、演習形式で授業を展開する。主に、「スポーツ」という現象について受講生が各々の関心事に基づいてテーマを設定し、研究・発表・討論を行う。本授業を通して、スポーツの専門的な知識を習得すること、選択したテーマについて周到な準備を行い多角的な観点から報告ができること、他者の報告について批判的に討論できることが目的となる。複数のグループを編成し、グループごとにテーマを選定することが通例である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	情報化社会と人間	コンピュータの普及とそのネットワークの接続によるいわゆる社会の情報化はこれまでの仕事や通信のあり方のみでなく社会生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させようとしている。しかしながら、社会の情報化は唐突に生じた訳ではなく、人間社会の歴史の延長線上にあり、本講義では、その文脈での情報化社会の意味と現象を主体的に理解することによって、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	情報倫理	インターネットの普及により、さまざまな情報を携帯情報端末などから容易に入手できるようになった。このような利便性が向上する一方で、インターネット上では、個人情報を悪用した犯罪も起きている。インターネット社会では、インターネットを利用する際に必要な知識や技術だけでなく、インターネット上で起こるトラブルや犯罪、さらにはそれらから身を守る法律なども知っておく必要がある。本講では、インターネット社会でどのようにして身を守り、生きて抜くべきかを、具体的な事例に基づきながら学ぶことで、インターネット社会の現況を理解しつつ、インターネット上での危機管理能力を醸成する。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	コンピュータ・リテラシィ	情報技術の普及は我々の情報活動を豊かにするものと考えられているが、一方でコンピュータ犯罪のような問題も発生している。それは、情報技術がもたらす効果や技術の限界、技術的な特性を理解しないままに、利便性や有意性のみに焦点を当てた結果と考えられる。本講では、情報技術に関する一般的な知見を得ると共に、人間の情報処理における情報技術の果たす役割について実習を通して経験する。また、今後の社会生活で必要になると考えられる情報技術と技術的動向、および技術評価方法についても解説する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	社会人基礎力入門講義	社会はどのような人材を必要としているか?本講義は、将来社会で活躍できる人材育成を目標として、「社会人基礎力」の観点から解説を行う。「社会人基礎力」とは、経済産業省が定義した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のことである。本講義は、その「社会人基礎力」の育成のために、本学独自の視点を加えて、さまざまな問題提起を含むヒントを提供したい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	社会人基礎力実践講義	社会人として生きていくためには、必然的に、学生時代から「社会」に興味を持ち、「社会」のことを知らなければならない。情報化社会、国際化社会の今日、「社会に生きる」ということは、大げさに言えば、無限大の世界が対象となる。この授業では、「新聞」というメディアを活用し、そこから「社会」を知り、様々なことを考え、その考えを自ら発信する姿勢を、普段の生活に於いて確立することを、目指したい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	キャリアデベロップメント論Ａ	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を学ぶこととする。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観の分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習し大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを考えていきたい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	キャリアデベロップメント論Ｂ	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから学んでいくこととする。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索していきたい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	企業のしくみ	本講義では、企業と企業組織、企業の活動を理解する上で基盤となる知識や考え方に触れてもらい、企業社会で活躍する社会人となるには必要なことは何かということを考えるための自分なりの糸口を見つける手がかりを得てもらう。特に、この講義では、企業とはどのような存在なのか、その企業組織はどのような仕組みになっているのか、そして企業を「経営」するということはどのようなことなのかということを考える際の出発点となる、企業制度と企業組織に関する基礎知識とそれらに対する多様な見方（視点）を学ぶことを目的とする。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	企業家論	現代社会は、先人たちの試行錯誤と創意工夫により形作られたものである。株式会社という仕組みを日本に導入し広めた渋沢栄一、私鉄経営のモデルを築いた小林一三、水道哲学で日本の家電市場を切り拓いた松下幸之助などの企業家の活動が日本の新たな時代を先導してきた。このような人々の営みを学ぶことは、社会に対する理解をより深めるだけでなく、将来を展望するカギともなる。本科目は、時代をリードした日本の企業家をとりあげ学ぶことを通じ、社会のリーダーとして将来を期待される学生のキャリアデザインに資することを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （国際学部国際地域学科国際地域専攻）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	社会貢献活動入門	社会貢献という視点から、これからの人生設計を考える。①学生が、社会貢献という視点から自身の人生設計を検討する姿勢を養う。②①を達成するために、知識の提供ではなく、自律的な思考能力の育成を重視する。公益とは何か、また、公益と個人の利害の葛藤などについて考え、社会において個人が果たし得る役割と課題について考える。また、社会と個人をつなぐ組織的活動についても理解を深める。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	公務員論	我が国の公務員制度について、法制度や慣習の観点から考察を行うとともに、講師の国家公務員・地方公務員の体験談を交えながら理解を深める。また、公務員試験を目指す学生のためのアドバイスも適宜行う。単なる公務員に関する知識習得に留まらず、公務員制度の本質の理解と、学生自ら我が国の行政運営に関する課題とその解決策を探ることを目指す。また、学生の関心やその時の話題となっているテーマについても随時取り上げる予定である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。わかりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身に付ける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書など題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	アカデミックライティング	本科目では、人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文などを代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成など、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	地球環境論	本講義は、世界的に進む経済・社会と複雑に絡まった自然資源の劣化への対応、地球温暖化問題や生物多様性の保全のような全地球的問題への国際条約による対応等々、これからの地球環境の時代の環境問題に対応するために必要な基礎的な知識や認識を身につけることを目的とする。国内でどのような公害・環境問題が起こり、どのように解決し、どのような問題が残されているのかについての基礎知識や、地球環境時代の環境問題の具体的な内容、経済・社会や私たちの生活とのつながりについての基礎知識を習得し、その解決のためにすべきこと、できることについて考えていく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	インターンシップ入門	卒業後、社会により適切に順応しつつ活躍する場が持てるよう、在学時に一定期間“就業体験”を行うインターンシップの目的およびどのようなものがあるかといった入門的な科目になる。 また、インターンシップに出掛ける前に必要な、就職のための心構えや社会人としてのあり方について、様々な角度から考える機会を提供する。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	ボランティア活動入門	ボランティア活動の目的・意義、およびどのような活動があるのかといった入門的な科目になる。特に、ボランティア活動は、社会に積極的に関わり、人々と共に生きていくという姿勢を学ぶことができる機会であると考えられる。 ボランティア活動を行う前に必要な、心構えやマナーについて、様々な角度から考える機会を提供する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	日本事情ⅢＡ	現代の世界は、科学的・物質的にさまざまな達成を成し遂げる一方で、環境問題・人口問題などさまざまな課題にも直面しています。それぞれの達成や課題は、日本や受講生のみなさんの出身国をはじめ、世界全体に共通しています。世界は、グローバル化が進展する一方で、ナショナリズムの高揚や民族間・宗教間の紛争・対立も絶えません。留学生の皆さんは、国際社会の将来を担っています。日本や自分の出身国を世界の中でとらえる力が求められています。本科目では、社会科学系一般教養書レベルの日本語を習得することを目的とし、日本の達成・課題の実情を例に「文明の多様性と異質性」「人口動態」「戦後の社会構造の変容」をテーマにとし、日本と自分の国との共通点や相違点について調査・分析・考察を試みます。そして、世界全体に視野を広げて考えていきます。さまざまな背景を持つ留学生の活発な議論を通して、多角的に深く問題を掘り下げて行きます。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	日本事情ⅢＢ	現代の世界は、科学的・物質的にさまざまな達成を成し遂げる一方で、環境問題・人口問題などさまざまな課題にも直面しています。それぞれの達成や課題は、日本や受講生のみなさんの出身国をはじめ、世界全体に共通しています。世界は、グローバル化が進展する一方で、ナショナリズムの高揚や民族間・宗教間の紛争・対立も絶えません。留学生の皆さんは、国際社会の将来を担っています。日本や自分の出身国を世界の中でとらえる力が求められています。本科目では、日本の達成・課題の実情を例に「開発の功罪」「地球規模の環境対策」「家族とは」をテーマにとし、日本と自分の国との共通点や相違点について調査・分析・考察を試みます。そして、世界全体に視野を広げて考えていきます。さまざまな背景を持つ留学生の活発な議論を通して、多角的に深く問題を掘り下げて行きたいと考えています。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ＩＡ	現在、東洋大学では基幹研究の一つとして共生哲学の確立を目標とした活動を行っている。この授業は、その一環として東西の共生論を紹介して、共生哲学研究の諸問題を論じ特に自然との共生、民族の共生などを主なテーマとし、哲学論としての共生を考える。東洋・西洋の共生論の在り方を理解する。西洋哲学における共生の概念、東洋における共生のとらえ方を理解する。とくに共生学という概念をどのように理解するかを問う。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ＩＢ	現在、東洋大学では基幹研究の一つとして共生哲学の確立を目標とした活動を行っている。この授業は、その一環として東西の共生論を紹介して、共生哲学研究の諸問題を考える。特に自然との共生、民族の共生などを主なテーマとするが、東洋・西洋の共生の在り方を哲学から理解する。特に共生学の概念を理解し、西洋・東洋それぞれの違いを声明できるようにする。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅡＡ	東洋と西洋の近・現代詩を、テーマごとに互いに対比させながら読解する。はじめにシェイクスピアやソネットなどの愛の詩を読解する。文学作品の読解は、原文を自分自身の感性で読むことが大切であるので、出来るだけ多くの詩を朗読し味わうことを第一の目標とする。その中から自分の好きな詩についてのプレゼンを行いディスカッションを通して詩を理解していく。詩という材料から共感や抵抗感といった直接的な反応から出発し、私達自身の想像力の冒険、あるいは文学研究に至る、様々なレヴェルでの読み方を探っていきたい。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅡＢ	東洋と西洋の近・現代詩を、テーマごとに互いに対比させながら読解する。文学作品の読解は、原文を自分自身の感性で読むことが大切であるので、出来るだけ多くの詩を朗読し味わうことを第一の目標とする。はじめに人生の詩についてテーマを決め、詩を創作していく。創作した詩の発表を行いディスカッションすることにより、詩についての理解を深める。詩はまた日常生活から想を得た詩人の直截な心情の吐露から、現実を超えた宇宙的原理や絢爛たる夢想、あるいは難解な思想にいたるまで、人間の多様な情緒的・知的活動をはらんでいる。社会や遊びの詩を読解することにより、感性を磨き、自己表現力が高められるようにする。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅢＡ	２０００年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅢＢ	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅣＡ	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十八年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅣＢ	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ＶＡ	哲学・死生学・出版界・自閉症・セクシャリティ・ホスピス・音楽など様々な学問や文化活動の観点から、生きがいについて考える方法を身につけるのが目標である。価値観・死生観・職業観・倫理意識等について取り上げて、現代社会における我々人間存在の複合的位相に切り込んでいき、個々の問題事象や解決方法などを提示していく。また併せて、茶道の点前を実演し、学生は客の体験をすることをとおして、日本固有の伝統芸道の意義やその深みを、学んでいく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	総合ＶＢ	日本の古代から現代にいたる歴史や時代の流れの中で、ひとびとが持った生きがいやなりわいというものが生み出し、展開した文学文化はどういうものであったか。そこに込められた人々の精神はいかなるものであったかについて様々な具体的職業やなりわいを取り上げて考える。ことに、現代では非日常に属する伝統的文化に焦点を充てる。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅥＡ	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を知ることが出来る。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観を分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習する、大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを知るものである。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅥＢ	授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから知ることが出来る。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索する。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅦＡ	異文化理解の問題を、特にヨーロッパとの関連で取り上げる。ヨーロッパ地域、ヨーロッパの歴史・文化に関心のある人にとっては、興味ある知識が得られるであろう。具体的には「異文化としてのヨーロッパの特徴を知り、説明できる」「留学、旅行などの事前準備の知識として十分な知識を得られる」「異文化としてのヨーロッパの特徴を知ることによって、逆に自文化、つまり日本文化の特徴を知ることができる」「正しい異文化理解をもてれば、自分と異なる文化に対する偏見から解放される」ことを目指す。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅦＢ	西洋のイメージが永らく「欧米」という言葉で表されてきたように、アメリカとヨーロッパは（対日本という見地で）一括して捉えられてきた。しかし、実際には歴史・文化・国民性・価値観など大きな違いがあり、それが経済や政治に繋がる。本講義では、現代アメリカ事情を中心に、文学や歴史なども学ぶ教養科目としての側面も加味させたい。英雄像の違い、教育の考え方、家庭生活、犯罪、人種のるつぼと言われることから現代アメリカの苦悩である人種差別や性差別、宗教からくる対立、社会構造からくる貧富の差などを取り上げる。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅧＡ	「日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践」をテーマに、建学の精神を知り、自らのアイデンティティーを確立することを目標とする。具体的には、「井上円了の目指したもの」、「近代化と啓蒙思想」、「明治初期の宗教界」、「明治の青春群像と井上円了」、「哲学館の三恩人」、「井上円了が祀る聖者たち」、「迷信より哲学へ」、「井上円了の外道哲学」、「日本をどう考えるのか」、「井上円了が語る庶民の道徳」、「私学の役割と目的」、「井上円了の海外視察」、「哲学館初期のカリキュラム」等について講義形式で授業を進める。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	総合Ⅷ Ｂ	「日本の近代化と東洋大学―井上円了の哲学と実践」をテーマに東洋大学の歴史を知り、自らのアイデンティティーを確立することを目標とする。具体的には、「哲学館から東洋大学へ」、「私学と国家権力」、「庶民の啓蒙が国を支える」、「円了の台湾巡講」、「哲学の小宇宙」、「哲学館の後継者たち」、「哲学館からチベットへ」、「哲学館・東洋大学の留学生たち」、「哲学館・東洋大学出身の文人・歌人」、「社会で活躍する校友」、「東洋大学の現在」、「井上円了の生涯をかけた熱き闘い」等について講義形式で授業を進める。	
Liberal Arts	総合・学際	総合Ⅸ Ａ	世界の認識についての哲学的な思考法を提示しながら世界の見方、世界における人間存在のあり方を考えていくことを目的とした教養的な科目である。講義ではとくに現象学的な思考法、問題意識を紹介しながら、人間をとりまく世界をどのように見るか、そこに人間が存在するというのはいかなることか、また他者とのかかわりとはいかなるものかを考えていく。そして、現象学的な思考法を援用しつつ、一人の人間と世界のかかわり、科学の可能性と問題点などといった現代に通じる問題について切り込んでいく。	
Liberal Arts	総合・学際	総合Ⅸ Ｂ	科学や科学技術に内在する哲学的課題を浮き彫りにしながら、現代社会に存在するさまざまな問題に対する新たな思考法の可能性を提示することを目的とする。科学的探究の利点は、固有な課題や社会の要求に応じて、そのつどプログラムを設定し、展開することができることにあるが、本講義では、科学の成立史、科学的探究のプログラム設定のありかたについて哲学的な視点から検証しながら、環境、障害者に対する認識などといった問題について、哲学がどのような形で有効かつ斬新な見方を提示できるかを考えていく。	
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ＩＡ	２０００年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ＩＢ	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ⅡＡ	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十八年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ⅡＢ	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
Liberal Arts	総合・学際	首都東京を学ぶ	白山キャンパス６学部融合科目として、文・経済・経営・法・社・国際のそれぞれの学問分野から見た「首都東京」を考察し、オムニバス形式の講義授業を展開することで、東京・江戸の文化・首都機能・経済・ビジネス・行政・海外（国際地域、観光）からみた東京を学び、世界のなかでの東京を再認識するとともに、グローバル意識の涵養を図る。異文化交流を目的として、留学生と互いに「国際都市東京」についてプレゼンテーションを行う。また、フィールドワークとして、文京区界隈の下町散策などを行い、白山地域における「東京」ならでは文化・社会を発見し、切り取り考察する。	
Liberal Arts In English		Introduction to Philosophy	「哲学」という言葉の意味について考えることから始め、「本当にあるものとはなにか？」、「人間のかんがえとは何か？」、「人間にとって知恵とは何か？」「どうしたらよりよく生きられるのか？」など、これまでの哲学者たちが考えた様々な問いを紹介し、それを日常生活の疑問に結びつけながら考えることにより、「哲学」とは何かを理解し、哲学的に考えるこつを身につける。	
Liberal Arts In English		Sociology of Islam	この講義では、人口において世界第二の宗教であるイスラームを主としてとりあげる。現在、ムスリム人口は16億を超えたと言われており、第一位のキリスト教人口を超える日もそう遠くはないと予測されている。日本に暮らすムスリムの数も着実に増加している。イスラームの基本的な教義から日常生活までを、平易に解き明かしていく。日本で暮らすムスリムを講義に招へいしたり、随時日本人の宗教感覚と対比させることで、比較文化論的な要素を取り入れての説明を行う。なお、本講義は英語で行う。	隔年
Liberal Arts In English		Introduction to Environmental Studies	環境・循環型社会・生物多様性白書をベースに、気候変動、廃棄物や資源循環と化学物質の問題、自然環境の保全と共生、水資源と衛生、大気汚染など、現在の日本および国際社会が抱えるさまざまな環境問題とその取り組みについて学ぶとともに、グローバリゼーションが進む社会の中で、環境問題への対応として求められていることをディスカッションを通して理解していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts In English	Introduction to the Welfare Society	福祉政策を読み解く理論を用いて現代社会における福祉に関する諸課題を考える。社会福祉の様々なトピックは、社会経済を中心とした大きな環境変化から生じている。変化がもたらす社会課題とそれへの対応を説明する。さらに国際比較を通じて、福祉政策の手法とそのもたらす効果を考える。これらを通じて、受講生が福祉の経済に関する基本的な理論、社会経済の環境変化とそれに関連する福祉の諸課題を理解し、自分の考えを表明できるようになることを目指す。	
Liberal Arts In English	Introduction to Geography	自然地理学を中心として、人文地理学、都市地理学、経済地理学の基礎の概説について、英語により講義を行う。さまざまな地形の成立と特性を理解し、気候や地形と人々の営みとの関係を基礎として、国内外の地誌にも触れながら、さまざまな地域と人々を理解するための学問としての地理学の基礎を体得することを目的とする。	
Liberal Arts In English	Introduction to Internet Technology	IT技術を活用する職業人として基本的な知識の習得を目標とする。現代の情報社会の基盤技術であるインターネット技術、通信プロトコル、メディア技術などを中心として概要を述べる。また、これらの知識に基づいて、個人・組織における情報セキュリティ対策の基本的な考え方、現状発生している様々なインシデントに関する概要、関連する制度の概要などについて解説する。スライドを用いた講義形式で実施する。	隔年
Liberal Arts In English	Urban Development History of Tokyo	英語による講義である．東京の都市発展は，江戸幕府開府より本格的に始まり，明治維新後の文明開化，市区改正，関東大震災後の帝都復興事業，戦災復興事業，高度経済成長期の都市整備など，さまざまな歴史の積み重ねにより成り立っている．本講義では，東京の都市発展の歴史を主に都市・インフラ開発，都市計画の観点から概説していくとともに，世界の大都市とその発展の歴史との相対的な比較を通して，東京という都市を相対的な視点から俯瞰できるようになることを目的とする．	
Liberal Arts In English	Regional to International Issues	この科目では、地域、国、国際という3つのレベルの課題をとりあげ、日本および海外に影響を与える事柄についての理解を深めることを目指す。このような課題について事前・事後学習を行い、理解を深めることで、留学にむけた準備につなげる。なお、特別講師として日本に駐在する各国の大使を招聘し、各国の事情などについての講義を行ことも予定している。講義は、すべて英語により行う。	
Liberal Arts In English	Contemporary Japan Studies	第二次大戦後の日本の歩み、国際社会における現代日本への視線や関心の推移をとりあげ、日本の歴史や社会の特性について認識を深めることを目的とする。歴史的な出来事、外国メディアにおける日本のとりあげられ方にみる特徴などから、現代日本の課題について考える。	
Liberal Arts In English	International Student Mobility	今日の世界では、自国以外で学ぶ留学生の数が450万人（OECDによる）を超え、さらに拡大している。高度人材の流動化が期待される中で、大学も海外分校（ブランチ）を設置したり、海外の大学との共同授業や共同学位に取り組むなど、国境を越えた取り組みを拡大している。本授業では、留学生の受入、送り出しに果たす政府機関の役割、単位互換や共同学位などの質保証の課題、出入国管理政策などの現状を分析し、高等教育のグローバル化の課題を検証する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts In English		Introduction to Japanese Economy and Society	学科に所属する留学生のため、今後展開するさまざまな講義科目を理解するための概説科目である。日本の近代から現代に至るまでの経済成長史を手始めに、現在の日本の経済社会を形作る基礎となった明治における社会経済改革を概説し、また、外国人にとっては理解しにくいと思われる日本的な意思決定の背景となる社会的構造についての理解を提供する。そして何より重要なのは、第二次大戦に至るまでの時代背景・合意形成・リーダーシップのあり方である。それは、戦中の国家総動員体制を通じて、戦後の高度経済成長を支えた広い意味での企業社会的日本的経営に受け継がれている。そして、同時に経済成長を縦割りの官僚組織によって支えた産業政策のありかたなど、おそらくいきなり飛び込んできた外国人から見ると奇異に思われることにも、いい意味でも悪い意味でもそこに至るまでの裏付けがあることをしっかりと理解してもらうことが最大の目的である。そして、今後日本の経済社会の内外で強力なイノベーションのパートナーとして活躍する人材となるための動機付けを与える講義を目指す。	
Liberal Arts In English		Shifts in Global System and Role of International Organizations	本科目は、グローバリゼーションを背景として、国連システム等国際機関の役割の変遷と現状を学ぶことにより、新たに生じつつある問題点や将来に対しての改革案を考案する。特にケーススタディとして、ユネスコの事例を取り上げることにより、実際に起きている具体的事例を通じて、より深い理解を得る。	
Liberal Arts In English		Introduction to Global Studies	本科目では、グローバリゼーションが国際社会に与える影響について学ぶ。グローバリゼーションが国際社会に与える影響は、経済、文化、社会など様々な側面に及ぶ。そのため、その影響を分析するためには、多面的な視点からの分析が望まれる。本セミナーでは、グローバリゼーションについて様々な視点から論じている英語学術論文を（１）読解する（２）ディスカッションする（３）プレゼンテーションをすることで、自分の考察を深めていくことを目指す。これを通じて、グローバリゼーションが国際社会に与える影響について、自分の考察を持ち、それを表明する力を習得するとともに、英語学術論文の基本的な読み方を習得する。	
Liberal Arts In English		Introduction to Global Politics	アメリカ主導の単極システムの行方、中国の台頭と既存の国際秩序の動揺、「一つのヨーロッパ」を牽引してきたＥＵの苦悩、ロシアと欧米諸国の深まる亀裂、そしてイスラム国などの過激主義の伸長・・・。そうしたグローバル政治の主要な現象に対して包括的かつ複眼的な視座を得るために、国際政治学・国際関係論への導入を行うことが、この科目の目的である。さらにグローバルな諸課題をめぐる対立と協調やその中での日本の立ち位置を考えるきっかけを提供したい。	
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	国際地域学基礎では国際地域学科で学ぶ際に、どんな心構えが必要なのか。また、どのような問題意識を持たねばならないのか。国際地域学科の現実の問題に強い関心を持ち、いかなる学習目標が求められるかに学生がイメージを持つことが目標である。本講義では、主に「国際や地域の基礎的理解」「学科の取り組みに対する理解」「今から４年間の心の準備」「学習のモチベーションになる」などのテーマを取り上る。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Basic Academic Skills		入門ゼミナール	少人数でおこなう入門ゼミナールでは，一年生が「学生」（ある物事について，質問をしたり，自分で調べたり，それをいろんな方法で表現したり，それを他の人の意見と比べあったりする人）になっていくための訓練を始めることが目標です。テキストについて基本的なレジュメの作成と発表テキストをグループでおこなう。発表におけるエチケット／ルールも学ぶ。テキスト発表に基づいたコメント・議論をおこなう。レポート執筆においては，パソコンの利用，参考文献の記し方，などのレポートのエチケット／ルールを学ぶ。	
Study Skills	Basic Academic Skills		情報入門	地域における問題点の把握、計画立案などに必要とされるデータ処理の基本について学ぶ。データの可視化、統計量の算出など初等の統計学、多変量解析の概念まで含めてデータ解析の概要を述べ、例題を用いた実習を行うことで基礎知識と基本的な技術を身に付けることを目標とする。PC教室を用い、表計算ソフトの活用について学びつつ、これを用いたデータ解析の実習とテキストを用いた講義を交えた形式で実施する。実習の結果を各回提出させる。	
Study Skills	Advanced Academic Skills	必修	プロジェクトゼミナールⅠ	それぞれの担当者の専門とするテーマ（地域の諸問題）において現状を理解し、その現状を分析し処方するのに使う理論を具体的な事例を元に理解し始めることが目標である。具体的には、テキストをつかっての講義と発表の組み合わせになる。学生発表はグループでの発表であり、テキストを読み、質問を考え、レジュメをグループで作り、発表をして質問に答える。レポート執筆においては、現実の叙述とそれをある視点から疑問を立てて自ら答える分析がおこなえることに留意する。	
Study Skills	Advanced Academic Skills	必修	プロジェクトゼミナールⅡ	それぞれの担当者の専門とするテーマにおいて現状を理解し、その現状を分析し処方するにあたって、理論を応用することが目標である。具体的には、テキストをつかっての講義と発表の組み合わせになる。学生発表はグループでの発表であり、テキストを読み、質問を考え、レジュメをグループで作り、発表をして質問に答える。レポート執筆においては、現実の叙述と、その現実を文献研究やデータを使いながら分析がおこなえることに留意する。フィールドワークの基礎も学ぶ。	
Study Skills	Advanced Academic Skills	必修	プロジェクトゼミナールⅢ	それぞれの担当者の専門とするテーマにおいて現状を理解し、その現状を分析し処方する理論をデータ分析・文献研究・現地調査をつかって実証分析をおこなうことが目標である。具体的には、テキストをつかっての講義と発表の組み合わせになる。学生発表はグループでの発表であり、テキストを読み、質問を考え、レジュメをグループで作り、発表をして質問に答える。レポート執筆においては、現実の叙述と、その現実を文献やデータや現地調査を使いながら分析がおこなえることに留意する。	
Study Skills	Advanced Academic Skills	選択	データ解析演習	国際地域学で対象とするさまざまなデータ（統計データ、社会調査のデータなど）を解析する技法を学ぶ。「情報入門」で学んだ代表値の算出、度数分布、クロス集計と分析、平均値の検定、分散分析、相関分析、回帰分析等の技法の活用により、具体的な統計データや社会調査のデータを例題としてExcelやSPSSを利用しながら演習を実施することにより、実践的なデータ解析能力を身につける。	
Study Skills	Advanced Academic Skills	選択	情報パブリッシング	国際地域学で対象とするさまざまなデータ（統計データ、社会調査のデータなど）を可視化し、表現する技法を学ぶ。「情報入門」で学んだ情報処理のスキルを活用しながら、具体的な統計データや社会調査のデータを例題として可視化し、報告書、パワーポイント、パンフレットやポスターなどさまざまな媒体を用いて表現することを繰り返し実践することにより、情報の可視化と表現の方法を習得するとともに、状況に応じたより適切な表現方法について考える。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	English Communication Ⅰ	この科目は秋学期以降に実施する「海外英語研修」参加時に最低限必要となる英語コミュニケーション力を身につけることを目的とする。 週２回の講義のうち、１回は話す力、１回は聴く力の養成にあてる。「話す」ほうでは、海外（英語圏）での生活に必要となる基本的な語彙や表現を学んだ上で、現地の人とのやりとりを想定した会話練習を行う。「聴く」ほうでも同様に海外渡航や海外生活でのサバイバルに必要な最低限の語彙やフレーズを確実に聴き取れるようにしながらも、アジアで話される様々なアクセントの英語にも触れる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	English Communication Ⅱ	この科目は「English Communication Ⅰ」に引き続き、「海外英語研修」参加時に必要となる英語コミュニケーション力を身につけることを目的とし、 週２回の講義のうち、１回は話す力、１回は聴く力の養成にあてる。 Ⅰ で身につけた基礎力をさらに向上させ、「話す」ほうでは、海外（英語圏）での暮らしや語学研修（学校生活）に必要となる語彙や表現を学んだ上で、現地の友人や学校教職員とのやりとりを想定した会話練習を行う。「聴く」ほうでも同様に、現地で放送されるラジオやテレビの番組から情報をつかみとれる力を養成していく。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	Reading Comprehension	この科目は開講時に実施するreading testの結果に基づきレベルによるクラス分けを実施し、それぞれのレベルに合った教材を使用して英文の読解力を向上させることが目的である。学年末に課されるTOEICの受験を前提に、語彙力、文法力の増強はもちろんのこと、速読の練習を徹底的に行い、分量のあるものを読むことに対する抵抗をなくすことを目標とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	English Composition	この科目は開講時に実施するwriting test の結果に基づきレベルによるクラス分けを実施し、それぞれのレベルに合った教材を使用して英文を書く力を向上させることが目的である。学年末に課されるTOEICの受験を前提に、語彙力、文法力の増強もはかりながら、一定のテーマに関して自分の意見をauthentic な英語を用いて書けるようになり、書くことに対する抵抗をなくすことを目指す。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	海外英語実習Ⅰ	この科目は、本学あるいは海外の大学において英語を用いて国際地域学におけるさまざまな専門分野を学んでいくための表現力、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。英語を使用言語としている海外の大学において集中的に実施し、実際の授業を実施しながら授業内でのコミュニケーションに必要なListening、Speakingの能力を養成していく。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	海外英語実習Ⅱ	この科目は、英語を用いてボランティアや現地調査を実施するための表現力やコミュニケーション力を高めることを目的とする。英語を使用言語としている海外の大学において集中的に実施し、ボランティアや現地調査などの現場を想定したコミュニケーションのトレーニングを行うことにより、海外の現場での活動を行うためのコミュニケーションスキルを磨く。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	必修	海外英語実習Ⅲ	この科目は、インターンシップや実際のビジネスの現場を想定した際の英語によるコミュニケーション力を高めることを目的とする。英語を使用言語としている海外の大学において集中的に実施し、さまざまなビジネスシーンを想定しながら実践的なトレーニングを行い、インターンシップ等を実施する際のコミュニケーションスキルを磨く。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	English	選択	English Proficiency Test Ⅰ	「English Preficiency Test Ⅰ ～Ⅳ」は１年終了時のTOEICテストの結果に基づきレベルによるクラス分けを実施し、それぞれのレベルに合った教材を使用して実施する。Ⅰ はTOEICテストにおけるスコアアップを目的とし、特にReading と Listening パートに集中して、テスト受験のスキルの習得（問題パターンの把握、解答のスキル、時間配分等）と、テストに必要な語彙力、文法力、長文読解力、聴解力の養成、問題演習を行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	選択	English Proficiency Test Ⅱ	「English Preficiency Test Ⅰ ～Ⅳ」は１年終了時のTOEICテストの結果に基づきレベルによるクラス分けを実施し、それぞれのレベルに合った教材を使用して実施する。Ⅱ はTOEIC-SWテストにおけるスコアアップを目的とし、特にSpeaking と Writing パートに集中して、テスト受験のスキルの習得（問題パターンの把握、解答のスキル、時間配分等）と、テストに必要な語彙力、文法力、作文力、発話力の養成、PCを使用した問題演習を行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	選択	English Proficiency Test Ⅲ	「English Preficiency Test Ⅰ ～Ⅳ」は１年終了時のTOEICテストの結果に基づきレベルによるクラス分けを実施し、それぞれのレベルに合った教材を使用して実施する。Ⅲ はTOEFLおよびIELTSテストにおけるスコアアップを目的とし、特に ReadingとListening パートに集中して、テスト受験のスキルの習得（問題パターンの把握、解答のスキル、時間配分等）と、テストに必要な語彙力、文法力、長文読解力、長い音声を聴く力の養成、問題演習を行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	選択	English Proficiency Test Ⅳ	「English Preficiency Test Ⅰ ～Ⅳ」は１年終了時のTOEICテストの結果に基づきレベルによるクラス分けを実施し、それぞれのレベルに合った教材を使用して実施する。Ⅳ はTOEFLおよびIELTSテストにおけるスコアアップを目的とし、特に Speaking と Writing パートに集中して、テスト受験のスキルの習得（問題パターンの把握、解答のスキル、時間配分等）と、テストに必要な語彙力、文法力、作文力、発話力の養成、問題演習を行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language		中国語Ⅰ	この講義は中国語の発音と基礎文法を教授することを目的とする。初歩段階ではテキストの音読、発音の反復的な練習が重視され、学生一人一人に声を出して発音を繰り返して練習させるほか、文法や、やさしい会話文形式で理解して習得させる。中国語の基礎表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上を最終目標とする。また語学学習を通して、中国の文化・社会事情を知り、中国に対する理解を深めることも目標のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language		中国語Ⅱ	この講義は中国語Ⅰの継続で、原則的には中国語Ⅰを履修した者を対象とし、中国語の発音と基礎文法を教授する。中国語Ⅰを基礎として、さらに基本表現を学習していく。文法を会話形式で理解して、応用できるよう指導する。その上で、中国語の表現力を養うとともに、話せるように練習させ、実用的な語学力の向上を図ることを最終目標とする。また、中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language		中国語Ⅲ	この講義は原則的に中国語Ⅰと中国語Ⅱを履修した者を対象とする。授業ではこれまで習得した中国語の知識を応用して、口頭表現ができることを目的とする。講義内容は実用中国語を中心とし、テーマごとに会話の場面を作って会話し、応用的な会話ができるようにするとともに、中国語検定試験を受験する学生に対しても役に立つ内容を扱う。また、中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ハングルⅠ	この科目は韓国語の初習者を対象とし、ハングル文字の仕組みや発音、基礎的な文法を習得した上で、最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。基礎的な韓国語を理解し、テレビドラマや映画を楽しむほか、韓国を訪れても簡単なコミュニケーションができ、楽しむことができるレベルである。多くの学生に発言する機会を与え、対話形式で進めるほか、韓国のドラマや映画なども取り入れ、直接韓国文化に触れる機会を提供する。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ハングルⅡ	この科目は基本的にハングルⅠを修了した生徒を対象とし、韓国語の基本的文法をさらに増やしていく。テキストから一定の文例・文型を学習し、その文例・文型を用いて簡単な会話の演習を行なうとともに、会話の中で使えるフレーズを増やし、単語力・会話力の増強を図る。具体的な場面における会話文や、よく使われる解説文等を教材とし、より実践的なハングルを身に付けることを目標とする。また、ＤＶＤ等を使い、生きた韓国語に触れるとともに、韓国の映画・音楽などを取り入れ、韓国文化に触れ親しむ環境を提供する。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ハングルⅢ	この科目は基本的に韓国語Ⅱを修了した学生を対象とする。初級の授業で習得した基礎的知識を広げ、韓国社会で必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに韓国語を通して異文化を経験し、韓国社会についての知識や理解を一層深めることを目的とする。初級の文法事項を復習しつつ、学生のレベルに合わせ、韓国関連の事項、韓国学生の大学生活、書物、ドラマ、映画、音楽等、韓国大衆文化にも触れながら、会話を中心にリスニング、読解を同時に行う。韓国語能力試験を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	フランス語Ⅰ	この科目はフランス語初習者を対象とし、基本的な文法や語彙の導入を図る。フランス語での挨拶など簡単な日常会話、初歩的な構文を使って日常的な会話などができることをめざす。また、文字をみて発音でき、簡単なものを読むことができることをめざす。反復練習を通じて「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高め、フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。また、フランスの文化・社会を知り、フランスに対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	フランス語Ⅱ	この科目はフランス語Ⅰを終えたもの、または同程度の学力を持つものを対象とする。日常で使うフランス語で必要となる初級文法や語彙・表現を習得し、聴解、読解、会話、作文の能力を養う。特に、辞書を用いてかんたんな文章が理解でき、作成できるようにする。フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。また、フランスの文化・社会を知り、フランスに対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	フランス語Ⅲ	この科目は初年度の基礎からのステップアップで、語彙・文法・会話表現を向上させるとともに、フランス文化のさらに様々な側面を知ることを目的とする。「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高め、文法や語彙だけでなく、フランスやフランス語圏の国の文化も学ぶ。基本的なフランス語を使い、日常会話、旅行で使えるフランス語を練習するとともに、フランスの食文化の豊かさ、フランスの地方の多様性を知る。フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ドイツ語Ⅰ	この科目はドイツ語初習者を対象とする。ドイツ語の基礎文法を習得し、基本的な読解・表現・会話・聞き取りの能力を養う。アルファベットの発音から始めて単語のスペルと音の関係、挨拶から始め、日常の様々な場面でのドイツ語に慣れていく。ドイツ語圏における生活・社会・文化についての解説も行い、初級ドイツ語を学ぶのみならず、ドイツ語の用いられる生きた社会を知ることが、本講義の目的である。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ドイツ語Ⅱ	この科目はドイツ語Ⅰを修了した学生を対象とし、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の基礎文法を習得から一歩進んで、自らドイツ語での基本的な読解・表現・会話・聞き取りを手近な資料で試してみる。ドイツ語圏の生活・社会・文化についても、Ⅰに続いてさらにいろいろな情報を得ていく。ドイツやドイツ語の特徴をつかみ、ドイツ語圏のイメージを抱く。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ドイツ語Ⅲ	この科目は原則としてドイツ語Ⅱを修了した学生を対象とし、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の知識を増やし、さらに表現の幅を広げるとともに、ドイツ語圏の国々についての知識や、ドイツ人の環境意識についても学ぶ。「聞く」、「書く」、「読む」、「話す」の４技能全てにおいて、さらなるレベル向上をはかるとともに、ドイツ語検定試験を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	スペイン語Ⅰ	この科目はスペイン語初習者を対象とする。初級の文法、語彙、表現を扱い、特に「話す、聞く」ことに重点を置いて「聞く」「話す」から「聞く」「書く」へとコミュニケーション能力を深めていく。短期の語学研修・旅行などの外国生活で困らないリスニング能力と基本的な受け答えを身につけ、ボディランゲージを交えながらでも口頭での意思疎通ができること、辞書を引きながらでもいいので簡単なスペイン語文書の概要を把握できることを目標とする。また、スペイン語圏の文化、歴史、習慣等についても取り上げる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	スペイン語Ⅱ	この科目は原則としてスペイン語Ⅰを修了した学生を対象とする。初級の文法、語彙、表現を扱い、特に「話す、聞く」ことに重点を置いて「聞く」「話す」から「聞く」「書く」へとコミュニケーション能力を深めていく。短期の語学研修・旅行などの外国生活で困らないリスニング能力と基本的な受け答えを身につけ、ボディランゲージを交えながらでも口頭での意思疎通ができること、辞書を引きながらでもいいので簡単なスペイン語文書の概要を把握できることを目標とする。また、スペイン語圏の文化、歴史、習慣等についても取り上げる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	スペイン語Ⅲ	この科目は原則としてスペイン語Ⅱを修了した学生を対象とする。より高いレベルの文法、語彙、表現を習得する。スペイン語圏の人々に自分の意思を伝え、また相手の意思を正確に理解できるコミュニケーション能力の獲得を目指す。スペイン語圏の文化や習慣、伝統、人生観などを理解し、スペイン語圏の人々とスペイン語でのコミュニケーションがとれるレベルを目指すとともに、講読については辞書を引きながらでもいいので簡単なスペイン語の原書や新聞等を読解できるようにする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	中国語Ⅳ	この講義は原則的に中国語Ⅲを履修した者を対象とする。授業ではこれまで習得した中国語の知識を応用して、さらに上のレベルの口頭表現ができることを目的とするとともに、「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を全般的に高める。実用中国語を中心とし、テーマごとにより高い会話タスクを扱うほか、中国語検定試験を受験する学生に対しても役に立つ内容を扱う。中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ハングルⅣ	基本的にハングルⅢを受講した学生を対象とし、中級の多様な表現とともにワンランク上の読解力と文章表現力の向上を目指す。日常的な生活場面だけでなく、文化・社会等にも多く触れ、今の韓国社会について幅広く知り、韓国人と韓国語で意見交換ができることを目的とする。韓国への留学や、韓国系企業への就職を考える学生のためにも、韓国語能力試験に役立つ内容を扱う。また、映画やドラマ、音楽などさまざまなジャンルの韓国語を理解し、韓国社会についての理解を深める。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	フランス語Ⅳ	この科目は原則的にフランス語Ⅲを修了した学生を対象とし、フランス語の語彙・文法・会話表現をさらに向上させること、またフランス文化の様々な側面を知ることを目的とする。より高度な言語タスクを扱い、「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高めるとともに、より深くフランス文化・フランス社会を知る。また、フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ドイツ語Ⅳ	この科目は原則としてドイツ語Ⅲを修了した学生を対象とし、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の知識を増やし、さらに表現の幅を広げるとともに、ドイツ語圏の国々についての知識のほか、ヨーロッパへ視野を広げていく。ドイツ語を用いてグローバルに活躍できるよう、「聞く」、「書く」、「読む」、「話す」の４技能全てにおいて、さらなるレベル向上をはかるとともに、ドイツ語検定試験を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	スペイン語Ⅳ	この科目は原則としてスペイン語Ⅲを修了した学生を対象とする。さらに高いレベルの文法、語彙、表現を習得し、それまで覚えた文法や語彙を使って日常生活における基本的な表現を自然なスペイン語で話し、書くことを目指し、辞書を引きながらでも簡単なスペイン語の原書や新聞等を読解できるようにする。また、スペイン語圏の文化や習慣、伝統、人生観などを理解するため、映画・記事・雑誌・歌などを使って文化を紹介する。スペイン語検定を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	タイの言語と文化	この科目は日本人が多く暮らし、働くタイ社会の実情を知り、タイ語圏への旅行に最低限必要となる基礎的なタイ語の表現などを学びながら、タイの社会、文化、政治、歴史などについて学ぶことを目的としている。タイ語の映画・記事・雑誌・歌などを通じタイ語の世界にふれ、辞書を引きながら簡単なタイ語に慣れ親しむことを目標とし、タイでの研修参加や留学への動機づけを行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	インドネシアの言語と文化	この科目は日本人が多く暮らし、働くインドネシア社会の実情を知り、インドネシア語圏への旅行に最低限必要となる基礎的なインドネシア語の表現などを学びながら、インドネシアの社会、文化、政治、歴史などについて学ぶことを目的としている。インドネシア語の映画・記事・雑誌・歌などを通じ，タイ語の世界にふれ，辞書を引きながら簡単なインドネシア語に慣れ親しむことを目標とし、インドネシア語圏での研修参加や留学への動機づけを行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	スペイン語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったスペイン語圏の社会，文化，政治，文芸などについてスペイン語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。スペイン語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにスペイン語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学習し、スペイン語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	フランス語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったフランス語圏の社会，文化，政治，文芸などについてフランス語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。フランス語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにフランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学習し、フランス語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	中国語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかった中国語圏の社会，文化，政治，文芸などについて中国語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。中国語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでに中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学習し、中国語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ハングルの言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったハングル圏の社会，文化，政治，文芸などについてハングルの中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。ハングル圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにハングルⅠ・Ⅱ・Ⅲを学習し、ドイツ語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ドイツ語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったドイツ語圏の社会，文化，政治，文芸などについてドイツ語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする．ドイツ語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学習し、ドイツ語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Internet Research	今や国際的な情報収集・情報提供・コミュニケーションのツールとなっているインターネットの様々な機能を使いながら、ネット上に現れる英語表現やネット操作のスキルを身につけ、テーマに関する調査レポートを作成することを目的とする。まずは、英語でのe-mailの書き方を学び、学期中盤以降は一定のテーマに関するデータや研究を収集し、その調査結果を受講者各自がプレゼンテーションすることを目標とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Business English A	「Business English A、B」はビジネスシーンにおける実践的な英語コミュニケーション力の養成とビジネスマナーの常識の修得を目的としている。 I ではスケジューリング、電話、e-mailの作成、接待、会議などをテーマに、必要な語彙や基本知識を学習のうえ、特にSpeaking と Writing に力点をおき、ロールプレイなどを通じて、基礎的なビジネス英語を身につける。TOEICテストに現れるビジネス英語が実際のビジネスシーンでも使われることを確認し、テストのスコアアップにもつなげることを目指す。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Business English B	「Business English A、B」はビジネスシーンにおける実践的な英語コミュニケーション力の養成とビジネスマナーの常識の修得を目的としている。 Ⅱでは販売、マーケティング、出張、契約、データの分析などをテーマに、必要な語彙や基本知識を学習のうえ、特にReading と Listening に力点をおき、ビジネス文書（資料や社内告知など）の読解や関連場面に関する音声問題の演習に取り組む。TOEICテストに現れるビジネス英語が実際のビジネスシーンでも使われることを確認し、テストのスコアアップにもつなげることを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Multi Media English	この科目はマスメディアを国際語である英語を通じて複眼的に見ることを身につけることを目的とする。そのために国内外の新聞やテレビをはじめ雑誌やインターネットなどに現れる英文や音声、動画を教材とし、時事的な話題に関する基礎知識や、ニュース英語特有の表現や文法を学ぶ。教材の読解、視聴から始め、学期末には受講者各自が選んだテーマについてのプレゼンテーションや記事の執筆を行うことを目標とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	English Proficiency Test V	この科目は「English Preficiency Test Ⅰ ～IV」のうち2科目を修得した学生を対象に、さらなる英語検定試験でのスコアアップを目的としている。レベルテストによってクラス分けし、それぞれのレベルや目的に合った教材を使用して授業を展開する。TOEIC,TOEFLおよびIELTSテストにおけるスコアアップのため、Reading, Listening, Speaking, Writing のうち、Readingに最も力点をおきつつ、４技能偏りない英語力を身につけ、英語力を向上させる。また、国際地域学科の専門的な学問分野の学習や研究に必要となる、アカデミックな文献の読解に必要となる英語力を養成するための問題演習を行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Interpersonal & Persuasion/Management	グローバルリーダーには数多くの能力が求められるが、人を牽引する力量を備えたリーダーたるためには、技術的なコンピテンシーだけでなく、職場内の意欲（モチベーション）や他者の能力を引き出すための対人関係スキルが必要とされる。本科目では、他人の意見を聞き、コミュニケーションを図り、説得し、やりがいを与え、協力する能力（EQを超えた「ＳＱ」（社会性の知能指数））といった英語での対人関係スキルを総合的に学習する。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Debating Theory, Skills & Practices	会議や交渉といったビジネスの場や国会のような政治討論の場に限らず、誰しもが日常、「テーマを設定し、データを集め、問題枠を作り、複数の議論パターンを考え、自説を主張し、相手に反駁する」という経験をしている。加えて、グローバル化が最早抗しがたい世界の潮流となる中、英語による論理的・批判的思考力、表現力、説得力といった能力が他国民と有効な英語コミュニケーションを図るうえでの必須の能力として求められている。この点、英語ディベートは「思考・表現技術」「調査技術」「コミュニケーション技術」「問題解決技術」を総合的に磨くことができる。本科目は英語ディベート入門編であり、基礎理論（論題キーワードの明確な定義、客観的意見と主観的意見の相違、意見の補強手法、強い理由付け）と実例を織り交ぜながら英語コミュニケーション能力や論理的思考方法の育成を図る。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Intercultural Communication	異文化間コミュニケーションが均等の位置にある複数の当事者の間に行われるものではない。支配的な言説の中では優勢の声が拡大され劣勢の声が消去される。悪化している不平等や格差が中々改善されない原因の一つは下位に置かれている（サブアルタン）人々の声が支配階層には届かない。グローバル市場に不可視となっている人々とのコミュニケーションの課題を取り上げる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Negotiation Theory, Skills & Practices	本科目では、立場(position)と利害(interest)を分離してWin/Winの合意形成に到達するためのPrincipled Negotiation手法（今日の交渉学の主流を占めるハーバード流交渉学）を英語で集中的に学ぶと同時に、交渉に必要な英語表現を網羅的・体系的に学ぶ。講義では世の中のあらゆる交渉事例を研究対象として、交渉の基礎理論とケース・スタディとを適宜織り交ぜ、幅広い知識の吸収と交渉の実際面への応用を目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Presentation Skills	グローバル社会では、会議、式典やイベント、会社の行事などの中で、立場上英語でプレゼンをしなければならない場面も多く、プレゼンテーションをいかに楽しく、魅力的にこなすかということが求められる。「プレゼンテーション」は内容、構成、話し方の３つの要素で成り立っているが、本科目では、姿勢や目線の配り方、顔の表情、声の使い方や間のとり方、ジェスチャーの使い方、アガリの撃退方法など、英語で行うプレゼンテーションのポイントや具体的な事例を元にした実戦的なアドバイスを行う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Leadership Communication	政治・経済面での広範囲なグローバル化が進む中、企業幹部や政治指導者など官民トップの強力なグローバル・リーダーシップが益々求められる時代にあって、グローバル企業であれば従業員向け挨拶、商品発表、決算発表などの場で、政治家であれば有権者集会や記者会見などの場において、特定の聴衆やメディアの前で話す内容がウェブ動画中継などを通じて不特定多数に視聴され、トップのレピュテーションがグローバルに形成されるケースも増えている。本科目では、パブリックスピーキングを含めたリーダーの英語コミュニケーション力（言語力、パフォーマンス力、アピール力）が企業業績や政治生命、ひいては国力を大きく左右する重要なスキルになってきているとの認識のもと、これらの技能を総合的に鍛え上げる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Introduction to Postmodern Thought	戦後から80年代までの間、世界がどうやら本質的に変わり、ポストモダンの時代に入ってきたという、数多くの思想家や芸術家の考えを紹介する。普遍性、進歩、理性や自由に生きる個人などの基礎的な近代理念に対する信仰が様々な観点から攻撃され致命的な打撃を受けた我々の生きる時代をどう理解すればいいのか。2011年3月11日以降の日本も取り上げる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Introduction to Postcolonial Thought	植民地化の危険性に晒され、大日本帝国に変遷した明治時代の日本の独特な歴史を踏まえつつ、西洋思想がいかに欧米を中心とした帝国主義支配と結びついているのかを追及する。国民国家の思想、政治、経済などの構造で支配下に置かれている女性、先住民や植民地化された人などの、抑圧や暴力に対する様々な抵抗も取り上げる。グローバル化の不均衡が不可視された帝国主義の継続ではないかという分析も試みる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Advanced Negotiation Theory & Skills	本科目では、立場(position)と利害(interest)の分離、Win/Winの合意形成、Principled Negotiationといった交渉理論および交渉に必要な英語表現の基礎を既習の学生を対象に、経済学（ゲーム理論）、心理学、政治学、法学、ビジネススクール、都市計画学などの学際的アプローチをも取り入れつつ、ケーススタディを多く取り入れて、一段進んだ交渉理論の理解と実務面への応用を目指す。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Advanced Debating Theory & Skills	本科目は、英語ディベート入門既習の学生を対象に、実戦的な英語ディベート事例を深く解読することで、英語ディベート全体の流れを再確認しつつ、相手の議論の骨子を過不足なく把握する手法、論理的誤謬を見抜いて反駁する手法、質問に効果的に反論する手法、聴衆やジャッジにアピールするボディ・ランゲージなどの応用技術を学び、英語ディベート力に一段と磨きをかける。また、相手からの反証と複数の議論パターンを事前に予測し、それぞれに応じた立論を作成することで、自分だけでなく、異なる視点からの見方を考え、問題「解決」だけでなく、問題「発見」能力をも養う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ＩA	この科目は学部留学生１年生の必修日本語科目である。大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。講義を聴き取りノートをとるスキル、課題についてクラスメイトと日本語で話し合い協力して解決するスキル、効果的にプレゼンテーションをするスキルを養う。同時に、大学の講義で扱う内容に近い聴解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ＩB	この科目は学部留学生１年生の必修日本語科目である。大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。大学レベルの読み物を用いた読解タスクで、素早く大意をつかみ要約するスキル、熟読し考察し自分の意見をまとめるスキル、情報を収集しレポートを書くスキル、筆記問題に限られた時間で回答するスキル等を身につける。同時に、大学の講義で扱う内容に近い読解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ⅡA	この科目は日本語ＩＡに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ＩＡと異なるジャンルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ⅡB	この科目は日本語ＩＢに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ＩＢと異なるジャンルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ⅢA	この科目は日本語ⅡＡに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅡＡより高いレベルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ⅢB	この科目は日本語ⅡＢに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅡＢより高いレベルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ⅣA	この科目は日本語ⅢＡに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅢＡより高いレベルの聴解タスクを扱うとともに、一年生の仕上げとして、日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、ディスカッションやプレゼンテーションにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	日本語ⅣB	この科目は日本語ⅢＢに接続する学部留学生必修日本語科目であり、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅢＢより高いレベルの読解タスクを扱うとともに、一年生の仕上げとして日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。読解課題から高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、考察と論の組み立てにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	応用日本語ＩA	この科目は学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の能力試験は、日本語能力試験やJ.TESTなどいくつか存在するが、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	応用日本語ＩB	この科目は学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の試験で、特に就職に関連した試験はいくつか存在するが、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	応用日本語ⅡA	この科目は応用日本語ＩＡに接続する科目であり、学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の能力試験において、応用日本語ＩＡより高いレベルを目指し、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	必修	応用日本語ⅡB	この科目は応用日本語ＩＢに接続する科目であり、学部留学生２年生以上の必修日本語科目である。外国人を対象とした日本語の試験で、特に就職に関連した試験において、応用日本語ＩＢより高いレベルを目指し、現在持っている資格より高い資格を取得できるよう、文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能を高める。試験問題に親しむだけでなく、総合的な実力の向上を目指すものである。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅢA	この科目は学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」の４つの技能のうち、特に「聴く」・「話す」力を高める。また、大学生活で必要なアカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅢB	この科目は学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」の４つの技能のうち、特に「読む」・「書く」力を高めるとともに、アカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅣA	この科目は応用日本語ⅢＡに接続する科目であり、より上の内容を扱う学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」などの４つの技能のうち、特に「聴く」・「話す」力を高めるとともに、アカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅣB	この科目は応用日本語ⅢＢに接続する科目であり、より上の内容を扱う学部留学生２年生以上の選択必修日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、全般的に日本語能力を高めるための授業で、既にこのレベルの学習を終えている者は英語を履修する。文法や語彙などの知識に加え、「読む」「聴く」「話す」「書く」の４つの技能のうち、特に「読む」・「書く」力を高めるとともに、アカデミックジャパニーズ・スキルも適宜導入する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ＶA	この科目は学部留学生３年生の選択日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。講義を聴き取りノートをとるスキル、課題についてクラスメイトと日本語で話し合い協力して解決するスキル、効果的にプレゼンテーションをするスキルを養う。同時に、大学の講義で扱う内容に近い聴解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ＶB	この科目は学部留学生３年生の選択日本語科目である。入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。大学レベルの読み物を用いた読解タスクで、素早く大意をつかみ要約するスキル、熟読し考察し自分の意見をまとめるスキル、情報を収集しレポートを書くスキル、筆記問題に限られた時間で回答するスキル等を身につける。同時に、大学の講義で扱う内容に近い読解タスクを通じて、大学レベルの語彙・文法を習得する。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅥA	この科目は応用日本語ＶAに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ＶAと異なるジャンルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅥB	この科目は応用日本語ⅤBに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅤBと異なるジャンルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、現代日本をよりよく知る話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅦA	この科目は応用日本語ⅥAに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅥAより高いレベルの聴解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、ノートをとり、まとめ、ディスカッションやプレゼンテーションにつなげていく。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅦB	この科目は応用日本語ⅥBに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつけるⅥBより高いレベルの読解タスクを扱い、講義に関係する話題のほか、様々なジャンルの話題をとりあげ、異なる分野の語彙・表現を習得するとともに、素早く大意をつかみ要約したり、テーマに応じて情報を収集し考察して自分の意見をまとめレポートを作成したりする課題に取り組む。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅧA	この科目は応用日本語ⅦAに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「話す」「聴く」力をつける。ⅦAより高いレベルの聴解タスクを扱うとともに、一年間の仕上げとして、日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、ディスカッションやプレゼンテーションにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Japanese（留学生）	選択	応用日本語ⅧB	この科目は応用日本語ⅧBに接続する選択日本語科目であり、入学時の日本語が初級レベルの実力であった学生を対象とし、既にこのレベルの学習を終えている者は履修できない。アカデミックジャパニーズ・スキルのうち、とくに「読む」「書く」力をつける。ⅧBより高いレベルの読解タスクを扱うとともに、一年間の仕上げとして日本語を使う場面で自律的に学習また行動できる力を養う。読解課題から高いレベルの語彙・表現を習得するとともに、考察と論の組み立てにより説得力をもたせる工夫をする。学生の日本語能力に応じてクラス分けし、各クラスに適切な内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes IA Listening/Speaking	Students will study academic content in order to obtain TOEFL-ITP scores above 450 points. This course introduces authentic listening content and engages students in spoken discourse on academic topics. Students will learn the process of inquiry and practice all kinds of question patterns. The content is demanding as the material is authentic. Students learn the skills and strategies needed to maximize their scores on language proficiency tests. TOEFL-ITPで450点以上取得するためのアカデミックな内容を学ぶ。ネイティブスピーカーを対象としたリスニング教材を用いてアカデミックな内容についてディスカッションをする。質問のプロセスや様々な質問のパターンを学ぶ。本格的な教材を用いるため取り組む課題の多い内容である。語学能力試験でスコアを高めるために必要なスキルとストラテジーを学ぶ。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅠB Reading/Writing	Students will study academic content in order to raise their TOEFL-ITP scores above 450 points. This course introduces authentic reading materials and engages students in written discourse on academic topics. The readings are authentic texts and students must acquire academic vocabulary. Accurate grammar, punctuation and language use are important components in this stage of academic report writing. Students will learn the fundamentals of developing a thesis in their written work. Additionally, students will learn the skills and strategies needed to maximize their scores on language proficiency tests. TOEFL-ITPで450点以上を取得するためにアカデミックな内容を学ぶ。本格的なリーディング資料を用いてアカデミックな内容についてディスカッションを行う。取り扱うリーディングはネイティブの人々が使う内容であり、アカデミックな語彙が必要である。正確な文法、句読点や言葉の使い方はアカデミックレポートライティングの重要な構成要素である。論文作成能力を向上させる基礎を学ぶ。さらには、語学能力試験で最大限スコアを向上させるためのストラテジーやスキルを学ぶ。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅡA Listening/Speaking	Students will study challenging academic content in order to obtain TOEFL scores above 500 points on the TOEFL-ITP exam. The intention is to have students qualify for international exchange programs. This subject is suitable for students with TOEFL-ITP scores between 450 to 460 points or higher. This course uses challenging, authentic listening content and engages students in spoken discourse at the lecture and discussion level found in overseas universities. TOEFL test preparatory study material is woven into the subject content. This is a demanding subject and requires a strong, sincere commitment from students. 交換留学に必要なTOEFL-ITPで500点以上を取得するためのアカデミックな内容を学習する。TOEFL ITPで450点以上を取得している学生を対象とする。チャレンジングで本格的なリスニング内容を使用し、海外の大学レベルのディスカッションや講義で語られる事柄について話をする訓練を行う。また、TOEFLテストに向けた内容を扱う。課題が多く、主体的に取り組む姿勢が求められる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅡB Reading/Writing	Students will study challenging academic content in obtain TOEFL-ITP scores above 500 points. The intention is to have students qualify for international exchange programs. This subject is suitable for students with TOEFL-ITP scores between 450 to 460 points or higher. This course uses real academic content and requires students to have a wide command of academic vocabulary. Students will be required to write academic essays. TOEFL test preparatory study material is woven into the subject content. This is a demanding subject and requires a strong, sincere commitment from students. 交換留学に必要なTOEFL-ITP試験500点以上を取得するためのアカデミックな内容を学習する。TOEFL ITPで450点以上を取得している学生を対象とする。実際に大学等のアカデミックな場面で使用される内容や幅広いアカデミックな語彙を使用する。アカデミックエッセイを書くことが要求される。また、TOEFLテストに向けた内容を扱う。課題が多く、主体的に取り組む姿勢が求められる。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad College Study Skills	This is advanced English for Academic Purposes. Ideally, students have already reached TOEFL-ITP scores of 500 points and have qualified for the overseas exchange program. This subject strengthens all four skills: listening, speaking, reading, and writing. Special emphasis is placed on lecture note-taking, critical thinking, skimming and scanning, speed reading, group participation, discussion, and presentation skills. The content will be real academic texts and the performance expectation on students is high. アカデミックな目的のための上級英語である。TOEFL-ITP500点をすでに取得済の学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を強化する。プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークへの参加、速読、スキミングとスキャニング、クリティカルシンキング、ノートテイキングを学ぶ。内容は、アカデミックなものであり、授業内での高いパフォーマンスが求められる。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	This is a high level English for Academic Purposes writing class. Ideally, students have already reached TOEFL-ITP scores of 500 points and have qualified for an overseas exchange program. This subject moves basic writing skills to an academic level. The students will get experience writing in the complete range of expository genre that are combined in academic essays. Students will get extensive practice working through the writing process: planning, organizing, drafting, revising, and publishing. アカデミックな内容を目的とした高度な英語のライティングクラス。TOEFL-ITP500点をすでに取得している学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。基礎的なライティングスキルからアカデミックな内容までを扱う。アカデミックエッセイで組み合わさる様々なジャンルのライティングを練習する。プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して練習をする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	This is advanced English for Academic Purposes writing. Ideally, students have already reached TOEFL-ITP scores of 500 points and have qualified for the overseas exchange program. Additionally, students should have already completed PSA-Basic Academic Writing. In this subject, students will be required to write full-length term papers. This subject requires students to do independent research, paraphrase, summarize, quote, and reference academic material. Students are required to submit high level work demonstrating they can succeed in overseas study programs. アカデミックな内容を目的とした高度な英語レベルのライティングクラスである。TOEFL-ITP500点をすでに取得している学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。さらに、PSA-Basic Academic Writingを履修していることを前提としている。長文のペーパー執筆が課される。自由研究をする中で、言い換え、要約、引用、アカデミックな資料の収集・整理が課される。海外留学を成功させるための質の高い課題の提出が求められる。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Business English Communication	本科目では、コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキルなどの効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行などのビジネススキルを身につけさせることも目的としている。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Integrated Japanese Ⅰ	本科目は、留学生を対象とした日本語の言語科目である。日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級前半レベルの総合的な技能を習得し、日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙などを学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Integrated Japanese Ⅱ	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Interagted Japanese Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、初級後半レベルの総合的な日本語コミュニケーション能力を身につけることである。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な文法や語彙などを学習し、身近な出来事について表現し、日本語のメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Integrated Japanese Ⅲ	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Integrated Japanese Ⅱ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、中級前期から中期レベルの日本語能力を獲得することにある。内容は、学習者の身近なトピックについてディスカッションを交えながら読む・聞く・話す・書くの四技能が総合的に高められるように構成されている。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Integrated Japanese Ⅳ	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Integrated Japanese Ⅲ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、中級中期から後期レベルの日本語能力を獲得することにある。内容は、学生の身近なトピックから評論文などまで幅広い題材を扱い、ディスカッションを交えながら読む・聞く・話す・書くの四技能が総合的に高められるように構成されている。週4回、月曜日から木曜日まで開講される。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Reading and Composition Ⅰ	本科目は、留学生を対象にした日本語の読解と作文のクラスである。日本語能力レベルは初級前半であり、主な目的は日本語の四技能の中でも、特に読み書きの基礎的な能力を身につけることである。授業では、簡単な初級前半レベルに必要な読み書きができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や日常会話、メッセージを書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Reading and Composition Ⅱ	本科目は、「Japanese Reading and Composition Ⅰ」を履修した学習者もしくはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象にした日本語の読解と作文のクラスである。目的は、日本語の四技能の中でも、特に初級後半レベルの基礎的な読み書きの能力を身につけることである。授業では、大学生活に必要な読み書きができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や簡単な会話、メッセージを書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Reading and Composition Ⅲ	本科目は、「Japanese Reading and Composition Ⅱ」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象としている。大学生活に必要な作文力と読解能力の習得を目的とし、論理的な文章を読むトレーニングや、説明文、意見文、短いレポートを書くといった文章表現技術を学ぶ活動を行う。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Reading and Composition Ⅳ	本科目は、「Japanese Reading and Composition Ⅲ」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象としている。論理的文章の読解力とアカデミックライティングの力を育成する。活動の中心は「読む」・「書く」であるが、ほかに話し合いや発表を通して、主体的にかつ論理的に理解・表現できるようになることを目指す。履歴書やエントリーシート、研究計画書の書き方といった卒論や卒業後の進路に関わるものについても概説し、実践活動に取り組む。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Kanji Literacy Ⅰ	本科目は、留学生を対象にした漢字クラスである。取り扱う漢字は、初級前半レベルの約100の基本的な漢字であり、学期末までにそれらをマスターすることを目的としている。授業では、毎週約10ずつ学習し、ペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な漢字、語彙を中心に学び、それらを使って簡単な文を書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Kanji Literacy Ⅱ	本科目は、「Kanji Literacy Ⅰ」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象としている漢字クラスである。取り扱う漢字は、初級後半レベルの約100の基本的な漢字であり、学期末までにそれらをマスターすることを目的としている。授業では、毎週約10ずつ学習し、ペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な漢字、語彙を学習し、それらを使って簡単な文を書いたり読んだりする。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Kanji Literacy Ⅲ	本科目は、「Kanji Literacy Ⅱ」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象としている漢字クラスである。取り扱う漢字は、中級前期から中期レベルの漢字（125～250）であり、読み・書きともに習得することを目的としている。また、学生生活を営む上で必要な漢字を関連するものとして取り扱う。当該漢字のルーツや成り立ちについて、あるいは熟語についてディスカッションを通して学ぶ活動も行われる。週1回、全15回開講される。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Kanji Literacy Ⅳ	本科目は、「Kanji Literacy Ⅲ」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの日本語学習を終了した学習者を対象としている漢字クラスである。取り扱う漢字は、中級中期から後期レベルの漢字（125～250）であり、読み・書きともに習得することを目的としている。学生生活を営む上で必要な漢字からアカデミックライティングに必要な漢字まで扱う。当該漢字のルーツや成り立ちについて、あるいは熟語についてディスカッションを通して学ぶ活動も行われる。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Project Work Ⅰ	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプジェクト・ワークに取り組む。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Project Work Ⅱ	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目であり、「Project Work Ⅰ」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象としている。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Project Work Ⅲ	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目であり、「Project Work Ⅱ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館などの施設での野外調査も行う。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Project Work Ⅳ	本科目は、留学生を対象とした日本語の科目であり、「Project Work Ⅲ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。アカデミックスキルとしての情報活用や分析、プレゼンテーションの方法を学ぶことを目的とし、レポートや口頭発表の手法、実践、相互評価に取り組む。公的な場、あるいは、アカデミックな場における表現についても学ぶ。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Listening Comprehension Ⅰ	本科目は、留学生を対象にした日本語の聴解クラスである。目的は、初級前半レベルの日本語の四技能の中でも、特に聴解能力に焦点を当て、コミュニケーション能力を身につけることである。授業では、大学生活に必要な基本的な聞き取りができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や会話を聞き取る練習などを行う。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Listening Comprehension Ⅱ	本科目は、「JapaneseListening Comprehension Ⅰ」を履修した学習者もしくはそれ相当の日本語学習を終了した学習者を対象とした初級後半レベルの日本語の聴解クラスである。目的は、日本語の四技能の中でも、特に初級後半レベルの基礎的な聴解能力を身につけることである。授業では、大学生活に必要な聞き取りができるようになるため、様々な教材を使用し、短文や会話を聞き取る練習などを行う。週1回、全15回開講される。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Listening Comprehension Ⅲ	本科目は、「Japanese Listening Comprehension Ⅱ」を履修した学習者もしくはそれ相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。聴解力を向上させるために必要なストラテジーを学ぶトレーニングに取り組みながら、徐々に生の情報（テレビやラジオのニュース、インタビュー番組、CM、ドラマ、対談、アニメーションなど）に触れ、学生生活に必要な聴く力を育てる。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Listening Comprehension Ⅳ	本科目は、「Japanese Listening Comprehension Ⅲ」を履修した学習者もしくはそれ相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。聴解力を向上させるために必要なストラテジーを学びながら、ある程度の長さを持つ発話や物語（講義、映画、ドラマ、ドキュメンタリーなど）を聴き取る活動に取り組み、一定の情報の中から要点を聴き分ける能力、すべての語が理解できなくとも大意を把握する能力、判別できない語を類推する能力などの育成も行う。週1回、全15回開講される。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Culture and Society A	This course is designed to provide a general introduction to the diversity of culture and lifestyles through experiential learning.The purpose of this course is not to describe what Japanese culture and society are. Rather, it focuses on experiencing and discussing them. For this purpose, a variety of videos will be used, as well as demonstrations, and field trips will be arranged. 本科目は、留学生を対象に、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、授業では様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップなどが行われる。授業は英語で行われ、主に「歴史」「芸術」「スポーツ」「教育」「住宅」「家族」などのキーワードを中心に授業を展開していく。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Japanese Culture and Society B	This course is designed to provide a general introduction to the diversity of culture and lifestyles through experiential learning. The purpose of this course is not to describe what Japanese culture and society are. Rather, it focuses on experiencing and discussing them. For this purpose, a variety of videos will be used, as well as demonstrations, and field trips will be arranged. 本科目は、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、授業では様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップなどが行われる。授業は英語で行われ「落語」「和太鼓」「日本舞踊」「祭り」「ソーラン節」などの日本文化を中心に取り扱う。	
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Introduction to Japanology A	本科目は、「Japanese Culture and Society B」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象としている。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学ぶ。週1回、全15回開講される。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	日本語・日本文化科目	Introduction to Japanology B	本科目は、留学生を対象とした言語科目であり、「Introduction to Japanology A」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象としている。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化などと併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら進められる。週1回、全15回開講される。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域		ミクロ経済学Ⅰ	本講義では、効率性、トレードオフ、機会費用、経済学におけるモデルの利用 、相互依存と交易（貿易）からの利益、比較優位の原則、市場における需要と供給の作用、需要の価格弾力性・供給の価格弾力性とその応用、価格規制や税金などの政府の政策の効果、余剰分析・市場の効率性、消費者選択の理論などを扱う。目標は体系的なミクロ経済学の知識を学び、現実の問題に応用できることである。評価は宿題、確認テスト、中間テスト、期末テストの結果によりおこなう。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域		国際協力論	本講義では、国際協力・開発援助に関する枠組みや開発理論（潮流）の変遷、さらに最近の課題やアプローチについて広く体系的に理解をして、基礎力を養うことを目指す。また、開発援助のアクターについても学び、自分自身が将来的に国際協力にどのような形で関わる可能性があるのか、身近な事例を紹介しながら具体的なイメージを持ってもらうことを目指す。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域		農村地域開発論	途上国では農村部に多くの人口が住み、生計を営んでいる。同時に途上国の貧困は、一般に農村部でより先鋭化した形で現れる。したがって、貧困削減を進めるには、農村部の経済・社会の仕組みの理解が不可欠である。本講義では、農村開発を考えるベースとなる基礎的な概念を、主に経済の側面から議論する。そのうえで、東南アジアの事例を用いながら、こうした基礎的な概念が一カ国の農業政策や農村開発にいかに具体化されているのかを考える。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域		政治学	影響を及ぼす政治の概念について説明した後、政治過程論の手法に則り、政治決定に影響を及ぼす諸要因について講義する。主な項目は、①政策決定者の心理、信条②官僚制、③議会、④圧力団体、⑤世論、⑥メディア及びオピニオンリーダー⑦法規範⑧国民性及び政治文化など。その後、西洋政治思想史の概要について、古代ギリシャ・ローマの思想から中世・近世思想、そして現代思想（ネオリベラリズムやリバタリアニズム、コミュニタリアニズム）までを取り上げて、時代毎の代表者の思想を紹介する。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域		国際政治学Ⅰ	冷戦後の国際政治の状況について講義を進める。まず冷戦の終焉と国際政治構造の変容（イデオロギー対立から宗教対立へ、文明の衝突論、デモクラティックピース論、グローバルスタンダードとアイデンティティの危機等）について説明の後、世界の主要地域の国際政治情勢と課題について説明を進める。取り上げる主な地域は、①アメリカ：覇権衰退論の行方②ロシア：プーチン政権とウクライナ問題等③ＥＵの統合と移民流入問題④中東：パレスチナ和平、シリア内戦とイスラム国、イランの核開発、アラブの春のその後④中国の大国化と東アジアの緊張⑤北朝鮮核問題など	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	国際政治学Ⅱ	国際政治学で採りあげたアメリカ衰退論をより精しく学ぶため、アメリカの政治文化、歴史、外交・国際関係について講義する。①アメリカの地誌と風土②アメリカ発展の歴史（「新大陸発見から独立まで」、「南北戦争からマニフェストデスティニー～後期帝国主義の時代」「二度の世界大戦と覇権国家への途」「冷戦の時代とパクスアメリカーナ」）③アメリカの社会問題（移民、黒人差別、ネイティブアメリカ、新移民、特にヒスパニック問題）④アメリカの大統領政治と二大政党制の行き詰り⑤アメリカの銃問題とLGBT,宗教右派の影響、⑥アメリカ外交の特徴と問題⑦アメリカの派遣は終演したか	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	開発経済論	世界（中南米、アジア、日本、米国など）の開発／発展(development)の問題を理解する。具体的に言うと、豊かな国と貧しい国のルーツをたどり、グローバル化との関係をさぐる。まず、イギリスのグローバル化と産業革命を学び、ドイツ・米国のキャッチアップ、インドの工業化の挫折、米州における南北格差の拡大、アフリカの貧困、近代ロシアと日本のキャッチアップ、ソ連・戦後日本と東アジアの奇跡を経済史および経済学の視点から学ぶ。英文テキストと和文テキストの両方を用いる。	隔年
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	国際金融論	本科目は、本学科の上位科目の内容をより理解するために必須であると同時に、将来社会人になってビジネス社会で仕事をする際にも必要なものです。 本講義の目的は、国際金融に関わる理論を学ぶことです。他に、歴史と政策（応用）の分野がありますが、半学期のこの講義では理論をしっかり身につけていただきます。ただし、講義の理解を深めるため、現実の政策課題や歴史も必要に応じて取り上げます。国際経済学は別に開講されます。	隔年
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	International Finance	この科目では、国際金融と開発金融に関する理論を学ぶ。講義の主体は、先進国経済圏について、世界的な金融危機などを引き合いに出しながら、民間や公共の金融システムの理解を深めることを目的とする。しかし、他の多くの国際金融に関する講義が先進国経済における講義であるのに対し、国際金融をより幅広い視点で捉えるために、開発途上国における開発金融についても取り上げて開設をする。なお、講義は英語で行われる。	隔年
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	マクロ経済学Ⅰ	本講義では、ＧＤＰ、名目と実質、ＧＤＰの三面等価、総需要と総供給、新古典派とケインジアン、45度線分析、乗数効果、貨幣の機能、信用乗数、貨幣需要関数、貨幣の流通速度、ビルトインスタビライザー、ＩＳ―ＬＭ分析財政・金融政策、フィリップス曲線、などを扱う。目標は体系的なマクロ経済学の知識を学び、現実の問題に応用できることである。評価は宿題、確認テスト、中間テスト、期末テストの結果によりおこなう。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	マクロ経済学Ⅱ	本講義では、労働市場の機能と失業問題、自然失業率、インフレーションとデフレーション、財政破綻と財政健全化、流動性の罠、インフレーションターゲティング、為替レートの決定、購買力為替レート、固定相場制度と変動為替相場制度、経済成長、人的資源、全要素生産性、などを扱う。目標は体系的なマクロ経済学の知識を学び、現実の問題に応用できることである。評価は宿題、確認テスト、中間テスト、期末テストの結果によりおこなう。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	ミクロ経済学Ⅱ	本講義では、課税の費用、死荷重、貿易の決定要因や関税の効果を含む国際貿易、外部性による市場の非効率性と内部化・コースの定理、公共財と共有資源、生産の費用、競争市場における企業、短期と長期の費用曲線、供給曲線の導出、独占、独占的競争、寡占、生産要素市場などを扱う。目標は体系的なミクロ経済学の知識を学び、現実の問題に応用できることである。評価は宿題、確認テスト、中間テスト、期末テストの結果によりおこなう。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	国際経済学	本科目は、本学科の上位科目の内容をより理解するために必須であると同時に、将来社会人になってビジネス社会で仕事をする際にも必要なものです。 本講義の目的は、国際経済に関わる理論を学ぶことです。他に、歴史と政策（応用）の分野がありますが、半学期のこの講義では理論をしっかり身につけていただきます。ただし、講義の理解を深めるため、現実の政策課題や歴史も必要に応じて取り上げます。国際金融論は独立に開講されます。	隔年
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	Japan and the World Economy	この科目では、日本の経済と世界の経済の関係を学ぶ。講義の主眼は、日本の貿易、対外投資、ODAを含む対外援助などから、日本と世界の経済関係ついて的確な理解をするための理論を学ぶことにあるが、他の同様の講義が日本と先進国との経済関係に着目した講義であるのに対し、本科目では、開発途上国との関係にも着目した講義と議論を行う。なお、本講義は英語にて実施する。	隔年
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	アジア経済論	世界経済の中でアジア地域は大きな位置を占めるようになっているが、その一方でアジアの国々の中で著しい発展を遂げた国と、成長軌道に乗れない国があるのも事実である。その原因を、歴史的展開、開発政策とその背景にある思想、また経済発展におけるアクターやグローバル経済との連関等に着目しながら、包括的に理解することを目的とする。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	開発と異文化理解	開発援助における潮流は、貧困削減を中心課題に据え、人間中心の開発あるいは個々の人間をとりまく社会の開発へとシフトしてきた。本講義では、このような開発支援を行おうとする場合、プロジェクトの現場の社会や人々を十分に理解すること（つまり「われわれ」にとっては「異文化」の「理解」）がいかに重要かを、理論背景のみならず事例研究について、講義およびグループ演習を通じて学ぶ。	隔年
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	食料問題論	人間が生きていくうえで不可欠なのが食料である。現在、世界を見渡すと先進国では飽食が問題となる一方、途上国では飢餓に苦しむ人々がいる。前半の講義ではこうしたアンバランスな状態にある食料問題の現状がいかなる構造的な問題から生じているのか、その結果どのような問題が起きているのかをまず考える。後半の講義では、そうした世界の食料問題の構造に深く埋め込まれている日本の農業・食料問題に焦点を当て、現状と課題を理解する。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	比較政治学	比較政治学とは、外国の政治に関する情報を提供し、複数の国や地域や時代の政治現象について、事実や因果関係を明らかにし、理論を導き出そうとする学問である。政治現象とは何か、何を比較するのかを知るために、比較政治学における主要テーマとして、国家建設、民主化、政治制度、選挙、政党システム、大統領制と議員内閣制、政治文化、福祉国家、市民社会を扱う。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	国際関係史	大航海時代から最近の中国の台頭まで、約6世紀にわたり欧米の国際関係の推移を講義する。①中世の終焉と都市国家ベニスの繁栄②大航海時代とポルトガル・スペインの栄光③海洋帝国オランダの台頭と英蘭戦争④宿敵ハプスブルクとフランスの世紀横断的闘争⑤英仏の覇権死闘とパクスブリタニカの成立⑥ドイツの統一とビスマルク外交⑦欧州二大陣営の対立と第1次世界大戦⑧戦間期外交とヒトラーの台頭⑨第２次世界大戦⑩戦後欧州の復活と統合への動き⑪冷戦構造と米ソの核開発競争⑫米中和解とデタントの時代⑬新冷戦の１０年⑭冷戦の終焉と新世界秩序⑮米中の角逐：アメリカ覇権の動向と新型の国際関係	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	文化人類学入門	この講義では、わたしたちがもつ「人類」としての共通性と、「民族集団」としての個別性について基礎的な知識を習得していく。まず、人類の起源と進化、ならびに世界各地への拡散を論じる。長い進化の過程を経て生み出された共通性を通して、人類についての認識を深める。つづいて、世界各地の民族集団の文化を紹介していく。これによって、異なる自然環境や民族関係の結果として創り出された各民族の特徴についての理解を深めることとする。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	ヨーロッパ地域研究A	現代のヨーロッパ地域を地理、歴史、政治という観点から考える視点と枠組みを身につけることを目的とする。ヨーロッパ（西欧）は近代以降、世界の政治、経済、文化の先進地域として影響力を行使してきたが、20世紀には西欧中心主義的な視点が批判的に議論されるようになった。第二次大戦後の冷戦時期を経て、国際社会が多極化している現在、ヨーロッパ地域について学ぶ意味は何かを考える。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	Immigration and Cross-cultural Issues	今日の世界で人材の流動化がすすみ、移民によって生み出される政治的・文化的な摩擦はますます深刻化している。主要国が高度人材獲得のために誘致政策をとる一方、途上国からの難民を含む移民の受け入れは深刻な政策課題となっている。本授業では、移民の歴史、移民を生み出す経済的、政治的、文化的な要因について考察する。移民にめぐって生み出される諸課題から学び、異文化理解のための教育および政治が果たすべき役割について検証していく。	隔年
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	International Cooperation and Japanese Language Teaching	この科目は交換留学や海外研修、ボランティア等で海外に出る学生が、現地で日本文化紹介活動に携わる際、効果的に活動できるようトレーニングすることを目的としている。折り紙や武道など、日本の学生達も必ず経験したことがあるものでも、それを英語で説明しインストラクターとして教える経験は乏しい場合が多い。教室では全員が英語を使用し、日本文化紹介に役立つ表現を学ぶとともに、クラスメイトを生徒役に見立て実際英語で教えてみることで、実践的なコミュニケーション力を養う。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	人文地理学	本講義では，人間の社会活動と空間との関係に着目し、地域と都市の成り立ちと形態について講義を行う。具体的には、通信と交通の体系と地域との関係、農業をはじめとする地域に根差した産業の成り立ちと形態に着目する。また、人文地理学の分析手法としてさまざまな統計データの利用、地図の活用方法の理解を行うことも目的とする。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	経済地理学	グローバル社会のもとでのローカルなもの（＝地域）が果たす役割について、土地と人間のかかわりや経済活動の空間的パターンの捉え方を理解することを目的としている。主に企業の立地行動や産地構造の変容に焦点をあてて，現代における距離や場所の意味を考察する。学修到達目標としては、①地理学的な思考を構築する。②産業立地に関する主要な概念を習得する。③企業行動や産地構造を空間的な視点で捉える力を養う。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	都市地理学	人間の営みとして成立し発展した都市を対象として、地理学の観点から都市の基本的な特性を理解することを目的として講義を行う。具体的には、都市の誕生と成立、都市の性質と特性、都市の空間的構成、都市の発展の形態などを対象とする。加えて、まちづくりや都市工学、土木工学、社会学などとの関連についても積極的に言及し、地域づくりの手法としての都市地理学の体系を示す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	宗教と社会	グローバル化に伴い、日本国内においても多国籍化が進み、同時に日本ではあまり馴染みのない宗教も次第に身近なものとなりつつある。この講義では、様々宗教がある中でも、人口において世界第二の宗教であるイスラームを主としてとりあげる。日本に暮らすムスリムの数も増加しており、イスラームの基本的な教義から日常生活までを、平易に解き明かし、イスラームへの理解を深めていく。また、日本で暮らすムスリムを講義に招へいし、随時日本人の宗教感覚と対比させる機会を設ける。	隔年
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	アジア地域研究A	この講義では、南アジアの社会と文化について紹介する。とりわけ、インドとパキスタンと言う二つの主要国について詳しく説明する。南アジアにおいて人々の価値観の根幹となっているのは宗教である。ヒンドゥー教とイスラームを中心に、仏教、シーク教、ジャイナ教、キリスト教等をとりあげる。さらに、映画産業、スポーツ、経済成長と拡張するスラム、NGOによる社会開発など、さまざまな社会的側面を論じることで、地域のもつ多様性についての理解を深めることとする。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	アジア地域研究B	アジア諸国の経済の現状を把握した上で、経済開発政策の特徴がいかに各国の経済発展パターンの違いに影響を及ぼしているのかを理解する。単に経済政策にとどまらず、それがいかなる歴史的条件、社会・政治状況を背景として生まれてきたかという視点に目配りしながら、アジア各国経済の共通点、相違点を探っていく。各国別の経済状況をより深く理解するために、受講者による発表を組み合わせて議論を行なう。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	中東地域研究	この講義では、中東とりわけアラブ圏の言語と文化について紹介する。中東では古代から文明が発展し、さまざまな民族が興亡を繰り返してきた。その歴史的な背景についての理解を深めながら、現代社会の特徴について述べていく。アラビア語で書かれたイスラームの聖典クルアーン（コーラン）は、信者にとって「神の言葉」とされている。そのためイスラーム圏においては、アラビア語は特権的な地位を占めている。このアラビアの初歩的な読み書きも、楽しみながら学べる内容とする。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	ヨーロッパ地域研究B	欧州統合は、国際関係においてどのような意義をもつ現象なのか、第三国の日本とはどのような関係にあるのかを理解することを目的とする。EUに向かう欧州の歴史を国際関係史との連動のなかでとりあげ、次にEUの機構・機関を概観し、主な政策、近年の課題について、EUと加盟国、加盟国間の関係をふまえながら扱う。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	アフリカ地域研究	開発と貧困などの諸問題を考える時には、アフリカの重要性は非常に大きいが、日本の高校の地理や歴史では、アフリカについてほとんど学ばない。そこで本講義は、アフリカについて基礎から教える。前半では、アフリカの自然、民族、歴史について概観し、後半では、アフリカ国家と、現代のアフリカが現在直面している諸問題、その一方での急速な経済成長について、学生のグループワークを交えながら主体的に学んでもらう。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	米州地域研究A	映像を利用して、中南米地域を中心とした開発／発展について講義する。日本で生活する学生にとって馴染みの薄い中南米地域について、映画やドキュメンタリーを中心とした映像を使用して中南米地域の実像を得ることを目標とする。毎回、学生は質問レポートを執筆することが求められる。同時にテキストも読み進める。本講義の最終的な目的は、学生にアジアやアフリカ地域との比較を試みてもらうこと、また、国際開発や国際協力の論点を理解してもらうことにある。	隔年

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	米州地域研究B	本講義では、アメリカ合衆国およびカナダについて、総合的に知識を得ることが目標である。新聞・雑誌や研究論文などのテキストを元にした講読・議論、及びニュース、ドキュメンタリー映像や映画を元にした講義・議論により、歴史・政治・経済・文化・社会について学生にバランスのとれた現代の知識を提供する。焦点は20世紀後半から21世紀の実情を理解することにある。本講義の最終目的は、学生に日本やヨーロッパとの比較を試みてもらうことにある。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	ジェンダー論	本講義の目標は三つある。第一に、アイデンティティと役割が日本と世界において社会的に形作られていることを理解することである。第二に、社会と文化がジェンダーに影響を与え、そして、ジェンダーが社会と文化に影響を与えることである。第三に、日本を他国と比較してジェンダーのあり方を探ることである。講義は参加型でおこない、テキストをもとに議論を中心におこない、出席・参加、グループワークでの発表とレポートの作成によって評価する。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	国際協力と日本語教育	この科目は交換留学や海外研修、ボランティア等で海外に出る学生が、現地で日本語教育活動に携わる際、効果的に活動できるようトレーニングすることを目的としている。日本語学や日本語教育学の授業を履修したことのない学生も、海外で日本語を教えてほしいと依頼されることは多い。授業では基礎知識を厳選して学び、日本語学習者からの想定外の質問に対しても、自分の知っている日本語の例文からある程度の文法規則を導き出せるようにする。また、与えられたテーマで実際にクラスメイトを生徒役にして教える実習をし、初めて外国語として日本語を学ぶ学習者の立場に立って考えられる力を養う。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	Regional and Urban Sociology in Asia	「アジア社会論」として位置づける。アジア諸国とりわけ東南アジア諸国を取り上げて、それぞれの地域、国の特質を社会、文化、経済等の諸活動を取り上げて、まずアセアン諸国の概要を理解する。次に、当該地域の共通テーマの一つである貧困層を含むコミュニティの開発とそのプロセスについて、タイにおいて構築された開発プログラムの実践を通してコミュニティ開発の全体像と、東南アジアにおけるコミュニティの本質を理解する。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	Japanese Economy and Business	本講義は、英語でおこない、ビジネスの視点から日本経済を学ぶことを目標としている。取り扱うテーマは主に技術革新とマーケティング、および、上記二つに関わる指導性である。トピックには低公害エンジンの開発、コンビニエンス・ストアの立地戦略などが含まれる。学生が学ぶツールは、Icebreakの諸技術、SWOT分析、4P分析、Five Forces Analysisなどである。前半は担当者が主導するが、各種の並び替え、ペアワークを用い、参加型でおこない、後半はグループ発表、個人発表でおこなう。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	Cross Cultural Issues	本講義の目的は二点である。第一に、学生が国際文化コミュニケーションに関わるテーマについて意見を言えるようになることである。第二に、日本について学生が説明したりプレゼンテーションしたりできるようになることである。現在の世界においてますます重要になってきている英語コミュニケーション能力を醸成するため、英語での読み書きについても支援を行う。特に、アメリカ合衆国との比較を念頭において参加型授業になるように念頭をおいて英語で授業をおこなう。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	社会保障論	年金や医療保険制度等の社会保障制度について、日本の現状を中心に制度の機能と構造について解説する。さらに、少子高齢社会の進展や人口減少、経済変動やグローバル化の進行等による社会保障制度への影響への理解を促す。制度と現実を結び付けられるようAV資料等を用いて具体例を提供しながら、制度の抱える課題、今後どう変化していくのかを学生が理解し、自ら検討できるようにする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	Participatory Development	国際協力において参加型開発は貧困層や草の根の人々の声を取り入れる重要なアプローチとなっている。本講義では、その参加型開発の基礎を学び、参加型開発で使われる手法をワークショップ形式で実体験しながら習得することを目的とする。授業は全て英語で行い、ワークショップにおける学生同士のグループディスカッションも英語で行う。さらに、参加型手法の実体験を踏まえて、参加開発とその手法の長所や限界について考える。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	社会調査法	社会事象を調査研究する手段として、社会調査法の全体像をまず把握する。講義全体の内容は質的調査、量的調査について講義するが、量的調査に関してはあらましを学ぶことにとどめ、むしろインタビュー法、参与観察法など質的調査に力点をおいてその基礎から学ぶ。また今日のようにマスメディア、電子メディアが発達した社会ではメディアの利用が必須となっているので、社会調査におけるメディア利用についても言及する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地域社会学Ⅰ	日本の地域社会の特質について学ぶ。まず、都市研究のパースペクティブを歴史的に把握し、その具体的な視点を都市の成立、都市の経済、都市の人類学、都市と行政、都市と建築、都市の未来等に切り口を求め考察する。一方、農村に代表される伝統的共同体の特質については、地域社会の形成とそこに成立している諸集団に着目して共同体の特質を学ぶ。また、都市と農村の比較をしながら今日的地域づくりのあり方を考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地域社会学Ⅱ	アジアの地域社会の特質について学ぶ。とりわけ東南アジア社会を取り上げて、都市と農村をとらえ、都市研究のパースペクティブを歴史的に把握し、都市の成立、都市の経済、都市の人類学、都市と行政、都市と建築、都市の未来等に切り口を求める。一方、伝統的共同体の特質については、地域社会の形成とそこに成立している諸集団に着目して共同体の特質を学ぶ。タイの事例を取り上げ、都市と農村の比較をしながらコミュニティ開発のあり方を考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地域福祉論	家族や地域社会、行政区域、国家、国家を超えた地域レベルで行われる多様な福祉活動を取り上げ、その変化の方向性を解説していく。後半は、先進諸国における福祉の在り方を紹介し、国や地域による違いを説明していく。これらを通じて社会福祉の供給構造、社会福祉の多様なあり方を理解し、具体例を用いながら説明できるようになること、福祉国家の地域による違いを説明できるようになることを目指す。	隔年
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	社会政策論	現代社会における諸問題を生活、福祉、労働の視点から検討する。保育や介護、雇用と貧困、年金等のライフステージ上のリスクについての現状と、これらに対する政策対応を取り上げ、日本を中心に、これらの社会政策上の課題の現状と政策対応について解説する。さらに、これらの課題と複雑に絡み合う、少子高齢化、格差、ジェンダー、セーフティネット等についても検討する。社会福祉制度の基本的な構造について理解し、説明できることを目指す。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	行政学	本科目では、行政学の基本的事項を概括的に講義する。内容としては、制度論、政策論、管理論の３つを柱にそれぞれを具体的テーマに沿って展開していく。制度論においては、日本の行政制度、予算制度、官僚制等について講義する。政策論については、政策形成から実施ならびに評価までのプロセスを講義する。管理論においては人事管理や組織管理、さらには昨今のNPMやPPPといった新たな動きについて講義する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地方自治論	本科目では、地方自治に関する基本的事項を概括的に講義する。内容としては、制度論、政策論、管理論の３つを柱にそれぞれを地方自治の具体的テーマに沿って展開していく。制度論においては、日本の地方自治制度、行政制度や政治制度、ならびに地方分権改革など最近の動きにも言及する。政策論においては、まちづくりや環境政策などの基本的な政策分野の概要について講義する。管理論については、行政内部だけではなく、住民やNPOとの協働についてもとりあげる。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	民事法	本科目では、私法の基礎法としての民法の基礎的事項を概括的に講義する。内容としては、民法の物権法と債権法をとりあげる。物権法分野からは、物権の基礎として物権の意義、物権の設定と移転、対抗要件を論じたのち、各論的に所有権について論じる。そのうえで用益物権と担保物権について体系と内容を明らかにしていく。債権法分野からは、債権の基礎として債権の意義、債権総論と各論の体系を論じたのち、各論的に契約法を中心に論じる。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	企業法	本科目では、企業法の基礎法としての会社法の基礎的事項を概括的に講義する。内容としては、会社法分野から、会社法の意義と機能、会社の種類、会社の設立、株式、会社の機関、会社の計算など、会社法の重要部分をとりあげ解説する。また、動きの激しい企業活動に合わせて最近注目を集めている論点、例えば企業合併(M&A)、企業ガバナンスやコンプライアンス（法令遵守）といった事項についても制度改正の議論も踏まえて講義を行う。	隔年
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	都市論	本講義は、都市研究や地域学、地域開発・政策を学習するに当たって必要な基礎領域として位置づけ、都市の本質、都市の形成、発達過程や構造、環境などを様々な視点（地理学、経済学、社会学、都市史、生態学など）から概観していく。まず、都市の概念と立地要因などの都市の原理的な問題を論議する。そして、都市成長と衰退要因、都市空間を構成する要素ついて学ぶ。さらに国家発展における都市の役割、また市民やコミュニティの生活空間についてとりあげ、都市を総合的に考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地域形成論	地域とは、文化、社会、経済などのさまざまな人間活動が複合的な事象となって現れる場である。地域を構成する要素（事象）間の関係や相互作用によって固有の地域性と地域の姿をあらわしており、時間とともに変化する。本講義は地域の形成メカニズムと変化の要因を理解し、その変化が地域特性や地域問題にどのような影響を与えるかについて学ぶ。特に、地域を構成する要素の属性と地域間流動、そしてそれらの相互関係が地域の形成や地域の姿にもたらす影響について学習する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	コミュニティ開発論	かつて国づくりの一つの手段として推進してきたコミュニティ開発は、国家－市場－市民社会の構造的関係の変化に伴い、その内容と方法論において大きな変化を迎えている。本講義では、まずコミュニティと開発の本質について論議し、それを取り巻く環境の変化を理解する。引いて開発理論と開発を構成する基本的要素を学習するとともにコミュニティ開発の活動事例を学び、コミュニティ開発理論と手法を深める。最終的にはコミュニティのあるべき姿を考える。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	都市計画	本講義では、国内外の都市計画に関わる今日的位相を理解することを目的とする。具体的には、まず、今日に至る近代都市計画の潮流を理解した上で、日本、欧米諸国及びアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国それぞれの抱える都市問題の現状と都市計画制度、そして、ベストプラクティスを整理し、今日の都市計画をめぐる課題と展望を考察することとする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	まちづくり手法論	まち歩きやワークショップをはじめまちづくりには、一つの手法ではなく、様々な手法があり、地域の状況に応じて、また、まちづくりの段階に応じて、それらを使い分ける必要がある。本講義では、都市計画やまちづくりに関わる基本的な知識や国内外の様々なまちづくり事例を読み解き、様々なまちづくりの手法を学ぶ。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	まちづくり概論	「まちづくり」がキーワードになって久しい。まちづくりは近代都市計画の限界を超え得るだろうか？　本講義では、都市計画やまちづくりに関わる基本的な知識と国内外のまちづくりに関わる様々な事例を学び、今日のまちづくりに関わる課題と展望を考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地域産業論	グローバル化が進み、そして今後もその趨勢は続くと思われる状況にあって、世界各地で事業を展開する企業も増える一方で、これまで地域の経済や産業を担ってきた地域固有の産業をどうするか、それは、日本・海外、先進国・途上国を問わず、世界共通の課題である。本講義では、グローバル化が進む現在の地域産業をめぐる基本的知識を習得する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	土地・住宅問題	土地・住宅は、経済的には一つの商品であり、社会的には人間生活の物質的基礎と地域社会を構成する基本単位であるため、様々な制度を通じて公的介入が行われている。従って、土地・住宅問題の解明と解決策には総合的な視野と複眼的思考が必要である。本講義では、土地・住宅問題をできるだけ広く捉え、問題の本質、メカニズムと実態、政策課題の考え方などに必要な基礎知識を学ぶ。また、公的介入の現状と効果について理解を深める。	隔年
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	地域とボランティア	この講義では、ボランティアの比較文化論を展開していく。日本におけるNGO／ボランティア活動とイスラーム圏の比較を軸に、インドの事例などもあわせて紹介していく。ザカート（喜捨）やワクフ（寄進制度）といった仕組みが、現代の市民社会において果たす役割について考えていくこととしたい。また東洋大学にはボランティアの伝統があり、活発に活動するボランティア系の学生サークルが多数存在する。これらの活動についても積極的に紹介していくことで、「生きたボランティア論」を提示したい。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	NGO・NPO論	飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化している。これらの課題に対し、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組むNGOの役割が重要になっている。NGOの援助においては物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視している。このようなNGOの開発理念やアプローチを実例から学び、NGOが社会の中で果たす役割と今後の課題を理解することを目的する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	福祉経済論	福祉政策を読み解く理論を用いて現代社会における福祉に関する諸課題を考える。社会福祉の様々なトピックは、社会経済を中心とした大きな環境変化から生じている。変化がもたらす社会課題とそれへの対応を説明する。さらに国際比較を通じて、福祉政策の手法とそのもたらす効果を考える。これらを通じて、受講生が福祉の経済に関する基本的な理論、社会経済の環境変化とそれに関連する福祉の諸課題を理解し、自分の考えを表明できるようになることを目指す。	隔年
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	公共経済学	本講義では、公共経済学の枢要なテーマの一つである「格差」をとりあげ、特に、国際地域学の現場（都市・地域・国土）における格差の問題に対して公共経済学的な視点を養うことを目的とする。具体的には、まず、公共経済学を支える理論的枠組みを学んだ上で、様々な空間スケールにおける格差の現状とその是正に向けた政策的対応との関わりを理解し、格差の是正に向けた望ましい方策を公共経済学的視点から考察する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	Public Administration	本科目では、行政学の基本的事項を概括的に講義する。内容としては、制度論、政策論、管理論の３つを柱にそれぞれを具体的テーマに沿って展開していく。制度論においては、日本の行政制度、予算制度、官僚制等について講義する。政策論については、政策形成から実施ならびに評価までのプロセスを講義する。管理論においては人事管理や組織管理、さらには昨今のNPMやPPPといった新たな動きについて英語にて講義する。	隔年
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	Urban and Regional Planning in Asia	本講義では、アジア諸国の都市・地域計画をめぐる今日的位相を理解することを目的とする。具体的には、まず、アジア諸国における急速な都市化とそれに伴う諸問題を理解した上で、アジア諸国における都市計画及び関連諸制度、また、近年の都市・地域計画に関わるベストプラクティスを整理し、アジアの都市・地域計画をめぐる課題と展望を考察することとする。なお、本講義は英語で開講する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	Housing the Poor in Asia	この科目は、アジアの都市における低所得者向け住居にについて、基礎的な理解をすることを目指すものである．現時点におけるアジアの都市化の傾向を分析することで低所得者向け住居に関する文脈を設定することからはじめ、都市の貧困層の住居にかかる土地や権利を保証する様々な課題について分析を行う。さらに、低所得者向け住宅の課題解決にかかる革新的なアプローチやについて学び、都市貧困層の強力な開発メカニズムとしての住宅金融とコミュニティの組織化にかかる主要な概念についても学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	環境マネジメント	前半は公害問題も含めた環境問題の歴史的な展開とともに、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会といった環境に配慮した社会に向けた現状と課題について学ぶ。後半は、具体的な環境問題へ取り組みとして、ある事業（環境アセスメント制度）、ある製品（環境適合設計やライフサイクルアセスメント）、ある組織（環境マネジメントシステム）、ある地域（環境モデル都市）といったさまざまなスケールでの環境マネジメント手法を学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	国際環境計画入門	開発途上国における環境と健康の関係に関する基礎知識を講義する。健康と環境に関する地球規模の脅威、食料と農業が健康に与える影響、水系感染症や水中で発生し病気を伝搬する生物等に関する基礎知識を解説する。またエネルギーの使用による大気汚染等がもたらす健康被害や工業化による公害問題も詳述する。さらに劣悪な居住環境がどう健康に影響するかや国境を越える汚染などの地球環境問題についても解説する。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	災害と復興	災害が多い我が国では、誰もが被災者となりうる可能性がある。災害からの早期復興は、被災者が日常の生活を取り戻すために重要である。また、災害からの復興過程は、開発途上国にとって、災害に強い社会を構築する数少ない機会でもある。本科目では、国内外の災害及び災害事例等を示しながら、災害発生のメカニズムおよび災害からの復興のポイントについて理解することを目的とする。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	水資源と水環境	水は、人々が生活する上で欠かせない資源の一つであり、人々に潤いとやすらぎを与えるものである。水の問題を考える時、水の量と質の側面から考えなくてはならない。水は、多すぎても（洪水）少なすぎても（渇水）人々の生活に大きな影響を及ぼし、人々の生活は水の質に影響する。本科目では、水問題や水に係る課題を正しく考える基礎を習得することを目的に、水資源と水環境について理解を深めるための解説を行う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	アジアの都市と交通	交通を通してアジアの都市と地域の特性を理解することを目的として，アジアの多様性を常に念頭において、アジアの地域間交通と都市内交通の現状と特徴、計画と運営について講義する。学修到達目標は次の通り：①アジアの都市と交通を理解するための基礎知識（地理、地誌、社会経済、人口動態など）を身につける。②アジアの地域経済や都市の特性と交通との関係を理解する。③アジアの地域間交通（海運・航空・鉄道）と、都市内交通(主として公共交通)の現状を理解する。④アジアを含めた途上国の都市問題と交通問題の現状と、それらの解決方策を理解する。	隔年
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Water Supply and Sanitation for Health	開発途上国は、多くが熱帯地方に分布しており、多くの先進国には見られないような種々の熱帯病が存在する。これら健康に影響を与える感染症や寄生虫症等に関する知識を解説し、熱帯病の予防に関する情報を提供する。また予防手段として重要な安全な水の供給方法に関する知識や、し尿や雑排水・固形廃棄物など感染症の発生源となる汚染物質の適切な処理に関する知識も提供する。これらの知識を総合し、生活環境をいかに清潔に保ち、健康的な生活を送るための方策を論じる。	隔年
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	環境システム論	環境問題は人間の社会・経済活動が自然環境へ影響を与えることで発生し、その自然環境の変化は人間の生存やその活動に被害を及ぼす。このような人間の社会・経済活動と自然環境の関係を一つのシステムとして捉えることが環境問題の適正な対応に必要となる。本科目では、エネルギー、物質、水の流れとそれに伴う環境影響について学ぶとともに、さらに人間の活動と自然環境をつないでいる水道や下水道、廃棄物管理といった環境インフラの実際を学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	環境管理適正技術論	環境衛生分野の途上国援助を成功に導くためには、わが国の技術や管理手法をそのまま持ち込むのではなく、被援助国の実情に合わせて対応する必要がある。その際に重要になるのが「適正技術」の考え方である。本講義では「技術的持続性」「経済的妥当性」「文化的受容性」「環境的配慮」等を要素とする適正技術と、それを持続可能なものにするための管理手法、教育手法などを多角的に解き明かす。またさまざまな適正技術の実例についてケーススタディを行い、考察を加える。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	廃棄物管理	都市環境を考える際に、われわれの最も身近な存在は固形廃棄物（都市ごみ）である。本講義ではごみ処理の過去の歴史から説き起こし、現在のごみ処理体系、循環型社会に向けての取組など最新の動向を解説する。また発生、発生源貯留、排出、収集、中継、運搬、中間処理、最終処分、資源化といったごみ処理の基本的な段階や技術、留意点なども解説する。また産業廃棄物や浄化槽の管理、開発途上国における廃棄物処理なども解説する。	隔年
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	環境社会論	水俣病などの公害病、ダムによる環境破壊や諫早湾干拓事業などの公共事業による問題、アスベストやさまざまな汚染の問題など日本におけるさまざまな公害・環境問題の発生とその解決に向けて人びとがどのようにたたかってきたのかを学ぶ。さらに、これらの事例に基づいて、市民、コミュニティ、社会という視点から環境問題へどのように取り組んでいくべきなのかについて考える。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	エネルギー・資源論	エネルギー・環境問題が産業・社会へ与えるインパクトを産業革命、石油危機など歴史的な事実として理解するとともに、国内外のエネルギー需給の現状と展望、エネルギー利用に伴う気候変動やその他の問題の現状、省エネルギーや新エネルギーの開発、原子力などさまざまなエネルギー利用の現状と課題、地域における新しいエネルギー利用の取り組みや国際的な連携、そしてさまざまなステークホルダーのエネルギー戦略について学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	自然災害と防災	自然災害は人の命、資産を一瞬にして奪う厄災である。また、開発途上国では、開発を阻害し、貧困からの脱却の妨げになっている大きな要因となっている。本科目は、自然現象に起因する災害（自然災害）を対象に、人々と災害との関わり、自然災害のメカニズム、各種災害対策について、工学的側面と社会的側面の両面から理解を深めることを目的に、ケーススタディや最新の災害調査結果などを含めて防災に関する解説を行う。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	情報マネジメントⅠ	IT技術を活用する職業人として基本的な知識の習得を目標とする。現代の情報社会の基盤技術について、インターネット技術、通信プロトコル、メディア技術などを中心として概要を述べる。また、これらの知識に基づいて、個人・組織における情報セキュリティ対策の基本的な考え方、現状発生している様々なインシデントに関する概要、関連する制度の概要などについて解説する。配布資料を用いた講義形式で実施し、基礎知識に関する試験を行って評価する。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	情報マネジメントⅡ	情報マネジメントIにおける講義形式による基本技術の理解を受けて、PCとルータを用いた実習を行い、小規模なネットワークの設定と管理技術の習得を目的とする。PCへのオペレーティングシステムの導入と関連する技術についての解説、アドレス、ルーティング、ファイアウォールの設定などを段階的に行なってインターネットへの接続が可能となるまでを実習する。また、安全な通信技術の基盤となる暗号化技術についても述べる。各回段階的に実習を行い、毎回作業内容についての小レポートを課す。	隔年
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	データベース概論	IT技術を活用する職業人として基本的な知識の習得を目標とする。情報社会の基盤の一つであるデータベース技術について、データベース管理システムの機能、データモデルなどデータ抽象化に係る問題、企業の基幹システムやWeb情報システムにおける応用などについて述べる。可能な場合にはPC教室を用いてPC上のデータベース管理システムを用いてデータベース作成、検索言語を用いたデータ操作に関する実習を行う。配布資料を用いた講義形式で実施し、3回程度をPC教室での実習を行う。	隔年
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	国土・地域計画	日本の国土・地域計画は「国土の均衡ある発展」をねらい、それは現在にも継承されている。本講義では、日本の国土・地域計画を中心として、国土・地域計画に関する基礎的知見を得ることを目的としている。具体的には、日本の国土・地域計画の歩みと現在を整理し、ヨーロッパ諸国とアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の国土・地域計画の現在を概観することとする。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	社会基盤論	社会経済の発展には道路・鉄道・港湾・空港といった交通施設,電力・エネルギー供給施設,上下水道などの社会基盤施設の整備が不可欠である。都市,地域の発展に重要な役割を持つ社会基盤施設の整備について,交通施設に重点をおきながら，その歴史を振り返り,各施設の持つ機能と役割，整備主体と整備方法，現状の課題と今後の展望について概説する。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	交通まちづくりの計画と政策	経済や都市が成熟するにつれて，課題解決の主たる目的とした「都市交通計画」から，価値創出をも目標とした「都市交通戦略」への転換が求められる．これを近年では「交通まちづくり」とよび，都市計画や都市戦略と交通とを一体的に捉える街づくりが行われつつある．本講義では，交通まちづくりに関する「都市計画」「交通計画」「交通政策」「交通運用」に重点をおいて、交通まちづくりのための様々な計画手法，整備手法、製作や制度について学ぶ。	隔年

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Environmental Issues in Asia	日本における公害病（水俣病）の問題、東日本大震災による環境影響、東アジア地域における広域大気汚染、東～東南～南アジアにおける水・衛生問題、アジアのメガデルタにおける気候変動の影響と適応、アジア熱帯林の持続可能な森林経営、など日本およびアジア地域におけるさまざまな環境問題をトピックとして取り上げ、原因やさまざまな影響、課題、教訓などをディスカッションを通して深く理解していく。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Global Water Problems	英語のみで実施する本講義では、現在、喫緊の課題となっている世界の水問題について概観する。水不足、水資源の枯渇、水環境汚染、水因性疾患、水をめぐる紛争などについて分かりやすくまとめた英語のテキストを用い、読解力をつけるとともに英語の専門用語を覚え、英語で水問題についてディスカッションできるようになることを目指す。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Disaster Management and International Cooperation	多くの開発途上国では、自然災害が開発を阻害し、貧困からの脱却の妨げになっており、その解決は国際的な開発課題の一つとなっている。本科目は、自然現象に起因する災害（自然災害）を対象に、その発生メカニズムや対策を概観するとともに、自然災害対策における国際協力について、ケーススタディや最新の災害調査結果などを含めて防災に関する解説を行う。なお、この科目は英語にて講義を行う。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Practice of Internet Technology	情報マネジメントIにおける講義形式による基本技術の理解を受けて、PCとルータを用いた実習を行い、小規模なネットワークの設定と管理技術の習得を目的とする。PCへのオペレーティングシステムの導入と関連する技術についての解説、アドレス、ルーティング、ファイアウォールの設定などを段階的に行なってインターネットへの接続が可能となるまでを実習する。また、安全な通信技術の基盤となる暗号化技術についても述べる。各回段階的に実習を行い、毎回作業内容についての小レポートを課す。	隔年
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	Cities and Transport in Asia	英語による専門科目である．交通を通してアジアの都市と地域の特性を理解することを目的として，アジアの多様性を常に念頭において、アジアの地域間交通と都市内交通の現状と特徴、計画と運営について講義し，とくに，国間や都市間の相対的な違いや，都市や交通が抱える課題の普遍性に着目する．学修到達目標は次の通り：①アジアの国，都市の基礎知識（地理、地誌、社会経済、人口動態など）を身につける。②アジアの地域経済や都市の特性と交通との関係を理解する。③アジアの地域間交通（海運・航空・鉄道）と、都市内交通(主として公共交通)の現状を理解する。④アジアを含めた途上国の都市問題と交通問題の現状と、それらの解決方策を理解する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Global Society and Structures of Governance	各国政府が統治する国内社会と異なり、世界政府なきグローバル社会では、どのような統治が可能なのか、あるいは望ましいのか。こうしたグローバル・ガバナンスの課題を考えるための道具として、国際政治学の基礎知識を修得することがこの科目の目的である。国際テロリズム、環境問題や難民問題など、一国の領域内にとどまらない全地球規模の諸課題に対して、主権国家、国際機関や地域機関、ＮＧＯや企業が、如何なる仕組みや方法で対処を試みているかを理解する素地を作ることを目指したい。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Multinational Corporations and the Global System	当講義ではまず、1990年代から急速に進んだグローバル化について、世界システム、経済・市場、政治、文化、地球的問題群の発生、ローカル化との共振、反グローバル化の観点から考察する。その上で、マルチ・アクター化したなかでも大きな影響力を持つに至った多国籍企業について、その史的展開、製品戦略、新興国市場開拓、戦略的CSR、BOPビジネスを柱として理論と実践の双方に注目し講義を行う。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Contemporary Global Issues and Japan	21世紀の幕開けは、各国の民主化と自由貿易の広がり、インターネット等情報通信技術（ICT）の発展などに支えられて、世界が共通のグローバル課題解決に向けて一丸となって取り組む社会の到来を約束するはずだった。しかるに、今日我々が直面しているのは、リーマン・ショック、アフガン・イラク戦争、世界的テロ（ISIL）、中国の経済的・軍事的台頭、ロシアによるクリミア半島併合、ギリシャ危機、大量の難民問題など、地政学的（ジオエコノミクス）な揺らぎに翻弄され続けるグローバル社会の姿である。本講義では、21世紀が必ずしも民主主義と自由経済の勝利を約束しなくなった背景と、その中における日本の政治・経済・金融面等での立ち位置を考察する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Introduction to Finance	ファイナンスは、金融市場に直接携わるプレーヤーばかりでなく、事業会社が経営戦略を展開する上でも活用価値の高い学問領域である。当科目は、金融機関の組織論をはじめ、デリバティブなど専門性の高い知識までを網羅する基礎講座である。数学や統計学はファイナンスを学ぶ上で不可欠な素養であるが、こうした教科が苦手な場合においても、ファイナンスを読み解くために最低限必要な知識を備えられるようなコースデザインとなっている。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	International Comparative Studies of Corporate Organizations	本科目において学生はまず、株主、取締役会、経営者、執行組織という各国共通の会社組織の基本的枠組みを学習したうえで、我が国の組織のあり方および企業行動に多大な影響を与えてきた諸要素（資金調達、雇用制度、企業文化等）について理解する。そして、我が国の伝統的企業の特性（諸外国と異なる点）およびその要因について理解を深める。次に、経営者を監督・監視するためのコーポレートガバナンスの基本的仕組み、制度について理解し、そのうえで我が国の伝統的なコーポレートガバナンスシステムを米国、英国、ドイツ等の各国のシステムとの比較において理解する。更に、我が国の会社組織およびコーポレートガバナンスに関する近年の変化の潮流、今後の方向性について考える。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Financial Accounting	財務会計（Financial Accounting）は、企業の利害関係者に対して正しい経営成績、財政状態、資金の流れを報告するために、財務諸表（Financial Statement, F/S）を作成することを目的としている。加えて、企業活動のグローバル化進展に伴い、収益・費用認識を巡る各国間の差異をなるべくなくし、グローバル・ベースで整合性のとれた会計基準の確立を目指す、IFRS（国際会計基準）の動きも加速している。本科目は、「一般に認められた会計原則（Generally Accepted Accounting Principles, GAAP）」を通じて、一般に公正妥当と認められた会計概念・会計基準・会計実務の基礎的体系を身に着ける。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Rethinking Japanese Corporations in the Global Economy	経済のグローバル化や少子化に伴い、企業規模・業種を問わず日本企業の海外進出が活発化しているが、その進出形態（新規進出か、買収か）や営業戦略、本社とのかかわり方、グローバル戦略全体の中での位置づけ等は、進出先国の人的資源の豊富さ、国内（あるいは地域）政治・経済情勢・法制度等によって大きく異なっている。本科目は、中国、東南アジア、アフリカ、アメリカ、欧州など、世界各地に進出した日本企業をケーススタディ中心に取り上げ、成功・失敗（ひいては撤退）それぞれの経験から今後の進出に当たっての教訓を導く。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Globalization and Japanese Cultures	この科目は、“グローバリゼーション”全般の諸現象を考察し、それを背景として、特に文化の分野に光をあて、日本文化の変容と将来を考える。茶道や書道の伝統文化やJ-ポップ等を事例として議論し、グローバリゼーションの文化的側面も分析する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	International Social Contributions	国内や海外の組織と連携することにより、学問的な知識を社会に適応させて現実問題の解決に貢献する。学生は、多文化及び多言語の情報の収集、要約、評価、分析や（発表、作文、談話、や広報などが含まれる）コミュニケーションなどの様々な能力がいかに社会問題の解決に重要なのかを自らの体験で習得する。プロジェクトの計画を立てて実施することにより、組織を立ち上げ、仲間と共同作業し、場合によってはリーダーシップを発揮するなどのスキルの向上が期待される。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	International Media Studies	時代とともにメディアの在り方は変化している。常時、ネットにつながる現代では、マス・メディアのニュースだけではなく個人が発信する情報でさえも、簡単に地球を巡る。私達は、日本のマスメディアのニュースに加えて、海外のメディアが発信するニュースにも日常的に触れるようになり、自らもSNSを使って発信できるようになっている。また、日本経済新聞がファイナンシャル・タイムズを傘下に入れ、中国の国営放送が世界に進出するなどメディアの国際化も進んでいる。ニュースも組織も国境を越える時代になった。本講義は、時代に合わせて変化するメディアの在り方と国際化の流れ、その背景と意図、そして役割と限界についての理解を促進する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	International Organizations and Global Security	国際機関は、グローバル安全保障の維持において、どのような役割を担っているか。この科目は、とりわけ国連が国際平和と安全のために果たす役割に焦点を当てる。変容する国際秩序の中にあって、国連の意義や位置づけが、どのように変化してきたのか、また今後いかに変化していくのかという問題関心に軸足を置きたい。紛争予防と平和的解決、集団安全保障、平和維持活動、人間の安全保障や平和構築、軍縮、国際テロ対策など、国連の多岐にわたる安全保障機能を網羅的に考察する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Globalization and Japan	1990年代に起きたグローバリゼーションは、東西冷戦の崩壊をきっかけとして、それまでの世界経済の構造が根本的に変化したことによる。冷戦が崩壊したということによって東側の国々が市場経済になだれ込み、市場経済の中に住む人口が急激に増加し、市場が2倍となって世界的な激しい競争が起こったのである。こうしたグローバリゼーションは、これまでの経済運営の姿勢や企業の経営方針に大きな変化をもたらしており、とりわけ先進工業国はこれまで未経験の新たな変化に直面している。世界経済は、一方ではICTの進展によってデジタル化した情報のコストが全世界でフラットになり、市場への参入が劇的に増大し、その結果先進工業国の賃金が発展途上国の賃金に影響を受けて、結果的に賃金水準が修練するなどの減少に直面しなければならなくなっている。しかし一方で、クリエイティブ・クラスと呼ばれるような人材が集結し高い生産性とイノベーションが実現されている地域は、シリコンバレーなど逆に先進国の特定の地域に集中するようになっている。日本においても、発展途上国と競合するような分野では貧困対策や所得の再分配など政府の役割が期待されるが、一方で、競争力を支える分野ではクリエイティブ・クラスのようなイノベーション人材を強化する政策が求められる。今後の日本がこのような政府の規制を少なくして市場競争のインセンティブを重視する役割と、発展途上国との競争に直面する分野の貧困対策や所得の再分配をする役割とをどのように両立させていくのか、新たな政策のイノベーションが求められている。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Global Strategic Management and Merger and Acquisition	本科目において学生はまず、企業は何を目的としてM&Aを実施するのか、そしてM&Aの結果各企業にどのような変化がもたらされるのかについて、複数の国境を越えた企業買収（クロスボーダーM&A)の成功および失敗の事例を通じて学習する。次にM&Aを成功に導くためには、マネジメントのどのような要素が必要であるかについて、M&A実施の各プロセス毎に、すなわち、戦略策定、ターゲット企業の選定と評価、企業価値算定、交渉、デューデリジェンス、契約、統合（PMI)、および買収後監査等について要点を理解する。また、失敗事例に関して、各プロセスの何処が欠けていたのか、成功するためには何が必要であったのかについて、議論を通じて理解を深める。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Entrepreneurship and Venture Businesses	イノベーションを実施するのは誰か？　ダイナミックな新企業を設立するのは誰か？　企業の成長を加速させるのは誰か？　経済発展の原動力となるのは誰か？　これらの答えは全て起業家である。起業家とは、市場、技術または組織に関してこれまでにない新しいアイディアを思いつき、そのアイディアを実行するという、特別な性質を有する個々人である。本コースでは、起業家精神の性質および新規ベンチャー・ビジネスの形成方法について考察する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	International Business Development and Corporate Finances	国際的ビジネス展開は、いまや企業規模の大小を問わない。そこでまず直面するのが、金融に関連した問題である。現地法人設立に際しての負債・資本の構成、クロスボーダーでの税制、世界拠点間における資金融通、カントリーリスクを踏まえたプロジェクト判断とそのファイナンスなど多くの検討事項が浮上する。当科目では、基本的なコーポレートファイナンスの知識を習得した上で、こうした実務的事項を取り上げて実践的学びを深めてもらう。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Social Solidarity Economy and Social Enterprise	社会的成果を我々にもたらす社会的企業の多様なモデルを理解する。特に大西洋を挟んだ米国と欧州における社会的企業モデルの発生過程の違いを整理し、特に欧州中心の社会連帯経済とソーシャルビジネスを中心に、近年にいたってどのように変貌を遂げているのか、さらに公共政策の中での役割を考える。 とりわけこれまで米国中心の経済効率を重視する組織制度により親和的であった日本の経済・社会・企業が、ヨーロッパ特にEUにおける社会的な対話や地域の繋がりを重視する「対話と妥協」の精神へのより効果的な対応能力を身につけるために、社会連帯経済と社会的企業を具体的に取り上げつつ、今後の経済社会イノベーションへの基礎的な理解を促す。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Multinational Corporations and Market Systems	グローバル化の時代にあって、多国籍企業はいくつもの市場に柔軟に対応しつつ、利益の確保、シェアの拡大、社会的責任の行使、レピュテーションの獲得、などの諸活動を行っている。当講義では、経営のグローバル化、多国籍企業の企業形態、グローバル支配構造、地域統合体と多国籍企業、日本企業のグローバル展開、ITと多国籍企業、多国籍企業の社会的責任、を柱として、国際ビジネスの理論と実践の双方に注目し講義を行う。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	International Comparative Studies in Human Resource Development	本科目は、日本のグローバル人材に象徴されるように、現代社会において、国際的競争力の高い人材が求められている社会的背景を学ぶことで、様々な国において人材育成に関する政策が展開される社会的・経済的要因について考察する。また、国際的なキャリアを目指す場合は、様々な国・地域の人と関わることを念頭に置く必要があることを踏まえ、学生自身が自分の課題を自己分析するとともに、主体的に学び、キャリア形成を行う姿勢を涵養する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Comparative Cultural Studies	我が国と他国の間の「自然」の差異だと想定される「異文化」の錯覚は、史上の（日本を含める）近代国家の政治的形成の理解の支障となる。この授業では、「我々」という集団アイデンティティーの位置を構成、又は固定するのに必要とされる想像上の「他者の文化」として「異文化」を定義する。文化と国境の一致性を否定すれば文化はどうなるのか。「文化」が創り出す偏見、差別、多数派と少数派や暴力などの問題を取り上げ、コミュニケーションと自己形成との関係を追及する。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Asian Economic Development and Japan	この講義では「グローバル」を、グローバルビジネスおよびグロバル経済の成長と定義し、その中には18世紀からの世界経済成長と、西欧経済の成長および近年のアジアおよびその他の主要な経済の拡大を含む。この講義では最近の環境や持続可能性分野での問題解決のための活動を包含する。さらには最近のアジア経済の状態や、その拡大プログラムに検討を展開する。アジアがどのようにグローバルな経済秩序の中に埋め込まれていくのかということにとりわけ注目する。そのうえで国連のようなグローバルな活動組織や国際機関が他の地域とどのように相互活動するかを捉えていく。アジアの経済発展を議論しつつ同時に日本がアジアにどのような視野を展開させるかを検討する。また担当教授はマレーシアの首相として長く務めたマハティール氏や他の重要人物を講義に招聘するか、または彼の著書を読むことで彼がマレーシアにもたらした貢献を理解する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Evolving Frameworks for Resolving International Conflicts	この科目では、現代の武力紛争の性質、およびそうした紛争に対する国際社会の取り組みについて多角的かつ体系的な理解を目指す。現代の主要な紛争形態である国内紛争に重点を置きつつ、国際政治学、とりわけ紛争解決論の基礎概念や理論的枠組みを紹介する。予防外交、平和創造、平和維持、人道的介入、平和構築などを中心に、変遷する国際紛争解決の様々な対応やアプローチを取り上げる。世界の諸地域における紛争と解決策の模索に対する学生の関心と理解を深めたい。	
Academic Subjects	グローバル・イノベーション領域	Human Security	2005年世界サミット『人間の安全保障』では、すべての人々が、自由に、かつ尊厳を持って、貧困と絶望から解き放たれて生きる権利を強調するとともに、「すべての個人、特に脆弱な人々が、すべての権利を享受し、人間としての潜在力を十分に発展させるために、平等な機会を持ち、恐怖からの自由と欠乏からの自由を得る 権利を有していること」を認めた画期的なものであった。この人間の安全保障論では、そういった国際機関を通じた各国の取り組みの理解と問題点の総括からスタートし、アマルティア・センの『グローバリゼーションと人間の安全保障』をレファレンスとしつつ、分野横断的な脅威に対応し、人々の生存、生活、尊厳を守るために何をすべきかを考える。絶対的な貧困や紛争にあえいでいる国だけの問題ではなく、先進国、途上国を問わず、全世界の人々が安全が脅かされうる状況の下で暮らしており、我々に深刻な課題を突きつけている。本講義では、恐怖からの自由、欠乏からの自由、尊厳を持って生きる自由という人間の生活にとって基本的な一連の自由の普遍性と相互依存性に着目し、安全、開発、人権の間の相互関連性を理解する。	
Project Studies	必修	専門ゼミナールⅠ	本演習は約一年半後の卒業論文完成を視野におき、担当者の専門とする理論分野における学生の能力醸成のための諸作業をおこなう。少人数でおこなうテキストの読解、短文レポート執筆、輪読、コンピューター・ソフトウェアを活用したデータ分析、発表、議論、グループワーク、長文エッセイ執筆や発表などが中心になるが、授業期間中のフィールドワーク及び、休暇期間の国の内外でのフィールドワークを念頭においた準備作業をおこなうことも含まれている。	
Project Studies	必修	専門ゼミナールⅡ	本演習は約一年後の卒業論文完成を明確に視野において、担当者の専門とする理論分野における学生の能力促進のための諸作業をおこなう。主として、少人数でおこなうテキストの読解、短文レポート執筆、輪読、コンピューター・ソフトウェアを活用したデータ分析、発表、議論、グループワーク、長文エッセイ執筆や発表などが中心になるが、授業期間中のフィールドワーク及び、休暇期間中の国の内外でのフィールドワーク実施後の振り返り作業をおこなうことも含まれている。	
Project Studies	必修	専門ゼミナールⅢ	本演習は約九カ月後の卒業論文完成を前提に、卒業論文のテーマ設定と先行文献研究をおこない、自らのリサーチクエスチョンを明確にすることを目標とする。各種、図書館等のリソースを使い、参考文献リストを作成し、持続的に先行文献研究をおこない、要約し、批判的に検討し、自分のテーマで何が達成されており、何が達成されていないかを把握し、その上で、自らのリサーチクエスチョンを提示する。そして、休暇期間での自らの課題を明確に得る。	
Project Studies	必修	専門ゼミナールⅣ	本演習では約三カ月後の卒業論文完成を前提に、学生はこれまでに完成した先行文献研究を元に提示したリサーチ・クエスチョンに対して、理論研究・データ分析・現地調査・比較研究などの研究方法を明確にし分析をおこない、オリジナルな研究結果を導き出す。演習においては、学生が自らが導いた研究結果を要約し、残された課題を明確にする作業の支援をおこなう。英語での論文完成を目指す学生に対しては、指導やアドバイス提供もおこなう。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	必修	卒業論文	本科目では、以下の項目を満たした卒業論文が執筆されているかを念頭に学生に指導をおこなう。第一、わかりやすい序論が書かれているか、第二、先行文献研究がしっかりできていて、それに基づくリサーチクエスチョンが明確に出されているか、第三、研究方法が明確に書かれているか、第四、オリジナルな研究結果が導かれているか、第五、残された課題が明確に意識されているか、第六、適切な形で参考文献が書かれ、論文の形式が守られているか、である。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅰ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。主として初めて海外を体験する学生を対象とし、異なる文化について、歴史、価値観、政治、経済、コミュニケーション形態、信条などの観点から一定の理解をもつことをめざす。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅱ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。海外体験が少ない学生を対象とし、異なる文化について、歴史、価値観、政治、経済、コミュニケーション形態、信条などの観点から自己の文化との比較対照できるようにめざす。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅲ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。短い海外体験をもつ学生を対象とし、異文化環境の特徴を理解をし、自己と異なる価値基準が存在することを意識できるようにめざす。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅳ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。数回の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化と自文化の違いを十分に理解し、異なる文化背景を持つ人々と文化的差異についての意見交換ができるようにめざす。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅴ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。複数の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異文化環境において複雑な問題について意見交換ができるようにめざす。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅵ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。中長期の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化背景を持つ人々と協働する体験を通じて異文化への理解を深めるようにめざす。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅶ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。中長期の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化背景を持つ人々と協働において主導的役割を担えるようにめざす。	
Project Studies	選択	国際地域学研修Ⅷ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。豊富な海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化背景を持つ人々と深いレベルで意思疎通ができ、交流を主導し発展させることができるようにめざす。」	
Project Studies	選択	インターンシップⅠ	本科目は、国内外におけるインターンシップへの学生の積極的な参加を促すものとして設置されている。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。 インターンの参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	インターンシップⅡ	本科目は、インターンシップⅠの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容、または他業種等へのインターンを対象とする。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。インターンの参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	インターンシップⅢ	本科目は、インターンシップⅡの取得を前提とし、Ⅱよりもさらに高度な内容、または他業種等へのインターンを対象とする。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。インターンの参加前に担当教員がそのインターンの内容だけでなく、過去のインターンをどの程度踏まえ今回参加するのか等を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	インターンシップⅣ	本科目は、インターンシップの集大成として位置付けられる科目であり、過去のインターンシップを踏まえ、自らのキャリアをより具体的にイメージした上でインターン先を決定するものとする。 通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。インターンの参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	ボランティア実習Ⅰ	本科目は、国内外におけるボランティア活動への学生の積極的な参加を促すものとして設置されている。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	選択	ボランティア実習Ⅱ	本科目は、ボランティア実習Ⅰの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とし、学生が積極的に参加することを促すものとして設置されている。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	ボランティア実習Ⅲ	ボランティア実習Ⅱの取得を前提としている。また、ⅠおよびⅡとは違い、ボランティア活動というものを学ぶだけではなく、学生自らがリーダーシップを発揮しながら活動に参加することを求める。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	ボランティア実習Ⅳ	ボランティア実習の集大成として、位置づけられる科目である（Ⅲの取得を前提とする）。 ここでは、過去に経験したボランティア活動を通して得たもの、また自らが考えるボランティア活動とは何かについて、考えることを求める。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	選択	フィールド調査実習Ⅰ	本科目は、英語名称Student-led Field Study(SFS)のとおり、学生が自ら国内外で行う調査内容を計画立案して実施する専門研修として位置付けられている。地域で行う地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら調査を行い、地域住民や関係者とのコミュニケーション力、自立心とチームワーク力を高めることが目的である。	
Project Studies	選択	フィールド調査実習Ⅱ	本科目は、フィールド調査実習Ⅰを修得済みの学生を対象とする。 Ⅰと同様に、学生が自ら国内外で行う調査内容を計画立案して実施する専門研修として位置付けられているが、Ⅰの内容を踏まえ別の地域また同地域で別のテーマ等を設定して実施することとする。 なお、地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら、調査を行うこととし、現場での経験に基づいた課題の本質的な理解と実践力を高めることが目的である。	
Project Studies	選択	フィールド調査実習Ⅲ	本科目は、フィールド調査実習Ⅱを修得済みの学生を対象とする。ⅠおよびⅡで行った調査方法等を見直し、より効果的な調査方法とはどのようなものなのかを反映して実施することとする。 なお、ⅠおよびⅡと同様に、地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら調査を行い、実践力の向上をより養うことを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （国際学部国際地域学科国際地域専攻）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	選択	フィールド調査実習Ⅳ	本科目は、フィールド調査実習の集大成科目として位置付けられるものであり、Ⅲを修得済みの学生を対象とする。 今まで実施してきた調査方法等を見直し、論文執筆につなげる調査方法とは何かを見出すことを求める。 なお、地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら、調査を行い、コミュニケーション力・チーム力だけではなく、個人でも実施できる能力を養うことを目的とする。	
Project Studies	選択	地域デザイン基礎演習	まちづくりのための地域デザインの基礎としての演習科目であり，現地見学・現地調査と，空間提案のための設計の基礎を行う．対象は，広場空間，道路空間，商業空間とし，その空間に求められる機能と使われ方に着目しながら，それにふさわしい空間にするための要素を理解し，空間スケールや空間の特性を理解するための演習を中心に行う．	
Project Studies	選択	地域デザイン演習	どのようにすれば魅力ある地区を創り出すことができるだろうか？　本演習では、まず、「地区」という空間スケールの特性を理解した上で、まち歩きや統計データなどを用いて地区の現状を把握し、魅力ある地区づくりに向けた提案を行う。本演習を通して、空間スケールを体得すると共に、地区まちづくりに求められる基礎的素養を身につけることをねらう。	
Career Development	必修	キャリアデザインⅠ	将来、学生１人ひとりが有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」、「職業理解と働く意味」、「社会で求められる力」などを深く考え、就職や自己開発の重要性を理解し、２年生以降の学生生活を充実させることを目的とする。学修到達目標は、以下の３点である。第一に自己理解し、自己成長の必要性を理解すること、第二に社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めること、である。	
Career Development	必修	キャリアデザインⅡＡ	本講義では、社会でキャリアを始めるのに必要と言われる、下記の非言語分野の内容を取り扱う。推論、集合、表の読み取り、順列・組み合わせ、確率、料金の割引、分割払い、損益算、速さ・距離・時間、グラフの領域、物の流れと比率、装置と回路、などである。本講義の到達目標は、上記の分野における自分の実力を知り、それを高めることである。この授業は、前半はテスト、後半はテストの解説である。講義形式が中心となる。学生は、事前には教科書を読み、宿題を解く。事後にはノートを見直し、試験前に復習することが求められる。	
Career Development	選択	キャリアデザインⅡＢ	本講義では、現実的な職業選択につなげる準備をすることを目指している。３年次は学業の専門性を高めると同時に、今までの経験を振り返って意味づけし、具体的な今後のキャリア構築につなげていく大切な時期である。そこで、第一にこれまでの生活を再点検し、今後のキャリア形成について情報収集しながら検討する。第二に具体的な将来目標のイメージを構築したうえで、目標達成のために何をすべきか、計画と戦略を立てる。第三に人間関係やネットワークの構築の方法について実践的に学習する。	
Career Development	選択	キャリアデザインⅢ	本講義では、大学生活での学びを前提に、自分と社会への理解を深め、現実的な職業選択につなげることを目指している。３年次は学業の専門性を高めると同時に、今までの経験を振り返って意味づけし、具体的な今後のキャリア構築につなげていく大切な時期である。そこで、第一に大学生活2年間を振り返って経験を意味づけし、今後のキャリア構築につなげる。第二に自分と現実社会との具体的な接点をみつけ、職業選択につなげる。第三にインターンシップ参加や就職活動への準備につなげる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　　業　　科　　目　　の　　概　　要

（国際学部国際地域学科国際地域専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Career Development	選択	経済社会実務Ⅰ	本科目は、国内外の地域づくりや社会貢献の分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	選択	経済社会実務Ⅱ	本科目は、経済社会実務Ⅰの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。国内外の地域づくりや社会貢献の分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	選択	経済社会実務Ⅲ	本科目は、経済社会実務Ⅱの取得を前提としⅡよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。なお、ⅠやⅡの活動を振り返り、より主体的な形での参加を促すものとする。活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献の分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	選択	経済社会実務Ⅳ	本科目は、経済社会実務Ⅲ の取得を前提とし、経済社会実務の集大成として位置づけられる科目である。実施前に担当教員が内容の精査を行うが、過去の活動内容の振り返り、および今回の活動にどう生かされているのかについて、確認を行う。なお、活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献の分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	選択	情報技術実務Ⅰ	本科目は、国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	選択	情報技術実務Ⅱ	本科目は、情報技術実務Ⅰの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （国際学部国際地域学科国際地域専攻）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Career Development	選択	情報技術実務Ⅲ	本科目は、情報技術実務Ⅱの取得を前提としⅡよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。なお、ⅠやⅡの活動を振り返り、より主体的な形での参加を促すものとする。 活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	選択	情報技術実務Ⅳ	本科目は、情報技術実務Ⅲ の取得を前提とし、経済社会実務の集大成として位置づけられる科目である。実施前に担当教員が内容の精査を行うが、過去の活動内容の振り返り、および今回の活動にどう生かされているのかについて、確認を行う。なお、活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	哲学Ａ	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをとおして、個別の哲学論争や根本問題を取り上げて、議論の所在や要点を理解するとともに、人文科学・社会科学・自然科学などの位置づけや関連なども併せて学ぶ。	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学Ｂ	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをとおして、とりわけ現代社会の諸問題などを取り上げて、如何にして哲学思想の知識を応用して、実践的に問題を解決するために役立つかを考察し、学問の人生における意義を探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学史Ａ	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、ギリシア神話・エレア学派・ソクラテスやプラトンやアリストテレスやプロティノス、キケロ・ボエティウス・マルクス＝アウレリウス、旧新約聖書思想やアウグスチヌスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、併せてこうした哲学的思索の政治的社会的背景や、後の時代に与えた影響を探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	哲学史Ｂ	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、アンセルムス・トマス＝アキナス・オッカム、デカルト・スピノザ・ロック・カント・ヘーゲル、キルケゴール・ニーチェ・フロイト・フッサール・ハイデガー・サルトル・ヤスパース・ハーバーマスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、西田幾多郎などの日本の哲学思想や東洋の哲学思想との関連も併せて探求する。	
Liberal Arts	哲学・思想	倫理学Ａ	社会存在としての人間の本質を理解すると同時に行動の善悪の規範がどのように規定され実践されているのかを主として考察するのが、目標である。内容は、西洋の古代倫理思想史において展開された「実践論の系譜」をめぐって理論的反省と倫理的自覚の意義について考える。その際に、理論と実践・知識と知恵・知と幸福・幸福と徳、といった古代ギリシアの倫理思想の根本的な主題を取り上げる。また、習俗と倫理・礼儀と流行・法律と道徳・黄金律と互酬性について取り上げ、人間の共同の種々なる在り方に関して理解を深める。	
Liberal Arts	哲学・思想	倫理学Ｂ	文化論・文明論的な立場から西洋倫理学思想史と東洋倫理学思想史を比較検討し、それぞれの特質を明らかにするとともに、宗教論的考察も取り入れて人生の意義をいかに見出すべきか考えるのが目標である。西洋近代倫理思想史の「自由論の系譜」を探り、人間の真なる共同の在り方について考える。また、個人と国家・人間と自然・技術と社会・自己と他者といった主題を取り上げる。現代倫理学の諸問題としては、情報と倫理・環境と倫理・生命と倫理・企業と倫理・技術と倫理について取り上げる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ＩＡ	世界三大宗教である仏教・キリスト教・イスラム教や東西の宗教伝統を概括することによって、人間存在の営みにとってきわめて深い意義を有する宗教の本質を習得して、基礎知識を身につけることが目標である。宗教の範囲は、歴史的にも内容的にも広く深いため、講義においては三大宗教やユダヤ教や神道などの民族宗教ならびに宗教民俗に焦点を当てて、個別の宗教宗派について正確に理解するとともに、公教的観点のみならず秘教的観点も取り上げて、解説をおこなっていく。	
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ＩＢ	世界の諸宗教や宗教諸民俗が我々日本文化と如何に関連しているかを学ぶことによって、異文化に属する宗教や民俗をより深く理解し受容することが目標である。比較宗教学の方法を用いて、東西宗教の共通項を探るとともに、無宗教と呼ばれる現代社会のただなかで、我々が気づかない仕方で宗教的価値観や世界観ならびに宗教伝統が如何に今なお厳然と息づいているかを具体的に考察することによって、宗教的価値観の意義や日本的宗教観について内省していく。	
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ⅡＡ	宗教に関する基本的な概念・現象、世界の諸宗教の現状、宗教団体の現代における意味、現代日本人の宗教意識と宗教行動、情報化や都市化などの社会現象と宗教との関わりなどを理解できるようになることを目標とする。具体的には、「宗教の起源と定義」、「祈り・儀礼・祭り・修行の意義」、「天国と地獄」、「死後の世界」、「シャーマニズム」、「聖地と巡礼」、「現代会における宗教の在り方」等のテーマを取りあげて詳論する。授業は主に講義形式で行う。	
Liberal Arts	哲学・思想	宗教学ⅡＢ	宗教に関する基本的な概念・現象、世界の諸宗教の現状、宗教団体の現代における意味、現代日本人の宗教意識と宗教行動、情報化や都市化などの社会現象と宗教との関わりなどを理解できるようになることを目標とする。具体的には、「現代日本人の宗教意識と宗教行動」、「若者と宗教との関わり」、「宗教団体の分類」、「カルト宗教」、「宗教団体と宗教法人」、「宗教団体の公共性」、「企業と宗教」、「都市化・情報化と宗教」、「宗教の必要性」等のテーマを取りあげて詳論する。授業は主に講義形式で行う。	
Liberal Arts	哲学・思想	東洋思想	東洋思想における倫理思想をとりあげ、なかでもチベット（含インド）を中心に、日本や中国とも比較対照させながら概説していく。また、一見非倫理的、非道徳的という烙印を押されがちな「タントリズム」（狭義の密教）の思想を、大きな思想、宗教、あるいは文化の流れを通して、またわれわれが置かれている現代社会の背景なども考慮しながら、批判的に捉えていきたい。	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学Ａ	この講義では、東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の３つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第２世代」の代表者と歴史家が評価するような、さまざまな業績を残した。その生涯の時期は、ちょうど現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたる。その意味で、この講義の内容は現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶ。	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学Ｂ	東洋大学は、井上円了の教育理念によって、明治２０（１８８７）年に「哲学館」として創立された。日本が大学制度を創出する時期であった。それから、東洋大学は現在まで１２５年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。そこには創立期以来の様々な困難とそれを乗り越えてきた足跡がある。この講義では、創立者の井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくが、これによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	哲学・思想	ロジカルシンキング入門	社会生活における様々な問題に対処しうる論理的思考の技術の紹介と修得が目標である。論理学の基礎的知識を習得したうえで、情報整理の方法、論理的思考が陥りやすい誤謬の見抜き方、Kj法、ハイパーマップ法など論理的活用の具体的方法、議論を有効なものにする様々な方法を身に着ける。	
Liberal Arts	哲学・思想	クリティカルシンキング入門	情報化社会を生きる上で、確かで有効な情報を選別し活用する批判吟味能力の獲得が目標である。様々な主張をうのみにせずに吟味する方法、議論において論点を整理して相手に提起する方法、異なる価値主張を調停して合意を形成する方法などを、実例を使った思考実験をもちいて修得する。	
Liberal Arts	学問の基礎	芸術学Ａ	身近に溢れてはいるものの、芸術とはどのようなものなのかを改めて認識するとともに、芸術に触れることで、その本質を見極めることを目的としています。 芸術の範囲は幅広く、絵画、音楽、舞踊、演劇、映像、イラストレーション、デザイン、書道、工芸など、じつに多種多様なものです。また、各地域によっても様々な芸術が生み出されています。地域とそれぞれの歴史的な側面にも触れながら、講義を進めていきます。	
Liberal Arts	学問の基礎	芸術学Ｂ	芸術学Ａに引き続き、芸術に触れながら、その本質を見極めることを目的としています。 芸術の範囲は幅広く、絵画、音楽、舞踊、演劇、映像、イラストレーション、デザイン、書道、工芸など、じつに多種多様なものです。また、各地域によっても様々な芸術が生み出されています。地域とそれぞれの歴史的な側面にも触れながら、講義を進めていきます。	
Liberal Arts	学問の基礎	歴史の諸問題Ａ	日本中近世移行期（15～17世紀）は、今日まで続く日本の社会的基盤を形成した時代とされる。戦国・織豊時代は、このうちの主要な時期にあたる。本講義では、この戦国・織豊時代の社会を中世社会の慣習である自力救済とその抑止の変遷（戦争から平和へ）という観点からとらえ、それに基づく政治権力・地域社会集団の形成・展開を考えていくことを試みる。本講義では、自力救済の展開とその抑止、当該期社会の態様について、豊臣政権による刀狩りを含む「喧嘩停止」への過程からとらえ、上述の観点にせまることとしたい。	
Liberal Arts	学問の基礎	歴史の諸問題Ｂ	この講義は諸君の教科書にあったように、過去に起きた諸事実を説明するものではない。「歴史とは何か」という問題を考えていくものである。したがって講義で扱われるのは、歴史の認識論とか歴史哲学と呼ばれるような問題となる。歴史には過去の事実を具体的に学ぶことと、なぜ過去を人間は知るのかを学ぶことととの２つのあり方があるが、この講義では後者の問題を取り扱う。とくに問題とするのは、これまでの歴史が、国家的なものを枠組みにしていたことや、近代的な枠組みにとらわれていたことへの批判という大変難しいテーマである。	
Liberal Arts	学問の基礎	経済学Ａ	経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的とする。私たちの実生活と密接不可分の関係にある「経済」を、「経済学の考え方」を用いて理解を深めていく。具体的には「GDPとは何か説明できる」「基本的な景気循環理論を類別できる」「経済合理性を前提とした、個人・家計の消費行動や企業の投資行動を説明できる」「貨幣の役割や金融政策を説明できる」「貿易の利益や基礎的な為替レート決定理論を説明できる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	経済学Ｂ	「経済学Ａ」に引き続き、経済学の理論の説明部分と現実の日本経済を理解するための制度的側面や経済指標のデータの解説部分のバランスをとり、経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的として講義をすすめる。具体的には「経済成長の基礎理論を説明できる」「生産性とは何かを説明できる」「労働供給と労働需要の決定について経済学的な説明ができる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	
Liberal Arts	学問の基礎	法学	法学の入門的講義を行なう。法学分野の全体を概説的にに説明するとともに、裁判印制度等の解説を行う。また、具体的な判例（事件などに対して、裁判所がどのような判断を下したのか）、および様々な法的問題を取り上げ平易に解説していく。 法的思考能力にもとづいて、自らの考えを導き出せる力を備えることを目的としている。	
Liberal Arts	学問の基礎	政治学Ａ	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概説的にＡとＢで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Ａでは、「伝統的政治学」と呼ばれる、古代から政治について考察がなされてきた分野が中心となる。政治権力の概念、政治の権力構造、政治的リーダーシップ（機能と類型）、政治思想とイデオロギー、デモクラシーの理論、近代国家の原理、議会制民主主義、政党と政党制（その類型）、圧力団体と住民運動、選挙制度（多数代表制と比例代表制ほか）を扱う。	
Liberal Arts	学問の基礎	政治学Ｂ	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概説的にＡとＢで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Ｂでは、政治学の内、20世紀以降に発達してきた「現代政治学」と呼ばれる領域を中心とする。具体的には、政治意識とその形成（政治的社会化）、選挙での投票の行動様式、官僚制、大衆社会の政治、現代国家の特徴、日本の政治の特徴、国際政治（その実態と諸理論）、政治学の新しい諸理論、比較政治学の理論（諸外国の政治を比較しながら分析する枠組み）を扱う。	
Liberal Arts	学問の基礎	社会学Ａ	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学にはじめてふれる方を対象に、「家族」「都市と地域共同体」「メディア・情報化社会」「階層・格差」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的にしている。	
Liberal Arts	学問の基礎	社会学Ｂ	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学Ａに引き続き、「自我とコミュニケーション」「ジェンダー」「セクシャリティ」「多文化社会」「社会運動・市民社会・ボランティア」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的にしている。	
Liberal Arts	学問の基礎	人類学Ａ	「人類の歴史と文化」について講じる。2011年、世界人口は70億人の大台に達したと伝えられた。1950年には25億人程度だった。1万年前には500万人から1,000万人程度だったろうと推測されている。人口爆発した時代にわれわれは生きている。人類の始まりから今日まで、数百万年間はどんな過去であったろうか。本講では、人類に関する諸学の成果を参照し、また人類進化論的に狩猟採集、農耕、産業を大づかみに人類史をたどる。世界の人類について大きな視野を提示する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	人類学Ｂ	「日本民族、日本文化の形成」について講じる。3.11後、世界中の国の人々から、これまでの歴史の中でこれほど日本への同情が集まったことは無かったであろう。その一方で日本のマンガ、アニメ、ファッションなどの最新の流行・作品から伝統文化まで強く関心を寄せている人々も少なくない。ところで、日本人はそうした人々に対して日本文化を全体として説明できるであろうか。各論は知っているけれど、日本の大枠については曖昧模糊としたイメージしかない。そこで、本講では日本民族学、日本に関する社会人類学の初歩を手ほどきする。	
Liberal Arts	学問の基礎	地理学Ａ	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、１．環境論に始まる近代地理学の歩みをヨーロッパを中心に学説史的に紹介する。２．場所の経済的価値について説いている、いわゆる「立地論」（農業・工業・中心地・オフィス）を解説する。都市と農村の機能的・構造的な差異の実態と形成メカニズムを解説する・の３つを中心に考えている。最後に、これらを踏まえて、理論と現実の差異がなぜ生じているのか、その要因とより正確な現実の把握のために必要な視点について考察する。	
Liberal Arts	学問の基礎	地理学Ｂ	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、１．地理学の概念と方法についての解説、２．立地論（農業・工業・中心地・オフィス）の解説、３．経済的弱者の生活空間の特徴の把握、４．人口移動のマクロ的把握と過疎地域における第3次産業を中心とした地域振興・町づくり策の現状把握、の４点を中心に考える。これらを踏まえ、地方経済の活性化を想定する国土軸・地域軸論および21世紀を展望した国土計画について解説し、現在の日本の地域構造を変えられるのか、その可能性について考える。	
Liberal Arts	学問の基礎	心理学Ａ	「こころ」についての関心は、最近ますます高まっている。その「こころ」を研究対象とした「心理学」とは、どのような研究領域なのだろうか。この授業では、「こころ」のさまざまな現象を科学的に解明しようとする心理学の営みについて解説し、心理学的なものの見方を紹介する。具体的には、心理学の代表的な各領域（心の進化、心の発達と支援、認知等）を取り上げ、検討する。そこでは、どのような「問い」があるのか、その「問い」について、心理学はどのような「方法」で取り組もうとしているのか、その結果、わかってきたことは何なのか、ということについて、解説する。	
Liberal Arts	学問の基礎	心理学Ｂ	本講義では、恋愛、失恋、離婚について心理学的（科学的）な視点からアプローチする。特に、失恋や離婚をメインとした講義を行う。本講義の目的は、さまざまな研究者たちが残してくれた遺産（研究成果）を、単純に理解することだけではなく、むしろ、その遺産に関心をもち、自発的に調べ、学んでいくことにある。そのため、講義では、学生たちが自ら関心を示すことができるような数多くの、最新の知見を紹介する。心理学に関する知識が一切なくとも、理解することができるように説明する。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然の数理Ａ	数学の体系を学ぶとともに、使える数学の習得を目指す。複数のコースが開講されるので、内容は解析学、線形代数学、数論など基本的な数学分野の多岐にわたる。高校数学の復習、確認も含め、数学の基本的な概念をきちんと勉強し、自分で論理的に問題を解く能力を養う。個々の内容としては、多項式の微分積分、ベクトル、行列の計算、整数論、群論、体論などを含む。講義を行い、それに付随し、練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	自然の数理Ｂ	自然の数理Aで学んだ知識を前提として、公式の応用、具体的な数学問題の解法を学ぶ。各コースの内容としては、三角関数、指数・対数関数など初等関数の微分、積分、関数の展開、極値など、微分の応用、積分の応用、行列、行列式の計算、逆行列の計算、線形変換、固有値問題、対角化、複素数論、幾何学などを含む。数学の体系を理解するとともに、数学を使えるようにする。練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
Liberal Arts	学問の基礎	生活と物理Ａ	自然科学の基本的な考え方と、基礎的な知識を勉強する。21世紀に文明人として生活していくうえで必要とされる科学・技術について基本的な教養を身につける。古典物理学の復習とともに、近代科学技術の基礎となる量子力学、相対性理論などの基礎知識を勉強する。原子論を基礎として、その応用として発達してきた現代科学の成果を学ぶ。具体的な内容は、コースにより、光、電磁気、半導体、レーザー、超伝導、などとなる。講義を行うとともに、小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
Liberal Arts	学問の基礎	生活と物理Ｂ	自然科学の基本的な考え方を学び、自然科学のより深い理解を目指す。現代の科学技術に量子力学、相対性理論などがどのように応用されているのか理解を深める。原子、原子核の知識を学び、半導体、ダイオード、トランジスター、レーザーの原理と種類、その応用、放射光、超伝導の理論と高温超伝導体、放射線、エネルギーなどの内容を系統的に学ぶ。必要に応じ、波動、熱力学、電磁気学など古典物理学の講義も含める。小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
Liberal Arts	学問の基礎	エネルギーの科学Ａ	大量のエネルギー消費は深刻な環境破壊を引き起こすため、省エネルギーが推奨されている。しかし、この先、人口の爆発的増加とともに、エネルギー消費量はさらに増加していくことが予想されている。こうした現代社会を生きる我々は、エネルギーに関する基礎知識をもち、エネルギー利用の現状と未来をしっかりと見据える必要がある。この講義ではクリーンエネルギー、再生可能エネルギー、カーボンオフセット等の概念を科学的に理解し、エネルギー利用と地球環境問題のバランスを考えていくことを目的とする。	
Liberal Arts	学問の基礎	エネルギーの科学Ｂ	我々人類は、近い将来に、環境に優しく、エネルギー需要を十分まかなえる恒久的エネルギーを開発する必要がある。それまでは、地球環境を考えながら、現在あるエネルギーを有効利用していかなければならない。この講義では各種エネルギーの特長や問題点を科学的に理解し、エネルギーのベストミックス、廃エネルギーの有効利用や省エネルギーについて考えていくとともに、未来のエネルギー利用を予想していくことを目的とする。	
Liberal Arts	学問の基礎	物質の科学Ａ	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、物質世界の始まり、物質科学の基礎、味物質・食べ物の科学、衣類・洗剤の科学、色々な金属とその特徴・役割について講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	物質の科学Ｂ	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、色々な気体とその機能・役割、環境と物質、生命を司る物質と役割、毒物質について講義する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	環境の科学Ａ	現代に生きる我々は地球環境問題という地球全体を巻き込んだ環境問題に直面している。かつて局地的であった環境汚染が地球全体に波及したからである。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。一方、自動車の排気ガスからの浮遊粒子状物質、NO２などによる大気汚染、水質汚濁、騒音などの私たちの身の回りの環境問題も依然として深刻である。この講義では、環境問題発生のメカニズム、現状、対策等を論じ、持続可能な社会を築くための科学的な基礎知識を教授することを目的とする。	
Liberal Arts	学問の基礎	環境の科学Ｂ	1990年代に入り、人類生存の危機とかかわって、いわゆる“地球環境問題”が、社会経済体制の違いをこえて広く地球規模で緊急に解決しなければならない大きな課題として浮かび上がってきた。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。人口が67億を超えた今、地球はもはや無限に広くはないのである。そこで、この講義では、よく話題になる地球環境問題あれこれを、自然科学の目で解剖することを目的としている。	
Liberal Arts	学問の基礎	地球の科学Ａ	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学A」では、特に、宇宙の大規模構造や太陽形成の標準モデル、46億年におよぶ地球環境の進化の過程を概説し、地球上の生命の誕生と進化・絶滅・人類の誕生までの歴史を振り返る。	
Liberal Arts	学問の基礎	地球の科学Ｂ	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学B」では、特に、地球環境問題や資源エネルギー問題について、地球システム学の観点から概説する。また、地震・津波・火山等の災害から身を守るための基礎知識として、火山や地震などの発生メカニズムと災害被害について理解をする。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学Ａ	この講義の目的は、世界の植物群落の性質と分布を知り、それの形成に関係した環境について知ること、さらに、その植物群落を利用してきた人々の関係について考察することを目的とする。この講義では、講義担当者がこれまでに歩いた世界の異なる地域を取り上げ、そこの植物群落とその発達を支えている環境について学び、そこに生活する人々の生活の実際について紹介する。皆さんは、世界の植物群落の全体的特徴を知ることと同時に、さらに情報を集めて自然理解を深めて欲しい。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学Ｂ	この講義では、日本の自然に関して植生管理学的な見方で解説し、日本の自然の実態と問題点を知ってもらい、その改善のための管理のあり方について考えてもらうことが目的である。この講義では、最初に植物群落に関する基本的な見方について説明し、次に、世界の中での日本の植物群落の性質を知ってもらう。その後は、日本の代表的な自然群落や二次的な植物群落に焦点を当て、それのもつ性質と現在置かれた状況を紹介し、植生管理のあり方について考えてもらう。皆さんも、日本の植物群落に関心を持ち、情報を集めて考えて欲しい。	
Liberal Arts	学問の基礎	天文学Ａ	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝やく星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近かな太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。さらに、教員ごとに、①ケプラー・ニュートンの法則。②惑星・太陽系。③恒星のスペクトル、HR図。恒星とは何か、恒星の一生。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	天文学Ｂ	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝やく星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近かな太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。教員ごとに、①恒星から宇宙まで。②恒星の光と内部構造・進化。③恒星の誕生と終末。相対性理論と宇宙論、人類の宇宙観の変遷。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然科学概論Ａ	日常経験する様々な自然現象を、合理的に理解できるような知識と方法を学び、自然を総合的に理解することを目的とする。エネルギー・環境問題などの科学的知見だけでは決着のつかない課題に対しては、自らの考えを持って判断できるような見識を養う。学習する項目は、地球の回転と天体の見かけの運動(地軸の傾き、歳差運動)/月と暦(満ち欠け，潮汐力、日食と月食、旧暦、月齢の計算、二十四節気など)/彗星・流星群/電磁波と光(偏波･偏光、ドップラー効果、レイリー散乱)/測地学(地球深部の動き、地球回転運動等)、などである。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然科学概論Ｂ	日常経験する様々な自然現象を、合理的に理解できるような知識と方法を学び、自然を総合的に理解することを目的とする。エネルギー・環境問題などの科学的知見だけでは決着のつかない課題に対しては、自らの考えを持って判断できるような見識を養う。学習する項目は、月の科学(月の成因、月の進化など)/ 地球の自転変動/地球の大気、雲（フェーン現象）/慣性力とコリオリ力/大気の大循環(季節風、ジェット気流等)/天体の運動と地球環境/気候変動/太陽系外の惑星/地球外知的生命体の探査、などである。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然誌Ａ	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（水の科学、生命の条件、自然に於ける水の分布・形態・動態と変遷）、生命の自然誌（生命とはなにか、生命を司る物質、生命維持・存続の仕組み、自己と非自己の違い）などを講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	自然誌Ｂ	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（自然が織りなす水の芸術、人工・天然物とその比較、文明と水、水の科学と文化・産業、資源としての水）、生物の自然誌（環境と生命の関わり合い、感覚と動物の反応、生得的行動と学習行動）などを講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学実験講義Ａ	本講義では、花の進化と生殖戦略について扱うこととする。特に、虫媒花の花色とその発現のメカニズムを中心に扱い、それを花の起源や構造についての知識を養いながら、最終的に、「色とその情報」の観点からアプローチし理解を深める。観察を行うほか、色素に関する実験講義を行うことにより、花と色素についての理解を促進する。このコースは生物学実験講義Bとセットで受講することを強くお勧めする。	
Liberal Arts	学問の基礎	生物学実験講義Ｂ	本講義は、植物の生活と「光」との関係を理解することを目的とする。特に、講義の前半では、光とかかわりの深い、植物のもっている葉の構造や性質についての知識を習得することに重点を置く。その後、植物たちの生き残り戦略を、光争奪戦術の観点から学ぶとともに、実験講義を通じてその理解を深めていく。また、その際のデータ処理についても扱うこととする。このコースは生物学実験講義Aとセットで受講することを強くお勧めする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	学問の基礎	化学実験講義Ａ	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする。化学の知識や化学実験の経験がなくても理解できるような内容とする。具体的には、周期表、化学結合・反応の基礎、分子構造情報と模型作製、化学実験の基本と注意事項、未知試料の分析、食品の成分分析について実験・講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	化学実験講義Ｂ	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする．同時に、科学レポートの書き方について講義し、実験レポート作成により実践する。具体的には、繊維の合成、物質の蒸留・抽出、時空間連続反応、環境放射線測定、浸透圧について実験・講義する。	
Liberal Arts	学問の基礎	数理・情報実習講義Ａ	プログラミングの実習講義を行う。Ｃによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。教室におけるコンピュータおよびプログラミングを学び、PCを使っての実習講義を行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。プログラミングに必要な文法を講義する。Ａで学ぶ内容は、入出力命令、判断文、繰り返し命令、コンソール操作、配列などである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを作成し、ソースコードを提出させる。	
Liberal Arts	学問の基礎	数理・情報実習講義Ｂ	プログラミングの実習講義を行う。Aで学んだ知識を前提として、Ｃによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。コンピュータおよびプログラミングを学び、PCを使っての実習講義を行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。Ｂで学ぶ内容は、関数、ポインタ、乱数などの数学処理、ファイル操作、シミュレーションなどである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを提出させる。最後に１年分のプログラムを完成させる。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究Ａ	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、通常我々が慣れ親しんでいる地理観や世界観とは異質な生活世界が多々存在することを、歴史・文化・地理といった複合的な観点から有機的に説明することが主眼である。さらに、そうした地域に住む人々の政治・日々の食事・生活用具・学校教育・心象風景なども取り上げて、生活実感をできるかぎり理解できるようにする。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域文化研究Ｂ	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、とりわけ、民族問題やアイデンティティ問題について、近現代史的視点から人々の営みや紛争の所在について検討する。また、国際政治情勢や様々な形態の戦争・国際的衝突・異文化理解において生起する齟齬の発生要因なども含めて検討して、具体的な地域や文化や国家を取り上げて考察していく。	
Liberal Arts	国際人の形成	百人一首の文化史Ａ	『百人一首』の世界を（１）成立の背景注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。『百人一首』成立後、注釈書は写本として特定の人々の間に伝えられたが江戸期には、秘伝をともなった注釈から公開される注釈へと変容する。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	百人一首の文化史Ｂ	『百人一首』の世界を（１）成立の背景注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。かるた、往来物などへ形態を変え、「異種百人一首」・「もじり百人一首」など新たな文学作品を生み出してゆく過程を学ぶ。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の昔話Ａ	多くの人が、自身の成育過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、上記の意味における昔話とはどのようなものなのか、どのように伝えられてきたのかということなどを取り上げ、昔話の外観的な特徴を理解することを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の昔話Ｂ	多くの人が、自身の成育過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、動物昔話・本格昔話・笑話の構造と特徴、昔話の分布の状況、伝播者（広めた人々）などを取り上げ、昔話の内容について理解を深めることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本文学文化と風土Ａ	日本はその独自の地形や風土、気象現象から、各時代の都市の変遷によって、特有の文化藝術を築き上げてきた。本講義では、わが国固有の風土や地理的条件を通して形成された文化や景観を、各地域ごとの文学や歴史、藝術作品から俯瞰し、日本特有の文化遺産や自然観、美意識を考察する。また、これらの風土文化論を通して、大学生として抑えておきたい一般常識や普遍的な教養、知識を発信する。授業では日本風土論についての概説を提示したうえで、日本の景観について歴史を考慮しつつ紹介していく。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本文学文化と風土Ｂ	日本はその独自の地形や風土、気象現象から、各時代の都市の変遷によって、特有の文化藝術を築き上げてきた。本講義では、わが国固有の風土や地理的条件を通して形成された文化や景観を、各地域ごとの文学や歴史、藝術作品から俯瞰し、日本特有の文化遺産や自然観、美意識を考察する。また、これらの・風土文化論を通して、大学生として抑えておきたい一般常識や普遍的な教養、知識を発信する。授業では、文学作品を通して日本のさまざまな地方の景観を紹介しながら地方の風土文化の特徴を考えていく。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の詩歌Ａ	近代日本の詩歌について講義をする。具体的には現在はあたりまえとなっている口語自由詩が、どのような歴史のもとに成立し展開してきたかを考察する。明治15年の『新体詩抄』前後からはじめ、時代と発想の推移、さまざまな文芸思潮、社会運動、宗教などに触れながら、口語自由詩が本格的に展開される大正期までの歴史を概観してゆく。	
Liberal Arts	国際人の形成	日本の詩歌Ｂ	口語自由詩の完成者であり、現代詩の祖ともいわれる詩人萩原朔太郎に注目し、全体的な詩業を見渡し数多くの作品を紹介して、読解を行なう。理解を深めるためにその思想や特異な宗教観、言葉についての問題意識、表現方法などを紹介する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	西欧文学Ａ	イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国からロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれた多様な文学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の文学作品を読むことの意義、全体的な問題意識を提示したのち、文学作品をひとつひとつ紹介しながら、そこにあらわれるテーマについて考えていく。世界の名作に親しむことを通じて、読書の楽しみや文学に対する興味を引き出し、幅広い教養を培うことをめざす。	
Liberal Arts	国際人の形成	西欧文学Ｂ	イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国からロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれた多様な学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の名作となっている作品を取り上げて味わいながら読み、作品に現れたテーマや問題意識、文学表現上の魅力について考えていく。授業を通じて文学的な感性を養うと同時に、西欧の文化や歴史を日本との関係において理解し、批判的に考える力を養う。	
Liberal Arts	国際人の形成	現代日本文学Ａ	主に２０００年代に発表された文学作品等を取り上げて、特に、現代日本の小説等に表現された〈成長〉をめぐる諸問題について考える。小説において、人間の〈成長〉がどのように捉えられ、表現されているかを深く読み込むことで、その作家の問題意識、およびその社会・時代特有の問題系が浮かび上がってくる。とりわけ、いくつかの重要な小説作品は、〈成長〉のあり方に従って取捨選択されていく過去の〈記憶〉の意義を提示しようとしている。そこに示されるであろうパラドキシカルな〈主体〉の姿を、合わせて確認していきたい。	
Liberal Arts	国際人の形成	現代日本文学Ｂ	主に２０００年代に発表された文学作品等を取り上げて、特に、現代日本の小説等に表現された〈闘争〉をめぐる諸問題について考える。小説等において、人間の〈闘争〉がどのように捉えられ、表現されているかを深く読み込むことで、その作家の問題意識、およびその社会・時代特有の問題系が浮かび上がってくる。とりわけ、現代の多くの小説作品は、善悪の価値観が相対化されるなかでの〈闘争〉をめぐり、特にその主体性のあり方について鋭く問おうとしている。この観点から、現代日本文学に含まれる刺激的な一面に迫っていく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	地域史Ａ	世界諸地域の歴史と社会について、幅広い諸地域を対象に学んでいく。民族紛争、宗教対立、ナショナリズム、戦争、人種差別、性差別、全体主義、グローバル経済、格差社会といった近現代史を読み解く重要なキーワードを学びながら、歴史はもちろん、私たちの社会のありかたを問い直すことも目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	地域史Ｂ	地域史Ａとは別の地域を元に、世界諸地域の歴史と社会について、幅広い諸地域を対象に学んでいく。民族紛争、宗教対立、ナショナリズム、戦争、人種差別、性差別、全体主義、グローバル経済、格差社会といった近現代史を読み解く重要なキーワードを学びながら、歴史はもちろん、私たちの社会のありかたを問い直すことも目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	アジアの文学	本講義では、アジア各域の文学事象や文学作品を学修することにより、それぞれの地域における人々の生活や文化の背景に理解を深めてゆくことを目的とする。アジアは広域であるばかりでなく、歴史的諸条件等の要因もあって、多様性を内包している。その多様性は、民族、政治、宗教、思想、文化等の諸方面に特徴的な様相をもたらしているが、その実像は往々にして文学作品に具体的に反映されているのである。そこで文学を通してアジアに暮らす人々の意識や感情を認識してゆくことで、アジアを理解する力を涵養する。	
Liberal Arts	国際人の形成	アジアの古典	アジアの古典には様々な地域の様々な分野があるが，本講義では，多くの国に影響を与えているインドのヒンドゥー教，仏教の古典を取りあげる。古典に触れるということは，遠い昔に作られた書物を読んで単に知識を増やすことではないことを理解するため，文学作品だけにとらわれず，古典を広い視野でとらえることとし，古典音楽・舞踊も取りあげ，その概説と他の国の文化や現代への影響などを解説する。	
Liberal Arts	国際人の形成	国際関係入門	現代の国際関係の特徴と諸問題について基本的事項を中心に解説する。主な講義項目は、①主権国家制度の概要と成立経緯、現代における制度変容②国際関係の諸理論（リアリズム、イデアリズム、マルクシズム、社会認識形成主義などの国際関係理論）③国際関係のアクター④国際政治と影響力行使の手段（政治・軍事・外交各手段の特徴）⑤国際機関と人権・環境・難民問題（国連の機能と課題、人権規約等人権に関する諸条約、地球環境問題、難民条約と難民・避難民問題などを解説）	
Liberal Arts	国際人の形成	国際キャリア概論	本講座では留学の歴史的役割や概念を振り返るとともに、留学が持つ社会的意義、個人の成長やキャリア形成にもたらす役割について実例をもとに学ぶ。カルチャーショックやアイデンティティー危機など留学を通じて得られる異文化体験についても分析する。また、海外での学習において準備しておくべき事項として、語学力の強化、綿密な学習計画、単位互換、安全面や健康面での危機管理などについて認識を高めていく。海外インターンシップ、ボランティア、フィールドワークなど多様な海外学習体験について紹介し、受講者に自らのキャリア・デザインの在り方を客観的に分析する機会を提供する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、大学生がどのように国際的なキャリア形成をめざすべきか、ガイダンスすることを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家などを招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（とくに大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外研修Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 　海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外研修Ⅱ	本講義は、海外研修Iを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。 2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外実習Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。 海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	海外実習Ⅱ	本講義は、海外実習Iを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。 2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅱ	本講義は、短期海外研修Iを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅲ	本講義は、短期海外研修Ⅱを受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外研修Ⅳ	本講義は、短期海外研修Ⅲを受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済などに関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。 4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅰ	本講義は、学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。 　短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅱ	本講義は、短期海外実習Iを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。 2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅲ	本講義は、短期海外実習Ⅱを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
Liberal Arts	国際人の形成	短期海外実習Ⅳ	本講義は、短期海外実習Ⅲを受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。本講義が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワークなど、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成につなげることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	日本国憲法	憲法は国家の基礎となる法である。その特徴は「最高法規」であり、憲法に違反する法はたとえいかに正しい手続きによって定められても無効となる。そこで、憲法が、人として譲ることができない最低限度の権利として保障している人権は、たとえ国会の多数決によって定められた法律によっても侵害することができない。さらに憲法は、統治の仕組みについて定めている。国民に主権を認め、選挙により代表者を選出し、その代表者が国会を形成し、法律を定める。内閣は、抽象的な法律を現実に適用することにより行政を行い裁判所は、国会・内閣の作用を憲法・法律に照らして見直し・是正する機関である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技A	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技A」は春学期開講の授業科目である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学実技B	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技Ｂ」は秋学期開講の授業科目である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学講義Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関する入門的講義を行う。主に、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目的とする。また、現状の体力の把握や緊急時の対応などを学習することを通して、自他の健康への意識を高め、生涯の健康をより発展的に捉えられることも課題として位置づける。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学講義ⅡA	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡA」は、春学期の開講科目である。本講義では主に、健康管理・安全管理を中心に講義していく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	スポーツ健康科学講義ⅡB	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡB」は、秋学期の開講科目である。本講義では主に、生活習慣病や体づくり、トレーニング理論を中心に講義していく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	情報化社会と人間	コンピュータの普及とそのネットワークの接続によるいわゆる社会の情報化はこれまでの仕事や通信のあり方のみでなく社会生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させようとしている。しかしながら、社会の情報化は唐突に生じた訳ではなく、人間社会の歴史の延長線上にあり、本講義では、その文脈での情報化社会の意味と現象を主体的に理解することによって、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	コンピュータ・リテラシィＡ	大学生として必要な、情報収集・活用技術（インターネット等）を習得する他、Word（文書作成）、Excel（表計算）、PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を用いてコンピュータの基本的な操作方法を習得する。 また、基本的な技術の修得だけではなく、セキュリティ対策や個人情報保護といったデータを扱う上での注意事項等も含めて解説を行う。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	コンピュータ・リテラシィＢ	コンピュータ・リテラシィＡに引き続き、大学生として必要な、情報収集・活用技術（インターネット等）を習得する他、Word（文書作成）、Excel（表計算）、PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を用いてコンピュータの基本的な操作方法を習得する。 また、基本的な技術の修得だけではなく、セキュリティ対策や個人情報保護といったデータを扱う上での注意事項等も含めて解説を行う。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	社会人基礎力入門講義	社会はどのような人材を必要としているか?本講義は、将来社会で活躍できる人材育成を目標として、「社会人基礎力」の観点から解説を行う。「社会人基礎力」とは、経済産業省が定義した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のことである。本講義は、その「社会人基礎力」の育成のために、本学独自の視点を加えて、さまざまな問題提起を含むヒントを提供したい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	社会人基礎力実践講義	社会人として生きていくためには、必然的に、学生時代から「社会」に興味を持ち、「社会」のことを知らなければならない。情報化社会、国際化社会の今日、「社会に生きる」ということは、大げさに言えば、無限大の世界が対象となる。この授業では、「新聞」というメディアを活用し、そこから「社会」を知り、様々なことを考え、その考えを自ら発信する姿勢を、普段の生活に於いて確立することを、目指したい。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	キャリアデベロップメント論	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を学ぶこととする。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観の分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習し大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを考えていきたい。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	キャリア・市民形成	社会貢献活動入門	社会貢献という視点から、これからの人生設計を考える。①学生が、社会貢献という視点から自身の人生設計を検討する姿勢を養う。②①を達成するために、知識の提供ではなく、自律的な思考能力の育成を重視する。公益とは何か、また、公益と個人の利害の葛藤などについて考え、社会において個人が果たし得る役割と課題について考える。また、社会と個人をつなぐ組織的活動についても理解を深める。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	公務員論	我が国の公務員制度について、法制度や慣習の観点から考察を行うとともに、講師の国家公務員・地方公務員の体験談を交えながら理解を深める。また、公務員試験を目指す学生のためのアドバイスも適宜行う。単なる公務員に関する知識習得に留まらず、公務員制度の本質の理解と、学生自ら我が国の行政運営に関する課題とその解決策を探ることを目指す。また、学生の関心やその時の話題となっているテーマについても随時取り上げる予定である。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	情報ネットワーク論	ユーザーとして必要な基礎的な知識を習得することを目的としている入門的な科目である。 ネットワークとは、どのような仕組みで出てきるのかを具体例を示しながら解説するとともに、ネットワークの使い方についても説明を行う。また、ネットワークの歴史や概念等についても、分かり易く解説を行っていく。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。わかりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身に付ける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書など題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	アカデミックライティング	本科目では、人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文などを代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成など、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	インターンシップ入門	本講義は、企業・官公庁などでインターンシップ（就労体験）を行う前に、自らの産業・企業に対する理解、職業・就労への意識、実社会への順応するために必要なスキル等を確認・修得することを目的としている。また、学生が卒業後の進路を考える上での一助になることを期待している。	
Liberal Arts	キャリア・市民形成	ボランティア活動入門	ボランティア活動を行うにあたって、まずはボランティアにはどのようなものがあるのか、そもそもボランティアとは何を意味しているのかを一から学ぶことで、ボランティアに対する認識を確認する。ボランティア活動を行うにあたっての基礎知識を習得することを目的としている。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ＩＡ	現在、東洋大学では基幹研究の一つとして共生哲学の確立を目標とした活動を行っている。この授業は、その一環として東西の共生論を紹介して、共生哲学研究の諸問題を論じ特に自然との共生、民族の共生などを主なテーマとし、哲学論としての共生を考える。東洋・西洋の共生論の在り方を理解する。西洋哲学における共生の概念、東洋における共生のとらえ方を理解する。とくに共生学という概念をどのように理解するかを問う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	総合ＩＢ	現在、東洋大学では基幹研究の一つとして共生哲学の確立を目標とした活動を行っている。この授業は、その一環として東西の共生論を紹介して、共生哲学研究の諸問題を考える。特に自然との共生、民族の共生などを主なテーマとするが、東洋・西洋の共生の在り方を哲学から理解する。特に共生学の概念を理解し、西洋・東洋それぞれの違いを声明できるようにする。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅡＡ	東洋と西洋の近・現代詩を、テーマごとに互いに対比させながら読解する。はじめにシェイクスピアやソネットなどの愛の詩を読解する。文学作品の読解は、原文を自分自身の感性で読むことが大切であるので、出来るだけ多くの詩を朗読し味わうことを第一の目標とする。その中から自分の好きな詩についてのプレゼンを行いディスカッションを通して詩を理解していく。詩という材料から共感や抵抗感といった直接的な反応から出発し、私達自身の想像力の冒険、あるいは文学研究に至る、様々なレヴェルでの読み方を探っていきたい。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅡＢ	東洋と西洋の近・現代詩を、テーマごとに互いに対比させながら読解する。文学作品の読解は、原文を自分自身の感性で読むことが大切であるので、出来るだけ多くの詩を朗読し味わうことを第一の目標とする。はじめに人生の詩についてテーマを決め、詩を創作していく。創作した詩の発表を行いディスカッションすることにより、詩についての理解を深める。詩はまた日常生活から想を得た詩人の直截な心情の吐露から、現実を超えた宇宙的原理や絢爛たる夢想、あるいは難解な思想にいたるまで、人間の多様な情緒的・知的活動をはらんでいる。社会や遊びの詩を読解することにより、感性を磨き、自己表現力が高められるようにする。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅢＡ	２０００年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅢＢ	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅣＡ	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十八年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅣＢ	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	総合ＶＡ	哲学・死生学・出版界・自閉症・セクシャリティ・ホスピス・音楽など様々な学問や文化活動の観点から、生きがいについて考える方法を身につけるのが目標である。価値観・死生観・職業観・倫理意識等について取り上げて、現代社会における我々人間存在の複合的位相に切り込んでいき、個々の問題事象や解決方法などを提示していく。また併せて、茶道の点前を実演し、学生は客の体験をすることをとおして、日本固有の伝統芸道の意義やその深みを、学んでいく。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ＶＢ	日本の古代から現代にいたる歴史や時代の流れの中で、ひとびとが持った生きがいやなりわいというものが生み出し、展開した文学文化はどういうものであったか。そこに込められた人々の精神はいかなるものであったかについて様々な具体的職業やなりわいを取り上げて考える。ことに、現代では非日常に属する伝統的文化に焦点を充てる。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅥＡ	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を知ることが出来る。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観を分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習する、大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを知るものである。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅥＢ	授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから知ることが出来る。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索する。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅦＡ	異文化理解の問題を、特にヨーロッパとの関連で取り上げる。ヨーロッパ地域、ヨーロッパの歴史・文化に関心のある人にとっては、興味ある知識が得られるであろう。具体的には「異文化としてのヨーロッパの特徴を知り、説明できる」「留学、旅行などの事前準備の知識として十分な知識を得られる」「異文化としてのヨーロッパの特徴を知ることによって、逆に自文化、つまり日本文化の特徴を知ることができる」「正しい異文化理解をもてれば、自分と異なる文化に対する偏見から解放される」ことを目指す。	
Liberal Arts	総合・学際	総合ⅦＢ	西洋のイメージが永らく「欧米」という言葉で表されてきたように、アメリカとヨーロッパは（対日本という見地で）一括して捉えられてきた。しかし、実際には歴史・文化・国民性・価値観など大きな違いがあり、それが経済や政治に繋がる。本講義では、現代アメリカ事情を中心に、文学や歴史なども学ぶ教養科目としての側面も加味させたい。英雄像の違い、教育の考え方、家庭生活、犯罪、人種のるつぼと言われることから現代アメリカの苦悩である人種差別や性差別、宗教からくる対立、社会構造からくる貧富の差などを取り上げる。	
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ＩＡ	２０００年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ＩＢ	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ⅡＡ	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十八年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
Liberal Arts	総合・学際	全学総合ⅡＢ	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。また、白山、朝霞、川越、板倉の４キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時間に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
Liberal Arts	総合・学際	首都東京を学ぶ	白山キャンパス６学部融合科目として、文・経済・経営・法・社・国際のそれぞれの学問分野から見た「首都東京」を考察し、オムニバス形式の講義授業を展開することで、東京・江戸の文化・首都機能・経済・ビジネス・行政・海外（国際地域、観光）からみた東京を学び、世界のなかでの東京を再認識するとともに、グローバル意識の涵養を図る。異文化交流を目的として、留学生と互いに「国際都市東京」についてプレゼンテーションを行う。また、フィールドワークとして、文京区界隈の下町散策などを行い、白山地域における「東京」ならでは文化・社会を発見し、切り取り考察する。	
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	国際地域学基礎では国際地域学科で学ぶ際に、どんな心構えが必要なのか。また、どのような問題意識を持たねばならないのか。国際地域学科の現実の問題に強い関心を持ち、いかなる学習目標が求められるかに学生がイメージを持つことが目標である。本講義では、主に「国際や地域の基礎的理解」「地域の諸問題を分析していくために必要な能力の理解」「学科の取り組みに対する理解」「今から４年間の心の準備」「学習のモチベーションになる」などのテーマを取り上げる。	
Study Skills	Basic Academic Skills	入門ゼミナール	少人数でおこなう入門ゼミナールでは，一年生が「学生」（ある物事について，質問をしたり，自分で調べたり，それをいろんな方法で表現したり，それを他の人の意見と比べあったりする人）になっていくための訓練を始めることが目標です。テキストについて基本的なレジュメの作成と発表テキストをグループでおこなう。発表におけるエチケット／ルールも学ぶ。テキスト発表に基づいたコメント・議論をおこなう。レポート執筆においては，パソコンの利用，参考文献の記し方，などのレポートのエチケット／ルールを学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Advanced Academic Skills		プロジェクトゼミナールⅠ	それぞれの担当者の専門とするテーマ（各地域の諸問題等）において現状を理解し、その現状を分析し処方するのに使う理論を具体的な事例を元に理解し始めることが目標である。具体的には、テキストをつかっての講義と発表の組み合わせになる。学生発表はグループでの発表であり、テキストを読み、質問を考え、レジュメをグループで作り、発表をして質問に答える。レポート執筆においては、現実の叙述とそれをある視点から疑問を立てて自ら答える分析がおこなえることに留意する。	
Study Skills	Advanced Academic Skills		プロジェクトゼミナールⅡ	それぞれの担当者の専門とするテーマにおいて現状を理解し、その現状を分析し処方するにあたって、理論を応用することが目標である。具体的には、テキストをつかっての講義と発表の組み合わせになる。学生発表はグループでの発表であり、テキストを読み、質問を考え、レジュメをグループで作り、発表をして質問に答える。レポート執筆においては、現実の叙述と、その現実を文献研究やデータを使いながら分析がおこなえることに留意する。フィールドワークの基礎も学ぶ。	
Study Skills	Advanced Academic Skills		プロジェクトゼミナールⅢ	それぞれの担当者の専門とするテーマにおいて現状を理解し、その現状を分析し処方する理論をデータ分析・文献研究・現地調査をつかって実証分析をおこなうことが目標である。具体的には、テキストをつかっての講義と発表の組み合わせになる。学生発表はグループでの発表であり、テキストを読み、質問を考え、レジュメをグループで作り、発表をして質問に答える。レポート執筆においては、現実の叙述と、その現実を文献やデータや現地調査を使いながら分析がおこなえることに留意する。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	総合英語演習Ⅰ	この科目は基礎的な英語コミュニケーション力の養成を目的とするものである。大学生あるいは社会人にふさわしいレベルの日常生活・レジャー・趣味・食事・旅行といった身近なテーマをとりあげ、「聴く・話す」の力の向上を最大の目的として、基礎的な語彙の習得や実践練習を行う。ペアワーク、グループワークを中心に進めるが、TOEIC-SWテストのスピーキングパートを想定したスピーキングテストを実施することによって、TOEICテストのスコアアップにもつなげる。	
Study Skills	Language and Communication Skills	English	総合英語演習Ⅱ	この科目は「総合英語演習Ⅰ」で習得したことをさらに発展させ、社会や健康・自然といったやや難しいテーマをとりあげながら、中級レベルの語彙を習得し、それに関する英文を読み、自分の考えや意見を書くことを目指す。学期末には受講者各自のプレゼンテーションやレポートの提出を予定している。学年末のTOEICテストの受験を意識しながら、文法問題や速読、リスニング問題の演習にも取り組む。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	中国語入門Ａ	この講義は中国語の発音と基礎文法を教授することを目的とする。初歩段階ではテキストの音読、発音の反復的な練習が重視され、学生一人一人に声を出して発音を繰り返して練習させるほか、文法や、やさしい会話文形式で理解して習得させる。とくに「聞く」・「話す」スキルを鍛え、中国語の基礎表現力を養うとともに、少しでも話せるように指導し、実用的な語学力の向上を最終目標とする。また語学学習を通して、中国の文化・社会事情を知り、中国に対する理解を深めることも目標のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	中国語入門Ｂ	この講義は初級中国語を扱い、特に「読む（文法・語彙）」・「書く」スキルを鍛える。文法を会話形式で理解して、応用できるよう指導する。その上で、中国語の表現力を養うとともに、話せるように練習させ、実用的な語学力の向上を図ることを最終目標とする。また、中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ハングル入門Ａ	この科目は韓国語の初習者を対象とし、ハングル文字の仕組みや発音、基礎的な文法を習得した上で、最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。特に「聞く」・「話す」スキルを鍛え、基礎的な韓国語を理解し、テレビドラマや映画を楽しむほか、韓国を訪れても簡単なコミュニケーションができ、楽しむことができるレベルである。多くの学生に発言する機会を与え、対話形式で進めるほか、韓国のドラマや映画なども取り入れ、直接韓国文化に触れる機会を提供する。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ハングル入門Ｂ	この科目はハングル初習者を対象とし、特に「読む（文法・語彙）」・「書く」スキルを鍛える。テキストから一定の文例・文型を学習し、その文例・文型を用いて簡単な演習を行なうとともに、実際に使えるフレーズを増やし、単語力・表現力の増強を図る。具体的な場面における会話文や、よく使われる解説文等を教材とし、より実践的なハングルを身に付けることを目標とする。生きた韓国語に触れるとともに、韓国文化に触れ親しむ環境を提供する。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	フランス語入門Ａ	この科目はフランス語初習者を対象とし、基本的な文法や語彙の導入を図る。フランス語での挨拶など簡単な日常会話、初歩的な構文を使って日常的な会話などができることをめざす。また、文字をみて発音でき、簡単なものを読むことができることをめざす。反復練習を通じて特に「聴く」・「話す」技能を高め、フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。また、フランスの文化・社会を知り、フランスに対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	フランス語入門Ｂ	この科目はフランス語初習者を対象とし、特に「読む（文法・語彙）」・「書く」技能を鍛える。日常で使うフランス語で必要となる初級文法や語彙・表現を習得し、読解、作文の能力を養う。特に、辞書を用いてかんたんな文章が理解でき、作成できるようにする。フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。また、フランスの文化・社会を知り、フランスに対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ドイツ語入門Ａ	この科目はドイツ語初習者を対象とする。ドイツ語の基礎文法を習得し、特に基本的な表現・会話・聞き取りの能力を養う。アルファベットの発音から始めて単語のスペルと音の関係、挨拶から始め、日常の様々な場面でのドイツ語に慣れていく。ドイツ語圏における生活・社会・文化についての解説も行い、初級ドイツ語を学ぶのみならず、ドイツ語の用いられる生きた社会を知ることが、本講義の目的である。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Second Foreign Language	ドイツ語入門Ｂ	この科目はドイツ語初習者を対象とし、特に「読む（文法・語彙）」・「書く」スキルを鍛える。初級の文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の基礎文法を習得から一歩進んで、自らドイツ語での基本的な読解・表現・作文練習を行う。ドイツ語圏の生活・社会・文化についても、入門Aに続いてさらにいろいろな情報を得ていく。ドイツやドイツ語の特徴をつかみ、ドイツ語圏のイメージを抱く。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	英語研修	この科目は、英語の実践的なコミュニケーション能力を高めることを目的とする。英語を使用言語としている海外の大学において集中的に実施し、クラスルーム、ボランティア、インターンシップやさまざまなビジネスシーンを想定したコミュニケーションのトレーニングを通して、Listening、Speakingを中心としたコミュニケーション能力を養成していく。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	フランス語総合演習	この科目は基礎からのステップアップで、語彙・文法・会話表現を向上させるとともに、フランス文化のさらに様々な側面を知ることを目的とする。「聴く」「話す」「読む」「書く」の４つの技能を高め、文法や語彙だけでなく、フランスやフランス語圏の国の文化も学ぶ。基本的なフランス語を使い、日常会話、旅行で使えるフランス語を練習するとともに、フランスの食文化の豊かさ、フランスの地方の多様性を知る。フランス語検定を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ハングル総合演習	この科目は基礎からのステップアップで、初級の授業で習得した基礎的知識を広げ、韓国社会で必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。さらに韓国語を通して異文化を経験し、韓国社会についての知識や理解を一層深めることを目的とする。初級の文法事項を復習しつつ、学生のレベルに合わせ、韓国関連の事項、韓国学生の大学生活、書物、ドラマ、映画、音楽等、韓国大衆文化にも触れながら、会話を中心にリスニング、読解を同時に行う。韓国語能力試験を受験する学生にも役に立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ドイツ語総合演習	この科目は基礎からのステップアップで、さらに上のレベルの文法項目や語彙・表現と、言語タスクを扱う。ドイツ語の知識を増やし、さらに表現の幅を広げるとともに、ドイツ語圏の国々についての知識や、ドイツ人の環境意識についても学ぶ。「聞く」、「書く」、「読む」、「話す」の４技能全てにおいて、さらなるレベル向上をはかるとともに、ドイツ語検定試験を受験する学生にも役立つ内容を扱う。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	中国語総合演習	この講義は基礎からのステップアップで、これまで習得した中国語の知識を応用して、口頭表現ができることを目的とする。講義内容は実用中国語を中心とし、テーマごとに会話の場面を作って会話し、応用的な会話ができるようにするとともに、中国語検定試験を受験する学生に対しても役に立つ内容を扱う。また、中国語の語学学習を通して、中国の文化・社会を知り、中国に対する理解を深めることも目的のひとつである。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ビジネス英語演習	この科目は、さまざまなビジネスシーンの動画や音声を視聴し、そこに現れる表現や状況設定についての基礎知識を身につけることを目的としている。特に、TOEICテストでビジネス関連の英語が多くとりあげられることを意識して、ビジネスの場面を前提とした問題の演習に取り組み、学期末までのスコアアップを確実にする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	メディア英語演習	この科目はマスメディアを国際語である英語を通じて複眼的に見ることを身につけることを目的とする。そのために国内外の新聞やテレビをはじめ雑誌やインターネットなどに現れる英文や音声、動画を教材とし、時事的な話題に関する基礎知識や、ニュース英語特有の表現や文法を学ぶ。教材の読解、視聴から始め、学期末には受講者各自が選んだテーマについてのプレゼンテーションや記事の執筆を行うことを目標とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	英語検定	この科目は主にTOEICの受験対策として、日常生活やビジネスシーンで使われる語彙や表現を身につけることと、テストのスキル（問題のパターン、解答のスキル、時間配分など）を習得することを目的とする。CALL教室にて発音やシャドーイングの練習、語彙・文法問題の演習、リスニング問題の演習を行い、受講終了時までの確実なスコアアップをめざす。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	中国語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかった中国語圏の社会，文化，政治，文芸などについて中国語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。中国語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでに中国語入門A・入門B・総合演習を学習し、中国語の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ハングルの言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったハングル圏の社会，文化，政治，文芸などについてハングルの中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。ハングル圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにハングル入門A・入門B・総合演習を学習し、ハングル圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	フランス語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったフランス語圏の社会，文化，政治，文芸などについてフランス語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする。フランス語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにフランス語入門A・入門B・総合演習を学習し、フランス語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	ドイツ語圏の言語と文化	この科目は基礎の授業の中では紹介しきれなかったドイツ語圏の社会，文化，政治，文芸などについてドイツ語の中級レベル以上の資料を用い関心の幅を広げることを目標とする．ドイツ語圏に暮らす人々の生活様式や価値観、思想、歴史などを学びながら、同時に中級～上級レベルの文法や語彙、表現も身につける．すでにドイツ語入門A・入門B・総合演習を学習し、ドイツ語圏の言語と文化に関する基礎知識を修得した受講生を対象とする。	
Study Skills	Language and Communication Skills	Language and Communication	Internet Research	今や国際的な情報収集・情報提供・コミュニケーションのツールとなっているインターネットの様々な機能を使いながら、ネット上に現れる英語表現やネット操作のスキルを身につけ、テーマに関する調査レポートを作成することを目的とする。まずは、英語でのe-mailの書き方を学び、学期中盤以降は一定のテーマに関するデータや研究を収集し、その調査結果を受講者各自がプレゼンテーションすることを目標とする。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ＩＡ Listening/Speaking	Students will study academic content in order to obtain TOEFL-ITP scores above 450 points. This course introduces authentic listening content and engages students in spoken discourse on academic topics. Students will learn the process of inquiry and practice all kinds of question patterns. The content is demanding as the material is authentic. Students learn the skills and strategies needed to maximize their scores on language proficiency tests. TOEFL-ITPで450点以上取得するためのアカデミックな内容を学ぶ。ネイティブスピーカーを対象としたリスニング教材を用いてアカデミックな内容についてディスカッションをする。質問のプロセスや様々な質問のパターンを学ぶ。本格的な教材を用いるため取り組む課題の多い内容である。語学能力試験でスコアを高めるために必要なスキルとストラテジーを学ぶ。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ＩB Reading/Writing	Students will study academic content in order to raise their TOEFL-ITP scores above 450 points. This course introduces authentic reading materials and engages students in written discourse on academic topics. The readings are authentic texts and students must acquire academic vocabulary. Accurate grammar, punctuation and language use are important components in this stage of academic report writing. Students will learn the fundamentals of developing a thesis in their written work. Additionally, students will learn the skills and strategies needed to maximize their scores on language proficiency tests. TOEFL-ITPで450点以上を取得するためにアカデミックな内容を学ぶ。本格的なリーディング資料を用いてアカデミックな内容についてディスカッションを行う。取り扱うリーディングはネイティブの人々が使う内容であり、アカデミックな語彙が必要である。正確な文法、句読点や言葉の使い方はアカデミックレポートライティングの重要な構成要素である。論文作成能力を向上させる基礎を学ぶ。さらには、語学能力試験で最大限スコアを向上させるためのストラテジーやスキルを学ぶ。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅡA Listening/Speaking	Students will study challenging academic content in order to obtain TOEFL scores above 500 points on the TOEFL-ITP exam. The intention is to have students qualify for international exchange programs. This subject is suitable for students with TOEFL-ITP scores between 450 to 460 points or higher. This course uses challenging, authentic listening content and engages students in spoken discourse at the lecture and discussion level found in overseas universities. TOEFL test preparatory study material is woven into the subject content. This is a demanding subject and requires a strong, sincere commitment from students. 交換留学に必要なTOEFL-ITPで500点以上を取得するためのアカデミックな内容を学習する。TOEFL ITPで450点以上を取得している学生を対象とする。チャレンジングで本格的なリスニング内容を使用し、海外の大学レベルのディスカッションや講義で語られる事柄について話をする訓練を行う。また、TOEFLテストに向けた内容を扱う。課題が多く、主体的に取り組む姿勢が求められる。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	English for Academic Purposes ⅡB Reading/Writing	Students will study challenging academic content in obtain TOEFL-ITP scores above 500 points. The intention is to have students qualify for international exchange programs. This subject is suitable for students with TOEFL-ITP scores between 450 to 460 points or higher. This course uses real academic content and requires students to have a wide command of academic vocabulary. Students will be required to write academic essays. TOEFL test preparatory study material is woven into the subject content. This is a demanding subject and requires a strong, sincere commitment from students. 交換留学に必要なTOEFL-ITP試験500点以上を取得するためのアカデミックな内容を学習する。TOEFL ITPで450点以上を取得している学生を対象とする。実際に大学等のアカデミックな場面で使用される内容や幅広いアカデミックな語彙を使用する。アカデミックエッセイを書くことが要求される。また、TOEFLテストに向けた内容を扱う。課題が多く、主体的に取り組む姿勢が求められる。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad College Study Skills	This is advanced English for Academic Purposes. Ideally, students have already reached TOEFL-ITP scores of 500 points and have qualified for the overseas exchange program. This subject strengthens all four skills: listening, speaking, reading, and writing. Special emphasis is placed on lecture note-taking, critical thinking, skimming and scanning, speed reading, group participation, discussion, and presentation skills. The content will be real academic texts and the performance expectation on students is high. アカデミックな目的のための上級英語である。TOEFL-ITP500点をすでに取得済の学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を強化する。プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークへの参加、速読、スキミングとスキャニング、クリティカルシンキング、ノートテイキングを学ぶ。内容は、アカデミックなものであり、授業内での高いパフォーマンスが求められる。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad Basic Academic Writing	This is a high level English for Academic Purposes writing class. Ideally, students have already reached TOEFL-ITP scores of 500 points and have qualified for an overseas exchange program. This subject moves basic writing skills to an academic level. The students will get experience writing in the complete range of expository genre that are combined in academic essays. Students will get extensive practice working through the writing process: planning, organizing, drafting, revising, and publishing. アカデミックな内容を目的とした高度な英語のライティングクラス。TOEFL-ITP500点をすでに取得している学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。基礎的なライティングスキルからアカデミックな内容までを扱う。アカデミックエッセイで組み合わさる様々なジャンルのライティングを練習する。プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して練習をする。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Pre-Study Abroad Academic Essay Writing	This is advanced English for Academic Purposes writing. Ideally, students have already reached TOEFL-ITP scores of 500 points and have qualified for the overseas exchange program. Additionally, students should have already completed PSA-Basic Academic Writing. In this subject, students will be required to write full-length term papers. This subject requires students to do independent research, paraphrase, summarize, quote, and reference academic material. Students are required to submit high level work demonstrating they can succeed in overseas study programs. アカデミックな内容を目的とした高度な英語レベルのライティングクラスである。TOEFL-ITP500点をすでに取得している学生を対象とする（交換留学が決定していれば、なお望ましい）。さらに、PSA-Basic Academic Writingを履修していることを前提としている。長文のペーパー執筆が課される。自由研究をする中で、言い換え、要約、引用、アカデミックな資料の収集・整理が課される。海外留学を成功させるための質の高い課題の提出が求められる。	
Study Skills	留学支援科目	英語特別教育科目	Business English Communication	本科目では、コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキルなどの効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行などのビジネススキルを身につけさせることも目的としている。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択必修	国際政治学	冷戦後の国際政治の状況について講義を進める。まず冷戦の終焉と国際政治構造の変容（イデオロギー対立から宗教対立へ、文明の衝突論、デモクラティックピース論、グローバルスタンダードとアイデンティティの危機等）について説明の後、世界の主要地域の国際政治情勢と課題について説明を進める。取り上げる主な地域は、①アメリカ：覇権衰退論の行方②ロシア：プーチン政権とウクライナ問題等③ＥＵの統合と移民流入問題④中東：パレスチナ和平、シリア内戦とイスラム国、イランの核開発、アラブの春のその後④中国の大国化と東アジアの緊張⑤北朝鮮核問題など	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択必修	国際協力論	本講義では、国際協力・開発援助に関する枠組みや開発理論（潮流）の変遷、さらに最近の課題やアプローチについて広く体系的に理解をして、基礎力を養うことを目指す。また、開発援助のアクターについても学び、自分自身が将来的に国際協力にどのような形で関わる可能性があるのか、身近な事例を紹介しながら具体的なイメージを持ってもらうことを目指す。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択必修	国際経済学	本科目は、本学科の上位科目の内容をより理解するために必須であると同時に、将来社会人になってビジネス社会で仕事をする際にも必要なものです。 本講義の目的は、国際経済に関わる理論を学ぶことです。他に、歴史と政策（応用）の分野がありますが、半学期のこの講義では理論をしっかり身につけていただきます。ただし、講義の理解を深めるため、現実の政策課題や歴史も必要に応じて取り上げます。国際金融論は独立に開講されます。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択	情報入門・データ解析	地域における問題点の把握、計画立案などに必要とされるデータ処理の基本について学ぶ。データの可視化、統計量の算出など初等の統計学や多変量解析等のデータ解析の概要を述べ、例題を用いた実習を行うことで基礎知識と基本的な技術を身に付けた上で、国際地域学で対象とするさまざまなデータ（統計データ、社会調査のデータなど）を解析する技法を学ぶ。PC教室を用い、表計算ソフトや統計解析ソフトを利用しながら演習を実施することにより、実践的なデータ解析能力を身につける。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択	マクロ経済学	本講義では、下記のようなマクロ経済学の主要トピックを講義する。マクロ経済学とは何か、ＧＤＰとは何か、三面等価、経済成長と技術の役割、消費の決定、ライフサイクル・恒常所得仮説。投資の決定、労働市場と失業、所得分配と格差、再分配政策、貨幣と金融政策、財政政策の効果。目的は基礎レベルでの体系的なマクロ経済学を学び、現実に応用できることである。評価は、授業参加、宿題、確認テスト、中間テスト、期末テストで行う。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択	ミクロ経済学	本講義では、下記のようなミクロ経済学の主要トピックを講義する。ミクロ経済学とは何か、個人の選択、完全競争市場における需要曲線と供給曲線、市場均衡と効率性および政府の介入の効果、市場の失敗と政府の役割、特に独占、外部性、公共財、情報の非対称性、取引費用、ゲーム理論と制度設計。目的は基礎レベルでの体系的なミクロ経済学を学び、現実に応用できることである。評価は授業参加、宿題、確認テスト、中間テスト、期末テストで行う。	
Academic Subjects	国際関係・開発政策領域	選択	アジア経済論	世界経済の中でアジア地域は大きな位置を占めるようになっているが、その一方でアジアの国々の中で著しい発展を遂げた国と、成長軌道に乗れない国があるのも事実である。その原因を、歴史的展開、開発政策とその背景にある思想、また経済発展におけるアクターやグローバル経済との連関等に着目しながら、包括的に理解することを目的とする。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択必修	国際交流と日本文化	日本人として普段日本文化を知っていると思っていても、それを異文化の人に説明できるとは限らない。異文化の視点に立ち、相手が何を不思議に思うか、どう説明すれば納得するか考えるには、相手の文化と、適切な言語表現を知ることが必要である。この科目では、日本の衣食住、冠婚葬祭、年中行事といった身近な話題について、それを英語で説明する工夫をすることを通じて、自文化を、そして自分自身を見直す契機とする。教室ではキーワードとなる英語表現を扱うが、英語を学ぶのではなく、異文化の視点で自己と自文化を客観的にとらえることに重点を置く。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択	ヨーロッパ地域研究A	現代のヨーロッパ地域を地理、歴史、政治という観点から考える視点と枠組みを身につけることを目的とする。ヨーロッパ（西欧）は近代以降、世界の政治、経済、文化の先進地域として影響力を行使してきたが、20世紀には西欧中心主義的な視点が批判的に議論されるようになった。第二次大戦後の冷戦時期を経て、国際社会が多極化している現在、ヨーロッパ地域について学ぶ意味は何かを考える。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択	宗教と社会	この講義では、人口において世界第二の宗教であるイスラームを主としてとりあげる。現在、ムスリム人口は16億を超えたと言われており、第一位のキリスト教人口を超える日もそう遠くはないと予測されている。日本に暮らすムスリムの数も着実に増加している。イスラームの基本的な教義から日常生活までを、平易に解き明かしていく。日本で暮らすムスリムを講義に招へいしたり、随時日本人の宗教感覚と対比させることで、比較文化論的な要素を取り入れての説明を行う。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択	都市地理学	人間の営みとして成立し発展した都市を対象として、地理学の観点から都市の基本的な特性を理解することを目的として講義を行う。具体的には、都市の誕生と成立、都市の性質と特性、都市の空間的構成、都市の発展の形態などを対象とする。加えて、まちづくりや都市工学、土木工学、社会学などとの関連についても積極的に言及し、地域づくりの手法としての都市地理学の体系を示す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択	経済地理学	グローバル社会のもとでのローカルなもの（＝地域）が果たす役割について、土地と人間のかかわりや経済活動の空間的パターンの捉え方を理解することを目的としている。主に企業の立地行動や産地構造の変容に焦点をあてて，現代における距離や場所の意味を考察する。学修到達目標としては、①地理学的な思考を構築する。②産業立地に関する主要な概念を習得する。③企業行動や産地構造を空間的な視点で捉える力を養う。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択	文化人類学入門	この講義では、わたしたちがもつ「人類」としての共通性と、「民族集団」としての個別性について基礎的な知識を習得していく。まず、人類の起源と進化、ならびに世界各地への拡散を論じる。長い進化の過程を経て生み出された共通性を通して、人類についての認識を深める。つづいて、世界各地の民族集団の文化を紹介していく。これによって、異なる自然環境や民族関係の結果として創り出された各民族の特徴についての理解を深めることとする。	
Academic Subjects	地域研究・比較文化領域	選択	Japanese Economy and Business	本講義は、英語でおこない、ビジネスの視点から日本経済を学ぶことを目標としている。取り扱うテーマは主に技術革新とマーケティング、および、上記二つに関わる指導性である。トピックには低公害エンジンの開発、コンビニエンス・ストアの立地戦略などが含まれる。学生が学ぶツールは、Icebreakの諸技術、SWOT分析、4P分析、Five Forces Analysisなどである。前半は担当者が主導するが、各種の並び替え、ペアワークを用い、参加型でおこない、後半はグループ発表、個人発表でおこなう。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択必修	公共経済学	本講義では、公共経済学の枢要なテーマの一つである「格差」をとりあげ、特に、国際地域学の現場（都市・地域・国土）における格差の問題に対して公共経済学的な視点を養うことを目的とする。具体的には、まず、公共経済学を支える理論的枠組みを学んだ上で、様々な空間スケールにおける格差の現状とその是正に向けた政策的対応との関わりを理解し、格差の是正に向けた望ましい方策を公共経済学的視点から考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択必修	社会保障論	年金や医療保険制度等の社会保障制度について、日本の現状を中心に制度の機能と構造について解説する。さらに、少子高齢社会の進展や人口減少、経済変動やグローバル化の進行等による社会保障制度への影響への理解を促す。制度と現実を結び付けられるようAV資料等を用いて具体例を提供しながら、制度の抱える課題、今後どう変化していくのかを学生が理解し、自ら検討できるようにする。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択必修	行政学	本科目では、行政学の基本的事項を概括的に講義する。内容としては、制度論、政策論、管理論の３つを柱にそれぞれを具体的テーマに沿って展開していく。制度論においては、日本の行政制度、予算制度、官僚制等について講義する。政策論については、政策形成から実施ならびに評価までのプロセスを講義する。管理論においては人事管理や組織管理、さらには昨今のNPMやPPPといった新たな動きについて講義する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択必修	コミュニティ開発論	かつて国づくりの一つの手段として推進してきたコミュニティ開発は、国家－市場－市民社会の構造的関係の変化に伴い、その内容と方法論において大きな変化を迎えている。本講義では、まずコミュニティと開発の本質について論議し、それを取り巻く環境の変化を理解する。引いて開発理論と開発を構成する基本的要素を学習するともにコミュニティ開発の活動事例を学び、コミュニティ開発理論と手法を深める。最終的にはコミュニティのあるべき姿を考える。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	Participatory Development	国際協力において参加型開発は貧困層や草の根の人々の声を取り入れる重要なアプローチとなっている。本講義では、その参加型開発の基礎を学び、参加型開発で使われる手法をワークショップ形式で実体験しながら習得することを目的とする。授業は全て英語で行い、ワークショップにおける学生同士のグループディスカッションも英語で行う。さらに、参加型手法の実体験を踏まえて、参加開発とその手法の長所や限界について考える。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	社会調査法	社会現象を調査研究する手段として、社会調査法の全体像をまず把握する。講義全体の内容は質的調査、量的調査について講義するが、量的調査に関してはあらましを学ぶことにとどめ、むしろインタビュー法、参与観察法など質的調査に力点をおいてその基礎から学ぶ。また今日のようにマスメディア、電子メディアが発達した社会ではメディアの利用が必須となっているので、社会調査におけるメディア利用についても言及する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	地域社会学Ⅰ	日本の地域社会の特質について学ぶ。まず、都市研究のパースペクティブを歴史的に把握し、その具体的な視点を都市の成立、都市の経済、都市の人類学、都市と行政、都市と建築、都市の未来等に切り口を求め考察する。一方、農村に代表される伝統的共同体の特質については、地域社会の形成とそこに成立している諸集団に着目して共同体の特質を学ぶ。また、都市と農村の比較をしながら今日的地域づくりのあり方を考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	地域社会学Ⅱ	アジアの地域社会の特質について学ぶ。とりわけ東南アジア社会を取り上げて、都市と農村をとらえ、都市研究のパースペクティブを歴史的に把握し、都市の成立、都市の経済、都市の人類学、都市と行政、都市と建築、都市の未来等に切り口を求める。一方、伝統的共同体の特質については、地域社会の形成とそこに成立している諸集団に着目して共同体の特質を学ぶ。タイの事例を取り上げ、都市と農村の比較をしながらコミュニティ開発のあり方を考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	地域福祉論	家族や地域社会、行政区域、国家、国家を超えた地域レベルで行われる多様な福祉活動を取り上げ、その変化の方向性を解説していく。後半は、先進諸国における福祉の在り方を紹介し、国や地域による違いを説明していく。これらを通じて社会福祉の供給構造、社会福祉の多様なあり方を理解し、具体例を用いながら説明できるようになること、福祉国家の地域による違いを説明できるようになることを目指す。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	地方自治論	本科目では、地方自治に関する基本的事項を概括的に講義する。内容としては、制度論、政策論、管理論の３つを柱にそれぞれを地方自治の具体的テーマに沿って展開していく。制度論においては、日本の地方自治制度、行政制度や政治制度、ならびに地方分権改革など最近の動きにも言及する。政策論においては、まちづくりや環境政策などの基本的な政策分野の概要について講義する。管理論については、行政内部だけではなく、住民やNPOとの協働についてもとりあげる。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	都市計画	本講義では、国内外の都市計画に関わる今日的位相を理解することを目的とする。具体的には、まず、今日に至る近代都市計画の潮流を理解した上で、日本、欧米諸国及びアジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国それぞれの抱える都市問題の現状と都市計画制度、そして、ベストプラクティスを整理し、今日の都市計画をめぐる課題と展望を考察することとする。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	まちづくり概論	「まちづくり」がキーワードになって久しい。まちづくりは近代都市計画の限界を超え得るだろうか？　本講義では、都市計画やまちづくりに関わる基本的な知識と国内外のまちづくりに関わる様々な事例を学び、今日のまちづくりに関わる課題と展望を考察する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	社会政策論	現代社会における諸問題を生活、福祉、労働の視点から検討する。保育や介護、雇用と貧困、年金等のライフステージ上のリスクについての現状と、これらに対する政策対応を取り上げ、日本を中心に、これらの社会政策上の課題の現状と政策対応について解説する。さらに、これらの課題と複雑に絡み合う、少子高齢化、格差、ジェンダー、セーフティネット等についても検討する。社会福祉制度の基本的な構造について理解し、説明できることを目指す。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	まちづくり手法論	まち歩きやワークショップをはじめまちづくりには、一つの手法ではなく、様々な手法があり、地域の状況に応じて、また、まちづくりの段階に応じて、それらを使い分ける必要がある。本講義では、都市計画やまちづくりに関わる基本的な知識や国内外の様々なまちづくり事例を読み解き、様々なまちづくりの手法を学ぶ。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	地域形成論	地域とは、文化、社会、経済などのさまざまな人間活動が複合的な事象となって現れる場である。地域を構成する要素（事象）間の関係や相互作用によって固有の地域性と地域の姿をあらわしており、時間とともに変化する。本講義は地域の形成メカニズムと変化の要因を理解し、その変化が地域特性や地域問題にどのような影響を与えるかについて学ぶ。特に、地域を構成する要素の属性と地域間流動、そしてそれらの相互関係が地域の形成や地域の姿にもたらす影響について学習する。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	福祉経済論	福祉政策を読み解く理論を用いて現代社会における福祉に関する諸課題を考える。社会福祉の様々なトピックは、社会経済を中心とした大きな環境変化から生じている。変化がもたらす社会課題とそれへの対応を説明する。さらに国際比較を通じて、福祉政策の手法とそのもたらす効果を考える。これらを通じて、受講生が福祉の経済に関する基本的な理論、社会経済の環境変化とそれに関連する福祉の諸課題を理解し、自分の考えを表明できるようになることを目指す。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	地域産業論	本講義では、グローバル時代の地域産業に対する基本的知識を習得し、そのありようを考察することを目的としている。具体的には、まず、地域経済と産業に関する基礎的理論を学び（第Ⅰ部）、日本と諸外国の地域産業の現状と振興策を俯瞰した上で（第Ⅱ部）、グローバル時代の地域産業のあり方を考察する（第Ⅲ部）。	
Academic Subjects	コミュニティ・地域政策領域	選択	土地・住宅問題	土地・住宅は、経済的には一つの商品であり、社会的には人間生活の物質的基礎と地域社会を構成する基本単位であるため、様々な制度を通じて公的介入が行われている。従って、土地・住宅問題の解明と解決策には総合的な視野と複眼的思考が必要である。本講義では、土地・住宅問題をできるだけ広く捉え、問題の本質、メカニズムと実態、政策課題の考え方などに必要な基礎知識を学ぶ。また、公的介入の現状と効果について理解を深める。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択必修	エネルギー・資源論	エネルギー・環境問題が産業・社会へ与えるインパクトを産業革命、石油危機など歴史的な事実として理解するとともに、国内外のエネルギー需給の現状と展望、エネルギー利用に伴う気候変動やその他の問題の現状、省エネルギーや新エネルギーの開発、原子力などさまざまなエネルギー利用の現状と課題、地域における新しいエネルギー利用の取り組みや国際的な連携、そしてさまざまなステークホルダーのエネルギー戦略について学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択必修	環境マネジメント	前半は公害問題も含めた環境問題の歴史的な展開とともに、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会といった環境に配慮した社会に向けた現状と課題について学ぶ。後半は、具体的な環境問題へ取り組みとして、ある事業（環境アセスメント制度）、ある製品（環境適合設計やライフサイクルアセスメント）、ある組織（環境マネジメントシステム）、ある地域（環境モデル都市）といったさまざまなスケールでの環境マネジメント手法を学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択必修	社会基盤論	社会経済の発展には道路・鉄道・港湾・空港といった交通施設,電力・エネルギー供給施設,上下水道などの社会基盤施設の整備が不可欠である。都市,地域の発展に重要な役割を持つ社会基盤施設の整備について,交通施設に重点をおきながら，その歴史を振り返り,各施設の持つ機能と役割，整備主体と整備方法，現状の課題と今後の展望について概説する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	情報マネジメント	前半は公害問題も含めた環境問題の歴史的な展開とともに、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会といった環境に配慮した社会に向けた現状と課題について学ぶ。後半は、具体的な環境問題へ取り組みとして、ある事業（環境アセスメント制度）、ある製品（環境適合設計やライフサイクルアセスメント）、ある組織（環境マネジメントシステム）、ある地域（環境モデル都市）といったさまざまなスケールでの環境マネジメント手法を学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	環境管理適正技術論	環境衛生分野の途上国援助を成功に導くためには、わが国の技術や管理手法をそのまま持ち込むのではなく、被援助国の実情に合わせて対応する必要がある。その際に重要になるのが「適正技術」の考え方である。本講義では「技術的持続性」「経済的妥当性」「文化的受容性」「環境的配慮」等を要素とする適正技術と、それを持続可能なものにするための管理手法、教育手法などを多角的に解き明かす。またさまざまな適正技術の実例についてケーススタディを行い、考察を加える。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	国際環境計画入門	環境衛生分野の途上国援助を成功に導くためには、わが国の技術や管理手法をそのまま持ち込むのではなく、被援助国の実情に合わせて対応する必要がある。その際に重要になるのが「適正技術」の考え方である。本講義では「技術的持続性」「経済的妥当性」「文化的受容性」「環境的配慮」等を要素とする適正技術と、それを持続可能なものにするための管理手法、教育手法などを多角的に解き明かす。またさまざまな適正技術の実例についてケーススタディを行い、考察を加える。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	自然災害と防災	自然災害は人の命、資産を一瞬にして奪う厄災である。また、開発途上国では、開発を阻害し、貧困からの脱却の妨げになっている大きな要因となっている。本科目は、自然現象に起因する災害（自然災害）を対象に、人々と災害との関わり、自然災害のメカニズム、各種災害対策について、工学的側面と社会的側面の両面から理解を深めることを目的に、ケーススタディや最新の災害調査結果などを含めて防災に関する解説を行う。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	災害と復興	災害が多い我が国では、誰もが被災者となりうる可能性がある。災害からの早期復興は、被災者が日常の生活を取り戻すために重要である。また、災害からの復興過程は、開発途上国にとって、災害に強い社会を構築する数少ない機会でもある。本科目では、国内外の災害及び災害事例等を示しながら、災害発生のメカニズムおよび災害からの復興のポイントについて理解することを目的とする。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	環境システム論	環境問題は人間の社会・経済活動が自然環境へ影響を与えることで発生し、その自然環境の変化は人間の生存やその活動に被害を及ぼす。このような人間の社会・経済活動と自然環境の関係を一つのシステムとして捉えることが環境問題の適正な対応に必要となる。本科目では、エネルギー、物質、水の流れとそれに伴う環境影響について学ぶとともに、さらに人間の活動と自然環境をつないでいる水道や下水道、廃棄物管理といった環境インフラの実際を学ぶ。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	環境社会論	日本における公害病（水俣病）の問題、東日本大震災による環境影響、東アジア地域における広域大気汚染、東～東南～南アジアにおける水・衛生問題、アジアのメガデルタにおける気候変動の影響と適応、アジア熱帯林の持続可能な森林経営、など日本およびアジア地域におけるさまざまな環境問題をトピックとして取り上げ、原因やさまざまな影響、課題、教訓などをディスカッションを通して深く理解していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	アジアの都市と交通	交通を通してアジアの都市と地域の特性を理解することを目的として，アジアの多様性を常に念頭において、アジアの地域間交通と都市内交通の現状と特徴、計画と運営について講義する。学修到達目標は次の通り：①アジアの都市と交通を理解するための基礎知識（地理、地誌、社会経済、人口動態など）を身につける。②アジアの地域経済や都市の特性と交通との関係を理解する。③アジアの地域間交通（海運・航空・鉄道）と、都市内交通(主として公共交通)の現状を理解する。④アジアを含めた途上国の都市問題と交通問題の現状と、それらの解決方策を理解する。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	水資源と水環境	水は、人々が生活する上で欠かせない資源の一つであり、人々に潤いとやすらぎを与えるものである。水の問題を考える時、水の量と質の側面から考えなくてはならない。水は、多すぎても（洪水）少なすぎても（渇水）人々の生活に大きな影響を及ぼし、人々の生活は水の質に影響する。本科目では、水問題や水に係る課題を正しく考える基礎を習得することを目的に、水資源と水環境について理解を深めるための解説を行う。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	Environmental Issues in Asia	日本における公害病（水俣病）の問題、東日本大震災による環境影響、東アジア地域における広域大気汚染、東～東南～南アジアにおける水・衛生問題、アジアのメガデルタにおける気候変動の影響と適応、アジア熱帯林の持続可能な森林経営、など日本およびアジア地域におけるさまざまな環境問題をトピックとして取り上げ、原因やさまざまな影響、課題、教訓などをディスカッションを通して深く理解していく。	
Academic Subjects	環境・情報・インフラ領域	選択	交通まちづくりの計画と政策	経済や都市が成熟するにつれて，課題解決の主たる目的とした「都市交通計画」から，価値創出をも目標とした「都市交通戦略」への転換が求められる．これを近年では「交通まちづくり」とよび，都市計画や都市戦略と交通とを一体的に捉える街づくりが行われつつある．本講義では，交通まちづくりに関する「都市計画」「交通計画」「交通政策」「交通運用」に重点をおいて、交通まちづくりのための様々な計画手法，整備手法、製作や制度について学ぶ。	
Academic Subjects	地域観光系科目		観光の歴史と文化	観光とはツーリズムの訳語であるが、他国を巡歴してその風俗・文物・制度を観察するという考え方を含んでいる。日本では奈良時代の遣唐使が中国への観光と分明摂取を目的としていた。本授業では、日本における巡歴・参詣・旅の歴史を概観し、旅・観光が生活を再生する要素をもつことを考察する。	
Academic Subjects	地域観光系科目		旅行産業論	旅行業の基本となる旅行商品の仕組みと流通を理解させた上で、旅行業の構造、現在の旅行市場（国内、海外、訪日）、旅行商品の造成・販売に至るまでを取り上げ、産業の仕組みとこれを取り巻く問題・課題を把握し、その将来像を考えて行く。観光産業は、感染症やテロといった外的要因に加え、流通の変化や消費者の意識変化など課題や問題も多く、また、構造が大変複雑かつ多様であり、理解の難しい産業であるため、特にその仕組みとこれを取り巻く環境との関わりの理解に重点を置く。	
Academic Subjects	地域観光系科目		地域観光論	南ドイツにおける「ロマンチック街道」の成立を中心に、なにが観光資源として観光客を魅了するのかを検討する。さらに、日本にも「ロマンチック街道」が存在する。両者の共通点と相違点を比較した上で、観光に必要な要件を検討する。なお、本講義は英語で開講するものとする。	
Academic Subjects	地域観光系科目		自然公園・保護論	アメリカを発祥とする国立公園や、自然保護区、世界自然遺産といった自然公園は、貴重な自然環境と景観を保護し、そこに生息する生物の多様性を守る上で重要な役割を担っている。またこうした地域は、観光資源としても高い価値があり、保全と利用を両立させていくことが必須の課題である。本講義では、このような自然公園と自然保護政策を、歴史を追いながら体系的にとらえ、国内外の自然保護体系を比較・検討していく。また、自然公園が観光資源としての過剰利用により劣化する現実についても事例を交えて考察し、保全と利用の両立に欠かせない政策を議論していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	地域観光系科目	観光交流論	国際観光に関する考え方や取り組みは、その時々に応じて変化してきた。明治期から始まる外国人旅行者誘致（インバウンド・ツーリズム）は、戦中戦後にはその取り組みは変化し、そしてここ数年来、少子化・高齢化の状況の中で景気回復を図る我が国の経済政策を行う際の重要な施策の一つとして、再び大きな注目を浴びている。本講義では、日本における国際観光をとりまく環境の変化の中、国際観光に関するこれまでの取り組みや課題、さらに最近のトピックを題材としてとりあげることにより、実践に活用できる知識の習得を目的とする。	
Academic Subjects	地域観光系科目	地域財政と観光	観光開発には、政府の資金を必要とすることが多い。本講義では、政府の資金（財政）のあり方を理解することを目的とする。先ず経済に占める政府の大きさ、その役割を分かって欲しい。そして、予算と租税の理論と構造を理解して貰う。その上で、地域間の財政関係、観光開発に利用できる財政資金のあり方が論じられる。	
Academic Subjects	地域観光系科目	福祉観光論	福祉の本来の意味は、すべての人々が幸せな生活を送ることが出来る状態を指す。決して恵まれない人に施しを与えるという意味ではないことを理解し、観光分野、交通分野での福祉的対応を実例をもとに検証していく。特に交通分野では航空会社の対応が極めて先進的であり、中でも先進的な取り組みである日本航空のプライオリティゲストセンターを紹介する。これらを見ると福祉的対応は「すべての」というキーワードが重要になってくることが分かる。	
Academic Subjects	地域観光系科目	観光行動モデル	社会的な現象である観光流動も、個人個人の観光客の集合であるため、個人の観光行動がどのような要因で影響・規定され、どのようなシステム・メカニズムで行なわれているか理解することは重要と考えられる。 　本授業では、個人観光客の行動に焦点をあて、 １）観光地・資源の認知、 ２）複数の観光地から特定の観光地・周遊ルートを選択、 ３）実際に観光行動を行った後，事後評価を行う、 という各３段階について講義を行う。 　いずれの授業もマーケティング分野の理論を基本として、極力定量的な観光行動の理解を行うことを目的とするため、ミクロ経済学、マーケティング分野への興味ならびに素養を有することを希望する。	
Academic Subjects	総合経済系科目	アメリカ経済論Ａ	アメリカは、世界の「超大国」であり世界経済の牽引役として、また、「衰退する国」としても語られてきた。本講義では、このような両面をもつアメリカ経済の基本構造・特徴、ダイナミズム、問題点、世界経済における地位について考える。 アメリカ経済論Aでは、アメリカ経済に関する事項を幅広く取り上げて、①世界金融危機（住宅バブル、貿易・資本移動）、②アメリカの国内経済（産業と雇用の構造）、③アメリカの経済政策（政治システム、財政・金融・エネルギー・社会・対外経済の各政策）、④アメリカの国際関係（オバマ政権期、対アジア政策）の4つの視点から現代のアメリカ経済をとらえる。	
Academic Subjects	総合経済系科目	アメリカ経済論Ｂ	アメリカ経済を考えるさいに、アメリカは、世界の「超大国」であり世界経済の牽引役として、また、「衰退する国」としても語られてきた。本講義では、このような両面をもつアメリカ経済の基本構造・特徴、ダイナミズム、問題点、世界経済における地位について考える。 秋学期のアメリカ経済論Bでは、①アメリカ経済の歴史（アメリカ経済のルーツ）、②アメリカの対外経済関係（貿易、国際資本移動、基軸通貨ドル）、③経済活動の主体となるアメリカ企業のダイナミズム（ビッグビジネスの形成から多国籍企業の成長に至るまで）の3つの視点から、やや長い期間を取り上げて、現代のアメリカ経済を理解していく。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Academic Subjects	総合経済系科目	世界の農業・資源経済Ａ	この講義では、身近な食料を題材に、現代の日本および世界が抱えている農業・食料問題について学ぶ。 日本にいながら世界各国の料理を食することが可能になり、さらに日本を始めとする先進国の消費者は、食品の安全性や生活習慣病などの健康問題に強い関心を示している。その一方で、世界では今なお日々の食事を満足にすることができない人々が存在するなど、食へのアクセスに不平等が存在する。 そこで講義では、（１）現在、世界ではどのように農業・食料問題を議論し、議論の中で各国はどのような主張をしているのか、（２）各国の主張の背景にある各国の農業・食料問題とは何か、（３）農産物貿易が活発化してきた中で、日本および世界は新たにどのような問題に直面しているのかについて検討する。 春学期は、先進国の農業・食料問題を吟味し、世界の農業・食料問題を議論する場であるドーハラウンドにおいてどのような議論がされているのかについて焦点をあてる。	
Academic Subjects	総合経済系科目	世界の農業・資源経済Ｂ	この講義では、身近な食料を題材に、現代の日本および世界が抱えている食料・資源問題について学ぶ。 日本にいながら世界各国の料理を食することが可能になり、さらに日本を始めとする先進国の消費者は、食品の安全性や生活習慣病などの健康問題に強い関心を示している。その一方で、世界では今なお日々の食事を満足にすることができない人々が存在するなど、食へのアクセスに不平等が存在する。 秋学期は、途上国・新興諸国の食料問題に焦点あて、それらの国が抱えている問題、それに向けての取り組みについて学ぶ。またグローバル化の進展によってもたらされている新たな食料・資源問題（食の安全性・食料VS資源問題）についても検討する。	
Academic Subjects	総合経済系科目	エネルギー経済学Ａ	本講義では、過去にあったエネルギー経済問題（地球温暖化等）がどのようなものであったのか、またその時に行われた対策はナンだったのかを、具体的な事例をもとに講義する。また、今後起こりうる諸問題等にも触れ、身近な問題であるということを認識し、これらの問題の対策をどうすべきか、自ら考えられるようになることを期待する。	
Academic Subjects	総合経済系科目	エネルギー経済学Ｂ	本講義では、過去にあったエネルギー経済問題（地球温暖化等）がどのようなものであったのか、またその時に行われた対策はナンだったのかを、具体的な事例をもとに講義する。また、今後起こりうる諸問題等にも触れ、身近な問題であるということを認識し、これらの問題の対策をどうすべきか、自ら考えられるようになることを期待する。	
Project Studies		専門ゼミナールⅠ	本演習は約九カ月後の卒業論文完成を前提に、卒業論文のテーマ設定と先行文献研究をおこない、自らのリサーチクエスチョンを明確にすることを目標とする。各種、図書館等のリソースを使い、参考文献リストを作成し、持続的に先行文献研究をおこない、要約し、批判的に検討し、自分のテーマで何が達成されており、何が達成されていないかを把握し、その上で、自らのリサーチクエスチョンを提示する。そして、休暇期間での自らの課題を明確に得る。	
Project Studies		専門ゼミナールⅡ	本演習では約三カ月後の卒業論文完成を前提に、学生はこれまでに完成した先行文献研究を元に提示したリサーチ・クエスチョンに対して、理論研究・データ分析・現地調査・比較研究などの研究方法を明確にし分析をおこない、オリジナルな研究結果を導き出す。演習においては、学生が自らが導いた研究結果を要約し、残された課題を明確にする作業の支援をおこなう。英語での論文完成を目指す学生に対しては、指導やアドバイス提供もおこなう。	
Project Studies		卒業論文	本科目では、以下の項目を満たした卒業論文が執筆されているかを念頭に学生に指導をおこなう。第一、わかりやすい序論が書かれているか、第二、先行文献研究がしっかりできていて、それに基づくリサーチクエスチョンが明確に出されているか、第三、研究方法が明確に書かれているか、第四、オリジナルな研究結果が導かれているか、第五、残された課題が明確に意識されているか、第六、適切な形で参考文献が書かれ、論文の形式が守られているか、である。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	国際地域学研修Ⅰ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。主として初めて海外を体験する学生を対象とし、異なる文化について、歴史、価値観、政治、経済、コミュニケーション形態、信条などの観点から一定の理解をもつことをめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅱ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。海外体験が少ない学生を対象とし、異なる文化について、歴史、価値観、政治、経済、コミュニケーション形態、信条などの観点から自己の文化との比較対照できるようにめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅲ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。短い海外体験をもつ学生を対象とし、異文化環境の特徴を理解をし、自己と異なる価値基準が存在することを意識できるようにめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅳ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。数回の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化と自文化の違いを十分に理解し、異なる文化背景を持つ人々と文化的差異についての意見交換ができるようにめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅴ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。複数の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異文化環境において複雑な問題について意見交換ができるようにめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅵ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。中長期の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化背景を持つ人々と協働する体験を通じて異文化への理解を深めるようにめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅶ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。中長期の海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化背景を持つ人々と協働において主導的役割を担えるようにめざす。	
Project Studies	国際地域学研修Ⅷ	海外において現地の言語、文化、政治、経済などを学ぶ実践的研修である。海外大学もしくはこれに準ずる教育機関で実施される集中講座で、原則として２週間以上のもの。海外を初めて体験する事前、事後学修を含めて原則として学修時間が90時間以上となるものである。豊富な海外学習体験をもつ学生を対象とし、異なる文化背景を持つ人々と深いレベルで意思疎通ができ、交流を主導し発展させることができるようにめざす。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	インターンシップⅠ	本科目は、国内外におけるインターンシップへの学生の積極的な参加を促すものとして設置されている。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。 インターンの参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	インターンシップⅡ	本科目は、インターンシップⅠの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容、または他業種等へのインターンを対象とする。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。インターンの参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	インターンシップⅢ	本科目は、インターンシップⅡの取得を前提とし、Ⅱよりもさらに高度な内容、または他業種等へのインターンを対象とする。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。インターンの参加前に担当教員がそのインターンの内容だけでなく、過去のインターンをどの程度踏まえ今回参加するのか等を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	インターンシップⅣ	本科目は、インターンシップの集大成として位置付けられる科目であり、過去のインターンシップを踏まえ、自らのキャリアをより具体的にイメージした上でインターン先を決定するものとする。 通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるインターンシップ活動を成績付与の基礎とする。インターンの参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、インターン中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	ボランティア実習Ⅰ	本科目は、国内外におけるボランティア活動への学生の積極的な参加を促すものとして設置されている。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	ボランティア実習Ⅱ	本科目は、ボランティア実習Ⅰの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とし、学生が積極的に参加することを促すものとして設置されている。通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	ボランティア実習Ⅲ	ボランティア実習Ⅱの取得を前提としている。また、ⅠおよびⅡとは違い、ボランティア活動というものを学ぶだけではなく、学生自らがリーダーシップを発揮しながら活動に参加することを求める。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Project Studies	ボランティア実習Ⅳ	ボランティア実習の集大成として、位置づけられる科目である（Ⅲの取得を前提とする）。 ここでは、過去に経験したボランティア活動を通して得たもの、また自らが考えるボランティア活動とは何かについて、考えることを求める。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生によるボランティア活動を成績付与の基礎とする。ボランティア参加前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、ボランティア中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Project Studies	フィールド調査実習Ⅰ	本科目は、英語名称Student-led Field Study(SFS)のとおり、学生が自ら国内外で行う調査内容を計画立案して実施する専門研修として位置付けられている。地域で行う地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら調査を行い、地域住民や関係者とのコミュニケーション力、自立心とチームワーク力を高めることが目的である。	
Project Studies	フィールド調査実習Ⅱ	本科目は、フィールド調査実習Ⅰを修得済みの学生を対象とする。 Ⅰと同様に、学生が自ら国内外で行う調査内容を計画立案して実施する専門研修として位置付けられているが、Ⅰの内容を踏まえ別の地域また同地域で別のテーマ等を設定して実施することとする。 なお、地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら、調査を行うこととし、現場での経験に基づいた課題の本質的な理解と実践力を高めることが目的である。	
Project Studies	フィールド調査実習Ⅲ	本科目は、フィールド調査実習Ⅱを修得済みの学生を対象とする。ⅠおよびⅡで行った調査方法等を見直し、より効果的な調査方法とはどのようなものなのかを反映して実施することとする。 なお、ⅠおよびⅡと同様に、地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら調査を行い、実践力の向上をより養うことを目的とする。	
Project Studies	フィールド調査実習Ⅳ	本科目は、フィールド調査実習の集大成科目として位置付けられるものであり、Ⅲを修得済みの学生を対象とする。 今まで実施してきた調査方法等を見直し、論文執筆につなげる調査方法とは何かを見出すことを求める。 なお、地域調査について授業期間に調査の目的、対象、事項、方法などを企画・設計し、教員の引率なしで約10日間現地で滞在しながら、調査を行い、コミュニケーション力・チーム力だけではなく、個人でも実施できる能力を養うことを目的とする。	
Career Development	キャリアデザインⅠ	将来、学生１人ひとりが有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」、「職業理解と働く意味」、「社会で求められる力」などを深く考え、就職や自己開発の重要性を理解し、２年生以降の学生生活を充実させることを目的とする。学修到達目標は、以下の３点である。第一に自己理解し、自己成長の必要性を理解すること、第二に社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めること、である。	
Career Development	キャリアデザインⅡ	本講義では、現実的な職業選択につなげる準備をすることを目指している。３年次は学業の専門性を高めると同時に、今までの経験を振り返って意味づけし、具体的な今後のキャリア構築につなげていく大切な時期である。そこで、第一にこれまでの生活を再点検し、今後のキャリア形成について情報収集しながら検討する。第二に具体的な将来目標のイメージを構築したうえで、目標達成のために何をすべきか、計画と戦略を立てる。第三に人間関係やネットワークの構築の方法について実践的に学習する。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Career Development	キャリアデザインⅢ	本講義では、大学生活での学びを前提に、自分と社会への理解を深め、現実的な職業選択につなげることを目指している。３年次は学業の専門性を高めると同時に、今までの経験を振り返って意味づけし、具体的な今後のキャリア構築につなげていく大切な時期である。そこで、第一に大学生活2年間を振り返って経験を意味づけし、今後のキャリア構築につなげる。第二に自分と現実社会との具体的な接点をみつけ、職業選択につなげる。第三にインターンシップ参加や就職活動への準備につなげる。	
Career Development	経済社会実務Ⅰ	本科目は、国内外の地域づくりや社会貢献の分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	経済社会実務Ⅱ	本科目は、経済社会実務Ⅰの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。国内外の地域づくりや社会貢献の分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	経済社会実務Ⅲ	本科目は、経済社会実務Ⅱの取得を前提としⅡよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。なお、ⅠやⅡの活動を振り返り、より主体的な形での参加を促すものとする。 活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献の分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	経済社会実務Ⅳ	本科目は、経済社会実務Ⅲ の取得を前提とし、経済社会実務の集大成として位置づけられる科目である。実施前に担当教員が内容の精査を行うが、過去の活動内容の振り返り、および今回の活動にどう生かされているのかについて、確認を行う。なお、活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献の分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	情報技術実務Ⅰ	本科目は、国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（国際学部国際地域学科地域総合専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Career Development	情報技術実務Ⅱ	本科目は、情報技術実務Ⅰの取得を前提とし、Ⅰよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野における学生の自主的な参加を促すものとして設置されている。対象とするのは、実践的かつ研究の要素を含む活動である。通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	情報技術実務Ⅲ	本科目は、情報技術実務Ⅱの取得を前提としⅡよりもさらに高度な内容をともなう活動を対象とする。なお、ⅠやⅡの活動を振り返り、より主体的な形での参加を促すものとする。 活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 本科目は、通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。実施前に担当教員がその内容を精査する（場合によっては、科目登録を認めない場合もある）。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	
Career Development	情報技術実務Ⅳ	本科目は、情報技術実務Ⅲ の取得を前提とし、経済社会実務の集大成として位置づけられる科目である。実施前に担当教員が内容の精査を行うが、過去の活動内容の振り返り、および今回の活動にどう生かされているのかについて、確認を行う。なお、活動内容は、国内外の地域づくりや社会貢献、とりわけその情報技術分野において、実践的かつ研究の要素を含む活動とする。 通常の講義科目とは異なり、個々の学生による自主的な活動を成績付与の基礎とする。担当教員による事前の指導、活動中の日誌作成、事後の報告書作成とプレゼンテーションなどを経たうえで、成績を付与するものとする。	

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

収容定員 ※学部

平成28年度

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4
第1部			
文学部	916	－	3,664
経済学部	616	－	2,464
経営学部	682	－	2,728
法学部	500	－	2,000
社会学部	750	－	3,000
理工学部	811	－	3,244
国際地域学部	490	－	1,960
生命科学部	226	－	904
ライフデザイン学部	556	－	2,224
総合情報学部	260	－	1,040
食環境科学部	220	－	880
第1部計	6,027	－	24,108
第2部			
文学部	150	－	600
経済学部	150	－	600
経営学部	110	－	440
法学部	120	－	480
社会学部	175	3年次　10	720
第2部計	705	－	2,840
計	6,732	3年次　10	26,948

平成29年度以降

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4
第1部			
文学部	849	－	3,396
経済学部	616	－	2,464
経営学部	682	－	2,728
法学部	500	－	2,000
社会学部	750	－	3,000
理工学部	811	－	3,244
国際地域学部	0	－	0
生命科学部	226	－	904
ライフデザイン学部	556	－	2,224
総合情報学部	260	－	1,040
食環境学部	220	－	880
国際学部	390	－	1,560
国際観光学部	366	－	1,464
情報連携学部	400	－	1,600
第1部計	6,626	－	26,504
第2部			
文学部	120	－	480
経済学部	150	－	600
経営学部	110	－	440
法学部	120	－	480
社会学部	175	3年次　10	720
第2部計	675	－	2,720
計	7,301	3年次　10	29,224

収容定員　2,276名増

白山キャンパス

白山キャンパス
【所在地：東京都文京区白山5-28-20】

平成28年度

学部名・学科名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
第1部					
文学部	916	－	3,664		
（内訳）					
哲学科	100	－	400	学士（文学）	文学
東洋思想文化学科	100	－	400		
日本文学文化学科	200	－	800		
英米文学科	133	－	532		
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	100	－	400		
史学科	133	－	532		
教育学科人間発達専攻	100	－	400	学士（教育学）	教育学・保育学
教育学科初等教育専攻	50	－	200		
経済学部	616	－	2,464	学士（経済学）	経済学
経営学部	682	－	2,728	学士（経営学）	経済学
法学部	500	－	2,000	学士（法学）	法学
社会学部	750	－	3,000	学士（社会学）	文学、経済学、法学
国際地域学部	490	－	1,960		
（内訳）					
国際地域学科国際地域専攻	180	－	720	学士（国際地域学）	文学、経済学、法学
国際地域学科地域総合専攻	110	－	440		
国際観光学科	200	－	800	学士（国際観光学）	
第1部計	3,954	－	15,816		
第2部					
文学部	150	－	600	学士（文学）	文学
経済学部	150	－	600	学士（経済学）	経済学
経営学部	110	－	440	学士（経営学）	経済学
法学部	120	－	480	学士（法学）	法学
社会学部	175	3年次　10	720	学士（社会学）	文学、経済学、法学
第2部計	705	－	2,840		
計	4,659	3年次　10	18,656		

平成29年度以降

学部名・学科名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野	変更の事由
第1部						
文学部	849	－	3,396			
（内訳）						
哲学科	100	－	400	学士（文学）	文学	
東洋思想文化学科	100	－	400			
日本文学文化学科	133	－	532			定員変更（△67）
国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	100	－	400			学科の設置（届出）
英米文学科	133	－	532			
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	0	－	0			平成29年4月学生募集停止
史学科	133	－	532			
教育学科人間発達専攻	100	－	400	学士（教育学）	教育学・保育学	
教育学科初等教育専攻	50	－	200			
経済学部	616	－	2,464	学士（経済学）	経済学	
経営学部	682	－	2,728	学士（経営学）	経済学	
法学部	500	－	2,000	学士（法学）	法学	
社会学部	750	－	3,000	学士（社会学）	文学、経済学、法学	
国際地域学部	0	－	0			
（内訳）						
国際地域学科国際地域専攻	0	－	0	学士（国際地域学）	文学、経済学、法学	平成29年4月学生募集停止
国際地域学科地域総合専攻	0	－	0			平成29年4月学生募集停止
国際観光学科	0	－	0	学士（国際観光学）		平成29年4月学生募集停止
国際学部	390	－	1,560			学部の設置（届出）
（内訳）						
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科	100	－	400	学士（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学）	経済学	
国際地域学科国際地域専攻	210	－	840	学士（国際地域学）	社会学・社会福祉学、経済学	
国際地域学科地域総合専攻	80	－	320			
国際観光学部	366	－	1,464			学部の設置（届出）
（内訳）						
国際観光学科	366	－	1,464	学士（国際観光学）	社会学・社会福祉学、経済学	
第1部計	4,153	－	16,612			
第2部						
文学部	120	－	480	学士（文学）	文学	定員変更（△30）
経済学部	150	－	600	学士（経済学）	経済学	
経営学部	110	－	440	学士（経営学）	経済学	
法学部	120	－	480	学士（法学）	法学	
社会学部	175	3年次　10	720	学士（社会学）	文学、経済学、法学	
第2部計	675	－	2,720			
計	4,828	3年次　10	19,332			

収容定員　676名増

川越キャンパス

【所在地：埼玉県川越市鯨井2100】

平成28年度

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
理工学部	811	−	3,244		
（内訳）					
機械工学科	180	−	720	学士（理工学）	工学
生体医工学科	113	−	452	学士（理工学）	工学、理学
電気電子情報工学科	113	−	452	学士（理工学）	工学
応用化学科	146	−	584	学士（理工学）	工学
都市環境デザイン学科	113	−	452	学士（工学）	工学
建築学科	146	−	584	学士（工学）	工学
総合情報学部	260	−	1,040		
（内訳）					
総合情報学科	260	−	1,040	学士（情報学）	工学
計	1,071	0	4,284		

平成29年度以降

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
理工学部	811	−	3,244		
（内訳）					
機械工学科	180	−	720	学士（理工学）	工学
生体医工学科	113	−	452	学士（理工学）	工学、理学
電気電子情報工学科	113	−	452	学士（理工学）	工学
応用化学科	146	−	584	学士（理工学）	工学
都市環境デザイン学科	113	−	452	学士（工学）	工学
建築学科	146	−	584	学士（工学）	工学
総合情報学部	260	−	1,040		
（内訳）					
総合情報学科	260	−	1,040	学士（情報学）	工学
計	1,071	0	4,284		

朝霞キャンパス

【所在地：埼玉県朝霞市岡48-1】

平成28年度

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
ライフデザイン学部	556	−	2,224		
（内訳）					
生活支援学科生活支援学専攻	116	−	464	学士（生活支援学）	社会学・社会福祉学、教育学・保育学
生活支援学科子ども支援学専攻	100	−	400		
健康スポーツ学科	180	−	720	学士（健康スポーツ学）	社会学・社会福祉学、保健衛生学（看護学を除く）
人間環境デザイン学科	160	−	640	学士（人間環境デザイン学）	社会学・社会福祉学、家政
計	556	0	2,224		

平成29年度以降

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
ライフデザイン学部	556	−	2,224		
（内訳）					
生活支援学科生活支援学専攻	116	−	464	学士（生活支援学）	社会学・社会福祉学、教育学・保育学
生活支援学科子ども支援学専攻	100	−	400		
健康スポーツ学科	180	−	720	学士（健康スポーツ学）	社会学・社会福祉学、保健衛生学（看護学を除く）
人間環境デザイン学科	160	−	640	学士（人間環境デザイン学）	社会学・社会福祉学、家政
計	556	0	2,224		

板倉キャンパス

【所在地：群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1】

平成28年度

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
生命科学部	226	−	904		
（内訳）					
生命科学科	113	−	452	学士（生命科学）	理学
応用生物科学科	113	−	452		
食環境科学部	220	−	880		
（内訳）					
食環境科学科フードサイエンス専攻	70	−	280	学士（食環境科学部）	理学、家政
食環境科学科スポーツ・食品機能専攻	50	−	200		
健康栄養学科	100	−	400	学士（健康栄養学）	理学、家政
計	446	0	1,784		

平成29年度以降

学部名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野
生命科学部	226	−	904		
（内訳）					
生命科学科	113	−	452	学士（生命科学）	理学
応用生物科学科	113	−	452		
食環境科学部	220	−	880		
（内訳）					
食環境科学科フードサイエンス専攻	70	−	280	学士（食環境科学部）	理学、家政
食環境科学科スポーツ・食品機能専攻	50	−	200		
健康栄養学科	100	−	400	学士（健康栄養学）	理学、家政
計	446	0	1,784		

赤羽台キャンパス

【所在地：東京都北区赤羽台1-7-12】

平成28年度

平成29年度以降

学部・学科名	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×4	学位の種類	分野	変更の事由
情報連携学部	400	−	1,600			学部の設置（届出）
（内訳）						
情報連携学科	400	−	1,600	学士（情報連携学）	工学・経済学	
計	400	0	1,600			

収容定員 1,600名増

収容定員 ※博士前期・修士課程

平成28年度

博士前期・修士課程

研究科名	専攻名	分野	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×2
文学研究科	哲学専攻	文学	5	-	10
	インド哲学仏教学専攻	文学	4	-	8
	国文学専攻	文学	10	-	20
	中国哲学専攻	文学	4	-	8
	英文学専攻	文学	5	-	10
	史学専攻	文学	6	-	12
	教育学専攻	教育学・保育学	20	-	40
	英語コミュニケーション専攻	文学	10	-	20
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	10	-	20
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	12	-	24
法学研究科	私法学専攻	法学	10	-	20
	公法学専攻	法学	10	-	20
経営学研究科	経営学専攻	経済学	10	-	20
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	20	-	40
	マーケティング専攻	経済学	10	-	20
理工学研究科	生体医工専攻	工学	18	-	36
	応用化学専攻	工学	12	-	24
	機能システム専攻	工学	15	-	30
	電気電子情報専攻	工学	11	-	22
	都市環境デザイン専攻	工学	8	-	16
	建築学専攻	工学	14	-	28
経済学研究科	経済学専攻	経済学	10	-	20
	公民連携専攻	経済学	30	-	60
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	15	-	30
	国際観光学専攻	経済学	10	-	20
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	20	-	40
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	20	-	40
	福祉社会システム専攻	社会学・社会福祉学	20	-	40
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学 教育学・保育学、体育	20	-	40
	人間環境デザイン専攻	家政	10	-	20
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	12	-	24
総合情報学研究科	総合情報学専攻	工学、社会学・社会福祉学	15	-	30
食環境科学研究科	食環境科学専攻	理学、家政	10	-	20
計			416	0	832

平成29年度以降

博士前期・修士課程 （1研究科・1専攻設置）

研究科名	専攻名	分野	入学定員 (a)	編入学定員	収容定員 (a)×2	変更の事由
文学研究科	哲学専攻	文学	5	-	10	
	インド哲学仏教学専攻	文学	4	-	8	
	国文学専攻	文学	10	-	20	
	中国哲学専攻	文学	4	-	8	
	英文学専攻	文学	5	-	10	
	史学専攻	文学	6	-	12	
	教育学専攻	教育学・保育学	20	-	40	
	英語コミュニケーション専攻	文学	10	-	20	
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	10	-	20	
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	12	-	24	
法学研究科	私法学専攻	法学	10	-	20	
	公法学専攻	法学	10	-	20	
経営学研究科	経営学専攻	経済学	10	-	20	
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	20	-	40	
	マーケティング専攻	経済学	10	-	20	
理工学研究科	生体医工専攻	工学	18	-	36	
	応用化学専攻	工学	12	-	24	
	機能システム専攻	工学	15	-	30	
	電気電子情報専攻	工学	11	-	22	
	都市環境デザイン専攻	工学	8	-	16	
	建築学専攻	工学	14	-	28	
経済学研究科	経済学専攻	経済学	10	-	20	
	公民連携専攻	経済学	30	-	60	
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	15	-	30	
	国際観光学専攻	経済学	10	-	20	
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	20	-	40	
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	20	-	40	
	福祉社会システム専攻	社会学・社会福祉学	20	-	40	
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学 教育学・保育学、体育	20	-	40	
	人間環境デザイン専攻	家政	10	-	20	
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	12	-	24	
総合情報学研究科	総合情報学専攻	工学、社会学・社会福祉学	15	-	30	
食環境科学研究科	食環境科学専攻	理学、家政	10	-	20	
情報連携学研究科	情報連携学専攻	工学、経済学	20	-	40	研究科の設置(届出)
計			436	0	872	

収容定員 40名増

収容定員 ※博士後期

平成28年度

博士後期課程

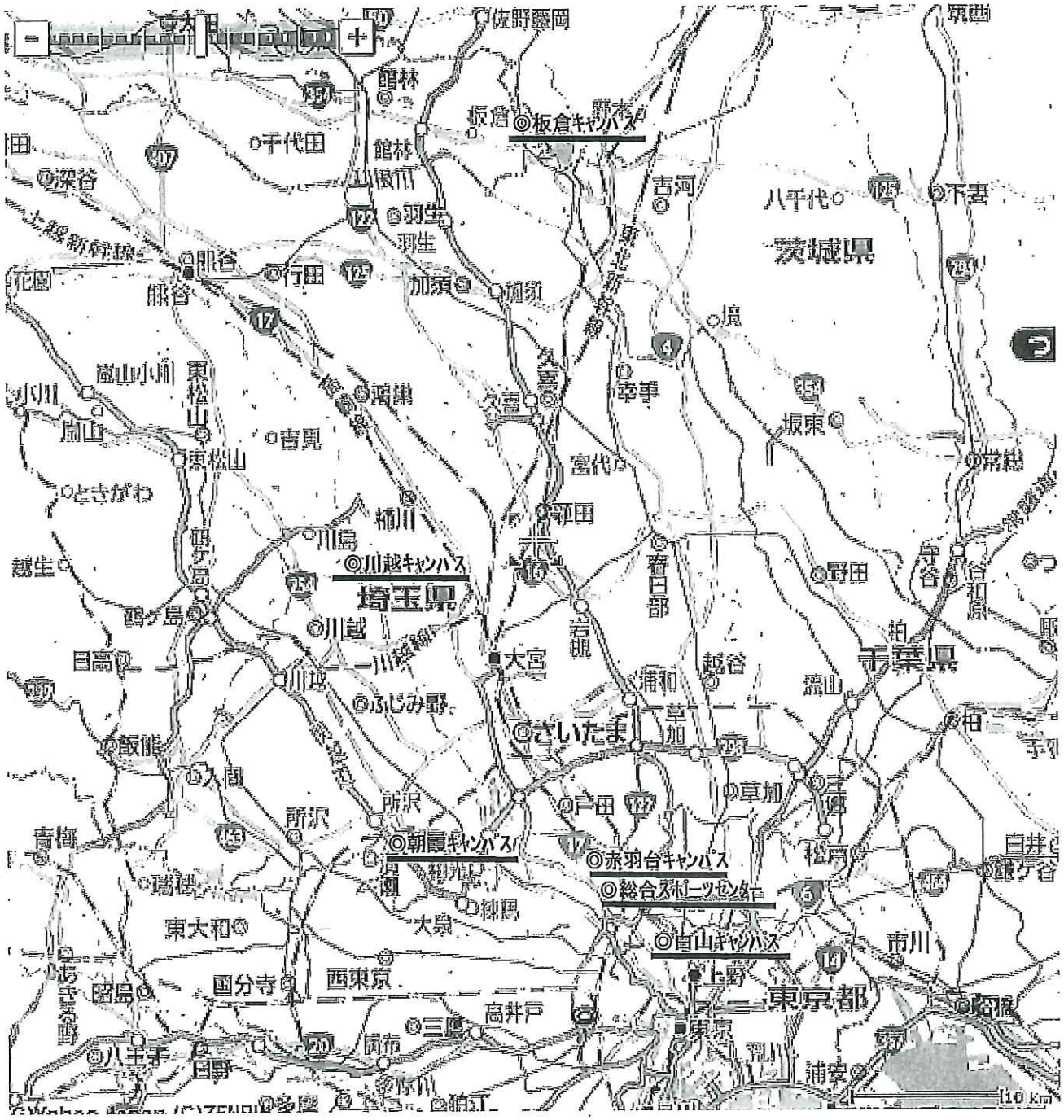
研究科名	専攻名	分野	入学定員 (b)	編入学定員	収容定員 (b)×3
文学研究科	哲学専攻	文学	3	－	9
	インド哲学仏教学専攻	文学	3	－	9
	国文学専攻	文学	3	－	9
	中国哲学専攻	文学	3	－	9
	英文学専攻	文学	3	－	9
	史学専攻	文学	3	－	9
	教育学専攻	教育学・保育学	4	－	12
	英語コミュニケーション専攻	文学	5	－	15
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	3	－	9
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	5	－	15
法学研究科	私法学専攻	法学	5	－	15
	公法学専攻	法学	5	－	15
経営学研究科	経営学専攻	経済学	5	－	15
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	5	－	15
	マーケティング専攻	経済学	3	－	9
理工学研究科	生体医工専攻	工学	3	－	9
	応用化学専攻	工学	3	－	9
	機能システム専攻	工学	3	－	9
	電気電子情報専攻	工学	3	－	9
	建築・都市デザイン専攻	工学	3	－	9
経済学研究科	経済学専攻	経済学	3	－	9
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	5	－	15
	国際観光学専攻	経済学	3	－	9
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	4	－	12
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	5	－	15
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学 教育学・保育学、体育	5	－	15
	人間環境デザイン専攻	家政	4	－	12
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	4	－	12
計			106	0	318

平成29年度以降

博士後期課程 （変更なし）

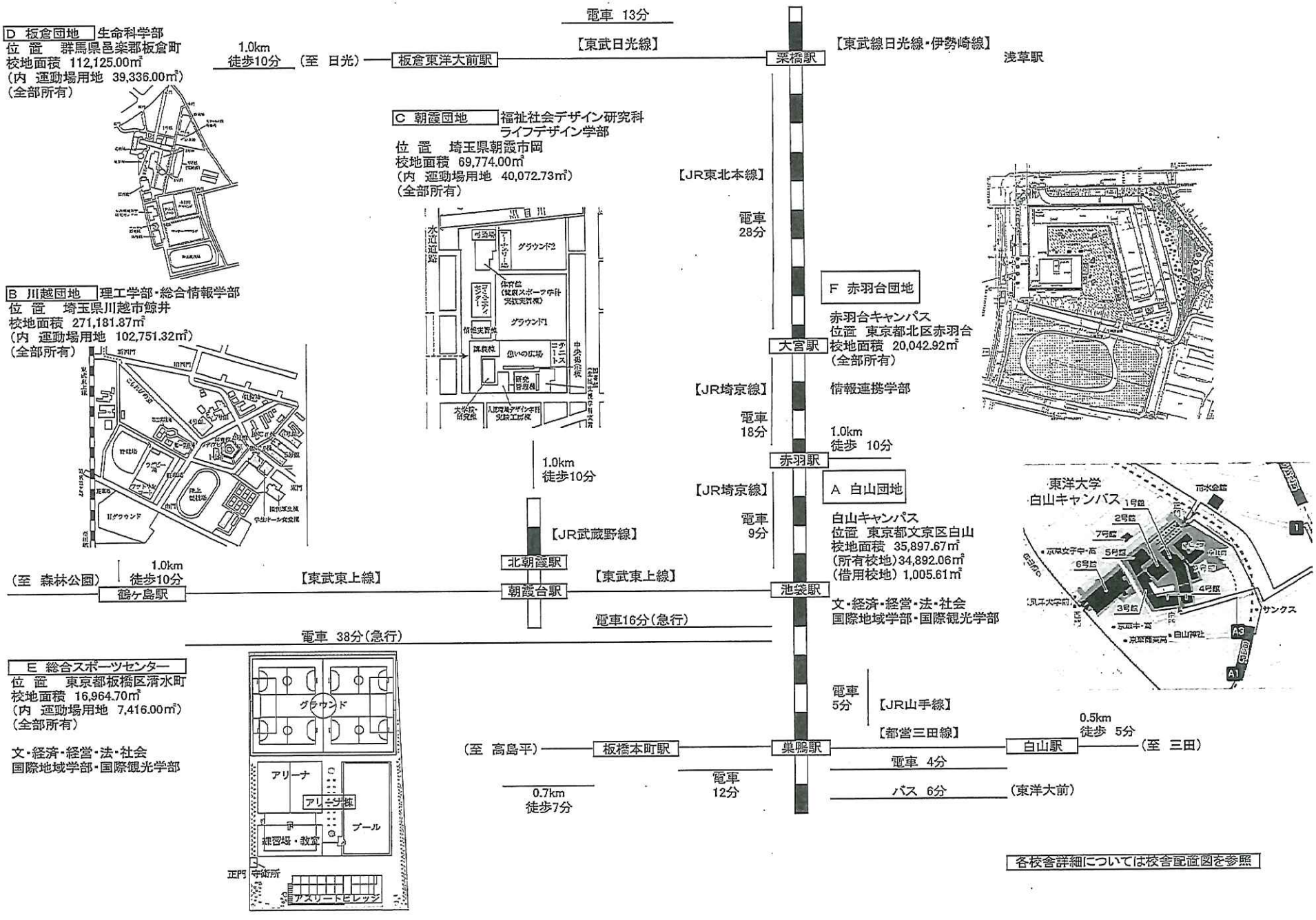
研究科名	専攻名	分野	入学定員 (b)	編入学定員	収容定員 (b)×3
文学研究科	哲学専攻	文学	3	－	9
	インド哲学仏教学専攻	文学	3	－	9
	国文学専攻	文学	3	－	9
	中国哲学専攻	文学	3	－	9
	英文学専攻	文学	3	－	9
	史学専攻	文学	3	－	9
	教育学専攻	教育学・保育学	4	－	12
	英語コミュニケーション専攻	文学	5	－	15
社会学研究科	社会学専攻	社会学・社会福祉学	3	－	9
	社会心理学専攻	社会学・社会福祉学	5	－	15
法学研究科	私法学専攻	法学	5	－	15
	公法学専攻	法学	5	－	15
経営学研究科	経営学専攻	経済学	5	－	15
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	経済学	5	－	15
	マーケティング専攻	経済学	3	－	9
理工学研究科	生体医工専攻	工学	3	－	9
	応用化学専攻	工学	3	－	9
	機能システム専攻	工学	3	－	9
	電気電子情報専攻	工学	3	－	9
	建築・都市デザイン専攻	工学	3	－	9
経済学研究科	経済学専攻	経済学	3	－	9
国際地域学研究科	国際地域学専攻	経済学	5	－	15
	国際観光学専攻	経済学	3	－	9
生命科学研究科	生命科学専攻	工学	4	－	12
福祉社会デザイン研究科	社会福祉学専攻	社会学・社会福祉学	5	－	15
	ヒューマンデザイン専攻	社会学・社会福祉学 教育学・保育学、体育	5	－	15
	人間環境デザイン専攻	家政	4	－	12
学際・融合科学研究科	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	工学	4	－	12
計			106	0	318

東洋大学関連広域図



【所在地】

白山キャンパス	東京都文京区白山5-28-20
赤羽台キャンパス	東京都北区赤羽台1-7-11
総合スポーツセンター	東京都板橋区清水町92-1
朝霞キャンパス	埼玉県朝霞市岡48-1
川越キャンパス	埼玉県川越市鯨井2100
板倉キャンパス	群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1


D 板倉団地 生命科学部
位置 群馬県邑楽郡板倉町
校地面積 112,125.00㎡
(内 運動場用地 39,336.00㎡)
(全部所有)
1.0km
徒歩10分
(至 日光)
板倉東洋大前駅
電車 13分
【東武日光線】
栗橋駅
【東武線日光線・伊勢崎線】
浅草駅
C 朝霞団地 福祉社会デザイン研究科
ライフデザイン学部
位置 埼玉県朝霞市岡
校地面積 69,774.00㎡
(内 運動場用地 40,072.73㎡)
(全部所有)
【JR東北本線】
電車
28分
F 赤羽台団地
赤羽台キャンパス
位置 東京都北区赤羽台
校地面積 20,042.92㎡
(全部所有)
情報連携学部
大宮駅
【JR埼京線】
電車
18分
1.0km
徒歩 10分
赤羽駅
B 川越団地 理工学部・総合情報学部
位置 埼玉県川越市鯨井
校地面積 271,181.87㎡
(内 運動場用地 102,751.32㎡)
(全部所有)
1.0km
徒歩10分
【JR武蔵野線】
北朝霞駅
【JR埼京線】
電車
9分
A 白山団地
白山キャンパス
位置 東京都文京区白山
校地面積 35,897.67㎡
(所有校地)34,892.06㎡
(借用校地) 1,005.61㎡
文・経済・経営・法・社会
国際地域学部・国際観光学部
(至 森林公園)
1.0km
徒歩10分
鶴ヶ島駅
【東武東上線】
朝霞台駅
【東武東上線】
池袋駅
電車16分(急行)
電車 38分(急行)
E 総合スポーツセンター
位置 東京都板橋区清水町
校地面積 16,964.70㎡
(内 運動場用地 7,416.00㎡)
(全部所有)
文・経済・経営・法・社会
国際地域学部・国際観光学部
電車
5分
【JR山手線】
【都営三田線】
0.5km
徒歩 5分
(至 高島平)
板橋本町駅
巣鴨駅
白山駅
(至 三田)
電車 4分
電車
12分
バス 6分
(東洋大前)
0.7km
徒歩7分
各校舎詳細については校舎配置図を参照

東洋大学学則（案）

昭和24年４月１日
施行

改正　昭和 25 年４月１日　昭和 26 年４月１日
昭和 27 年４月１日　昭和 29 年４月１日
昭和 31 年４月１日　昭和 32 年４月１日
昭和 34 年４月１日　昭和 36 年４月１日
昭和 37 年４月１日　昭和 39 年４月１日
昭和 40 年４月１日　昭和 41 年４月１日
昭和 43 年４月１日　昭和 46 年４月１日
昭和 47 年４月１日　昭和 51 年４月１日
昭和 53 年４月１日　昭和 54 年４月１日
昭和 55 年４月１日　昭和 56 年４月１日
昭和 57 年４月１日　昭和 58 年４月１日
昭和 59 年４月１日　昭和 60 年４月１日
昭和 61 年４月１日　昭和 62 年４月１日
昭和 63 年４月１日　昭和63年９月26日
昭和63年11月４日　平成元年４月１日
平成元年６月 22 日　平成２年４月１日
平成３年４月１日　平成３年７月１日
平成３年 10 月１日　平成４年４月１日
平成５年４月１日　平成５年 10 月１日
平成５年 11 月１日　平成６年４月１日
平成６年９月５日　平成７年４月１日
平成８年４月１日　平成９年４月１日
平成 10 年４月１日　平成 10 年６月１日
平成 10 年９月１日　平成 11 年４月１日
平成 12 年４月１日　平成 12 年７月１日
平成 13 年４月１日　平成 14 年４月１日
平成14年７月15日　平成 15 年４月１日
平成 16 年４月１日　平成 17 年４月１日
平成 18 年４月１日　平成 19 年４月１日
平成 20 年４月１日　平成20年７月22日
平成 21 年４月１日　平成 22 年４月１日
平成 23 年４月１日　平成 24 年４月１日
平成 25 年４月１日　平成 26 年４月１日
平成 26 年７月１日　平成 27 年４月１日
平成 28 年４月１日　平成 29 年４月１日

目次

第１章　総則（第１条－第３条の４）
第２章　本学の組織

第１節　教育及び研究の組織（第４条－第８条）
第２節　運営機関及び教職員（第９条－第18条）
第３章　修学等
第１節　修業年限（第19条－第20条）
第２節　学年、学期及び休業日（第21条－第23条）
第４章　入学、退学、休学、除籍等
第１節　入学、留学等（第24条－第34条）
第２節　休学、退学、転学及び除籍（第35条－第38条）
第５章　教育課程及び履修方法（第39条－第45条）
第６章　試験及び成績（第46条－第51条）
第７章　卒業及び学士の学位（第52条－第55条）
第８章　賞罰及び奨学（第56条－第57条の２）
第９章　委託学生、科目等履修生及び特別聴講生（第58条－第61条）
第10章　外国人留学生（第62条・第62条の２）
第11章　学費等
第１節　検定料及び選考料（第63条・第64条）
第２節　学費、科目等履修生等（第65条－第69条）
第３節　手数料（第70条）
第４節　学費の返還制限（第71条）
第12章　正規外の講座（第72条－第74条）
第13章　厚生寮、学生寮及び厚生保健施設（第75条－第79条）
第14章　補則（第80条－第82条）
附則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この学則は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）及び私立学校法（昭和 24 年法律第 270 号）に基づき、学校法人東洋大学が設置する東洋大学（以下「本学」という。）における教育及び研究の組織並びに運営について必要な事項を定める。

（本学の目的）

第２条　本学は、創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成することを目的とする。

（自己点検・評価）

第３条　本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

２　前項の点検及び評価の実施細目については、別に定める。

（認証評価）

第３条の２　本学は、前条第１項の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、学校教育法第 109 条第２項に基づき、政令で定められた期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受け、その結果を公表する。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第３条の３　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。
２　前項の実施に関する必要な事項については、別に定める。
（情報の公表）
第３条の４　本学は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の２に基づき、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって情報を公表する。
２　前項の公表方法については、別に定める。

第２章　本学の組織

第１節　教育及び研究の組織

（学部及び学科）
第４条　本学に、次の学部及び学科を置く。
（１）　文学部
ア　第１部
（ア）　哲学科
（イ）　東洋思想文化学科
（ウ）　日本文学文化学科
（エ）　英米文学科
（オ）　国際文化コミュニケーション学科
（カ）　史学科
（キ）　教育学科
イ　第２部
（ア）　東洋思想文化学科
（イ）　日本文学文化学科
（ウ）　教育学科
（２）　経済学部
ア　第１部
（ア）　経済学科
（イ）　国際経済学科
（ウ）　総合政策学科
イ　第２部
経済学科
（３）　経営学部
ア　第１部
（ア）　経営学科
（イ）　マーケティング学科
（ウ）　会計ファイナンス学科
イ　第２部
経営学科
（４）　法学部
ア　第１部
（ア）　法律学科
（イ）　企業法学科

イ　第２部
法律学科
（５）　社会学部
ア　第１部
(ア)　社会学科
(イ)　社会文化システム学科
(ウ)　メディアコミュニケーション学科
(エ)　社会心理学科
(オ)　社会福祉学科
イ　第２部
(ア)　社会学科
(イ)　社会福祉学科
（６）　理工学部
ア　機械工学科
イ　生体医工学科
ウ　電気電子情報工学科
エ　応用化学科
オ　都市環境デザイン学科
カ　建築学科
（７）　国際学部
ア　グローバル・イノベーション学科
イ　国際地域学科
（８）　国際観光学部
国際観光学科
（９）　生命科学部
ア　生命科学科
イ　応用生物科学科
(10)　ライフデザイン学部
ア　生活支援学科
イ　健康スポーツ学科
ウ　人間環境デザイン学科
(11)　総合情報学部
総合情報学科
(12)　食環境科学部
ア　食環境科学科
イ　健康栄養学科
(13)　情報連携学部
情報連携学科
２　前項の学科のもとに、教育研究上の必要に応じ専攻等を置くことができる。
３　各学部における学部規程は、別に定める。
（学部及び学科の教育研究上の目的）
第４条の２　各学部は、学部及び学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部

規程に定める。

（学位授与、教育課程編成・実施並びに入学者受入の方針）

第４条の３　各学部は、前条の目的を達成するために、学部及び学科又は専攻の学位授与に関する方針、教育課程編成・実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を学部規程に定める。

（学生定員）

第５条　本学の各学部及び学科又は専攻の学生定員は、次のとおりとする。

			入学定員		収容定員	
学部	学科	専攻	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科		100		400	
	東洋思想文化学科		100	30	400	120
	日本文学文化学科		133	50	532	200
	英米文学科		133		532	
	国際文化コミュニケーション学科		100		400	
	史学科		133		532	
	教育学科	人間発達専攻	100		400	
		初等教育専攻	50		200	
				40		160
	（計）		849	120	3,396	480
経済学部	経済学科		250	150	1,000	600
	国際経済学科		183		732	
	総合政策学科		183		732	
	（計）		616	150	2,464	600
経営学部	経営学科		316	110	1,264	440
	マーケティング学科		150		600	
	会計ファイナンス学科		216		864	
	（計）		682	110	2,728	440
法学部	法律学科		250	120	1,000	480
	企業法学科		250		1,000	
	（計）		500	120	2,000	480
社会学部	社会学科		150	130	600	520
	社会文化システム学科		150		600	
	メディアコミュニケーション学科		150		600	
	社会心理学科		150		600	
	社会福祉学科		150	45	600	200
				３年次　10		
	（計）		750	175	3,000	720
				３年次　10		
理工学部	機械工学科		180		720	
	生体医工学科		113		452	
	電気電子情報工学科		113		452	
	応用化学科		146		584	
	都市環境デザイン学科		113		452	

	建築学科		146		584	
	(計)		811		3,244	
国際学部	グローバル・イノベーション学科		100		400	
	国際地域学科	国際地域専攻	210		840	
		地域総合専攻	80		320	
	(計)		390		1,560	
国際観光学部	国際観光学科		366		1,464	
生命科学部	生命科学科		113		452	
	応用生物科学科		113		452	
	(計)		226		904	
ライフデザイン学部	生活支援学科	生活支援学専攻	116		464	
		子ども支援学専攻	100		400	
	健康スポーツ学科		180		720	
	人間環境デザイン学科		160		640	
	(計)		556		2,224	
総合情報学部	総合情報学科		260		1,040	
食環境科学部	食環境科学科	ﾌｰﾄﾞｻｲｴﾝｽ専攻	70		280	
		ｽﾎﾟｰﾂ・食品機能専攻	50		200	
	健康栄養学科		100		400	
	(計)		220		880	
情報連携学部	情報連携学科		400		1,600	
〔合計〕			6,626	675	26,504	2,720
				3年次 10		

2　文学部第１部及び第２部東洋思想文化学科の「インド思想コース」、「中国語・中国哲学文学コース」、「仏教思想コース」及び「東洋芸術文化コース」の定員は、別に定める「文学部東洋思想文化学科のコースに関する規程」による。

(通信教育課程)

第６条　文学部日本文学文化学科及び法学部法律学科に、通信教育課程を置く。

2　通信教育課程に関する学則は、別に定める。

(大学院)

第７条　本学に、大学院を置く。

2　大学院に関する学則は、別に定める。

(附属施設等)

第８条　本学に、附属施設として図書館、研究所、センターその他の教育及び研究に必要な施設を置くことができる。

2　附属施設に関する規程は、別に定める。

第２節　運営機関及び教職員

(学長)

第９条　本学に、学長を置く。

2　学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

(副学長)

第９条の２　本学に、副学長を若干名置くことができる。

２　副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

（学部長）

第10条　各学部に、学部長を置く。

２　学部長は、当該学部に関する校務をつかさどる。

（学部長会議）

第11条　各学部の連絡調整及びその他緊急を要する事項につき、学長の諮問に応えるために学部長会議を置く。

２　学部長会議規程は別に定める。

（教授会）

第12条　学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を置く。

２　教授会規程は別に定める。

第13条　削除

（大学協議員）

第14条　教学及び運営上の重要事項を審議するため、大学協議員会を置く。

（各種委員会）

第15条　学長が必要と認めるときは、課題ごとに委員会（以下「各種委員会」という。）を設置することができる。

（大学協議員会及び各種委員会に関する規程）

第16条　大学協議員会及び各種委員会に関する規程は、別に定める。

（教職員）

第17条　本学に、専任の教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、特殊資格職員、技術職員及び現業職員を置く。

２　前項のほか、必要に応じ、非常勤の教員及び職員を置くことができる。

（学外者研究員）

第18条　本学に、学外者研究員を置くことができる。

２　学外者研究員に関する規程は、別に定める。

第３章　修学等

第１節　修業年限

（修業年限）

第19条　学部の修業年限は、４年とする。

（修業年限の通算）

第19条の２　科目等履修生（大学入学資格を有しない者を除く。）として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、本学が定める期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、本学の修業年限の２分の１を超えないものとする。

２　前項の修業年限の通算は、本学に入学した後に修得したものとみなすことのできる当該単位数、その修得に要した期間その他教授会が必要と認める事項を勘案して行う。

（在学年限）

第20条　卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して８年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

２　再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第２節　学年、学期及び休業日

（学年）

第 21 条　学年は４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。ただし、秋学期入学生については 10 月１日に始まり、翌年９月 30 日に終わる。

（学期）

第 22 条　学年を分けて、次の２期とする。ただし、学長は、教授会の意見を聴いて、春学期の終了日及び秋学期の開始日を変更することができる。

（１）　春学期　　４月１日から９月 30 日まで

（２）　秋学期　　10 月１日から翌年３月 31 日まで

（休業日）

第 23 条　本学における授業を行わない日（以下「休業日」という。）を、次のとおり定める。ただし、学長は、教授会の意見を聴いて、休業日を変更し、又は臨時に休業日を設けることができる。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律に規定する休日

（３）　創立記念日（11 月 23 日）

（４）　学　祖　祭（６月６日）

（５）　春季休業　　２月上旬から３月 31 日まで

（６）　夏季休業　　８月上旬から９月 30 日まで

（７）　冬季休業　　12 月下旬から翌年１月上旬まで

第４章　入学、退学、休学、除籍等

第１節　入学、留学等

（入学の時期）

第 24 条　入学期は、学期の初日から 30 日以内とする。

（入学資格）

第 25 条　学部第１年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

（１）　高等学校を卒業した者

（２）　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

（３）　外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（５）　文部科学大臣が指定した者

（６）　大学入学資格検定（平成 17 年１月 31 日規程廃止）に合格した者

（７）　高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

（８）　その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達したもの

（入学の志願及び選考）

第 26 条　入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第１に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続）

第27条　入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

第28条　保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

２　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

３　学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第29条　入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

第30条　学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。

（１）　短期大学を卒業した者

（２）　大学を卒業した者

（３）　高等専門学校を卒業した者

（４）　専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

２　編入学に関する規程は、別に定める。

（転入学）

第31条　学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。

２　転入学に関する規程は、別に定める。

（転部・転科）

第32条　学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。

２　転部・転科に関する規程は、別に定める。

（留学）

第33条　学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

２　前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

（二重学籍の禁止）

第34条　学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第２節　休学、退学、転学及び除籍

（休学）

第35条　引続き３カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

２　休学は、連続する２学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、２学期を超える期間の休学を許可することができる。

３　休学の期間は、通算して８学期を超えることはできない。

４　願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

（退学）

第36条　学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2　願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

（転学）

第37条　学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

（除籍）

第38条　次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続きを経て、除籍する。

（1）　授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者

（2）　第20条に規定する在学年数を超えた者

（3）　第35条第2項に規定する休学期間を超えた者

（4）　新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者

2　学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

3　第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第5章　教育課程及び履修方法

（教育課程）

第39条　本学は、本学の目的並びに学部及び学科又は専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。

2　教育課程の編成に当っては、学部及び学科又は専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。

3　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次等に配当して編成する。

4　各学部及び学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法は、各学部において学部規程に定める。

5　外国人留学生（海外帰国子女を含む。）に対しては、前項に掲げる授業科目の一部に代えて、又はこれに加えて特別の授業科目を置くことができる。

（授業の方法）

第39条の2　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

2　前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　前項の授業方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

（成績評価基準等の明示等）

第39条の3　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

2　本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行う。

（単位の授与）

第40条　授業科目を履修する場合、その授業科目の授業に出席し、かつ、試験に合格した者には、その授業科目の単位を与える。

（単位の計算方法）

第41条　授業科目の単位数は、1単位につき45時間の学修を要することを標準とし、次の基準により単位数を計算する。

（1）　講義及び演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって１単位とする。
（2）　実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって１単位とする。
（3）　１の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前２号に規定する基準を考慮して１単位の授業時間を定める。
２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。
３　１単位の計算基礎となる授業時間については、学長が教授会の意見を聴いて定める。
（履修手続）
第 42 条　授業科目の履修については、各学期の所定の期日内に届け出て許可を得なければならない。
２　他の学部及び学科又は専攻の授業科目の履修については、前項の規定を準用する。
３　各学部は、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間又は１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を学部規程に定める。
（他の大学の授業科目の履修）
第 43 条　教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。
２　前項の規定により履修した授業科目の単位については、学長は教授会の意見を聴いて、60 単位を限度に卒業所要単位として認めることができる。
（大学以外の教育施設等における学修）
第 43 条の２　教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
２　前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて、60 単位を超えないものとする。
（入学前の既修得単位等の認定）
第 43 条の３　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
３　前２項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 43 条第２項及び第 43 条の２第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて、60 単位を超えないものとする。
（留学の場合の準用）
第 44 条　第 43 条第２項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合について準用する。
（教育職員その他の資格）
第 45 条　学部及び学科又は専攻等において取得できる教育職員その他の資格は、各学部において学部規程に定める。
２　前項の資格取得のための授業科目及び単位数は、各学部において学部規程に定める。

第６章　試験及び成績

（試験）
第 46 条　試験は、筆記又は口述による。ただし、必要と認めるときは、試験に代えて論文その他の方法によることができる。
２　試験の評価点は、 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

（試験の期間）

第47条　試験は、学期末又は学年末に行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期に行うことができる。

（受験の条件）

第48条　試験は、履修した科目でなければ、受けることはできない。

２　学費等を納入しない者は、試験を受けることはできない。

３　休学又は停学の期間中は、試験を受けることはできない。

（追試験）

第49条　疾病その他のやむを得ない事情により第47条に規定する試験を受けることができない者には、追試験を行うことができる。

２　追試験を受けようとする者は、その旨の願い出をしなければならない。

（成績の表示）

第50条　試験の成績は、S（100点から90点まで）、A（89点から80点まで）、B（79点から70点まで）、C（69点から60点まで）、D（59点から40点まで）及びE（39点以下）で表示し、S、A、B及びCを合格とし、D及びEを不合格とする。

（成績の通知）

第51条　試験の成績は、学生に通知する。

第７章　卒業及び学士の学位

（卒業に必要な単位）

第52条　各学部及び学科又は専攻の卒業に必要な単位は、各学部において学部規程に定める。

（卒業の要件）

第53条　卒業の要件は、次のとおりとする。

（１）　４年以上在学すること。

（２）　各学部が定める卒業に必要な要件を充足していること。

２　前項の規定にかかわらず、３年以上在学し卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、文部科学大臣の定めるところにより、卒業させることができる。

第54条　削除

（学士の学位）

第55条　卒業した者には、その履修した課程に従い、次の各号に掲げる学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

（１）　文学部第１部（教育学科を除く。）・第２部（教育学科を除く。）　学士（文学）

（２）　文学部第１部教育学科・第２部教育学科　学士（教育学）

（３）　経済学部第１部・第２部　学士（経済学）

（４）　経営学部第１部・第２部　学士（経営学）

（５）　法学部第１部・第２部　学士（法学）

（６）　社会学部第１部・第２部　学士（社会学）

（７）　理工学部

ア　機械工学科　学士（理工学）

イ　生体医工学科　学士（理工学）

ウ　電気電子情報工学科　学士（理工学）

エ　応用化学科　学士（理工学）

オ　都市環境デザイン学科　学士（工学）

カ　建築学科　学士（工学）

（８）　国際学部

ア　グローバル・イノベーション学科　学士（グローバル・イノベーション学）

イ　国際地域学科　学士（国際地域学）

（９）　国際観光学部　学士（国際観光学）

(10)　生命科学部　学士（生命科学）

(11)　ライフデザイン学部

ア　生活支援学科　学士（生活支援学）

イ　健康スポーツ学科　学士（健康スポーツ学）

ウ　人間環境デザイン学科　学士（人間環境デザイン学）

(12)　総合情報学部　学士（情報学）

(13)　食環境科学部

ア　食環境科学科　学士（食環境科学）

イ　健康栄養学科　学士（健康栄養学）

(14)　情報連携学部　学士（情報連携学）

第８章　賞罰及び奨学

（表彰）

第56条　学長は、人物及び学業が優秀な者、顕著な善行のあった者及び課外活動の成果が顕著な者に対し、表彰することができる。

２　表彰の種類は、次のとおりとする。

（１）　特待生　一定期間の授業料の免除又は減額

（２）　優等生　賞状及び賞品の授与

（３）　その他の表彰

（懲戒）

第57条　学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

２　退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

（１）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（２）　学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

（３）　正当な理由なくして出席常でない者

（４）　本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

（奨学）

第57条の２　本学に、奨学制度を置く。

２　奨学制度に関する規程は、別に定める。

第９章　委託学生、科目等履修生及び特別聴講生

（委託学生）

第58条　国、法人その他の団体から本学での学修を委託されたときは、その者（以下「委託学生」という。）の履修を許可することができる。

２　委託学生として学修することができる者は、大学入学資格を有する者でなければならない。

３　委託学生に関する規程は、別に定める。

（科目等履修生）

第59条　特定の授業科目を履修しようとする者が願い出たときは、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。

２　科目等履修生に関する規程は、別に定める。

（特別聴講生）

第60条　他の大学（外国の大学を含む。）及び短期大学（以下「大学等」という。）の学生が、本学における授業科目の履修を願い出たときは、当該大学等との協議に基づき、特別聴講生として許可することができる。

２　特別聴講生に関する規程は、別に定める。

（委託学生及び科目等履修生に対するこの学則の準用）

第61条　この学則は、別段の定めがある場合を除き、委託学生及び科目等履修生に準用する。この場合において、学則中「学生」とあるのは、それぞれ必要に応じ、「委託学生」又は「科目等履修生」と読み替える。

第10章　外国人留学生

（外国人留学生）

第62条　外国人留学生に関する規程は、別に定める。

（外国人留学生に対するこの学則の準用）

第62条の２　この学則は、別段の定めがある場合を除き、外国人留学生に準用する。この場合において、学則中「学生」とあるのは、必要に応じ、「外国人留学生」と読み替える。

第11章　学費等

第１節　検定料及び選考料

（入学検定料等）

第63条　入学を願い出る者は、別表第１に掲げる検定料を納入しなければならない。

２　転部・転科を願い出る者は、別表第２に掲げる検定料を納入しなければならない。

（選考料）

第64条　科目等履修生となることを志願する者は、別表第４に掲げる選考料を納入しなければならない。

第２節　学費、科目等履修料等

（授業料、入学金その他の学費）

第65条　学生の学費は、入学金、授業料、一般施設設備資金等とし、その額は別表第３のとおりとする。

（学費の減免）

第66条　学長は、学業及び人物が優秀な学生に対しては、教授会の意見を聴いて、授業料の一部又は全部を免除することができる。

（退学の場合の学費）

第67条　退学し、又は退学を命ぜられた学生に対しては、その学期間の授業料、入学金その他の学費を徴収する。停学を命ぜられた場合も、同様とする。

（休学の場合の学費）

第68条　休学する学生に対しては、その休学期間中の授業料を徴収しない。

（委託学生及び科目等履修生の学費）

第69条　委託学生の授業料その他の学費並びに科目等履修生の授業料その他の学費及び登録料は、別表第４のとおりとする。

第３節　手数料

（手数料）

第70条　手数料の種類及び額は、別に定める。

第４節　学費の返還制限

（学費の返還制限）

第71条　納入した学費は、返還しない。

第12章　正規外の講座

（公開講座）

第72条　本学は、学術文化の普及を図るため、学外者を対象とする公開講座を開講することができる。

（課外講座）

第73条　本学は、必要に応じ、特殊な知識及び技能を修得させるため、正規の講座の他に課外講座を開講することができる。

（正規外講座に関する規程）

第74条　前２条で定める講座に関する規程は、別に定める。

第13章　厚生寮、学生寮及び厚生保健施設

（厚生寮）

第75条　本学に、セミナーハウス等の厚生寮を設置する。

（学生寮）

第76条　本学に、合宿所等の学生寮を設置する。

２　学生寮は、集団生活による社会的及び規律的生活の訓練をすることを目的とする。

（医務室）

第77条　本学に医務室を設け、教職員及び本学学生の保健衛生に関する処置を講ずる。

（体育館及び運動場）

第78条　本学に体育館及び運動場を設け、体育の向上に資する。

（体育協議会）

第79条　本学に、体育奨励の推進機関として体育協議会を置く。

第14章　補則

第80条　削除

第81条　削除

（改正）

第82条　この学則の改正は、学長が各学部教授会の意見を聴いて理事会に提案し、理事会の議を経て理事長が行う。

附　則

１　この学則は、昭和61年４月１日から施行する。

２　経過措置

（１）　第48条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

		入学定員	
学部	学科	第１部	第２部
文学部	哲学科	50（人）	
	印度哲学科	50	40
	中国哲学文学科	40	
	国文学科	140	100
	英米文学科	120	
	史学科	60	
	教育学科	60	50
	計	520	190

経済学部	経済学科	500	200
経営学部	経営学科	250	200
	商学科	250	
	計	500	200
法学部	法律学科	250	200
	経営法学科	250	
	計	500	200
社会学部	社会学科	150	130
	応用社会学科	250	
	計	400	130

（2）文学部第１部、経済学部第１部、経営学部第１部、法学部第１部、社会学部第１部の総学生定員については、第48条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和63年度までは次のとおりとする。

		総学生定員		
学部	学科	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
文学部	哲学科	170	180	190
第１部	印度哲学科	155	170	185
	中国哲学文学科	130	140	150
	国文学科	470	500	530
	英米文学科	420	440	460
	史学科	180	200	220
	教育学科	195	210	225
	計	1,720	1,840	1,960
経済学部	経済学科	1,360	1,520	1,680
第１部		(1,400)	(1,600)	(1,800)
経営学部	経営学科	680	760	840
第１部		(700)	(800)	(900)
	商学科	680	760	840
		(700)	(800)	(900)
	計	1,360	1,520	1,680
		(1,400)	(1,600)	(1,800)
法学部	法律学科	850	900	950
第１部	経営法学科	850	900	950
	計	1,700	1,800	1,900
社会学部	社会学科	450	500	550
第１部	応用社会学科	850	900	950
	計	1,300	1,400	1,500

(注)　（ ）内は、期間を付した入学定員を含んだ総学生定員である。

（3）昭和60年度以前の入学生の授業料その他の学費は、第50条別表（5）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和62年４月１日から実施する。

2　経過措置

工学部の総学生定員については、第 48 条の規定にかかわらず、昭和 62 年度から昭和 64 年度までは次のとおりとする。

		総学生定員		
学部	学科	昭和 62 年度	昭和 63 年度	昭和 64 年度
工学部	機械工学科	510	540	570
	電気工学科	430	460	490
	応用化学科	430	460	490
	土木工学科	420	440	460
	建築学科	430	460	490
	情報工学科	360	400	440
	計	2,580	2,760	2,940

附　則

この学則は、昭和 63 年４月１日から実施する。

附　則

1　この学則は、昭和 63 年９月 26 日から実施する。

2　経過措置

昭和 63 年度以前の入学生の授業料その他の学費は、第 50 条別表(5)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 63 年 11 月４日から実施する。

附　則

この学則は、平成元年４月１日から実施する。

附　則

この学則は、平成元年６月 22 日から実施する。

附　則

1　この学則は、平成２年４月１日から施行し、平成２年度入学生から適用する。

2　平成元年度以前の入学生については、第 50 条別表（５）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に消費税法第 29 条に定める税率 100 分の３を乗じた額を加算する。

附　則

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成３年４月１日から施行する。

2　東洋大学の工学部電気工学科は、改正後の学則第３条の規定にかかわらず平成３年３月 31 日の当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第 48 条の規定にかかわらず、平成３年度から平成 11 年度までの入学定員は、次のとおりとする。

		入学定員	
学部	学科	第１部	第２部
文学部	哲学科	60	

	印度哲学科	60	40
	中国哲学文学科	50	
	国文学科	160	100
	英米文学科	130	
	史学科	70	
	教育学科	70	50
	計	600	190
経済学部	経済学科	500	200
経営学部	経営学科	280	200
	商学科	280	
	計	560	200
法学部	法律学科	250	200
	経営法学科	250	
	計	500	200
社会学部	社会学科	190	130
	応用社会学科	310	
	計	500	130
工学部	機械工学科	170	
	電気電子工学科	150	
	応用化学科	150	
	土木工学科	130	
	建築学科	150	
	情報工学科	130	
	計	880	
	合　計	3,540	920

4　高等学校の教員免許状を授与されるに必要な資格を取得しようとする者のうち「地理歴史」及び「公民」については、平成２年度入学生から適用する。

5　第６条別表（1）・（2）に定める文学部第１部印度哲学科及び教育学科の基礎教育科目、専門教育科目並びに第 12 条別表（4）に定める文学部第１部の印度哲学科、史学科及び教育学科の卒業に必要な履修単位については、平成２年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については、なお従前の例による。

6　第 12 条別表（4）に定める文学部第２部の印度哲学科、国文学科及び教育学科並びに経済学部第２部経済学科の卒業に必要な履修単位については、昭和 63 年度入学生から適用し、昭和 62 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成３年７月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第 50 条別表（5）については平成３年 10 月１日から施行し、平成４年度入学生から適用する。

3　平成３年度以前の入学生については、第 50 条別表（5）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に 103 分の 100 を乗じた額とする。

附　則

1　この学則は、平成４年４月１日から施行する。

2　第 48 条の規定にかかわらず、平成４年度から平成 11 年度までの入学定員は、次のとおりとする。

		入学定員	
学部	学科	第１部	第２部
文学部	哲学科	60	
	印度哲学科	60	40
	中国哲学文学科	50	
	国文学科	170	100
	英米文学科	140	
	史学科	70	
	教育学科	70	50
	計	620	190
経済学部	経済学科	550	200
経営学部	経営学科	280	200
	商学科	280	
	計	560	200
法学部	法律学科	300	200
	経営法学科	300	
	計	600	200
社会学部	社会学科	190	130
	応用社会学科	200	
	社会福祉学科	110	
	計	500	130
工学部	機械工学科	170	
	電気電子工学科	150	
	応用化学科	150	
	土木工学科	130	
	建築学科	150	
	情報工学科	130	
	計	880	
	合　計	3,710	920

附　則

この学則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成５年10月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成５年11月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成６年４月１日から施行し、平成６年度入学生から適用する。

附　則

１　この学則は、平成６年９月５日から施行する。

２　平成６年度以前の入学生の授業料、入学金その他の学費については、第50条別表（５）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成７年４月１日から施行する。

2　工学部土木工学科は､改正後の学則第３条の規定にかかわらず平成７年３月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第 48 条の規定にかかわらず、工学部環境建設学科における平成７年度から平成 11 年度までの入学定員は、130 名とする。

附　則

1　この学則は、平成８年４月１日から施行する。

2　第 39 条、第 45 条及び第 52 条については、平成８年度入学生から適用し、平成７年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 10 年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第 52 条別表（１）については、平成 10 年度入学生から適用する。

附　則

この学則は、平成 10 年６月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 10 年９月１日から施行する。

2　平成 10 年度以前の入学生の授業料その他の学費については、次項に定める場合を除き、第 65 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3　平成 10 年度以前の入学生が、平成 15 年度以降において修業年限を超えて在学する場合の授業料その他の学費については、第 65 条の規定にかかわらず、当該年度の４年次生の例による。

4　平成 10 年度科目等履修生の選考料及び登録料については、第 64 条及び第 69 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成 11 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 12 年４月１日から施行する。

2　文学部第１部国文学科及び社会学部第１部応用社会学科は､改正後の第４条の規定にかかわらず平成 12 年３月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第５条の規定にかかわらず、平成 12 年度から平成 15 年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成 12 年度		平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度	
		入学定員		入学定員		入学定員		入学定員	
		第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科	54		53		52		51	
	印度哲学科	54	40	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	44		43		42		41	
	国文学科		100		100		100		100
	日本文学文化学	242		229		216		203	

	英米文学科	128		126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	140		130		120		110	
	史学科	114		113		112		111	
	教育学科	64	50	63	50	62	50	61	50
	(計)	840	190	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	261	200	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165		165	
	(計)	591	200	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	275	200	270	200	265	200	260	200
	商学科	275		270		265		260	
	(計)	550	200	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	295	200	290	200	285	200	280	200
	経営法学科	295		290		285		280	
	(計)	590	200	580	200	570	200	560	200
社会学部	社会学科	126	130	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110		110	
	メディアコミュニケーション学	122		119		116		113	
	社会心理学科	118		116		114		112	
	社会福祉学科	114		113		112		111	
	(計)	590	130	580	130	570	130	560	130
工学部	機械工学科	168		166		164		162	
	電気電子工学科	148		146		144		142	
	応用化学科	148		146		144		142	
	環境建設学科	129		128		127		126	
	建築学科	148		146		144		142	
	情報工学科	129		128		127		126	
	(計)	870		860		850		840	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150		150	
		2年次25		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25		3年次25	

生命科学部	生命科学科	100		100		100		100	
［合計］		4,281	920	4,202	920	4,123	920	4,044	920
		2年次25		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25		3年次25	

附　則

1　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

2　第39条、第45条及び第52条については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

2　第43条第２項、第43条の２第２項、第43条の３第３項及び第53条第２項については、平成12年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成12年７月１日から施行し、平成13年度入学志願者から適用する。

2　平成13年４月１日以前の入学者の検定料については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成13年４月１日から施行する。

2　第５条の規定にかかわらず、平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員	
		第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科	53		52		51	
	印度哲学科	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	43		42		41	
	国文学科		100		100		100
	日本文学文化学科	229		216		203	
	英米文学科	126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	130		120		110	
	史学科	113		112		111	
	教育学科	63	50	62	50	61	50
	(計)	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165	
	(計)	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	270	200	265	200	260	200

	商学科	270		265		260	
	(計)	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	265	200	260	200	255	200
	経営法学科	265		260		255	
	(計)	530	200	520	200	510	200
社会学部	社会学科	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110	
	メディアコミュニケーション学科	119		116		113	
	社会心理学科	116		114		112	
	社会福祉学科	113		112		111	
	(計)	580	130	570	130	560	130
工学部	機械工学科	166		164		162	
	電気電子工学科	146		144		142	
	応用化学科	146		144		142	
	環境建設学科	128		127		126	
	建築学科	146		144		142	
	情報工学科	128		127		126	
	(計)	860		850		840	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150	
		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25	
	国際観光学科	230		220		210	
	(計)	380		370		360	
		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100	
[合計]		4,382	920	4,293	920	4,204	920
		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25	

附　則

1　この学則は、平成13年4月1日から施行する。

2　文学部第2部国文学科、経営学部第1部商学科及び法学部第1部経営法学科は、改正後の第4条の規定にかかわらず、平成13年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第５条の規定にかかわらず、経営学部第１部マーケティング学科及び法学部第１部企業法学科の平成 13 年度から平成 15 年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
		入学定員	入学定員	入学定員
		第１部	第１部	第１部
経営学部	マーケティング学科	270	265	260
法学部	企業法学科	265	260	255

附　則

1　この学則は、平成 13 年４月１日から施行する。

2　第５条の規定にかかわらず、平成 13 年度から平成 15 年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成 13 年度		平成 14 年度		平成 15 年度	
		入学定員		入学定員		入学定員	
		第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科	53		52		51	
	印度哲学科	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	43		42		41	
	日本文学文化学科	229	100	216	100	203	100
	英米文学科	126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	130		120		110	
	史学科	113		112		111	
	教育学科	63	50	62	50	61	50
	(計)	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165	
	(計)	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	270	200	265	200	260	200
	マーケティング学科	270		265		260	
	(計)	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	265	200	260	200	255	200
	企業法学科	265		260		255	
	(計)	530	200	520	200	510	200
社会学部	社会学科	122	130	118	130	114	130

	社会文化システム学科	110		110		110	
	メディアコミュニケーション学科	119		116		113	
	社会心理学科	116		114		112	
	社会福祉学科	113	75	112	75	111	75
			3年次10		3年次10		3年次10
	(計)	580	205	570	205	560	205
			3年次10		3年次10		3年次10
工学部	機械工学科	166		164		162	
	電気電子工学科	146		144		142	
	応用化学科	146		144		142	
	環境建設学科	128		127		126	
	建築学科	146		144		142	
	情報工学科	128		127		126	
	コンピュテーショナル情報工学科	100		100		100	
	(計)	960		950		940	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150	
		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25	
	国際観光学科	230		220		210	
	(計)	380		370		360	
		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25		3年次25		3年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100	
[合計]		4,482	995	4,393	995	4,304	995
		2年次25		2年次25		2年次25	
		3年次25	3年次10	3年次25	3年次10	3年次25	3年次10

附　則

1　この学則は、平成13年4月1日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第25条第3号、第4号、第5号、第6号、第30条第1項第4号、第43条の2第1項及び第53条第2項については、平成13年1月6日から施行する。

3　第39条、第45条第1項別表（3）の1、別表（3）の2、第3項別表（3）の4③、第4項別表（3）の5及び第52条については、平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については、なお従前の

例による。

附　則

1　この学則は、平成14年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、別表（３）の２、第50条については、平成14年度入学生から適用し、それ以前については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（２）の社会学部第１部社会福祉学科の教育課程表については、平成13年度入学生から適用する。

附　則

この学則は、平成14年７月15日から施行する。

附　則

1　この学則は平成15年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）および第52条別表（１）については、平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は平成15年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成16年４月１日から施行する。

2　文学部第１部印度哲学科及び第２部印度哲学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成16年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則

1　この学則は、平成16年４月１日から施行する。ただし、第25条の規定は、平成15年12月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第39条別表（２）、第45条別表（３）の２、（３）の３、（３）の４、（３）の５、第52条別表（１）については、平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成17年４月１日から施行する。

2　工学部電気電子工学科及びコンピュテーショナル情報工学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成17年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　改正後の第５条の規定にかかわらず、国際地域学部国際地域学科の平成17年度から平成19年度までの入学定員及び編入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成17年度	平成18年度	平成19年度
		入学定員	入学定員	入学定員
国際地域学部	国際地域学科	180	180	180
		２年次　25	２年次　0	２年次　0
		３年次　25	３年次　25	３年次　0

4　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、第４項別表（３）の５及び第52条別表（１）については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成17年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）及び第45条第１項別表（３）の１、別表（３）の２については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、ライフデザイン学部健康スポーツ学科の平成17年度入学生が、中学校教諭１種免許状（保健体育）及び高等学校教諭１種免許状（保健体育）を取得するために、第39条第１項別表（２）及び第45条第１項別表（３）の２の科目を履修する場合においては、この限りではない。

附　則

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。

2　平成17年度以前の入学生の学費については、第65条別表（４）の３の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、当該者が平成21年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する４年次生の学費を適用する。

附　則

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成19年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）及び第45条別表（３）の１については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（２）のライフデザイン学部人間環境デザイン学科の教育課程表は、平成18年度入学生から適用する。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第５条、第39条第１項別表（２）、第45条別表（３）の１・２、第52条別表（１）、第55条及び第65条別表（４）の３については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　経済学部第１部社会経済システム学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成20年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（2）、第45条第１項別表（3）の１、別表（3）の２及び第52条別表（1）については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（2）、第45条第１項別表（3）の２、第３項別表（3）の４及び第52条別表（1）については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成20年７月22日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　平成20年度以前の入学生の授業料その他の学費については、第65条別表（４）の３の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、当該者が平成24年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する４年次生の学費を適用する。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　工学部機械工学科、電子情報工学科、応用化学科、環境建設学科、建築学科、情報工学科、コンピュテーショナル工学科及び機能ロボティクス学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成21年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、第３項別表（３）の４、第４項別表（３）の５、第５項別表（３）の６、第６項別表（３）の７、第52条別表（１）、第55条及び第65条別表（４）の３については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第45条第８項別表（3）の９については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）および第45条第４項別表（３）の５については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（2）、第45条第７項別表（3）の８及び第52条別表（1）については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、第 39 条第１項別表（2）の文学部第２部教育学科教育課程表については、平成20年度入学生から適用する。

附　則

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第５条、第39条第１項別表（2）、第45条第１項別表（3）の１、第 52 条別表（1）及び第65条別表(4）の３については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生に

ついては、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）および第 45 条第１項別表（３）の１については、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は平成22年４月１日から施行する。

2　第45条第１項別表（３）の２については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）については、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は平成22年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は平成22年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）および第45条第1項別表（３）の２については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）については、平成 21 年度入学生から適用する。

附　則

1　この学則は平成 23 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は平成 23 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。

2　第 45 条第１項別表（３）の２および第 45 条第５項別表（３）の６については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 24 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）のうち、生命科学部各学科の教育課程表については、平成 21 年度以降の入学生に適用し、平成 20 年度以前の入学生については、なお従前の例による。文学部第１部、経済学部第１部、経営学

部第１部、法学部第１部、社会学部第１部、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻、国際地域学部国際観光学科、文学部第２部、経済学部第２部、経営学部第２部、法学部第２部、社会学部第２部は、平成 24 年度入学生から適用し、平成 23 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　第 45 条第１項別表（３）の１、同第２項別表（３）の３、同第３項別表（３）の４、同第４項別表（３）の５および第 52 条別表（1）については、平成 24 年度入学生から適用し、平成 23 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 24 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）、第 45 条同第４項別表（３）の５および同第６項別表（３）の７については、平成 24 年度入学生から適用し、平成 23 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。

2　文学部第１部インド哲学科、中国哲学文学科、文学部第２部インド哲学科及び生命科学部食環境科学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成 25 年３月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第４条、第５条、第 45 条、第 39 条第１項別表（２）、第 45 条第１項別表（３）の１、同項別表（３）の２、同第８項別表（３）の９、同第９項別表（３）の 10、同第 10 項別表（３）の 11、第 52 条別表（１）については、平成 25 年度入学生から適用し、平成 24 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）、第 45 条第１項別表（３）の２、同３項別表（３）の４、同第７項別表（３）の８、第 52 条別表（１）については、平成 25 年度入学生から適用し、平成 24 年度以前の入学生については、なお従前の例による。第 82 条については、平成 24 年度入学生から適用し、平成 23 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 26 年４月１日から施行する。

2　第 39 条第１項別表（２）、第 52 条別表（１）については、平成 26 年度入学生から適用し、平成 25 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成 26 年７月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。

2　第５条に定める入学定員については、平成 27 年度入学生から適用する。

附　則

この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 28 年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、平成 27 年度以前の入学生については、第 39 条、第 45 条各項、第 52 条及び第 82 条の規定は、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

2　文学部第１部英語コミュニケーション学科、国際地域学部国際地域学科、国際観光学科は、改正後の第４条

の規定にかかわらず、平成29年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

３　第５条に定める入学定員については、平成29年度入学生から適用する。

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

① 設置の趣旨及び必要性 ･･･p. 1
② 学部・学科等の特色 ･･･p. 3
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称 ･･･p. 4
④ 教育課程の編成の考え方及び特色 ･･･p. 4
⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色 ･･･p. 11
⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ･･･p. 13
⑦ 施設、設備の整備計画 ･･･p. 14
⑧ 入学者選抜の概要 ･･･p. 16
⑨ 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画 ･･･p. 17
⑩ 管理運営 ･･･p. 18
⑪ 自己点検・評価 ･･･p. 19
⑫ 情報の公表 ･･･p. 20
⑬ 教育内容などの改善を図るための組織的な研修等 ･･･p. 22
⑭ 社会的・職業的自立に関する指導及び体制 ･･･p. 24

設置の趣旨等を記載した書類

①　設置の趣旨及び必要性

ア　設置の趣旨及び必要性

現在、地球社会のさまざまなシステム（経済、経営、情報等）は行き詰まりを見せており、これらを支える文化や価値観の変革が切実に求められている。そうした中、国際社会システムの変革（イノベーション）を起しうる人材の育成が不可欠である。“人間の存在に普遍的な価値”を自覚しつつ、創造性と起業家精神に満ち、果敢に行動することを厭わない、真に未来社会を開拓しうる能力を具えた優秀な人材、すなわち世界の舞台で先端的な役割を担う「ニューリーダー」の育成が必要である。一方で、このようなイノベーションを実社会に根付かせていくためには、グローバルな視点をもちつつも世界中のさまざまな地域の独自性を理解し、実際の地域社会において開発支援やビジネスなど実践的な活動を展開できる人材の育成も併せて必要である。

本学に平成9年に設置された「国際地域学部国際地域学科」では、国際社会を舞台に活躍していくためのさまざまな知識、実践的な語学能力、コミュニケーション能力の修得しつつ、地域の諸問題に対して広い視野から客観的に把握・分析する能力を修得し、現場において具体的な行動として実践していく意欲のある学生を教育し、社会に送り出してきた。しかし、上述したような社会システムにおけるイノベーションの創造やその実社会への展開について、現在の「国際地域学部国際地域学科」による教育体制のみでは不十分と言わざるを得ない状況である。

そこで、「国際地域学部」を「国際学部」に改組し、グローバルな視点から社会システムにイノベーションを起こしうる人材を育成する「グローバル・イノベーション学科」を新設するとともに、既存の「国際地域学科」における教育研究機能を強化・発展し、実際の地域社会において実践的な活動を展開できる人材の育成に貢献していくものである。

なお、今回の国際学部設置は、本学が平成26年9月に「スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）」に採択された「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の一環として、構想調書にて記載した社会の中核を担う「東洋グローバルリーダー」及び世界の舞台で先端的な役割を担う「ニューエリート」を育成するための新学部学科の設置に伴うものである。

すでに、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」にある、外国語による授業科目数は平成28年度（中間目標）634科目を大きく上回る1,000科目以上を開講する（予定）ほか、今回のグローバル・イノベーション学科の教員採用に関しては、国際公募により実施し、教員の割合も外国人教員30%、外国の大学で学位を取得した教員30%、バイリンガル教員40%といった目標をクリアしている等、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」実現に向けて、積極的な展開を行っている。

今回の学部・学科の設置は、大学改革（グローバル化）を飛躍的に推進させるとともに、本学に期待されている社会からの要請にさらに積極的に応えるため、また、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の実現のためには、必要不可欠なものである。

イ　養成する人材像、教育上の目的

国際学部においては、経済、貧困、資源、環境、紛争などさまざまな課題が新たに発生しているグローバルな社会において、地域の多様性とさまざまなグローバル・システムとの関連性の理解に基づいて、経済、社会などのさまざまなシステムにイノベーションを起こしうる人材、および多様な地域における課題解決と自律的な発展に貢献しうる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

(1) グローバル社会における諸問題や地域の社会、歴史、生活、価値観に根ざした諸問題に対する知識と、それらの諸問題を分析する能力。
(2) 国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション力。
(3) 地域社会における課題解決に向けた実践的能力、イノベーションを構想・推進していくための構想力、およびリーダーシップ能力。

なお、学部内に設置する各学科の要請する人材像と教育研究上の目的は以下の通りである。

国際学部グローバル・イノベーション学科においては、課題が山積するグローバル社会において、創造性と起業家精神に満ち、果敢に行動することを厭わない、国際社会システムにイノベーションを起しうる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

また、本学科では「国際ビジネス」、「国際コラボレーション」の２つの履修モデルを設け、養成する人材に必要な能力を習得させるだけでなく、学生がキャリアを念頭に置いて履修できるように指導する。

(1) グローバル社会における諸課題に対する知識と、経済学を基本とした視点でそれらの課題を分析する能力。
(2) 国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力
(3) 企業や社会における新たな価値の創造を促すイノベーションを構想・推進していくための構想力・リーダーシップ能力。

国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）においては、国際的な視野のもとに現場主義に基づく「地域づくり」を国内外で展開し、アジアを中心に開発支援やビジネスなどを通して地域の発展に貢献していくことができる、高度な知識を元に実践することができる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

また、本学科では「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の 5 つの履修コースを設け、養成する人材に必要な能力を習得させるだけでなく、学生がキャリアを念頭に置いて履修できるように指導する。

(1) 地域の諸問題に対する知識と、人文科学・社会科学・自然科学の多様なアプローチを用いてそれらの諸問題を分析する能力。
(2) 国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力。
(3) 国内外での「地域づくり」の現場における課題への対応のノウハウと、それを具体的に実践していく能力。

国際学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）においては、地域に対する俯瞰的な視点のもとに現場主義に基づく「地域づくり」を国内外で展開し、アジアを中心に開発支援やビジネスなどを通して地域の発展に貢献していくことができる、より実践的な力を持つ人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

また、本学科では国際地域専攻と同様に、「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の５つの履修コースを設け、養成する人材に必要な能力を習得させるだけでなく、学生がキャリアを念頭に置いて履修できるように指導する。

(1) 地域の諸問題に対する知識と、人文科学・社会科学・自然科学の多様なアプローチを用いて俯瞰的な視点からそれらの問題を客観的に分析する能力。
(2) 異文化環境における実践的な語学能力、コミュニケーション能力。
(3) 「地域づくり」の現場における課題に対応するためのノウハウと、それを具体的に実践していく能力。

ウ　中心的な学問分野

国際学部グローバル・イノベーション学科については、経済・経営分野、国際関係・政治分野、文化・コミュニケーション分野が中心となる学問分野となる。

国際学部国際地域学科国際地域専攻・地域総合専攻については、開発研究・地域研究分野が中心となる学問分野となる。

②　学部・学科等の特色

国際学部では、地域の多様性とさまざまなグローバル・システムとの関連性の理解に基づいて、経済、社会などのさまざまなシステムにイノベーションを起こしうる人材、および多様な地域における課題解決と自律的な発展に貢献しうる人材を養成することを目指している。このことから、学部の特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」でいうところの「総合的教養教育」および「社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）を重点的に担っていくこととなる。

グローバル人材育成のニーズから国際系の学部学科は増えているが、本学部はイノベーションをキーワードにグローバルな視点からその創出を担うグローバル・イノベーション学科、そして地域の多様性の理解のもとに地域社会への展開を図る国際地域学科により、新たな国際社会の仕組みやシステムの実現を目指しており、グローバル社会や地域社会の諸問題の理解、異文化の理解と異文化環境でのコミュニケーション能力、といったグローバル人材として基礎的な能力の他に、イノベーションを構想・推進していくための構想力・リーダーシップ能力（グローバル・イノベーション学科）、「地域づくり」を実践していく能力（国際地域学科）と、実践的な能力の養成を重視しているところに特徴がある。そのために、「Liberal Arts系科目」、「Study Skills系科目」、「Academic Subjects科目」の他に、「Project studies系科目群」を設け、それぞれの学科において調査型研修やインターンシップ、サービス・ラーニングなどを通して実践的な能力の養成を図ることとなっている。

なお本学は平成 26 年度より「スーパーグローバル大学創成支援タイプＢ（グローバル化牽引型)」に採択されており、その構想「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」において世界の舞台で先端的な役割を担う人財（ニューエリート）や社会の中核を担うグローバル人財の育成を担当することとなっている。

③　学部・学科等の名称及び学位の名称

本学部は、日本語の学部名を「国際学部」(英語名：Faculty of Global and Regional Studies）とし、グローバルそしてリージョナル(地域)の両方の視点および立場からよりよい国際社会の発展に貢献することを目的とする。

国際社会にイノベーションを起こしうる人材を育成するための学科は、日本語名を「グローバル・イノベーション学科」(英語名：Department of Global Innovation Studies）とし、授与する学位は「学士（グローバル・イノベーション学)」(英語名：Bachelor of Global Innovation Studies）とする。

「国際地域学科」(英語名：Department of Regional Development Studies）については、これまで同様に地域社会において実践的な活動を展開できる人材を育成することを目的とするため、名称は現在のものをそのまま用いることとし、昼間主コースの「国際地域学科国際地域専攻」(英語名称:Department of Regional Development Studies, Regional Development Studies Course)、夜間主コースの「国際地域学科地域総合専攻」(英語名称：Department of Regional Development Studies, Regional Studies Course)の 2 専攻を設置する。授与する学位もこれまでと同様に「学士(国際地域学)」(英語名:Bachelor of Regional Development Studies）とする。

④　教育課程の編成の考え方及び特色

ア　教育課程編成の基本方針

国際学部の教育課程は、「Liberal Arts 系科目」、「Study Skills 系科目」、「Academic Subjects 科目」、「Project Studies 系科目」、「Career Development 系科目」の５種類の科目群によって構成される。「Liberal Arts 系科目」は教養教育を担う科目群、「Study Skills 系科目」は語学力やコミュニケーション能力の強化を担う科目の他、情報の処理や IT 技術の利用など専門的な学習や実践的な活動を行うための基礎的な能力を養うための科目群、「Academic Subjects 科目」は両学科において専門的な知識や能力を養うための科目群、「Project Studies 系科目」は実践的な能力を養うための科目群、「Career Development 系科目」は本学部での学びを将来のキャリアにつなげていくための情報やノウハウを提供する科目群、となっている。

グローバル・イノベーション学科の教育課程では、「国際ビジネス」、「国際コラボレーション」の２つの履修モデルを設けるが、上記の５種類の科目群における開講科目、履修方法は共通であり、履修モデルに相違はない。日本人学生については１年間の長期留学を推奨とし、留学生については日本語科目の履修を必修にするとともにインターンシップを推奨とする。また、少人数のゼミナール形式でスタディスキルを習得する「Study skills Ⅰ, Ⅱ」や「Research Methods」、専門的な学習・研究を行う「Major

Seminar Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ」、「Undergraduate Thesis」などは学士としての基礎的学力を養成する科目として必修科目とする。

国際地域学科国際地域専攻の教育課程では、「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の5つの履修コースを設ける。「Liberal Arts 系科目」、「Study Skills 系科目」、「Project Studies 系科目」、「Career Development 系科目」の4種類の科目群については、開講科目および履修方法は共通とし、履修コースにより相違はない。「Academic Subjects 科目」についてはコースごとに必修科目、選択科目を指定し、それぞれのキャリアを念頭に置いてコース選択を行い、履修させる。日本人学生については「海外英語実習Ⅰ～Ⅲ」を推奨とし、留学生については日本語科目の履修を必修とする。また、少人数のゼミナール形式でスタディスキルを習得する「入門ゼミナール」や「プロジェクトゼミナールⅠ～Ⅲ」、専門的な学習・研究を行う「専門ゼミナールⅠ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ」、「卒業論文」などは学士としての基礎的学力を養成する科目として必修科目とする。

国際地域学科地域総合専攻の教育課程では、国際地域専攻と同様に、「国際開発」、「地域デザイン」、「地域経営」、「環境・防災」の４つについて履修モデルとして設け、学生がキャリアを念頭に置いて履修できるように指導する。また、少人数のゼミナール形式でスタディスキルを習得する「入門ゼミナール」を必修科目とし、ゼミナール形式で学習・研究を行う「プロジェクトゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「専門ゼミナールⅠ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ」、「卒業論文」などを選択科目として設け、学生のニーズに応じて履修できるように配慮する。

イ　教育課程及び科目区分の編成

以下、各学科、専攻ごとに教育課程および科目区分の編成について説明する。

<u>グローバル・イノベーション学科</u>

「Liberal Arts 系科目」は大学生としての常識を養う基礎となる科目群であり、「Philosophy and Toyo Univ.」と「Liberal Arts」の2種に区分される。本学は私立哲学館として明治20年に創設されて以来、創立者井上円了博士による「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」を建学の精神として、一貫して哲学教育を基軸に据えた教育研究活動を行ってきており、哲学に関連する科目をとりわけ重要な基礎科目として別に区分している。これらの授業もすべて英語で行われ、「Philosophy and Toyo Univ.」から2単位以上、「Liberal Arts」から4単位以上の修得を卒業要件として課している。

「Study Skills 系科目」は「Study Skills」、「Communication skills」、「Japanese」、「English language skills」、「Second Foreign Language」の5種に区分される。「Study Skills」は、基本的なスタディスキルの修得を目的とした4科目が配置されており、全て必修科目として1-2年次に履修することとなっている。「Communication skills」は英語による多様なコミュニケーション技術を磨くための科目として14科目24単位を1-2年次に主として配当しており、8単位以上の履修を義務付けている。「Japanese」は留学生を対象とした日本語科目で、1年次の初級から段階をおって履修できるように24科目24単位を配置しており、16単位の履修を義務付けている。「English language skills」は主として日本人学生向けに英語力の強化を図るための科目であり、日本人学生に対しては1年次に8単位、2年次および3年次に1単位を必修としている。「Second Foreign Language」はフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ハングルの5か国語の語学習得と各言語圏の文化に関する科目を配置するとともに、タイやインドネシアの言語や文化に関する科目を配置している。ただし、本学科では英語や日本語(留学生対象)

の履修要件を多く設定し、これらの強化を優先しているため、第二外国語については履修を義務化していない。

「Academic Subjects 科目」は「Basic Subjects（コア科目)」、「Global Systems（グローバル・システム領域)」、「International Business（国際ビジネス領域)」、「International Collaboration（国際コラボレーション領域)」、「Regional Development Studies（国際地域学領域)」の 5 種に区分される。「Basic Subjects（コア科目)」は専門基礎科目として位置づけられる経済学や財務会計の基礎的授業 6 科目と 3 年次以降の Major Seminar や卒業論文が配置されており、16 単位の履修を義務付けている。「Global Systems（グローバル・システム領域)」はグローバル社会における諸問題を理解し分析するための、17 の講義科目と 3 つの演習科目が配置されている。「International Business（国際ビジネス領域)」はビジネス分野においてイノベーションを創造するための知識や手法を学ぶための、20 の講義科目と 2 つの演習科目が配置されている。「International Collaboration（国際コラボレーション領域)」は、文化やメディア、人材開発などヒト、モノ、情報の交流からイノベーションの創造するための知識や手法を学ぶための、19 の講義科目と 2 つの演習科目が配置されている。なお、「Global Systems（グローバル・システム領域)」「International Business（国際ビジネス領域)」「International Collaboration（国際コラボレーション領域)」の 3 領域から 44 単位以上の履修を義務付けている。また、「Regional Development Studies（国際地域学領域)」は国際地域学科国際地域専攻において英語で実施される地域研究や開発政策に関する 18 の講義科目が配置されており、学生の関心に応じて履修できるよう配慮している。

「Project Studies 科目」は、事前・事後学習も含めた研修やインターンシップ、サービス・ラーニングの他に、イノベーション創出のリーダーとして動機づけを行うリーダーシップ育成プログラムやグローバルな課題に対して思考実験を行うプログラムに対応する 18 科目が配置されており、履修の義務付けはしていないものの、学生に積極的に履修することを推奨する。

「Career Development 科目」は、留学やインターンシップを経験したのちの 3 年次に履修することを想定したグローバルキャリア論 3 科目を配置し、学生の関心に応じて履修できるようにしている。

なお、これらの 5 つの科目群に含まれる科目を第 1 学年から第 4 学年まで体系的・有機的に配置する形で本学科の教育課程は編成されている。以下、学年進行に沿って、その概略を述べる。

第 1 学年は、基本的なスタディスキルを身につける「Study skills」「ICT Literacy」(必修)、社会人として教養を身につける Liberal Arts 系科目、外国語科目（必修）やコミュニケーションスキルを磨く科目、専門科目のうち基礎的な科目を履修し、語学力やコミュニケーション力も含めたスタディスキルを高めるとともに、本学科における専門分野の基礎的な事項を学ぶ。

第 2 学年では、日本人学生は秋学期から長期留学を、留学生についてはインターンシップ等の活動を行うことが想定されている。そのため、春学期においては「Research Methods」を必修としてアカデミックなスキルを向上させるとともに、コミュニケーションスキルを磨く科目や専門分野基礎的な科目を中心に履修し、留学やインターンシップなどの活動の準備を行う。長期留学を実施する学生に対しては、留学先で履修した科目についてはその内容を確認したうえで適切な科目を用いて本学の単位として認定する。また、留学生は引き続き日本語科目を履修し、日本語能力の向上をはかる。

第 3 学年では、「国際ビジネス」「国際コラボレーション」として提示している履修モデルに基づいて専門科目を多く履修するとともに、Major seminar で専門的な調査研究を行う。さらには、研修などの Project Studies 系の科目や Career Development 科目の履修も推奨し、イノベーションを創造する人材

としての意識や能力を高める。

第4学年では引き続き専門分野の科目やMajor Seminarを履修して専門性を高めるとともに、卒業論文の作成を通して、グローバル社会の諸問題に対して、調査、分析、考察、表現、といった一連の活動を実施することにより、国際社会においてイノベーションを創造しうる人材の育成の総仕上げとする。

国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）

「Liberal Arts系科目」は大学生としての常識を養う基礎となる科目群であり、「哲学・思想」、「学問の基礎」、「国際人の形成」、「キャリア・市民形成」、「総合・学際」の5種の他に、教養教育を英語で行う「Liberal Arts in English」に区分される。前述したように、本学では哲学に関連する科目をとりわけ重要な基礎科目としていることから、「哲学・思想」から2単位以上、「Liberal Arts系科目」全体で8単位以上の修得を義務付けている。

「Study Skills系科目」は「Basic Academic Skills」、「Advance Academic Skills」、「Language and Communication skills」、「留学支援科目」の4種に区分されており、さらに「Language and Communication Skills」は、「Japanese」、「English」、「Second Foreign Language」、「Language and Communication」の4種に区分される。「Basic Academic Skills」は、基本的なアカデミックスキルの修得を目的とした3科目が必修科目として配置されており、全て1年春学期に履修することとなっている。「Advanced Academic Skills」は、地域の諸問題の調査や分析、表現などを行うための方法を学ぶために、1-2年次における必修の少人数ゼミナール3科目を含めた5科目が配置されており、8単位以上の履修を義務付けている。「Language and Communication Skills」のうち「Japanese」は留学生を対象とした日本語科目で、1年次から段階をおって履修できるように24科目24単位を配置しており、12単位の修得を義務付けている。「English」は英語力の強化を担う科目として海外英語実習3科目の他、8科目を配置しており、12単位以上の修得を義務付けている。「Second Foreign Language」はフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ハングルの5か国語の語学習得を目的とした科目を配置しており、日本人学生は4単位の履修を、留学生には「English」に含まれている科目も含めて4単位の修得を義務付けている。「Language and Communication」は、上記の5か国に加え、タイやインドネシアの言語や文化に関する7科目とともに、英語によるコミュニケーション力の強化を目指す13科目を配置している。「Language and Communication skills」全体で、日本人学生は18単位、留学生は16単位の修得を義務付けるとともに、「Study Skills系科目」全体で日本人学生は34単位、留学生は32単位の修得を義務付けている。

「Academic Subjects科目」は「国際関係・開発政策領域」、「地域研究・比較文化領域」、「コミュニティ・地域政策領域」、「環境・情報・インフラ領域」、「グローバル・イノベーション領域」の5種に区分される。「国際関係・開発政策領域」は国際関係や開発政策に関する知識や分析するための手法を学ぶことを目的とした19科目が配置されている。「地域研究・比較文化領域」は、地域研究や地域の文化、社会学的側面についての知識や手法を学ぶことを目的とした20科目が配置されている。「コミュニティ・地域政策領域」は、コミュニティや地域開発を行ううえでの制度や手法など学ぶことを目的とした26科目が配置されている。「環境・情報・インフラ領域」は地域の基盤となるインフラや環境、防災といった側面、情報の活用などについて学ぶことを目的とした17科目が配置されている。これら4領域の科目は基礎的な科目については1年次から、発展的な科目は2年次以降に履修できるよう配置されている。また、一部の科目は英語を用いて実施し、専門的な内容を英語で学ぶことにより、国際的なキャリア形成の支援をしている。「グローバル・イノベーション領域」は、グローバルな諸問題を理解、分

析するための科目とビジネスや文化やメディア、人材開発などヒト、モノ、情報の交流からイノベーションの創造するための知識や手法を学ぶための 22 科目が 2 年次以降に配置されている。「Academic Subjects 科目」全体で 44 単位以上を修得することを義務付けている。

「Project Studies 科目」は、必修となる「専門ゼミナール」や「卒業論文」の他に、事前・事後学習も含めた研修やインターンシップ、フィールド調査実習、ボランティア実習、地域デザイン演習など 22 科目が配置されており、必修科目以外に 6 単位の修得を義務付けることにより、実際の現場でのさまざまな活動経験から実践力を高めるようになっている。

「Career Development 科目」は、1 年次～3 年次にかけてキャリア形成の動機付けや支援を目的とした 4 科目を配置するとともに、資格取得への動機づけや支援を行うことを目的とした 8 科目を配置しており、4 単位の修得を義務付けている。

なお、これらの 5 つの科目群に含まれる科目を第 1 学年から第 4 学年まで体系的・有機的に配置する形で本学科の教育課程は編成されている。以下、学年進行に沿って、その概略を述べる。

第 1 学年は、大学での学びの動機づけを行い、さらにアカデミックスキルを身につける「国際地域学基礎」「入門ゼミナール」「情報入門」「プロジェクトゼミナールⅠ」(必修)、社会人としての教養を身につける Liberal Arts 系科目、英語や第二外国語、専門科目のうち基礎的な科目を履修し、アカデミックスキルを高めるとともに、本学科における専門分野の基礎的な事項を学ぶ。さらに日本人学生は 1 年次秋学期から 2 年次春学期にかけて、短期語学留学を実施し、海外英語実習の単位を修得する。

第 2 学年では、「プロジェクトゼミナールⅡ、Ⅲ」(必修)で実際の現場で活動するためのノウハウを学ぶとともに、語学力やコミュニケーション力の強化に関する科目を継続的に履修する。また、「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の 5 つの履修プログラムから、それぞれのキャリアビジョンに基づいて一つのプログラムを選択し、そのプログラムで指定されている専門科目等を履修する。さらには、フィールド調査やインターンシップ、研修など現場での実践活動を積極的に行うよう指導する。

第 3 学年では、それぞれの履修プログラムに沿って専門科目を多く履修するとともに、専門ゼミナールにおいて専門的な調査研究を行う。さらには、2 年次に引き続いて、フィールド調査やインターンシップ、研修などの Project Studies 系の科目の履修も推奨し、授業科目で学んだ内容と実際の現場での気づきをリンクさせて、現場での活動の実施につなげられるような能力を醸成する。

第 4 学年では引き続き専門ゼミナールを履修して専門性を高めるとともに、卒業論文の作成を通して、地域社会の諸問題に対して、調査、グローバルな視点からの分析や考察、表現、といった一連の活動を実施することにより、地域社会の自律的な発展に貢献しうる人材の育成の総仕上げとする。

国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）

「Liberal Arts 系科目」は大学生としての常識を養う基礎となる科目群であり、「哲学・思想」、「学問の基礎」、「国際人の形成」、「キャリア・市民形成」、「総合・学際」の 5 種に区分される。国際地域専攻と同様に、本学では哲学に関連する科目をとりわけ重要な基礎科目としていることから、「哲学・思想」から 2 単位以上の修得を義務付けるとともに、「Liberal Arts 系科目」全体で 6 単位以上の修得を義務付けている。

「Study Skills 系科目」は「Basic Academic Skills」、「Advance Academic Skills」、「Language and Communication skills」、「留学支援科目」の 4 種に区分されており、さらに「Language and Communication

Skills」は、「English」、「Second Foreign Language」、「Language and Communication」の 3 種に区分される。「Basic Academic Skills」は、基本的なアカデミックスキルの修得を目的とした 2 科目が必修科目として配置されており、全て 1 年春学期に履修することとなっている。「Advanced Academic Skills」は、地域の諸問題の調査や分析、表現などを行うための方法を学ぶために、1-2 年次における少人数ゼミナール 3 科目を配置している。「Language and Communication Skills」のうち「English」は英語力の強化を担う科目として 2 科目を必修科目として 1 年次に配置している。「Second Foreign Language」はフランス語、ドイツ語、中国語、ハングルの 4 か国語の習得を目的とした 8 科目を配置しており、2 単位の修得を義務付けている。「Language and Communication」は、外国語によるコミュニケーション力の強化を目的として、上記の 4 か国語の演習科目や文化に関する 8 科目に加え、英語の演習科目など 5 科目を配置しており、2 単位の修得を義務付けている。

「Academic Subjects 科目」は、「国際関係・開発政策領域」、「地域研究・比較文化領域」、「コミュニティ・地域政策領域」、「環境・情報・インフラ領域」、「地域観光系科目」、「総合経済系科目」の 6 種に区分される。「国際関係・開発政策領域」は国際関係や開発政策に関する知識や分析するための手法を学ぶことを目的とした 7 科目が配置されている。「地域研究・比較文化領域」は、地域研究や地域の文化、社会学的側面についての知識や手法を学ぶことを目的とした 7 科目が配置されている。「コミュニティ・地域政策領域」は、コミュニティや地域開発を行ううえでの制度や手法など学ぶことを目的とした 18 科目が配置されている。「環境・情報・インフラ領域」は地域の基盤となるインフラや環境、防災といった側面、情報の活用などについて学ぶことを目的とした 14 科目が配置されている。「地域観光系科目」は観光と地域開発、地域振興について学ぶことを目的とした 8 科目が配置されている。「総合経済系科目」は地域を俯瞰的に見ていくうえで必要な経済学の知識を得ることを目的とした 6 科目が配置されている。これら 6 区分のうち、最初の 4 領域における基礎的な 11 科目を選択必修科目として 18 単位以上修得するよう義務付けている。また、「Academic Subjects 科目」全体で 66 単位以上を修得することを義務付けている。

「Project Studies 科目」は、「専門ゼミナール」や「卒業論文」の他に、事前・事後学習も含めた研修やインターンシップ、フィールド調査実習、ボランティア実習など 20 科目が配置されており、これらの科目の履修により実際の現場でのさまざまな活動経験から実践力を高められるようになっている。

「Career Development 科目」は、1 年次～3 年次にかけてキャリア形成の動機付けや支援を目的とした 3 科目を配置するとともに、資格取得への動機づけや支援を行うことを目的とした 8 科目を配置している。

なお、これらの 5 つの科目群に含まれる科目を第 1 学年から第 4 学年まで体系的・有機的に配置する形で本専攻の教育課程は編成されている。以下、学年進行に沿って、その概略を述べる。

第 1 学年は、大学での学びの動機づけを行い、さらにアカデミックスキルを身につける「国際地域学基礎」「入門ゼミナール」（必修）、「プロジェクトゼミナールⅠ」、社会人としての教養を身につける Liberal Arts 系科目、英語や第二外国語、専門科目のうち基礎的な科目を履修してアカデミックスキルを高めるとともに、本学科における専門分野の基礎的な事項を学ぶ。

第 2 学年では、「プロジェクトゼミナールⅡ、Ⅲ」で実際の現場で活動するためのノウハウを学ぶとともに、語学力やコミュニケーション力の強化に関する科目を継続的に履修する。また、「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の 5 つの履修モデルを提示し、それぞれのキャリアビジョンに基づいて専門科目等を履修する。さらには、フィールド調査やインターンシ

ップ、研修など現場での実践活動を積極的に行うよう指導する。

第 3 学年では、それぞれの履修モデルに沿って専門科目を多く履修する。さらには、2 年次に引き続いて、フィールド調査やインターンシップ、研修などの Project Studies 系の科目の履修も推奨し、授業科目で学んだ内容と実際の現場での気づきをリンクさせて、現場での活動の実施につなげられるような能力を醸成する。

第 4 学年では専門ゼミナールを履修して専門性を高めるとともに、卒業論文の作成を通して、地域社会の諸問題に対して、調査、俯瞰的な視点からの分析や考察、表現、といった一連の活動を実施することにより、地域社会の自律的な発展に貢献しうる人材の育成の総仕上げとする。

ウ　教育課程の特色

以下、各学科・専攻ごとに教育課程の特色を列挙する。

グローバル・イノベーション学科

1. グローバル社会の諸問題を理解するための「Global Systems（グローバル・システム領域)」、イノベーションの創造につなげる「International Business（国際ビジネス領域)」、「International Collaboration（国際コラボレーション領域)」といった幅広い領域から、グローバルな視点から国際社会におけるイノベーションを検討していくうえ必要となる幅広い知識を提供する。
2. 日本人学生は「英語」、留学生には「日本語」の履修要件を多くしており、語学力の強化をはかる。
3. さまざまな形でのコミュニケーションの手法を学ぶ多彩な授業を展開する。
4. 日本人学生は 1 年間の長期留学、留学生はインターンシップを推奨し、異文化下におけるコミュニケーション力と実践力を強化する。
5. イノベーション創出のリーダーとして動機づけを行うリーダーシップ育成プログラムやグローバルな課題に対して思考実験を行うプログラムなどユニークな実践活動を通して、イノベーションへの動機づけや起業意欲を醸成する。

国際地域学科国際地域専攻

1. 地域社会の諸問題を理解し、グローバルな視野をもちつつ分析、考察するための「国際関係・開発政策領域」、「地域研究・比較文化領域」、「コミュニティ・地域政策領域」、「環境・情報・インフラ領域」といった幅広い領域から、グローバルな視点から地域社会の自律的な発展に貢献していくうえで必要となる幅広い知識を提供する。
2. 日本人学生は「英語」、留学生には「日本語」の履修要件を多くしており、語学力の強化をはかる。
3. 第二外国語として 5 か国語の中から一つを修得するとともに、それらの言語圏における文化に関する授業を展開し、多様な地域文化への理解をはかる。
4. 日本人学生は海外での英語研修を、さらに全ての学生に対して研修やインターンシップ、フィールド調査やボランティアへの参加を推奨とし、実際の現場において学んだ知識をどのように展開していくか、実践力を強化する。
5. 「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の 5 つの履修プログラム制により、キャリアビジョンに基づいた専門的な知識を体系的に修得する。

国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）

1. 地域社会の諸問題を理解し、俯瞰的な視点から分析、考察するための「国際関係・開発政策領域」、「地域研究・比較文化領域」、「コミュニティ・地域政策領域」、「環境・情報・インフラ領域」、「地域観光系」、「総合経済系」といった幅広い領域から、地域社会の自律的な発展に貢献していくうえで必要となる幅広い知識を提供する。
2.「英語」の他、第二外国語として 4 か国語の中から一つを修得するとともに、それらの言語圏における文化に関する授業を展開し、多様な地域文化への理解をはかる。
3. 研修やインターンシップ、フィールド調査やボランティアなどのプログラムへの参加を推奨し、実際の現場において学んだ知識をどのように展開していくか、実践力を強化する。
4. 「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の 5 つの履修モデルをもとに、キャリアビジョンに基づいた専門的な知識を体系的に修得する。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織の編成においては、各学科の「教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置く」ことを原則にしている（大学設置基準第 7 条第 1 項）。

以下に、学科ごとに教員組織の編成の考え方と特色を述べる。

グローバル・イノベーション学科

グローバル・イノベーション学科の教員組織は、従来の国際地域学科から異動する 2 名と、経済学部総合政策学科から異動する 1 名、文学部英語コミュニケーション学科から異動する 2 名、大学院経済学研究科から異動する 1 名、新規に採用する教員 8 名の計 14 名の専任教員によって構成される。この専任教員数は、大学設置基準第 13 条の別表 1 に定める専任教員数 10 名を充足するとともに、同別表第 2 の専任教員数についても、大学全体で充足している。

さらに、「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第 7 条第第 2 項）学科主任を置くとともに、国際学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備する。

グローバル・イノベーション学科では、「グローバル・システム」「国際ビジネス」「国際コラボレーション」の 3 分野を研究の中心としており、④教育課程の編成の考え方及び特色で記載したようにこれに応じた領域を Academic Subjects 科目に設定している。また、語学力・コミュニケーション力の強化に重点を置いているため、その分野の専任教員も必要としている。そのため、専任教員の構成は、

・グローバル・システム（5 名）：教授 4 名、准教授 1 名
・国際ビジネス（3 名）：教授 2 名、准教授 1 名
・国際コラボレーション（4 名）：教授 3 名、講師 1 名
・語学・コミュニケーション（2 名）：准教授 1 名、講師 1 名

とバランスよく配置されており、教育上主要な授業科目については、すべて教授または准教授が担当することができる。また、年齢構成を見ると、

60 代：6 名（42.8%）　50 代：5 名（35.7%）　40 代：2 名（14.3%）　30 代：1 名（7.2%）と平均年齢が若干高くなっているが、これについては今後、定年退職を迎える専任教員の後任人事において調整を図っていくこととする。

また、本学の教員の定年は「学校法人東洋大学教職員定年規程」において 65 歳と定められているが、年俸制雇用契約制度においては 70 歳まで引き続き専任教員として雇用することができる。これは教育評価が高く、心身ともに健康で、かつ本学が必要とする場合に限定しており、いずれも、国内外において非常に評価の高い研究者等であり、学生の教育研究指導のみならず、後進の育成にも不可欠な人材である。退職後には速やかに後任となる教員の補充を行い、教員組織は常にバランスが保たれることとなる（資料 1　学校法人東洋大学教職員定年規則、資料 2　年俸契約雇用制度に関する要綱）。

国際地域学科国際地域専攻・地域総合専攻

国際地域学科の教員組織は、従来の国際地域学科から異動する 23 名と、新規に採用する教員 3 名の計 26 名の専任教員によって構成される。この専任教員数は、大学設置基準第 13 条の別表 1 に定める専任教員数（昼間主コース：10 名、夜間主コース：4 名）を充足するとともに、同別表第 2 の専任教員数についても、大学全体で充足している。

さらに、「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第 7 条第第 2 項）学科主任とともに夜間主コースである地域総合専攻には専攻長を置くとともに、国際学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備する。

国際地域学科では、「公共政策」、「比較文化・社会」、「国際開発」、「地域デザイン」、「環境・防災」の 5 分野を研究の中心としており、④教育課程の編成の考え方及び特色で記載したように 5 分野について履修プログラムを展開している。また、語学力・コミュニケーション力の強化に重点を置いているため、その分野の専任教員も必要としている。そのため、専任教員の構成は、

・公共政策（4 名）：教授 3 名、准教授 1 名
・比較文化・社会（4 名）：教授 2 名、准教授 1 名、講師 1 名
・国際開発（5 名）：教授 3 名、准教授 2 名
・地域デザイン（4 名）：教授 2 名、准教授 2 名
・環境・防災（4 名）：教授 4 名
・語学・コミュニケーション（5 名）：准教授 2 名、講師 3 名

とバランスよく配置されており、教育上主要な授業科目については、すべて教授または准教授が担当することができる。また、年齢構成を見ると、

60 代：6 名（23.1%）　50 代：8 名（30.8%）　40 代：10 名（38.5%）　30 代：2 名（7.7%）とバランスのとれた年齢構成となっている。

なお、この 26 名全員が国際地域専攻（昼間主コース）と地域総合専攻（夜間主コース）の教育を担当することになる。

⑥　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア　教育方法

国際学部では、教育効果を考えて様々な形態の科目を設置している。そのため、科目の形態によって教育方法は様々である。以下に④で説明した「Liberal Arts 系科目」、「Study Skills 系科目」、「Academic Subjects 科目」、「Project Studies 系科目」、「Career Development 系科目」の科目群ごとにその概要を記載する。

「Liberal Arts 系科目」: 基本的に講義形式で専門知識の教授が行われる。100 人～200 人程度を受講生の適正規模とする。ただし、英語で実施する授業については、よりインタラクティブなアプローチが求められることから 50～100 人程度を適正規模とする。

「Study Skills 系科目」: 国際地域学基礎（国際地域学科国際地域専攻・地域総合専攻）については講義形式で行うが、それ以外の科目については、実際に学習するスキルを利用しながら学んでいく演習形式の授業を想定するため、語学・コミュニケーション系の科目では 30 人程度を上限として、情報処理等の科目では 50 人程度を上限として、適正規模の授業を展開する。

「Academic Subjects 科目」: 講義形式での専門知識の教授が基本となるが、教授内容によってはインタラクティブに演習形式で行われるものもある。50 人～100 人程度を受講生の適正規模とするが、演習形式で行われるものについては 50 人程度を上限とする。

「Project Studies 系科目」: 学生が実際の課題に対して、事前学習、現地での調査や実習、事後学習、を通して専門的な学びを実践に結びつける能力を養う。課題によるが 10 名～30 名程度が適正規模とする。

「Career Development 系科目」: キャリア形成に資する情報提供を主とした講義形式のものと、実際に自身のキャリアビジョンをもとに思考訓練を行う演習形式のものがある。講義形式のものは 100 人程度、演習形式のものは 30～50 人程度を適正規模とする。

イ　履修指導方法

国際学部ではグローバル・イノベーション学科、国際地域学科ともその専門領域が広く、多様な開講科目を擁している。また、海外留学やインターンシップなどの実践的な活動を推奨するため、学生への履修指導の徹底が必要であり、可能な限り多くの機会を設けて履修指導を行う。

まず、全学的に従来から行ってきた新入生教育時における履修ガイダンス、キャリアガイダンスをそれぞれの学科で実施する。大学における学習が高校までといかに違うかを十分に理解させたうえで、大学での学習と将来設計とを結びつけて間違いのないように履修するよう指導を行う。その際には、別紙資料に示すような各学科における履修モデルや履修プログラムを提示するなどの工夫をすることで、自分が卒業するまでにどのような科目を履修し、いかなる能力を身につけていくかを、学生が具体的に頭に思い浮かべられるよう配慮する（資料 3　履修モデル）。

また、留学に関するガイダンスも新入生教育時に両学科において実施する。さらに、1 年次春学期の必修ゼミナール（グローバル・イノベーション学科は「Study skill Ⅰ」、国際地域学科両専攻は「入門ゼミナール」）の担当教員が留学アドバイザーとなり、特にグローバル・イノベーション学科では長期留学に関する指導を、国際地域学科国際地域専攻では海外英語実習に関する指導を行う。

さらに、1 年次の秋学期には、履修モデルや履修プログラムの説明会を開催する。特に、プログラム

の修了が卒業要件となる国際地域学科国際地域専攻では、その際に履修プログラムを選択させる。
また、これら行事としての履修指導とは別に、各教員にオフィス・アワーを設けるとともに、各年次に配置しているゼミナールにおいて、学生の履修相談に対応できるように体制を整える。
なお、履修単位数については、1 単位あたりの学修時間の確保と、学生が 4 年間に渡ってバランスよく学修していくことを目的として、両学科・専攻とも各学期の履修の上限を「24 単位」と定めている。

ウ　卒業要件

以下に各学科・専攻ごとに卒業要件を記載する。

グローバル・イノベーション学科の卒業要件としては、大学設置基準に従い、以下の単位数の修得を義務づける。

Liberal Arts 系科目	6 単位以上
Study Skills 系科目	26 単位以上（留学生は 32 単位以上）
Academic Subjects 科目	60 単位以上
総計	124 単位以上

国際地域学科国際地域専攻の卒業要件としては、大学設置基準に従い、以下の単位数の修得を義務づける。

Liberal Arts 系科目	8 単位以上
Study Skills 系科目	30 単位以上
Academic Subjects 科目	44 単位以上
Project Studies 系科目	18 単位以上
総計	124 単位以上

国際地域学科地域総合専攻の卒業要件としては、大学設置基準に従い、以下の単位数の修得を義務づける。

Liberal Arts 系科目	6 単位以上
Study Skills 系科目	12 単位以上
Academic Subjects 科目	50 単位以上（選択必修科目 18 単位以上、選択科目 32 単位以上）
総計	124 単位以上

⑦　施設、設備の整備計画

ア　校地、運動場の整備計画

国際学部が設置される白山キャンパスは、東京都文京区白山にある校地面積 40,388.74 ㎡の都市型キャンパスである。面積は決して広いとはいえないが、キャンパスのメインエントランスであり、中央に泉が流れ沿道が樹木に彩られた「甫水の森」や、解放感のある憩いの空間である「キャンパスプラザ」、4 号館のアリーナや多目的スペース、食堂については、3 号館（地下）・8 号館（地下・1 階）、6 号館の

1,300 席のフードコート食堂など、学生の休息その他の利用のための空間も用意されている。なお、平成 24 年 11 月に新たに加わった 8 号館は、地下 1 階・地上 8 階建てで、大きな開口部から外光が差し込むエントランス空間は、透明感のあるアトリウムとなっており、外に開かれた大学を象徴している。

平成 23 年 4 月からは、白山キャンパスから約 20 分で移動が可能な板橋区清水町に「東洋大学総合スポーツセンター」が完成した。東洋大学総合スポーツセンターは、校地面積 16,964.70 ㎡あり、その中に人工芝のグラウンド（2 面）、アリーナや 50mプール、トレーニング室を用意しており、体育実技及び部活動等に利用している。

イ　校舎等施設の整備計画

今回、白山キャンパスでは、①文学部英語コミュニケーション学科の募集停止及び日本文学文化学科の定員の削減を行い、文学部国際文化コミュニケーション学科を設置、②国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）及び国際観光学科を募集停止し、国際学部グローバル・イノベーション学科及び国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）、国際観光学部国際観光学科を設置する。これに伴い、新たに入学定員 169 名、収容定員 676 名の増加となる。このうち、昼間部が入学定員 229 名、収容定員 916 名の増加、夜間部は入学定員 60 名、収容定員 240 名が減少となる。夜間部は収容定員が減少することとなり、教室稼働率等は現状より向上するため、ここでは昼間部について記載をしていく。

今回の学部学科の改組に伴い、白山キャンパスには新たに 10 号館（仮称）を建設することになっており、白山キャンパスの校舎面積が合計で 95,520.95 ㎡となる。また、10 号館に小教室（100 名以下）を 20 教室増加させることとしている。

現在の白山キャンパスの教室稼動状況は、小教室（99 名以下）62.6%、中教室（100～269 名）62.8%、大教室（270 名以上）66.6%、PC 教室 60.6%であり、キャンパス全体で 62.9%となっている。今回の収容定員増加に伴い、完成年度には開講科目数が 248 科目程度増加する見込みであり、新たに小教室 191 室、中教室 52 室、大教室 1 室、PC 教室 4 室の利用が見込まれる。現在の教室稼働率に、新たに増加が見込まれる利用数を加味して教室稼働率を算出すると、小教室 69.8%、中教室 68.1%、大教室 66.2%、PC 教室 61.8%、キャンパス全体で 68.4%となる。今回の収容定員の増加により、語学系科目及び演習系科目の小教室利用が増えることが見込まれるものの、10 号館に新たに 20 教室増やすことで、教室の規模を問わず教室稼働率を 70%程度に抑えられる見込みであり、十分な教室数を確保しているといえる。（資料 4　白山キャンパス教室稼動率について）

なお、研究室については、既存の研究室にプラスして 10 号館に 25 部屋増設することで、専任教員数の増加に対応することとなっており、個別の部屋を設けることでオフィス・アワーを設定し、学生が自由に学修等の相談に訪れられる環境を確保している。

次に、総合スポーツセンターについだが、ここではスポーツ健康に関する実技、実習、講義を行っており、白山キャンパス（昼間部）の学生が履修していたが、平成 29 年度からは、赤羽台キャンパス（平成 29 年度情報連携学部設置予定）の学生も受講することとなる。現在、スポーツ健康科目の平均的な聴講者数は、講義科目 20.4 名、演習科目 9.5 名、実技科目 31.9 名となっている。今回の収容定員変更により、履修する対象となる学生が現状の 15,816 名から 18,212 名へと 1.15 倍に増えることとなるが、この増加数を加算しても、講義科目 23.5 名、演習科目 10.9 名、実技科目 36.7 名であり、現状の開講コース数であっても、収容定員の変更前の内容と比較して同等の質を担保することが可能である。

ウ　図書等の資料及び図書館の整備計画

東洋大学に既存する白山キャンパス、朝霞キャンパス、板倉キャンパス及び川越キャンパスにそれぞれ図書館が整備されており、各キャンパス間を毎日巡回しているシャトル便によって、早い場合は希望した翌日に図書を取り寄せることができ、各キャンパスの図書館蔵書図書を有効に利用することが可能である。全キャンパスの図書館の蔵書数は、合計で 150 万冊（平成 27 年 3 月 31 日現在）を超えており、教育・研究上、非常に有効な資源である。なお、今回の国際学部の完成年度には 170 万冊を超える蔵書数になる予定である。

これらの図書および雑誌等の資料は、本学の蔵書検索システム(OPAC)で学内はもとより学外からも検索することが可能であるとともに、他キャンパス図書館資料の取り寄せ申し込みおよび予約も可能である。さらに国立情報学研究所(NII)が提供している NACSIS Webcat により総合目録データベースの情報検索が可能であり、相互貸借システムである NACSIS ILL により他大学図書館および他機関の文献複写や図書資料の取寄せも充実している。さらに利用者に最新の情報を速やかに提供するために、毎年、データベース・電子ジャーナルの充実・整備を図っており、ホームページを通して図書館内はもちろん、各教員の研究室などネットの環境が整備されている場所から利用できる。大学図書館コンソーシアム連合（Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources ： JUSTICE）に加入し、電子ジャーナルをはじめとした学術情報を、安定的・継続的に確保することに努めている。

以上のことから、白山キャンパスおよび総合スポーツセンターの施設・設備の現状と、今回の新学部学科の改組を行うにあたっての整備計画は、大学設置基準第 34～38 条を充分に満たすものである。

⑧　入学者選抜の概要

本学に入学することのできる者は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする（学校教育法第 56 条)。また、入学者の選抜では、公正かつ妥当な方法により、適当な体制を整えて行うものとする（大学設置基準第 2 条の 2)。

国際学部では、グローバル社会および地域社会における諸問題に対してグローバルな視点、俯瞰的な視点から分析・考察し、社会システムにイノベーションを創造しうるような人材、地域社会の自律的発展に貢献できるような人材の育成を目指している。したがって、本学科に入学する学生として次のような人材を求めている。

1. 本学部グローバル・イノベーション学科あるいは国際地域学科国際地域専攻・地域総合専攻の教育課程を履修かつ修得することができるだけの基礎的学力を有する人。
2. グローバル社会や地域社会における諸問題に強い関心を持ち、その解決に向けて行動することに意欲を持つ人。
3. 異なる文化に対して理解を示し、異なる背景を持つさまざまな主体と協調しながら、問題解決に向けた行動を行う意欲を持つ人。

このような人材を集めるために、本学部では、

1. 本学独自の入学試験
2. 大学センター試験を利用した入学試験
3. 自己推薦
4. 学校推薦
5. 指定校推薦
6. 附属高校推薦
7. 運動部学生推薦
8. 外国人留学生試験

などによる多様な選抜を行い、受験生の適性や意欲を見極め、本学部にふさわしい人材の確保を目指す予定である。

なお、外国人留学生試験を実施することとし、グローバル・イノベーション学科では3割程度、国際地域学科国際地域専攻では1割強程度の留学生を受け入れる。外国人学生については、推薦入試でほぼ半数を、学力試験と口述試験により選抜により約半数を選抜するのが適正と考えている。

国内の学生については、学力試験による選抜と推薦入試による選抜の割合を、グローバル・イノベーション学科については概ね前者を5割、後者を5割、国際地域学科では概ね前者を7割、後者を3割とするのが適正と考えている。

また、海外帰国生入学試験、編入・転入学試験も行うが、いずれもその受入数は若干名とし、高校卒業者の入学試験に影響が及ばない範囲で実施する予定である。

正規の学生以外に、科目等履修生、聴講生等も受け入れるが、この場合も正規の学生の教育に影響を与えないよう、受入数は若干名とし、面接を行うなどしてその目的、意欲をよく確かめた上で受講を認める予定である。

⑨　企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

ア　実習先の確保の状況

グローバル・イノベーション学科では、日本人学生（100名のうち7割）に1年間の長期留学を推奨とするが、これらの派遣先の確保について、以下のとおり準備が進んでいる。

学部間協定に基づく派遣先として、Centennial College(カナダ・トロント、12名)、Douglas college（カナダ･バンクーバー､5名)､University of Washington(アメリカ合衆国･シアトル､2名)､University of Hanoi at Manoa（アメリカ合衆国・ホノルル、5名)、Haga-Helia University（フィンランド・ヘルシンキ、2名)、Linnaeus University（スウェーデン・カルマ―、2名)、Strasburg University（フランス・ストラスブール、6名)、Firenze University（イタリア・フィレンツェ、10名)、University of Deusto（スペイン・ビルバオ、6名)、Mondragon University（スペイン・ビルバオ、5名)、の計10校（55名分）との交渉が終了しており、協定締結の準備を進めている。

この他に、国際学部も対象となる留学先として大学間協定が 46 校、コンソーシアムが 2 つある「学生交換協定締結機関一覧（資料 5)」。派遣できる人数としては、協定書に記載されている人数が 83 名分となっている他、7 つの大学間協定については、人数の上限は設けていないため、現在の派遣人数より多く派遣することが可能である。これに対し、グローバル・イノベーション学科では大学間協定等では 15 名の派遣を行うことを計画している。あくまで全学の学生が対象となっているものの、十分な留学先が確保できているといえる。なお、今後も学生のニーズに応えるだけではなく、「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の構想調書にも記載している大学間協定に基づく交流数を拡大していくべく、グローバル・イノベーション学科および全学でより多くの留学先を確保していくこととしている。

イ　実習先との連携体制

いずれの派遣先とも大学間あるいは学部間で協定を結び、学生の派遣および受け入れを随時協議すること、受け入れプログラムや学生指導も含めて、双方で連携しながら進めることとしている。また、留学中について、多くの学生を派遣するため、海外生活に不慣れな学生が発生することも考えられる。本学科では、派遣先大学に全て任せるのではなく、指導教員（ゼミナール担当教員等）を設定して、留学先での勉学の状況、生活等も含めた相談が行える体制の整備を計画している。

ウ　成績評価体制及び単位認定方法

派遣先大学での修得科目について、シラバスに基づき単位認定科目を設定し、Transfer という形で単位認定を行う。この認定に際しては、学生の学習取り組み状況を確認すべく、授業テキストやノート、また、先方の大学で受けた試験等を勘案し、かつ 1 単位あたりの学習時間が確保されているかの確認も含めて判断を行うものとする。なお、個別の担当教員の判断だけではなく、学部内委員会等で組織的に判断な体制を整えていく。

⑩　管理運営

「東洋大学学則」第 12 条の規程により、学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を設置している。教授会は、当該学部の専任の教授、准教授、講師を構成員とし、原則月 1 回の定例教授会の他、必要に応じ臨時教授会を開催する。

学部長は、教授会を招集しその議長となる。教授会を開催するには構成員の 3 分の 2 以上の出席が必要であり、また決議は、教員人事を除き出席構成員の過半数の同意によって成立する。なお、教授会の議題は、以下のとおりである。

(1) 学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項

・学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
・学位の授与に関する事項
・学則の改正に関する事項
・学部長会議規程の制定改廃に関する事項
・教授会規程の制定改廃に関する事項

・学長が意見を求めるとした、諸規程の制定改廃に関する事項
・附属高校との連携に関する事項
・全学にかかわる教育研究に関する事項
・全学にかかわる教員人事に関する事項
・学生の異動および処分に関する事項
・その他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が求める事項

(2) 当該学部の運営に関する事項
・学部長の推薦に関する事項
・中期目標・中期計画の推進に関する事項
・教育研究上の目的に関する事項
・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの各方針に関する事項
・カリキュラム編成に関する事項
・教員人事に関する事項（資格審査基準内規、昇格及び採用に係わる教育研究業績の審査、退職、処分、役職者の選出、名誉教授の推薦）
・学生生活に関する事項
・ハラスメント防止に関する事項
・研究力向上に関する事項
・研究規範遵守に関する事項
・教育力向上に関する事項
・哲学教育の推進に関する事項
・キャリア教育の推進に関する事項
・国際化の推進に関する事項
・ＦＤ推進に関する事項
・自己点検・評価に関する事項
・産官学連携の推進に関する事項
・社会貢献推進に関する事項
・その他、学部長が必要と認める事項

⑪　自己点検・評価

本学では、学校教育法第 109 条に対応して、東洋大学学則第 3 条に「本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と定めている。

平成 7 年度に「東洋大学自己点検・評価基本構想委員会」のもと、全学的な自己点検・評価活動を実施し、その結果をもって大学基準協会の第 1 回の相互評価を受審して、認定評価を受けることができた。その後、同委員会を「東洋大学自己点検・評価委員会」に改編するとともに、各学部・研究科にも自己点検・評価委員会を設置することで、全学的な自己点検・評価のみではなく、各学部・研究科のレベル

においても自己点検・評価活動が定着している。

平成 19 年度には、大学基準協会による第 1 期の認証評価を受審した。受審に際しては、「大学評価統括本部」を設置して全学的な自己点検・評価を推し進め、平成 20 年 3 月には「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。なお、この際に指摘された助言 12 項目と、受審の際に完成年度を迎えていなかった学部・研究科の状況については、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて改善状況・完成状況の自己点検・評価を行い、「改善報告書」「完成報告書」として平成 23 年 7 月に大学基準協会に提出した。これらの自己点検・評価の結果等については、学外に向けて公表されている。

さらに平成 23 年度からは、従来の「東洋大学自己点検・評価委員会」を発展的に解消し、新たに「東洋大学自己点検・評価活動推進委員会」を設置した。同委員会は、副学長を委員長として、各学部・各研究科の自己点検・評価に係る委員会の委員長、教務部長、学生部長により構成され、本学全体及び各部署の自己点検・評価活動を支援するための方策、指針の決定や、本学各部署の自己点検・評価活動の検証を行うこととしている。

この体制のもとで、平成 23 年度からは、「学科・専攻等における自己点検・評価の実施ガイドライン」を定め、全学科全専攻において、毎年度、統一フォーマットによる自己点検・評価を行っていくこととした。評価項目については、大学基準協会の新評価システムに対応したものとし、各学科・各専攻が実施した自己点検・評価結果については、同委員会において結果の集約・検証を行った上で、学長に報告を行っている。また、各学科・各専攻の自己点検・評価結果において、目標への達成度が低かった項目については、自己点検・評価の実施後に、改善方策と改善時期の提出を各学科・専攻に求め、そのことを通じて内部質保証システムの構築を図っている。

平成 26 年度には、大学基準協会による第 2 期の認証評価を受審し、平成 27 年 3 月、第 1 回目に引き続き「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。第 1 期受審の際に指摘された助言は 12 項目であったが、第 2 期受審の際には努力課題として 4 項目の指摘となっている。指摘事項が減少したことは、上述したとおり平成 23 年度に統一フォーマットによる自己点検・評価を行うなど、第 1 期の受審後、果敢に内部質保証システムの構築を進めてきたことが評価されたものである。

上記のことから、本学では、学校教育法第 109 条に則して、本学の教育研究水準の向上に資するために、自己点検・評価に取り組んでいるといえる。

⑫　情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に対応して、東洋大学学則第 2 条の 2 に「本学は、学校教育法施行規則第 172 条の２に定める教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。」、また、同第 2 項に「前項に規定するもののほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。」と定め、教育研究活動等の状況についての情報の公表に取り組んでいる。

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「トップ＞大学紹介＞情報公開＞教育情報公開」のページを中心に、すべて公表している。公表している情報は以下のとおりである。

（http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html）

ア　大学の教育研究上の目的に関すること

・各学部学科、各研究科専攻の教育目的・教育目標　　http://www.toyo.ac.jp/site/data/69150.html

イ　教育研究上の基本組織に関すること

・組織図　　http://www.toyo.ac.jp/site/oc/oc00-organization.html

ウ　教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教員数（職名・性別別）　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81998.html
・教員数（年齢別）　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81814.html
・教員一人当たりの学生数　　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81742.html
・専任教員と非常勤教員の比率　　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81576.html
・役職一覧（教員）　http://www.toyo.ac.jp/site/data/20150827.html
・東洋大学研究者情報データベース　　http://ris.toyo.ac.jp/search/index.html

エ　入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・各学部学科、各研究科専攻の入学者に関する受入方針
　http://www.toyo.ac.jp/site/data/69151.html
・入学者数（学部・学科別（1部／2部）・通信教育部・大学院・編入・附属高校等）
　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81627.html
・入学者数の推移（過去5年～学部・学科別（1部／2部）
　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81747.html
・入学者数の推移（過去3年～大学院学生）　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81812.html
・定員数（学部・学科別（1部／2部）・大学院・通信教育部・附属高校等）
　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81422.html
・収容定員充足率　学部・学科別（1部／2部）　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81433.html
・学生数（学部第1部・第2部）　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81438.html
　（大学院・通信・附属高校等）http://www.toyo.ac.jp/site/data/82024.html
　（キャンパス別）http://www.toyo.ac.jp/site/data/82032.html
・卒業者数・修了者数　　http://www.toyo.ac.jp/site/data/82004.html
・就職状況　　http://www.toyo.ac.jp/site/career/data.html
・主な就職先　　http://www.toyo.ac.jp/site/career/82376.html
・進学者数　　http://www.toyo.ac.jp/site/data/81877.html

オ　授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・年間授業計画、シラバス、授業概要　　https://g-sys.toyo.ac.jp/syllabus/

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・履修モデル・主要科目の特長・授業評価基準・卒業（修了）認定基準等（履修要覧抜粋）
http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
・各キャンパスの校地・校舎等　学生の教育研究環境
http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html

ク　授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
・授業料・入学料その他大学等が徴収する費用
http://www.toyo.ac.jp/site/jyugyou/campuslife-g02-index.html

ケ　大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
・学生生活支援　http://www.toyo.ac.jp/life/4/4/
・キャリア形成支援　http://www.toyo.ac.jp/life/5/5/
・留学生支援　http://www.toyo.ac.jp/site/award/award-ssa-index.html
・障がい学生支援　http://www.toyo.ac.jp/site/handicap/campuslife-g03-index.html

コ　その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）
・学則　http://www.toyo.ac.jp/site/rules/
・設置届出書および履行状況報告書　http://www.toyo.ac.jp/site/data/fulfillment.html
・自己点検・評価　http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html
・認証評価　http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72906.html
・外部評価　http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/out.html
・格付け　http://www.toyo.ac.jp/site/data/rate.html

また本学では、教育活動の情報提供について、ステークホルダーにより提供する方法や、媒体に工夫を加えている。特に、父母等に対しては、ホームページ上の公表だけではなく、年3回程度発行される「東洋大学報」を毎号発送することや、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科長等が教育活動を中心に大学の活動を報告するなど、積極的に情報の提供を行っている。

⑬　教育内容などの改善を図るための組織的な研修等

本学では、大学設置基準第25条の3に対応して、東洋大学学則第3条の3に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と定め、教育活動の継続的な改善の推進と支援を目的とした「東洋大学ＦＤ推進センター」「ＦＤ推進委員会」を設置している。「東洋大学ＦＤ推進センター」では、以下の8点を中心に事業を行っている。

⑴教育内容・方法改善のための調査、研究及び支援
⑵ＦＤの研究会、研修会及び講演会等の企画・実施・支援
⑶ＦＤの啓発活動及び情報収集・提供
⑷各学部、研究科でのＦＤ活動の情報交換及び調整・支援
⑸ＦＤ推進センターのＰＤＣＡサイクルの確立
⑹スーパーグローバル大学創成支援（ＳＧＵ）の取り組みへの対応
⑺ＩＲ室と連携したＦＤ活動の展開
⑻学生ＦＤチームの活動支援体制の構築と活動のサポート

また、ＦＤ推進委員会では委員会全体での活動の他に、5 つの部会（研修部会、大学院部会、教育改善対策部会、編集部会、授業評価手法検討部会）を設け、部会単位でも活動を行っている。各部会の活動概要は以下のとおりである。

⑴研修部会
・新任教員の研修会の立案、実施
・一般教員の研修会の立案、実施
・ＴＡ研修会の立案、実施
・ＦＤ関連研修会、講演会の立案、実施

⑵大学院部会
・大学院のＦＤの概念構築
・ＦＤの実施内容の検討及び実施計画の立案
・大学院各研究科のＦＤ活動状況報告会の立案、実施

⑶教育改善対策部会
・授業改善のための情報や機会の提供
・各学部のＦＤ活動状況報告会の立案、実施
・授業改善事例シンポジウムの立案、実施

⑷編集部会
・事業計画書及び事業報告書の編集
・出版物の企画・編集
・ＦＤ関連研修会等の報告書のデータベース化

⑸授業評価手法検討部会
・全学的な授業アンケートの構築と運用
・授業アンケートのフィードバックシステムの構築

これらの「東洋大学ＦＤ推進センター」、「ＦＤ推進委員会」及び各部会での活動に加えて、学生ＦＤチームによるＦＤ活動や、各学部・研究科でのＦＤ活動がある。学生ＦＤチームによるＦＤ活動は、学生の大学生活の中心である授業を、教員、職員、学生の三位一体で改善、向上させようとする取り組みであり、教職員合同会議の実施や学生を対象としたセミナー・ワークショップの開催、関東圏で学生ＦＤ活動に取り組む大学と連携して、情報・意見交換やノウハウの共有、研修などを行っている。各学部・研究科でのＦＤ活動では、学部・研究科内にＦＤ委員会を設けたり、また自己点検・評価委員会と連携したりしながらＦＤ活動を進めており、毎年発行する「東洋大学ＦＤ推進センター活動報告書」に各学

部、各研究科に掲載し、状況の共有化を行っている。

上記のことから、本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に則して、「当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」を実施しているといえる。

⑭　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

社会的・職業的自立に関する指導等については、「Career Development 系科目」として教育課程内での実施を学部として図っている。グローバル・イノベーション学科では、「グローバルキャリア論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を専門的な学習を深めていく時点にあわせて配置しており、国際地域学科国際地域専攻および地域総合専攻では「キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を 1～3 年次にかけて配置している。これらの授業では、グローバル化する社会が求める人材について考え、求められる素養、働く上で必要とされる能力等を指導することで、大学設置基準第 42 条の 2「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」の修得機会を担保している。また、大学全体で社会人基礎力を高めるための科目群を 1 年次から開講しており、国際地域学科国際地域専攻および地域総合専攻では、これらの科目も教育課程の中に配置している。

また、教育課程外でのキャリア及び就職支援を担当する、職員を中心とした組織である「キャリア形成支援センター」を、平成 24 年度より「就職・キャリア支援部」に改称した。また、キャリア教育及び就職支援の充実と推進を図るとともに、本学が目指す国際化に対応した社会人基礎力を備えた人材を養成することを目的として設置した「グローバル・キャリア教育センター」を発展的に解消し、新たに平成 28 年度より「国際教育センター」を設立。グローバル・キャリア教育センターで実施していた、国内・外グローバル企業におけるインターンシップ・ボランティアプログラムの企画・実施および外国人留学生に対する教育支援（ビジネス日本語講座等）等を展開する他、留学・国際交流支援も行なっている。

「就職・キャリア支援部」では、入学直後から、卒業後の進路選択を見据えた支援プログラムを数多く用意している。1・2 年次には自身のキャリアを考えて行くためのプログラムや、公務員やインターンシップ等の講座等を準備している。また、3 年次には業界・企業研究セミナーや各種ガイダンス、就職活動対策講座等を運営、4 年次には最終的に進路が決定するまで就職活動を支援するためのバックアップセミナー等を実践していく。特に、個別相談体制の強化を図り、学生一人ひとりの状況に添った支援を実施している。

以　上

資料目次

資料１　学校法人東洋大学教職員定年規則
資料２　年俸契約雇用制度に関する要綱
資料３　履修モデル
　　グローバル・イノベーション学科
　　国際地域学科国際地域専攻
　　国際地域学科地域総合専攻
資料４　白山キャンパス教室稼動率について
資料５　学生交換協定締結機関一覧

○学校法人東洋大学教職員定年規則（昭和34年4月1日施行）

学校法人東洋大学教職員定年規則

昭和34年４月１日
施行

政正　昭和39年９月１日　昭和40年９月１日
昭和47年４月１日　平成８年４月１日
平成14年４月１日　平成23年４月１日
平成26年８月１日

第１条　学校法人東洋大学の設置する学校の専任の教員及び専任の事務職員の定年は、大学及び附属高等学校等に在職する教員については満65歳とし、事務職員については満60歳とする。

第２条　前条に該当する教職員は、定年に達した日の属する年度末に退職するものとする。

第３条　この規則の改正は、理事会の議を経て理事長が行う。

附　則

１　この規程は、平成８年４月１日から施行する。

２　第１条の規定にかかわらず、平成７年度以前に専任教員として採用された者については、なお従前の例による。

附　則（平成14年規程第18号）

この規程は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成23年規程第42号）

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成26年規則第127号）

この規則は、平成26年８月１日から施行する。

【資料02】

年俸契約雇用制度に関する要綱

（目的）

1　この制度は、本学が特に必要と認めた場合に、年俸契約雇用制により専任教員を任用することを目的とする。

（適用対象）

2　年俸契約制は、次の場合に適用する。

（１）原則として大学院の科目担当者（修士課程研究指導担当以上）を任用する場合

（２）全国的に評価の高い学者などを任用する場合

（３）その他、本学が特に必要と認めた場合

（契約期間）

3　契約期間は１年とし、原則として契約更改の限度は４回とする。

（雇用年齢）

4　雇用年齢は、原則として７０才までとする。ただし、この制度により他機関から任用する場合、雇用開始年齢は６５歳未満とすることができる。

（年俸額）

5　年俸額は、在職時（前職時）の給与支給額を勘案し定める。

（退職金）

6　退職金は支給しない。

（契約）

7　契約については別に定める。

附　則

この要綱は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成１６年４月１日から施行する。

国際学部グローバル・イノベーション学科　履修モデル①　［国際ビジネスコース］

【ビジネス分野においてイノベーションを創造するための知識や手法を学び、グローバル企業等で活躍する人材を育てるモデル】

	1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	Dr. Enryo Inoue and Toyo University Introduction to Japanese Economy and Society Introduction to Global Politics	2 2 2	Introduction to Journalism Shifts in Global System and Role of International Organizations Introduction to Global Studies	2 2 2					12
Basic Study Skills	Study Skills Ⅰ Study Skills Ⅱ ICT Literacy	2 2 2	Research Methods	2					8
Communication Skills	Presentation Skills Intercultural Communication	2 2	Debating Theory, Skills & Practices Special English Study Ⅰ	2 2	Introduction to Postmodern Thought Advanced Negotiation Theory & Skills	2 2			12
English Language Skills	Academic Reading Ⅰ Academic Reading Ⅱ Academic Writing Ⅰ Academic Writing Ⅱ Academic Listening Ⅰ Academic Listening Ⅱ Academic Speaking Ⅰ Academic Speaking Ⅱ	1 1 1 1 1 1 1 1	English for Study Abroad	1	Advanced Academic English	1			10
Academic Subjects	Introduction to Microeconomics Introduction to Macroeconomics Introduction to Financial Accounting Introduction to Finance Japanese Corporations in Asian Markets Financial Accounting Role of Entrepreneurs in Creating Social Value International Business Today	2 2 2 2 2 2 2 2	Statistics Entrepreneurship and Venture Businesses Multinational Corporations and the Global System Social Solidarity Economy and Social Enterprise International Comparative Studies of Corporate Organizations Rethinking Japanese Corporations in the Global Economy Globalization and Japan Special Lectures in International Business Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2	Behavioral Economics Game Theory Major Seminar Ⅱ International Comparative Studies of Business Revitalization Mechanism Global Financial Systems: Diversity or Convergence Business Ethics International Business Development and Corporate Finances Innovations in Organizational Structures and Decision Making Global Strategic Management and Merger and Acquisition Marketing Strategies in Globalized Market Special Lectures in International Business Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	Major Seminar Ⅲ Major Seminar Ⅳ Undergraduate Thesis Assessment Systems Used in Corporate Governance Asian Economic Development and Japan Corporate Social Responsibility and Social Investment Dynamism and Standards in Global Banking, Finance and Capital Markets Multinational Corporations and Market Systems Innovations in Assessment and Management of Human Resources	2 2 4 2 2 2 2 2 2	72
Project Studies			Global Innovation Practicum Ⅰ	2	Service Learning Practicum Ⅰ Global Innovation Practicum Ⅱ Internship Ⅰ	2 2 2			8
Career Development					Global Careers Ⅱ	2			2
年間単位数	40		31		33		20		
合計単位数	124								

国際学部国際地域学科国際地域専攻　履修モデル①　［公共政策］

【国や地域における諸問題を分析し、それを基に、公共政策・制度設計を行える知識・能力を習得し、行政機関等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技ⅠB	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							34
		入門ゼミナール	2							
		情報入門	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
				データ解析演習	2					
	Language and Communication Skills	English Communication Ⅰ	1	English Proficiency Test Ⅰ	1	Presentation Skills	2			
		English Communication Ⅱ	1	English Proficiency Test Ⅱ	1					
		Reading Comprehension	1	English Proficiency Test Ⅲ	1					
		English Composition	1	English Proficiency Test Ⅳ	1					
		フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅲ	1					
		フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅳ	1					
		海外英語実習Ⅰ	2							
		海外英語実習Ⅱ	2							
		海外英語実習Ⅲ	2							
Academic Subjects	公共政策プログラム推奨科目	政治学	2	行政学	2	公共経済学	2			56
		ミクロ経済学Ⅰ	2	ミクロ経済学Ⅱ	2					
		社会保障論	2	地域社会学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅱ	2	
		環境マネジメント	2	社会政策論	2	地域社会学Ⅱ	2	Urban and Regional Planning in Asia	2	
				地方自治論	2	都市計画	2			
				地域福祉論	2	社会基盤論	2			
				社会調査法	2	地域形成論	2			
						地域産業論	2			
						土地・住宅問題	2			
	その他のAcademic Subjects	文化人類学入門	2	国際協力論	2	アジア地域研究B	2			
		水資源と水環境	2	International Cooperation and Japanese Language Teaching	2	比較政治学	2			
				ヨーロッパ地域研究A	2					
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	専門ゼミナールⅠ	2	専門ゼミナールⅢ	2	18
						専門ゼミナールⅡ	2	専門ゼミナールⅣ	2	
						インターンシップⅠ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡA	2	キャリアデザインⅢ	2			8
				キャリアデザインⅡB	2					
年間単位数		42		40		30		12		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科国際地域専攻　履修モデル②　［比較文化・社会］

【諸問題を分析する能力・語学力・コミュニケーション能力を養い、多文化に関する理解を深め、グローバル企業や国際機関等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技ⅠB	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							14
		入門ゼミナール	2							
		情報入門	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
				データ解析演習	2					
	Language and Communication Skills	English Communication Ⅰ	1	English Proficiency Test Ⅰ	1	Presentation Skills	2			20
		English Communication Ⅱ	1	English Proficiency Test Ⅱ	1					
		Reading Comprehension	1	English Proficiency Test Ⅲ	1					
		English Composition	1	English Proficiency Test Ⅳ	1					
		フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅲ	1					
		フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅳ	1					
		海外英語実習Ⅰ	2							
		海外英語実習Ⅱ	2							
		海外英語実習Ⅲ	2							
Academic Subjects	比較文化・社会プログラム	文化人類学入門	2	地域社会学Ⅱ	2					58
		人文地理学	2							
		地域社会学Ⅰ	2	国際協力と日本語教育	2	アフリカ地域研究	2	アジア地域研究A	2	
		地域とボランティア	2	宗教と社会	2	経済地理学	2	ジェンダー論	2	
		中東地域研究	2	経済地理学	2	アジア地域研究B	2	比較文化論	2	
				異文化理解と開発	2	ヨーロッパ地域研究B	2			
				ヨーロッパ地域研究A	2	International Cooperation and Japanese Language Teaching	2			
				タイの言語と文化	2	Urban and Regional Sociology in Asian Countries	2			
				インドネシアの言語と文化	2	Sociology of Islam	2			
	その他のAcademic Subjects	環境マネジメント	2	政治学	2	国際政治学Ⅰ	2			
				ジェンダー論	2	まちづくり概論	2			
						アジア経済論	2			
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	専門ゼミナールⅠ	2	専門ゼミナールⅢ	2	18
						専門ゼミナールⅡ	2	専門ゼミナールⅣ	2	
						インターンシップⅠ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡA	2					6
				キャリアデザインⅡB	2					
年間単位数		42		40		28		14		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科国際地域専攻　履修モデル③　［国際開発］

【国際開発・途上国開発、特にフィールドでお活動に必要な理論・知識・能力を習得し、国際機関、開発コンサルタント、NPO等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技ⅠB	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							14
		入門ゼミナール	2							
		情報入門	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
				データ解析演習	2					
	Language and Communication Skills	English Communication Ⅰ	1	English Proficiency Test Ⅰ	1	Presentation Skills	2			20
		English Communication Ⅱ	1	English Proficiency Test Ⅱ	1					
		Reading Comprehension	1	English Proficiency Test Ⅲ	1					
		English Composition	1	English Proficiency Test Ⅳ	1					
		フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅲ	1					
		フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅳ	1					
		海外英語実習Ⅰ	2							
		海外英語実習Ⅱ	2							
		海外英語実習Ⅲ	2							
Academic Subjects	国際開発プログラム	国際協力論	2	農村地域開発論	2					58
		ミクロ経済学Ⅰ	2							
		Participatory Development	2	ジェンダー論	2	アジア経済論	2	Environmental Issues in Asia	2	
				開発経済論	2	NGO・NPO論	2			
				アジア地域研究A	2	開発と異文化	2			
				ヨーロッパ地域研究A	2	コミュニティ開発論	2			
				アフリカ地域研究	2	アジアの都市と交通	2			
				地域とボランティア	2	食料問題論	2			
				人間の安全保障論	2	アジア地域研究B	2			
				社会調査法	2	Water supply and Sanitation for Health	2			
						国際人材開発論	2			
						国際社会貢献論	2			
						アジア経済発展と日本	2			
	その他のAcademic Subjects	国際政治学	2	環境管理適正技術論	2	国土・地域計画	2			
		水資源と水環境	2			グローバリゼーションと日本	2			
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	専門ゼミナールⅠ	2	専門ゼミナールⅢ	2	18
						専門ゼミナールⅡ	2	専門ゼミナールⅣ	2	
						インターンシップⅠ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡA	2					6
				キャリアデザインⅡB	2					
年間単位数		40		40		34		10		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科国際地域専攻　履修モデル④　［地域デザイン］

【地域にある諸問題を分析する知識と能力を都市・地域計画、建築、社会学等、多面的に習得し、地方行政、地域に根差した民間企業、NPO等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技ⅠB	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							14
		入門ゼミナール	2							
		情報入門	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
				データ解析演習	2					
	Language and Communication Skills	English Communication Ⅰ	1	English Proficiency Test Ⅰ	1	Presentation Skills	2			20
		English Communication Ⅱ	1	English Proficiency Test Ⅱ	1					
		Reading Comprehension	1	English Proficiency Test Ⅲ	1					
		English Composition	1	English Proficiency Test Ⅳ	1					
		フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅲ	1					
		フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅳ	1					
		海外英語実習Ⅰ	2							
		海外英語実習Ⅱ	2							
		海外英語実習Ⅲ	2							
Academic Subjects	地域デザインプログラム					地域デザイン基礎	2			58
						地域デザイン演習	2			
		ミクロ経済学Ⅰ	2	マクロ経済学Ⅰ	2	公共経済学	2	Cities and Transport in Asia	2	
		アジアの都市と交通	2	都市論	2	地域経済学	2	Urban and Regional Planning in Asia	2	
				都市計画	2	国土・地域計画	2	Housing the poor in Asia	2	
				地域形成論	2	社会基盤論	2			
				まちづくり概論	2	まちづくり手法論	2			
				都市地理学	2	交通まちづくりの計画と政策	2			
				地域社会学Ⅰ	2	地域社会学Ⅱ	2			
				コミュニティ開発論	2	土地・住宅問題	2			
				地域産業論	2	社会調査法	2			
	その他のAcademic Subjects	水資源と水環境	2	情報マネジメントⅠ	2	国際経済学	2			
				環境システム論	2					
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	専門ゼミナールⅠ	2	専門ゼミナールⅢ	2	18
						専門ゼミナールⅡ	2	専門ゼミナールⅣ	2	
						インターンシップⅠ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡA	2					6
				キャリアデザインⅡB	2					
年間単位数		36		42		32		14		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科国際地域専攻　履修モデル⑤　［環境・防災］

【環境問題や災害に関する問題とその対応策を理解するための知識やフィールドでの活動に必要なスキルを習得し、国際機関、政府機関、民間企業等で活躍できる人材を育成する。】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技ⅠA	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技ⅠB	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							14
		入門ゼミナール	2							
		情報入門	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
				データ解析演習	2					
	Language and Communication Skills	English Communication Ⅰ	1	English Proficiency Test Ⅰ	1	Presentation Skills	2			20
		English Communication Ⅱ	1	English Proficiency Test Ⅱ	1					
		Reading Comprehension	1	English Proficiency Test Ⅲ	1					
		English Composition	1	English Proficiency Test Ⅳ	1					
		フランス語Ⅰ	1	フランス語Ⅲ	1					
		フランス語Ⅱ	1	フランス語Ⅳ	1					
		海外英語実習Ⅰ	2							
		海外英語実習Ⅱ	2							
		海外英語実習Ⅲ	2							
Academic Subjects	環境・防災プログラム	国際環境計画入門	2	自然災害と防災	2					56
		環境マネジメント	2							
		水資源と水環境	2	環境システム論	2	廃棄物管理	2	地域産業論	2	
		災害と復興	2	環境管理適正技術論	2	Environmental Issues in Asia	2	Water supply and sanitation for health	2	
				都市計画	2	Global Water Problem	2	Disaster Management and International Cooperation	2	
				社会調査法	2	環境社会論	2			
				公共経済学	2	エネルギー・資源論	2			
				国土・地域計画	2	まちづくり手法論	2			
				社会基盤論	2	交通まちづくりの計画と政策	2			
	その他のAcademic Subjects	国際協力論	2	行政学	2	土地・住宅問題	2			
				情報マネジメント	2	データベース概論	2			
						国際人材開発論	2			
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	専門ゼミナールⅠ	2	専門ゼミナールⅢ	2	18
						専門ゼミナールⅡ	2	専門ゼミナールⅣ	2	
						インターンシップⅠ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡA	2	キャリアデザインⅢ	2			8
				キャリアデザインⅡB	2					
年間単位数		40		40		30		14		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科地域総合専攻　履修モデル①　［公共政策］

【国や地域における諸問題を分析し、それを基に、公共政策・制度設計を行える知識・能力を習得し、行政機関等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学Ａ	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論Ａ	2	スポーツ健康科学実技Ａ	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技Ｂ	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							30
		入門ゼミナール	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
	Language and Communication Skills	総合英語演習Ⅰ	2	ビジネス英語演習	2	メディア英語演習	2			
		総合英語演習Ⅱ	2	英語検定	2	Internet Research	2			
		英語研修	2	フランス語総合演習	2					
		フランス語入門Ａ	1							
		フランス語入門Ｂ	1							
		フランス語総合演習	2							
Academic Subjects	公共政策プログラム推奨科目	国際政治学	2	行政学	2	公共経済学	2	自然災害と防災	2	62
		ミクロ経済学	2	マクロ経済学	2	Participatory Development	2			
		情報入門・データ解析	2	地域社会学Ⅰ	2	地域社会学Ⅱ	2			
		社会保障論	2	社会政策論	2	都市計画	2			
		環境マネジメント	2	地方自治論	2	社会基盤論	2			
		文化人類学入門	2	地域福祉論	2	地域形成論	2			
		水資源と水環境	2	社会調査法	2	地域産業論	2			
				まちづくり概論	2	土地・住宅問題	2			
				まちづくり手法論	2	Environmental Issues in Asia	2			
				国際協力論	2	地域観光論	2			
				Japanese Economy and Business	2					
				アジア経済論	2					
				ヨーロッパ地域研究Ａ	2					
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	国際地域学研修Ⅲ	2	専門ゼミナールⅠ	2	18
						インターンシップⅠ	2	専門ゼミナールⅡ	2	
						フィールド調査実習Ⅰ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2	キャリアデザインⅢ	2			6
年間単位数		40		42		32		10		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科地域総合専攻　履修モデル②　［比較文化・社会］

【諸問題を分析する能力・語学力・コミュニケーション能力を養い、多文化に関する理解を深め、グローバル企業や国際機関等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							12
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技A	1	地域史A	2			
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技B	1					
		国際関係入門	2							
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							10
		入門ゼミナール	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
	Language and Communication Skills	総合英語演習Ⅰ	2	ビジネス英語演習	2	メディア英語演習	2			24
		総合英語演習Ⅱ	2	英語検定	2	Internet Research	2			
		英語研修	2	フランス語圏の言語と文化	2	ハングルの言語と文化	2			
		フランス語入門A	1			中国語圏の言語と文化	2			
		フランス語入門B	1							
		フランス語総合演習	2							
Academic Subjects	比較文化・社会プログラム推奨科目	都市地理学	2	地域社会学Ⅱ	2	地域形成論	2	Participatory Development	2	54
		国際交流と日本文化	2	文化人類学入門	2	地域福祉論	2	Japanese Economy and Business	2	
		地域社会学Ⅰ	2	宗教と社会	2	Environmental Issues in Asia	2			
		情報入門・データ解析	2	経済地理学	2	観光交流論	2			
		環境マネジメント	2	福祉観光論	2	地方自治論	2			
		ミクロ経済学	2	ヨーロッパ地域研究A	2	国際政治学	2			
				アジアの都市と交通	2	まちづくり概論	2			
				観光の歴史と文化	2	アジア経済論	2			
				災害と復興	2					
				水資源と水環境	2					
				マクロ経済学	2					
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	国際地域学研修Ⅲ	2	専門ゼミナールⅠ	2	18
						インターンシップⅠ	2	専門ゼミナールⅡ	2	
						フィールド調査実習Ⅰ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2	キャリアデザインⅢ	2			6
年間単位数		40		38		34		12		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科地域総合専攻　履修モデル③　［国際開発］

【国際開発・途上国開発、特にフィールドでお活動に必要な理論・知識・能力を習得し、国際機関、開発コンサルタント、NPO等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							10
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技A	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技B	1					
				ボランティア活動入門	2					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							10
		入門ゼミナール	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
	Language and Communication Skills	総合英語演習Ⅰ	2	ビジネス英語演習	2	メディア英語演習	2			22
		総合英語演習Ⅱ	2	英語検定	2	Internet Research	2			
		英語研修	2	フランス語総合演習	2					
		フランス語入門A	1	フランス語圏の言語と文化	2					
		フランス語入門B	1							
		フランス語総合演習	2							
Academic Subjects	国際開発プログラム推奨科目	国際協力論	2	農村地域開発論	2	アジア経済論	2	Environmental Issues in Asia	2	58
		ミクロ経済学	2	地域社会学Ⅰ	2	地方自治論	2	Participatory Development	2	
		情報入門・データ解析	2	地域社会学Ⅱ	2	都市計画	2			
		国際政治学	2	ヨーロッパ地域研究A	2	コミュニティ開発論	2			
		水資源と水環境	2	環境マネジメント	2	アジアの都市と交通	2			
				土地・住宅問題	2	世界の農業・資源経済A	2			
				社会政策論	2	世界の農業・資源経済B	2			
				社会調査法	2	Japanese Economy and Business	2			
				環境管理適正技術論	2	交通まちづくりの計画と政策	2			
				国際経済学	2	地域財政と観光	2			
						国土・地域計画	2			
						グローバリゼーションと日本	2			
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	国際地域学研修Ⅲ	2	専門ゼミナールⅠ	2	18
						インターンシップⅠ	2	専門ゼミナールⅡ	2	
						フィールド調査実習Ⅰ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2	キャリアデザインⅢ	2			6
年間単位数		36		40		36		12		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科地域総合専攻　履修モデル④　［地域デザイン］

【地域にある諸問題を分析する知識と能力を都市・地域計画、建築、社会学等、多面的に習得し、地方行政、地域に根差した民間企業、NPO等で活躍する人材を育てるモデル】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							10
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技A	1	ボランティア活動入門	2			
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技B	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							10
		入門ゼミナール	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
	Language and Communication Skills	総合英語演習Ⅰ	2	ビジネス英語演習	2	メディア英語演習	2			20
		総合英語演習Ⅱ	2	英語検定	2	Internet Research	2			
		英語研修	2	フランス語総合演習	2					
		フランス語入門A	1							
		フランス語入門B	1							
		フランス語総合演習	2							
Academic Subjects	地域デザインプログラム推奨科目	情報入門・データ解析	2	マクロ経済学	2	公共経済学	2	Environmental Issues in Asia	2	58
		ミクロ経済学	2	福祉経済論	2	地方自治論	2	Participatory Development	2	
		アジアの都市と交通	2	都市計画	2	社会政策論	2	Japanese Economy and Business	2	
		水資源と水環境	2	地域形成論	2	社会基盤論	2			
				まちづくり概論	2	まちづくり手法論	2			
				都市地理学	2	交通まちづくりの計画と政策	2			
				地域社会学Ⅰ	2	地域社会学Ⅱ	2			
				コミュニティ開発論	2	土地・住宅問題	2			
				地域産業論	2	社会調査法	2			
				情報マネジメント	2	国際経済学	2			
				環境システム論	2	観光行動モデル	2			
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	国際地域学研修Ⅲ	2	専門ゼミナールⅠ	2	20
				フィールド調査実習Ⅰ	2	インターンシップⅠ	2	専門ゼミナールⅡ	2	
						フィールド調査実習Ⅱ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2	キャリアデザインⅢ	2			6
年間単位数		34		40		36		14		
合計単位数		124								

国際学部国際地域学科地域総合専攻　履修モデル⑤　［環境・防災］

【環境問題や災害に関する問題とその対応策を理解するための知識やフィールドでの活動に必要なスキルを習得し、国際機関、政府機関、民間企業等で活躍できる人材を育成する。】

		1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
Liberal Arts	哲学・思想	井上円了と東洋大学A	2							8
	その他のLiberal Arts科目	自然科学概論A	2	スポーツ健康科学実技A	1					
		留学のすすめ	2	スポーツ健康科学実技B	1					
Study Skills	Basic Academic Skills	国際地域学基礎	2							10
		入門ゼミナール	2							
	Advanced Academic Skills	プロジェクトゼミナールⅠ	2	プロジェクトゼミナールⅡ	2					
				プロジェクトゼミナールⅢ	2					
	Language and Communication Skills	総合英語演習Ⅰ	2	ビジネス英語演習	2	メディア英語演習	2			20
		総合英語演習Ⅱ	2	英語検定	2	Internet Research	2			
		英語研修	2	フランス語総合演習	2					
		フランス語入門A	1							
		フランス語入門B	1							
		フランス語総合演習	2							
Academic Subjects	環境・防災プログラム推奨科目	国際環境計画入門	2	自然災害と防災	2	アジア経済論	2	地域産業論	2	62
		環境マネジメント	2	マクロ経済学	2	社会保障論	2	Participatory Development	2	
		情報入門・データ解析	2	水資源と水環境	2	廃棄物管理	2	Japanese Economy and Business	2	
		ミクロ経済学	2	環境システム論	2	Environmental Issues in Asia	2			
		災害と復興	2	環境管理適正技術論	2	アジアの都市と交通	2			
		国際協力論	2	都市計画	2	環境社会論	2			
				社会調査法	2	エネルギー・資源論	2			
				公共経済学	2	まちづくり手法論	2			
				社会基盤論	2	交通まちづくりの計画と政策	2			
				行政学	2	土地・住宅問題	2			
				情報マネジメント	2					
				国際経済学	2					
Project Studies		国際地域学研修Ⅰ	2	国際地域学研修Ⅱ	2	国際地域学研修Ⅲ	2	専門ゼミナールⅠ	2	18
						インターンシップⅠ	2	専門ゼミナールⅡ	2	
						フィールド調査実習Ⅰ	2	卒業論文	4	
Career Development		キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2	キャリアデザインⅢ	2			6
年間単位数		38		40		32		14		
合計単位数		124								

＜白山キャンパス教室稼動率について＞

教室稼動試算表

	教室の規模						合計
	大教室	中教室		小教室		PC	
	270以上	150～269	100～149	60～99	59以下		
教室数	15	18	15	41	48	11	148
週の利用可能時限	30	30	30	30	30	30	30
1部_計（2015年度）	297	341	281	910	762	200	2791
教室稼働率（2015年度）	66.0%	63.1%	62.4%	74.0%	52.9%	60.6%	62.9%
規模別教室稼動率（2015）	66.0%	62.8%		62.6%		60.6%	62.9%
10号館教室 (2017年度より追加)	－	－		20		－	－
科目増加率	137.7%						
収容定員増加率	105.0%						
開講コース増加数（予定）	1	52		191		4	248
規模別教室稼動率（完成年度）	66.2%	68.1%		69.8%		61.8%	68.4%

（試算メモ）

1）文学部

日本文学文化学科

→課程表の変更を行わない。定員減の分、語学系科目のコース数が減となる。

国際文化コミュニケーション学科

→基礎となる「英語コミュニケーション学科」に比べ、定員が同じであるため語学系科目等の開講コース数は同等。
ただし、課程表に記載されている科目数が多いため、その分コース数が増となる。

2）国際学部

グローバル・イノベーション学科

→基礎となる学部がないため、純増となる。

国際地域学科

→定員が30名ほど多くなるため、その分語学系科目のコース数が増える。
また、課程表に記載されている科目数が多いため、その分コース数が増となる。

※地域総合専攻については、2部の時間帯の教室稼働率が30％程度であるため、試算はしない。

3）国際観光学部

国際観光学科

→語学系科目については、定員が増えることに伴いコース数が増える。
また、演習科目も教員数が増えるためにコース数が増える。
課程表に記載されている科目数が多いため、その分コース数が増となる。

4）対象教室

主に学部・学科が利用教室を元に試算（大学院は含まず）。

■学生交換協定締結機関一覧

No	種別	国	協定等相手先	協定締結日	都市	学生交換	Study Abroad（注1）	派遣人数	派遣期間
1	大学間	アイルランド	ダブリンシティ大学 Dublin City University	1990年9月10日	ダブリン	○	-	4	一学年間
2	大学間	アイルランド	リムリック大学 University of Limerick	2011年3月3日	リムリック	○	-	2	一学年間
3	大学間	アメリカ合衆国	ウィノナ州立大学 Winona State University	2009年5月5日	ミネソタ州 ウィノナ	○	-	協定書に記載なし	一学年間
4	大学間	アメリカ合衆国	オレゴン州立大学 Oregon State University	1992年4月27日	オレゴン州 コーバリス	※1	-	協定書に記載なし	一学年間
5	大学間	アメリカ合衆国	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校 California State University, Monterey Bay	2011年3月16日	カリフォルニア州 シーサイド	○	（○）	交換留学：一学年間2人または一学期間4人 （SA：制限なし）	一学年間または一学期間
6	大学間	アメリカ合衆国	テネシー大学ノックスビル校 The University of Tennessee, Knoxville	2010年11月10日	テネシー州 ノックスビル	※1	-	2	一学年間
7	大学間	アメリカ合衆国	ミズーリ大学セントルイス校 University of Missouri-St. Louis	1995年5月17日	ミズーリ州 セントルイス	※1	○	学生交換：毎年協議の上決定 SA：10	一学年間
8	大学間	アメリカ合衆国	メリヴィル大学 Maryville University	2010年1月11日	ミズーリ州 セントルイス	○	-	2	一学年間
9	大学間	アメリカ合衆国	モンタナ大学 The University of Montana	1987年3月12日	モンタナ州 ミズーラ	○	-	3	一学年間
10	大学間	アメリカ合衆国	リンゼイウィルソン大学 Lindsey Wilson College	2010年11月19日	ケンタッキー州 コロンビア	○	-	一学年間4人または一学期間8人	一学年間または一学期間
11	大学間	アメリカ合衆国	ルイスクラーク州立大学 Lewis-Clark State College	2013年6月26日	アイダホ州 ルイストン	※1	-	協定書に記載なし	一学年間
12	大学間	アメリカ合衆国	パデュー大学カルメット校 Purdue University Calumet	2015年1月23日	インディアナ州 ハモンド	○	○	協議の上決定	一学年間または一学期間
13	大学間	イギリス	カーディフ大学 Cardiff University	2010年11月1日	ウェールズ	○	-	2	一学年間
14	大学間	イギリス	ヨーク・セント・ジョン大学 York St John University	2012年4月19日	ヨーク	○	-	2	一学年間
15	大学間	オーストラリア	サンシャインコースト大学 The University of the Sunshine Coast	2008年3月13日	サンシャインコースト	○	-	2	一学年間
16	大学間	オーストラリア	シーキュー大学 CQUniversity	1997年9月8日	ロックハンプトン	○	-	2	一学年間
17	大学間	オーストラリア	インターナショナル・カレッジ・オブ・マネージメント・シドニー The International College of Management, Sydney(ICMS)	2015年10月14日	シドニー	○	○	交換留学：2 SA：制限なし	一学年間または一学期間
18	大学間	カナダ	クワントレンポリテクニック大学 Kwantlen Polytechnic University	2012年2月16日	バンクーバー	○	-	2	一学年間
19	大学間	カナダ	トンプソンリバーズ大学 Thompson Rivers University	2007年6月15日	カムループス	○	-	2	一学年間
20	大学間	カナダ	マニトバ大学 University of Manitoba	2011年3月31日	ウィニペグ	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
21	大学間	カナダ	エドモントン・コンコルディア大学 Concordia University of Edmonton	2015年1月23日	エドモントン	○	-	2	一学年間
22	大学間	オランダ王国	ロッテルダム大学ビジネススクール Rotterdam University, Rotterdam Business School	2012年5月14日	ロッテルダム	○	-	2	一学年間
23	大学間	オランダ王国	アムステルダム応用科学大学 Amsterdam University of Applied Sciences (AUSA)	2014年11月22日	アムステルダム	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
24	大学間	ドイツ連邦共和国	マールブルク大学 Philipps-Universität Marburg	1990年4月19日	マールブルク	○	-	毎年協議の上決定	一学年間
25	大学間	ドイツ連邦共和国	バイロイト大学 University of Bayreuth	2015年2月11日	バイロイト	○	-	2	一学年間
26	大学間	フランス共和国	ストラスブール大学 Université de Strasbourg	1985年12月9日	ストラスブール	○	-	2	一学年間
27	大学間	フランス共和国	ストラスブール大学経営大学院(EMS) Université de Strasbourg, EM Business School	2012年7月17日	ストラスブール	○	-	2	一学年間または1学期間
28	大学間	フランス共和国	ストラスブール大学政治経済学研究所(IEP) Université de Strasbourg, l'Institut d'Etudes Politiques	2012年5月24日	ストラスブール	○	-	1	一学年間または1学期間
29	大学間	フランス共和国	リール第3大学(シャルル・ド・ゴール大学) University of Charles de Gaulle - Lille 3	2015年11月27日	パリ	○	-	2	一学年間
30	大学間	ブルガリア共和国	聖クリメント・オフリツキ・ソフィア大学 Sofia University St. Kliment Ohridski	2015年3月17日	ソフィア	○	-	2	一学年間
31	大学間	スイス共和国	ルツェルン大学 The University of Lucerne	2012年1月24日	ルツェルン	○	-	一学年間1人または一学期間2人	一学年間または一学期間
32	大学間	マレーシア	テイラーズ大学 Taylor's University	2015年11月19日	スバン ジャヤ	○	-	2	一学年間または1学期間
33	大学間	大韓民国	仁荷大学校 Inha University	2013年1月10日	インチョン	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
34	大学間	大韓民国	円光大学校 Wonkwang University	2012年12月20日	イクサン	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
35	大学間	大韓民国	韓国外国語大学校 Hankuk University of Foreign Studies	1995年8月30日	ソウル	○	-	1	一学年間

No	種別	国	協定等相手先	協定締結日	都市	学生交換	Study Abroad（注1）	派遣人数	派遣期間
36	大学間	大韓民国	韓南大学校 Hannam University	2012年1月11日	テジョン	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
37	大学間	大韓民国	建国大学校 Konkuk University	2008年11月10日	ソウル	○	-	2	一学年間
38	大学間	大韓民国	金剛大学校 Geumgang University	2011年2月1日	ノンサン	○	-	2	一学年間
39	大学間	大韓民国	成均館大学 Sungkyunkwan University	2012年9月6日	ソウル	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
40	大学間	大韓民国	大邱大学校 Daegu University	2003年6月27日	テグ	○	-	2	一学年間
41	大学間	大韓民国	東国大学校 Dongguk University	1995年8月31日	ソウル	○	-	1	一学年間
42	大学間	台湾	天主教輔仁大学 Fu Jen Catholic University	2000年6月20日	新北	○	-	一学年間2人または一学期間4人	一学年間または一学期間
43	大学間	中華人民共和国	大連外国語大学 Dalian University of Foreign Languages	2003年8月10日	大連	○	-	2	一学年間
44	大学間	中華人民共和国	中国人民大学 Renmin University of China	2015年9月17日	北京	○	-	2	一学年間
45	大学間	中華人民共和国	中国海洋大学 Ocean University of China	2015年6月24日	青島	○	-	2	一学年間
46	大学間	中華人民共和国	北京語言大学 Beijing Language and Culture University	2015年9月15日	北京	○	-	2	一学年間
47	コンソーシアム	アメリカ合衆国	ISEP(アイセップ) International Student Exchange Programs	2005年3月8日	バージニア	○	-	制限なし	一学年間または1学期間
48	コンソーシアム	日本	UMAP(アジア太平洋大学交流機構) University Mobility in Asia and the Pacific	2014年3月3日	東京	○	-	2	一学年間

※1 協定を結んでいるものの、現在は学生の派遣超過により、学生交換を行っていない。
(注1)学生が学費を負担する留学。その他の条件は、交換留学に準ずる。

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

1)　国際学部新設の背景

今回の国際学部の新設は、本学が平成 26 年 9 月に「スーパーグローバル大学創成支援（タイプ B)」に採択された「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の一環として、構想調書にて記載した社会の中核を担う「東洋グローバルリーダー」及び世界の舞台で先端的な役割を担う「ニューエリート」を育成するためのものである。

具体的には、白山キャンパスにおいて、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）を募集停止し、国際学部グローバル・イノベーション学科及び国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）を設置する。

本学は、平成 24 年の創立 125 周年にあたり、大学の目標を「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の３本の柱として「グローバル人財(人という財産)」の養成と、特に国際化を中心として様々な教育改革を行ってきた。その結果、平成 27 年度以降は 2 年連続で 8 万人を超える志願者を集めており、特に国際化を担う学部・学科の志願者数が大きく増加傾向にある。

このため、既存の学部学科の定員を一部見直すとともに、社会的な需要が高く、本学の国際化を担ってきた学部・学科を発展的に改組し、本学のみならず日本のグローバル化を牽引する国際学部を新たに設置することとした。

すでに、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」にある、外国語による授業科目数は平成 28 年度（中間目標）634 科目を大きく上回る 1,000 科目以上を開講する（予定）ほか、今回のグローバル・イノベーション学科の教員採用に関しては、国際公募により実施し、教員の割合も外国人教員 30%、外国の大学で学位を取得した教員 30%、バイリンガル教員 40%といった目標をクリアしている等、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」実現に向けて、積極的な展開を図っている。

今回の国際学部の新設は、大学改革（グローバル化）を飛躍的に推進させるとともに、本学に期待されている社会からの要請にさらに積極的に応えるため、また、「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の実現のためには、必要不可欠なものである。

2)　入学定員設定の考え方

［国際学部グローバル・イノベーション学科］

国際学部グローバル・イノベーション学科は、入学定員を 100 名とする。基礎となる既存学科はなく新たに設置する学科である。

その定員設定の考え方は以下の通りである。

この学科は、東洋大学全体の国際化推進を牽引するフラッグシップとなる学科であり、これまでの本学既存学部学科とは一線を画した全く新しい学科として新設するものである。クォーター制を導入し、

原則全ての授業を英語で行うとともに、1 年間の長期留学を推奨するなど、学生の視野を常に世界へと向かせる学修環境を整える。これらは本学としてはこれまでに経験のない、全く新たな教育研究活動を推し進めることであり、学生に指導が行き届く規模での指導体制の確立が必須であることから、大人数の入学定員の設定は避けた。しかし一方で、本学は入学定員 6,732 名（平成 27 年 5 月 1 日現在）の学生が在籍する大規模総合大学であり、定員を少なくし過ぎてしまうと本学科が牽引する国際化の影響が全学に波及しないことも懸念される。そこで、本学科の養成する人材像とそれを実現する教育課程及び教員組織の規模を慎重に検討した結果、入学定員 100 名とすることが適切であると判断した。

なお、「スーパーグローバル大学創成支援（タイプ B）」に採択された「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の構想調書において、入学定員のうち留学生比率 30%を目指すこととしていることから、入学定員 100 名のうち 30 名の留学生確保を推進することとする。

これら入学定員設定の判断には、本学への進学実績のある高校の生徒を対象に実施した進学意向調査の結果も参考としている。国際学部グローバル・イノベーション学科への進学意向を回答した生徒数は 161 名であり、入学定員 100 名に対して 1.6 倍となっており、入学定員を上回る一定の進学需要があることが明らかである。また、留学生についても、本学への進学実績のある日本語学校の生徒を対象に同様の進学意向調査を行った。その結果、国際学部グローバル・イノベーション学科への進学意向を回答した生徒数は 122 名であり、留学生獲得目標 30 名に対して 4.1 倍となっており、入学定員を上回る一定の進学需要があることが明らかである。（なお、これは平成 27 年度入試で本学に志願のあった全国の高校 2,469 校のうち､わずか 7.7%の 190 校だけを対象とした限定的なアンケート調査の結果である。詳細は、「イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」において後述する。）

［国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース)］

国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）は、入学定員を 210 名と 80 名とする。既存の学科を発展的に移行させることで新たに設置するものであり、既存の国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）の入学定員 180 名と 110 名を、それぞれ 210 名と 80 名へと定員改正を行う。学科全体での入学定員 290 名に変更はない。

その定員設定の考え方は以下の通りである。

これまでの国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）の入試志願状況をみると、両専攻とも入学定員以上の志願者を十分に確保してきている。国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）では、直近の過去 5 年だと、180 名の定員に対し 2,504 名～3,069 名の志願者があり、そのうちの合格倍率は 3.1 倍～3.9 倍となっている。一方で、国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）の場合は、110 名の定員に対し 234 名～372 名の志願者があり、そのうちの合格倍率は 1.2 倍～1.9 倍となっている。

特に、国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）志願者の増加傾向は顕著であり、この 5 ヶ年で 565 名も増加している一方で定員改正はしてこなかったため、志願者の需要に十分に応えられない状況が続いていた。今後、グローバル人材への社会の需要が強まることは明らかであり、志願者及び社会からの需要に応える責務を果たすべく、本学科の養成する人材像とそれを実現する教育課程及び教員組織の規模を慎重に検討した結果、既存の国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）の定員を 30 名増やし、入学定員 210 名の国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）を新たに設置するこ

ととした。

一方、国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）については、学生数を削減して教育資源を集中することで、少人数教育体制の確立と教育水準レベルの向上を図ることとした。

今回の国際学部の設置に際しては、グローバル・イノベーション学科は新たに入学定員を設定するものであるが、国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）は既存の学科を発展的に移行させることで新たに設置するものであるため、専攻ごとの入学定員数に変更はあるものの学科全体としての定員数に変更はない。これらの入学定員の設定に際しては、人材需要についての社会の動向を機敏に捉えたものであるとともに、これまでの既存学部学科の入試志願状況及び高校生を対象とした進学意向調査、あるいは、これまでの既存学部学科の就職状況及び企業対象の採用意向調査等、重層的な観点に基づく各種データを慎重に分析した結果、無理のない定員設定であるとの結論に至ったものである。以下に述べる詳細な検証の結果から、学生確保の見通しは十分に立ち、かつ、社会的にも十分な人材需要があると判断した。

3)　大学全体の状況について

本学では、これまで 18 歳人口が大きく減少している中、受験生及び社会のニーズに応じた学部・学科の改組や新学部・学科の設置を積極的に行い、その結果、平成 8 年度以降、全国で 10 位以内の志願者を安定的に確保してきた。特に、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の 3 つの柱とした「グローバル人財」の育成に取り組んできた結果、一般入試において、毎年 6 万人以上の志願者を確保してきた他、平成 27 年度には 8 万人を超える志願があった（資料１「東洋大学一般入試志願者推移（2009～2015 年度）」）。

このような中、本学へ進学してくる学生は、どのような地域であるかを踏まえ、その地域における今後の受験状況を説明してみたい。本学に在籍している学生は「出身高校の所在地県別入学者数（資料２）」にあるように、南関東（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）が 60%以上、北関東（茨城県、栃木県、群馬県）が 10%以上、関東全体で 80%近い割合となっている。今回新設する国際学部は、白山キャンパス（東京都文京区白山）に位置するため、今後も南関東が最大の受験者層になることが考えられ、この地域の 18 歳人口の動向が大きな影響を与えるといえる。

では、南関東の 18 歳人口は、今後どのようになっていくのであろうか。文部科学省の学校基本統計調査を元に分析を行っている「リクルート進学総研マーケットリポート vol.18（南関東版）（資料３）」を見てみると、18 歳人口について、平成 27 年には 304,670 人、新学部が開始初年度に受験対象となる平成 28 年は 307,864 人と若干上昇し、完成年度に受験対象となる平成 31 年度は 304,696 人と、ほぼ横ばい状態である。長期的に見て 10 年後の状況を見てみると、平成 38 年が 294,451 人となり 3.4%程度の減少となる。年度により増減はあるものの、現状より減少してはいるが、ここで特筆すべきは全国平均値に比べ、南関東の減少率は小幅なものだということである。全国は、平成 27 年に 1,190,262 人であったものが、平成 38 年には 1,082,772 人となり 9%も減少すると予測されており、南関東は全国に比べ 5%以上も低い数値となっている。また、現在と同等と仮定し、南関東の減少率を加味したとしても平成 27 年度の 81,243 人から 78,480 人になるものの、今回の国際学部が設定する入学定員分には十分な志願者数を確保できるといえる。

4)　一般入試での状況及び進学意向調査の結果

平成 27 年度の一般入試結果において、今回新たに学部学科を設置することに伴い、既存の学部学科の募集定員と志願者数との倍率をみると、次の通りである（資料４「国際学部　基礎となる既存学部の過去 5 年の志願状況及び入学定員増に伴うシミュレーション」）。

まず、国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）について、基礎となる既存学部・学科の志願倍率は、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）が 20.8 倍と 3.9 倍である。また、過去 5 ヶ年の志願倍率の平均値をみても 19.4 倍と 3.2 倍となっており、高い志願倍率を維持し続けている。

また、上記の既存学部学科の志願状況について、入学定員を今回の計画規模に増加したと仮定してみると、次のような結果となった。入学定員は増加分を想定し、入学手続率及び志願者数は過去 5 ヶ年での最低数の場合を仮想してみたところ、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）が 2.4 倍と 1.0 倍となった。つまり、基礎となる学部学科のこれまでの志願状況からすれば、入学定員を増加したとしても、その数を上回るだけの志願者は十分に確保できることが判明している。なお、一般入試だけでなく、推薦入試も含めたより厳密な入試実績の分析については、後述のイ.「定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で説明する。

次に、国際学部グローバル・イノベーション学科については、基礎となる学科がない新設の学科であるため、本学への進学実績のある高校の生徒を対象に進学意向アンケート調査を実施した。その結果、国際学部グローバル・イノベーション学科への進学意向を回答した生徒数は 161 名（定員 100 名に対して 1.6 倍）となっており、入学定員を上回る一定の進学需要があることが明らかになった。（なお、これは平成 27 年度入試で本学全体に志願のあった全国の高校 2,469 校のうち、わずか 7.7%の 190 校だけを対象とした限定的なアンケート調査の結果である。詳細は、「イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」において後述する。）

上記の通り、既存の学部学科の志願状況と進学意向アンケート調査を分析することにより、今回計画をしている新学部学科については学生確保の見通しは十分に立つことが分かった。さらに前述の通り、当該学部学科への志願者層の最大のターゲットエリアである南関東圏の 18 歳人口についても、10 年以上の比較的長い将来展望によれば、78,480 名という人口があることから、学生市場の急激な変動はないと予測できるため、今回の国際学部の入学定員の設定は無理のないものであると判断した。

なお、通信教育課程の入学定員超過率は、平成 25 年～28 年度の 4 年間の平均で、文学部日本文学文化学科（通信教育課程）が 0.04、法学部法律学科（通信教育課程）が 0.01 と低くなっている。
本学の通信教育課程は、大学通信教育設置基準の制定前である、昭和 39 年度に文学部国文学科、昭和 41 年度に法学部法律学科が設置され、50 年以上もの間、学祖井上円了の「余資なく、優暇なき者」のための教育機会の提供という理念の実現を果たしてきた。

しかし設置当初から、通信教育課程の特性に則り、入学定員を 1,000 名と大きく設定しているため、近年は大幅な定員未充足が恒常化している。

このため、本学では平成 21 年度以降、通信教育課程の定員未充足の改善に向けて、以下の検討と取り組みを進めてきた。

・低廉な定額制授業料

平成 24 年度より、授業料を、他大学に比しても大幅に低廉な定額制授業料 10 万円／年間に設定し、従前は別途徴収していたスクーリング受講料や単位認定試験受験料、メディア授業受講料も含めることで、学生の学びやすさを向上させた。

・メディア授業の充実

授業動画を PC 等で視聴するメディア授業は、平成 24 年度より 20 科目開講で開始したが、平成 27 年度には 49 科目開講に増加させている。また、当初は動画の配信を microSD カードの貸与により実施していたが、平成 26 年度よりインターネット配信に変更し、学生の利便性をより向上させた結果、受講者も平成 24 年度の 685 名に対し、平成 27 年度には 1,669 名まで増加した。

・TA による学習サポートの充実

通信教育の学習方法は一人が行うリポート学習が中心となるため、学習サポートとして、TA による「リポートの書き方説明会」や「学習相談会」を定期的に開催するとともに、学習が進んでいない学生には連絡を取り、積極的な支援を実施している。

・Web による学生募集と入試説明会の充実

インターネットによる広報活動を強化するため、入学希望者専用ページを設け、求める情報をより分かりやすく提供できるよう、必要な情報にアクセスしやすくし、よくある質問を Q&A 形式で掲載するとともに、実際のメディア授業を体験できるよう授業の一部を配信している。また、インターネット出願を取り入れ、受験生の出願手続の簡便化を図っている。入試説明会では、通信教育協会の合同説明会（関東、関西、中部）においても募集活動を行うとともに、大学独自の説明会を複数回実施することにより本学の特徴をアピールしている。

しかしながら、これらの取り組みにも関わらず、現状では入学定員超過率は横ばい、もしくはさらなる減少傾向にあり、現状の組織体制において、生涯学習やリカレント教育、資格取得などの社会貢献としての通信教育を実施していくだけでは、これを回復させていくことは困難であることが予測されている。

このことから、現在、学長の下で「通信教育部の今後を考える WG」を設置し、本学通信教育課程の定員未充足の原因の分析を行うとともに、ICT 等を活用した新たな社会教育への発展の可能性も含め、現在の教育組織の改廃も視野に入れた抜本的な改革について検討を進めており、平成 28 年度中には改革の方向性を決定する予定である。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

ここでは、国際学部グローバル・イノベーション学科及び国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）の入学定員確保の見通しについて、以下の 2 種のデータ分析から説明を行う。 a .）基礎となる学部がない国際学部グローバル・イノベーション学科については、高校生への進学意向アンケート調査の結果を用いて説明をし、 b .）基礎となる学部があり、かつ発展的に学部・学科を新設する国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）については、単年度に行うアンケートよりも、過去の入試実績を用いて説明を行う方が、客観的かつ精度の高い根拠であると考え、過去 5 年の入試データを用いて説明を行うこととする。

1)　高校生への進学意向アンケート調査に基づく説明

進学意向アンケート調査を行ったのは「国際学部グローバル・イノベーション学科」である。これは、前述のとおり、基礎となる学科がない新設学科であるため、アンケート調査を実施し高校生の入学意向調査を行うことがニーズの把握に有効であると考えた。

今回のアンケート調査は、東洋大学の既存学部への進学実績がある高校に在籍する高校 2 年生を対象に行った。全部で 190 校 35,372 人を対象に調査票を配布し、その結果 141 校 22,828 件の調査票を回収することができた（回収率 64.5%）。調査対象校はいずれも東洋大学への進学者層が多く存在する高校であり、実際に新設学部学科の学生募集を行う際にも対象とする高校である。その各校の高校 2 年生（平成 28 年度高校 3 年生であり、平成 29 年度新設学部の入学対象者）から極めて高い回答（回収率 64.5%）を得ているため、今回のアンケート調査結果は精度の高い、実態を良く捉えた結果であるといえる。

ただし、今回のアンケート調査の対象高校数の 190 校は、あくまでも本学に志願のある高校数全体の一部であることには留意しておきたい。平成 27 年度入試結果によると、本学は全国の高校 2,469 校から志願者を集めており、今回アンケート調査の対象とした 190 校はそのわずか 7.7%の校数である。その限られた母数を対象としたアンケート調査にもかかわらず、新たに設置する学部学科への進学需要が一定数あることは以下の通り明らかである。今後、実際の学生募集活動の際には、今回の対象校数のおよそ 13 倍にも上る、2,500 校近い志願実績高校の全てを広く対象とした積極的な募集活動を展開するため、今回のアンケート結果以上のさらなる入学意向者を集めることは強く見込まれるとともに、定員増加分の学生確保の見通しは十分に立つと判断している。

なお、アンケート調査時に初年度学納金を「予定金額」と提示し、調査を実施した。その後、学内において今後の収益等も踏まえ学納金の設定を行い、国際学部グローバル・イノベーション学科 1,210,000 円→1,250,000 円に予定金額から変更となった。このことについて、「他大学　学費一覧（資料５）」にあるように、他大学の同一分野（競合校）との学費を比較しても、最終的な学納金は適正な金額設定であることが分かる。また、アンケート時に初年度納付金については「予定」として実施しており、調査結果の精度に影響はないものといえる。

（入学意向アンケート調査概要）

高校 2 年生を対象とした、新設学部学科への入学意向調査（資料６「新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（高校生編）」）

調査対象者：本学既設学部への進学実績等から選定した高校に在籍する高校 2 年生

実施時期：平成 27 年 11 月 28 日～平成 28 年 1 月 12 日

回収状況：190 校 35,372 人を対象にアンケート調査票を配布し、141 校 22,828 件のアンケート調査票を回収することができた（回収率 64.5%）。

調査方法：調査票による定量調査（アンケート調査）

利用資料：アンケート調査票及び新学部学科概要紹介リーフレット

委託業者：丸善雄松堂株式会社

留意事項：今回のアンケートは、国際学部グローバル・イノベーション学科と同じく平成 29 年度新設を予定している他の新設学部学科（文学部国際文化コミュニケーション学科、情報連携学部情報連携学科）への進学意向も同時に行っている。そのため、結果分析に際しては、他学科

の回答結果と重複しないよう留意し、情報連携学部情報連携学科に関する回答だけを抽出して分析を行った。

［国際学部グローバル・イノベーション学科］

グローバル・イノベーション学科への興味関心及び進学意向について聞いたところ、回答のあった生徒のうち、5,397 名（23.6%）が何らかの興味を持ち、2,546 名（11.2%）が何らかの進学意向を持っていることが分かった。なお、「何らかの興味・関心」とは、回答項目のうち、「興味・関心がある」1,973 名（8.6%）、「ある程度の興味・関心がある」3,424 名（15.0%）の合計である。また、「何らかの進学意向」とは、回答項目のうち、「進学を希望する」433 名（1.9%）、「進学を検討する」2,113 名（9.3%）の合計である。

ただし、「進学を希望する」と回答した生徒 433 名のうち、346 名については、グローバル・イノベーション学科と同時に国際文化コミュニケーション学科もしくは情報連携学科への進学意向でも「進学を希望する」と回答している。そこで、「進学したい学問分野」についての回答結果も合わせて集計し、グローバル・イノベーション学科の学問分野と合致する「経済学・経営学・商学」または「国際関係学」を選択した生徒数のみに振り分けてカウントした。その結果、より厳密に、グローバル・イノベーション学科を「進学を希望する」生徒数は 161 名となった。この数値は入学定員（100 名）の 1.6 倍となることから、グローバル・イノベーション学科への進学需要が一定数あることが分かる。

上記アンケート調査は、あくまでも設置届出前の段階における広報活動前での調査結果である（調査対象生徒へは各学科概要紹介リーフレットを配布しただけに過ぎない）。その段階であっても、入学定員以上の一定数の進学意向者の存在は明らかであるが、設置届出後に本格的な広報活動を行うことで、進学意向者数のさらなる増加が考えられる。特に、上記アンケート結果では、グローバル・イノベーション学科への「進学を検討する」と回答している生徒数が 2,113 名（9.3%）であった。これは、東洋大学新設学科への興味関心はありながらも、各学科の具体的な学問内容の理解が行き届いていないために「進学を希望する」とまでは踏み込んだ回答ができない関心層の存在をしめしており、今後、この層に重点を置き、グローバル・イノベーション学科の学問内容について積極的に発信する組織的な広報活動を実施することにより、一層の進学意向者の掘り起こしになることが期待される。なお、広報活動に関しての詳細は、「②学生確保に向けた具体的な取組状況」において後述する。

2)　日本語学校在籍生への進学意向アンケート調査に基づく説明

「スーパーグローバル大学創成支援（タイプ B)」に採択された「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の構想調書において、入学定員のうち留学生比率 30%を目指すこととしていることから、国際学部グローバル・イノベーション学科では、入学定員 100 名のうち 30 名の留学生確保を推進することとしている。

そこで、留学生の進学ニーズの把握のために、東洋大学の既存学部への進学実績がある日本語学校に在籍する留学生を対象に進学意向アンケート調査を行った。全部で 21 校 960 人を対象に調査票を配布し、その結果 18 校 580 件の調査票を回収することができた（回収率 60.4%）。調査対象校はいずれも東洋大学への進学実績のある日本語学校であり、その各学校の生徒のうち、平成 29 年度新設学科への入学対象者から極めて高い回答（回収率 60.4%）を得ているため、今回のアンケート調査結果は精度の高い、実態を良く捉えた結果であるといえる。

なお、アンケート調査時に初年度学納金を「予定金額」と提示し、調査を実施した。その後、学内において今後の収益等も踏まえ学納金の設定を行い、国際学部グローバル・イノベーション学科1,210,000円→1,250,000円に予定金額から変更となった。このことについて、「他大学　学費一覧（資料５）」にあるように、他大学の同一分野（競合校）との学費を比較しても、最終的な学納金は適正な金額設定であることが分かる。また、アンケート時に初年度納付金については「予定」として実施しており、調査結果の精度に影響はないものといえる。

（入学意向アンケート調査概要）
日本語学校在籍生を対象とした、新設学部学科への入学意向調査（資料７「国際学部グローバル・イノベーション学科（仮称）設置計画に係るニーズ調査報告書（留学生編）」）

調査対象者：本学既設学部への進学実績等から選定した日本語学校に在籍する留学生のうち、
　　グローバル・イノベーション学科開設予定年度に入学資格のある生徒
実施時期：平成27年12月11日～平成27年12月21日
回収状況：21校960人を対象にアンケート調査票を配布し、18校580件のアンケート調査票を
　　回収することができた（回収率60.4%）。
調査方法：調査票による定量調査（アンケート調査）
利用資料：アンケート調査票及び新学部学科概要紹介リーフレット
委託業者：丸善株式会社

[国際学部グローバル・イノベーション学科]
グローバル・イノベーション学科への興味関心及び進学意向について聞いたところ、回答のあった生徒のうち、310名（53.4%）が何らかの興味を持ち、338名（58.2%）が何らかの進学意向を持っていることが分かった。なお、「何らかの興味・関心」とは、回答項目のうち、「興味・関心がある」141名（24.3%）、「ある程度の興味・関心がある」169名（29.1%）の合計である。また、「何らかの進学意向」とは、回答項目のうち、「進学を希望する」122名（21.0%）、「進学を検討する」216名（37.2%）の合計である。
グローバル・イノベーション学科への「進学を希望する」生徒数は122名であり、この数値は留学生獲得目標30名に対して4.1倍となることから、グローバル・イノベーション学科への進学需要が一定数あることが分かる。

3)　入試実績データに基づく説明
先に述べたとおり、国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）は、基礎となる既存学部学科があり、かつ、発展的に新設学部学科へと移行する場合であることから、単年度に行うアンケート結果よりも、過去の入試実績を用いて説明を行う方が客観的かつ精度の高い根拠であるため、以下では該当の入試実績データを用いて説明を行う（資料４「国際学部　基礎となる既存学部の過去5年の志願状況及び入学定員増に伴うシミュレーション」）。
まず、平成27年度の一般入試結果において、国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）の基礎となる既存学部・学科の志願倍率を見てみると、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）が20.8倍と3.9倍である。

また、過去5ヶ年の志願倍率の平均値をみても、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）は19.4倍と3.2倍となっており、高い志願倍率を維持し続けていることが分かる。

また、国際学部としての新たな入学定員設定後の状況についても検証することが必要なため、以下の条件を設定してシミュレーションを行った。そのシミュレーション結果からも、入学定員に対し十分な志願者を確保できると判断している。

本学においては、入学定員を一般入試と推薦入試の2種に分けている。平成27年度の一般入試と推薦入試の定員比率に基づき、国際学部としての新たな入学定員予定数を算定した。

はじめに、一般入試については、上記により算出される入学定員について、過去5ヶ年の志願者実績から予想される受験倍率を算出した。さらに、過去5ヶ年の合格者数と入学者数の割合から、入学手続率を算出し、過去5年で最低の入学手続率だったとした場合、新定員の学生数を確保するためには、最低でも何人の志願者が必要なのかを計算した。そしてその最低必要志願者数に対して、過去5年での最低志願者数しか確保できなかったと仮定し、その場合でも入学者選抜を適切に実施できるだけの受験倍率があるのかどうかをシミュレーションすることにより、新定員に対する学生確保の見通しを厳密に検証した。

次に、推薦入試については、本学で実施している公募型推薦及び指定校推薦に大別し、上述の通り、平成27年度の一般入試と推薦入試の定員比率に基づき、国際学部としての新たな入学定員予定数を算定した。推薦入試についても、一般入試と同様の分析を行った。まず、過去5ヵ年の志願者実績から予想される受験倍率を算出した。次に、過去5ヶ年の合格者数と入学者数の割合から、入学手続率を算出し、過去5年で最低の入学手続率だったとした場合、新定員の学生数を確保するためには、最低でも何人の志願者が必要なのかを計算した。そしてその最低必要志願者数に対して、過去5年での最低志願者数しか確保できなかったと仮定し、その場合でも入学者選抜を適切に実施できるだけの受験倍率があるのかどうかをシミュレーションし、新定員に対する学生確保の見通しを厳密に検証した。

上記の検証方法については、過去5ヶ年における平均値のみの想定ではなく、志願者数増減の隔年現象も考慮に入れ、過去最低値での検証も行っており、厳格な条件下でのシミュレーションとなっている。その厳しい条件設定下であっても、新入学定員を満たすだけの志願倍率が算出されており、特に一般入試においては入学者選抜を適切に実施できる志願倍率を維持しながら、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることが可能であると判断できた。

以下、新設の学部学科である国際学部国際地域学科について、基礎となる既存学部学科である国際地域学部国際地域学科の入試実績に基づいた検証内容を、詳細に説明する。

［国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）］

基礎となる学部学科は、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）である。

入学定員は現在の180名から210名に増加させる。それに伴い、入試種別ごとの定員予定数についても、平成27年度の定員比率の割合から算出し、一般入試163名、推薦入試47名（公募型推薦35名、指定校推薦12名）と設定した。

一般入試においては、過去5年の状況から、平均で2,789名、最低でも2,336名の志願者がおり、新入学定員の163名に対する試算でも、平均値で17.1倍、最低値でも14.3倍という、高い予想受験倍率が算出される。

また、過去5ヶ年間において、合格者に対する入学者の比率（入学手続率）は、平均値が21.7%、最低値が16.9%である。よって、163名の入学者を確保するためには、最低値を元に試算すると少なくとも964名の合格者を出す必要がある。これに対し、過去5年の最低志願者数しか確保できなかったとしても、2,336名に対して964名の合格者を出すことで入学定員を確保できる、つまり2.4倍の受験倍率は維持できる（過去5年の平均志願者数で試算の場合は2.9倍）ことから、一定の学力レベルの伴った、適切な入学者選抜の上で学生を確保することが可能であると判断できる。

推薦入試においては、公募型推薦については、過去5年の状況から、平均で107名、最低でも54名の志願者がおり、新入学定員の35名に対する試算でも、平均値で3.1倍、最低値でも1.5倍という受験倍率が試算される。

また、過去5ヶ年間において、合格者に対する入学者の比率（入学手続率）は、平均値が90.0%、最低値が 86.0%である。よって、29 名の入学者を確保するためには、最低値を元に試算すると少なくとも41名の合格者を出す必要がある。これに対し、過去5年の最低志願者数しか確保できなかったとしても、54名に対して41名の合格者を出すことで入学定員を確保できる、つまり1.3倍の受験倍率は維持できる（過去5年の平均志願者数で試算の場合は2.6倍）ことから、新定員を十分に確保できると判断できる。

さらに、指定校推薦については、過去5年の状況から、平均で28名、最低でも15名の志願者がおり、新入学定員の12名を充足させる見通しは十分であると判断できる。

［国際学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース)］

基礎となる学部学科は、国際地域学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）である。

入学定員は現在の110名から80名に減少する。それに伴い、入試種別ごとの定員予定数についても、平成27年度の定員比率の割合から算出し、一般入試59名、推薦入試21名（公募型推薦14名、指定校推薦7名）と設定した。

一般入試においては、過去5年の状況から、平均で257名、最低でも196名の志願者がおり、新入学定員の59名に対する試算でも、平均値で4.4倍、最低値でも3.3倍という、高い予想受験倍率が算出される。

また、過去5ヶ年間において、合格者に対する入学者の比率（入学手続率）は、平均値が40.1%、最低値が 31.2%である。よって、59 名の入学者を確保するためには、最低値を元に試算すると少なくとも189名の合格者を出す必要がある。これに対し、過去5年の最低志願者数しか確保できなかったとしても、196名に対して189名の合格者を出すことで入学定員を確保できる、つまり1.0倍の受験倍率は維持できる（過去5年の平均志願者数で試算の場合は1.4倍）ことから、一定の学力レベルの伴った、適切な入学者選抜の上で学生を確保することが可能であると判断できる。

推薦入試においては、公募型推薦については、過去5年の状況から、平均で22名、最低でも13名の志願者がおり、新入学定員の14名に対する試算だと、平均値で1.6倍、最低値だと0.9倍という受験倍率が試算される。

また、過去5ヶ年間において、合格者に対する入学者の比率（入学手続率）は、平均値が97.2%、最低値が 90.5%である。よって、14 名の入学者を確保するためには、最低値を元に試算すると少なくとも15名の合格者を出す必要がある。これに対し、過去5年の最低志願者数しか確保できなかったとすると、14名に対して15名の合格者を出す必要があり、その受験倍率は0.9倍となるが、過去5年の平

均志願者数で試算した場合は 1.6 倍の受験倍率となることから、新定員の確保の見通しには大きな不安はないと判断できる。

さらに、指定校推薦については、過去 5 年の状況から、平均で 34 名、最低でも 20 名の志願者がおり、新入学定員の 7 名を充足させる見通しは十分であると判断できる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

国際学部グローバル・イノベーション学科及び国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）の学生納付金については次の通りである。

国際学部グローバル・イノベーション学科は、入学金 250,000 円、授業料 780,000 円、施設金 220,000 円とし、初年度学生納付金の合計を 1,250,000 円とした。国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）は、入学金 250,000 円、授業料 780,000 円、施設金 220,000 円とし、初年度学生納付金の合計を 1,250,000 円とした。国際学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）は、入学金 180,000 円、授業料 430,000 円、施設金 100,000 円とし、初年度学生納付金の合計を 710,000 円とした。

既存の学部学科と比べると、国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）で国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）の合計 1,150,000 円に比べて 100,000 円高い額である（授業料を 100,000 円増額した）。国際学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）は国際地域学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）の合計 710,000 円と同額である。国際学部グローバル・イノベーション学科は新規の設定であるが、国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）と同額の設定とした。

国際学部は、本学の国際化の中核を担い、大学改革（グローバル化）を飛躍的に推進させるとともに、日本のグローバル化を牽引するスーパーグローバル大学創成支援採択事業「TOYO GLOBAL DIAMONDS 構想」の実現を目指すためのフラッグシップとする学部であり、これまでの学部とは違う、教育課程の刷新と教員組織の大幅な充実を図っている。その教員体制整備に伴う人件費及び経常経費といった財務的な観点を検討するとともに、他大学の類似学部・学科における学生納付金の設定状況を勘案した上で、上記の金額を設定している。

同一分野を有する他大学（競合校）の学生納付金と比較すると、「他大学　学費一覧（資料５）」にあるように、国際学部が設定した学生納付金額は平均的あるいは下方の位置にあることが分かることから、この学生納付金の設定は妥当であると判断した。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組としては、受験生に対して、本学での「学び」を中心とした情報を提供することで、受験生が具体的な目標を持って学部・学科選びを行うことができるように、大学及び各キャンパスにおけるオープンキャンパス、約 100 講座を高校生に公開する「学び LIVE」、全国で実施する「東洋大学受験バックアップ講座」や「One Day Campus」を実施している。また、学外での進学相談会等も、実施し、大学での学びに関する具体的なイメージを提示してきた。

平成 25 年度からは、学部・学科の最新情報や、大学での学修や学生生活をリアルに受験者に伝えるために、いわゆる「大学案内」と呼ばれる冊子体のパンフレット作成を廃止し、受験生に対する情報は、随時情報の更新が可能で豊富な写真や動画を掲載した「TOYO Web Style」という入試情報サイト

(http://www.toyo.ac.jp/nyushi/)にすべて掲載することとした。このサイトは、冊子で作成していた学部・学科の紹介に関する情報を、単に配信するだけにとどまっていない。例えば「Web 体験授業」という、東洋大学の教員が、自身の専門分野に関する授業を通して、「学びの世界」を紹介する受験生向けの動画コンテンツを配信することや、「学びのコラム」という、教員や学生が、記事・写真・動画を用いて東洋大学の学びの魅力を発信していくものとなっており、受験生はいつでも本学の「学び」を知ることができるようになっている。

入試については、一般入試と推薦入試（附属高校を含む）に分かれているが、全入試方式の入学定員、昨年度の入試結果、試験科目、選考方法等の他、入試実施時期には志願者速報を掲載するなど、全情報をホームページ上で公開し、入試の透明性を高める他、受験生に対して広く門戸を開いている。また、平成 26 年度入試からは、出願方法についても全国に先駆けてインターネット出願を導入し、受験生が願書請求などの手間や時間を削減できるようにしている。

組織的な体制としては、学長を委員長とし、各学部長を主たる構成員とする「東洋大学入試委員会」があり、その下に各学部が学部内入試委員会を設置している。学生募集及び入学者選抜の方法については、毎年 9～10 月に、入試部が各種入試結果データの原因を調査・分析し、その結果報告と次年度入試に向けての提案を、各学部に対して行っている。調査・分析は入試方式ごとの志願者、合格者、入学者手続者の推移、及び入試方式別の在学中の学業成績や就職状況等をもとに行っており、この分析に基づき、入試方式・募集人員・受験科目の設定の精査などを毎年行っている。この提案については、各学部の入試委員会等で検討を行い、3 月中旬の中間集約を経て、4 月開催の「東洋大学入試委員会」において最終集約・点検を行うことで、学生の確保に向けた改革・改善に努めている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学では、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を教育の３本柱とした教育を実践し、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事を捉え、自らの未来を切り拓くことのできる「グローバル人財(人という財産)」の育成を目指している。

この大学としての目標の下に、本学部学科では次のような人材養成に関する目的・教育研究上の目的を有している。

[国際学部]

国際学部においては、経済、貧困、資源、環境、紛争などさまざまな課題が新たに発生しているグローバルな社会において、地域の多様性とさまざまなグローバル・システムとの関連性の理解に基づいて、経済、社会などのさまざまなシステムに変革（イノベーション）を起こしうる人材、及び多様な地域における課題解決と自律的な発展に貢献しうる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

・グローバル社会における諸問題や地域の社会、歴史、生活、価値観に根ざした諸問題に対する知識と、それらの諸問題を分析する能力。
・国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション力。

・地域社会における課題解決に向けた実践的能力、イノベーションを構想・推進していくための構想力、及びリーダーシップ能力。

なお、学部内に設置する各学科の要請する人材像と教育研究上の目的は以下の通りである。

［国際学部グローバル・イノベーション学科］

国際学部グローバル・イノベーション学科においては、課題が山積するグローバル社会において、創造性と起業家精神に満ち、果敢に行動することを厭わない、国際社会システムにイノベーションを起しうる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

・グローバル社会における諸課題に対する知識と、経済学を基本とした視点でそれらの課題を分析する能力。
・国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力
・企業や社会における新たな価値の創造を促すイノベーションを構想・推進していくための構想力・リーダーシップ能力。

［国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース)］

国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）においては、国際的な視野のもとに現場主義に基づく「地域づくり」を国内外で展開し、アジアを中心に開発支援やビジネスなどを通して地域の発展に貢献していくことができる、高度な知識を元に実践することができる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

・地域の諸問題に対する知識と、人文科学・社会科学・自然科学の多様なアプローチを用いてそれらの諸問題を分析する能力。
・国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション能力。
・国内外での「地域づくり」の現場における課題への対応のノウハウと、それを具体的に実践していく能力。

［国際地域学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース)］

国際学部国際地域学科地域総合専攻（夜間主コース）においては、地域に対する俯瞰的な視点のもとに現場主義に基づく「地域づくり」を国内外で展開し、アジアを中心に開発支援やビジネスなどを通して地域の発展に貢献していくことができる、より実践的な力を持つ人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標とする。

・地域の諸問題に対する知識と、人文科学・社会科学・自然科学の多様なアプローチを用いて俯瞰的な視点からそれらの問題を客観的に分析する能力。
・異文化環境における実践的な語学能力、コミュニケーション能力。
・「地域づくり」の現場における課題に対応するためのノウハウと、それを具体的に実践していく能力。

② 上記①が社会的､地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

今回新たに設置する国際学部の必要性について、２つの側面から説明を行う。１つ目は、上記の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的が、社会的に現在及び今後も含めて需要があるものであるということを､各種機関から出されている資料を元に説明すること。２つ目は､企業への採用意向調査（アンケート）の結果、または本学の過去の就職状況データを元に説明すること。この２つの側面から、客観的な根拠を示していくこととする。

ア　社会的な需要について

国際学部が目指す「グローバル人材の養成」について、まずグローバル人材とはいかなるものか。その要素は次の３つのようなものだと考えられている。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティ

（「平成 24 年 6 月 4 日開催　グローバル人材育成推進会議（資料８）」）

これに対し、国際学部では「① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）」で記述したグローバル人材の養成を行うこととしている。

また、国際学部においては、経済、貧困、資源、環境、紛争などさまざまな課題が新たに発生しているグローバルな社会において、地域の多様性とさまざまなグローバル・システムとの関連性の理解に基づいて、経済、社会などのさまざまなシステムに変革（イノベーション）を起こしうる人材、及び多様な地域における課題解決と自律的な発展に貢献しうる人材の養成を目的とする。そのため、以下の３つの能力を習得させることを目標としている。

1）グローバル社会における諸問題や地域の社会、歴史、生活、価値観に根ざした諸問題に対する知識と、それらの諸問題を分析する能力。

2）国際社会を舞台に活躍するための異文化環境における実践的な語学力、コミュニケーション力。

3）地域社会における課題解決に向けた実践的能力、イノベーションを構想・推進していくための構想力、及びリーダーシップ能力。

また、この他に、平成 27 年 3 月に社団法人日本経済団体連合会から発表された「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果（資料９）」を見ると、大学に期待する取り組みとして「日本人学生の海外留学の奨励」が突出して高い結果となっている。学生時代に海外経験を積んで欲しいという企業の意向であり、特に、国際学部グローバル・イノベーション学科の１年間の海外留学を必須とする取り組みは、社会的な需要に応えたものであるといえる。また、もう一つ注目したいのは、経団連会員では「外国人留学生の受け入れ拡大に向けた取り組み」が 2 番目にきている点である。これも、留学生の受け入れを積極的に展開していく新学部の意向、特にグローバル・イノベーション学科の 30%の留学生受け入れを目標とする取り組みに合致しているといえる。

これらのことから､新学部で育てる人材の一つである「グローバル人材の養成」は需要が高く、また、その需要に応えているといえる。

イ　企業への採用意識調査及び本学の過去の就職状況データについて

ここでは、人材需要に関する説明について、基礎となる学科がない新設学科では企業への採用意向調査（アンケート）の結果を用いて、また、基礎となる学科があり発展的に学科を新設する場合では、アンケートよりも、既に採用実績のある本学の過去の就職状況データを用いて説明を行う方が客観的で精度の高い根拠であると考え、過去5年の就職状況データを用いて説明を行うこととする。

1)　企業への採用意向調査（アンケート）

採用意向調査を行ったのは「国際学部グローバル・イノベーション学科」である。これは、前述のとおり、基礎となる学科がない等の新設学科であるため、アンケート調査を実施し採用担当者の意向調査を行うことが社会におけるニーズの把握に有効であると考えた（委託業者：丸善雄松堂株式会社）。

今回のアンケート調査は、東洋大学の既設学部から採用実績があり、かつ新学部・学科の就職先として考えられる1,237事業所を対象に行い、363件（回収率29.3%）のアンケートを回収した。回答があった事業所の過去の採用人数は、平成25年度：347事業所11,562人、平成26年度：348事業所11,682人、平成27年度：347事業所12,379人となっており、採用人数は増加傾向にあること、また11,000人以上を毎年度採用していることから、採用の需要が安定している事業所であるといえる（資料10「新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（事業所編）」）。

なお、今回のアンケートは、国際学部グローバル・イノベーション学科と同じく平成29年度新設を予定している他の新設学部学科（文学部国際文化コミュニケーション学科、情報連携学部情報連携学科）への進学意向も同時に行っている。そのため、結果分析に際しては、他学科の回答結果と重複しないよう留意し、国際学部グローバル・イノベーション学科に関する回答だけを抽出して分析を行った。

［国際学部グローバル・イノベーション学科］

まず、採用担当者の視点から設置の必要性をどのくらい感じているかについてだが、回答があった363事業所のうち、「必要性を感じる:135事業所(37.2%)」「ある程度の必要性を感じる:178事業所(49.6%)」と、90%近くの事業所で必要性を感じているという結果となり、グローバル・イノベーション学科が排出するグローバル人材への期待の高さが伺える。ただし、「わからない」という回答が23事業所(6.3%)となっている。グローバル・イノベーション学科の人材育成である「コミュニケーション能力」「チャレンジ精神・積極性」が、人材採用の際の重視点として多かったにも関わらず、このような結果であったことは、卒業生を輩出するのが平成32年度と先であることが起因しているだけではなく、養成する人材像や教育・研究の特色が十分に浸透していない可能性も考えられるため、今後、企業に向けた積極的な広報活動を行っていくことが重要であることが分かった。

採用については、「採用したい」という積極的な回答があったのが91事業所（25.1%）あり、そのうち採用人数について回答があった数の合計は300人～326人であり、グローバル・イノベーション学科の入学定員（100人）に対して3.0倍～3.3倍となる。また、「採用したい」事業所のうち、人数が未回答であった事業所の採用の可能性のある人数を1事業所あたり最小で0人、最大で1人×50%とし、かつ「採用を検討したい」という事業所のうち採用人数の記載があった人数の20%が採用されると仮定した場合、採用の可能性のある人数は362人～410人で、入学定員（100人）に対して3.6倍～4.1倍となる。これらのことから、国際学部グローバル・イノベーション学科の卒業生に対する採用需要は一定数あるといえる。

一方、「採用したい」または「採用を検討したい」と回答があった 267 事業所の過去の採用実績について見てみると、平成 25 年度：10,052 人、平成 26 年度：10,155 人、平成 27 年度：10：742 人となっている。このことは、毎年度 10,000 人以上採用しているだけではなく、採用人数が年々増えていることが分かる。この 267 事業所の採用実績は、グローバル・イノベーション学科の卒業生にとって採用の可能性がある枠と考えられ、入学定員（100 人）に対して、100.5 倍～107.4 倍となり、潜在的な需要があると考えられる。

以上のことから、国際学部グローバル・イノベーション学科について、企業からの設置に関する必要性、及び卒業生に対する採用需要があるといえる。

2)　本学の過去の就職状況データ

「国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）」については、基礎となる学部学科があるため、大学全体の就職状況と、既存学部学科である国際地域学部国際地域学科の就職状況について、それぞれ過去 5 年の就職状況データを用いて説明を行うこととする。

［大学全体］

「東洋大学就職状況表（資料 11）」を見てみると、第 1 部全学部の就職状況について、平成 23 年 3 月卒業の学生が就職希望者数 3,945 名に対し、実際に就職した人数（就職者数）は 3,578 名で 90.7％となっている。その後、就職者数は平成 24 年度 3 月卒：3,733 名（94.4％）、平成 25 年度 3 月卒：4,432 名（96.5％）、平成 26 年度 3 月卒：4,230 名（96.9％）、平成 27 年度 3 月卒：4,555 名（97.6％）となっている。ここから分かることは、就職希望者数が、5 年の間に 1.18 倍に増えているにも関わらず、就職率は 90.7％から 97.6％と 6.9 ポイントアップしていること、また、過去 5 年の間、就職率は毎年上昇していることが分かる。

次に、本学への求人件数についてだが、「東洋大学求人件数推移（資料 12）」を見てみると、平成 23 年 3 月卒業の学生向け件数は、合計 11,382 件となっている。その後、平成 24 年 3 月卒：10,785 件、平成 25 年 3 月卒：12.371 件、平成 26 年 3 月卒：13,716 件、平成 27 年 3 月卒：15,599 件となっている。ここから分かることは、求人件数が、5 年の間に 11,382 件から 15,599 件と 1.4 倍程度にまで件数が伸びていること、また、平成 24 年 3 月以降は、毎年求人件数が増えていることが分かる。

以上のことから、企業からの東洋大学生へのニーズが、学部を問わず安定してあるといえる。

［国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）］

国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）の基礎となる国際地域学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）の就職状況について、「東洋大学就職状況表（資料 11）」を見てみると、平成 23 年 3 月に卒業した学生の就職希望者に対する就職率は 90.6％であった。その後、平成 24 年 3 月卒：92.9％、平成 25 年 3 月卒：97.8％、平成 26 年 3 月卒：98.5％、平成 27 年 3 月卒：98.7％となっており、年々就職率が上がっていることが分かる。また、平成 25 年 3 月以降は 97％以上の就職率を維持しており、非常に安定して需要があるといえる。大学全体から見てみても、大学平均値よりここ数年は高い状況が続いており、国際地域学科への期待の高さが伺える。

これに加え、企業への採用意識調査において、人材採用の重視点でいずれの学部・学科でも多くを占めた「コミュニケーション能力」については、国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）が育てる人

材養成に合致していること、また、前述した社会的な需要がある「グローバル人材の養成」を考えると、入学定員 30 名増に対する需要は十分あるといえる。なお、学科として国際地域専攻（昼間主コース）と地域総合専攻（夜間主コース）の合計収容定員数に変更はないため、人材採用の需要は十分に確保できるといえる。

以上のことから、国際学部国際地域学科国際地域専攻（昼間主コース）・地域総合専攻（夜間主コース）について、企業からの設置に関する必要性、及び卒業生に対する採用需要があるといえる。

以　上

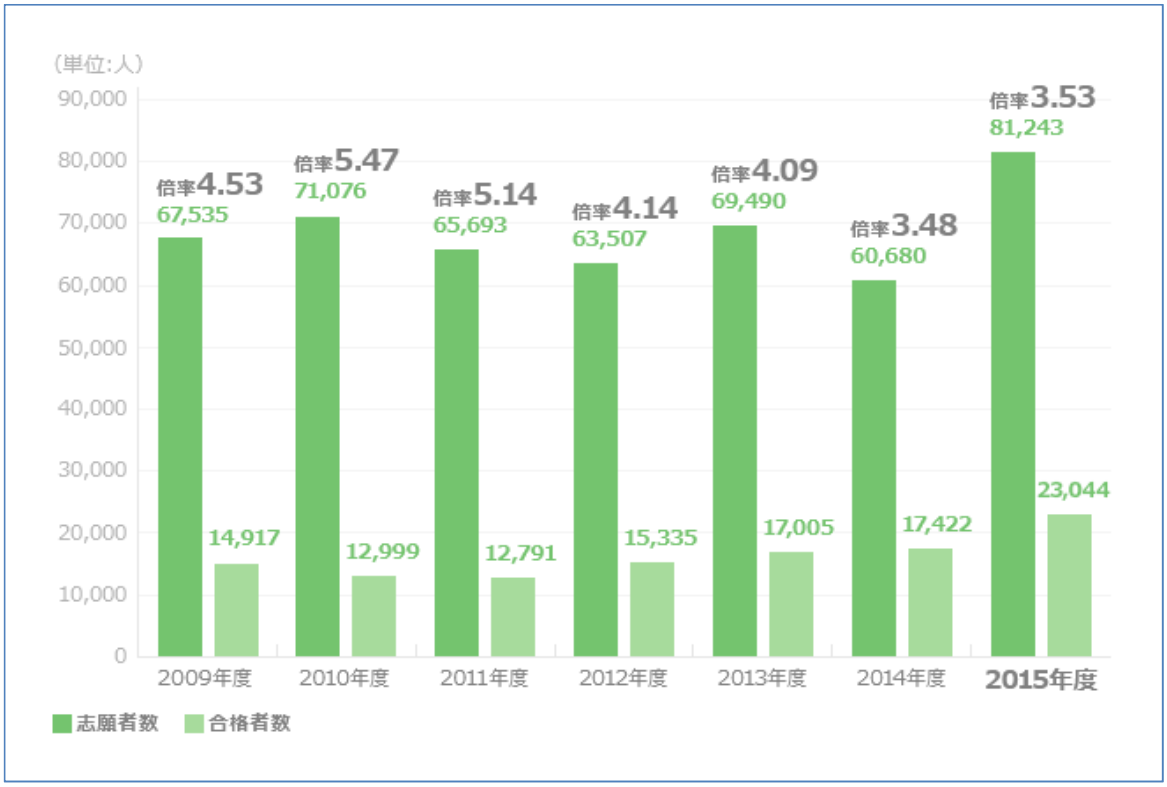
資料目次

資料１　東洋大学一般入試志願者推移（2009～2015 年度）
資料２　出身高校の所在地県別入学者数
資料３　株式会社リクルートマーケティングパートナーズ「リクルート進学総研マーケット
リポート vol.18（南関東版）」
（参考：2 頁「18 歳人口予測(全体：南関東：2015～2026 年)」）
資料４　国際学部　基礎となる既存学部の過去 5 年の志願状況及び入学定員増に伴う
シミュレーション
資料５　他大学　学費一覧
資料６　新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（高校生編）
資料７　国際学部グローバル・イノベーション学科（仮称）設置計画に係る
ニーズ調査報告書（留学生編）
資料８　内閣府「平成 24 年 6 月 4 日開催　グローバル人材育成推進会議」
（参考：8 頁「2. グローバル人材の育成及び活用について」）
資料９　一般社団法人 日本経済団体連合会「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる
取り組みに関するアンケート結果」
（参考：15 頁「第Ⅱ部：グローバル人材の育成に向けた教育機関への期待」）
資料 10　新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（事業所編）
資料 11　東洋大学就職状況表
資料 12　東洋大学求人件数推移

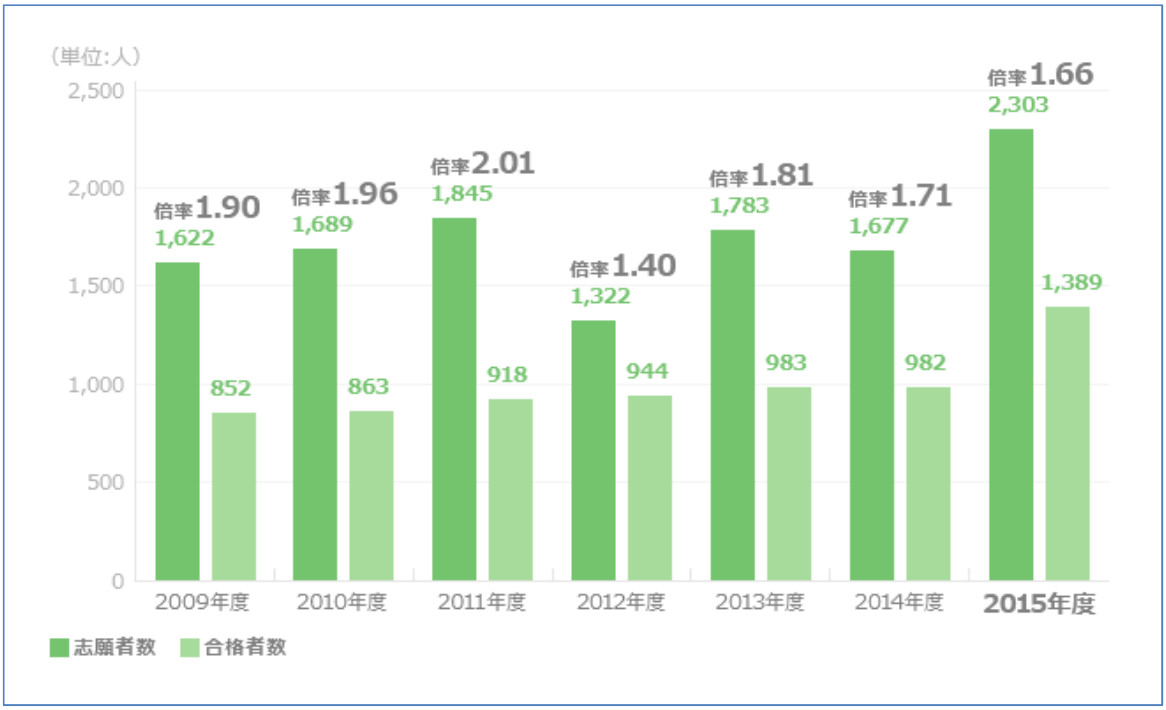
※重要な部分の明示が必要な場合のみ、資料名の後に「(参考：　)」と記載しています。

東洋大学一般入試志願者推移（2009～2015年度）

＜第１部＞



＜イブニングコース・第２部＞



出身高校の所在地県別入学者数

			平成27年（2015年）	平成26年（2014年）	平成25年（2013年）	平成24年（2012年）	平成23年（2011年）
南関東	埼玉県	男	965	1,000	1,028	943	971
		女	551	546	595	589	588
		計	1,516	1,546	1,623	1,532	1,559
	千葉県	男	522	486	472	480	490
		女	390	392	368	398	380
		計	912	878	840	878	870
	東京都	男	1,024	1,015	973	1,022	922
		女	841	802	832	756	810
		計	1,865	1,817	1,805	1,778	1,732
	神奈川県	男	250	213	266	231	216
		女	234	245	248	195	160
		計	484	458	514	426	376
北関東	茨城県	男	297	335	258	330	369
		女	283	238	216	239	255
		計	580	573	474	569	624
	栃木県	男	132	117	120	83	114
		女	106	89	80	63	69
		計	238	206	200	146	183
	群馬県	男	126	119	106	119	119
		女	87	93	79	74	78
		計	213	212	185	193	197
その他		男	1,089	997	973	861	933
		女	626	549	580	512	387
		計	1,715	1,546	1,553	1,373	1,320
合計人数			7,523	7,236	7,194	6,895	6,861
南関東（割合）			63.5%	64.9%	66.5%	66.9%	66.1%
北関東（割合）			13.7%	13.7%	11.9%	13.2%	14.6%
関東（割合）			77.2%	78.6%	78.4%	80.1%	80.8%

著作権者の許諾が得られない書類

①書類等の題名

「リクルート進学総研マーケットリポート vol.18（南関東版）」

②出典

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

http://souken.shingakunet.com/research/2016/03/2015-dac0.html

③書類等の利用範囲

2 頁「18 歳人口予測(全体：南関東：2015～2026 年)」

④その他，著作物等について加工している場合には，その加工に関する説明。

なし

【国際学部　国際地域学科国際地域専攻】
※基礎となる「国際地域学部国際地域学科国際地域専攻」のデータを元に、シュミレーションを実施

1）過去5年の状況

●一般入試

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数
2011年度	145	2,336	2,227	587	4.0	142	24.2%	599
2012年度	145	2,934	2,779	730	4.0	157	21.5%	674
2013年度	145	2,884	2,788	705	4.1	171	24.3%	598
2014年度	145	2,877	2,811	722	4.0	156	21.6%	671
2015年度	140	2,913	2,837	891	3.3	151	16.9%	828

※志願倍率　平成27年度　：　20.8倍
過去5年平均　：　19.4倍

●公募型推薦等入試

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数
2011年度	25	122	119	29	4.2	25	86.2%	29
2012年度	25	85	84	27	3.1	25	92.6%	27
2013年度	25	54	53	36	1.5	33	91.7%	27
2014年度	25	167	161	43	3.9	37	86.0%	29
2015年度	30	108	99	45	2.4	42	93.3%	32

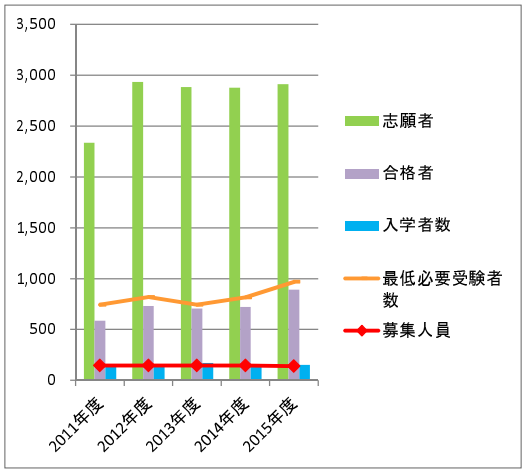
●指定校推薦等入試

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数
2011年度	10	46	46	46	1.0	46	100.0%	10
2012年度	10	29	29	29	1.0	29	100.0%	10
2013年度	10	15	15	14	1.1	14	100.0%	10
2014年度	10	25	25	25	1.0	25	100.0%	10
2015年度	10	24	24	24	1.0	23	95.8%	10

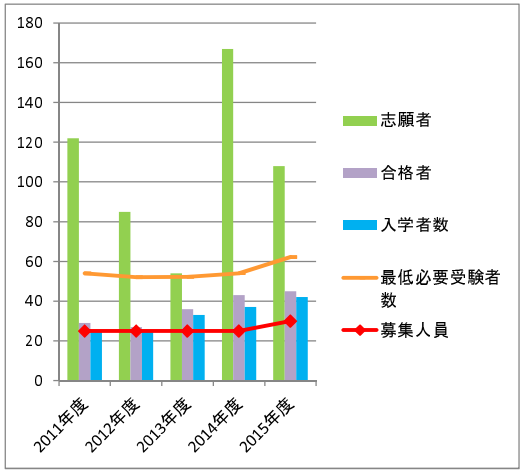
●全体

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数	定員超過率
2011年度	180	2,504	2,392	662	3.8	213	32.2%	638	1.08
2012年度	180	3,048	2,892	786	3.9	211	26.8%	711	1.18
2013年度	180	2,953	2,856	755	3.9	218	28.9%	635	1.17
2014年度	180	3,069	2,997	790	3.9	218	27.6%	710	1.21
2015年度	180	3,045	2,960	960	3.1	216	22.5%	871	1.21

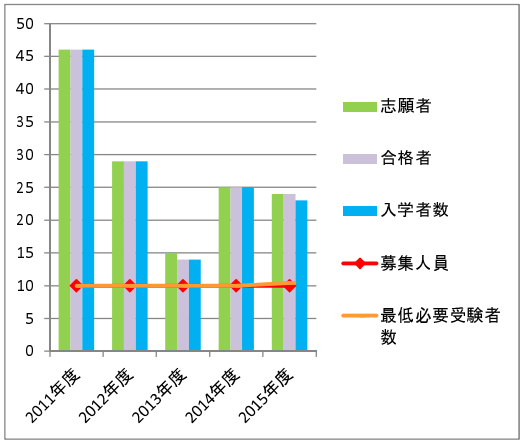
●一般入試



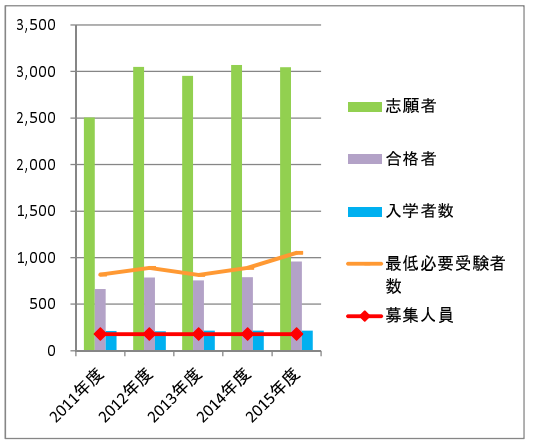
●公募型推薦等入試



●指定校推薦等入試



●全体



2)入学定員増に伴うシュミレーション

[収容定員増に伴う予測数]

	定員変更前	定員変更後
入学定員	180	210
一般入試	140	163
公募型推薦等入試	30	35
指定校推薦等入試	10	12

※2015年度の定員

[定員変更前]

●一般入試 （過去5年）

	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	過去最低	過去最高	平均値
志願者	2,913	2,877	2,884	2,934	2,336	2,336	2,934	2,789
合格者	891	722	705	730	587	ー	ー	ー
入学者数	151	156	171	157	142	ー	ー	ー
手続率	16.9%	21.6%	24.3%	21.5%	24.2%	16.9%	24.3%	21.7%

●公募型推薦等入試(過去5年)

	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	過去最低	過去最高	平均値
志願者	108	167	54	85	122	54	167	107
合格者	45	43	36	27	29	ー	ー	ー
入学者数	42	37	33	25	25	ー	ー	ー
手続率	93.3%	86.0%	91.7%	92.6%	86.2%	86.0%	93.3%	90.0%

●指定校推薦等入試(過去5年)

	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	過去最低	過去最高	平均値
志願者	24	25	15	29	46	15	46	28
合格者	24	25	14	29	46	ー	ー	ー
入学者数	23	25	14	29	46	ー	ー	ー

[定員変更後(シュミレーション結果)]

●一般入試

	平均値想定	最低値想定
新入学定員	163	163
志願者数	2,789	2,336
志願倍率	17.1 倍	14.3 倍

●一般入試 （過去最低の手続率･志願者を考慮）

	数値
新入学定員	163
最低必要志願者数	964
過去最低志願者数	2,336
志願倍率	2.4 倍

※平均志願者数の場合は、2.9倍

●公募型推薦等入試

	平均値想定	最低値想定
新入学定員	35	35
志願者数	107	54
志願倍率	3.1 倍	1.5 倍

●公募型推薦等入試 （過去最低の手続率･志願者を考慮）

	数値
新入学定員	35
最低必要志願者数	41
過去最低志願者数	54
志願倍率	1.3 倍

※平均志願者数の場合は、2.6倍

●指定校推薦等

	平均値想定	最低値想定
新入学定員	12	12
志願者数	28	15

【国際学部　国際地域学科地域総合専攻】
※基礎となる「国際地域学部国際地域学科地域総合専攻」のデータを元に、シュミレーションを実施

1）過去5年の状況をグラフ化したもの

●一般入試

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数
2011年度	80	303	292	143	2.1	73	51.0%	157
2012年度	80	196	183	162	1.2	56	34.6%	231
2013年度	80	224	213	152	1.5	63	41.4%	193
2014年度	80	245	237	147	1.7	62	42.2%	190
2015年度	81	316	303	173	1.8	54	31.2%	260

※志願倍率　平成27年度　：　3.9倍
過去5年平均　：　3.2倍

●公募型推薦等入試

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数
2011年度	21	26	23	23	1.1	22	95.7%	22
2012年度	21	24	24	24	1.0	24	100.0%	21
2013年度	21	13	13	13	1.0	13	100.0%	21
2014年度	21	21	20	12	1.8	12	100.0%	21
2015年度	19	26	26	21	1.2	19	90.5%	21

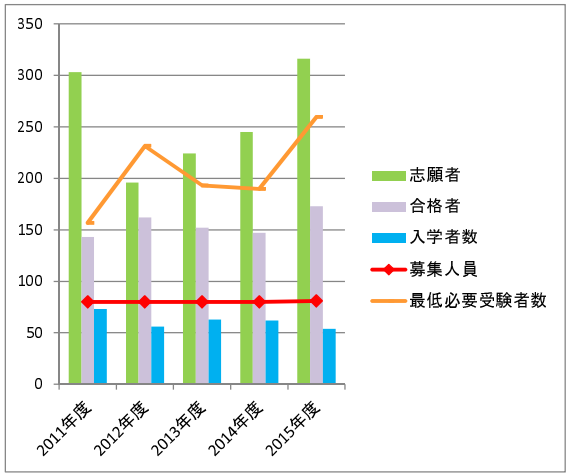
●指定校推薦等入試

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数
2011年度	9	20	20	20	1.0	20	97.7%	9
2012年度	9	27	27	26	1.0	26	100.0%	9
2013年度	9	37	37	36	1.0	35	98.0%	9
2014年度	9	44	44	44	1.0	43	98.2%	9
2015年度	10	43	43	43	1.0	43	100.0%	10

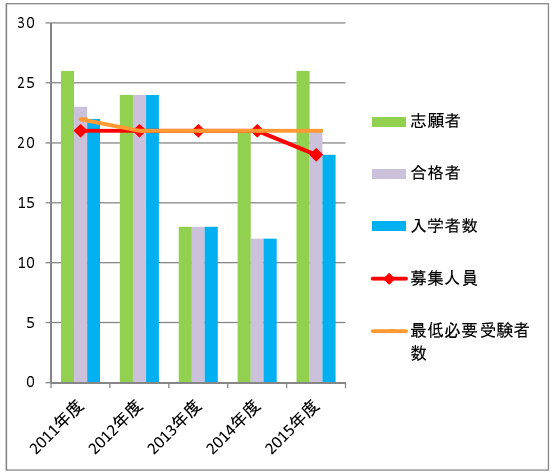
●全体

	募集人員	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者数	手続率	最低必要受験者数	定員超過率
2011年度	110	349	335	186	1.9	115	61.8%	188	0.6
2012年度	110	247	234	212	1.2	106	50.0%	261	1.0
2013年度	110	274	263	201	1.4	111	55.2%	223	1.0
2014年度	110	310	301	203	1.5	117	57.6%	220	1.0
2014年度	110	385	372	237	1.6	116	48.9%	291	1.1

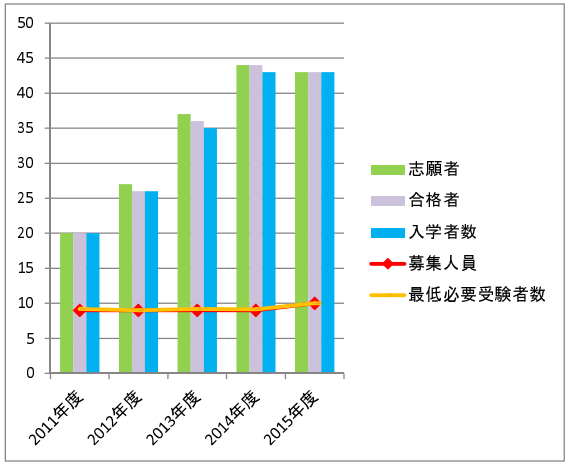
●一般入試



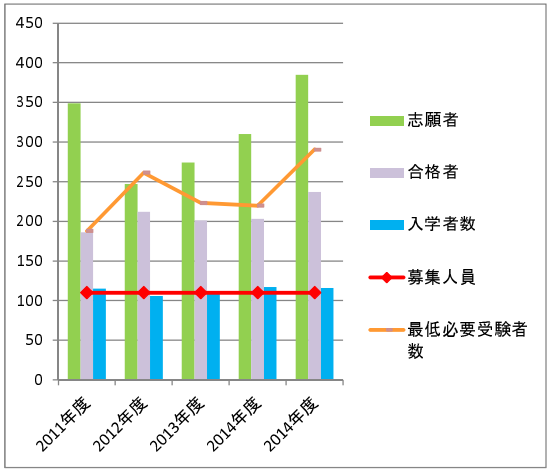
●公募型推薦等入試



●指定校推薦等入試



●全体



2)入学定員増に伴うシュミレーション

[収容定員増に伴う予測数]

	定員変更前	定員変更後
入学定員	110	80
一般入試	81	59
公募型推薦等入試	19	14
指定校推薦等入試	10	7

※2015年度の定員

[定員変更前]

●一般入試 （過去5年）

	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	過去最低	過去最高	平均値
志願者	316	245	224	196	303	196	316	257
合格者	173	147	152	162	143	ー	ー	ー
入学者数	54	62	63	56	73	ー	ー	ー
手続率	31.2%	42.2%	41.4%	34.6%	51.0%	31.2%	51.0%	40.1%

●公募型推薦等入試（過去５年）

	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	過去最低	過去最高	平均値
志願者	26	21	13	24	26	13	26	22
合格者	21	12	13	24	23	ー	ー	ー
入学者数	19	12	13	24	22	ー	ー	ー
手続率	90.5%	100.0%	100.0%	100.0%	95.7%	90.5%	100.0%	97.2%

●指定校推薦等入試（過去５年）

	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	過去最低	過去最高	平均値
志願者	43	44	37	27	20	20	44	34
合格者	43	44	36	26	20	ー	ー	ー
入学者数	43	43	35	26	20	ー	ー	ー

[定員変更後(シュミレーション結果)]

●一般入試

	平均値想定	最低値想定
新入学定員	59	59
志願者数	257	196
志願倍率	4.4 倍	3.3 倍

●一般入試 （過去最低の手続率･志願者を考慮）

	数値
新入学定員	59
最低必要志願者数	189
過去最低志願者数	196
志願倍率	1.0 倍

※平均志願者数の場合は、1.4倍

●公募型推薦等入試

	平均値想定	最低値想定
新入学定員	14	14
志願者数	22	13
志願倍率	1.6 倍	0.9 倍

●公募型推薦等入試 （過去最低の手続率･志願者を考慮）

	数値
新入学定員	14
最低必要志願者数	15
過去最低志願者数	13
志願倍率	0.9 倍

※平均志願者数の場合は、1.5倍

●指定校推薦等

	平均値想定	最低値想定
新入学定員	7	7
志願者数	34	20

著作権者の許諾が得られない書類

①書類等の題名

他大学　学費一覧

②出典

東洋大学作成（各大学 HP 等）

③書類等の利用範囲

参考資料としてすべて

④その他，著作物等について加工している場合には，その加工に関する説明。

なし

東洋大学　御中

新学部 学科設置計画に係る
ニーズ調査報告書（高校生編）

平成28年3月
丸善雄松堂株式会社
大学経営コンサルティング部

目次

- 調査概要 P2
- 全体集計結果 P3
- 補記 P18

調査概要

1. 調査目的	東洋大学 新学部 学科設置計画検討のため、本アンケート調査により高校生の卒業後の進路に関する意向等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする。
2. 調査対象	東洋大学 既設学部への進学実績等から選定した高等学校に在籍する高校2年生。
3. 実施時期	平成27年11月28日～平成28年1月12日
4. 回収状況	本調査では、190校35,372人を対象に調査票を配布し、その結果141校 22,828件の調査票を回収することができた。（回収率64.5%）
5. 調査方法	調査票による定量調査(アンケート調査)
6. 利用調査票	添付アンケート調査票参照

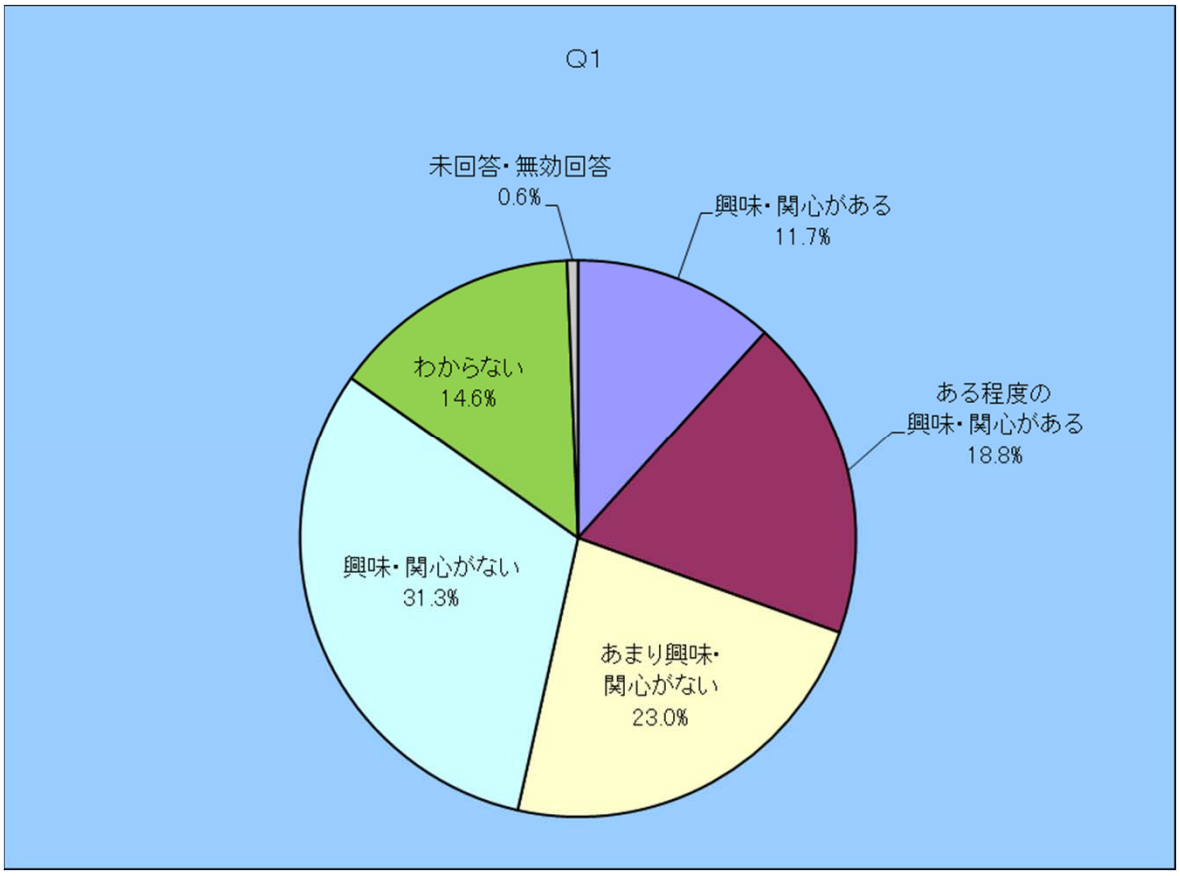
全体集計結果

Q1)国際文化コミュニケーション学科（仮称）への興味・関心

回答者の国際文化コミュニケーション学科（仮称）への興味・関心は、「興味・関心がある」が2,675人（11.7%）、「ある程度の興味・関心がある」が4,290人（18.8%）で、これらの合計が6,965人（30.5%）となっている。一方、「あまり興味・関心がない」は5,246人（23.0%）、「興味・関心がない」は7,146人（31.3%）で、これらの合計は12,392人（54.3%）となっている。また、3,326人（14.6%）の生徒が「わからない」と回答しており、この層には国際文化コミュニケーション学科（仮称）の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の0.6%となっている。

Q1)東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)に興味・関心がありますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	22,828	100.0%
興味・関心がある	2,675	11.7%
ある程度の興味関心がある	4,290	18.8%
あまり興味・関心がない	5,246	23.0%
興味・関心がない	7,146	31.3%
わからない	3,326	14.6%
未回答・無効回答	145	0.6%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

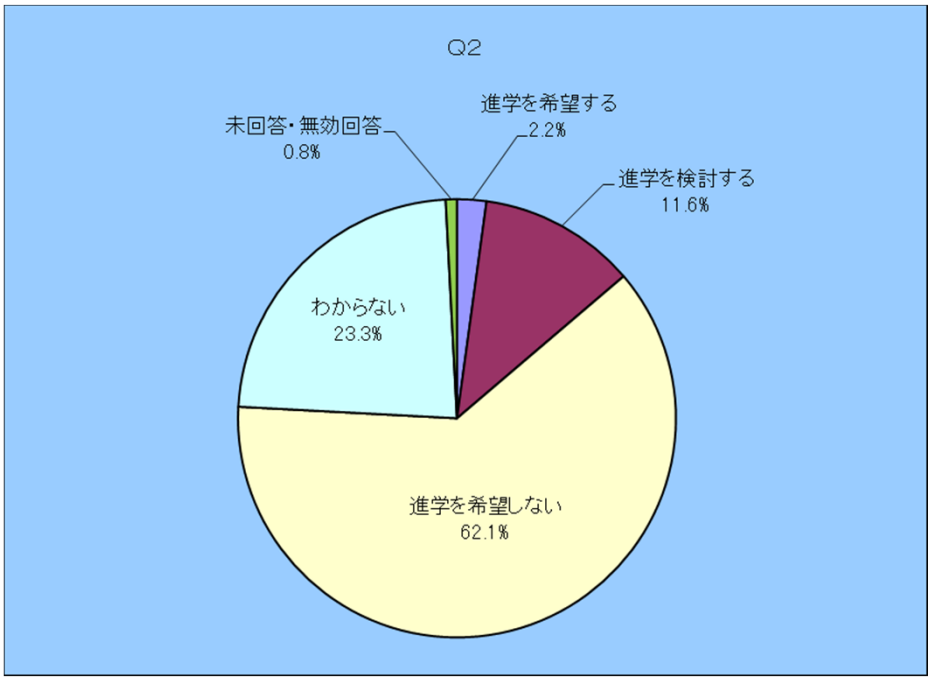
Q2)国際文化コミュニケーション学科（仮称）への進学意向

回答者の国際文化コミュニケーション学科（仮称）への進学意向は、「進学を希望する」が493人（2.2%）、「進学を検討する」が2,650人（11.6%）で、何らかの進学の意向を持つこれら生徒の合計が3,143人（13.8%）となっており、「進学を希望しない」と回答した進学意向のない生徒は14,171人（62.1%）となっている。また、「わからない」と回答した生徒が5,325人（23.3%）おり、この層には国際文化コミュニケーション学科（仮称）の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、**「進学を希望する」と回答した生徒のうち328人は、Q4)グローバル・イノベーション学科（仮称）またはQ6)情報連携学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答していることから、そのうちQ9)進学したい分野の回答が国際文化コミュニケーション学科（仮称）と合致する分野である「文学・史学・哲学」または「語学（外国語・言語学）」であることをもとに振分集計すると、「進学を希望する」人数は255人となる。（＊注）この数値は入学定員（100人）の2.6倍となることから、東洋大学　文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)への一定の進学需要があるといえる。**

（＊注）今回のアンケート分析に際し、国際文化コミュニケーション学科、グローバルイノベーション学科、情報連携学科への進学意向が重複カウントされない様、進学する分野にて振り分け集計を行っている。

Q2)東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)に進学したいと思いますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	22,828	100.0%
進学を希望する	493	2.2%
進学を検討する	2,650	11.6%
進学を希望しない	14,171	62.1%
わからない	5,325	23.3%
未回答・無効回答	189	0.8%



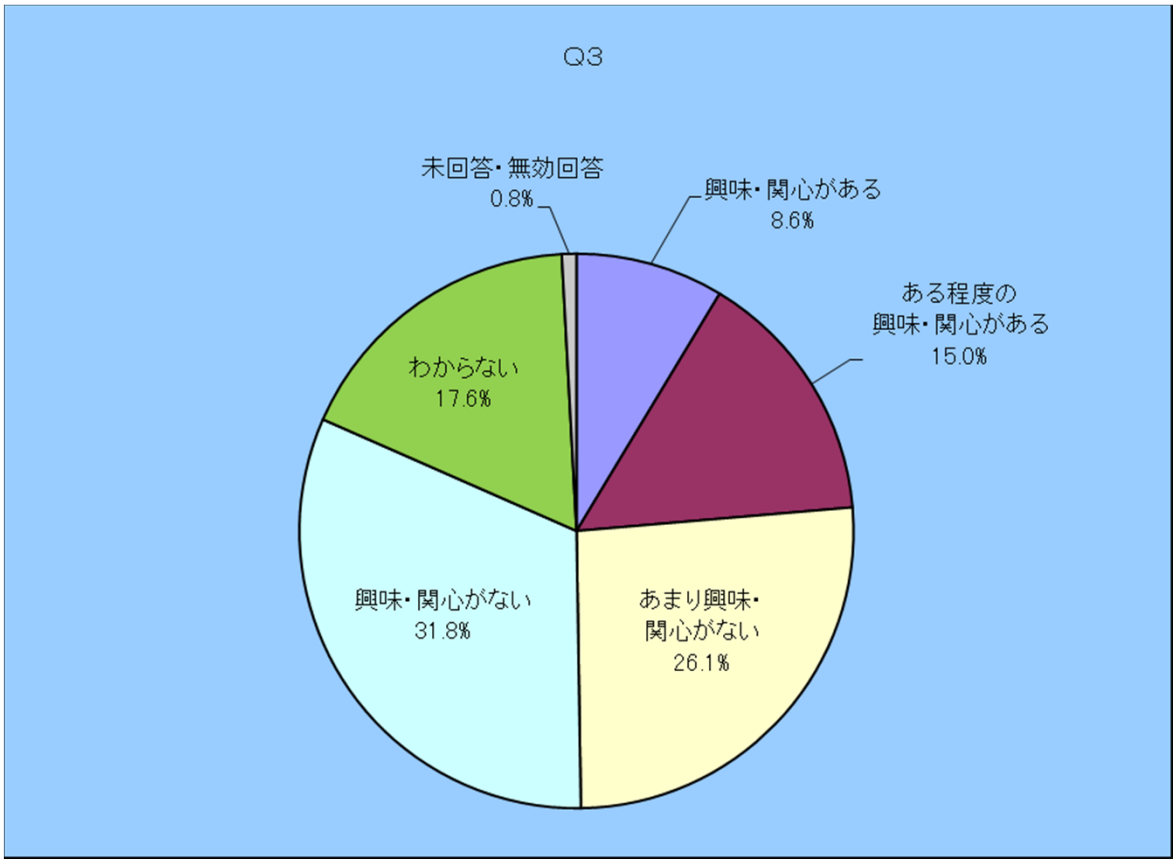
＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3)グローバル・イノベーション学科（仮称）への興味・関心

回答者のグローバル・イノベーション学科（仮称）への興味・関心は、「興味・関心がある」が1,973人（8.6%）、「ある程度の興味・関心がある」が3,424人（15.0%）で、これらの合計が5,397人（23.6%）となっている。一方、「あまり興味・関心がない」は5,960人（26.1%）、「興味・関心がない」は7,269人（31.8%）で、これらの合計は13,229人（57.9%）となっている。また、4,008人（17.6%）の生徒が「わからない」と回答しており、この層にはグローバル・イノベーション学科（仮称）の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の0.8%となっている。

Q3)東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）に興味・関心がありますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	22,828	100.0%
興味・関心がある	1,973	8.6%
ある程度の興味・関心がある	3,424	15.0%
あまり興味・関心がない	5,960	26.1%
興味・関心がない	7,269	31.8%
わからない	4,008	17.6%
未回答・無効回答	194	0.8%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

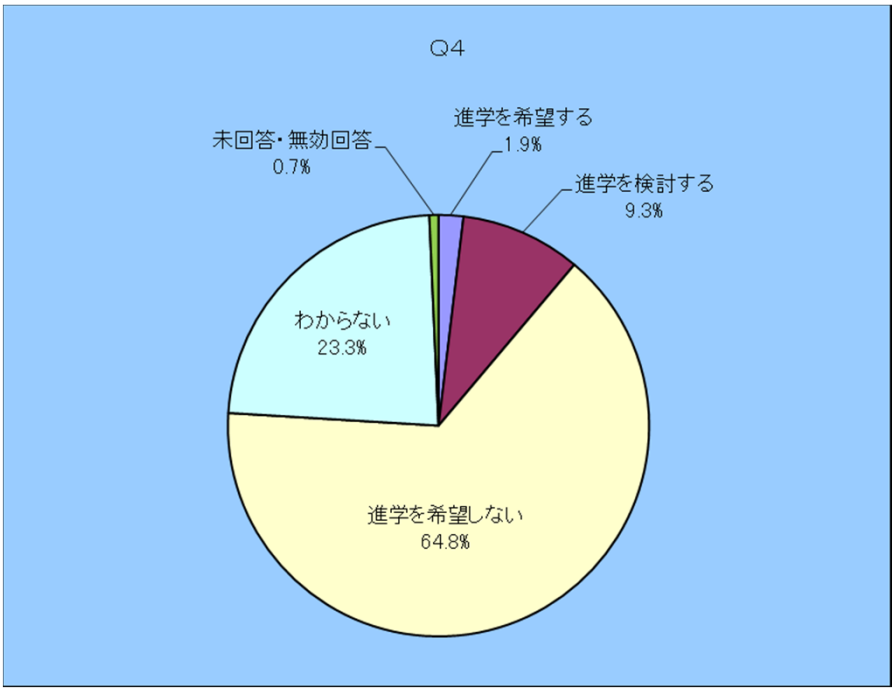
Q4)グローバル・イノベーション学科（仮称）への進学意向

回答者のグローバル・イノベーション学科（仮称）への進学意向は、「進学を希望する」が433人（1.9%）、「進学を検討する」が2,113人（9.3%）で、何らかの進学の意向を持つこれら生徒の合計が2,546人（11.2%）となっており、「進学を希望しない」と回答した進学意向のない生徒は14,795人（64.8%）となっている。また、「わからない」と回答した生徒が5,327人（23.3%）おり、この層にはグローバル・イノベーション学科（仮称）の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、**「進学を希望する」と回答した生徒のうち346人は、Q2)国際文化コミュニケーション学科（仮称）またはQ6)情報連携学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答していることから、そのうちQ9)進学したい分野の回答がグローバル・イノベーション学科（仮称）と合致する分野である「経済学・経営学・商学」または「国際関係学」であることをもとに振分集計すると、「進学を希望する」人数は161人となる。（＊注)この数値は入学定員（100人）の1.6倍となることから、東洋大学　国際学部　グローバル・イノベーション学科（仮称）への一定の進学需要があるといえる。**

（＊注）今回のアンケート分析に際し、国際文化コミュニケーション学科、グローバルイノベーション学科、情報連携学科への進学意向が重複カウントされない様、進学する分野にて振り分け集計を行っている。

Q4)東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）に進学したいと思いますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	22,828	100.0%
進学を希望する	433	1.9%
進学を検討する	2,113	9.3%
進学を希望しない	14,795	64.8%
わからない	5,327	23.3%
未回答・無効回答	160	0.7%



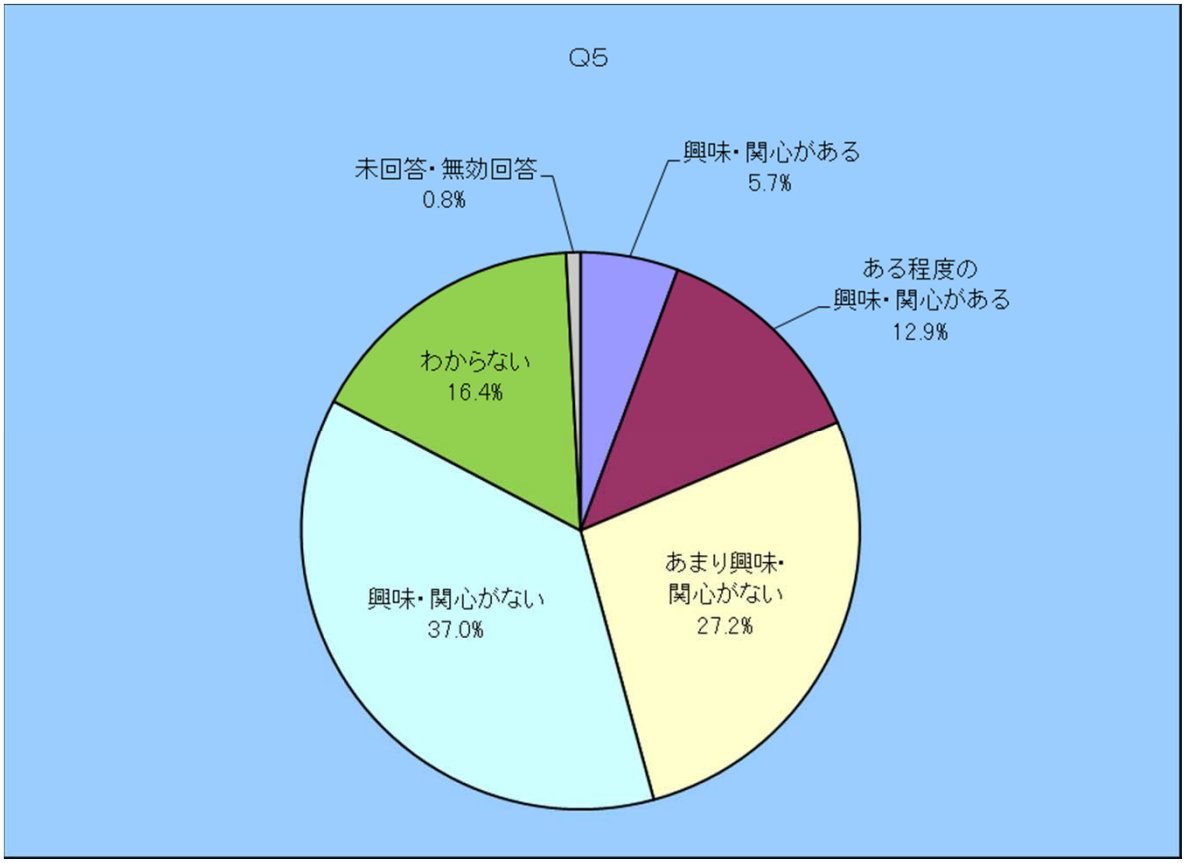
＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5)情報連携学科(仮称)への興味・関心

回答者の情報連携学科(仮称)への興味・関心は、「興味・関心がある」が1,293人(5.7%)、「ある程度の興味・関心がある」が2,953人(12.9%)で、これらの合計が4,246人(18.6%)となっている。一方、「あまり興味・関心がない」は6,203人(27.2%)、「興味・関心がない」は8,437人(37.0%)で、これらの合計は14,640人(64.2%)となっている。また、3,752人(16.4%)の生徒が「わからない」と回答しており、この層には情報連携学部 情報連携学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の0.8%となっている。

Q5)東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)に興味・関心がありますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	22,828	100.0%
興味・関心がある	1,293	5.7%
ある程度の興味・関心がある	2,953	12.9%
あまり興味・関心がない	6,203	27.2%
興味・関心がない	8,437	37.0%
わからない	3,752	16.4%
未回答・無効回答	190	0.8%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

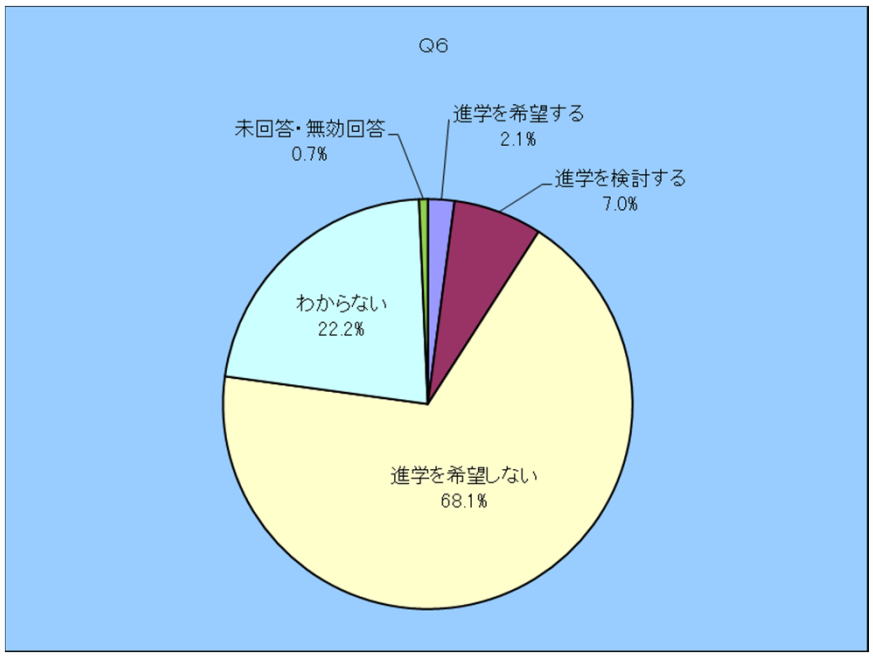
Q6)情報連携学科(仮称)への進学意向

情報連携学科(仮称)への進学意向は、「進学を希望する」が478人(2.1%)、「進学を検討する」が1,600人(7.0%)で、何らかの進学の意向を持つこれら生徒の合計が2,078人(9.1%)となっている。尚、**「進学を希望する」と回答した生徒のうち251人は、Q2)国際文化コミュニケーション学科(仮称)またはQ4)グローバル・コミュニケーション学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答していることから、そのうちQ9)進学したい分野の回答が情報連携学科(仮称)と合致する分野である「経済学・経営学・商学」、「情報学(コンピュータ・インターネットなど)」または「理学・工学」であることをもとに振分集計すると「進学を希望する」人数は、269人となる。(＊注)さらに、国際文化コミュニケーション学科(仮称)またはグローバル・イノベーション学科(仮称)へ集計した進学希望者のうち、それぞれの入学定員を超えて、情報連携学科(仮称)でも「進学を希望する」を選択した回答者が80人、「進学を希望する」の重複回答者で、いずれの学科へも振分集計しなかった回答者が129人おり、これらを加えると情報連携学科(仮称)へ「進学を希望する」人数は269＋80＋129＝478人となる。この数値は入学定員(400人)の1.2倍となり、東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)への一定の進学需要が窺われる。**

(＊注)今回のアンケート分析に際し、国際文化コミュニケーション学科、グローバルイノベーション学科、情報連携学科への進学意向が重複カウントされない様、進学する分野にて振り分け集計を行っている。

Q6)東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)に進学したいと思いますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	22,828	100.0%
進学を希望する	478	2.1%
進学を検討する	1,600	7.0%
進学を希望しない	15,536	68.1%
わからない	5,058	22.2%
未回答・無効回答	156	0.7%



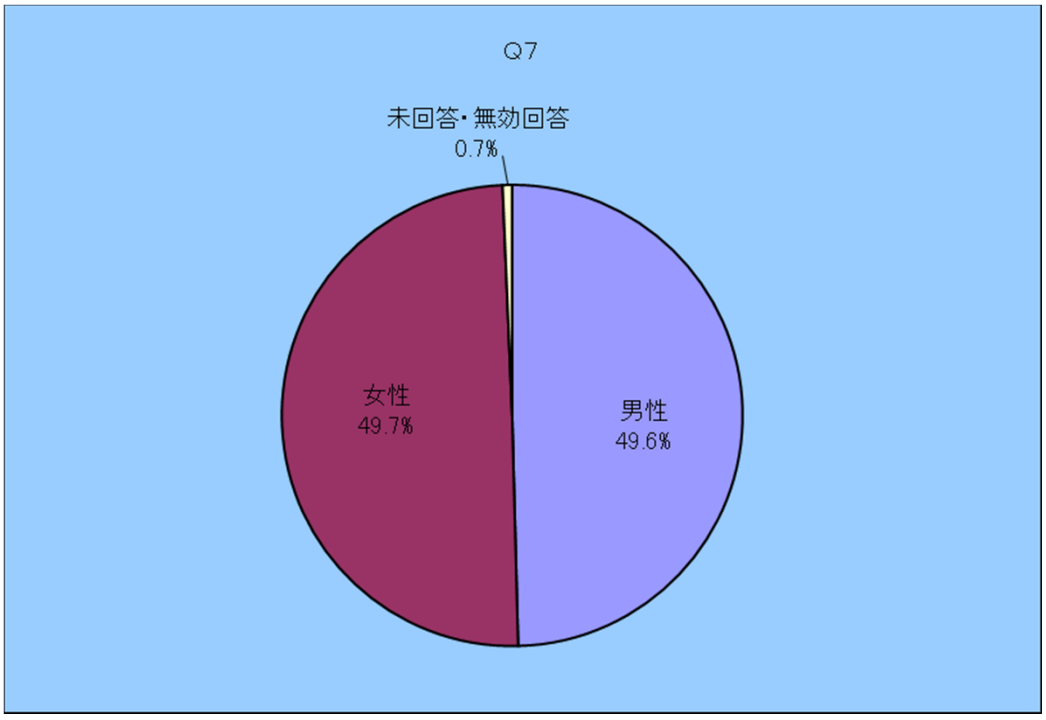
＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7）性別

回答者の性別は、「男性」11,320人(49.6%)、「女性」11,356人(49.7%)と、「女性」の方が「男性」より僅かに多い結果となった。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の0.7%となっている。

Q7)あなたの性別は、どちらですか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	22,828	100.0%
男性	11,320	49.6%
女性	11,356	49.7%
未回答・無効回答	152	0.7%



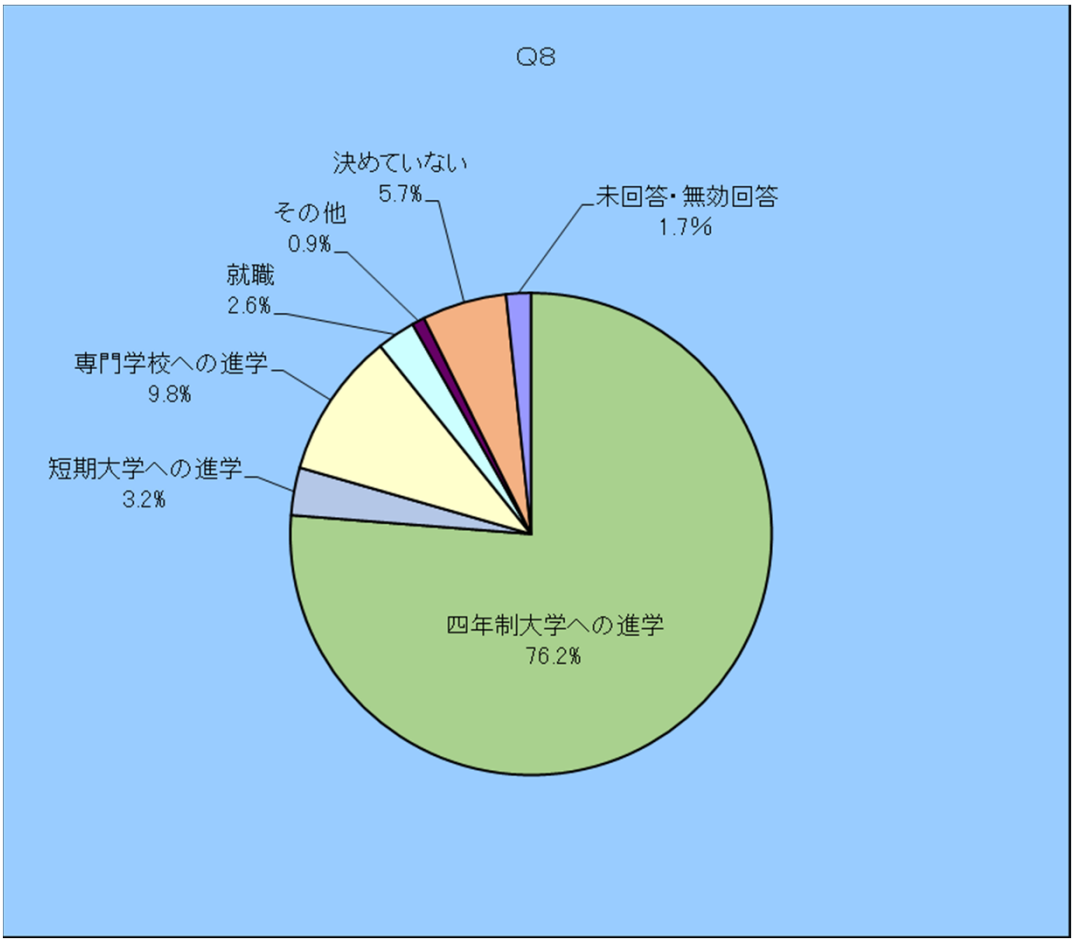
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)高校卒業後の進路

回答者の卒業後の進路は「四年制大学への進学」17,405人（76.2%）が最も多く、「専門学校への進学」2,232人（9.8%）、「決めていない」1,296人(5.7%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の1.7%となっている。

Q8)あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	22,828	100.0%
四年制大学への進学	17,405	76.2%
短期大学への進学	730	3.2%
専門学校への進学	2,232	9.8%
就職	590	2.6%
その他	196	0.9%
決めていない	1,296	5.7%
未回答・無効回答	379	1.7%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)高校卒業後の進路(その他内訳)

Q8）高校卒業後の進路で「その他」を選択した回答者の内訳は下記の通りとなっている。

Q8)あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか？

＊その他 196人内訳

	回答数（人）	構成比（%）
全体	196	100.0%
六年制大学	67	34.2%
六年制大学（医）	2	1.0%
六年制大学（薬）	8	4.1%
大学	1	0.5%
大学院	1	0.5%
大学校	2	1.0%
大学校（看護大学校）	1	0.5%
病院附属看護学校	1	0.5%
四年制大学、短期大学、専門学校の中で検討中	1	0.5%
四年制大学か専門学校	2	1.0%
四年制大学に追加で小説家	1	0.5%
大学か就職	1	0.5%
大学進学か検討中	1	0.5%
私立大	1	0.5%
東洋大学	1	0.5%
美術大学	1	0.5%
通信	1	0.5%
進学とだけ決めている	4	2.0%
浪人	1	0.5%
海外大学	4	2.0%
海外大学(米国)	1	0.5%
海外大学(ケンブリッジ)	1	0.5%
海外大学（UMass Lowell）	1	0.5%
海外進学	3	1.5%
海外留学	14	7.1%
海外留学（バレエ）	1	0.5%
海外語学学校	2	1.0%
海外	2	1.0%
公務員	11	5.6%
地方公務員	1	0.5%
サッカー選手	1	0.5%
プロレスラー	1	0.5%
芸能界	1	0.5%
ワーホリ	1	0.5%
結婚	1	0.5%
世界を旅する	1	0.5%
YouTuber	1	0.5%
検討中	4	2.0%
未回答・無効回答	46	23.5%

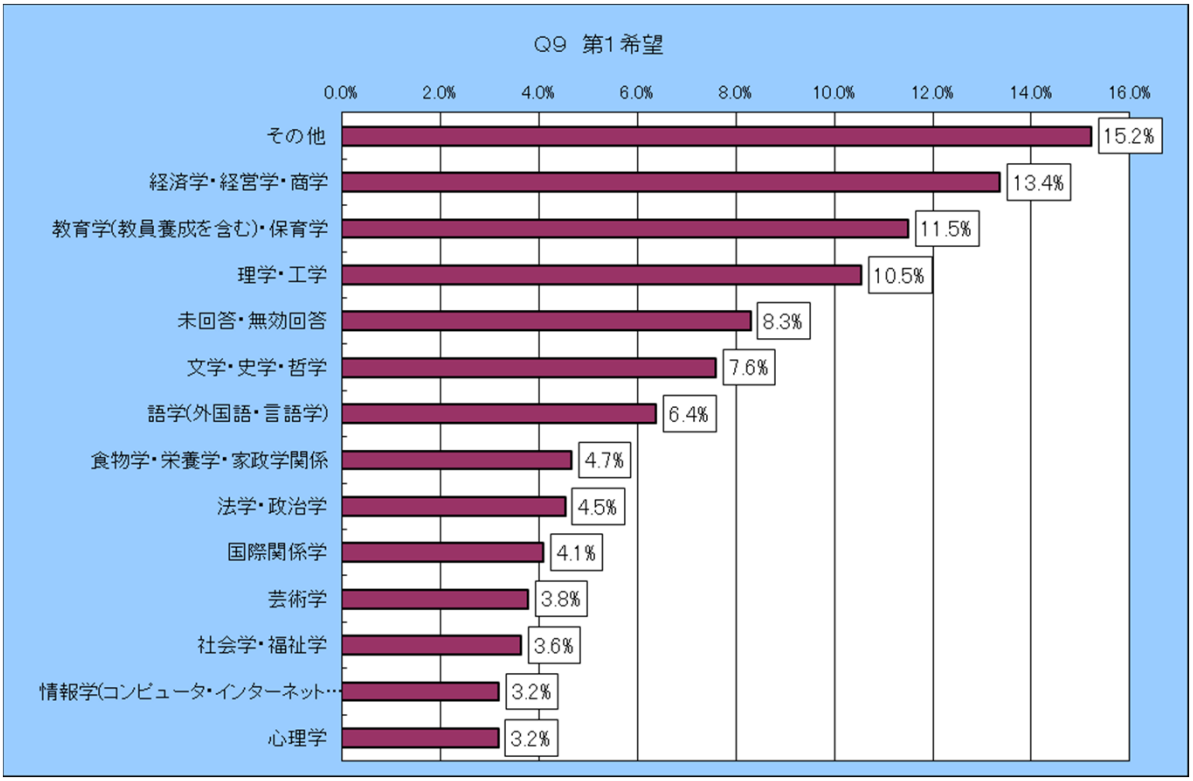
＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9)進学したい分野(第1希望)

回答者の進学したい分野(第1希望)は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「その他」3,474人(15.2%)で、第二位「経済学・経営学・商学」3,051人(13.4%)、第三位「教育学(教員養成を含む)・保育学」2,625人(11.5%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の8.3%となっている。

Q9)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第1希望)

第1希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	22,828	100.0%
文学・史学・哲学	1,733	7.6%
語学(外国語・言語学)	1,458	6.4%
国際関係学	935	4.1%
経済学・経営学・商学	3,051	13.4%
社会学・福祉学	832	3.6%
法学・政治学	1,036	4.5%
教育学(教員養成を含む)・保育学	2,625	11.5%
心理学	725	3.2%
情報学(コンピュータ・インターネットなど)	728	3.2%
理学・工学	2,408	10.5%
食物学・栄養学・家政学関係	1,064	4.7%
芸術学	864	3.8%
その他	3,474	15.2%
未回答・無効回答	1,895	8.3%



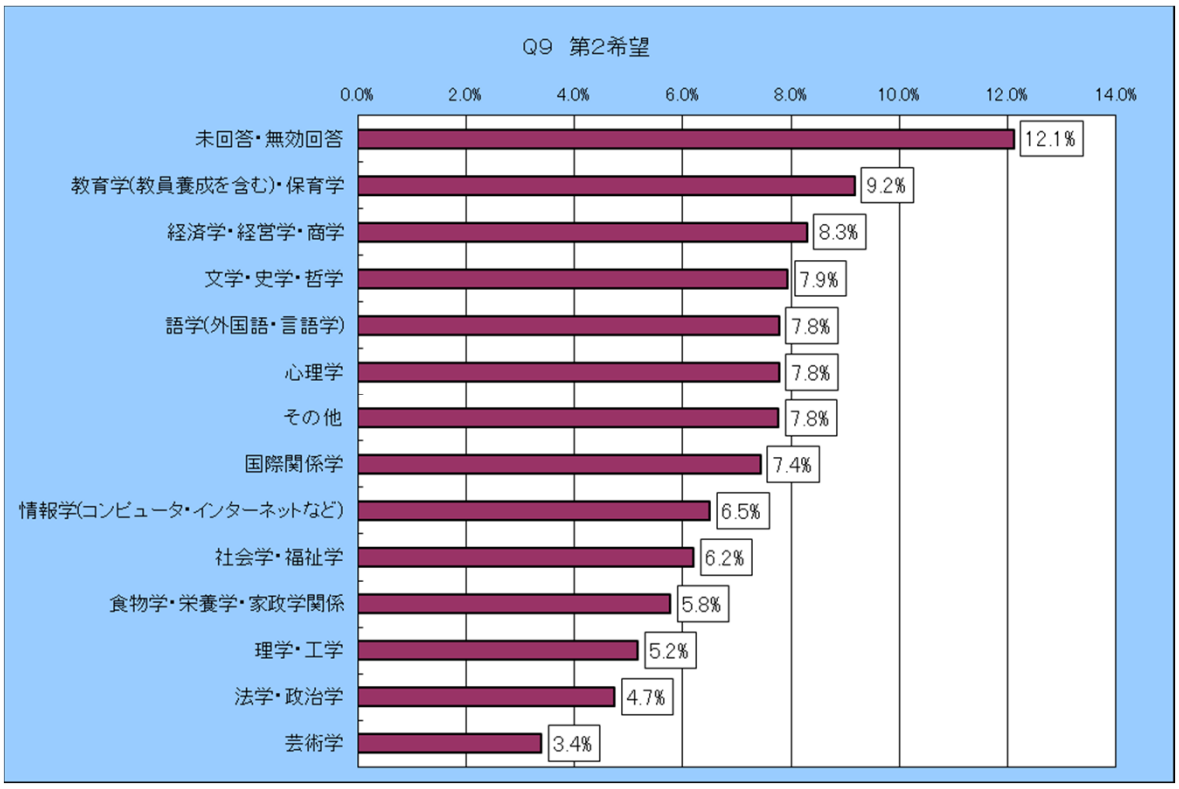
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9)進学したい分野(第2希望)

回答者の進学したい分野(第2希望)は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「教育学(教員養成を含む)・保育学」2,093人(9.2%) で、第二位「経済学・経営学・商学」1,892人(8.3%)、第三位「文学・史学・哲学」1,812人(7.9%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の12.1%となっている。

Q9)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第2希望)

第2希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	22,828	100.0%
文学・史学・哲学	1,812	7.9%
語学(外国語・言語学)	1,775	7.8%
国際関係学	1,696	7.4%
経済学・経営学・商学	1,892	8.3%
社会学・福祉学	1,414	6.2%
法学・政治学	1,083	4.7%
教育学(教員養成を含む)・保育学	2,093	9.2%
心理学	1,775	7.8%
情報学(コンピュータ・インターネットなど)	1,485	6.5%
理学・工学	1,180	5.2%
食物学・栄養学・家政学関係	1,316	5.8%
芸術学	773	3.4%
その他	1,771	7.8%
未回答・無効回答	2,763	12.1%



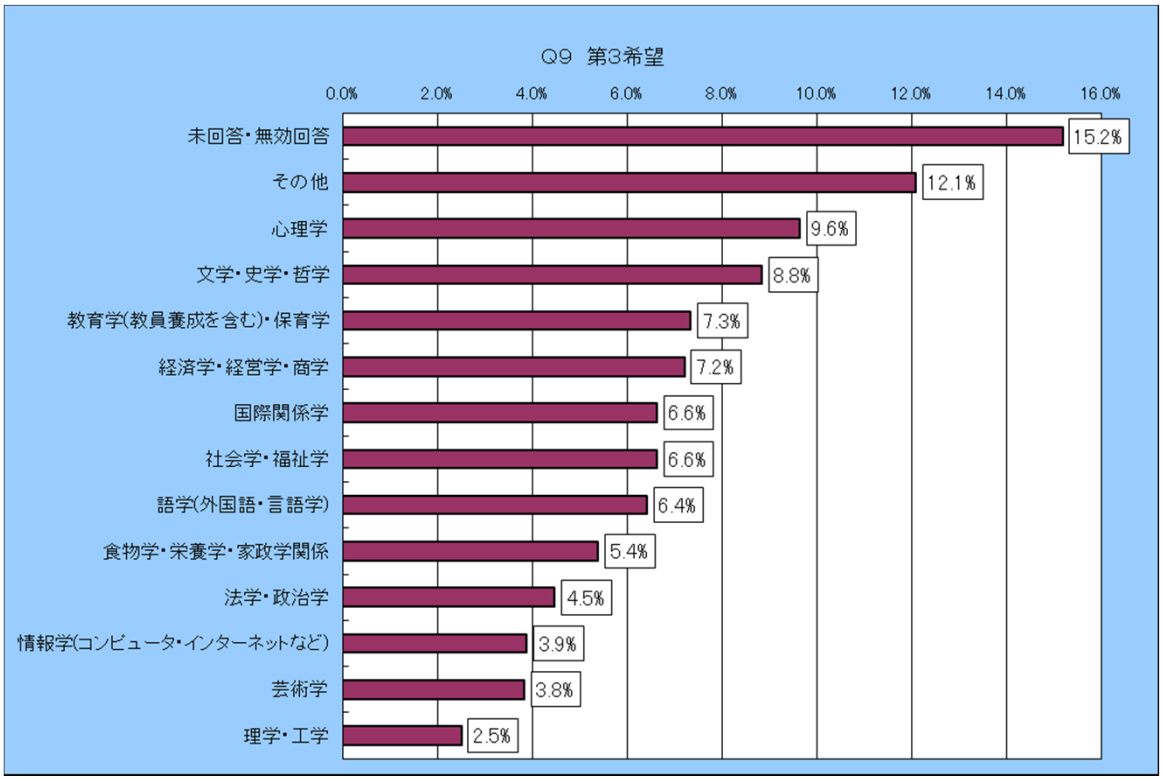
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9)進学したい分野(第3希望)

回答者の進学したい分野(第3希望)は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「その他」2,758人(12.1%) で、第二位「心理学」2,198人(9.6%)、第三位「文学・史学・哲学」2,018人(8.8%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の15.2%となっている。

Q9)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第3希望)

第3希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	22,828	100.0%
文学・史学・哲学	2,018	8.8%
語学(外国語・言語学)	1,465	6.4%
国際関係学	1,513	6.6%
経済学・経営学・商学	1,644	7.2%
社会学・福祉学	1,513	6.6%
法学・政治学	1,020	4.5%
教育学(教員養成を含む)・保育学	1,675	7.3%
心理学	2,198	9.6%
情報学(コンピュータ・インターネットなど)	886	3.9%
理学・工学	570	2.5%
食物学・栄養学・家政学関係	1,230	5.4%
芸術学	874	3.8%
その他	2,758	12.1%
未回答・無効回答	3,464	15.2%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

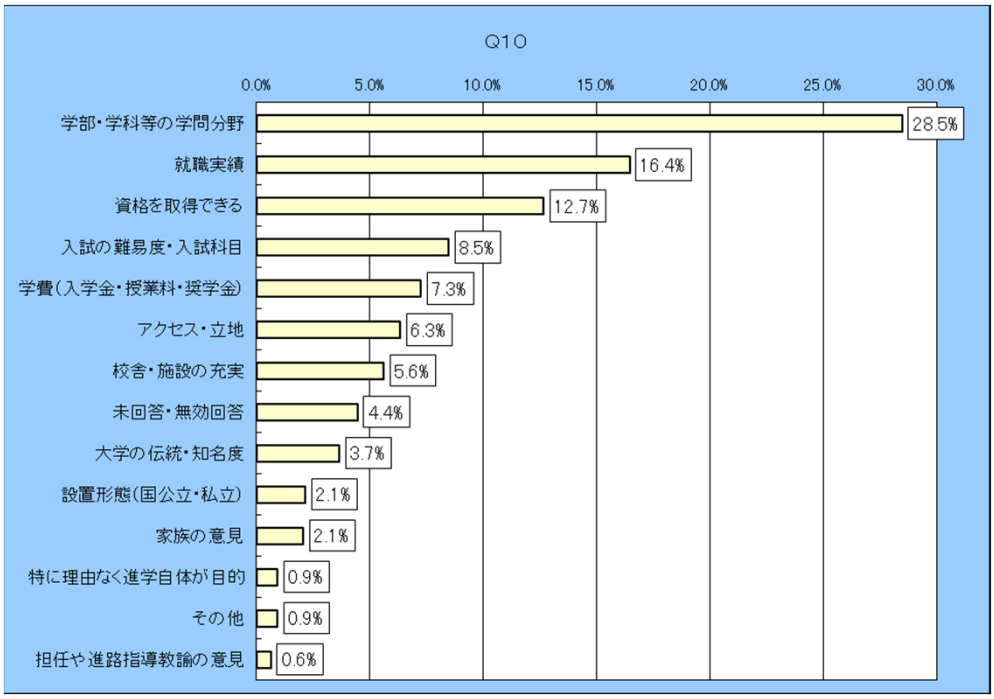
Q10)進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、第一位が「学部・学科等の学問分野」11,902人（28.5%）で、第二位「就職実績」6,879人(16.4%)、第三位「資格を取得できる」5,295人(12.7%)となっており、大学での学びの分野を重視すると共に、卒業後の就職のために、その就職実績や就職に際して、自分の能力を証明できる資格取得を重視していると考えられる。従って、教育・研究の特色やそこで養成する人材像を明確にすると共に、就職先となる企業・事業所等との連携強化や、資格取得制度の整備も重要な成功要因になるといえる。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の4.4%となっている。

＊2つまで回答可

Q10)あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？

	回答数（人）	構成比（%）
総計	41,825	100.0%
学部・学科等の学問分野	11,902	28.5%
就職実績	6,879	16.4%
資格を取得できる	5,295	12.7%
設置形態（国公立・私立）	894	2.1%
校舎・施設の充実	2,340	5.6%
学費（入学金・授業料・奨学金）	3,035	7.3%
大学の伝統・知名度	1,529	3.7%
入試の難易度・入試科目	3,539	8.5%
担任や進路指導教諭の意見	266	0.6%
家族の意見	861	2.1%
アクセス・立地	2,652	6.3%
特に理由なく進学自体が目的	387	0.9%
その他	386	0.9%
未回答・無効回答	1,860	4.4%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q10)進学先決定時の重視要因(その他内訳)

Q10)進学先決定時の重視要因で「その他」選択した回答者の内訳は下記の通りとなっている。

＊その他　386人内訳

	回答数(人)	構成比(%)
全体	386	100.0%
4年間の時間をかけるに値するかどうか	1	0.3%
在学中にどれだけ本場の仕事にふれられるか	1	0.3%
在学中のサービス	1	0.3%
イベント行事	1	0.3%
国	1	0.3%
国際性	1	0.3%
研究内容	1	0.3%
学校の実績	1	0.3%
カリキュラム	3	0.8%
ゼミ	1	0.3%
授業の充実度	1	0.3%
学びの質	3	0.8%
教育力	1	0.3%
学校の取り組み	1	0.3%
学校同士の連携	1	0.3%
必履修科目が少なく、色んな授業をとれる	1	0.3%
教員・指導者	6	1.6%
教員、実習授業の充実	1	0.3%
システム・環境	1	0.3%
趣味	2	0.5%
楽しさ・面白さ	6	1.6%
あこがれ	1	0.3%
やりがいがあるか	1	0.3%
やりたいことができるか	14	3.6%
やりたいことにつながるか	3	0.8%
興味・関心	6	1.6%
自分の意志	6	1.6%
自分にあっているか	2	0.5%
自分が学びたいと心から思えるか	1	0.3%
自分の学びたいことができる	1	0.3%
将来につながるかどうか	10	2.6%
将来の職業につながるか	5	1.3%
将来の選択肢が広いか	1	0.3%
将来の夢につながるかどうか	5	1.3%
就職率・就職状況	3	0.8%
国家試験合格率	1	0.3%
大学院進学率	1	0.3%
雰囲気	21	5.4%
周りの人間性	3	0.8%
目標	1	0.3%
夢の実現	10	2.6%
プロ棋士という夢を追える環境であるか	1	0.3%
推薦制度	3	0.8%
臨床心理士受験資格の取得	1	0.3%
留学制度	29	7.5%
部活動・スポーツ実績等	63	16.3%
サークル	4	1.0%
寮の有無	1	0.3%
学力・偏差値	7	1.8%
3年制であること	1	0.3%
学納金	1	0.3%
立地場所	9	2.3%
東京を離れること	1	0.3%
東洋大学かどうか	2	0.5%
社会科(への進学)	1	0.3%
附属病院	1	0.3%
父の意見	1	0.3%
いとこの意見	1	0.3%
妹の病状	1	0.3%
全て重視	1	0.3%
直観	1	0.3%
未回答・無効回答	124	32.1%

補記

アンケート説明文1/4


東洋大学
東洋大学から世界へ、学びの幅がさらに大きく広がります。
2017年 4月
新学部・新学科、開設
東洋大学は、2014年、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）」に採択されました。
世界を舞台に活躍し新たな価値を創造する「グローバル人財」の育成を
さらに加速させるため、2017年に新たな学部学科の新設を構想しています。
国際学部
グローバル・イノベーション学科
情報連携学部
情報連携学科
文学部
国際文化コミュニケーション学科
2015年11月現在設置構想中です。学部・学科の名称は仮称であり、このパンフレットの掲載内容は変更になる可能性があります。

アンケート説明文2/4


視野を地球規模に
文部科学省 スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）に採択
国際化への取り組み（抜粋）
全学生に占める外国人留学生の数
2,720名
海外交流大学間協定に基づく交流数
外国語による授業科目数
1,513科目
日本人学生に占める留学経験者数
2,870名
1,700名
外国人および
海外学位取得教員の採用
411名
スーパーグローバル大学創成支援採択大学
白山キャンバス
NEW 赤羽台キャンバス
東京都文京区白山5-28-20
都営三田線「白山駅」徒歩5分／東京メトロ南北線「本駒込駅」徒歩5分
東京都北区赤羽1-7-12
JR「赤羽駅」徒歩8分／東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」徒歩12分
東洋大学
お問い合わせ先
学校法人東洋大学　経営企画本部
〒112-8606　東京都文京区白山 5-28-20　TEL: 03-3945-7498　www.toyo.ac.jp

アンケート説明文3/4



国際学部 国際社会で活躍できる人材を育成する。

グローバル・イノベーション学科

入学定員：100名（留学生30名）　初年度納付金：1,210,000円（予定）
キャンパス：白山キャンパス（東京都文京区／都営三田線白山駅　徒歩5分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　国際関係学・経済学・社会学

経済・貧困・資源・環境・紛争など、グローバル社会には様々な課題が新たに発生しています。いま求められるのは、グローバルな視点に立ち、新しい時代に合ったシステムや価値を創造できる人材です。グローバル・イノベーション学科では、国際系企業での活動やベンチャーの起業などを通して、国際社会のイノベーション（変革）を起こしうるリーダーシップ力を磨きます。

グローバル・イノベーション学科の強み

■授業は原則英語で、海外留学を必須化（1年間）。
国際社会を舞台に活躍できる実践的なコミュニケーション能力を身につけます。

■語学力・コミュニケーション力を強化するカリキュラム。
1年次に語学力・コミュニケーション力を徹底的に強化します。

■国際社会で活躍するための3つの専門領域。
グローバル・システム領域、国際ビジネス領域、国際コラボレーション領域

■日本人7割・留学生3割の国際的な学習環境。
留学生の受け入れを推進。入学定員の3割をアジアを中心とした留学生に。

■起業家育成プログラムを実施。
学生チームによる起業を支援。学生ベンチャーを育成します。

■リーダーシップ力を現場で磨く実践的な海外プログラム。
インターンシップや海外研修など、体験型海外プログラムの機会を提供します。

育成する人材像

■企業や社会における価値創造を促すイノベーション能力を持つ人材
■国際社会で活躍できる実践的コミュニケーション能力を持つ人材
■日本の伝統文化や思想を深く理解し、世界に発信できる人材
■新規ビジネスの起業を行う能力と意欲にあふれる人材

目指す進路

グローバル力・専門性を活かして多方面で活躍できます。
グローバル企業／起業家／NPO法人／コンサルタント／マーケティング／研究者／官公庁など

文学部 多文化の理解を深め、発信する「コミュニケーション力」を身につける。

国際文化コミュニケーション学科

入学定員：100名　初年度納付金：1,160,000円（予定）
キャンパス：白山キャンパス（東京都文京区／都営三田線白山駅　徒歩5分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　外国語学・文化学

急激にグローバル化が進む現代社会では、国や価値観の違いを超えて信頼関係を築くこと、多様な人々が相互に理解し共生することが求められています。そのために重要となるのは、「文化的な教養」と「コミュニケーションの力」です。国際文化コミュニケーション学科では、日本文化や仏国文化間の比較をベースにした教養と、実践的な言語運用能力とを兼ね備えた人材を育成します。

国際文化コミュニケーション学科の強み

■英語はあたりまえ。英語力に「多言語スキル、多文化理解」をプラス。
英語の基礎力は全学生が身につけます。英語に加え、日・独・仏のいずれか選択した比較文化研究を行います。

■日本にいながら、各国からの留学生と交流して友人を作る。
村上春樹・宮崎駿などを英語で留学生と一緒に学ぶ科目も充実。
学生数の10%が留学生になる予定です。

■海外で各国文化と英語・フランス語・ドイツ語を学ぶ留学制度。
米・英・仏・独・中の有名大学への留学をサポートします。

■文化間の相互理解を深める3つの専門領域。
英語コミュニケーション特化、比較文化研究（独語・仏語）、日本文化・日本語教育

■国際文化の理解は、日本文化の理解から。
日本文化に対する知識と他文化とを比較できる観察力を身につけます。

■全学連携科目で就職のためのスキルを磨く。
大手企業等と協働して、社会が求める人財教育を行います。

育成する人材像

■自らのキャリアを展望する思考力を持つ人材
■文化的なコンテンツを理解し、表現できる言語コミュニケーション能力を持つ人材
■英語を基礎から教育・指導できる能力を持つ人材
■日本語を外国人に教育・指導できる能力を持つ人材

目指す進路

人と関わり人を育てる教育関係、多文化多言語への対応が求められる公務員・グローバル企業、文化的コンテンツを伴う言語運用力を必要とする出版・報道など。

旅行業／航空・鉄道・ホテル／放送・出版／商社・デパート／広告／翻訳・通訳／研究者／官公庁など

アンケート説明文4/4

情報連携学部 アイデアを素早く形に。「連携」を通して新しい価値を創造する。

情報連携学科

入学定員：400名　初年度学納金：¥1,470,000（予定）
キャンパス：岩野台キャンパス（東京都北区／JR岩野駅　徒歩8分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　情報学・経済学・理工学・都市工学・デザイン学

インターネットの急速な進歩は、日々新しい技術や価値が生まれる、変化の時代をもたらしました。アイデアを素早く形にして社会に新たなサービスを送り出す、そんなスピード感を持った人材が求められています。そのためには、分野の違う様々な人々と「連携」してチームを組むことが重要です。情報連携学部では、その「連携」のあり方を実践的に学びます。インターネットを活用し、人・モノ・情報の相互連携が生み出す新しいサービスや産業分野、学問分野、そして新たな社会のあり方の探究とそれを支える人材を育成します。

コンセプトは「連携」



インターネット社会の今、世界はますますチャレンジが容易に

インターネットによって知識や情報がモノや、考え方が同じ一緒にやっている人々との会合いは簡単にありました。遠く離れたところにいる人達と協力しあって一緒に仕事をしたり（クラウド・ソーシング）、設計図を誰かが作ってもらって、それを国境・地域差で個人個人でもうっそうして、個人的な製作品を作れば、ネットを通じて広く世界から資金を集める（クラウド・ファンディング）ことも可能です。
世界では、こうして若者たちが革新的な製品を世に出して成功する「スタートアップ」が増えています。

いろいろな機能ブロックがネットから簡単に入手でき、スマートフォンの開発環境も充実しました。少しのプログラムだけで高度なアプリを作り、新サービスの実現が可能になります。

インターネットの中の様々な機能やサービスを組み合わせ「連携」させれば…

チームを組んで、コンピュータを使いこなし情報を通して連携し、新サービスやアイデアを形にできる人材が今求められています。

「連携」の基盤はコンピュータ・サイエンス



学部長（予定）
坂村 健（元 東京大学教授）
computer architect（電脳建築家）、東京大学大学院情報学環教授、工学博士。トロンプロジェクト・ユビキタス・コンピューティング、IoT（Internet of Things）の先導者として日本のICTアーキテクチャを確立。2003年 紫綬褒章、2006年 日本学士院賞、2015年 文化功労者 受賞。

新しい時代を迎え、多くの課題を抱えた日本や世界の人々の生活向上と多方向の豊かさを築いていく、現代社会のIT・デザイン力を兼ね備えた人材が必要とされています。

情報連携学科の強み

- 「連携」して未来を創造する。世界最先端の学問です。
- 興味に応じて深く学ぶ「4つのコース」制。
  エンジニアリング・デザイン・ビジネス・レビルシステム
- 学生の新ビジネス起業をサポート。
  シェアオフィス設置やスポンサー紹介など、学生のチャレンジをバックアップ。
- 黒板はありません。授業は全てノートPCやタブレットで。
- 図書館はデジタル化された電子ブックが主。
  キャンパス内の無線LANで、いつでもどこでも図書館に接続できます。
- 一流の教員陣による手厚い少人数教育。

カリキュラムの特徴

- すべての学生が「プログラミング」を学びます。
  「連携」の基礎はプログラミングから。コンピューターを語る基礎力を身につけます。
- コミュニケーション能力を重視。
  「様々な人たちと一緒になって課題解決を行うための力を養成。
  「英語」「プレゼンテーション」「ディベート」などの国際力を身につけます。
- チーム演習で「連携」を実践。
  各コースの授業で身につけた専門性を活かし、4つのコース横断でチームを組成。新ビジネス起業の模擬実習を行い、自分と違うコース・違う国籍の仲間との協力を体験し、社会に出てからの即戦力を身につけます。
- 独自の英語プログラムを実施。
  1年次に英語力の基礎を徹底的に鍛えます。
  2年次・3年次からは、英語で授業を行うプログラムも履修できます。

育成する人材像

- 最先端のコンピュータ・サイエンスを身につけ、未来の情報サービスを構築できる人材
- 新しい考え方で、未来のモノを具体化できる人材
- 情報を武器として新たなビジネスを創り出せる人材
- 情報技術と連携し豊かな社会とくらしの創造に応用できる人材

目指す進路

- 専門力・グローバル力・連携力を活かして多方面で活躍できます。
- チーム演習の実績を活かし、仲間たちと新ビジネスを起業する。
- ICT関連企業／システム・エンジニア／プログラマ／Webデザイナ／コンサルタント／マーケティング／研究者／官公庁／建設／商業／サービスなど

2015年11月現在設置構想中です。学部・学科の名称は仮称であり、このパンフレットの掲載内容は変更になる可能性があります。

アンケート調査票1/2

東洋大学 新学部 学科設置計画に係る高校生進学需要調査

東洋大学では、これまでの学部 学科に加えて、新たに３つの学部 学科を設置することを検討しています。
設置計画検討の参考として、高校生のみなさんの率直なご意見をお聞かせください。

【質問 1~6、11】は、別紙「東洋大学 新学部 学科」の概要をご覧いただき、ご記入下さい。

東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)について

【質問 1】東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)に興味・関心がありますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 興味・関心がある　3 あまり興味・関心がない　5 わからない
2 ある程度の興味関心がある　4 興味・関心がない

【質問 2】東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)に進学したいと思いますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 進学を希望する　2 進学を検討する　3 進学を希望しない　4 わからない

東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)について

【質問 3】東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)に興味・関心がありますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 興味・関心がある　3 あまり興味・関心がない　5 わからない
2 ある程度の興味関心がある　4 興味・関心がない

【質問 4】東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)に進学したいと思いますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 進学を希望する　2 進学を検討する　3 進学を希望しない　4 わからない

東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)について

【質問 5】東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)に興味・関心がありますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 興味・関心がある　3 あまり興味・関心がない　5 わからない
2 ある程度の興味関心がある　4 興味・関心がない

【質問 6】東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)に進学したいと思いますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 進学を希望する　2 進学を検討する　3 進学を希望しない　4 わからない

【質問 7】あなたの性別は、どちらですか？いずれかに○を付けて下さい。

1 男性　2 女性

アンケート調査票2/2

【質問 8】あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか？１つ選び○を付けて下さい。

1　四年制大学への進学
2　短期大学への進学
3　専門学校への進学
4　就職
5　その他（　　）
6　決めていない

＊【質問 9、10】は、【質問 8】で「1. 四年制大学への進学」「2. 短期大学への進学」「3. 専門学校への進学」と回答した方のみお答え下さい。その他の方は【質問 11】へお進みください。

【質問 9】あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？
第１希望、第２希望、第３希望の該当する欄に**それぞれ１つずつ**○を付けて下さい。

	分　　野	第1希望	第2希望	第3希望
1	文学・史学・哲学			
2	語学（外国語・言語学）			
3	国際関係学			
4	経済学・経営学・商学			
5	社会学・福祉学			
6	法学・政治学			
7	教育学（教員養成を含む）・保育学			
8	心理学			
9	情報学（コンピュータ・インターネットなど）			
10	理学・工学			
11	食物学・栄養学・家政学関係			
12	芸術学			
13	その他			

【質問 10】あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？
次の中から**２つまで**選び○を付けて下さい。

1　学部・学科等の学問分野
2　就職実績
3　資格を取得できる
4　設置形態（国公立・私立）
5　校舎・施設の充実
6　学費（入学金・授業料・奨学金）
7　大学の伝統・知名度
8　入試の難易度・入試科目
9　担任や進路指導教諭の意見
10　家族の意見
11　アクセス・立地
12　特に理由なく進学自体が目的
13　その他（　　）

【質問 11】**東洋大学 新学部 学科設置計画**に対するご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました　　東洋大学　経営企画本部

東洋大学　御中

国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)
設置計画に係るニーズ調査報告書（留学生編）

平成28年1月
丸善株式会社
大学経営コンサルティング部

目次

- 調査概要 P2
- 全体集計結果 P3
- 補記 P13

調査概要

1. 調査目的	国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）設置計画検討のため本アンケート調査により留学生の進学意向等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする。
2. 調査対象	東洋大学 既設学部への進学実績等から選定した国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）開設予定年度に入学資格のある関東地区の日本語学校に在籍する留学生。
3. 実施時期	平成27年12月11日～12月21日
4. 回収状況	本調査では、21校960人を対象に調査票を配布し、その結果18校580件の調査票を回収することができた。（回収率60.4%）
5. 調査方法	調査票による定量調査(アンケート調査)
6. 利用調査票	添付アンケート調査票参照

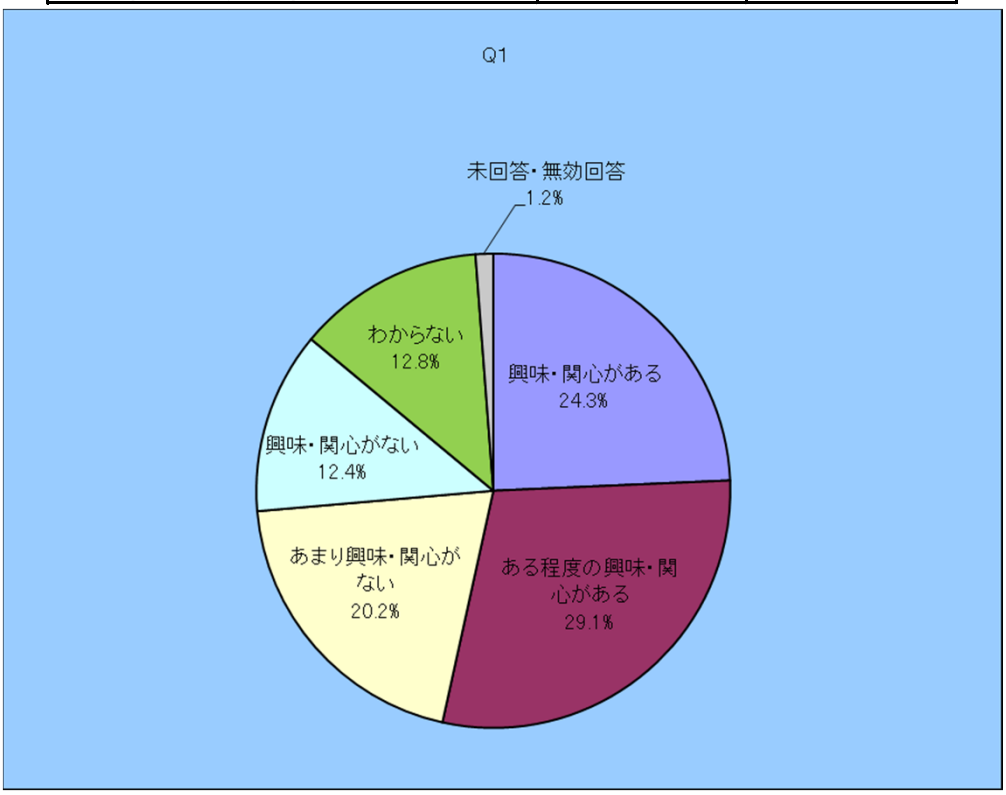
全体集計結果

Q1)グローバル・イノベーション学科(仮称)への興味・関心

回答者のグローバル・イノベーション学科(仮称)への興味・関心は、「興味・関心がある」が141人(24.3%)、「ある程度の興味・関心がある」が169人(29.1%)で、これらの合計が310人(53.4%)となっている。一方、「あまり興味・関心がない」は117人(20.2%)、「興味・関心がない」は72人(12.4%)で、これらの合計は189人(32.6%)となっている。また、74人(12.8%)の生徒が「わからない」と回答しており、この層にはグローバル・イノベーション学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の1.2%となっている。

Q1)東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)に興味・関心がありますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	580	100.0%
興味・関心がある	141	24.3%
ある程度の興味・関心がある	169	29.1%
あまり興味・関心がない	117	20.2%
興味・関心がない	72	12.4%
わからない	74	12.8%
未回答・無効回答	7	1.2%



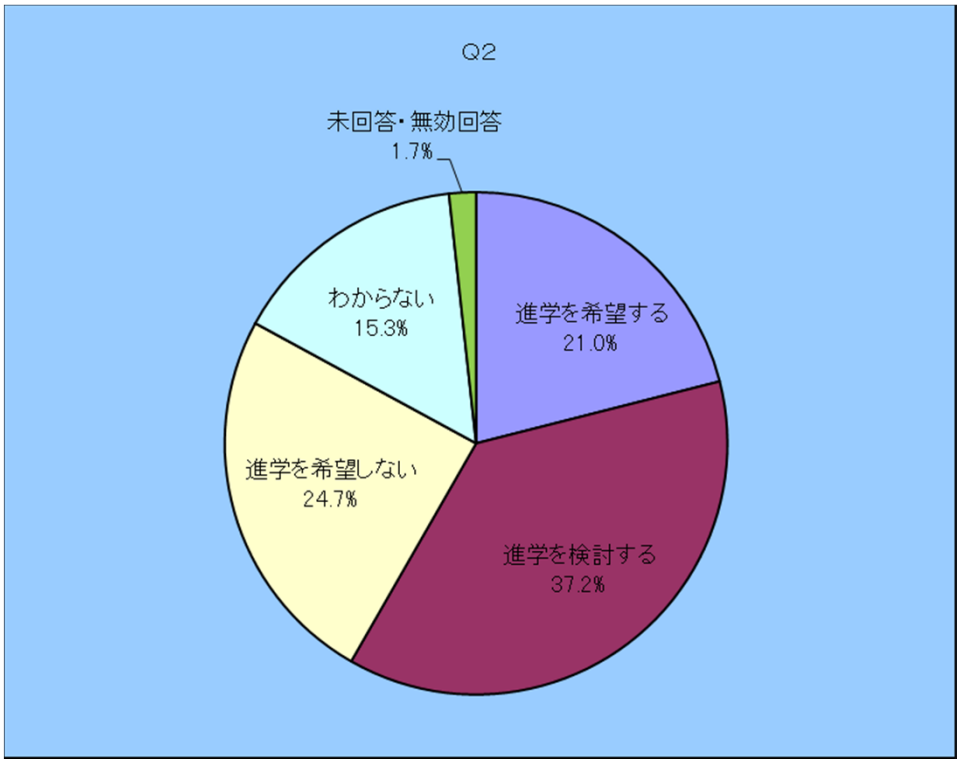
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2)グローバル・イノベーション学科(仮称)への進学意向

グローバル・イノベーション学科（仮称）への進学意向は、「進学を希望する」が122人（21.0%）、「進学を検討する」が216人（37.2%）で、何らかの進学の意向を持つこれら生徒の合計が338人（58.2%）と、6割近くとなっている。**この数値はグローバル・イノベーション学科（仮称）入学定員（100人）のうちの留学生の獲得目標（30人）に対して、「進学を希望する」で4.1倍、「進学を検討する」を加えると11.3倍となり、大学とリレーションの強い日本語学校を調査対象としたことを考慮しても、国際学部 グローバル・イノベーション学部（仮称）に対する留学生の一定の進学需要があるといえる。**一方、「進学を希望しない」と回答した進学意向のない生徒は143人（24.7%）となっているが、「わからない」と回答した生徒が89人（15.3%）おり、この層にはグローバル・イノベーション学科（仮称）の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の1.7%となっている。

Q2)東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)に進学したいと思いますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	580	100.0%
進学を希望する	122	21.0%
進学を検討する	216	37.2%
進学を希望しない	143	24.7%
わからない	89	15.3%
未回答・無効回答	10	1.7%



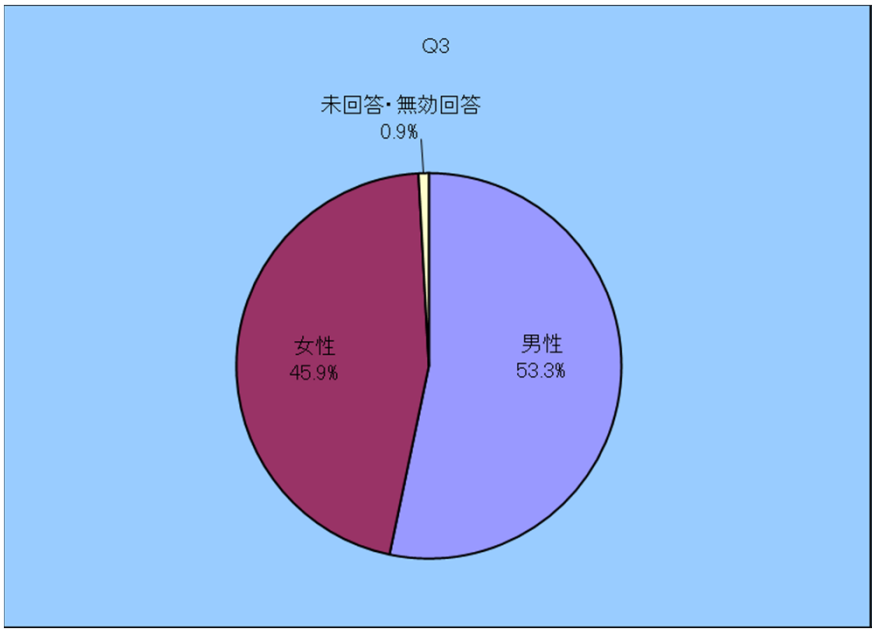
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3）性別

回答者の性別は、「男性」309人(53.3%)、「女性」266人(45.9%)と、「男性」の方が「女性」よりやや多い結果となった。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の0.9%となっている。

Q3)あなたの性別は、どちらですか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	580	100.0%
男性	309	53.3%
女性	266	45.9%
未回答・無効回答	5	0.9%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)出身国

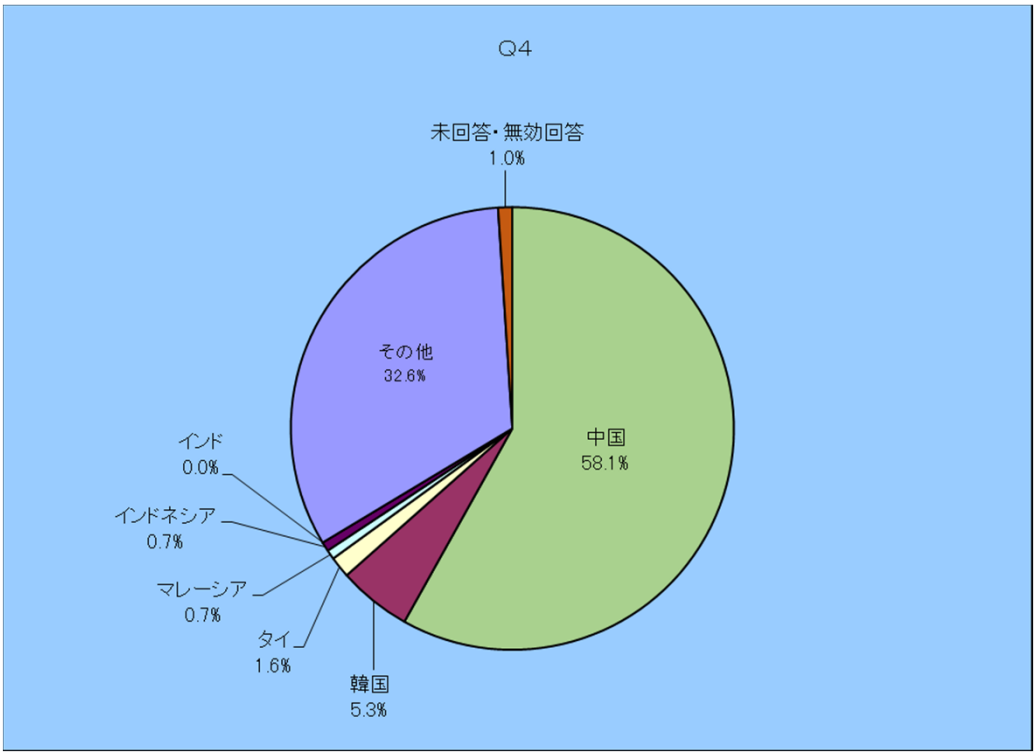
回答者の出身国は「中国」337人（58.1%）が最も多く、「その他」189人（32.6%）、「韓国」31人（5.3%）と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の1.0%となっている。

Q4)あなたの出身国はどちらですか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	580	100.0%
中国	337	58.1%
韓国	31	5.3%
タイ	9	1.6%
マレーシア	4	0.7%
インドネシア	4	0.7%
インド	0	0.0%
その他	189	32.6%
未回答・無効回答	6	1.0%

＊その他189人内訳

	回答数（人）	構成比（%）
全体	189	100.0%
ベトナム	85	45.0%
ネパール	15	7.9%
モンゴル	15	7.9%
台湾	12	6.3%
RUSSIA	8	4.2%
ミャンマー	8	4.2%
スリランカ	5	2.6%
イスラエル	1	0.5%
イタリア	1	0.5%
イラン	1	0.5%
香港	1	0.5%
未回答・無効回答	37	19.6%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5)卒業後の進路

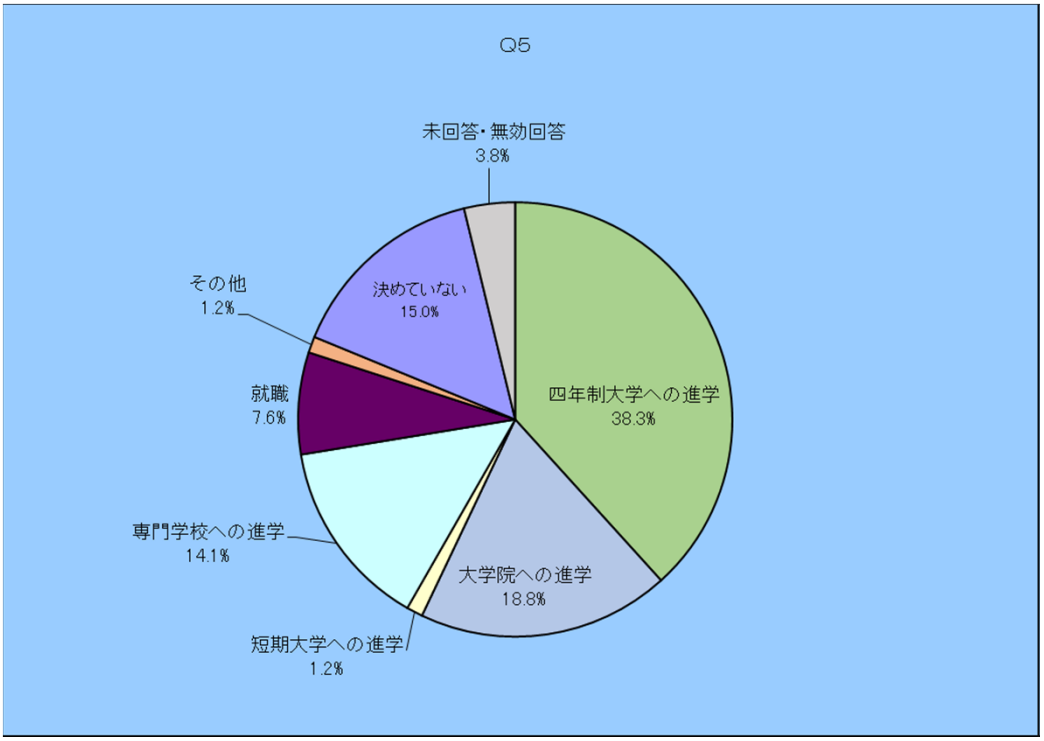
回答者の卒業後の進路は「四年制大学への進学」222人（38.3%）が最も多く、「大学院への進学」109人（18.8%）、「決めていない」87人(15.0%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の3.8%となっている。

Q5)あなたは日本語学校卒業後どのような進路を考えていますか？

	回答数（人）	構成比（%）
全体	580	100.0%
四年制大学への進学	222	38.3%
大学院への進学	109	18.8%
短期大学への進学	7	1.2%
専門学校への進学	82	14.1%
就職	44	7.6%
その他	7	1.2%
決めていない	87	15.0%
未回答・無効回答	22	3.8%

＊その他 7人内訳

	回答数（人）	構成比（%）
全体	7	100.0%
日本語の勉強	1	14.3%
専門学校卒業後編入か就職か	1	14.3%
帰国	2	28.6%
未回答・無効回答	3	42.9%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

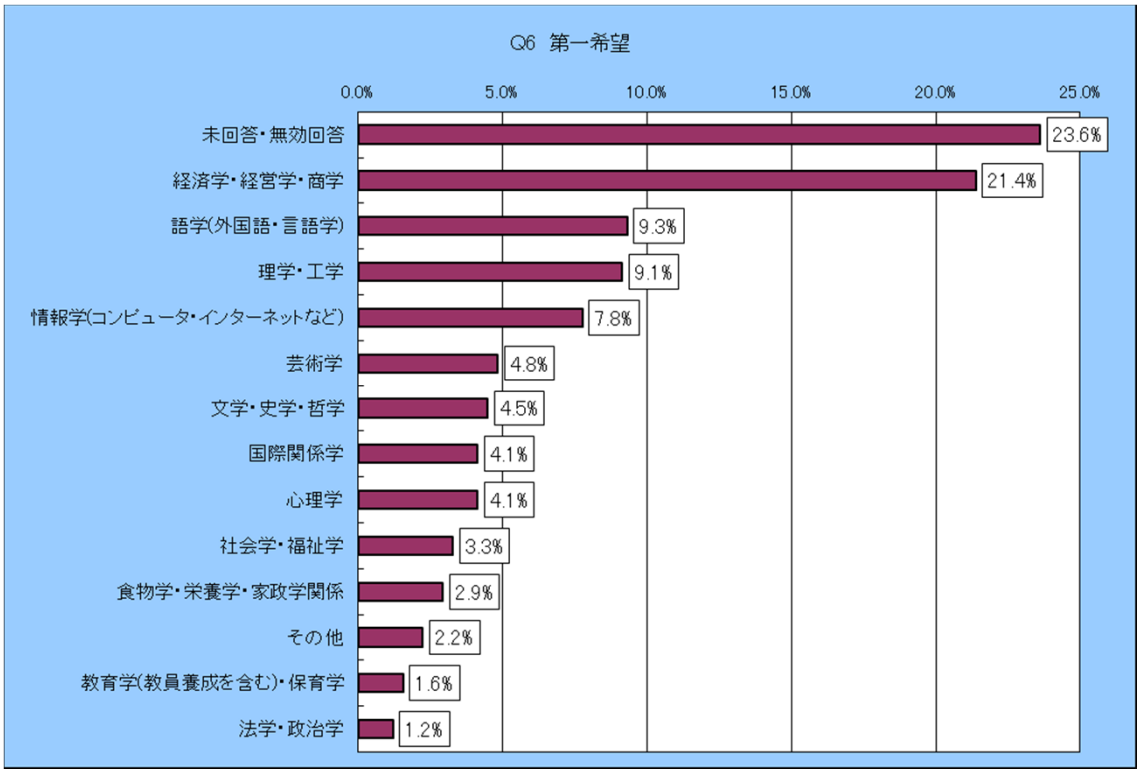
Q6)進学したい分野(第1希望)

回答者の進学したい分野(第1希望)は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「経済学・経営学・商学」124人(21.4%)で、第二位「語学(外国語・言語学)」54人(9.3%)、第三位「理学・工学」53人(9.1%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の23.6%となっている。

＊グローバル・イノベーション学科(仮称)と合致する分野:「経済学・経営学・商学」、「国際関係学」

Q6)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第1希望)

第1希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	580	100.0%
文学・史学・哲学	26	4.5%
語学(外国語・言語学)	54	9.3%
国際関係学	24	4.1%
経済学・経営学・商学	124	21.4%
社会学・福祉学	19	3.3%
法学・政治学	7	1.2%
教育学(教員養成を含む)・保育学	9	1.6%
心理学	24	4.1%
情報学(コンピュータ・インターネットなど)	45	7.8%
理学・工学	53	9.1%
食物学・栄養学・家政学関係	17	2.9%
芸術学	28	4.8%
その他	13	2.2%
未回答・無効回答	137	23.6%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

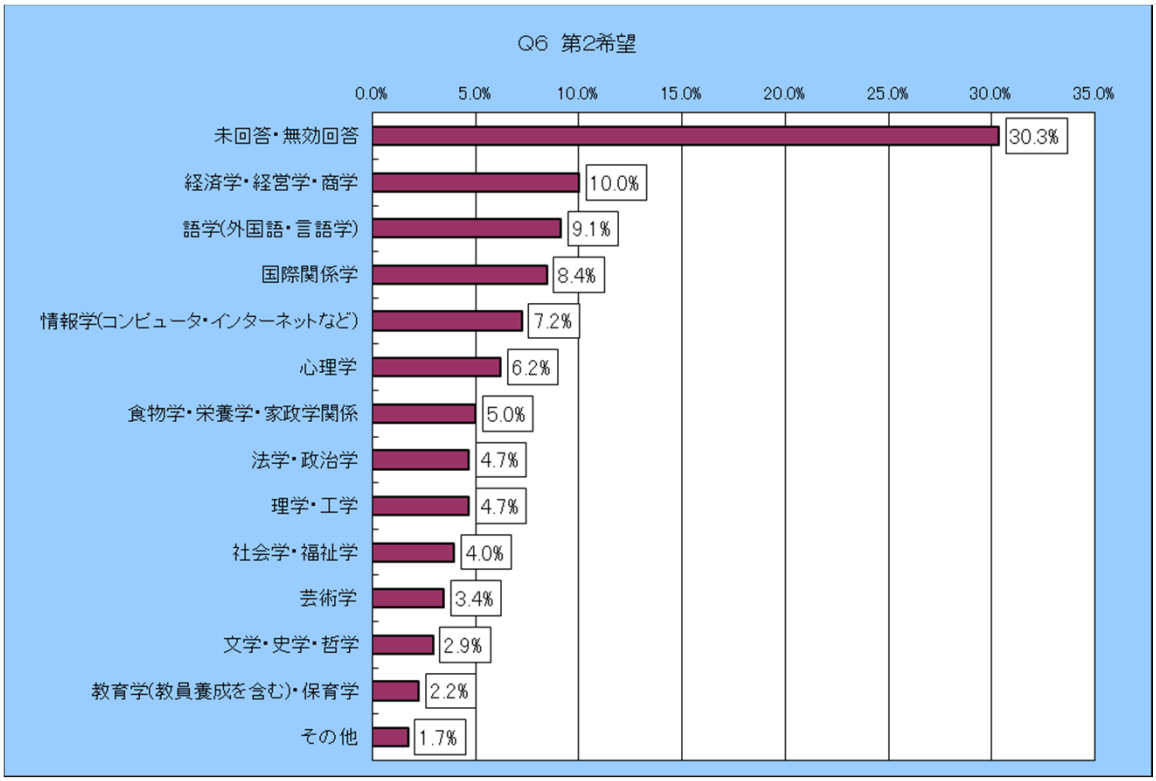
Q6)進学したい分野(第2希望)

回答者の進学したい分野(第2希望)は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「経済学・経営学・商学」58人(10.0%) で、第二位「語学(外国語・言語学)」53人(9.1%)、第三位「国際関係学」49人(8.4%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の30.3%となっている。

＊グローバル・イノベーション学科(仮称)と合致する分野:「経済学・経営学・商学」、「国際関係学」

Q6)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第2希望)

第2希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	580	100.0%
文学・史学・哲学	17	2.9%
語学(外国語・言語学)	53	9.1%
国際関係学	49	8.4%
経済学・経営学・商学	58	10.0%
社会学・福祉学	23	4.0%
法学・政治学	27	4.7%
教育学(教員養成を含む)・保育学	13	2.2%
心理学	36	6.2%
情報学(コンピュータ・インターネットなど)	42	7.2%
理学・工学	27	4.7%
食物学・栄養学・家政学関係	29	5.0%
芸術学	20	3.4%
その他	10	1.7%
未回答・無効回答	176	30.3%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

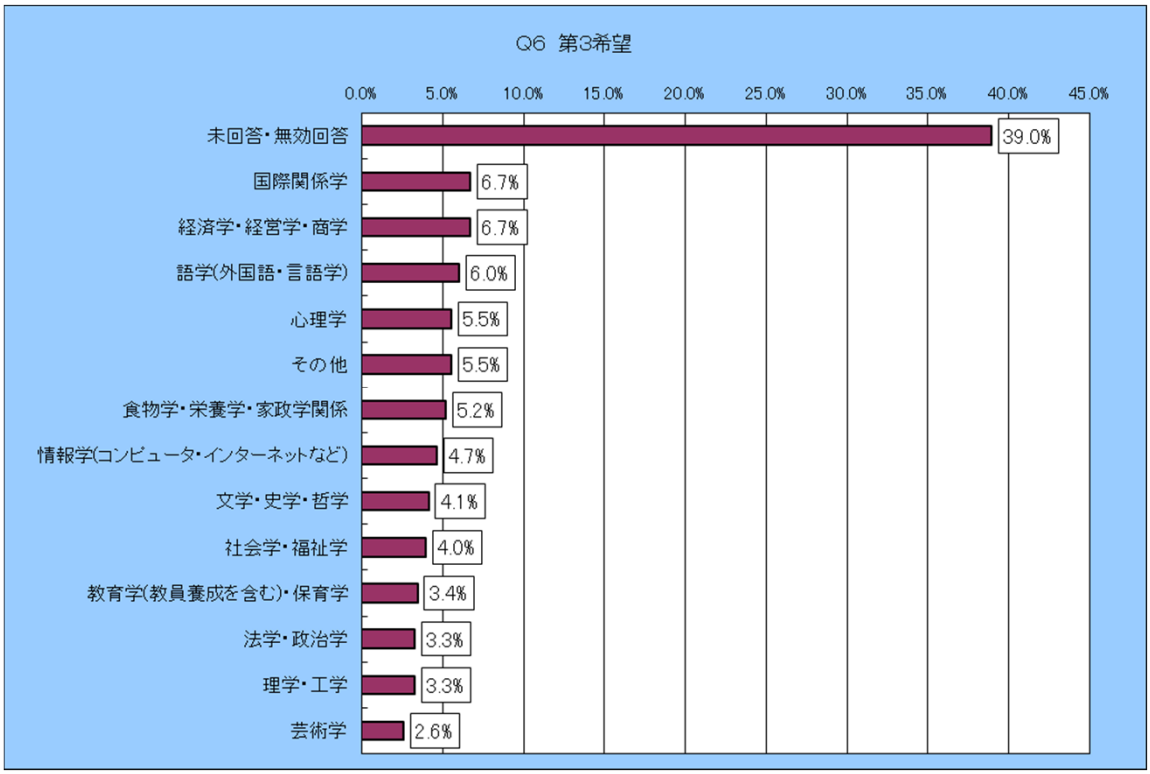
Q6)進学したい分野(第3希望)

回答者の進学したい分野(第3希望)は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「国際関係学」及び「経済学・経営学・商学」各39人(6.7%)で、第二位「語学(外国語・言語学」35人(6.0%)、第三位「心理学」32人(5.5%)と続いている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の39.0%となっている。

＊グローバル・イノベーション学科(仮称)と合致する分野:「経済学・経営学・商学」、「国際関係学」

Q6)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第3希望)

第3希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	580	100.0%
文学・史学・哲学	24	4.1%
語学(外国語・言語学)	35	6.0%
国際関係学	39	6.7%
経済学・経営学・商学	39	6.7%
社会学・福祉学	23	4.0%
法学・政治学	19	3.3%
教育学(教員養成を含む)・保育学	20	3.4%
心理学	32	5.5%
情報学(コンピュータ・インターネットなど)	27	4.7%
理学・工学	19	3.3%
食物学・栄養学・家政学関係	30	5.2%
芸術学	15	2.6%
その他	32	5.5%
未回答・無効回答	226	39.0%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7)進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、「未回答・無効回答」を除くと、第一位が「学費（入学金・授業料・奨学金）」163人（16.6%）で、第二位「学部・学科等の学問分野」151人(15.3%)、第三位「就職実績」119人(12.1%)となっており、大学での学びの分野を重視と共に、卒業後の就職を意識した就職実績、学費等が重視されており、回答数は「学費（入学金・授業料・奨学金）」が最も多くなっている。尚、「未回答・無効回答」として集計した未回答、もしくは判別不能の回答は全体の12.8%となっている。

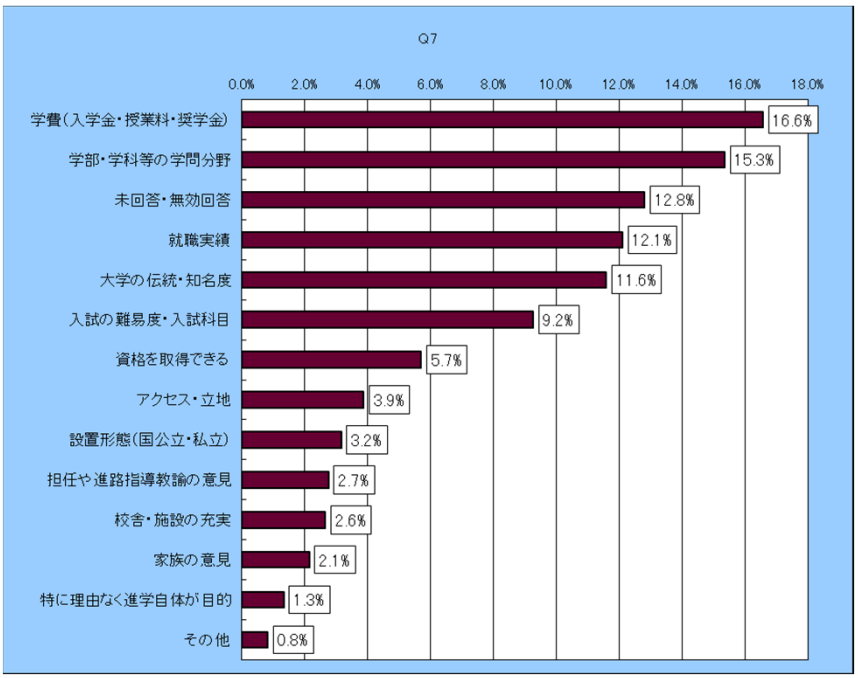
＊2つまで回答可

Q7)あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？

	回答数（人）	構成比（%）
総計	984	100.0%
学部・学科等の学問分野	151	15.3%
就職実績	119	12.1%
資格を取得できる	56	5.7%
設置形態（国公立・私立）	31	3.2%
校舎・施設の充実	26	2.6%
学費（入学金・授業料・奨学金）	163	16.6%
大学の伝統・知名度	114	11.6%
入試の難易度・入試科目	91	9.2%
担任や進路指導教諭の意見	27	2.7%
家族の意見	21	2.1%
アクセス・立地	38	3.9%
特に理由なく進学自体が目的	13	1.3%
その他	8	0.8%
未回答・無効回答	126	12.8%

＊その他 8人内訳

	回答数（人）	構成比（%）
全体	8	100.0%
自分が好きな学校	1	12.5%
自由	1	12.5%
趣味	1	12.5%
授業の充実さ	1	12.5%
就職に有利か	1	12.5%
生徒間のイベント	1	12.5%
未回答・無効回答	2	25.0%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

補記

アンケート説明文1/4


東洋大学
東洋大学から世界へ、学びの幅がさらに大きく広がります。
2017年 4月
新学部・新学科、開設
東洋大学は、2014年、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）」に採択されました。
世界を舞台に活躍し新たな価値を創造する「グローバル人財」の育成を
さらに加速させるため、2017年に新たな学部学科の新設を構想しています。
国際学部
グローバル・イノベーション学科
情報連携学部
情報連携学科
文学部
国際文化コミュニケーション学科
2015年11月現在設置構想中です。学部・学科の名称は仮称であり、このパンフレットの掲載内容は変更になる可能性があります。

アンケート説明文2/4



2014年9月、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援 タイプB（グローバル化牽引型）」に申請していた「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」が採択されました。「スーパーグローバル大学創成支援」は、日本の高等教育の国際競争力の向上を目的に、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、新たな取り組みに挑戦し、日本の大学の国際化を牽引する大学などに対し重点支援を行うものです。本学が採択された「タイプB（グローバル化牽引型）」には、全国の国公私立大学から63件（私立大学38件）の申請があり、うち24件（私立大学12件）が採択されました。

国際化への取り組み（抜粋）



スーパーグローバル大学創成支援採択大学

タイプA トップ型（13校）
[国立大学] 北海道大学／東北大学／筑波大学／東京大学／東京医科歯科大学／東京工業大学／名古屋大学／京都大学／大阪大学／広島大学／九州大学
[私立大学] 慶應義塾大学／早稲田大学

タイプB グローバル化牽引型（24校）
[国立大学] 千葉大学／東京外国語大学／東京芸術大学／長岡技術科学大学／金沢大学／豊橋技術科学大学／京都工芸繊維大学／奈良先端科学技術大学院大学／岡山大学／鹿児島大学
[公立大学] 国際教養大学／会津大学
[私立大学] 国際基督教大学／芝浦工業大学／上智大学／**東洋大学**／法政大学／明治大学／立教大学／創価大学／立命館大学／立命館大学／関西学院大学／立命館アジア太平洋大学

設置予定地

白山キャンパス（グローバル・イノベーション学部、国際文化コミュニケーション学部）



東京都文京区白山5-28-20
都営三田線「白山駅」徒歩5分／東京メトロ南北線「本駒込駅」徒歩5分

NEW 赤羽台キャンパス（情報連携学部）



東京都北区赤羽1-7-12
JR「赤羽駅」徒歩8分／東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」徒歩12分

東洋大学 | お問い合わせ先 | 学校法人東洋大学　経営企画本部
〒112-8606　東京都文京区白山 5-28-20　TEL: 03-3945-7498　www.toyo.ac.jp

アンケート説明文3/4

国際学部 国際社会で活躍できる人材を育成する。

グローバル・イノベーション学科

入学定員：100名（留学生30名）　初年度納付金：1,210,000円（予定）
キャンパス：白山キャンパス（東京都文京区／都営三田線白山駅　徒歩5分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　国際関係学・経済学・社会学

経済・貧困・資源・環境・紛争など、グローバル社会には様々な課題が新たに発生しています。いま求められるのは、グローバルな視点に立ち、新しい時代に合ったシステムや価値を創造できる人材です。グローバル・イノベーション学科では、国際系企業での活動やベンチャーの起業などを通して、国際社会のイノベーション（変革）を起こしうるリーダーシップ力を磨きます。

グローバル・イノベーション学科の強み

■授業は原則英語で、海外留学を必須化（1年間）。
国際社会を舞台に活躍できる実践的なコミュニケーション能力を身につけます。

■語学力・コミュニケーション力を強化するカリキュラム。
1年次に語学力・コミュニケーション力を徹底的に強化します。

■国際社会で活躍するための3つの専門領域。
グローバル・システム領域、国際ビジネス領域、国際コラボレーション領域

■日本人7割・留学生3割の国際的な学習環境。
留学生の受け入れを推進。入学定員の3割をアジアを中心とした留学生に。

■起業家育成プログラムを実施。
学生チームによる起業を支援、学生ベンチャーを育成します。

■リーダーシップ力を現場で磨く実践的な海外プログラム。
インターンシップや海外研修など、体験型海外プログラムの機会を提供します。

育成する人材像

■企業や社会における価値創造を促すイノベーション能力を持つ人材
■国際社会で活躍できる実践的コミュニケーション能力を持つ人材
■日本の伝統文化や思想を深く理解し、世界に発信できる人材
■新規ビジネスの起業を行う能力と意欲にあふれる人材

目指す進路

グローバル力・専門性を活かして多方面で活躍できます。
グローバル企業／起業家／NPO法人／コンサルタント／マーケティング／研究者／官公庁など

文学部 多文化の理解を深め、発信する「コミュニケーション力」を身につける。

国際文化コミュニケーション学科

入学定員：100名　初年度納付金：1,160,000円（予定）
キャンパス：白山キャンパス（東京都文京区／都営三田線白山駅　徒歩5分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　外国語学・文化学

急激にグローバル化が進む現代社会では、国や価値観の違いを超えて信頼関係を築くこと、多様な人々が相互に理解し共生することが求められています。そのために重要となるのは、「文化的な教養」と「コミュニケーションの力」です。国際文化コミュニケーション学科では、日本文化や仏国文化間の比較をベースにした教養と、実践的な言語運用能力とを兼ね備えた人材を育成します。

国際文化コミュニケーション学科の強み

■英語はあたりまえ。英語力に「多言語スキル、多文化理解」をプラス。
英語の基礎力は全学生が身につけます。英語に加え、日・独・仏のいずれか選択した比較文化研究を行います。

■日本にいながら、各国からの留学生と交流して友人を作る。
村上春樹・宮崎駿などを英語で留学生と一緒に学ぶ科目を授業。
学生数の20%が留学生になる予定です。

■海外で仏国文化と英語・フランス語・ドイツ語を学ぶ留学制度。
米・英・仏・独・中の有名大学への留学をサポートします。

■文化間の相互理解を深める3つの専門領域。
英語コミュニケーション特化、比較文化研究（独語・仏語）、日本文化・日本語教育

■国際文化の理解は、日本文化の理解から。
日本文化に対する知識と他文化とを比較できる観察力を身につけます。

■全学連携科目で就職のためのスキルを磨く。
大手企業等と協働して、社会が求める人財教育を行います。

育成する人材像

■自らのキャリアを展望する思考力を持つ人材
■文化的なコンテンツを理解し、表現できる言語コミュニケーション能力を持つ人材
■英語を基礎から教育・指導できる能力を持つ人材
■日本語を外国人に教育・指導できる能力を持つ人材

目指す進路

人と関わり人を育てる教育関係、多文化多言語への対応が求められる公務員・グローバル企業、文化的コンテンツを伴う言語運用力を必要とする出版・報道など。

旅行業／航空・鉄道・ホテル／放送・出版／商社・デパート／広告／翻訳・通訳／研究者／官公庁など

アンケート説明文4/4

情報連携学部 アイデアを素早く形に。「連携」を通して新しい価値を創造する。

情報連携学科

入学定員：400名　初年度学納金：¥1,470,000（予定）
キャンパス：岩舟台キャンパス（東京都北区／JR岩舟駅　徒歩8分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　情報学・経済学・理工学・都市工学・デザイン学

インターネットの急速な進歩は、日々新しい技術や価値が生まれる、変化の時代をもたらしました。アイデアを素早く形にして社会に新たなサービスを送り出す、そんなスピード感を持った人材が求められています。そのためには、分野の違う様々な人々と「連携」してチームを組むことが重要です。情報連携学部では、その「連携」のあり方を実践的に学びます。インターネットを活用し、人・モノ・情報の相互連携が生み出す新しいサービスや産業分野、学問分野、そして新たな社会のあり方の探究とそれを支える人材を育成します。

コンセプトは「連携」

コンピュータ・インターネットはじめとした、さまざまな科学技術により、成り立っている現代社会。一人で全てを理解し、動かすことは困難な時代になってきています。今求められているのは、多くの人々の協力と連携です。

インターネット社会の今、世界はますますチャレンジが容易に

インターネットによって知識や情報がたくさん、考え方が同じで一緒にやっている人々との仕事は簡単に手に入り、また、遠く離れたところにいる人達と協力しあって一緒に仕事をしたり（クラウド・ソーシング）、設計図を誰かに作ってもらって、それを国境・地域関係で購入・組立てもらったりして、新たな製品を作れば、ネットを通じて広く世界から資金を集める（クラウド・ファンディング）ことも可能です。
世界では、こうして若者たちが革新的な製品を世に出して成功する「スタートアップ」が増えています。



いろいろな機能ブロックがネットから簡単に入手でき、スマートフォンの開発環境も充実しました。少しのプログラムだけで高度なアプリを作り、新サービスの実現が可能になります。

インターネットの中の様々な機能やサービスを組み合わせ「連携」させれば…

チームを組んで、コンピュータを使いこなし情報を通して連携し、新しくアイデアを形にできる人材が今求められています。

「連携」の基盤はコンピュータ・サイエンス



学部長（予定）
坂村 健（通 東京大学教授）
computer architect（電脳建築家）、東京大学大学院情報学環教授、工学博士。トロンプロジェクト・ユビキタス・コンピューティング、IoT（Internet of Things）の先導者として日本のICTアーキテクチャを創出。2003年 紫綬褒章、2006年 日本学士院賞、2016年 文化功労者 受賞。

新しい時代を生き抜く
世界中の人々の生活向上と多くの企業のゆるぎない成長のために、現代社会のIT、ネットワーク、デザイン先生を世界でもっとも多く育てた教育者のひとり。

情報連携学科の強み

- 「連携」して未来を創造する。世界最先端の学問です。
- 興味に応じて深く学ぶ「4つのコース」制。
  エンジニアリング・デザイン・ビジネス・ビルトシステム
- 学生の新ビジネス起業をサポート。
  シェアオフィス設置やスポンサー紹介など、学生のチャレンジをバックアップ。
- 黒板はありません。授業は全てノートPCやタブレットで。
- 図書館はデジタル化された電子ブックが主。
  キャンパス内の無線LANで、いつでもどこでも図書館に接続できます。
- 一流の教員陣による手厚い少人数教育。

カリキュラムの特徴

- すべての学生が「プログラミング」を学びます。
  「連携」の基礎はプログラミングから。コンピューターを語る基礎力を身につけます。
- コミュニケーション能力を重視。
  「様々な人たちと一緒になって課題解決を行うための力を養成。
  「英語」「プレゼンテーション」「ディベート」などの国際力を身につけます。
- チーム演習で「連携」を実践。
  各コースの授業で身につけた専門性を活かし、4つのコース横断でチームを組成。新ビジネス起業の模擬実習を行い、自分と違うコース・違う国籍の仲間との協力を体験し、社会に出てからの即戦力を身につけます。
- 独自の英語プログラムを実施。
  1年次に英語力の基礎を徹底的に鍛えます。
  2年次・3年次からは、英語で授業を行うプログラムも履修できます。

育成する人材像

- 最先端のコンピュータ・サイエンスを身につけ、未来の情報サービスを構築できる人材
- 新しい考え方で、未来のモノを具体化できる人材
- 情報を武器として新たなビジネスを創り出せる人材
- 情報技術と連携し豊かな社会とくらしの創造に応用できる人材

目指す進路

- 専門力・グローバル力・連携力を活かして多方面で活躍できます。
- チーム演習の実績を活かし、仲間たちと新ビジネスを起業する。
- ICT関連企業／システム・エンジニア／プログラマ／Webデザイナ／コンサルタント／マーケティング／研究者／官公庁／建設／商業／サービスなど

2015年11月現在設置構想中です。学部・学科の名称は仮称であり、このパンフレットの掲載内容は変更になる可能性があります。

アンケート調査票1/2

東洋大学 新学部 学科設置計画に係る留学生進学需要調査

東洋大学では、これまでの学部 学科に加えて、新たに国際学部 グローバル・イノベーション学科を設置することを検討しています。設置計画検討の参考として、留学生のみなさんの率直なご意見をお聞かせください。

【質問 1～2、8】は、別紙「東洋大学 新学部 学科」の概要をご覧いただき、ご記入下さい。

東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)について

【質問 1】東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)に興味・関心がありますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 興味・関心がある　3 あまり興味・関心がない　5 わからない
2 ある程度の興味関心がある　4 興味・関心がない

【質問 2】東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)に進学したいと思いますか？
次の中から、１つ選び○を付けて下さい。

1 進学を希望する　2 進学を検討する　3 進学を希望しない　4 わからない

【質問 3】あなたの性別は、どちらですか？いずれかに○を付けて下さい。

1 男性　2 女性

【質問 4】あなたのご出身国はどちらですか？１つ選び○を付けて下さい。

1 中国
2 韓国
3 タイ
4 マレーシア
5 インドネシア
6 インド
7 その他(　　)

【質問 5】あなたは日本語学校卒業後どのような進路を考えていますか？１つ選び○を付けて下さい。

1 四年制大学への進学
2 大学院への進学
3 短期大学への進学
4 専門学校への進学
5 就職
6 その他(　　)
7 その他(　　)
8 決めていない

⇒裏面へ続く

アンケート調査票2/2

＊【質問 6、7】は、【質問 5】で「1. 四年制大学への進学」「2. 大学院への進学」「3. 短期大学への進学」「4. 専門学校への進学」と回答した方のみお答え下さい。その他の方は【質問 8】へお進みください。

【質問 6】あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？
第 1 希望、第 2 希望、第 3 希望の該当する欄に<u>それぞれ 1 つずつ</u>○を付けて下さい。

	分　　野	第1希望	第2希望	第3希望
1	文学・史学・哲学			
2	語学（外国語・言語学）			
3	国際関係学			
4	経済学・経営学・商学			
5	社会学・福祉学			
6	法学・政治学			
7	教育学（教員養成を含む）・保育学			
8	心理学			
9	情報学（コンピュータ・インターネットなど）			
10	理学・工学			
11	食物学・栄養学・家政学関係			
12	芸術学			
13	その他			

【質問 7】あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？
次の中から<u>2 つまで</u>選び○を付けて下さい。

1　学部・学科等の学問分野
2　就職実績
3　資格を取得できる
4　設置形態（国公立・私立）
5　校舎・施設の充実
6　学費（入学金・授業料・奨学金）
7　大学の伝統・知名度
8　入試の難易度・入試科目
9　担任や進路指導教諭の意見
10　家族の意見
11　アクセス・立地
12　特に理由なく進学自体が目的
13　その他（　　）

【質問 8】東洋大学 **国際学部 グローバル・イノベーション学科**（仮称）に対するご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました

東洋大学　経営企画本部

グローバル人材育成戦略

（グローバル人材育成推進会議　審議まとめ）

2012 年(平成 24 年) 6 月 4 日

グローバル人材育成推進会議

目　　次

はじめに　…… 1

1. 基本的な問題意識について　…… 3
(1) 海外留学の動向と「内向き志向」
(2) 我が国の経済的な発展と国際社会との関わり

2. グローバル人材の育成及び活用について　…… 8
(1) 「グローバル人材」とは
(2) グローバル人材の育成及び活用に向けた諸課題

3. 英語教育の強化、高校留学の促進等の初等中等教育の諸課題について　…12
(1) 実践的な英語教育の強化（英語・コミュニケーション能力、異文化体験等）
(2) 高校留学等の促進
(3) 教員の資質・能力の向上

4. 大学入試の改善等の大学教育の諸課題について　……15
(1) 大学入試等の初等中等教育と大学教育の接続の改善・充実
(2) 国際的に誇れる大学教育システムの確立、高等教育の国際展開の推進
(3) 留学生交流の戦略的な推進
(ｱ) 日本人学生の海外留学の促進
(ｲ) 海外からの留学生受け入れの促進
(ｳ) 留学生交流戦略の明確化等

5. 採用活動の改善等の経済社会の諸課題について　……20
(1) 採用活動等の教育と雇用の接続の改善・充実
(ｱ) 海外へ出たことによる不利益の是正
(ｲ) 海外へ出やすい環境の整備
(2) 採用後のグローバル人材育成・活用の促進

6. その他関連する重要課題について　……24
(1) グローバル化に対応した職業教育・職業訓練等の充実
(2) 国際的なボランティア活動の促進
(3) 日本語・日本文化の世界的な普及・展開
(4) グローバル人材の育成に向けた環境整備等

おわりに　……28

はじめに

○　2004 年(平成 16 年)以降、海外へ留学する日本人学生の数は減少に転じている。また、特に米国の大学に在籍する日本人学生数は大きく落ち込んでいる。さらに、新入社員に対するアンケートでは、海外での勤務を希望しない者が増えているとの報告もある。

○　一方、経済成長の著しい中国やインドは海外留学生数を大きく増加させている。注目すべきは、我が国は、人口規模が我が国の約半分である韓国にも海外留学者の実数で劣り、しかもその差が拡大傾向にあることである。

○　人口減少と超高齢化が進む中で、東日本大震災という深刻な危機を経験した我が国経済が本格的な成長軌道へと再浮上するためには、創造的で活力のある若い世代の育成が急務である。とりわけ、グローバル化が加速する 21 世紀の世界経済の中にあっては、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる「グローバル人材」を我が国で継続的に育てていかなければならない。

○　こうした問題意識の下に、我が国の成長の牽引力となるべき「グローバル人材」の育成と、そのような人材が社会で十分に活用される仕組みの構築を目指して、2011 年 (平成 23 年)5 月、新成長戦略実現会議の下に関係閣僚からなる「グローバル人材育成推進会議」が設置され、またその下に関係の副大臣・政務官等からなる「グローバル人材育成推進会議幹事会」が設置され、同年 6 月には「中間まとめ」を取りまとめた。さらに、国家戦略会議の発足後も「グローバル人材育成推進会議」及び「同幹事会」は引き続き設置することとされた。

○　あらためて言うまでもなく、国内外のグローバル化の流れはその速度を不可逆的に増している。グローバル人材に対する経済的社会的な需要・期待は、本推進会議設置後のこの 1 年程度のわずかな間に限ってみても、我が国社会のトップ・リーダーとしての期待から、国境を越えた市場の拡大や海外での現地生産の強化等に対応した厚みのある中核的・専門的人材層の需要へと急拡大する様相を呈しており、現在もなおその過渡期と見ることができる。

○　こうした変転やまない先行き不透明な時代の中にあって政策を打ち出す上で重要と考えられるのは、
第一に、関係者がまず具体的なアクションを起こす必要があること、
第二に、常に問題意識等を社会全体へ情報発信する姿勢が不可欠であること、
第三に、これからの時代の人材育成については、教育と雇用の構造的なミスマッチを恒常的に埋める努力が求められること、
第四に、特にグローバル人材の育成は、常に海外との関わりの中で国際的視点から枠組み(いわゆる「内なる国際化」を含めて)を構想する必要があること
等である。

○　本戦略は、2012 年(平成 24 年)の年央に予定される国家戦略会議の「日本再生戦略」の取りまとめを前に、計 4 回の「グローバル人材育成推進会議」及び計 7 回の「同幹事会」での検討経過を踏まえて、基本的な問題意識や諸課題への対応方策等を取りまとめたものである。

［なお、☆は本文の記述に関連する施策等の提言事項、
【　】内はその関係各省を表す。］

1. 基本的な問題意識について

(1) 海外留学の動向と「内向き志向」

○　グローバル化する世界の中にあって、我が国では、「失われた 20 年」と言われるなど、経済のみならず社会の各分野で国内に停滞感が充満している。

○　また、2004 年(平成 16 年)以降、海外へ留学する日本人学生の数は減少に転じ、特に米国の大学に在籍する日本人学生数が大きく落ち込んでいる。これは、米国以外の大学へ留学する者が増加してきたことをも考え合わせると、留学先の多様化と見ることもできる。また、若年人口全体が急激な減少傾向にあることの影響も大きい。しかし、同世代に占める留学者の比率が、昨今の経済情勢の影響もあって減少傾向に転じていることは大きな懸念材料と言えよう。また、日本人学生の海外留学者数の男女比はおよそ 1 対 2 との調査結果があり、男子学生の不振が際立っている。さらに、新入社員に対するアンケートでは、海外での勤務を希望する者としない者とで二極化が進んでいるとの報告もある。

○　一方、諸外国の中で、経済成長の著しい中国やインドは海外留学生数を大きく増加させている。人口規模が我が国の約半分である韓国も海外留学者の実数で我が国を上回り、しかもその差が拡大傾向にあることは注目しなければならない。

図１：日本人の海外留学者数

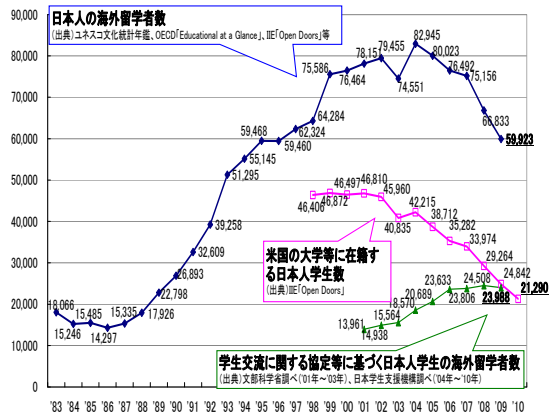


図２：国（地域）別 学生の海外派遣者数の推移

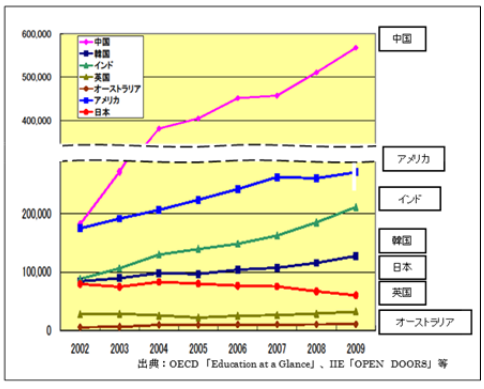
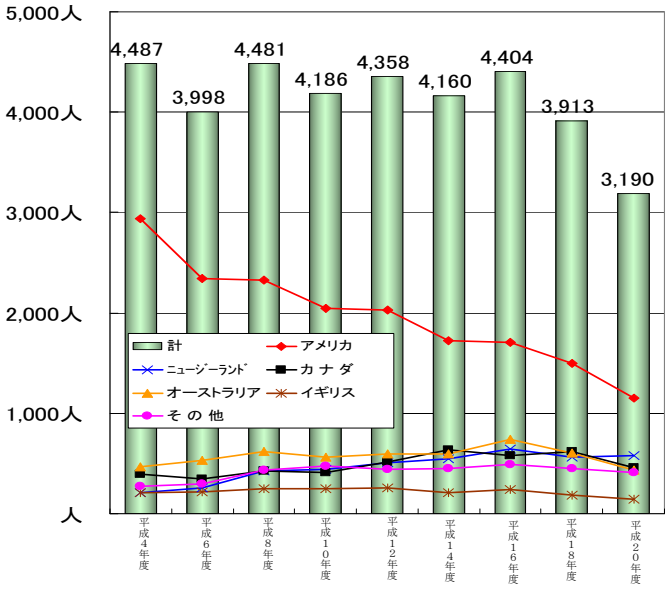


図３：高校生の留学者数（３ヶ月以上）行き先別生徒数推移



出典：文部科学省「平成 20 年度高等学校等における国際交流等の状況について」

○　こうした我が国の状況に関し、一部には、若い世代の「内向き志向」を指摘する向きもあるが、この問題は、(若い世代の)意識の問題に安易に還元することなく、意識の背景となる社会システム上の構造的な要因を克服していくことが重要と考える。

図４：日本人学生の留学に関する主な障害

	件数	比率（87大学中）
①就職 帰国後、留年する可能性が大きい	59	67.8%
②経済 経済的問題で断念する場合が多い	42	48.3%
③体制 帰国後の単位認定が困難	32	36.8%
③体制 助言教職員の不足	23	26.4%
③体制 大学全体としてのバックアップ体制が不備	21	24.1%
③体制 先方の受け入れ大学の情報が少ない	9	10.3%
両親、家族の理解が得られない	7	8.0%
指導教員の理解が得られない	3	3.4%
その他	27	31.0%

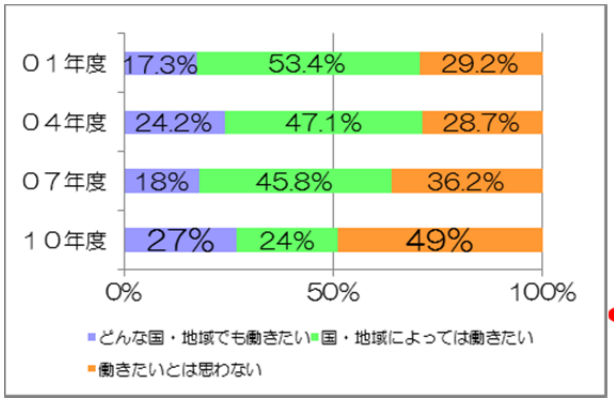
※国立大学協会国際交流委員会留学制度の改善に関するワーキング・グループが、各国立大学に対して留学制度の改善に関するアンケートを実施。
※本調査項目には 87 大学が回答。
※平成 19 年 1 月

○　従来、高校関係者は大学入試を、大学関係者は企業採用を過度に意識する一方で、企業側は国内の教育に必ずしも十分な関心を向けないまま、限られた「優秀」な人材の獲得のため先を争うかのように採用に走るといった風潮の中で、高校教育の困難化・大学教育の空洞化と採用の早期化・長期化が同時進行するという悪循環を招いてきたことは否めない。

○　さらに、若年人口が減少する一方で大学等進学率が一貫して上昇する中、保護者が、進学率のまだそれほど高くなかった 20～30 年前の自らの経験に基づくイメージで、経済・雇用情勢が全く異なる現在の若い世代を「良い」学校→「良い」大学→「一流」企業→幸せな人生、という単線型の人生設計に駆り立てる傾向も根強くあったのではないか。「就職氷河期」「超氷河期」といった表現が繰り返し報じられる中で、この傾向が一層助長されてしまった面も見逃せない。

○　今後は、高校関係者、大学関係者、企業関係者、政府・行政関係者、保護者等が一斉に具体的な行動を起こすことで、若い世代を後押しする好循環を我が国社会全体で生み出していくことが不可欠である。

図５：新入社員の海外勤務希望



出典）学校法人産業能率大学「第４回 新入社員のグローバル意識調査」（２０１０年７月）

図６：高等教育への公財政支出の対ＧＤＰ比

	日本	アメリカ
公費負担	0.5%	1.0%
私費負担	1.0%	1.7%
うち家計	0.76%	1.12%
民間	0.24%	0.58%
合計	1.5%	2.7%

出典)「Education at a Glance」

(2) 我が国の経済的な発展と国際社会との関わり

○　過去の歴史において、我が国は、時代ごとの危機的状況を積極的な人材派遣など海外との相互交流・接触の中で打開し克服してきた経験を持つ。

○　しかし、1980 年代頃までに「(経済的)豊かさ」を達成した結果、フロンティアを喪失することとなり、今日では、技術の先進性や一定規模の国内マーケットの存在などが却って「日本のガラパゴス化」を招きかねないとの懸念すら指摘される状況にある。

○　現状のままでは、中長期的な観点で経済成長の原動力となるべき有為な人材が枯渇して、我が国は本格的な再生のきっかけを失い、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）や VISTA（ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン）といった新興国の台頭等、変化の激しいグローバル化時代の世界経済の中で、緩やかに後退していくのではないかとの危機感を抱かざるを得ない。

○　産業・経済の急速な高度化・グローバル化の中で、我が国がこのまま極東の小国へと転落してしまう道を回避するためには、あらためて海外に目を向けて「世界の中の日本」を明確に意識するとともに、自らのアイデンティティーを見つめ直すことが不可欠なのではないか。

○　そしてこのことは、新たな時代の我が国の成長の牽引力となるのがもはや一握りのトップ・エリートのみであることを意味しない。様々な分野で中核的な役割を果たす厚みのある中間層を、言わば「21 世紀型市民」として形成する上でも、今後は、国際社会との関わりを抜きにして語ることはできない。

○　その上で、我が国は、「産業・経済上の活力の持続」と「社会生活面での幸福・充足感や(精神的)豊かさ」とが両立した、経済・社会の調和のとれた発展のモデルとなることを目指すべきである。そのことが、ひいては、言わば「課題解決先進国」として、我が国が世界からの信頼と尊敬を得て存在感のある国となることにつながるものと考える。

○　そのために、今こそ、社会全体のシステムをグローバル化時代に相応しいものに構築し直し、個々人の人生設計を柔軟かつ多様に支援する複線型の社会システムへと変革しなければならない。そしてその第一歩であり眼目とも言えるのが、国家戦略の一環としての「グローバル人材」の育成にほかならない。

2. グローバル人材の育成及び活用について

(1) 「グローバル人材」とは

○　「グローバル化」とは、今日、様々な場面で多義的に用いられるが、総じて、(主に前世紀末以降の)情報通信・交通手段等の飛躍的な技術革新を背景として、政治・経済・社会等あらゆる分野で「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が国境を越えて高速移動し、金融や物流の市場のみならず人口・環境・エネルギー・公衆衛生等の諸課題への対応に至るまで、全地球的規模で捉えることが不可欠となった時代状況を指すものと理解される。

○　我が国がこれからのグローバル化した世界の経済・社会の中にあって育成・活用していくべき「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素が含まれるものと考えられる。

- 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
- 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

○　このほか、「グローバル人材」に限らずこれからの社会の中核を支える人材に共通して求められる資質としては、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等を挙げることができる。

○　グローバル人材の概念に包含される要素の幅広さを考えると、本来、その資質・能力は単一の尺度では測り難い。しかし、測定が比較的に容易な要素Ⅰ(「道具」としての語学力・コミュニケーション能力)を基軸として(他の要素等の「内実」もこれに伴うものを期待しつつ)、グローバル人材の能力水準の目安を(初歩から上級まで)段階別に示すと、例えば、以下のようなものが考えられる。

① 海外旅行会話レベル
② 日常生活会話レベル
③ 業務上の文書・会話レベル
④ 二者間折衝・交渉レベル
⑤ 多数者間折衝・交渉レベル

○　我が国では、①②③レベルのグローバル人材の裾野の拡大については着実に進捗しつつあるものと考えられる。今後は更に、④⑤レベルの人材が継続的に育成され、一定数の「人材層」として確保されることが、国際社会における今後の我が国の経済・社会の発展にとって極めて重要となる。

○　この点は、例えば、TOEFL の成績の国別ランキング(2010 年)で我が国は 163 か国中 135 位、アジア 30 か国中では 27 位と低迷していること、また、IMD(スイスの研究教育機関)の世界競争力ランキング(2011 年)でも我が国は 59 か国・地域中 26 位と振るわず、特に指標の中の「外国語のスキル」が 58 位となっていること等にも端的に表れている。

図７：TOEFL の成績の国別ランキング(2010 年)

＜全体順位＞（１６３か国中）

順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	デンマーク	99
3位	シンガポール オーストリア	98
：	：	：
80位	韓国	81
：	：	：
105位	中国	77
：	：	：
135位	カメルーン、トーゴ、 クウェート、日本	70
139位	ギニア、シエラレオネ	69
：	：	：

＜アジア内順位＞（３０か国中）

順位	国名	TOEFLスコア
1位	シンガポール	98
：	：	：
24位	アフガニスタン、モンゴル、 ベトナム	73
27位	日本	70
28位	ラオス人民民主共和国	67
29位	タジキスタン	66
30位	カンボジア	63

出典:ETS-Test and Score Data Summary for TOEFL Internet-based and Paper-based Tests JANUARY 2010-DECEMBER 2010 TEST DATA

図８：IMD 世界競争力ランキング（2011 年）

＜全体順位＞（５９か国・地域中）

日本	26 位

＜我が国が強い指標＞

・平均寿命	1 位
・環境技術	2 位
・研究開発投資	3 位、4 位

＜我が国が弱い指標＞

・携帯電話料金	59 位
・外国語のスキル	58 位
・依存人口比率	55 位

出典:IMD ランキング 2011

○　④⑤レベルの人材を育成する上では、比較的若いうち(10～30 歳代まで)に留学や在外経験をした上で、(大学・大学院や職場での)更なる研鑽を積むという経路が有効であることは否定し難い。この見地から、特に大学入試と企業採用について、従来の発想及び制度から大きく脱却することが喫緊の課題だと考える。

(2) グローバル人材の育成及び活用に向けた諸課題

○　前述のとおり、グローバル人材の概念に包含される要素は幅広いものの、企業に対するアンケートによれば、2012 年(平成 24 年)時点でのグローバル人材(前述の③④⑤レベル相当)の現在数は(日本人・外国人合計で)約 168 万人程度と推計される。一方、5 年後の 2017 年(平成 29 年)時点では約 411 万人程度が必要となることが推計されており、約 2.4 倍もの需要増が見込まれる。また、5 年後の時点ではグローバル人材の候補者としての新卒採用が約 18 万人程度となるものと推計されている。その他、人材需要を満たす手法としては、中途採用や研修（OJT）等による人材育成・活用が考えられる。

○　あらためて言うまでもなく、国内外のグローバル化の流れはその速度を不可逆的に増している。グローバル人材に対する経済的社会的な需要・期待は、この 1 年程度のわずかな間に限ってみても、我が国社会のトップ・リーダーとしての期待から、新興国をはじめとする国境を越えた市場の拡大や海外での現地生産の強化、中堅・中小企業の海外展開等に対応した厚みのある中核的・専門的人材層の需要へと急拡大する様相を呈しており、現在もなおその過渡期と見ることができる。

○　こうした状況の中、1992 年(平成 4 年)の 205 万人をピークに急減していた我が国の 18 歳人口は、2012 年(平成 24 年)現在では約 119 万人となっており、今後約 10 年間は 110～120 万人程度の規模で横ばいの推移をするものと予測されている。

○　この期間のうちに、若い世代では、同一年齢の者のうち約 10%(即ち約 11 万人程度)が概ね 20 歳代前半までに 1 年間以上の留学ないし在外経験を有し、前述の④⑤レベルのグローバル人材の潜在的候補者となっていることが通常の姿となることを目指したい。また、前述の③レベルのグローバル人材についても、相当程度の厚みのある人材層を形成することが必要となろう。

○　そのためには、実践的な英語教育の強化やグローバル化に対する理解促進を図ること等を通じて留学・在外経験を目指す若い世代を増やすとともに、親の海外駐在に伴う在外経験、高校生や大学生等の留学、企業若手社員の海外経験等、若い世代が様々な機会を捉えて外に出やすい環境を整えていかなければならない。

○　以上のような姿を目指して、今後、グローバル人材の育成・活用を図っていく上では、

・英語教育の強化、高校留学の促進等の初等中等教育の諸課題
・大学入試の改善等の大学教育の諸課題
・採用活動の改善等の経済社会の諸課題

等について、ひとり政府・行政関係者のみならず、高校関係者・大学関係者・企業関係者・保護者等多くの関係者が、同時並行的に連動して具体的方策に取り組むことが不可欠である。

○　なお、昨今のグローバル化の進展とグローバル人材に対する需要(量的のみならず、質的にも裾野が急速に拡大)の高まりに見られるように、経済・社会・雇用情勢とそれに応じた人材需要は、絶え間なく変転することがむしろ常態となっており、教育・人材育成との間に様々な面で一定の乖離(ミスマッチ、タイムラグ)が生じてしまうことは構造的に避け難くなる一方である。しかし、(「流行」に対する「不易」としての要素が教育に求められることは前提としつつも、)この乖離を可能な限り小さくする恒常的な努力の重要性が増していることも論をまたない。

☆グローバル人材の現在数(年代別・男女別等)と将来目標に関する定量的イメージづくりやグローバル人材育成の将来目標達成のためのロードマップ(例えば 5 年後等)づくり(産業分野別・対応言語別等)を更に継続する。　【文、経】

☆グローバル人材を含めた、教育と雇用の構造的な乖離(ミスマッチ、タイムラグ)の解消に向けて、関係各省が縦割りを超えて、関係審議会等での問題意識の共有や対応策の情報交換等を行う。　【文、厚、経】

3. 英語教育の強化、高校留学の促進等の初等中等教育の諸課題について

○　初等中等教育段階では、基礎的な学力・体力・対人関係力等をしっかりと身につけさせることが重要である。グローバル人材の育成との関係では、特に、実践的な英語教育の強化、高校留学等の促進、教員の資質・能力の向上等が求められる。

○　前述のように、①②③レベルのグローバル人材の裾野の拡大は着実に進捗しつつあると考えられるが、今後は更に③レベルの人材の厚みを増すことを目指すとともに、④⑤レベルを意識して、その潜在的候補者層を確保することにも注力すべきである。

(1) 実践的な英語教育の強化（英語・コミュニケーション能力、異文化体験等）

○　前述の③レベルの人材層及び④⑤レベルの潜在的候補者層を厚く形成していく上では、その基礎として、初等中等教育段階の実践的な英語教育を抜本的に充実・強化することが不可欠である。特に、小中高を通じて英語・コミュニケーション能力等の育成を図るとともに、児童・生徒の国内外における異文化体験の機会を充実させることが重要である。

☆小中高を通じた英語教育の抜本的な充実・強化(新学習指導要領の着実な実施、JET プログラム(ALT(外国語指導助手)等)の活用、姉妹都市・姉妹校の活用、ICT の活用等)を図る。　【文】

☆小中高での児童・生徒の国内外における異文化体験や青少年交流等の機会の充実のため、大学や民間団体等との連携を強化する。また、JET プログラム等の活用を通じた地域レベルでの国際交流・相互理解の一層の促進を図る。　【外、文】

☆英語教育の支援員や関連教材を求める学校側とそれらの提供が可能な者とのマッチングを図るためのポータルサイトを開設する。　【文】

☆英語教育に関する先進的な取組を支援し、外部検定試験を活用した英語・コミュニケーション能力（理解力・表現力等）の到達度の把握・検証→指導内容・方法の改善という PDCA サイクルを通じて、中学・高校段階の英語教育を抜本的に強化する。　【文】

☆小中連携、一貫教育の導入及び推進のため、実施上の留意点や先行的な実践事例を整理したポイント・事例集を作成する。　【文】

☆中高一貫教育校の教育の特色化を推進するため、学習指導要領等の教育課程の基準の特例を活用した特色ある教育活動の展開を促進する。　【文】

(2) 高校留学等の促進

○　前述の④⑤レベルを意識したグローバル人材の育成のため、18 歳頃の時点までに 1 年間以上の留学ないし在外経験を有する者を 3 万人規模に増加させることを目指す。また、国際バカロレア資格への対応等を進めるとともに、飛び入学や早期卒業を活用して多様で柔軟な進路設計を促進する。また、児童・生徒や保護者のグローバル化に対する理解を促進することも重要である。

☆18 歳以下の世代の在外経験(特に、親の海外駐在に伴い海外で教育を受ける機会)や高校生の海外留学を大幅に促進するための環境整備を行うこと等により、18 歳頃の時点までに 1 年間以上の留学ないし在外経験を有する者を 3 万人規模に増加させることを目指す。その際、留学しても 3 年間での高校卒業が可能である旨を周知徹底する。　【文等】

☆帰国子女の中学・高校への中途編入枠を拡大する。　【文】

☆高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を 5 年以内に 200 校程度へ増加させる。　【文】

☆高校の生徒の TOEFL の成績や英検の実績等の公表を促進する。　【文】

☆高校教育の質保証、高校段階での学力の状況を多面的・客観的に把握する様々な仕組みの創設等について、検討を進め方向性を明確にする。　【文】

☆大学・大学院への飛び入学や早期卒業の促進を図るとともに、高校における早期卒業制度の創設のための制度的整備等について、検討を進め方向性を明確にする。(高校 2 年→留学 1 年→大学 4 年、高校 2 年→大学 5 年(留学 1 年を含む)、高校 3 年→留学 1 年→大学 3 年等の柔軟な進路設計を可能に)　【文】

☆中学生や高校生に国際的な視野を持たせ、海外への関心を高めるため、海外勤務・留学経験のある社会人・大学生等を特別非常勤講師として中学校や高校等に派遣する。 【文】

☆海外の高校・大学への留学・進学を希望する中学生・高校生や保護者等に対する各種の情報提供や手続き面での助言等の支援を多様な主体が行う環境の整備方策を検討する。 【文】

(3) 教員の資質・能力の向上

○ 外国語教育を担当する教員等の資質・能力の向上無くしてグローバル人材の育成はおぼつかない。養成・採用・研修の全ての段階での取組の充実が求められる。

☆英語担当教員の採用の段階で、TOEFL･TOEIC の成績等を考慮することや外国人教員を採用することを促進する。 【文】

☆英語担当教員等の養成の中核的拠点となる大学を重点整備する。 【文】

☆全ての現職の英語担当教員に TOEFL･TOEIC 等を一度は受験するよう促し、その成績に基づいた研修を実施する。 【文】

☆ALT の資質向上(JET プログラムによる選考やオリエンテーションの改善､同プログラム外の ALT の実態把握等)を図る。 【外、文】

4. 大学入試の改善等の大学教育の諸課題について

○　学生に充実した教養教育および専門教育を施すことは、大学・大学院の基本的使命である。グローバル人材が語るべき自らの「内実」(前述の要素Ⅱ・Ⅲ等)を深めるためにも、大学・大学院教育の役割は大きい。グローバル人材の育成との関係では、特に、大学入試の改善・充実、国際的に誇れる大学教育システムの確立、留学生交流の戦略的な推進が重要である。

(1) 大学入試等の初等中等教育と大学教育の接続の改善・充実

○　高校教育への大学入試の持つ影響の大きさが指摘されて久しい。事実上の「大学全入」時代と言われる昨今でも状況は大きく動いていないのではないか。大学入試を意識して中学生や高校生が留学や在外経験の機会を躊躇することの無いよう、大学入試は抜本的に変えて改革を進めていかねばならない。

☆高校教育の質保証、大学教育の質保証及びその接続時点の大学入試改革の三者を連動して一体的に進め、生徒・学生の学力保証を確実に図る仕組みを構築する。【文】

☆授業は英語で行うことを基本とする等、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の 4 つの技能を総合的・統合的に指導するとした高校の新学習指導要領の趣旨を踏まえて、4 つの技能をバランス良く問うタイプの入試への転換を、大学関係者・高校関係者等で共同開発し、その普及・活用を促進する。【文】

☆一般入試において TOEFL･TOEIC の成績等をどのように評価･換算するかの標準的方法の開発・普及を推進する。【文】

☆入学志願者の外国語コミュニケーション能力を適切に評価する観点から、AO 入試等の際に TOEFL･TOEIC 等の活用を促進する。【文】

☆大学入試において留学経験者や帰国子女等の在外経験を有する者向けの募集枠の一層の活用を推進する。【文】

(2)国際的に誇れる大学教育システムの確立、高等教育の国際展開の推進

○　大学が、グローバル化時代に相応しく教育内容や教育方法を改善・充実し、国内外の学生にとって魅力ある国際的に誇れる大学教育システムを確立する。そのことを通じて、前述の③レベル以上の人材層の厚みにつなげる。また、我が国の高等教育そのものの国際展開を推進するとともに、飛び入学や早期卒業を活用して多様で柔軟な進路設計を促進する。

☆各大学が、自らの使命・役割に沿って、グローバル人材の育成のための到達目標等を明確に設定することを促進する。　【文】

☆学生の主体的な学びを確立するため、質を伴った学修時間の増加・確保を始めとする学士課程教育の質的転換、世界標準の質保証や大学連携の仕組みの整備、研究力や大学ガバナンスの強化等、国際的に誇れる大学教育システム(カリキュラム・教員等)を確立する。その際、各大学が外国人教員数や英語による授業の実施率等の目標を具体的に設定することを促進する。　【文】

☆大学への秋入学の導入に向けて、まずは、関係大学や産業界等の自主的・自発的な議論の実りある進展を期待しつつ、国家試験・資格試験や公務員制度との関係、ギャップ期間の取扱い等の環境整備が必要となる課題その他の論点につき、その解決に向けて幅広に検討を進める。また、関係大学の意思決定の状況等を見定めた上で、政府としての基本的な方針を整理する。
【人、総、文、厚、経等】

☆秋入学に限らず、総合的教育改革の一環として、各大学の実情に応じたグローバル化のための柔軟かつ多様なアカデミック・カレンダー(学事暦)の設定を促進する。　【文、経】

☆大学の学生の TOEFL･TOEIC の成績等の公表、特色あるカリキュラム(英語による授業、留学の義務化等)や授業方法(少人数教育、教員構成等)等を促進する。　【文】

☆在外経験の重視・特色ある入試方法・単位取得や修了認定上の配慮等を通じて国際化推進に顕著な成果を上げる大学の取組を、財政支援の重点化等を図りつつ、強力に促進する。　【文】

☆在外経験やTOEFL･TOEICの成績等を在学中の単位認定や進級･修了認定に際してどのように評価・換算するかの標準的手法の開発・普及を推進する。
【文】

☆国際機関等へのインターンシップに関する情報提供等を行う。【外、文】

☆大学院(博士課程･専門職学位課程)や専門系学部でグローバルに活躍できる高度人材を育成する。【外、文】

☆人文・社会科学系の大学学部・大学院での効果的・効率的なグローバル人材の育成を促進する。【文】

☆地方の大学における大学教育のグローバル化の取組を促進すること等により、我が国の高等教育の国際展開の多様化と裾野の拡大を図る。【文】

☆若手研究者が参画する先進国や開発途上国との共同研究等の機会を充実するとともに、それらの経験を採用･昇進に際して適切に評価する仕組みを整える。
【文】

☆我が国トップ大学の研究・教育に関する各種大学ランキングでの順位の向上の促進方策を講ずる。【文】

☆国際的に活用でき、比較可能な大学のグローバル化に関する指標の企画開発・普及を推進する。【文】

☆大学・大学院への飛び入学や早期卒業の促進を図るとともに、高校における早期卒業制度の創設のための制度的整備等について、検討を進め方向性を明確にする。(高校2年→留学1年→大学4年、高校2年→大学5年(留学1年を含む)、高校3年→留学1年→大学3年等の柔軟な進路設計を可能に)(再掲)
【文】

☆戦後、一律に導入された6-3-3-4制の教育体系を、新たな時代の個々人の学びをきめ細かく支援・促進できるように、小中一貫教育や中高一貫教育の推進、高校段階以上における早期卒業・飛び入学の制度的整備等を通じて、柔軟で多様な進路設計を可能とする弾力的なシステムへと進化・発展させる。【文】

(3) 留学生交流の戦略的な推進

○　前述の④⑤レベルを意識したグローバル人材の育成のため、18 歳頃から概ね 20 歳代前半までに 1 年間以上の留学ないし在外経験を有する者を 8 万人規模に増加させ、18 歳頃の時点までの留学・在外経験者約 3 万人と合わせて 11 万人規模(同一年齢の者のうち約 10%に相当)とすることを目指す。また、日本人学生の海外留学とともに海外からの外国人留学生の受け入れも促進し、戦略的な留学生交流を進める。また、③レベルの人材層の厚みのためにも、1 年間未満の短期留学を含む海外経験を有する者の増加や「内なる国際化」の促進等を図る。

(ア) 日本人学生の海外留学の促進

☆大学生の海外留学を大幅に促進するための環境整備を行うこと等により、18 歳頃から概ね 20 歳代前半までに 1 年間以上の留学ないし在外経験を有する者を 8 万人規模に増加させ、18 歳頃の時点までの留学・在外経験者約 3 万人と合わせて 11 万人規模(同一年齢の者のうち約 10%に相当)とすることを目指す。【文等】

☆中高段階からの実践的な英語教育の充実・強化や海外への関心の啓発等を通じて、1 年間未満の短期留学を含む海外経験を有する者の増加を図る。【文】

☆情報共有を含む関係機関の組織化、国内・日系企業への就職支援を行う。(日本人学生への海外留学・生活支援情報や日本への帰国後の就職関連情報の効果的な提供等を含む)　【外、文、厚、経】

☆日本人学生が海外留学時にインターンシップを行うことができるプログラム(現地法人・研究開発拠点等を含む)の開発を促進する。　【文】

☆日本人学生の海外留学及び外国人留学生の受け入れのための奨学金制度の創設・充実などの、大学等と産業界の連携による学生・若手研究者・社会人を通じた滞在・生活費支援の民間の創意に基づく仕組みづくりを促進する。【文、経】

(イ) 海外からの留学生受け入れの促進

☆外国人学生に日本留学の魅力を発信する積極的な広報・情報提供を行う。(日本留学に関する多言語ホームページの運用、在外公館での国費留学生の募集・選考、留学相談への対応等)　【外、文】

☆中・長期的な外国人留学生の獲得に努める。(海外における日本語の普及、在外公館における日本企業への就職関連情報の発信、外国人学生と日本企業との交流会・インターンシップの促進等)　【外、文、経】

☆優秀な外国人留学生や若手研究者の獲得のため、情報共有を含む関係機関の組織化や欧米トップ大学に比肩しうる体制整備を促進する。【外、文、経】

☆世界各国の若者が日本で学び、働きたいと思えるような環境づくりを産学官で推進することにより、優秀な外国人留学生との交流や切磋琢磨を通じた日本人学生の「内なる国際化」を促進する。　【文、経】

☆情報共有を含む関係機関の組織化、外国人留学生に対する渡日前教育・情報提供の充実と帰国後の我が国との接点(「絆」)の維持確保・フォローアップを行う。　【外、文】

☆東日本大震災後の外国人留学生の日本離れを防ぐため、積極的な情報発信等の措置を講ずる。(再入国許可を受けずに出国した留学生の入国手続きの簡素化は、2011 年（平成 23 年）8 月末までで終了。)　【法、外、文】

☆特に「日本離れ」が大きい国での戦略的な誘致キャンペーンを実施する。　【外、文】

(ヶ) 留学生交流戦略の明確化等

☆国別・地域別の留学生交流戦略の明確化と国際的な学長会議等の場の戦略的な活用を図る。　【外、文】

☆今後の成長分野や地域戦略を踏まえて、アジア近隣諸国、アフリカ・中東諸国、開発途上国等を含めた機動的かつ戦略的な留学生交流を促進する。　【外、文】

☆外国政府派遣留学生及び国費留学生に関し、相手国側のニーズ（学問分野、学習環境等）と我が国の受け入れ大学側の事情等とのマッチング機能を強化するとともに、受け入れた留学生と我が国の若手人材との知的交流を促進する。　【文】

5. 採用活動の改善等の経済社会の諸課題について

○　グローバル人材の育成・活用の必要性を最も痛切に感じているのも、経済社会が中長期的に活性化することで直接のメリットを享受するのも、人材を採用する企業等の側である。採用活動の改善・充実や採用後のグローバル人材育成・活用の促進について、これまでの様々な努力にもまして特段の取組が期待される。

(1) 採用活動等の教育と雇用の接続の改善・充実

○　企業等の採用活動の早期化・長期化は、大学教育の中核とも言える 3･4 年次教育の空洞化を招き、じっくりと学問に打ち込んだ「優秀な」人材を一層生みにくくするなど、どこにもメリットをもたらしていない。企業採用を意識して大学生が留学等の機会を躊躇することの無いよう、グローバル人材の育成のための(大学入試と並ぶ)柱として、採用活動は抜本的に改善・充実していかねばならない。

(ｱ) 海外へ出たことによる不利益の是正

☆企業の雇用慣行として「卒後 3 年以内の新卒扱い」、「通年採用」及び「Gap Year」等を普及・促進する。　【文、厚、経】

☆学業と両立する就職活動時期の設定を促進する。(早期化・長期化の是正)　【文、厚、経】

☆就職採用活動に関する懇談等の場を定期的に設け、産学対話により留学生の帰国のタイミングに合わせた柔軟な採用活動（例えば、夏・秋採用や通年採用等）の導入・拡充を推進する。　【文、厚、経】

☆青少年の雇用機会の確保等に関して事業主が適切に対処するための指針（卒後３年以内の応募の新卒扱い等）による事業主等への働きかけを行う。また、ジョブサポーターによる、きめ細やかな就職支援を行う。　【厚】

(ｲ) 海外へ出やすい環境の整備

☆時代の変化に対応して企業・社会の「求める人材像」が既に変化していることを明確化する(企業トップと人事担当部課長の意識統一を含む)。また、ロールモデルとなる企業人材を講義・セミナー等の講師として大学等に派遣するなど、

学生や大学・専修学校、高校、保護者側への積極的な発信を行う。【文、経】

☆留学経験者の積極的採用に向けた経済団体への働きかけ(就職活動・採用時期の改善及びその旨の倫理憲章等への反映、会員企業への周知等)や先進事例の収集等を行う。【外、文、厚、経】

☆帰国した日本人留学生、外国人留学生や保護者等を対象とする就職説明会の合同開催等により、産業界が留学経験者等へ期待する旨の明確なメッセージとしての発信を促進する。【経】

☆海外インターンシップやワーキングホリデー等の海外での経験を有する若年者が、その経験を生かした就職を実現できるよう、渡航前から帰国後まで一貫したキャリア形成支援の体制を整備する。【厚】

☆大学への秋入学の導入に向けて、まずは、関係大学や産業界等の自主的・自発的な議論の実りある進展を期待しつつ、国家試験・資格試験や公務員制度との関係、ギャップ期間の取扱い等の環境整備が必要となる課題その他の論点につき、その解決に向けて幅広に検討を進める。また、関係大学の意思決定の状況等を見定めた上で、政府としての基本的な方針を整理する。(再掲)
【人、総、文、厚、経等】

☆国家公務員の採用に関し、国家公務員制度改革基本法第 8 条の「国際対応に重点を置いた採用」等の規定を踏まえ、2012 年度(平成 24 年度)実施の採用試験より、多様な人材の確保に資する試験体系に見直す中で総合職試験(大卒程度)に「政治・国際」の試験区分を創設・実施する。また、2012 年度(平成 24 年度)実施の採用試験より、総合職試験（大卒程度）に「教養」区分を創設し、政策課題討議や企画提案等を試験内容として秋に実施(他の区分は従来通り春に実施)する。さらに、採用に関し、留学経験者が不利とならないような選考・採用時期の配慮を行う等、通年採用も含めた採用時期等の柔軟化を率先して進めるとともに、これらを含めた改革動向を学生や大学・高校、保護者側へ積極的に発信する。【人、総、文等】

☆国家公務員の採用等に際して求められる多様な資質・能力の一つとして、グローバル人材育成の視点が含まれることを明確にして周知を図る観点から、例えば、政府全体として、新規採用時の在外経験者比率(実績)や中途採用の状況等を公表すること、関係各省が TOEFL･TOEIC の成績及び英検の実績等、今後の国家公務員に求められる資質・能力の一つである語学力を適正に把握すること等の措置を講ずることで、多様な人材の確保を図る。
【人、総、外、文、厚、経等】

(2) 採用後のグローバル人材育成・活用の促進

○　企業や研究機関等の内部においても、採用後のキャリア・パスの明確化をはじめグローバル人材の育成・活用を進める必要がある。また、グローバル人材を人材層として継続的に厚く育成していく観点から、経済社会全体としての支援の仕組みを整える必要がある。

☆企業や研究機関等の内部でのグローバル人材の育成・活用を進めるための取組を促進する。(先進事例の収集・公表等)　【文、経】

(例)　・採用や昇進の仕組み等キャリア・パスの明確化、就業環境の整備
・グローバル戦略を担う企業若手社員の海外経験の推奨
・企業の職制段階別の在外経験者数・比率の公表
・大学や公的研究機関における研究者の採用や昇進の際に海外経験や国際的評価を適切に考慮する人事システムの構築
・「多様性を活かす経営」に取り組む企業等を表彰し、ベストプラクティスとして展開　　等

☆中小企業の社員等に関し、研修の共同実施や海外研修の機会の提供等を促進する。　【厚、経】

☆開発途上国の諸課題の解決への貢献等のため、中小企業等の若手人材を JICA ボランティアとして派遣し、海外研修の機会の提供にも貢献する。【外】

☆我が国の若手社会人や学生を開発途上国の政府系インフラ機関や現地企業、国際機関等へ派遣し、異文化での海外ビジネス経験を通じた国際交渉力の強化、海外ネットワークの構築等により、インフラビジネスの獲得や中小企業の海外展開等を支援する。　【経】

☆国境を越えた産学協働教育・インターンシップ及び若手人材交流等の実施に向けた窓口機能等の運用・活用を促進する。　【外、文、経】

☆国家公務員に関し、今後、国際社会で積極的な貢献をしていくために、特に高度の専門的能力及び知識を有する行政官を確保する必要があることから、従来は修士号を取得させることとしてきた長期在外研究員制度において、加えて博士号を取得させることとする(2012 年度(平成 24 年度)から派遣)。【人】

☆各省(例えば外務、文科、厚労、経産等)の採用後のグローバル人材の多角的なキャリア・パス(実績)等を公表する。(旧来の「国内派 vs 国際派」的な発想が既に過去のものであることを示す)　【外、文、厚、経等】

☆我が国のポストドクターが国内外の企業で多様なキャリア・パスを確保できるよう、産学が協働してキャリア開発を組織的に支援する仕組みを構築する。【文】

☆日本人学生が海外留学時にインターンシップを行うことができるプログラム(現地法人・研究開発拠点等を含む)の開発を促進する。(再掲)　【文】

☆日本人学生の海外留学及び外国人留学生の受け入れのための奨学金制度の創設・充実などの、大学等と産業界の連携による学生・若手研究者・社会人を通じた滞在・生活費支援の民間の創意に基づく仕組みづくりを促進する。(再掲)【文、経】

☆「新しい公共」の担い手たる NPO 法人等を活用し、平成 23 年度税制改正により見直すこととされた寄附金税制等によって寄附を呼び込むことを含め、官・学・民共同のネットワーク型センター機能「グローバル人材特訓道場(仮称)」を整備・創設する等、産学官が連携して、我が国の将来を担うリーダー人材を育成するための交流・提言活動等を社会的な運動として展開する。【外、文、経】

6. その他関連する重要課題について

○　グローバル人材の育成・活用に関連するその他の課題としては、職業教育・職業訓練等の充実、国際的なボランティア活動の促進等が重要である。また、グローバル人材が活躍しやすい環境・素地を積極的に整える見地から、日本語・日本文化の世界的な普及・展開に努める必要がある。さらに、グローバル人材の育成を大学関係者・団体や企業関係者・経済団体等を主動的な起点とする一つの社会的な運動として継続的に推進するための環境整備を図り、社会全体に対する情報発信を行うことが不可欠である。

(1) グローバル化に対応した職業教育・職業訓練等の充実

☆高校・大学・専修学校等と産業界との連携強化により、産学官によるコンソーシアムを組織し、IT・ファッション・医療福祉等の幅広い分野でグローバルに活躍できる中核的専門人材の育成のための新たな学習システムの構築に向けて、モデル・カリキュラムや質保証の仕組みの開発等を行う。　【文】

☆各企業や労働者が行う職業能力開発の促進及び公共職業訓練の実施等を通じて、グローバル人材の育成を図る。　【厚】

☆新進の芸術家やスポーツ選手等各界での活躍が期待される人材を、我が国が誇るソフトパワーの(将来の)「顔」として関係機関の連携により戦略的に海外に派遣することで、創造性あふれる若手人材の継続的な育成と我が国の知的文化的存在感の向上、更には経済社会全体の交流の促進を図る。　【外、文】

(2) 国際的なボランティア活動の促進

☆青年海外協力隊を中核とする、JICA によるボランティア派遣を推進する。【外】

☆青年海外協力隊を中核とする、JICA によるボランティアへの参加を促進する観点から、その経験を帰国後における社会の様々な分野での（特に女性の）活躍に有効につなげるための方策を、NGO・経済界等各方面の参画を得て推進する。　【外、文、経】

(3) 日本語・日本文化の世界的な普及・展開

☆日本語・日本文化の世界的な普及・展開を図るため、国内外の広報・文化交流等を有機的に結びつけるための取組を行う。　【外】

☆日本文化理解の入り口となる日本語の普及のため、海外での日本語講座、日本語能力試験、日本語教師派遣等、海外での日本語教育を充実・強化する。【外】

☆開発途上国の初等中等教育機関や観光系専門学校等での日本語指導を支援するボランティアを派遣する。また、特に中南米での日系社会の次世代人材を育成・確保する観点から、日系子弟の継承語・継承文化としての日本語・日本文化の日本語学校での学習を支援するボランティアを派遣する。　【外】

☆大学間交流の枠組み等を活用して、日本人留学生が現地の学校等で日本語指導の支援や日本文化の紹介等を行う取組を促進する。　【文】

☆対日理解・日本文化普及・グローバル人材育成等の観点から重要な対象国・地域やターゲット層に対して、若者を中心とする双方向の交流プログラムを推進する。　【外】

☆日本文化体験等の活動を通じた青少年の国際交流を推進する。【外、文】

☆留学・文化・スポーツと観光振興及び日本の魅力発信について、関係省庁で帰国留学生ネットワークの活用等を含めた連携施策を整理する。【外、文、国】

(4) グローバル人材の育成に向けた環境整備等

☆近年、新たに導入された公立高校授業料無償制及び高等学校等就学支援金制度の着実な実施や「所得連動返済型の無利子奨学金制度」の活用等を通じて、意志と能力を有する全ての若者が経済的理由により義務教育終了後の高校・大学での学びをあきらめることがないような教育費負担の在り方を実現し、教育の機会均等の保障と中間層の厚みの増加につなげる。　【文】

☆地方自治体、大学やNPO等が主催・実施する保護者向けの就職活動等に関する説明会やセミナー等の取組を促進する。(情報の収集・提供等)【文、厚】

☆時代の変化に対応して企業・社会の「求める人材像」が既に変化していることを明確化する(企業トップと人事担当部課長の意識統一を含む)。また、ロールモデルとなる企業人材を講義・セミナー等の講師として大学等に派遣するなど、学生や大学・専修学校、高校、保護者側への積極的な発信を行う。(再掲)
【文、経】

☆帰国した日本人留学生、外国人留学生や保護者等を対象とする就職説明会の合同開催等により、産業界が留学経験者等へ期待する旨の明確なメッセージとしての発信を促進する。(再掲)　【経】

☆グローバル人材育成に関する企業・団体等の奨学金に関する各種情報の提供や基金の造成等を訴えかけるプラットフォームの構築を促進する。【外、文】

☆中学生や高校生に国際的な視野を持たせ、海外への関心を高めるため、海外勤務・留学経験のある社会人・大学生等を特別非常勤講師として中学校や高校等に派遣する。(再掲)　【文】

☆海外の高校・大学への留学・進学を希望する中学生・高校生や保護者等に対する各種の情報提供や手続き面での助言等の支援を多様な主体が行う環境の整備方策を検討する。(再掲)　【文】

☆高度外国人材の積極的な受け入れを促進するため、ポイント制活用に向けた産業界その他関係団体等への広報を実施するとともに、関係機関との連携により外国人材の呼び込みを促進する。　【法、経】

☆グローバル人材の採用・活用に積極的な企業を大学関係者・団体が、グローバル人材の育成に積極的な大学・高校等を企業関係者・団体が、相互に連携して顕彰し合う。　【文、経】

☆産学連携によるグローバル人材の育成・活用等の具体的方策に関する提案を募集し、優秀な提案を顕彰するとともに、提案内容の実現に向けた方策を講ずる。　【文、厚、経】

☆「産学協働人財育成円卓会議」での対話及びそれに向けた実務者レベルの勉強会での議論を経て 2012 年（平成 24 年）5 月に取りまとめられた「アクション・プラン」の実施状況を継続して社会全体で共有する。　　【文、経】

☆産学関係者の対話の推進状況や成果をシンポジウム等により情報発信するとともに、グローバル人材の育成・活用の趣旨に積極的に賛同する企業・大学等が意見交換・情報発信等を図ることのできる機会を設ける。　【文、経】

おわりに

○　グローバル人材の育成に関しては、東日本大震災の発災前から政府部内で問題意識を持っており、本推進会議の設置に向けた準備を進めていたところであったが、大震災への対応等により作業が一時中断していた。

○　本戦略は、グローバル人材の育成が政府全体で取り組むべき重要課題の一つであることから、震災後まだ間もない時期に関係各省のそれまでの蓄積等を活用して集中的に検討して取りまとめた「中間まとめ」(2011 年(平成 23 年)6 月)をもとに、関係各省の施策のその後の進展や、大学秋入学の導入に関する論議の本格化、「産学協働人財育成推進会議」によるアクション・プランの策定といった新たな状況等を踏まえて、あらためて取りまとめたものである。

○　本戦略の問題意識の中核は、英語教育の強化、高校留学の促進、大学入試の改善や採用活動の改善等をはじめとする具体的方策に、高校関係者・大学関係者・企業関係者・保護者等が一斉に取り組むことで、若い世代を後押しする好循環を我が国社会全体で生み出そうとする点にある。つまり、グローバル人材の育成は、ひとり政府・行政関係者のみならず大学関係者・団体や企業関係者・経済団体等を主動的な起点とする一つの社会的な運動として、継続的な取り組みが求められることとなる。

○　なお、今般、東京大学をはじめとする大学が実施を検討している秋入学（「ギャップ期間」の導入等を含む）に関しては、各種の国家試験・資格試験、公務員制度や企業採用、「ギャップ期間」の取扱い等の環境整備が必要となる課題その他の論点が多岐にわたることから、本推進会議でも特に集中的に議論を行った。その成果を本戦略の末尾に添付しておく。今後の関係大学や産業界等の自主的・自発的な議論の実りある進展に大いに期待するものである。

○　今後とも、「産学協働人財育成円卓会議」をはじめとする産学の関係者による様々なアクションの進捗や大学秋入学の導入論議を契機とする総合的な大学教育改革の動向等に大いなる期待を寄せつつ、政府としても、本戦略の着実かつ迅速な実施に努める必要がある。また、国内外の情勢の変化に即応して、随時、本戦略の点検・見直しや進捗状況の確認等を行う必要があるものと考える。

○　本戦略の取りまとめが、グローバル人材の育成及び活用に向けて確固とした道標となることを祈念してやまない。

参　考　資　料

参考資料目次

大学への秋入学の導入等の検討に関する基本的な姿勢 …… 29
（平成 24 年２月 27 日　グローバル人材育成推進会議申合せ）

大学の秋入学に関する主な課題・論点（平成 24 年２月 17 日） …… 30

大学秋入学の導入に向けた検討のスケジュール感 …… 33
（平成 24 年５月 25 日）

大学秋入学関係の総理及び官房長官　発言概要 …… 34

グローバル人材育成推進会議の開催について …… 35
＜第Ⅰ期（平成 23 年５～６月）＞

グローバル人材育成推進会議幹事会の開催について …… 37
＜第Ⅰ期（平成 23 年５～６月）＞

グローバル人材育成推進会議の開催について …… 39
＜第Ⅱ期（平成 23 年 12 月～）＞

グローバル人材育成推進会議幹事会の開催について …… 41
＜第Ⅱ期（平成 23 年 12 月～）＞

グローバル人材育成推進会議　開催経過 …… 43

平 成 ２ ４ 年 ２ 月 ２ ７ 日
グローバル人材育成推進会議申合せ

大学への秋入学の導入等の検討に関する基本的な姿勢

１．今般の、東京大学をはじめとする大学が秋入学の導入を検討しようとする試みは、グローバル人材の育成の観点から大いに評価でき、官民を挙げて議論していく必要があるものと考える。

２．政府としては、まずは、導入に向けた関係大学や産業界等の自主的・自発的な議論の実りある進展を大いに期待するものである。

３．同時に、政府部内では、大学や産業界等社会全体の多様性を尊重しつつ、秋入学の導入が具体的・効果的な施策展開につながるよう、国家試験・資格試験や公務員制度との関係、ギャップ期間の取扱い等の環境整備が必要となる課題その他の論点につき、その解決に向けて幅広に検討を開始する。

４．今後とも、関係府省間で密接に協力しつつ、グローバル人材育成推進会議等の場で議論を深め、上記のほか、国際的に誇れる大学教育システムの確立等を含めた検討の成果を国家戦略会議へ年央までに報告することとし、大学の国際化に向けた取り組みを産学官が連携して力強く後押しする環境の醸成に努める。

平成 24 年 2 月 17 日

大学の秋入学に関する主な課題・論点

今般、東京大学をはじめとする大学が実施を検討している秋入学(「ギャップ期間」の導入等を含む)に関して、現時点で考えられる主な課題その他の論点は以下のとおりである。

1．大学・大学院等の学校制度上の課題・論点

(1) 基本的な実施形態

○　大学・大学院(国公私立、短大を含む)での実施(学年の始期は学長が決定)は一斉か選択的か

○　各省大学校でも同様に実施するのか

○　他の学校種についてはどう考えるか

(2) 入試の実施時期等

○　大学入試・大学院入試の実施時期についてどう考えるか

○　春入学と秋入学が分かれた場合の入試の実施方法(複数回受験の取扱いや募集定員等)の整理

(3) 導入する際の環境整備

○　移行期の大学側の教育研究体制・収支(4～8 月の授業料・入学料)等の取扱い

○　学生の修業年限の事実上の長期化(生活面・学業面とも)への対応

○　早期卒業・飛び入学の促進等の修業年限の弾力化・複線化

○　国際的に誇れる大学教育システム(教員・カリキュラム等)の確立

2．各種の国家試験・資格試験に関する課題・論点

(1) 各種試験の実施時期

○　各種試験の実施時期をどうするか(特に、春卒業と春以外の卒業が混在する場合には、実施時期変更の要否を個別に見きわめる必要)

○　年複数回実施の可能性・困難性(問題作成・採点、会場・監督者確保等)
○　臨床・実務研修の実施時期(医師、司法、公認会計士等)との関係の整理

(2) 受験資格、科目免除等
○　受験資格(例えば「大学 3 年次以上」)(税理士等)や一部科目免除等の措置(弁理士等)との関係の整理
○　受験資格の起算点(司法)等との関係の整理

(3) 多様な受験者への配慮
○　大学だけでなく専門学校や高校でも養成されている資格(看護師、介護福祉士等)の取扱い
○　現役学生だけでなく既卒受験者との関係をどう考えるか

3．公務員制度上の課題・論点

(1) 試験や採用等の実施時期
○　国家公務員採用試験の実施時期をどうするか(大学の卒業や民間企業の採用の動向等を踏まえる必要)
○　各府省の採用活動の実施時期をどうするか
○　職務上、資格を要する技官等の一部職種について、資格取得時期と採用時期との関係をどう考えるか
○　採用後の各府省での配属・異動・研修等のスケジュールをどう考えるか

(2) 春以外の採用者の処遇や定員管理等
○　新卒一括採用等の慣行の見直し
○　春卒業と春以外の卒業の混在に対応して採用を年 2 回実施するとした場合の採用後の人事管理をどうするか
○　現行の定年退職時期が運用上 3 月 31 日であることから、春以外の採用者の定年退職時期の定め方
○　現行の定年退職時期が運用上 3 月 31 日であることから、春以外の新規採用者が増加した場合の定員管理面での措置(欠員や定員超過への対応)の要否

４．企業採用上の課題・論点

○　新卒一括採用と「同期」「年次」「昇進・昇格」等の日本型雇用システムの、労働市場の流動性増大への大きな変動要因となる可能性をどう考えるか
○　通年採用等の仕組みを既に有する企業とそれ以外の企業で、採用活動・入社時期や複数回採用等についての対応が事実上分かれる可能性をどう考えるか
○　採用活動の開始時期の早期化の更なる是正(10 月→12 月→?)に向けた検討との整合性の確保
○　春以外の採用者の生涯賃金や退職金、年金等への将来的な影響をどう考えるか
○　定年退職者の退職時期と新入社員の入社時期のずれに伴う人事管理上の調整の要否

５．「ギャップ期間」に関する課題・論点

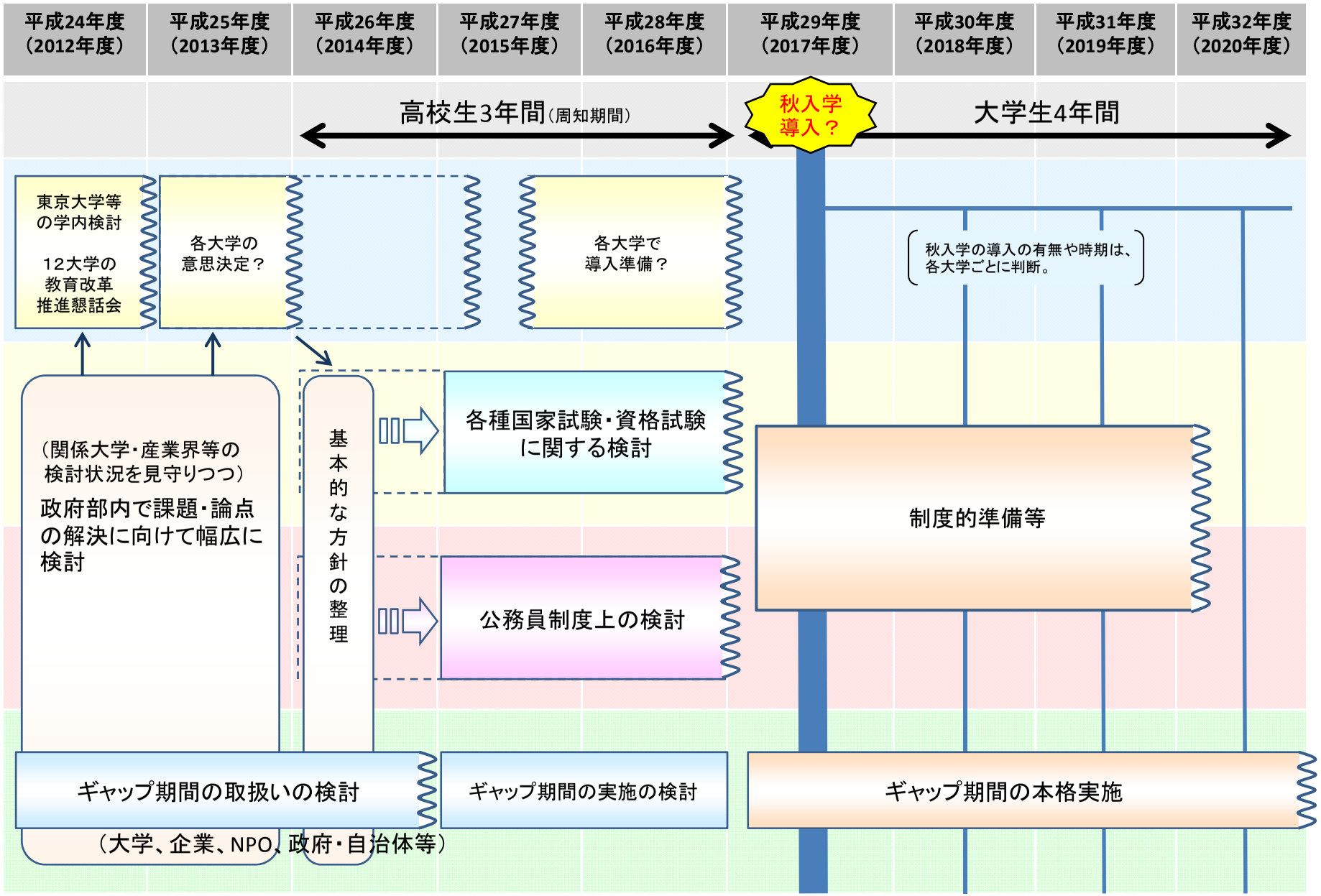
○　体験・ボランティア活動や海外体験・インターンシップ・研修旅行等の促進方策(受入側と学生側のマッチングの仕組みやサポート体制、NPO・企業・地方公共団体等多様な主体の参画・協力体制の構築等)
○　ギャップ期間やインターンシップ中の処遇・身分、成果物の帰属、事故への対応等の整理
○　ギャップ期間中の活動の評価方策
○　ギャップ期間中の各交通機関等の学生割引の取扱いの整理
○　ギャップ期間中の国民年金保険料の学生納付特例の適用関係の整理
○　外国人留学生のギャップ期間(高校や日本語学校の卒業後～大学秋入学前)中の在留資格の取扱い

６．その他の課題・論点

○ 国際的な競争環境の中での優秀な人材の確保の観点から、我が国の大学や企業の魅力・質を一層向上させていくための方策
○　在学中の夏期休業期間を活用した体験活動・研修旅行等の促進方策

平成24年5月25日

大学秋入学の導入に向けた検討のスケジュール感



大学秋入学関係の総理及び官房長官　発言概要

◎　国家戦略会議（1.25（水））総理発言

本日意見交換をしていただいた東京大学秋入学の試みについて、グローバル人材の育成の観点からすると、大変評価できる動きではないかと考えている。グローバル人材育成に関して、これからも官民挙げての議論をしていきたいので、引き続きよろしくお願いしたい。

◎　各府省連絡会議（1.27（金））官房長官発言

報道等でご承知かと思うが、東京大学が秋入学への移行を検討されており、他の大学でも検討する動きがあるとのことである。

こうした試みは、グローバル人材の育成という観点から大いに評価でき、官民を挙げて議論していく必要がある旨、一昨日（２５日（水））の国家戦略会議での議論の中でも、総理からご発言があったところ。

我が国の成長の牽引力となるグローバル人材の育成・活用は、「新成長戦略」、また昨年１２月に閣議決定した「日本再生の基本戦略」においても、重要な課題と位置づけられているところ。この点について、政府の中では、今後、古川国家戦略担当大臣を中心に検討を進めていただくこととなるが、具体的・効果的な施策展開につなげるべく、各府省においても積極的にご協力をお願いしたい。

中でも、秋入学に関しては、まず、例えば卒業生の雇用や卒業後の期間の取扱い等、環境整備が必要となる課題その他の論点を幅広に点検・洗い出ししていただきたい。

追って、内閣官房の副長官補室から、各府省に連絡やお願いをすると思うので、ご協力をよろしくお願いする。

<＜第Ⅰ期（平成23年5～6月）＞

グローバル人材育成推進会議の開催について

（平成 23 年 5 月 19 日
新成長戦略実現会議決定）

1．「新成長戦略実現会議の開催について」（平成 22 年9月7日閣議決定）に基づき、我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築を目指し、とりわけ日本人の海外留学の拡大を産学の協力を得て推進するため、「グローバル人材育成推進会議」（以下、「会議」という。）を開催する。

2．会議の構成員は、次のとおりとする。

議　長　　内閣官房長官

構成員　　外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び国家戦略担当大臣

3．議長は、必要があると認めるときは、関係大臣その他関係者の出席を求めることができる。

4．会議の庶務は、文部科学省の協力を得て、内閣官房において処理する。

グローバル人材育成推進会議　構成員

議　長　枝野　幸男　内閣官房長官

構成員　玄葉光一郎　国家戦略担当大臣

松本　剛明　外務大臣

髙木　義明　文部科学大臣

細川　律夫　厚生労働大臣

海江田万里　経済産業大臣

グローバル人材育成推進会議幹事会の開催について

（平成 23 年５月 26 日
グローバル人材育成推進会議決定）

１．グローバル人材育成推進会議を補佐し、我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築等を目指し、それらの実現に向けた諸方策の検討を行うため、「グローバル人材育成推進会議幹事会」（以下、「幹事会」という。）を開催する。

２．幹事会の構成員は、以下のとおりとする。

座　長　　議長が指名する文部科学副大臣及び内閣総理大臣補佐官

構成員　　議長が指名する内閣府、外務省、厚生労働省、経済産業省の副大臣又は大臣政務官

３．座長は、必要があると認めるときは、関係府省その他の関係者の出席を求めることができる。

４．会議の庶務は、文部科学省の協力を得て、内閣官房において処理する。

グローバル人材育成推進会議幹事会　構成員

座　長　細野　豪志　内閣総理大臣補佐官

座　長　鈴木　　寛　文部科学副大臣

構成員　平野　達男　内閣府副大臣（国家戦略担当）

高橋　千秋　外務副大臣

小林　正夫　厚生労働大臣政務官

中山　義活　経済産業大臣政務官

<＜第Ⅱ期（平成 23 年 12 月～ ）＞

グローバル人材育成推進会議の開催について

（平成 23 年 12 月 15 日
内閣官房長官決裁）

１．我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築を目指し、取り分け日本人の留学等の国際経験の拡大を産学の協力を得て推進するため、グローバル人材育成推進会議（以下「会議」という。）を開催する。

２．会議の構成員は、次のとおりとする。ただし、議長は、必要があると認めるときは、関係大臣その他関係者の出席を求めることができる。

議　　長　　国家戦略担当大臣
構 成 員　　外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び内閣官房長官が指名する内閣官房副長官

３．会議の庶務は、文部科学省の協力を得て、内閣官房において処理する。

グローバル人材育成推進会議　構成員

議　　長　古川　元久　国家戦略担当大臣

構 成 員　玄葉光一郎　外務大臣

平野　博文　文部科学大臣

小宮山洋子　厚生労働大臣

枝野　幸男　経済産業大臣

長浜　博行　内閣官房副長官

<＜第Ⅱ期（平成 23 年 12 月～ ）＞

グローバル人材育成推進会議幹事会の開催について

（平成 23 年 12 月 15 日
グローバル人材育成推進会議決定）

１．グローバル人材育成推進会議を補佐し、我が国の成長を支えるグローバル人材の育成とそのような人材が活用される仕組みの構築等を目指し、それらの実現に向けた諸方策の検討を行うため、グローバル人材育成推進会議幹事会（以下「幹事会」という。）を開催する。

２．幹事会の構成員は、以下のとおりとする。ただし、座長は、必要があると認めるときは、関係府省の政務三役その他関係者の出席を求めることができる。

座　長　　内閣府副大臣（国家戦略担当）
副座長　　議長が指名する文部科学大臣政務官
構成員　　内閣府大臣政務官（国家戦略担当）及び議長が指名する外務省、厚生労働省、経済産業省の大臣政務官

３．会議の庶務は、文部科学省の協力を得て、内閣官房において処理する。

グローバル人材育成推進会議幹事会　構成員

座　長　石田　勝之　内閣府副大臣（国家戦略担当）

副座長　城井　　崇　文部科学大臣政務官

構成員　大串　博志　内閣府大臣政務官（国家戦略担当）

浜田　和幸　外務大臣政務官

津田弥太郎　厚生労働大臣政務官

中根　康浩　経済産業大臣政務官

グローバル人材育成推進会議　開催経過

＜第Ⅰ期　中間まとめ まで＞

2011年（平成23年）

５月26日(木)　グローバル人材育成推進会議（第１回）

会議の運営、関連施策の検討・実施状況　等

６月２日(木)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第１回）

有識者意見発表及び意見交換

・明石　康　国際文化会館理事長

・中嶋嶺雄　国際教養大学理事長・学長

６月８日(水)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第２回）

有識者意見発表及び意見交換

・槍田松瑩　三井物産会長

６月16日(木)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第３回）

意見交換

６月22日(水)　グローバル人材育成推進会議（第２回）

中間まとめを審議・決定

＜第Ⅱ期　中間まとめ 後 ～ 審議まとめ まで＞

12月16日(金)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第１回）

会議の運営、新たな検討項目例・スケジュール　等

2012年（平成24年）

１月31日(火)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第２回）

有識者意見発表及び意見交換

・清水孝雄　東京大学理事・副学長

２月27日(月)　グローバル人材育成推進会議（第１回）

会議の運営、関連施策の検討・実施状況、

大学秋入学関係

４月25日(水)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第３回）

中間まとめフォローアップ、関連施策等調べ

意見交換

５月25日(金)　グローバル人材育成推進会議幹事会（第４回）

意見交換

６月４日(月)　グローバル人材育成推進会議（第２回）

審議まとめを審議・決定

著作権者の許諾が得られない書類

①書類等の題名

「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果」

②出典

一般社団法人 日本経済団体連合会

http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/028.html

③書類等の利用範囲

15 頁「第Ⅱ部：グローバル人材の育成に向けた教育機関への期待」

④その他，著作物等について加工している場合には，その加工に関する説明。

なし

東洋大学　御中

新学部 学科設置計画に係る
ニーズ調査報告書（事業所編）

平成28年3月
丸善雄松堂株式会社
大学経営コンサルティング部

目次

- 調査概要 P2
- 調査・分析結果の要旨 P3
- 全体集計結果 P6
- 採用需要推計 P23
- 補記 P33

調査概要

1. 調査目的	東洋大学 新学部 学科設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し設置計画の基礎資料とすることを目的とする。
2. 調査対象	東洋大学 既設学部からの採用実績、新学部 学科の専攻分野から選定した卒業生の就職先として考えられる事業所。
3. 実施時期	平成27年12月17日～平成28年1月12日
4. 回収状況	本調査では1,237事業所を対象にアンケート調査を依頼、363件のアンケートを回収することが出来た。（回収率29.3%）
5. 調査方法	アンケート調査票による定量調査(アンケート調査)
6. 利用調査票	添付アンケート調査票参照

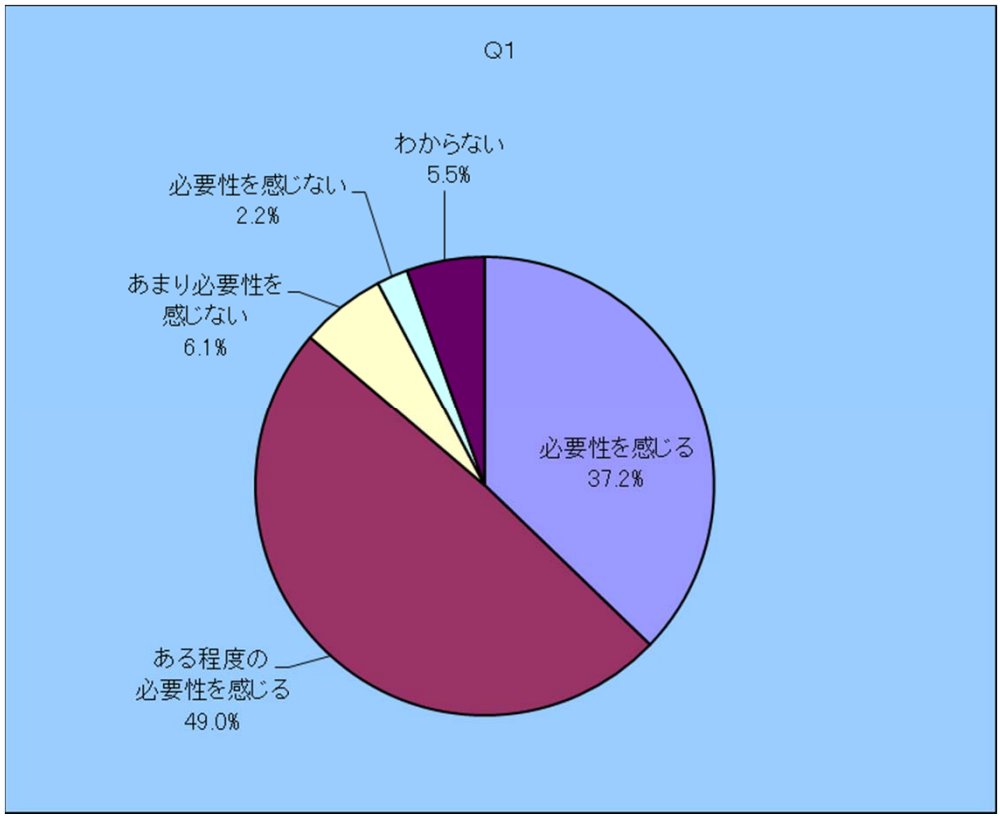
全体集計結果

Q1）国際文化コミュニケーション学科(仮称)設置の必要性

回答事業所の国際文化コミュニケーション学科(仮称)設置の必要性については、「必要性を感じる」が135事業所（37.2%）、「ある程度の必要性を感じる」が178事業所（49.0%）で、これらの合計が313事業所（86.2%）と、設置について9割近くの事業所が何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は22事業所（6.1%）、「必要性を感じない」は8事業所（2.2%）で、これらの合計は30事業所（8.3%）に留まっていることから、国際文化コミュニケーション学科(仮称)の設置についての期待が窺われる。また、20事業所（5.5%）が「わからない」と回答しており、これらの事業所には国際文化コミュニケーション学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q1）東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)の設置の必要性についてどのようにお感じですか？

	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	363	100.0%
必要性を感じる	135	37.2%
ある程度の必要性を感じる	178	49.0%
あまり必要性を感じない	22	6.1%
必要性を感じない	8	2.2%
わからない	20	5.5%
未回答・無効回答	0	0.0%



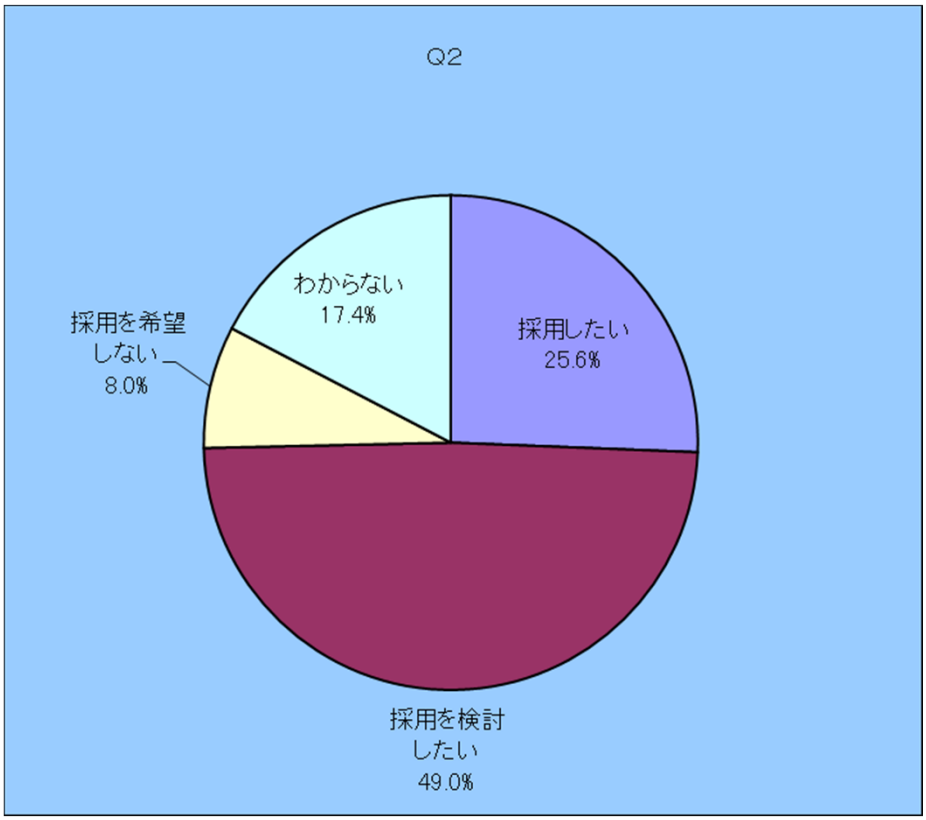
※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2）国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生の採用意向

回答事業所の国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生の採用意向については、「採用したい」が93事業所（25.6%）、「採用を検討したい」が178事業所（49.0%）で、これらの合計が271事業所（74.6%）となり、7割以上の事業所が卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「採用を希望しない」は29事業所（8.0%）に留まっているものの、63事業所（17.4%）が「わからない」と回答しており、前項と同様に、これらの事業所には国際文化コミュニケーション学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q2）東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)の卒業生の採用についてどのようにお感じですか？

	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	363	100.0%
採用したい	93	25.6%
採用を検討したい	178	49.0%
採用を希望しない	29	8.0%
わからない	63	17.4%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3）国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生の採用意向人数

回答事業所の国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生の採用意向人数は、「採用したい」または「採用を検討したい」と回答した事業所で、採用希望人数に幅のある事業所を最小人数で積算した場合は合計586人（304人＋282人）、最大人数で積算した場合は合計680人（339人＋341人）となり、国際文化コミュニケーション学科(仮称)の卒業生への一定の採用意向が窺われる。

Q3）採用する可能性のある人数をご記入ください。

最小値

Q2）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	80事業所→計304人	13事業所→未回答
採用を検討したい	137事業所→計282人	41事業所→未回答
合計	217事業所→計586人	54事業所→未回答

最大値

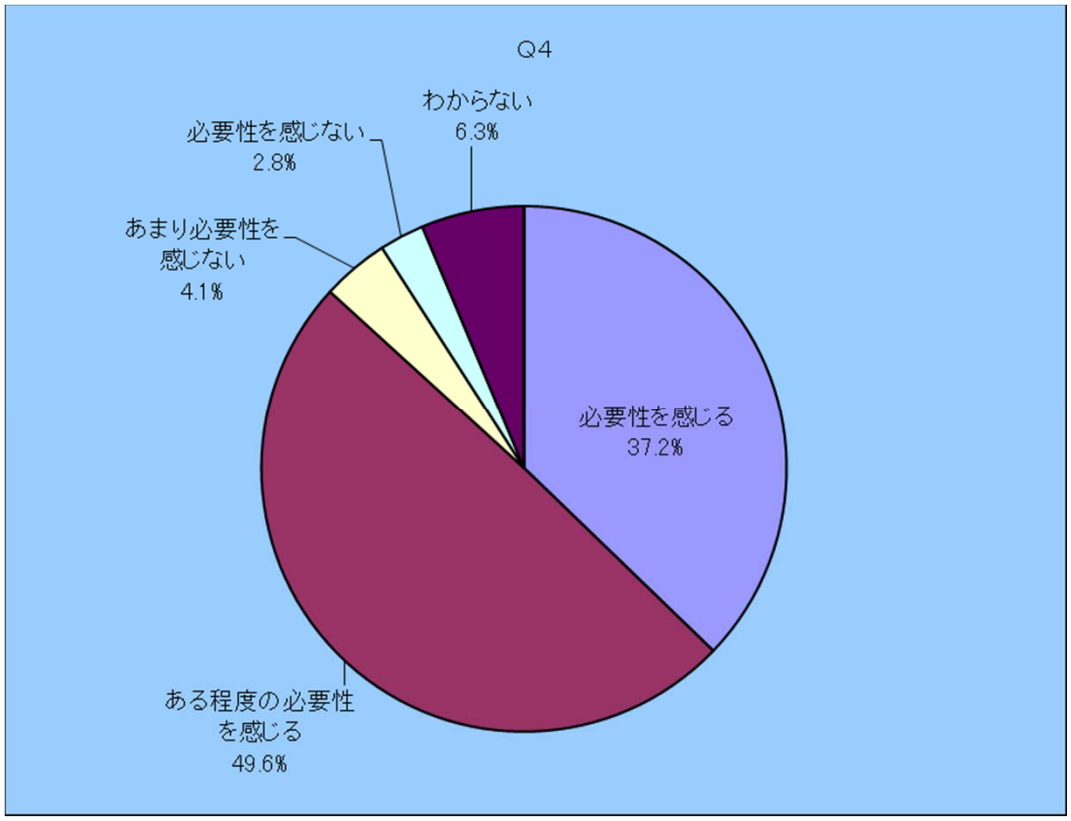
Q2）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	80事業所→計339人	13事業所→未回答
採用を検討したい	137事業所→計341人	41事業所→未回答
合計	217事業所→計680人	54事業所→未回答

Q4）グローバル・イノベーション学科(仮称)設置の必要性

回答事業所のグローバル・イノベーション学科(仮称)設置の必要性については、「必要性を感じる」が135事業所（37.2%）、「ある程度の必要性を感じる」が180事業所（49.6%）で、これらの合計が315事業所（86.8%）と、設置について9割近くの事業所が何らかの必要性を感じている。一方「あまり必要性を感じない」は15事業所（4.1%）、「必要性を感じない」は10事業所（2.8%））で、これらの合計は25事業所（6.9%）に留まっていることから、グローバル・イノベーション学科(仮称)の設置についての期待が窺われる。また、23事業所（6.3%）が「わからない」と回答しており、これらの事業所にはグローバル・イノベーション学科(仮称)の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q4）東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)の設置の必要性についてどのようにお感じですか？

	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	363	100.0%
必要性を感じる	135	37.2%
ある程度の必要性を感じる	180	49.6%
あまり必要性を感じない	15	4.1%
必要性を感じない	10	2.8%
わからない	23	6.3%
未回答・無効回答	0	0.0%



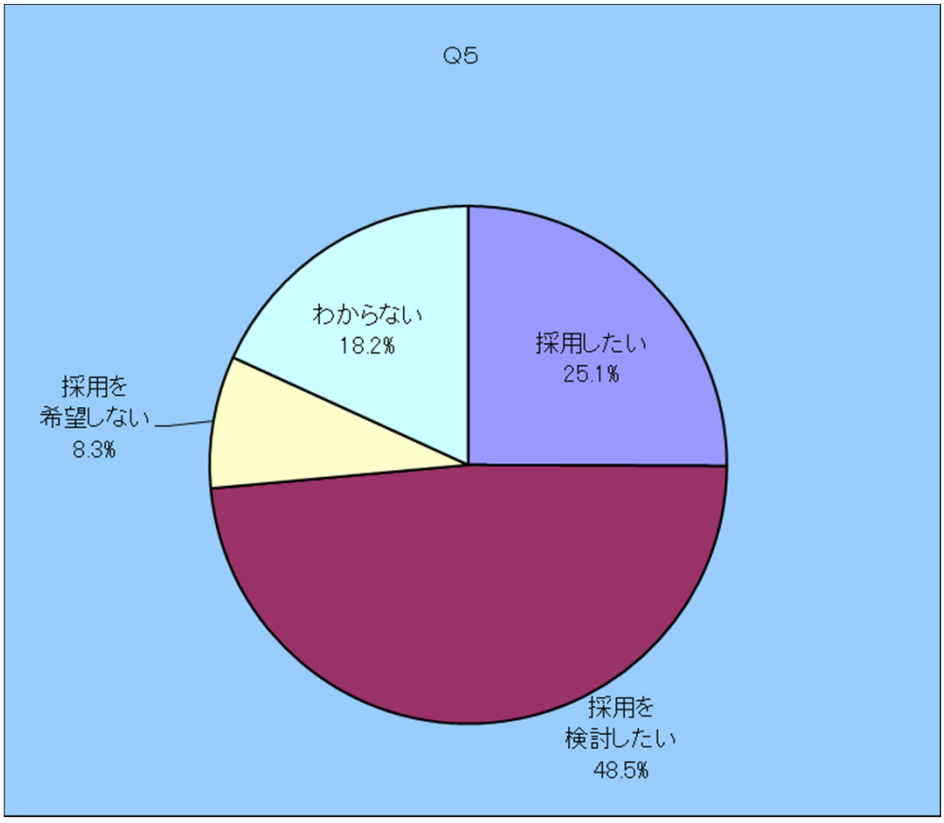
※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5)グローバル・イノベーション学科(仮称)卒業生の採用意向

回答事業所のグローバル・イノベーション学科(仮称) 卒業生の採用意向については、「採用したい」が91事業所(25.1%)、「採用を検討したい」が176事業所(48.5%)で、これらの合計が267事業所(73.6%)となり、7割以上の事業所が卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「採用を希望しない」は30事業所(8.3%)に留まっているものの、66事業所(18.2%)が「わからない」と回答しており、前項と同様に、これらの事業所にはグローバル・イノベーション学科(仮称) の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q5)東洋大学　国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)の卒業生の採用についてどのようにお感じですか？

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	363	100.0%
採用したい	91	25.1%
採用を検討したい	176	48.5%
採用を希望しない	30	8.3%
わからない	66	18.2%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6)グローバル・イノベーション学科(仮称)卒業生の採用意向人数

回答事業所のグローバル・イノベーション学科(仮称)卒業生の採用意向人数は、「採用したい」または「採用を検討したい」と回答した事業所で、採用希望人数に幅のある事業所を最小人数で積算した場合は合計610人(300人＋310人)、最大人数で積算した場合は合計697人(326人＋371人)となり、グローバル・イノベーション学科(仮称)の卒業生への一定の採用意向が窺われる。

Q6)採用する可能性のある人数をご記入ください。

最小値

Q5)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	79事業所→計300人	12事業所→未回答
採用を検討したい	136事業所→計310人	40事業所→未回答
合計	215事業所→計610人	52事業所→未回答

最大値

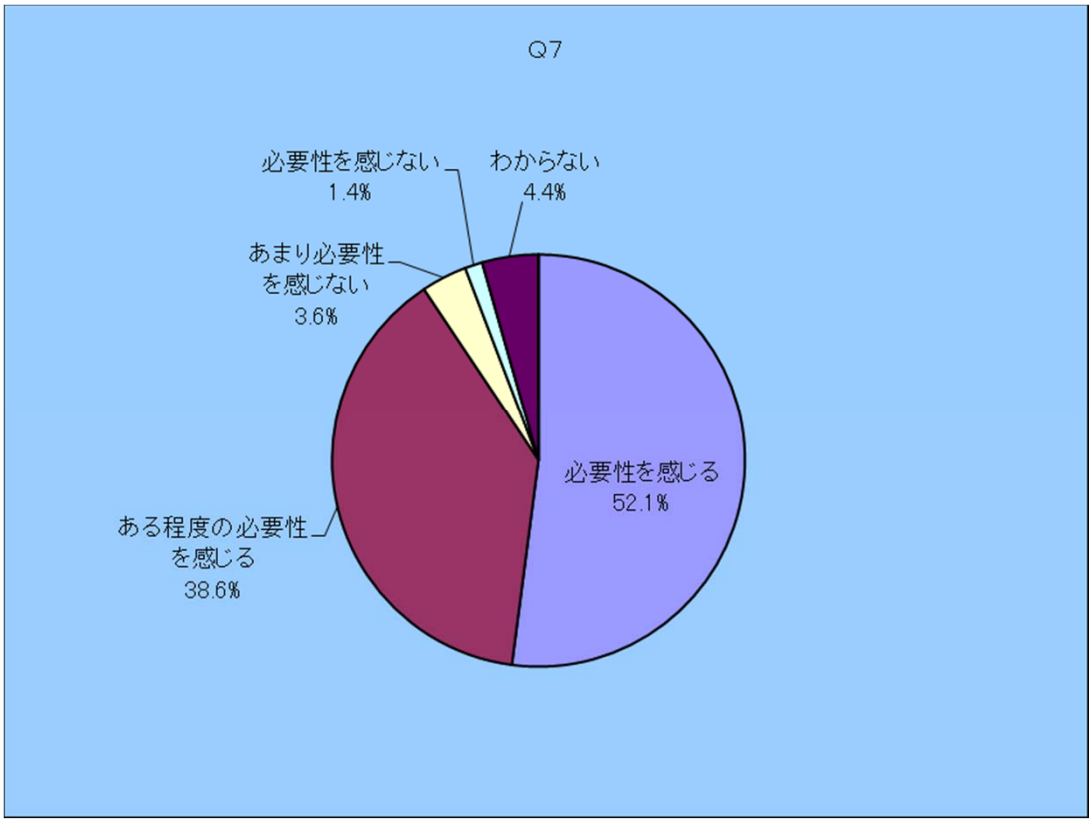
Q5)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	79事業所→計326人	12事業所→未回答
採用を検討したい	136事業所→計371人	40事業所→未回答
合計	215事業所→計697人	52事業所→未回答

Q7) 情報連携学科(仮称)
設置の必要性

回答事業所の情報連携学科(仮称)設置の必要性については、「必要性を感じる」が189事業所(52.1%)、「ある程度の必要性を感じる」が140事業所(38.6%)で、これらの合計が329事業所(90.7%)と、設置について9割以上の事業所が何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は13事業所(3.6%)、「必要性を感じない」は5事業所(1.4%)で、これらの合計は18事業所(5.0%)に留まっていることから、情報連携学科(仮称) の設置についての期待が窺われる。また、16事業所(4.4%)が「わからない」と回答しており、これらの事業所には情報連携学科(仮称) の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q7) 東洋大学　情報連携学部　情報連携学科(仮称) 設置の必要性についてどのようにお感じですか？

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	363	100.0%
必要性を感じる	189	52.1%
ある程度の必要性を感じる	140	38.6%
あまり必要性を感じない	13	3.6%
必要性を感じない	5	1.4%
わからない	16	4.4%
未回答・無効回答	0	0.0%



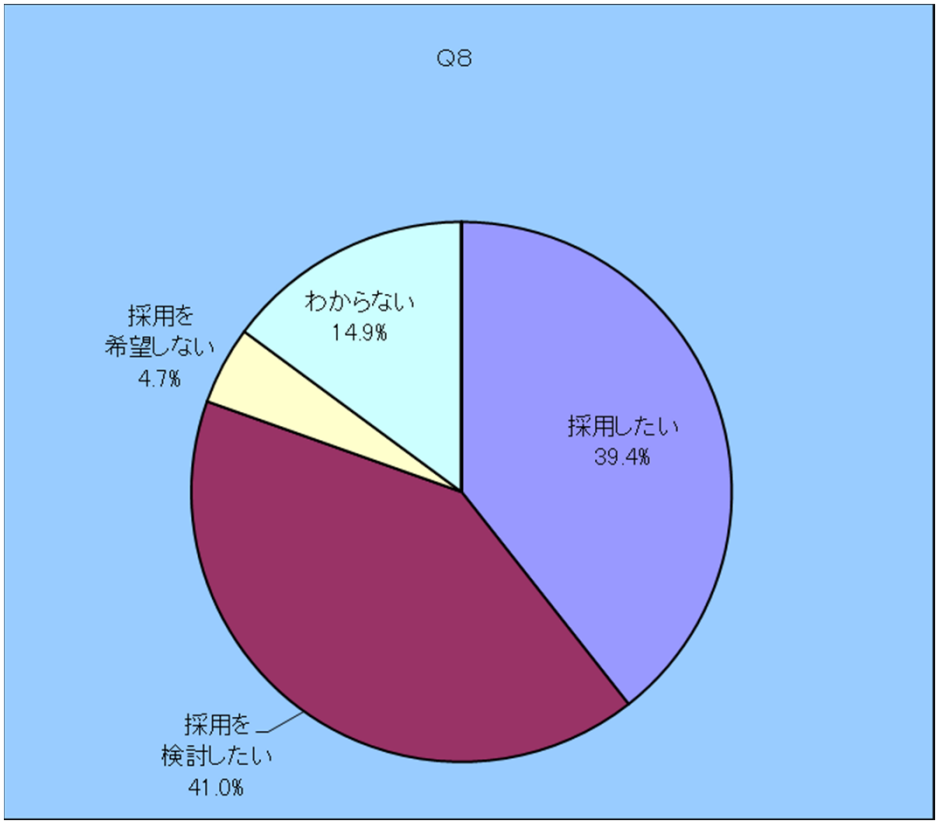
※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8）情報連携学科(仮称)
卒業生の採用意向

回答事業所の情報連携学科(仮称)卒業生の採用意向については、「採用したい」が143事業所（39.4%）、「採用を検討したい」が149事業所（41.0%）で、これらの合計が292事業所（80.4%）と、8割以上の事業所が卒業生に対する何らかの採用意向を持っていることがわかる。一方、「採用を希望しない」は17事業所（4.7%）に留まっているものの、54事業所（14.9%）が「わからない」と回答しており、前項と同様に、これらの事業所には情報連携学科(仮称) の養成する人材像や教育・研究の特色が十分に伝わっていない可能性がある。

Q8）東洋大学　情報連携学部 情報連携学科(仮称))の卒業生の採用についてどのようにお感じですか？

	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	363	100.0%
採用したい	143	39.4%
採用を検討したい	149	41.0%
採用を希望しない	17	4.7%
わからない	54	14.9%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9）情報連携学科(仮称)
卒業生の採用意向人数

回答事業所の情報連携学科(仮称)卒業生の採用意向人数は、「採用したい」または「採用を検討したい」と回答した事業所で、採用希望人数に幅のある事業所を最小人数で積算した場合は合計734人（477人＋257人）、最大人数で積算した場合は合計842人（534人＋308人）となり、情報連携学科(仮称)の卒業生への一定の採用意向が窺われる。

Q9）採用する可能性のある人数をご記入ください。

最小値

Q8）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	127事業所→計477人	16事業所→未回答
採用を検討したい	114事業所→計257人	35事業所→未回答
合計	241事業所→計734人	51事業所→未回答

最大値

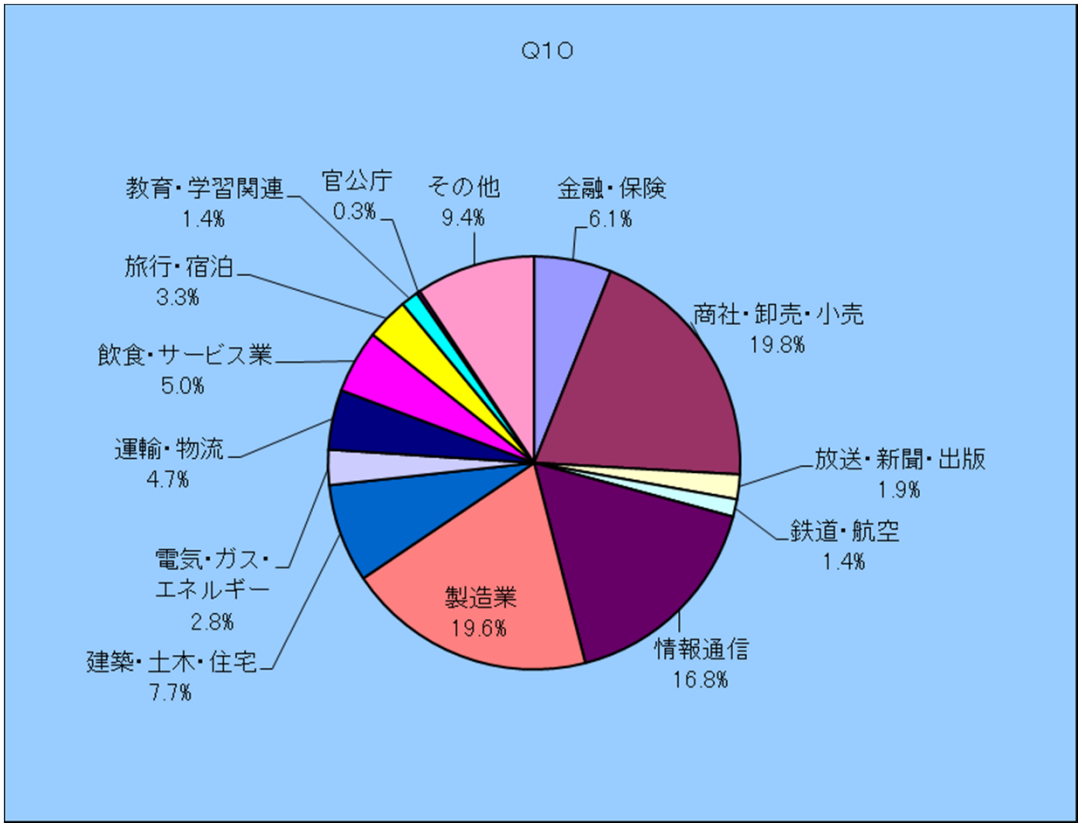
Q8）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	127事業所→計534人	16事業所→未回答
採用を検討したい	114事業所→計308人	35事業所→未回答
合計	241事業所→計842人	51事業所→未回答

Q10)事業所の種別

回答事業所の種別は、「商社・卸売・小売」72事業所（19.8%）が最も多く、「製造業」71事業所（19.6%）、「情報通信」61事業所（16.8%）と続いている。

Q10）貴社の業種は次のどちらですか？

	回答数（事業所数）	構成比（%）
全体	363	100.0%
金融・保険	22	6.1%
商社・卸売・小売	72	19.8%
放送・新聞・出版	7	1.9%
鉄道・航空	5	1.4%
情報通信	61	16.8%
製造業	71	19.6%
建築・土木・住宅	28	7.7%
電気・ガス・エネルギー	10	2.8%
運輸・物流	17	4.7%
飲食・サービス業	18	5.0%
旅行・宿泊	12	3.3%
教育・学習関連	5	1.4%
官公庁	1	0.3%
その他	34	9.4%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q11)事業所の業種(その他内訳)

Q10)回答事業所の業種で「その他」と回答した事業所の内訳は下記の通りとなっている。

Q11)該当する業種をご記入下さい。

＊その他　34事業所内訳

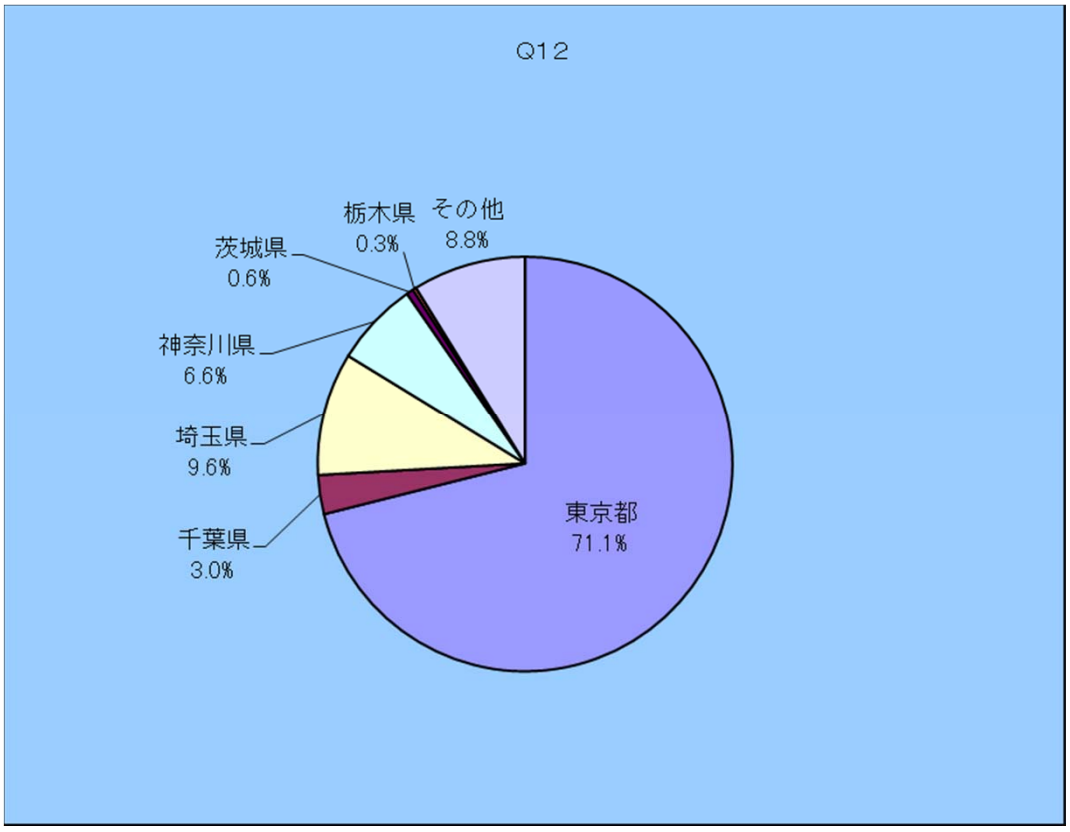
	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	34	100.0%
Eコマース	1	2.9%
サービス	1	2.9%
その他サービス	1	2.9%
その他サービス(機械修理業)	1	2.9%
ビジネスサービス、専門コンサルタント	1	2.9%
メーカー	1	2.9%
メーカー及び専門商社	1	2.9%
レンタル業	1	2.9%
医薬品	1	2.9%
医療・福祉	2	5.9%
印刷を中心とした総合サービス企業	1	2.9%
下水道業	1	2.9%
化粧品	1	2.9%
冠婚葬祭	1	2.9%
監理団体	1	2.9%
機械	1	2.9%
機械設計業	1	2.9%
経済団体	1	2.9%
研究開発	1	2.9%
広告業	1	2.9%
情報・サービス	1	2.9%
情報処理	1	2.9%
情報処理サービス	1	2.9%
情報処理代行業務	1	2.9%
不動産	2	5.9%
不動産管理	1	2.9%
福祉	1	2.9%
臨床検査、環境衛生検査業	1	2.9%
未回答・無効回答	4	11.8%

Q12)事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「東京都」258事業所（71.1%）が最も多く7割以上を占めており、「埼玉県」35事業所（9.6%）「その他」32事業所(8.8%)と続いている。

Q12）貴事業所の本社所在地は、次のどちらですか？

Q12	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	363	100.0%
東京都	258	71.1%
千葉県	11	3.0%
埼玉県	35	9.6%
神奈川県	24	6.6%
茨城県	2	0.6%
栃木県	1	0.3%
群馬県	0	0.0%
その他	32	8.8%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q13)事業所の所在地(その他内訳)

Q12)回答事業所の所在地で「その他」と回答した事業所の内訳は下記の通りとなっている。

Q13)該当する所在地(府県名)をご記入下さい。

＊その他　32事業所内訳

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	32	100.0%
愛知県	3	9.4%
岡山県	1	3.1%
岐阜県	1	3.1%
京都府	4	12.5%
高知県	1	3.1%
青森県	1	3.1%
静岡県	1	3.1%
大阪府	14	43.8%
長野県	1	3.1%
福岡県	1	3.1%
兵庫県	3	9.4%
北海道	1	3.1%

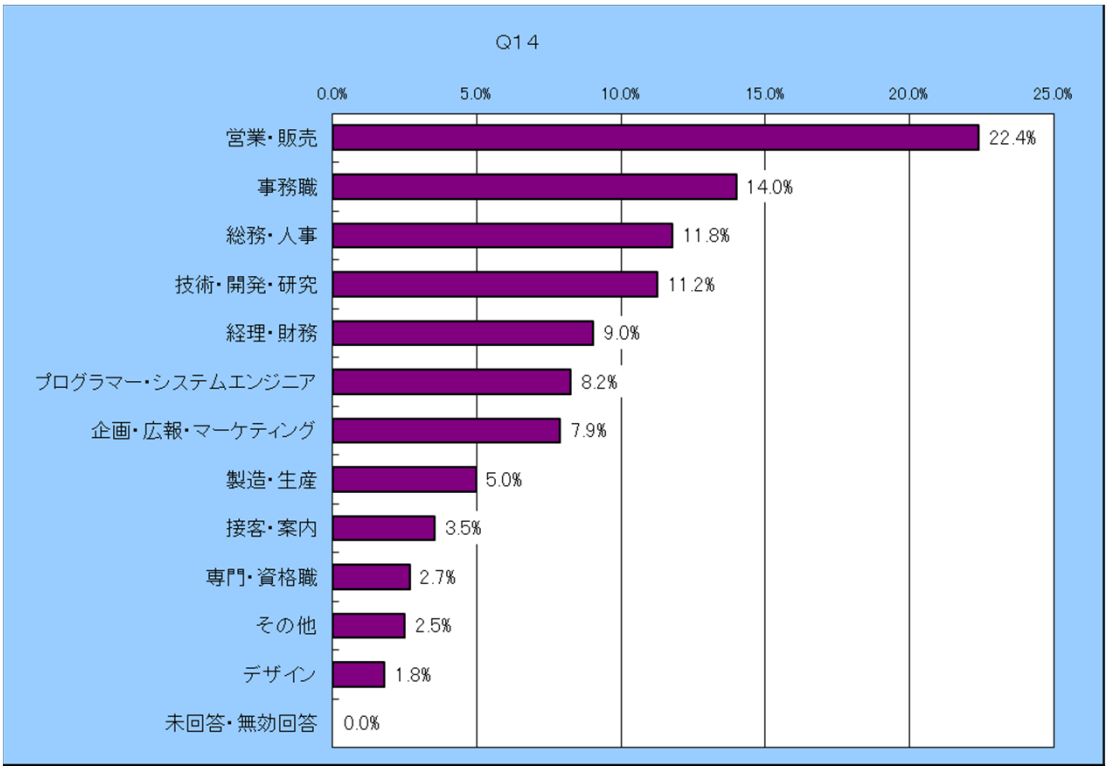
Q14)過去3年間の学卒者採用職種

回答事業所の過去3年間の学卒者採用職種は、「営業・販売」253事業所（22.4%）が最も多く、「事務職」158事業所(14.0%)、「総務・人事」133事業所(11.8%)と続いている。

＊複数回答可

Q14）貴社では、過去3年間、学卒者採用においてどのような職種を採用されましたか？

Q14	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	1129	100.0%
営業・販売	253	22.4%
企画・広報・マーケティング	89	7.9%
総務・人事	133	11.8%
経理・財務	102	9.0%
接客・案内	40	3.5%
事務職	158	14.0%
技術・開発・研究	127	11.2%
製造・生産	56	5.0%
専門・資格職	30	2.7%
プログラマー・システムエンジニア	93	8.2%
デザイン	20	1.8%
その他	28	2.5%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q15)過去3年間の学卒者採用職種（その他内訳）

Q14）回答事業所の過去3年間の学卒者採用職種で「その他」と回答した事業所の内訳は下記の通りとなっている。

Q15）該当する職種をご記入下さい。

＊その他 28事業所内訳

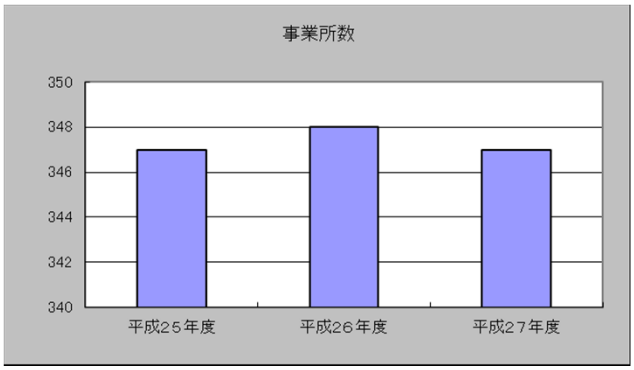
	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	28	100.0%
クリエイター	1	3.6%
サービス(カスタマー)エンジニア	1	3.6%
テクニカルライター（工業製品のマニュアル執筆編集）	1	3.6%
運転業務	1	3.6%
介護職	1	3.6%
銀行業務全般	1	3.6%
建設資材の価格調査員	1	3.6%
建設設備施工管理職	1	3.6%
施工管理、設計、積算、設備	1	3.6%
設計	1	3.6%
設計・施工管理	1	3.6%
総合職	7	25.0%
総合職（システム運用技術者、システム開発技術者）	1	3.6%
配車職、在庫管理業務	1	3.6%
半導体：ICに関するFAE	1	3.6%
貿易実務、物流管理、物流技術開発	1	3.6%
冷蔵倉庫管理	1	3.6%
未回答・無効回答	5	17.9%

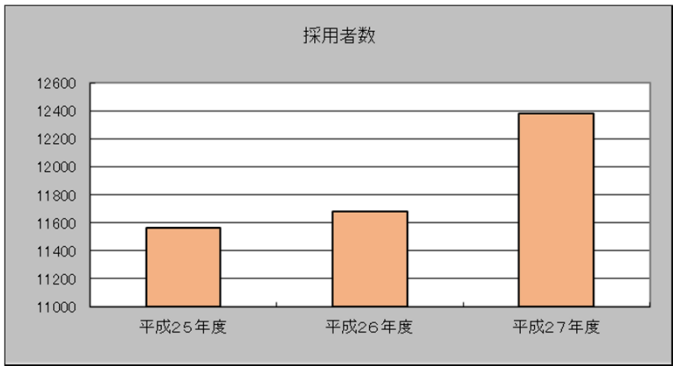
Q16-Q18)過去3年間の採用人数

回答事業所の過去3年間の採用人数合計は、平成25年度347事業所11,562人、平成26年度348事業所11,682人、平成27年度347事業所12,379人で、平成25年度から平成27年度では採用人数は増加傾向にあり、いずれの年度も合計11,500人以上であることから、アンケート対象事業所全体として、毎年一定数の採用があることがわかる。

Q16)-Q18)貴社では、Q14)もしくはQ15)で指定された職種全てで、過去3年間(平成25年度～平成27年度)で合計何人採用されましたか？
＊概数でかまいません。

平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	347	11,562	合計	348	11,682	合計	347	12,379



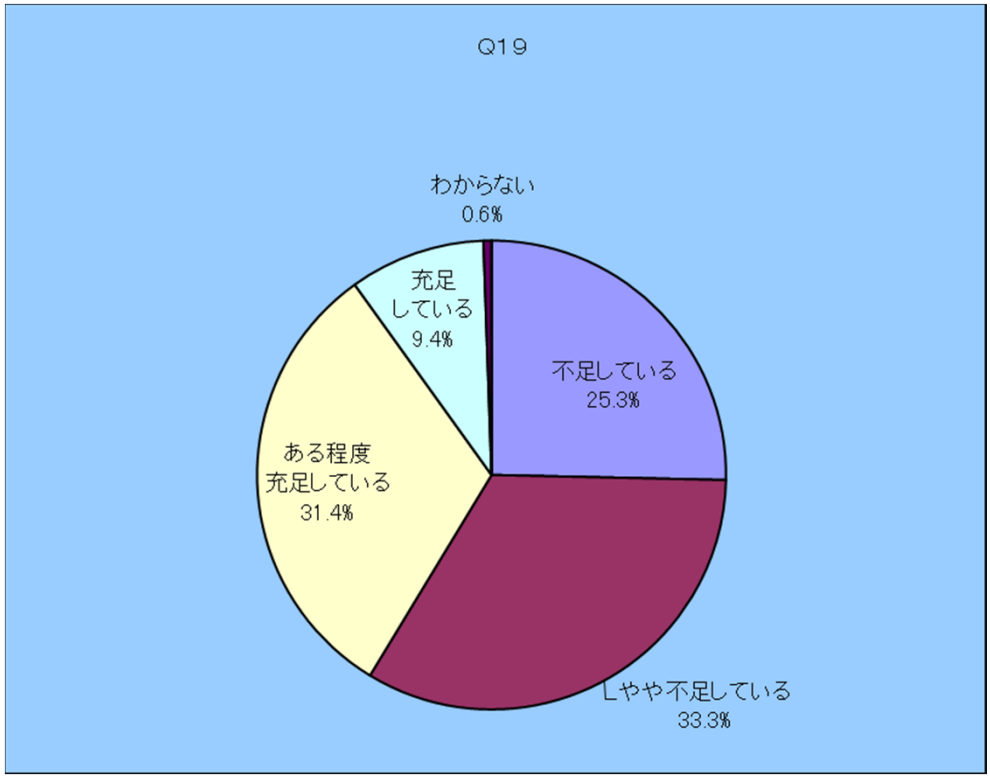


Q19)採用職種の充足状況

回答事業所で採用された職種の充足状況は、「不足している」が92事業所（25.3%）、「やや不足している」が121事業所（33.3%）で、これらの合計が213事業所(58.6%)となり、程度の差はあるものの6割近くの事業所が人材が不足していると回答している。一方、「ある程度充足している」は114事業所(31.4%)、「充足している」は34事業所(9.4%)で、これらの合計は148事業所（40.8%）となっている。

Q19）貴社では、Q14）もしくはQ15）で指定された職種の採用状況についてどのようにお感じですか？

Q19	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	363	100.0%
不足している	92	25.3%
やや不足している	121	33.3%
ある程度充足している	114	31.4%
充足している	34	9.4%
わからない	2	0.6%
未回答・無効回答	0	0.0%



※パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

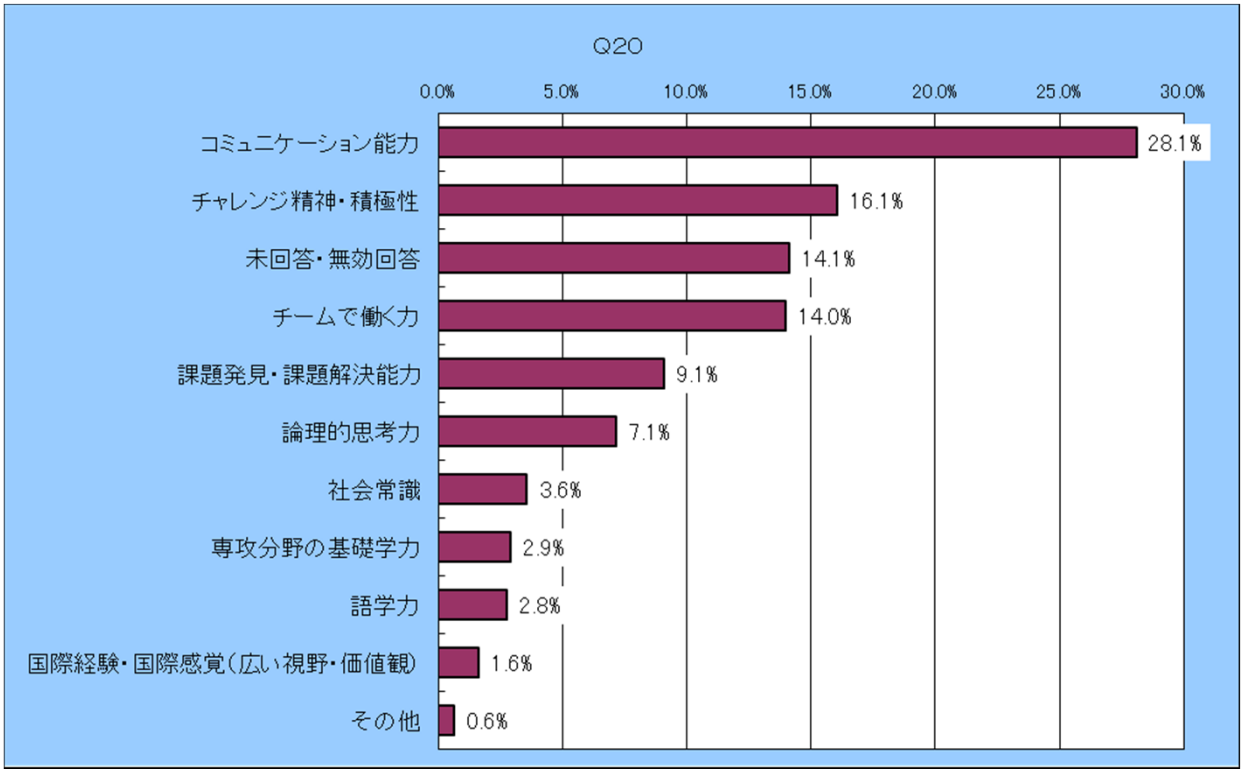
Q20)人材採用の際の重視点

回答事業所の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」173件（28.1%）が最も多く、「チャレンジ精神・積極性」99件(16.1%)、「チームで働く力」86件(14.0%)と続いており、「専攻分野の基礎学力」18事業所(2.9%)よりもコミュニケーションや積極性、協調性等に関する項目が重視されている。また、「語学力」は17件(2.8%)、「国際経験・国際感覚（広い視野・価値観）」は10件（1.6%）と語学力や国際性といった項目はポイントが低くなっている。

＊2つまで選択可

Q20)貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか？

Q20	回答数（件）	構成比（%）
全体	616	100.0%
コミュニケーション能力	173	28.1%
語学力	17	2.8%
課題発見・課題解決能力	56	9.1%
チームで働く力	86	14.0%
チャレンジ精神・積極性	99	16.1%
国際経験・国際感覚（広い視野・価値観）	10	1.6%
論理的思考力	44	7.1%
専攻分野の基礎学力	18	2.9%
社会常識	22	3.6%
その他	4	0.6%
未回答・無効回答	87	14.1%



＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q21)人材採用の際の重視点(その他内訳)

Q20)人材採用の際の重視点で「その他」と回答した事業所の内訳は下記の通りとなっている。

Q21)重視されている能力等をご記入ください。

＊その他 4件内訳

	回答数(件)	構成比(%)
全体	4	100.0%
素直さ(まずは受入れ自らを成長させたいという前向きな気持ち)	1	25.0%
総合的に判断しております。	1	25.0%
未回答・無効回答	2	50.0%

＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

採用需要推計

採用需要推計

1. 文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)

Q3)文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生を採用する可能性のある人数の最小値と最大値は下記の通り。

最小値

Q2)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	80事業所→計304人	13事業所→未回答
採用を検討したい	137事業所→計282人	41事業所→未回答
合計	217事業所→計586人	54事業所→未回答

最大値

Q2)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	80事業所→計339人	13事業所→未回答
採用を検討したい	137事業所→計341人	41事業所→未回答
合計	217事業所→計680人	54事業所→未回答

上記で人数が未回答であった事業所の採用の可能性のある人数を1事業所当たり最小で0人、最大で1人×50%とし、「採用を検討したい」の20%が採用されると仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記の通りとなる。

最小値　未回答13+41事業所の採用希望人数を0人と仮定した場合)

Q2)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい	93事業所→計304人
採用を検討したい	178事業所→計282人×20%＝56人
合計	271事業所→計360人

最大値　未回答13+41事業所の採用希望人数を1人×50%と仮定した場合)

Q2)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい	93事業所→計345人
採用を検討したい	178事業所→計361人×20%＝72人
合計	271事業所→計417人

＊最小、最大共に「採用を検討したい」のうち20%が採用されると仮定して積算。

以上から、調査結果に基づく文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)の**推計採用意向人数は最小の場合で360人、最大の場合417人となる。この数値は文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)の入学定員(100人)に対して最小で3.6倍、最大で4.2倍となり、東洋大学　文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生に対する一定の採用需要が窺われる。**

採用需要推計

2. 国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）

Q6）国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）卒業生を採用する可能性のある人数の最小値と最大値は下記の通り。

最小値

Q5）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	79事業所→計300人	12事業所→未回答
採用を検討したい	136事業所→計310人	40事業所→未回答
合計	215事業所→計610人	52事業所→未回答

最大値

Q5）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	79事業所→計326人	12事業所→未回答
採用を検討したい	136事業所→計371人	40事業所→未回答
合計	215事業所→計697人	52事業所→未回答

上記で人数が未回答であった事業所の採用の可能性のある人数を1事業所当たり最小で0人、最大で1人×50%とし、「採用を検討したい」の20%が採用されると仮定した場合、推計採用意向人数（採用の可能性のある人数）は下記の通りとなる。

最小値 （未回答12+40事業所の採用希望人数を0人と仮定した場合）

Q5）採用意向	採用希望人数内訳（人）
採用したい	91事業所→計300人
採用を検討したい	176事業所→計310人×20%＝62人
合計	267事業所→計362人

最大値 （未回答12+40事業所の採用希望人数を1人×50%と仮定した場合）

Q5）採用意向	採用希望人数内訳（人）
採用したい	91事業所→計332人
採用を検討したい	176事業所→計391人×20%＝78人
合計	267事業所→計410人

＊最小、最大共に「採用を検討したい」のうち20%が採用されると仮定して積算。

以上から、調査結果に基づく国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）の**推計採用意向人数は最小の場合で362人、最大の場合410人となる。この数値は国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）の入学定員（100人）に対して最小で3.6倍、最大で4.1倍となり、東洋大学国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）卒業生に対する一定の採用需要が窺われる。**

採用需要推計

3. 情報連携学部 情報連携学科（仮称）

Q9）情報連携学部 情報連携学科（仮称）卒業生を採用する可能性のある人数の最小値と最大値は下記の通り。

最小値

Q8）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	127事業所→計477人	16事業所→未回答
採用を検討したい	114事業所→計257人	35事業所→未回答
合計	241事業所→計734人	51事業所→未回答

最大値

Q8）採用意向	採用希望人数内訳（人）	
採用したい	127事業所→計534人	16事業所→未回答
採用を検討したい	114事業所→計308人	35事業所→未回答
合計	241事業所→計842人	51事業所→未回答

上記で人数が未回答であった事業所の採用の可能性のある人数を1事業所当たり最小で0人、最大で1人×50%とし、「採用を検討したい」の20%が採用されると仮定した場合、推計採用意向人数（採用の可能性のある人数）は下記の通りとなる。

最小値 （未回答16+35事業所の採用希望人数を0人と仮定した場合）

Q8）採用意向	採用希望人数内訳（人）
採用したい	143事業所→計477人
採用を検討したい	149事業所→計257人×20%＝51人
合計	292事業所→計528人

最大値 （未回答16+35事業所の採用希望人数を1人×50%と仮定した場合）

Q8）採用意向	採用希望人数内訳（人）
採用したい	143事業所→計542人
採用を検討したい	149事業所→計325人×20%＝65人
合計	292事業所→計607人

＊最小、最大共に「採用を検討したい」のうち20%が採用されると仮定して積算。

以上から、調査結果に基づく情報連携学部 情報連携学科（仮称）の**推計採用意向人数は最小の場合で528人、最大の場合607人となる。この数値は情報連携学部 情報連携学科（仮称）の入学定員（400人）に対して最小で1.3倍、最大で1.5倍となり、東洋大学 情報連携学部 情報連携学科（仮称）卒業生に対する一定の採用需要が窺われる。**

潜在的社会人材需要推計

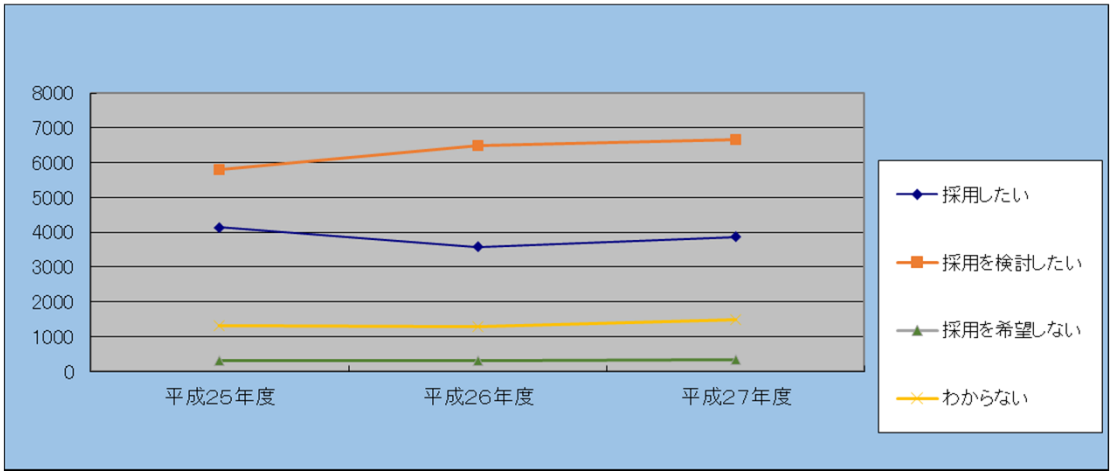
1．文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)

以下は回答事業所の「Q2)文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)卒業生の採用意向」と各事業所の平成25年度～平成27年度の採用実績推移を表にしたものである。「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層271事業所の採用実績合計は、平成25年度9,942人(86.0%)、平成26年度10,083人(86.3%)、平成27年度10,540人(85.1%)と、平成25年度から平成27年度では毎年増加しており、いずれも9,900人以上の採用人数で推移している。

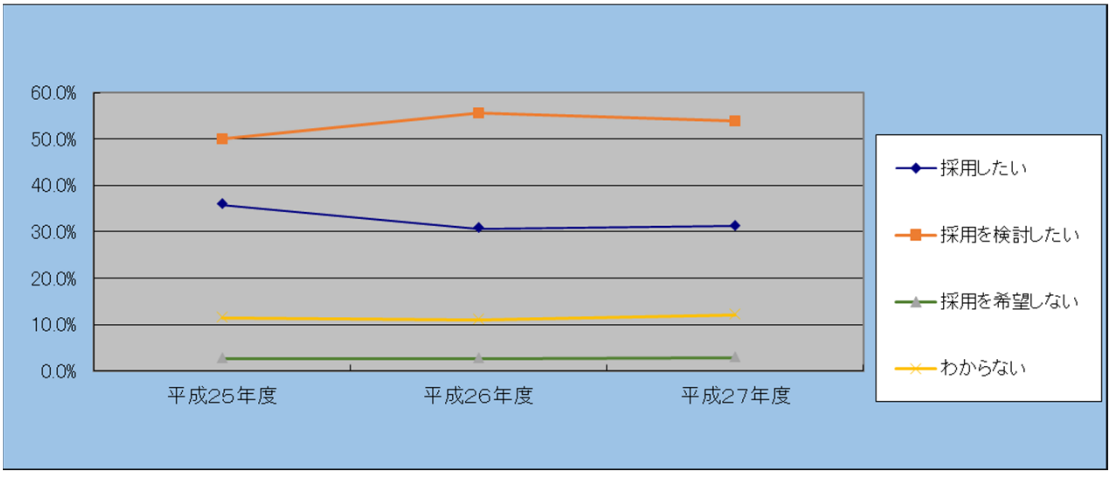
文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)の卒業生の採用意向が高い事業所採用実績推移(平成25年度～平成27年度)

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)	採用人数(人)	構成比(%)
調査数	11,562	100.0%	11,682	100.0%	12,379	100.0%
採用したい	4,146	35.9%	3,579	30.6%	3,868	31.2%
採用を検討したい	5,796	50.1%	6,504	55.7%	6,672	53.9%
採用を希望しない	302	2.6%	316	2.7%	349	2.8%
わからない	1,318	11.4%	1,283	11.0%	1,490	12.0%

採用意向が高い事業所の採用人数推移(平成25年度～平成27年度)



採用意向が高い事業所の構成比率(平成25年度～平成27年度)



潜在的社会人材需要推計

前述の通り、文学部　国際文化コミュニケーション学科(仮称)の卒業生を「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層271事業所の採用実績合計は、平成25年度9,942人(86.0%)、平成26年度10,083人(86.3%)、平成27年度10,540人(85.1%)と、平成25年度から平成27年度では毎年増加しており、いずれも9,900人以上の採用人数で推移している。この数値は入学定員(100名)に対して平成25年度で99.4倍、平成26年度で100.8倍、平成27年度では105.4倍となり、関心層において、一定の潜在的社会人材需要があることが窺われる。

潜在的社会人材需要推計

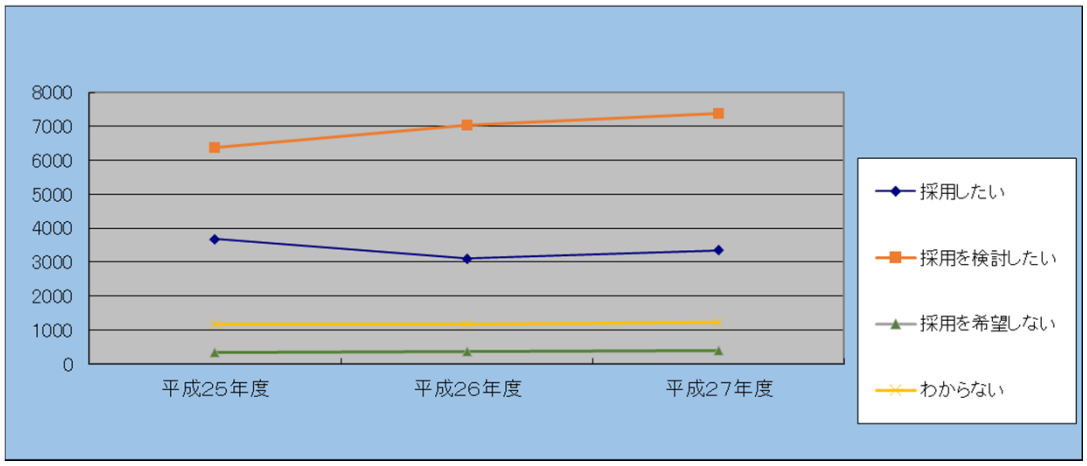
2. 国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）

以下は回答事業所の「Q5）国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）卒業生の採用意向」と各事業所の平成25年度～平成27年度の採用実績推移を表にしたものである。「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層267事業所の採用実績合計は、平成25年度10,052人（87.0%）、平成26年度10,155人（86.9%）、平成27年度10,742人（86.8%）と、平成25年から平成27年度では毎年増加しており、いずれも10,000人以上の採用人数で推移している。

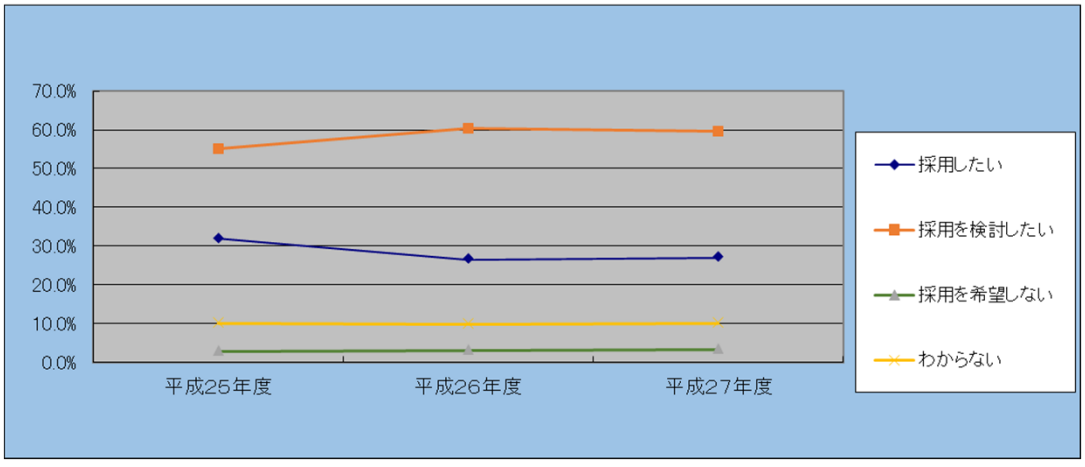
国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）の卒業生の採用意向が高い事業所採用実績推移（平成25年度～平成27年度）

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	採用人数（人）	構成比（%）	採用人数（人）	構成比（%）	採用人数（人）	構成比（%）
調査数	11,562	100.0%	11,682	100.0%	12,379	100.0%
採用したい	3,684	31.9%	3,106	26.6%	3,351	27.1%
採用を検討したい	6,368	55.1%	7,049	60.3%	7,391	59.7%
採用を希望しない	337	2.9%	366	3.1%	396	3.2%
わからない	1,173	10.1%	1,161	9.9%	1,241	10.0%

採用意向が高い事業所採用人数推移（平成25年度～平成27年度）



採用意向が高い事業所の構成比率（平成25年度～平成27年度）



潜在的社会人材需要推計

前述の通り、国際学部 グローバル・イノベーション学科（仮称）の卒業生を「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層267事業所の採用実績合計は、平成25年度10,052人（87.0%）、平成26年度10,155人（86.9%）、平成27年度10,742人（86.8%）と、平成25年から平成27年度では毎年増加しており、いずれも10,000人以上の採用人数で推移している。この数値は入学定員（100名）に対して、平成25年度で100.5倍、平成26年度で101.6倍、平成27年度では107.4倍となり、関心層において一定の潜在的社会人材需要があることが窺われる。

潜在的社会人材需要推計

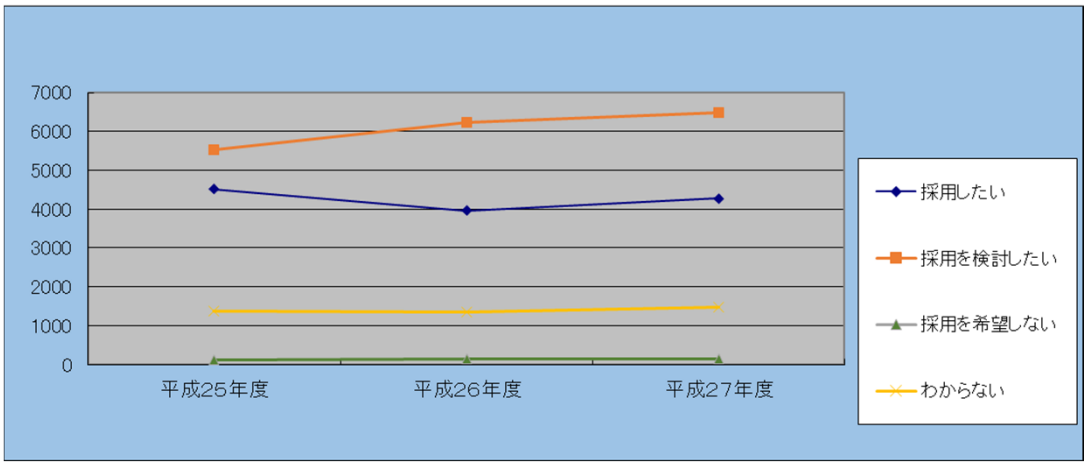
3. 情報連携学部 情報連携学科（仮称）

以下は回答事業所の「Q8）情報連携学部 情報連携学科（仮称）卒業生の採用意向」と各事業所の平成25年度～平成27年度の採用実績推移を表にしたものである。「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層292事業所の採用実績合計は、平成25年度10,051人（86.9%）、平成26年度10,205人（87.4%）、平成27年度10,752人（86.8%）と、平成25年から平成27年度では毎年増加しており、いずれも10,000人以上の採用人数で推移している。

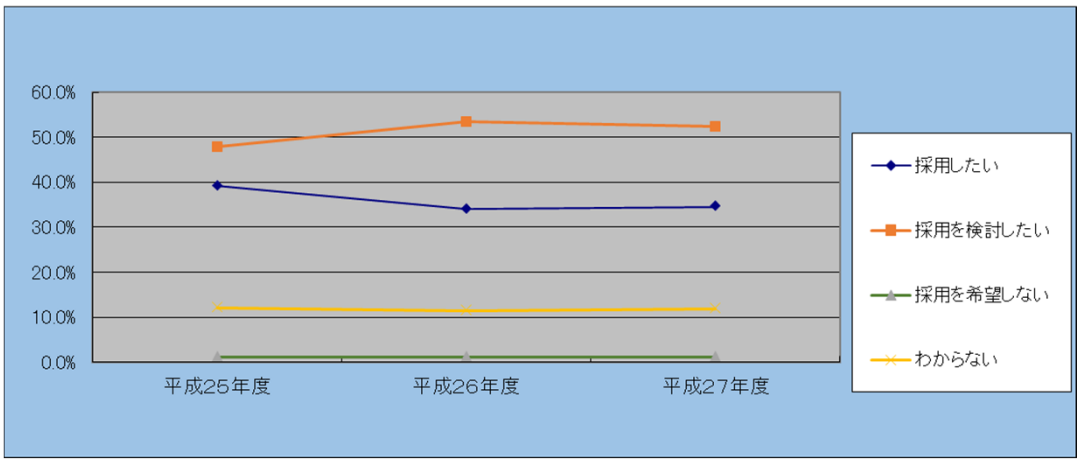
情報連携学部 情報連携学科（仮称）の卒業生の採用意向が高い事業所採用実績推移（平成25年度～平成27年度）

	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	採用人数（人）	構成比（%）	採用人数（人）	構成比（%）	採用人数（人）	構成比（%）
調査数	11,562	100.0%	11,682	100.0%	12,379	100.0%
採用したい	4,521	39.1%	3,967	34.0%	4,276	34.5%
採用を検討したい	5,530	47.8%	6,238	53.4%	6,476	52.3%
採用を希望しない	123	1.1%	136	1.2%	151	1.2%
わからない	1,388	12.0%	1,341	11.5%	1,476	11.9%

採用意向が高い事業所採用人数推移（平成25年度～平成27年度）



採用意向が高い事業所の構成比率（平成25年度～平成27年度）



潜在的社会人材需要推計

前述の通り、情報連携学部 情報連携学科（仮称）の卒業生を**「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した関心層292事業所の採用実績合計は、平成25年度10,051人（86.9%）、平成26年度10,205人（87.4%）、平成27年度10,752人（86.8%）と、平成25年から平成27年度では毎年増加しており、いずれも10,000人以上の採用人数で推移している。この数値は入学定員（400名）に対して、平成25年度で25.1倍、平成26年度で25.5倍、平成27年度では26.9倍となり、関心層において一定の潜在的社会人材需要があることが窺われる。**

補記

アンケート説明文1/4


東洋大学
東洋大学から世界へ、学びの幅がさらに大きく広がります。
2017年 4月
新学部・新学科、開設
東洋大学は、2014年、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）」に採択されました。
世界を舞台に活躍し新たな価値を創造する「グローバル人財」の育成を
さらに加速させるため、2017年に新たな学部学科の新設を構想しています。
国際学部
グローバル・イノベーション学科
情報連携学部
情報連携学科
文学部
国際文化コミュニケーション学科
2015年11月現在設置構想中です。学部・学科の名称は仮称であり、このパンフレットの掲載内容は変更になる可能性があります。

アンケート説明文2/4


視野を地球規模に
文部科学省 スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）に採択
国際化への取り組み（抜粋）
全学生に占める外国人留学生の数
2,720名
海外交流大学間協定に基づく交流数
1,700名
外国語による授業科目数
1,513科目
日本人学生に占める留学経験者数
2,870名
外国人および海外学位取得教員の採用
411名
スーパーグローバル大学創成支援採択大学
白山キャンパス
NEW 赤羽台キャンパス
東京都文京区白山5-28-20
都営三田線「白山駅」徒歩5分／東京メトロ南北線「本駒込駅」徒歩5分
東京都北区赤羽1-7-12
JR「赤羽駅」徒歩8分／東京メトロ南北線「赤羽岩淵駅」徒歩12分
東洋大学
お問い合わせ先
学校法人東洋大学　経営企画本部
〒112-8606　東京都文京区白山 5-28-20　TEL: 03-3945-7498　www.toyo.ac.jp

アンケート説明文3/4

国際学部 国際社会で活躍できる人材を育成する。

グローバル・イノベーション学科

入学定員：100名（留学生30名）　初年度納付金：1,210,000円（予定）
キャンパス：白山キャンパス（東京都文京区／都営三田線白山駅　徒歩5分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　国際関係学・経済学・社会学

経済・貧困・資源・環境・紛争など、グローバル社会には様々な課題が新たに発生しています。いま求められるのは、グローバルな視点に立ち、新しい時代に合ったシステムや価値を創造できる人材です。グローバル・イノベーション学科では、国際系企業での活動やベンチャーの起業などを通して、国際社会のイノベーション（変革）を起こしうるリーダーシップ力を磨きます。

グローバル・イノベーション学科の強み

■授業は原則英語で、海外留学を必須化（1年間）。
国際社会を舞台に活躍できる実践的なコミュニケーション能力を身につけます。

■語学力・コミュニケーション力を強化するカリキュラム。
1年次に語学力・コミュニケーション力を徹底的に強化します。

■国際社会で活躍するための3つの専門領域。
グローバル・システム領域、国際ビジネス領域、国際コラボレーション領域

■日本人7割・留学生3割の国際的な学習環境。
留学生の受け入れを推進。入学定員の3割をアジアを中心とした留学生に。

■起業家育成プログラムを実施。
学生チームによる起業を支援、学生ベンチャーを育成します。

■リーダーシップ力を現場で磨く実践的な海外プログラム。
インターンシップや海外研修など、体験型海外プログラムの機会を提供します。

育成する人材像

■企業や社会における価値創造を促すイノベーション能力を持つ人材
■国際社会で活躍できる実践的コミュニケーション能力を持つ人材
■日本の伝統文化や思想を深く理解し、世界に発信できる人材
■新規ビジネスの起業を行う能力と意欲にあふれる人材

目指す進路

グローバル力・専門性を活かして多方面で活躍できます。
グローバル企業／起業家／NPO法人／コンサルタント／マーケティング／研究者／官公庁など

文学部 多文化の理解を深め、発信する「コミュニケーション力」を身につける。

国際文化コミュニケーション学科

入学定員：100名　初年度納付金：1,160,000円（予定）
キャンパス：白山キャンパス（東京都文京区／都営三田線白山駅　徒歩5分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　外国語学・文化学

急激にグローバル化が進む現代社会では、国や価値観の違いを超えて信頼関係を築くこと、多様な人々が相互に理解し共生することが求められています。そのために重要となるのは、「文化的な教養」と「コミュニケーションの力」です。国際文化コミュニケーション学科では、日本文化や仏国文化間の比較をベースにした教養と、実践的な言語運用能力とを兼ね備えた人材を育成します。

国際文化コミュニケーション学科の強み

■英語はあたりまえ。英語力に「多言語スキル、多文化理解」をプラス。
英語の基礎力は全学生が身につけます。英語に加え、日・独・仏のいずれか選択した比較文化研究を行います。

■日本にいながら、各国からの留学生と交流して友人を作る。
村上春樹・宮崎駿などを英語で留学生と一緒に学ぶ科目を授業。
学生数の10%が留学生になる予定です。

■海外で各国文化と英語・フランス語・ドイツ語を学ぶ留学制度。
米・英・仏・独・中の有名大学への留学をサポートします。

■文化間の相互理解を深める3つの専門領域。
英語コミュニケーション特化、比較文化研究（独語・仏語）、日本文化・日本語教育

■国際文化の理解は、日本文化の理解から。
日本文化に対する知識と他文化とを比較できる観察力を身につけます。

■全学連携科目で就職のためのスキルを磨く。
大手企業等と協働して、社会が求める人財教育を行います。

育成する人材像

■自らのキャリアを展望する思考力を持つ人材
■文化的なコンテンツを理解し、表現できる言語コミュニケーション能力を持つ人材
■英語を基礎から教育・指導できる能力を持つ人材
■日本語を外国人に教育・指導できる能力を持つ人材

目指す進路

人と関わり人を育てる教育関係、多文化多言語への対応が求められる公務員・グローバル企業、文化的コンテンツを伴う言語運用力を必要とする出版・報道など。

旅行業／航空・鉄道・ホテル／放送・出版／商社・デパート／広告／翻訳・通訳／研究者／官公庁など

アンケート説明文4/4

情報連携学部 アイデアを素早く形に。「連携」を通して新しい価値を創造する。

情報連携学科

入学定員：400名　初年度学納金：¥1,470,000（予定）
キャンパス：岩野台キャンパス（東京都北区／JR岩野駅　徒歩8分）

こんな学問分野に興味のある人に向いています　情報学・経済学・理工学・都市工学・デザイン学

インターネットの急速な進歩は、日々新しい技術や価値が生まれる、変化の時代をもたらしました。アイデアを素早く形にして社会に新たなサービスを送り出す、そんなスピード感を持った人材が求められています。そのためには、分野の違う様々な人々と「連携」してチームを組むことが重要です。情報連携学部では、その「連携」のあり方を実践的に学びます。インターネットを活用し、人・モノ・情報の相互連携が生み出す新しいサービスや産業分野、学問分野、そして新たな社会のあり方の探究とそれを支える人材を育成します。

コンセプトは「連携」



インターネット社会の今、世界はますますチャレンジが容易に

インターネットによって知識や情報がモノや、考え方が同じ1つの場にやっていける人々どのような世界にあり、また、遠く離れたところにいる人達と協力しあって一緒に仕事をしたり（クラウド・ソーシング）、資金調達パネルを作ってもらって、それを国境・地域差で個人個人してもらったりして、魅力的な新作品を作れば、ネット上通じて広く世界から資金を集める（クラウド・ファンディング）ことも可能です。
世界では、こうして若者たちが革新的な製品を世に出して成功する「スタートアップ」が増えています。

いろいろな機能ブロックがネットから簡単に入手でき、スマートフォンの開発環境も充実しました。少しのプログラムだけで高度なアプリを作り、新サービスの実現が可能になります。

インターネットの中の様々な機能やサービスを組み合わせ「連携」させれば…

チームを組んで、コンピュータを使いこなし情報を通して連携し、新しくアイデアを形にできる人材が今求められています。

「連携」の基盤はコンピュータ・サイエンス



学部長（予定）
坂村 健（元 東京大学教授）
computer architect（電脳建築家）、東京大学大学院情報学環教授、工学博士。トロンプロジェクト・ユビキタス・コンピューティング、IoT（Internet of Things）の先導者として日本のICTアーキテクチャを創成。2003年 紫綬褒章、2006年 日本学士院賞、2010年 文化功労者、2016年 旭日大綬章 受章。

新しい知的空間は――
将来の情報通信基盤の在り方について、様々な観点から研究を行ってきた坂村健が、最先端のIT（情報通信技術）やインターネットを用いて世界中の人々の生活向上と多方向の豊かさを築いていきます。現代社会の様々な問題点を解決し、幸福のカタチ・デザインを考案できるのが情報連携学部です。

情報連携学科の強み

- 「連携」して未来を創造する。世界最先端の学問です。
- 興味に応じて深く学ぶ「4つのコース」制。
  エンジニアリング・デザイン・ビジネス・レビルシステム
- 学生の新ビジネス起業をサポート。
  シェアオフィス設置やスポンサー紹介など、学生のチャレンジをバックアップ。
- 黒板はありません。授業は全てノートPCやタブレットで。
- 図書館はデジタル化された電子ブックが主。
  キャンパス内の無線LANで、いつでもどこでも図書館に接続できます。
- 一流の教員陣による手厚い少人数教育。

カリキュラムの特徴

- すべての学生が「プログラミング」を学びます。
  「連携」の基礎はプログラミングから。コンピューターを語る基礎力を身につけます。
- コミュニケーション能力を重視。
  「様々な人たちと一緒になって課題解決を行うための力を養成。
  「英語」「プレゼンテーション」「ディベート」などの国際力を身につけます。
- チーム演習で「連携」を実践。
  各コースの授業で身につけた専門性を活かし、4つのコース横断でチームを組成。新ビジネス起業の模擬実習を行い、自分に適うコース・違う視点の仲間との協生力を体験し、社会に出てからの即戦力を身につけます。
- 独自の英語プログラムを実施。
  1年次に英語力の基礎を徹底的に鍛えます。
  2年次・3年次からは、英語で授業を行うプログラムも履修できます。

育成する人材像

- 最先端のコンピュータ・サイエンスを身につけ、未来の情報サービスを構築できる人材
- 新しい考え方で、未来のモノを具体化できる人材
- 情報を武器として新たなビジネスを創り出せる人材
- 情報技術と連携し豊かな社会とくらしの創造に応用できる人材

目指す進路

- 専門力・グローバル力・連携力を活かして多方面で活躍できます。
- チーム演習の実績を活かし、仲間たちと新ビジネスを起業する。
- ICT関連企業／システム・エンジニア／プログラマ／Webデザイナ／コンサルタント／マーケティング／研究者／官公庁／建設／商業／サービスなど

2015年11月現在設置構想中です。学部・学科の名称は仮称であり、このパンフレットの掲載内容は変更になる可能性があります。

アンケート調査票1/2

東洋大学　新学部学科設置計画に関する採用ニーズアンケート

東洋大学では、これまでの学部学科に加えて、新たに3つの学部学科を設置することを検討しています。設置計画検討の参考として、皆様の率直なご意見をお聞かせください。
※【Q1～Q9】は、以下のPDF「東洋大学　新学部学科　紹介パンフレット」をご覧いただき、ご回答ください。
※本アンケートは新学部学科設置計画の参考とさせていただくために行うものであり、他の目的では使用いたしません。
※【Q3、Q6、Q9】の「採用する可能性のある人数」につきましては、貴社の今後の採用計画とは関係のないものとお考えいただき、あくまでも、本アンケートへの回答のためだけの数字とお考えください。なお、アンケートは無記名方式ですので、ご回答いただいた企業様を特定することはなく、アンケート集計結果に企業様の名称が出ることもありませ

Q1 ： 東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)の設置の必要性についてどのようにお感じですか？ （必須）
次の中から1つ選んでください。
必要性を感じる
ある程度の必要性を感じる
あまり必要性を感じない
必要性を感じない
わからない

Q2 ： 東洋大学 文学部 国際文化コミュニケーション学科(仮称)の卒業生の採用についてどのようにお感じですか？ （必須）
採用の可能性についておたずねします。
採用したい
採用を検討したい
採用を希望しない
わからない

Q3 ： Q2で「採用したい」「採用を検討したい」を選択された方におたずねします。 （必須）
採用する可能性のある人数をご記入ください。＊あくまでも可能性の数でかまいません。「○○人程度」といった概算でかまいません。

Q4 ： 東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)の設置の必要性についてどのようにお感じですか？ （必須）
次の中から1つ選んでください。
必要性を感じる
ある程度の必要性を感じる
あまり必要性を感じない
必要性を感じない
わからない

Q5 ： 東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科(仮称)の卒業生の採用についてどのようにお感じですか？ （必須）
採用の可能性についておたずねします。
採用したい
採用を検討したい
採用を希望しない
わからない

Q6 ： Q5で「採用したい」「採用を検討したい」を選択された方におたずねします。 （必須）
採用する可能性のある人数をご記入ください。＊あくまでも可能性の数でかまいません。「○○人程度」といった概算でかまいません。

Q7 ： 東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)の設置の必要性についてどのようにお感じですか？ （必須）
次の中から1つ選んでください。
必要性を感じる
ある程度の必要性を感じる
あまり必要性を感じない
必要性を感じない
わからない

Q8 ： 東洋大学 情報連携学部 情報連携学科(仮称)の卒業生の採用についてどのようにお感じですか？ （必須）
採用の可能性についておたずねします。
採用したい
採用を検討したい
採用を希望しない
わからない

Q9 ： Q8で「採用したい」「採用を検討したい」を選択された方におたずねします。 （必須）
採用する可能性のある人数をご記入ください。＊あくまでも可能性の数でかまいません。「○○人程度」といった概算でかまいません。

Q10 ： 貴社の業種は次のどちらですか？ （必須）
次の中から1つ選んでください。

Q11 ： Q10で「その他」を選択された方におたずねします。
該当する業種をご記入ください。

Q12 ： 貴社の本社所在地は次のどちらですか？ （必須）
次の中から1つ選んでください。

Q13 ： Q12で「その他」を選択された方におたずねします。
該当する所在地（府県名）をご記入ください。

アンケート調査票2/2

Q14 ： 貴社では、過去3年間、学卒者採用においてどのような職種を採用されましたか？（必須）
該当する職種すべてを選んでください。＊複数回答可
営業・販売
企画・広報・マーケティング
総務・人事
経理・財務
接客・案内
事務職
技術・開発・研究
製造・生産
専門・資格職
プログラマー・システムエンジニア
デザイン
その他

Q15 ： Q14で「その他」を選択された方におたずねします。
該当する職種をご記入ください。

Q16 ： 貴社では、Q14もしくはQ15で選択された職種全てで、過去3年間（平成25年度～平成27年度）で合計何人採用されましたか？（必須）
平成25年度の採用実績人数をご記入ください。＊概数でかまいません。

Q17 ： 貴社では、Q14もしくはQ15で選択された職種全てで、過去3年間（平成25年度～平成27年度）で合計何人採用されましたか？（必須）
平成26年度の採用実績人数をご記入ください。＊概数でかまいません。

Q18 ： 貴社では、Q14もしくはQ15で選択された職種全てで、過去3年間（平成25年度～平成27年度）で合計何人採用されましたか？（必須）
平成27年度の採用実績人数をご記入ください。＊概数でかまいません。

Q19 ： 貴社では、Q14もしくはQ15で選択された職種の採用状況についてどのようにお感じですか？（必須）
次の中から1つ選んでください。
不足している
やや不足している
ある程度充足している
充足している
わからない

Q20 ： 貴社では人材採用の際、どのような点を重視されていますか？（必須）
次の中から2つ選んでください。
コミュニケーション能力
語学力
課題発見・課題解決能力
チームで働く力
チャレンジ精神・積極性

Q21 ： Q20で「その他」を選択された方におたずねします。
重視されている能力等をご記入ください。

東洋大学就職状況表 （平成23年3月～平成27年3月卒業）

＜国際地域学科国際地域専攻　昼間主コース＞

	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率
平成23年3月卒	226	160	145	90.6%
平成24年3月卒	232	182	169	92.9%
平成25年3月卒	192	139	136	97.8%
平成26年3月卒	173	134	132	98.5%
平成27年3月卒	180	154	152	98.7%

＜国際観光学科＞

	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率
平成23年3月卒	273	234	221	94.4%
平成24年3月卒	230	193	187	96.9%
平成25年3月卒	236	203	202	99.5%
平成26年3月卒	231	212	208	98.1%
平成27年3月卒	229	213	212	99.5%

＜第1部全学部＞

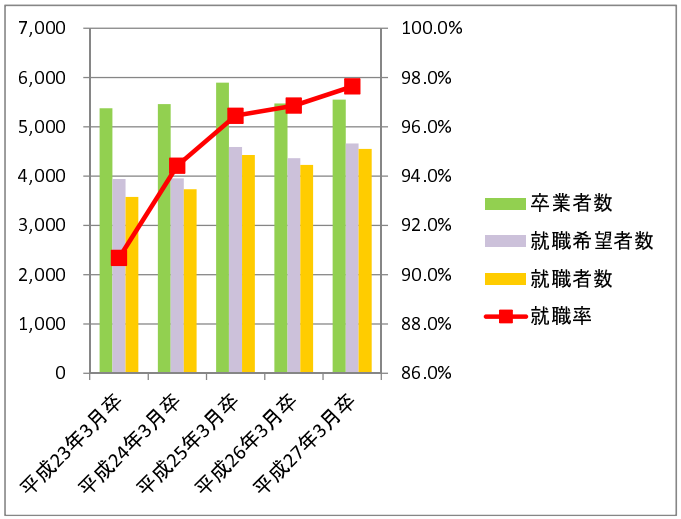
	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率
平成23年3月卒	5,378	3,945	3,578	90.7%
平成24年3月卒	5,459	3,953	3,733	94.4%
平成25年3月卒	5,898	4,595	4,432	96.5%
平成26年3月卒	5,477	4,367	4,230	96.9%
平成27年3月卒	5,553	4,665	4,555	97.6%

（参考）＜国際地域学科地域総合専攻　夜間主コース＞

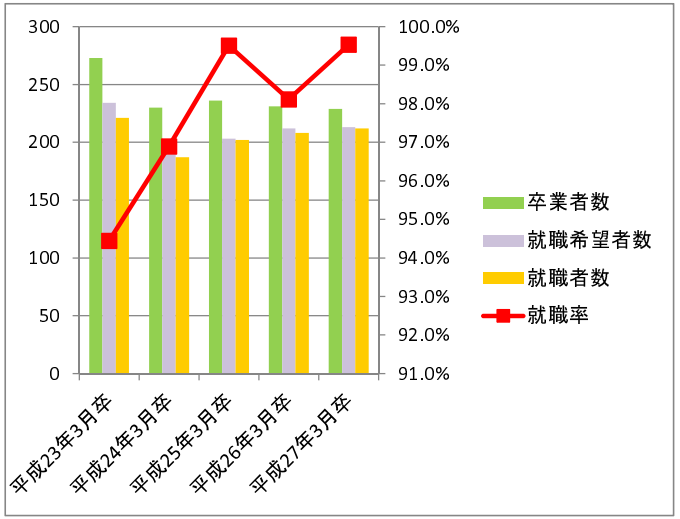
	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率
平成26年3月卒	66	43	40	93.0%
平成27年3月卒	83	62	58	93.5%

※地域総合専攻は平成22年度開設のため、卒業データは2ヵ年のみ

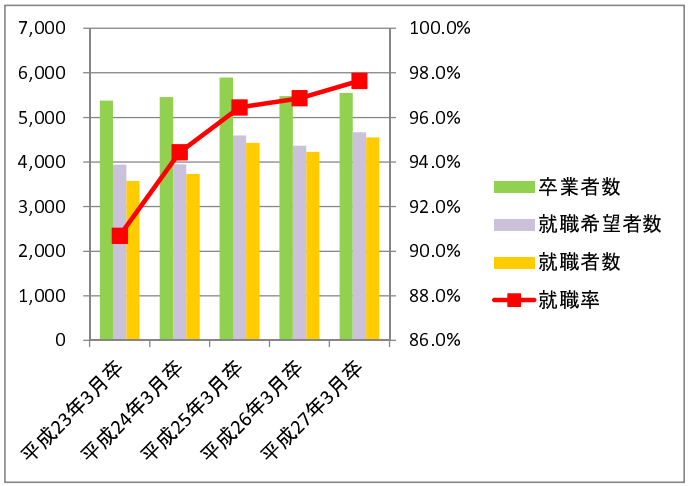
＜国際地域学科国際地域専攻＞



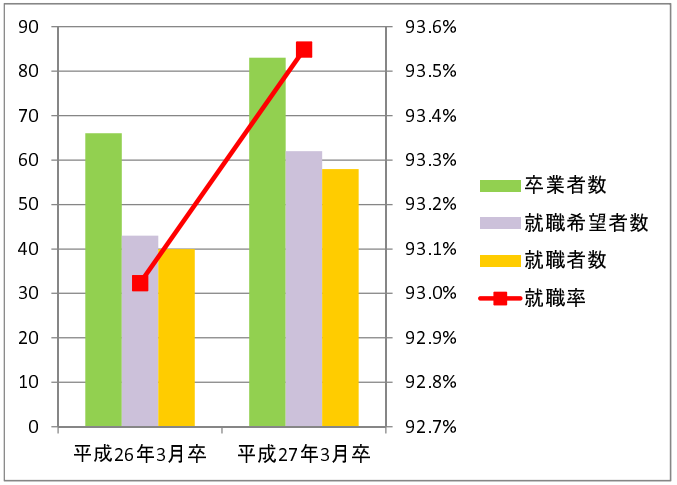
＜国際観光学科＞



＜第1部全学部＞



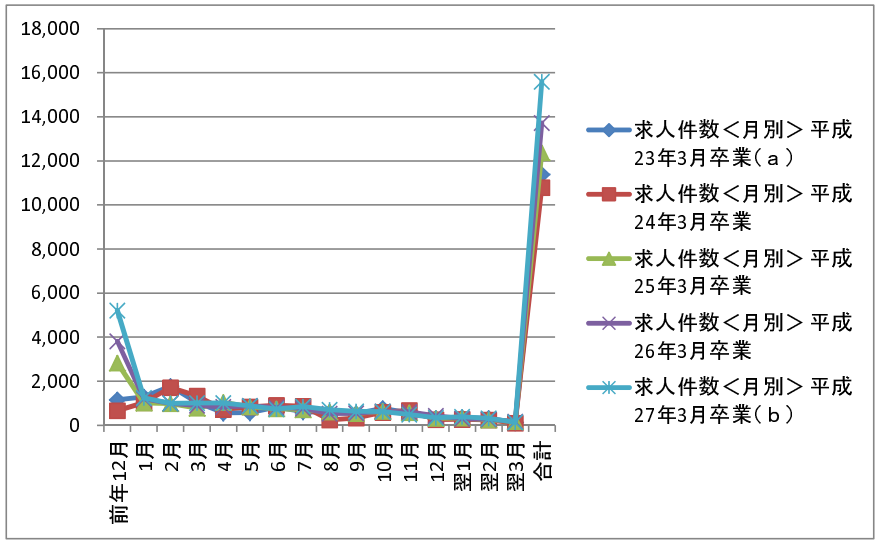
（参考）＜国際地域学科地域総合専攻＞



東洋大学　求人件数推移　（2011年3月～2015年3月卒）

求人件数＜月別＞

	平成23年3月卒業(a)	平成24年3月卒業	平成25年3月卒業	平成26年3月卒業	平成27年3月卒業(b)	(a)-(b) 件数	(a)-(b) 割合
前年12月	1,155	664	2,835	3,810	5,206	4,051	450.7%
1月	1,289	1,035	1,017	1,206	1,244	-45	96.5%
2月	1,765	1,713	981	993	1,000	-765	56.7%
3月	1,034	1,326	785	901	1,016	-18	98.3%
4月	563	721	1,043	836	1,007	444	178.9%
5月	577	837	838	889	887	310	153.7%
6月	824	908	752	811	738	-86	89.6%
7月	621	863	713	762	853	232	137.4%
8月	572	242	600	534	708	136	123.8%
9月	539	324	533	551	632	93	117.3%
10月	769	597	633	642	622	-147	80.9%
11月	556	683	574	609	493	-63	88.7%
12月	322	264	319	430	344	22	106.8%
翌1月	353	267	331	300	391	38	110.8%
翌2月	319	243	248	278	319	0	100.0%
翌3月	124	98	169	164	139	15	112.1%
合計	**11,382**	**10,785**	**12,371**	**13,716**	**15,599**	**4,217**	**137.0%**



求人件数＜累計＞

	平成23年3月卒業(a)	平成24年3月卒業	平成25年3月卒業	平成26年3月卒業	平成27年3月卒業(b)	(a)-(b) 件数	(a)-(b) 割合
前年12月	1,155	664	2,835	3,810	5,206	4,051	450.7%
1月	2,444	1,699	3,852	5,016	6,450	4,006	263.9%
2月	4,209	3,412	4,833	6,009	7,450	3,241	177.0%
3月	5,243	4,738	5,618	6,910	8,466	3,223	161.5%
4月	5,806	5,459	6,661	7,746	9,473	3,667	163.2%
5月	6,383	6,296	7,499	8,635	10,360	3,977	162.3%
6月	7,207	7,204	8,251	9,446	11,098	3,891	154.0%
7月	7,828	8,067	8,964	10,208	11,951	4,123	152.7%
8月	8,400	8,309	9,564	10,742	12,659	4,259	150.7%
9月	8,939	8,633	10,097	11,293	13,291	4,352	148.7%
10月	9,708	9,230	10,730	11,935	13,913	4,205	143.3%
11月	10,264	9,913	11,304	12,544	14,406	4,142	140.4%
12月	10,586	10,177	11,623	12,974	14,750	4,164	139.3%
翌1月	10,939	10,444	11,954	13,274	15,141	4,202	138.4%
翌2月	11,258	10,687	12,202	13,552	15,460	4,202	137.3%
翌3月	11,382	10,785	12,371	13,716	15,599	4,217	137.0%
合計	**11,382**	**10,785**	**12,371**	**13,716**	**15,599**	**4,217**	**137.0%**

